Interstage List Creator V1 powered by Windows Azure (1.1.0)

環境設定・帳票運用編

Windows

B1WD-3024-02Z0(00)
2012年5月

まえがき

本書は、List Creator の環境設定、運用、および帳票の出力について説明しています。

本書の内容は、各オペレーティングシステムで共通となっています。

本書の構成

本書は、次の構成になっています。

第 1 部　帳票システムの運用

第 1 章　List Creator の帳票システムとは

List Creator の帳票システムを構築するまでの流れと作業、およびご利用前に知っていただきたい事項などについて説明しています。

第 2 章　セキュリティ

List Creator のセキュリティ機能である監査証跡ログの操作方法、および Centric Manager との連携方法について説明しています。

第 2 部　環境構築

第 3 章　List Creator の環境設定

List Creator の環境設定方法について説明しています。

第 4 章　コネクタ連携機能の環境設定

コネクタ連携機能の環境設定方法について説明しています。

第 5 章　リモート帳票出力機能の環境設定

リモート帳票出力機能の環境設定方法について説明しています。

第 6 章　Web アプリケーション連携機能の 環境設定

Web アプリケーション連携機能の環境設定方法について説明しています。

第 7 章　帳票資源の準備と配置

List Creator で帳票を出力する場合に使用する帳票資源の準備と配置、および情報ファイルに関する詳細について説明しています。

第 3 部　帳票の出力

第 8 章　List Creator の帳票出力

List Creator の帳票出力機能における出力方法共通の前提事項、および注意事項について説明しています。

第 9 章　印刷

List Creator の印刷機能のサポート範囲、および注意事項などについて説明しています。

第 10 章　電子保存

List Works と連携して帳票を電子保存する場合のサポート範囲、および注意事項などについて説明しています。

第 11 章 コネクタ連携機能

コネクタ連携機能を使用した運用、および注意事項について説明しています。

第 12 章 リモート帳票出力機能

リモート帳票出力機能を使用した運用、および注意事項について説明しています。

第 13 章 Web アプリケーション連携機能

Web アプリケーション連携機能（OWF ファイル生成）に関する以下の内容について説明しています。

- 帳票をプレビュー・印刷する場合に使用する画面
- 外字エンベッド機能の利用手順
- インターネット環境における利用
- 注意事項

第 14 章 高信頼印刷機能 /FAX 送信 （Print Manager 連携）

Print Manager と連携してできる高信頼印刷機能、および FAX 送信機能を使用した運用、および注意事項について説明しています。

第 15 章 ECM 連携機能

ECM 製品と連携するための支援機能である ECM 連携機能について説明しています。

第 4 部 文字と文字コード

第 16 章 扱える文字コード系

List Creator で扱える文字コード系のサポート範囲、および注意事項などについて説明しています。

第 17 章 出力できる文字（【UNIX 系 OS 版】の場合）

アプリケーションサーバまたは帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合に、List Creator で出力できる文字について説明しています。

付録

付録 A コマンドリファレンス

List Creator が提供する以下のコマンドの詳細について説明しています。

- List Creator デザイナで帳票設計時に使用するユーティリティコマンド
- 帳票のテスト印刷コマンド
- List Creator の環境設定コマンド
- 監査証跡ログの操作コマンド

付録 B 帳票出力ユーティリティ

GUI で帳票出力を行う「帳票出力ユーティリティ」について説明しています。

付録 C オーバレイの作成と表現力について

出力方法ごとのオーバレイのサポートレベル、および UNIX 形式（KOL5）オーバレイを帳票設計時に編集できるようにするための手順について説明しています。

付録 D 全半角テーブル

出力文字が全角か半角かを判定するための「全半角テーブル」について説明しています。

付録 E コネクタ連携機能の多重性能向上について（【Solaris 版】の場合）

【Solaris 版】使用時、コネクタ連携機能の多重性能を向上させる方法について説明しています。

著作権

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

マニュアル体系と読み方

本書をお読みになる前に、オンラインマニュアル " マニュアル体系と読み方 " をお読みください。
オンラインマニュアル " マニュアル体系と読み方 " には、List Creator のマニュアル体系、マニュアルの読み方、表記上の規則、対象読者と前提知識、用語の対応表、および商標などについて記載されています。

目次

第１部　帳票システムの運用

ここでは、List Creator を使用した帳票システムの運用の流れ、必要な準備作業、および List Creator の運用やセキュリティ機能について説明しています。

第 1 章
List Creator の帳票システムとは

ここでは、List Creator の帳票システム構築するまでの流れと作業、およびご利用前に知っていただきたい事項などについて説明しています。

備考

- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合の導入から運用までの流れについては、オンラインマニュアル “COBOL アプリケーション連携機能編 ” を参照してください。

1.1 帳票の設計から出力までの流れ

List Creator を利用した帳票出力システムは、以下の流れで運用します。

順序	作業内容		参照先
1	事前準備と確認	List Creator の出力機能のサポート範囲	⇒ "1.5　資源や使用環境に関するサポート範囲 " ⇒ " 第 3 部　帳票の出力 "
		システム構築前の留意事項	⇒ "1.4　ご使用になる前に知っていただきたいこと "
2	環境設定	List Creator の環境設定 (*1)	⇒ " 第 2 部　環境構築 "
		関連製品の環境設定	関連製品のマニュアル
3	帳票設計・入力データ設計		オンラインマニュアル " 帳票設計編 "
4	ユーザアプリケーションの作成 (*1)		- オンラインマニュアル " アプリケーション作成ガイド "
5	帳票資源の準備と配置	帳票コード変換（必要時）	⇒ " 第 7 章　帳票資源の準備と配置 "
		帳票資源の準備	
		帳票資源の配置	
6	運用 (*1)	帳票出力の実行（ユーザアプリケーションの実行）	- オンラインマニュアル " アプリケーション作成ガイド "
		帳票システムの運用	- オンラインマニュアル " 環境設定・帳票運用編 "（本書）
7	保守	トラブル・エラーメッセージの対応	- オンラインマニュアル " トラブルシューティング・メッセージ集 "
		障害調査用情報採取ツール	
		帳票保守	オンラインマニュアル " 帳票設計編 "

*1：使用する機能に応じて、List Creator の各機能のオンラインマニュアルを併せて参照してください。List Creator のマニュアル体系、およびマニュアルの読み方については、オンラインマニュアル " マニュアル体系と読み方 " を参照してください。

上記の作業の他に、利用する機能や運用形態によっては、別途必要になる作業が発生します。
以下に、使用する機能または出力方法によって必要になる作業について説明します。

1.2 システムを運用するために必要な作業

ここでは、List Creator を使用した帳票システムを運用するために、必要な準備作業について説明します。ご使用の機能やシステムの運用形態にあわせ、必要な準備作業を行ってください。

1.2.1 ご使用の機能によって必要になる作業

List Creator では、どのような機能を使用して帳票を出力するかによって、必要な準備作業が異なります。

なお、どの機能を使用する場合でも、必要に応じて List Creator の環境設定を行ってください。設定方法については、以下を参照してください。

⇒ “ 第 3 章　List Creator の環境設定 ”

以下に、List Creator の環境設定以外に必要な準備作業について説明します。

出力機能		作業内容	参照先
ローカル出力機能		―	
分散出力機能	コネクタ連携機能	コネクタ連携機能の環境設定	“ 第 4 章　コネクタ連携機能の環境設定 ”
	リモート帳票出力機能	リモート帳票出力機能の環境設定	“ 第 5 章　リモート帳票出力機能の環境設定 ”
帳票 Web サービス機能		帳票 Web サービス機能の環境設定	オンラインマニュアル “ 帳票 Web サービス機能編 ”
COBOL アプリケーション連携機能		コネクタ連携機能の環境設定	“ 第 4 章　コネクタ連携機能の環境設定 ”
		COBOL アプリケーション連携機能の環境設定	オンラインマニュアル “COBOL アプリケーション連携機能編 ”
上位ツール / データベース連携機能	ERP 連携機能	ERP 連携機能の環境設定	オンラインマニュアル “ERP 連携編 ”
	Navigator 連携機能	Navigator 連携機能の環境設定	オンラインマニュアル “Navigator 連携機能編 ”
	XBRL データ対応機能	XBRL データ対応機能の環境設定	オンラインマニュアル “XBRL データ対応機能編 ”
	SSIS 連携機能	SSIS 連携機能の環境設定	オンラインマニュアル “SQL Server Integration Services 連携機能編 ”
セキュリティ機能	監査証跡ログ機能	―	
データ到着監視機能		―	
ECM 連携機能		―	

― : List Creator の環境設定以外に必要な環境設定はありません。

1.2.2　出力方法によって必要になる作業

List Creator では、どのような出力方法で帳票を出力するかによって、必要な準備作業が異なります。以下に、出力方法ごとに必要な準備作業について説明します。

出力方法	出力した帳票の利用方法	作業内容	参照先
印刷	ローカルプリンタへ出力	使用するローカルプリンタの定義	(*1)
	リモートプリンタへ出力	使用するネットワークプリンタの定義	
	高信頼プリンタへ出力	使用する高信頼プリンタの定義	Print Manager に添付のオンラインマニュアル
	高信頼リモートプリンタへ出力	使用する高信頼リモートプリンタの定義	
電子保存 (*2)		List Works の環境設定	List Works に添付のオンラインマニュアル
		電子保存装置の定義	
		電子保存情報ファイルの作成	
FAX 送信		Print Manager の環境設定	Print Manager に添付のオンラインマニュアル
		FAX 装置（FAX 連携プリンタ）の定義	
		FAX 出力連携製品の環境設定	FAX 出力連携製品に添付のオンラインマニュアル
		FAX 受信者情報ファイルの作成	⇒ "7.5　情報ファイル "
PDF ファイル保存		PDF 文書情報ファイルの作成	オンラインマニュアル "PDF 変換機能編 "
		フォントの埋め込み / 外字エンベッド機能の設定	
	PDF メール配信	PDF メール配信環境の設定	
		PDF メール配信情報ファイルの作成	
	Web 手元印刷時	Web サーバの設定	(*1)
		Web クライアントの設定	
	ECM 連携機能使用時	ECM 情報ファイルの作成	⇒ " 第 15 章　ECM 連携機能 "
		ECM 連携ファイルの作成	
OWF ファイル生成		Web サーバの設定	⇒ " 第 6 章　Web アプリケーション連携機能の 環境設定 "
		Web クライアントの設定	
		外字エンベッド機能の設定	
Excel ファイル出力		Excel ファイル出力時の設定	オンラインマニュアル "Excel ファイル出力機能編 "
		Excel 文書情報ファイルの作成	
	ECM 連携機能使用時	ECM 情報ファイルの作成	⇒ " 第 15 章　ECM 連携機能 "
		ECM 連携ファイルの作成	

*1：お使いのシステムや製品に添付のマニュアル、またはヘルプを参照してください。
*2：電子保存後に印刷 /FAX 送信を行う場合、印刷 /FAX 送信時に必要な準備作業もあわせて行ってください。

1.3 帳票出力機能とその運用

List Creator では、様々な機能や運用形態で帳票を出力することができますが、帳票出力時にあわせて以下の機能を利用することができます。

機能		参照先
監査証跡ログ機能	帳票の出力時に、いつ、だれが、どの帳票を、どのように出力したかなどの帳票出力に関する情報をログ（監査証跡ログ）に出力することができます。	⇒ " 第 2 章　セキュリティ "
高信頼印刷機能	Print Manager と連携し、帳票出力時にメッセージ通知、区切りページ出力、イベント通知などの運用を行うことができます。	⇒ " 第 14 章　高信頼印刷機能 /FAX 送信 （Print Manager 連携） "
外字エンベッド機能	Web 手元印刷型および PDF ファイル保存時に、外字がインストールされていないシステムでも帳票をプレビュー / 印刷できるようにするために、外字を帳票にエンベッドすることができます。	- PDF ファイルに外字をエンベッドする場合 ⇒オンラインマニュアル "PDF 変換機能編 " - OWF ファイルに外字をエンベッドする場合 ⇒ "6.3　外字エンベッド機能の環境設定 "
置換フォントの指定機能	帳票定義情報に定義されているフォントを、帳票出力時に別のフォントに置き換えて出力することができます。	- 帳票設計時に指定する場合 ⇒オンラインマニュアル " 帳票設計編 " - 情報ファイルで指定する場合 ⇒ "7.5.2　置換フォント情報ファイル "
バーコードの補正機能	帳票にバーコードを出力する場合に、出力先の環境に合わせてバーコードの出力結果を補正する情報を指定することができます。	- 情報ファイルで指定する場合 ⇒ "7.5.3　バーコード補正情報ファイル " - 帳票設計時に指定する場合 ⇒オンラインマニュアル " 帳票設計編 "
出力時の動作指定機能	項目長にデータが収まらない場合や項目の領域内にデータが収まらない場合に、メッセージを通知したり、処理を中断したりできます。また、JIS90 規格の字体で出力する / しないを切り替える指定ができます。	⇒ "8.4　項目長 / 領域長にデータが収まらない場合について " - 【Windows 版】の場合の環境設定 ⇒ "3.1.2.6　出力時の動作タブ " - 【UNIX 系 OS 版】の場合の環境設定 ⇒ "3.2.3　出力時の動作を設定する " ⇒ "3.2.6　出力する字体を設定する "

1.4 ご使用になる前に知っていただきたいこと

ここでは、List Creator をご利用になる前に、ご理解いただきたい点について記載します。

●出力環境における運用テストについて

List Creator では、実際の運用前に、ご利用の環境における帳票のテスト印刷をお願いしています。
テスト印刷を行うコマンドなども準備しています。
詳細は以下を参照してください。
⇒ “ 付録 A　コマンドリファレンス ”

バーコードの出力について

バーコードは、用紙、バーコードリーダー、出力装置の解像度、および状態で精度が変わるため、実際の運用を行う前に、バーコードを出力し、読み込めることを確認してから使用してください。

印刷 / プレビュー結果について

印刷結果やプレビュー結果は、ご使用のプリンタ装置に依存します。必ず実際に運用するプリンタで出力結果を確認してください。
また、帳票を印刷する場合、使用するプリンタ装置によっては文字が欠けるなどの不具合が発生する場合があります。このような場合、帳票様式定義画面で、文字が欠けた項目の領域長を大きくするなどの微調整を行ってください。

●トラブル発生に備えるために

- List Creator では、トラブル発生に備え、入力データを退避する運用を行ったり、障害調査用情報採取ツールを利用してエラー原因を調査するためのログを採取したりできます。障害調査用情報採取ツールの詳細は、オンラインマニュアル “ トラブルシューティング・メッセージ集 ” を参照してください。
- List Creator では、トラブル発生時の調査をするためのトレースログを採取することができます。
トレースログのファイルサイズは、運用に合わせて設定する必要があります。
トレースログが指定されたファイルサイズを超えた場合、古いログから順に上書きされます。このため、トラブルが発生したときに、すぐに障害調査用情報採取ツールによりトレースログファイルを退避できない場合は、余裕を持ったサイズを指定してください。
以下に、プログラムトレースが LEVEL3、ネットワークトレースが LEVEL1 の場合に出力されるログのサイズを運用形態ごとに示します。

・スタンドアロン型／ Web 手元印刷型

帳票出力インタフェース	ログのサイズ（帳票出力 1 回分）
	アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ
コマンド（prprint ／ prprintx）	6K バイト
その他のインタフェース	8K バイト

・分散出力型（コネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	ログのサイズ（帳票出力 1 回分）	
	アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ
コマンド（prputex）	4K バイト	6K バイト
その他のインタフェース	6K バイト	

・分散出力型（リモート帳票出力型）

帳票出力インタフェース	ログのサイズ（帳票出力 1 回分）	
	アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ
コマンド（prputprt）	3K バイト	6K バイト
その他のインタフェース	5K バイト	

この値を目安として、1 日あたりの帳票の出力回数とトレースログファイルの保存日数からファイルサイズの見積りを行ってください。

- テキストファイル以外の帳票資源を FTP などのファイル転送する場合、必ずバイナリモードで転送してください。

● Windows Server 2008、Windows Vista、および Windows 7 における外字の使用について

- 帳票を出力する場合、外字登録を行ったユーザで Charset Manager の外字ロードサービス（Charset Manager EUDC Enabler）を起動してください。Charset Manager の外字ロードサービス（Charset Manager EUDC Enabler）を起動したユーザ以外のユーザが登録した外字は出力されません。

1.5 資源や使用環境に関するサポート範囲

List Creator で扱う資源、および List Creator を使用する場合の環境などに関するサポート範囲について示します。

1.5.1 文字コード系のサポート範囲

List Creator では、以下の文字コード系をサポートしています。
ただし、出力方法、運用形態、使用するインタフェース、入力データの種類、または動作オペレーティングシステムの種類によって、各サポート範囲が異なり、ここで説明するとおりにならない場合があります。詳細については、以下を参照してください。
⇒ " 第 16 章　扱える文字コード系 "

種別	文字コード系のサポート範囲		
	Windows	Solaris	Linux
ユーザアプリケーション実行環境	- 日本語 - 英語	- Shift-JIS（ja_JP.PCK） - 日本語 EUC（ja, ja_JP.eucJP）(*1) - Unicode（ja_JP.UTF-8、en_US.UTF-8）	- 日本語 EUC（ja_JP.eucJP）(*1) - Unicode（ja_JP.UTF-8、en_US.UTF-8）(*2)
資源（入力データ）	- Shift-JIS - UNICODE（UTF8） - UNICODE（UTF16 リトルエンディアン） - UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）	- Shift-JIS - EUC（U90） - EUC（S90） - UNICODE（UTF8）	- EUC（U90） - EUC（S90） - UNICODE（UTF8）
資源（帳票定義情報）(*3)	Shift-JIS	アプリケーションの実行環境の文字コード系にあわせる	
資源（帳票出力時に使用する各種ファイル）(*3)	Shift-JIS	アプリケーションの実行環境の文字コード系にあわせる	

*1：環境変数 OA_EUCTYPE により、U90、S90 の指定を行います。
*2：【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。
*3：帳票出力サーバに配置する場合は、入力データの文字コード系に合わせた文字コード系に変換する必要があります。

注意

- Navigator 連携機能使用時は、Shift-JIS のみサポートしています。

備考

- COBOL アプリケーション連携機能使用時は、NetCOBOL でサポートされている範囲の文字コード系が扱えます。

1.5.2　出力できる文字

List Creator では、以下の範囲の文字を出力できます。

ただし、【UNIX 系 OS 版】の場合、出力方法、出力装置、または動作オペレーティングシステムの種類によって、各サポート範囲が異なり、ここで説明するとおりにならない場合があります。

詳細については、以下を参照してください。

⇒ “ 第 17 章　出力できる文字（【UNIX 系 OS 版】の場合）”

帳票資源	オペレーティングシステム	サポート範囲
入力データ	Windows	扱う文字コード系の範囲内の文字が出力できます。
	Solaris	扱う文字コード系の範囲内の文字が出力できます。
	Linux	扱う文字コード系の範囲内の文字が出力できます。
帳票定義情報	Windows	以下のどちらかを選択できます。 - Shift-JIS - Unicode (*1) (*2)
	Solaris	
	Linux	
各種ファイル	Windows	Shift-JIS 範囲内の文字が使用できます。
	Solaris	資源の配置先コンピュータの文字コード系の範囲内の文字が使用できます。
	Linux	資源の配置先コンピュータの文字コード系の範囲内の文字が使用できます。

*1：デザイナの帳票のプロパティ画面の［帳票定義体］タブで、「Unicode の文字を使用する」を選択すると、JIS2004 で追加になった文字も出力することができます。

*2：【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「Unicode」は未サポートです。

注意

- 0xFF や 0xFFnn のように、入力データ中に 0xFF を含むコードを指定しないでください。0xFF を含むコードを指定した場合、文字化けやエラーとなる場合があり、動作保証できません。
- 出力環境や使用するフォントによっては、サロゲートペアが出力されない場合があります。

備考

- List Creator では、帳票定義情報で定義したフォントを出力時に別のフォントに置換する「置換フォントの指定」を行ったり、帳票出力時に帳票に外字をエンベッドする「外字エンベッド機能」を使用することもできます。

1.5.3　入力データのサポート範囲

List Creator では、帳票に重ねて配置する印刷データとして、以下の種類の入力データをサポートしています。

入力データの設計や詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

入力データの種類		備考
データファイル	固定長	
	可変長	項目名ラベル付きデータファイルが使用できる
	CSV 形式　(*1)	項目名ラベル付きデータファイルが使用できる
	XML 形式	
上位ツール / データベースとの連携	Navigator 連携機能	Interstage Navigator Server から入力データが抽出される
	XBRL データ対応機能	Interstage XWand から入力データが抽出される
	SSIS 連携機能	SQL Server から入力データが抽出される
	ERP 連携機能	ERP エンジンから入力データが抽出される
アプリケーションで生成	帳票出力インタフェース	Java インタフェース､.NET インタフェース、およびカスタムコントロールを使用して1レコードずつ書き込まれる
	COBOL アプリケーション連携機能	COBOL アプリケーションの WRITE 文で直接書き込まれる

*1：Navigator 連携機能、XBRL データ対応機能使用時は、カンマ区切りの CSV 形式のデータファイル（項目名ラベル付きデータファイル）のみ使用できます。

1.5.4 メディアデータのサポート範囲

List Creator では、以下の種類のメディアデータをサポートしています。
ただし、出力方法、または動作オペレーティングシステムの種類によって、各サポート範囲が異なり、ここで説明するとおりにならない場合があります。詳細については、以下を参照してください。
⇒ “8.6 メディアデータのサポート範囲 ”

帳票出力サーバのオペレーティングシステム	出力方法	サポートしているメディア種
Windows	印刷 FAX 送信 OWF ファイル生成	・ビットマップデータ ・OLE2 オブジェクト ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ ・グラフデータ（*1）
	電子保存	詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。 ただし、グラフデータは、List Works のバージョンに関係なく出力することができます。
	PDF ファイル保存	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ ・グラフデータ（*1）
	Excel ファイル出力	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ ・グラフデータ（*1）
Solaris	印刷	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ ・グラフデータ（*1）
	電子保存	詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。 ただし、グラフデータは、List Works のバージョンに関係なく出力することができます。
	PDF ファイル保存	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ ・グラフデータ（*1）
	Excel ファイル出力	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ ・グラフデータ（*1）

帳票出力サーバの オペレーティング システム	出力方法	サポートしているメディア種
Linux for Intel64	印刷	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ ・グラフデータ（*1）
	電子保存	詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。 ただし、グラフデータは、List Works のバージョンに関係なく出力することができます。
	PDF ファイル保存	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ ・グラフデータ（*1）
	Excel ファイル出力	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ ・グラフデータ（*1）
Linux for x86	印刷	・ビットマップデータ ・TIFF データ
	PDF ファイル保存	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ
Linux for Itanium	印刷	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ
	電子保存	詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
	PDF ファイル保存	・ビットマップデータ ・JPEG データ ・TIFF データ ・PNG データ
	Excel ファイル出力	ー

ー：メディアデータは出力できません。

*1：グラフデータは、グラフ属性ファイルとグラフデータファイルの 2 つのファイルからなっています。グラフ属性ファイルはグラフユーティリティを使用して作成します。グラフデータの詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

1.5.5　バーコード種のサポート範囲

List Creator では、以下の種類のバーコードをサポートしています。
ただし、出力方法、出力装置、または動作オペレーティングシステムの種類によって、各サポート範囲が異なり、ここで説明するとおりにならない場合があります。詳細については、以下を参照してください。
⇒ “ 第 3 部　帳票の出力 ”

帳票出力サーバの オペレーティング システム	出力方法	サポートしているバーコード種
Windows	印刷 FAX 送信 OWF ファイル生成	・ JAN 標準、JAN 短縮 ・ Code 3 of 9、Code 3 of 9（EIAJ 準拠） ・ Industrial 2 of 5、Interleaved 2 of 5（ITF） ・ NW-7 ・ カスタマバーコード ・ CODE128 ・ EAN-128、EAN-128（コンビニエンスストア向け） ・ EAN-13 ・ UPC バージョン A、UPC バージョン E ・ U.S. POSTNET（Delivery Point Code）、U.S. POSTNET（ZIP+4 Code）、U.S. POSTNET（5-Digit ZIP Code） ・ QR Code（モデル 1）、QR Code（モデル 2）、QR Code（マイクロ QR） ・ PDF417 ・ MaxiCode ・ FIM A（U.S. Postal FIM）、FIM B（U.S. Postal FIM）、FIM C（U.S. Postal FIM） ・ Intelligent Mail Barcode ・ GS1 DataBar Omnidirectional GS1 DataBar Stacked Omnidirectional GS1 DataBar Stacked GS1 DataBar Limited GS1 DataBar Expanded GS1 DataBar Expanded Stacked GS1 DataBar Truncated
	電子保存	詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
	PDF ファイル保存	詳細については、オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ” を参照してください。
	Excel ファイル出力	詳細については、オンラインマニュアル “Excel ファイル出力機能編 ” を参照してください。
Solaris	印刷　(*1)	・ JAN 標準、JAN 短縮 ・ Code 3 of 9、Code 3 of 9（EIAJ 準拠） ・ Industrial 2 of 5、Interleaved 2 of 5（ITF） ・ NW-7 ・ カスタマバーコード ・ EAN-128（コンビニエンスストア向け） ・ QR Code（モデル 2）、QR Code（マイクロ QR）
	電子保存	詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。

帳票出力サーバの オペレーティング システム	出力方法	サポートしているバーコード種
Solaris	PDF ファイル保存	詳細については、オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ” を参照してください。
	Excel ファイル出力	詳細については、オンラインマニュアル “Excel ファイル出力機能編 ” を参照してください。
Linux for Intel64	印刷（*1）	・ JAN 標準、JAN 短縮 ・ Code 3 of 9、Code 3 of 9（EIAJ 準拠） ・ Industrial 2 of 5、Interleaved 2 of 5（ITF） ・ NW-7 ・ カスタマバーコード ・ EAN-128（コンビニエンスストア向け） ・ QR Code（モデル 2）、 QR Code（マイクロ QR）
	電子保存	詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
	PDF ファイル保存	詳細については、オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ” を参照してください。
	Excel ファイル出力	詳細については、オンラインマニュアル “Excel ファイル出力機能編 ” を参照してください。
Linux for x86	印刷 （*1）	・ JAN 標準、JAN 短縮 ・ Code 3 of 9 ・ Industrial 2 of 5、Interleaved 2 of 5（ITF） ・ NW-7 ・ カスタマバーコード ・ EAN-128（コンビニエンスストア向け）
	PDF ファイル保存	詳細については、オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ” を参照してください。
Linux for Itanium	印刷 （*1）	・ JAN 標準、JAN 短縮 ・ Code 3 of 9、Code 3 of 9（EIAJ 準拠） ・ Industrial 2 of 5、Interleaved 2 of 5（ITF） ・ NW-7 ・ カスタマバーコード ・ EAN-128（コンビニエンスストア向け） ・ QR Code（モデル 2）、 QR Code（マイクロ QR）
	電子保存	詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
	PDF ファイル保存	詳細については、オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ” を参照してください。
	Excel ファイル出力	－

－：バーコードは出力できません。

*1：バーコードは PostScript 出力時は未サポートです。

1.5.6 プリンタや FAX 装置のサポート範囲

List Creator では、以下の種類のプリンタや FAX 装置をサポートしています。

ただし、出力装置や動作オペレーティングシステムの種類によって、出力時のサポート範囲が異なり、留意が必要な場合があります。

詳細については、以下を参照してください。

⇒"第 3 部　帳票の出力"

また、高信頼印刷や高信頼プリンタの詳細については、Print Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

出力装置	オペレーティングシステム	サポートしているプリンタ装置
プリンタ装置	Windows	Windows の一般プリンタ
	Solaris	・PostScript プリンタ ・VSP シリーズのプリンタ （FM 出力、FNP 出力をサポート） ・PS5000 シリーズのプリンタ （FNP 出力をサポート）
	Linux for Intel64	・PostScript プリンタ ・VSP/PS5000 シリーズのプリンタ （FNP 出力をサポート）
	Linux for x86	・PostScript プリンタ ・VSP シリーズのプリンタ （FNP 出力をサポート）
	Linux for Itanium	・PostScript プリンタ ・VSP/PS5000 シリーズのプリンタ （FNP 出力をサポート）
	高信頼印刷時	・高信頼プリンタ ・高信頼リモートプリンタ （Print Manager でサポートしているプリンタ（推奨プリンタ））
FAX 装置	Windows	Print Manager でサポートしている FAX 装置

注意

- List Creator では、分散印刷時は、帳票出力サーバのローカルプリンタ（高信頼プリンタ）にのみ出力できます。
  ネットワーク接続されたリモートプリンタや高信頼リモートプリンタは使用できません。
- Solaris 上で使用できる Windows の高信頼リモートプリンタは VSP シリーズのみです。
  詳細については、Print Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

備考

- Print Manager と連携する場合、スプールファイルの形式は「EMF 形式」を推奨します。

1.5.7　制限事項

以下に、List Creator を利用する場合に留意が必要な制限事項について示します。

●資源やファイルの格納先に関する制限事項

List Creator における資源やファイルの格納先における制限について示します。

帳票名に指定できる範囲

以下の場合、ファイル名およびディレクトリ名に日本語（全角文字、半角カナ文字）は指定できません。

- UNIX 系 OS で出力する場合
- 分散出力時、アプリケーションサーバまたは帳票出力サーバのどちらかが UNIX 系 OS の場合
- 英語環境（英語ロケール）で出力する場合
- 分散出力時、アプリケーションサーバまたは帳票出力サーバのどちらかが英語環境（英語ロケール）の場合
- Web アプリケーション連携機能使用時、サーバまたはクライアントのどちらかが英語環境（英語ロケール）の場合

したがって、帳票名も必ず英数字のみで指定してください。
また、FM 出力および FNP 出力時は、英数字 8 文字以内で指定してください。

備考

- **組合せフォーム名は、帳票名に指定できる範囲と同じ範囲で指定します。**

資源の参照先 / 配置先に指定できる範囲

List Creator では、帳票出力時に、帳票資源の参照先や帳票の出力先を UNC 指定（¥¥ コンピュータ名 ¥ 共有名 ¥ ディレクトリ名）で指定することができます。ただし、使用する機能や入力データによっては、指定に際し、留意事項や制限事項があります。
詳細については、以下を参照してください。
⇒ “7.6　帳票資源、および帳票出力先の指定について ”
なお、帳票の設計・保守を行う場合（List Creator デザイナを使用する場合）は、UNC 指定はできません。

●ファイル名 / ディレクトリ名に関する制限事項

- ファイル名（拡張子を含む）/ ディレクトリ名には、以下の文字は使用できません。
  「¥」、「/」、「,」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」、「#」、「:」
- 英語環境（英語ロケール）で出力する場合は、ファイル名 / ディレクトリ名は半角英数字と記号（ASCII 範囲）だけで指定してください。

●英語環境（英語ロケール）に関する制限事項

List Creator を英語環境（英語ロケール）で使用する場合の制限について示します。

帳票定義情報

帳票定義情報は半角英数・記号（ASCII 範囲）で定義してください。
デザイナの帳票のプロパティ画面の［帳票定義体］タブで、「Unicode の文字を使用する」を選択した場合、帳票に出力される文字列属性に Unicode の文字を使用することができます。

入力データ

入力データの文字コード系は Unicode のみ使用できます。

情報ファイル

帳票出力時に使用する情報ファイルは半角英数・記号（ASCII 範囲）で記述してください。

●ネットワーク環境に関する制限事項

List Creator では、基本的にイントラネット内の運用をサポート（推奨）しています。

インターネット経由での運用をサポートしている場合がありますが、その場合でも、必ず以下のようなセキュリティ対策を行ってください。

- Web アプリケーション連携機能をインターネット環境で利用する場合、プロキシのリバース機能を使用したネットワーク環境でのみ使用できます。
- コネクタ連携機能およびリモート帳票出力機能を使用する場合、イントラネット内でのファイアウォールを越えた運用のみ可能です。
- データ到着監視機能を使用する場合、ファイアウォールを越えた運用は行わないでください。

●クラスタ運用に関する制限事項

List Creator は、フェイルオーバーに対応していません。

したがって、クラスタ運用時は、あらかじめ運用ノードと待機ノードの両方で List Creator のサービスを起動しておく必要があります。

また、帳票資源を配置する場合は、共有ディスクに配置する運用を推奨します。

●負荷分散装置、または負荷分散ソフトウェアを使用する場合の注意事項

List Creator ではコネクタ連携機能使用時に、負荷分散装置（IPCOM）、または負荷分散ソフトウェア（Traffic Director）と連携することができます。

これらの装置やソフトウェアを使用する場合、以下の点に注意してください。

・ネットワーク構成は「通過型配置」をサポートします。

・セッション保証方式は、以下の 2 種類をサポートします。

- Cookie（Traffic Director）
- Cookie（Servlet API 2.2）

●入力データのサイズに関する制限事項

List Creator で使用できる入力データのサイズには、以下の制限があります。

オペレーティングシステム	入力データの上限
Windows	4G バイト
Solaris	8G バイト
Linux	2G バイト

注意

- 帳票出力時に、入力データの上限値を超えると、エラーになる場合があります。

第２章
セキュリティ

ここでは、List Creator のセキュリティ機能である監査証跡ログの確認方法、および Centric Manager との連携方法について説明しています。

2.1　監査証跡ログ機能

監査証跡ログとは、帳票の出力時に、いつ、だれが、どの帳票を、どのように出力したかなどの帳票出力に関する情報をログ（監査証跡ログ）に出力する機能です。
監査証跡ログは、帳票出力サーバの監査証跡ログファイルに出力されます。
この機能によって、帳票出力時の不正操作の監視やトラブル発生時の追跡調査ができます。
監査証跡ログを採取するには、環境設定ファイルで、監査証跡ログを採取するかどうかなど採取環境の設定が必要です。

備考

- 監査証跡ログの環境設定については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.3　監査証跡ログの環境設定 ”

2.2　監査証跡ログの確認方法

監査証跡ログは、監査証跡ログファイルをテキストエディタなどで開いて確認します。

注意

- 監査証跡ログを確認するには、以下の権限が必要です。
  - ・帳票出力サーバが Windows の場合
    Administrators 権限
  - ・帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
    システム管理者権限
- 帳票出力時、List Creator ログサービスが起動されていない場合、監査証跡ログは出力されません。この場合、イベントログ / システムログにログ出力失敗のメッセージが出力されます。

監査証跡ログファイルの出力先は、以下のとおりです。

- 帳票出力サーバが Windows の場合

```
（List Creatorインストールディレクトリ）¥seclog¥lc_outputファイル作成日.log
```

- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合

```
/var/opt/FJSVoast/seclog/lc_output ファイル作成日.log
```

また、監査証跡ログファイルが改ざんされていないか確認したり、監査証跡ログファイルを削除したりすることもできます。詳細については、以下を参照してください。

⇒ “A.3　監査証跡ログ操作コマンド ”

備考

- 監査証跡ログファイル名の「ファイル作成日」は、年月日となります。例えば、作成日が 2006 年 5 月 30 日の場合、「lc_output20060530.log」となります。
- 監査証跡ログファイルの出力先は、環境設定ファイルで変更できます。
- 監査証跡ログは、帳票出力完了時の年月日のファイルに出力されます。

以下に、監査証跡ログファイルについて説明します。

2.2.1　監査証跡ログファイルの文字コード

監査証跡ログファイルの文字コードは、以下で作成されます。

- 帳票出力サーバが Windows の場合　: Shift-JIS
- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合 : システムの文字コード系

2.2.2　監査証跡ログファイルの出力形式

監査証跡ログは、監査証跡ログファイルに CSV 形式（「,（カンマ）」区切り）で出力されます。
1 行に 1 出力分のログが出力されます。
出力される項目が存在しない場合でも、「,（カンマ）」は必ず表示されます。
出力される情報に「,（カンマ）」または改行が含まれている場合、「_（アンダーバー）」に置き換えられます。

2.2.3 監査証跡ログに出力される情報

監査証跡ログに出力される情報は、以下のとおりです。
１行に以下の順序で、情報が出力されます。

```
開始日時,終了日時,出力結果,ユーザ情報,出力方法,業務印刷番号,コメント,帳票名,改ざん防止情報1,
改ざん防止情報2
```

【出力例】

以下に監査証跡ログの出力例を示します。

```
2006/03/07 12:52:05.562,2006/03/07 12:52:05.593,Success,user1,print,1,コメント,URIAGE,1,
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
```

注意

- 監査証跡ログに出力される情報の取得に失敗した場合は、データが出力されていない空の状態で監査証跡ログファイルが出力されます。

監査証跡ログの詳細は、以下のとおりです。

【ログ詳細】

開始日時 / 終了日時

帳票出力の開始日時および終了日時が「YYYY/MM/DD hh:mm:ss.xxx」の形式で出力されます。

YYYY　：年
MM　：月［01 ～ 12］
DD　：日［01 ～ 31］
hh　：時［00 ～ 23］
mm　：分［00 ～ 59］
ss　：秒［00 ～ 59］
xxx　：ミリ秒［000 ～ 999］

出力結果

帳票出力時の結果が、以下の文字列で出力されます。

出力される文字	説明
Success	正常に出力された場合に出力されます。
Error	出力時に異常が起きた場合に出力されます。

ユーザ情報

帳票出力時の出力者名（出力ユーザ ID）が出力されます。
出力ユーザ ID は、各帳票出力インタフェースで指定します。
なお、COBOL アプリケーション連携機能使用時、出力ユーザ ID は指定できません。

備考

- 出力ユーザ ID を指定しなかった場合は、運用形態によって以下のユーザが出力されます。
  - ・スタンドアロン型
    ユーザアプリケーションの実行ユーザ
  - ・リモート帳票出力型
    ユーザアプリケーションの実行ユーザまたは prsetpasswd コマンドで指定したユーザ
  - ・コネクタ連携型
    - 帳票出力サーバが Windows の場合
      サービス「ListCREATOR RemotePrint」のログオンユーザ
    - 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
      コネクタ連携機能サービスの起動ユーザ

出力方法

帳票出力するときの出力方法が出力されます。

出力される文字	説明
print	印刷
stream	電子保存
fax	FAX 送信
pdf	PDF ファイル保存
owf	OWF ファイル生成
excel	Excel ファイル出力

業務印刷番号

Print Manager の高信頼プリンタで印刷した場合に、業務印刷番号が 1~99999 で出力されます。
なお、99999 まで出力された場合は、再度 1 から出力されます。
Print Manager の高信頼プリンタで印刷しない場合は、出力されません。

コメント

帳票出力時のコメントが出力されます。

コメントは、各帳票出力インタフェースで指定します。

帳票名

帳票出力した帳票の帳票名が出力されます。
なお、帳票出力時に出力方法を特定する前に異常が発生した場合は、「ハイフン (-)」で出力されます。

また、マルチフォーム出力した場合は、以下のように帳票名が出力されます。

- 出力したすべての帳票の帳票名は、出力した順序で「セミコロン (;)」で区切られて出力されます。
- 複数の帳票を繰り返し出力した場合は、繰り返して出力した回数分の帳票名が出力されます。
- OWF ファイル生成した場合は、帳票出力インタフェースで指定したマルチフォーム出力時の帳票名が出力されます。
- マルチフォーム帳票出力時に異常が発生した場合は、エラーが発生した時点までの帳票名が出力されます。
- マルチフォーム帳票出力時に開始ページまたは終了ページを指定した場合は、開始ページからではなく、1 ページから終了ページまでの帳票名が出力されます。

組合せフォーム出力をした場合、帳票名に組合せフォーム名が出力されます。

COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合、帳票定義体名または画面帳票定義体名が出力されます。ただし、以下の場合、帳票名は出力されません。

- 帳票定義体または画面帳票定義体を使用せずに帳票出力を行った場合
- OWF ファイル生成を行った場合

改ざん防止情報 1/ 改ざん防止情報 2

改ざん防止情報が数字で出力されます。

2.3 Centric Manager との連携

Centric Manager では、ネットワーク、ハードウェア、オペレーティングシステム、アプリケーションなど情報システム全体の構成情報を収集し一元管理することができます。
List Creator は、Centric Manager と連携することにより、帳票出力サーバ上で出力した監査証跡ログファイルを Centric Manager の監査ログ管理機能を利用して、Centric Manager の運用管理サーバで一元的に管理することができます。

2.3.1 Centric Manager の環境設定

以下に、Centric Manager と連携するための Centric Manager の環境設定について説明します。
Centric Manager の環境設定の詳細については、Centric Manager に添付のオンラインマニュアルの監査ログの管理についての記載を参照してください。

= 操作手順 =

List Creator の帳票出力サーバに Centric Manager または Event Agent をインストール後、帳票出力サーバ上で Centric Manager の監査ログ管理機能が動作するための設定を行います。

日付書式定義ファイルの作成

Centric Manager で List Creator の監査証跡ログを収集するために、監査証跡ログの日付形式を定義した「日付書式定義ファイル」を作成する必要があります。
以下の記述形式で「日付書式定義ファイル」(ファイル名は任意)を作成してください。

```
[FORMAT]
TOKEN_WORD=COMMA
DATE_FORMAT=DATEFMT1
DATE_TOKEN_POSIT=(*1)
DATE_WORD_POSIT=0
TIME_FORMAT=TIMEFMT2
TIME_TOKEN_POSIT=(*1)
TIME_WORD_POSIT=11
```

*1：帳票出力の開始日時で収集する場合は「1」を指定します。帳票出力の終了日時で収集する場合は「2」を指定します。

収集対象のログファイルの登録

Centric Manager の定義コマンド(mpatmlogapdef)を実行し、List Creator で収集対象とするログファイルを Centric Manager に登録します。
以下に、Centric Manager の定義コマンド(mpatmlogapdef)の記述形式を示します。

```
mpatmlogapdef ADD -A ListCreatorLog -E YES -M ASC
                    -L "監査証跡ログファイル"
                    -F "日付書式定義ファイル"
```

-L 監査証跡ログファイル

List Creator の監査証跡ログファイル名をフルパスで指定します。

-F 日付書式定義ファイル

「日付書式定義ファイルの作成」で作成したファイル名をフルパスで指定します。

注意

- -L、-F 以外のオプションは変更しないでください。

ログファイルの収集

Centric Manager の運用管理サーバ上で Centric Manager のログ収集コマンド(mpatmlog)を実行することで、ログファイルが収集されます。
Centric Manager でログファイルが収集されても、List Creator 上の監査証跡ログファイルは削除されません。

第 2 部 環境構築

ここでは、List Creator を使用した帳票システムを運用するための環境設定、および準備作業について説明しています。

第 3 章
List Creator の環境設定

ここでは、List Creator の環境設定方法について説明します。

List Creator の環境設定は必須ではありません。ご使用になる機能や運用にあわせ、必要に応じて設定を行ってください。

3.1 【Windows 版】の場合

【Windows 版】の場合、List Creator の環境設定は、「List Creator の環境設定画面」、および帳票出力環境設定ファイルで設定します。

また、監査証跡ログ機能の環境設定は、環境設定ファイルで設定します。

以下に、運用形態や機能ごとに設定する必要のある情報を示します。運用形態や機能に応じて、各情報の説明を参照してください。

表 3.1　運用形態と環境設定で設定する情報

設定する情報 ＼ 運用形態や機能		List Creator の環境設定画面						環境設定ファイル (*1)	帳票出力環境設定ファイル
		全般	ネットワーク	到着監視	イベントログ	トレースログ	出力時の動作		
スタンドアロン型		○	－	－	○	○	○	○	○
リモート帳票出力型	アプリケーションサーバ	○	○	－	○	○	－	－	－
	帳票出力サーバ	○	○	－	○	○	○	○	○
コネクタ連携型 (*2)	アプリケーションサーバ	○	－	－	○	○	－	－	－
	帳票出力サーバ	○	－	－	○	○	○	○	○
Web 手元印刷型	PDF データ出力型	○	－	－	○	○	○	○	○
	Web アプリケーション連携型	○	－	－	○	○	○	○	○
帳票 Web サービス型		○	－	－	○	○	○	○	○
データ到着監視機能		○	－	◎	○	○	○	○	○

◎：必須
○：運用に応じて必要
－：不要

*1：環境設定ファイルは、監査証跡ログの設定を行う場合に使用します。
*2：COBOL アプリケーション連携機能使用時は、以下の情報の設定のみ有効となります。

設定する情報 ＼ 運用形態や機能		List Creator の環境設定画面						環境設定ファイル	帳票出力環境設定ファイル
		全般	ネットワーク	到着監視	イベントログ	トレースログ	出力時の動作		
コネクタ連携型	アプリケーションサーバ	－	－	－	○	○	－	－	－
	帳票出力サーバ	－	－	－	○	○	○	○	－

○：運用に応じて必要
－：不要

備考

- Administrators 権限を持つユーザのみ、環境設定を変更できます。Administrators 権限を持たないユーザの場合は、参照のみできます。

以下に、環境設定を行う方法を説明します。

3.1.1 List Creator の環境設定画面の起動手順

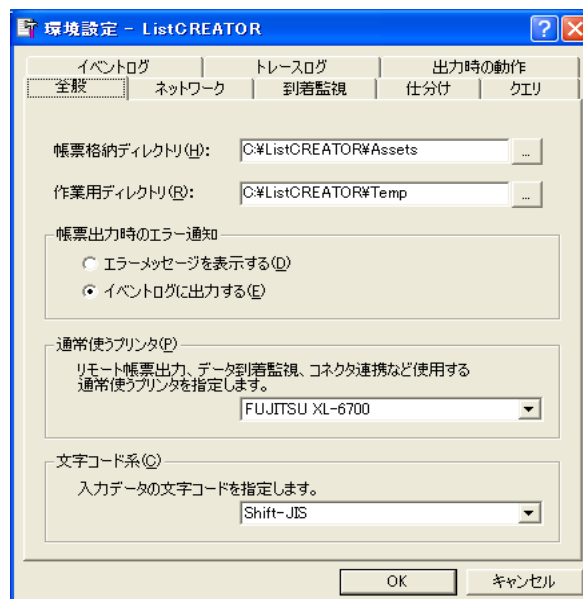
1）コンピュータにログオンします。
Administrators 権限を持つユーザで、コンピュータにログオンしてください。
2）［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［環境設定］－［動作環境設定］を選択します。
⇒環境設定画面が表示されます。
3）設定を行います。設定内容については、運用形態に応じて各タブの説明を参照してください。
4）設定が完了したら、設定内容を保存します。環境設定画面の［OK］ボタンをクリックします。
⇒設定内容が保存されます。
5）システムの再起動を促すメッセージが出力される場合には、必ずシステムを再起動してください。

備考
- 英語環境（英語ロケール）の場合、Windows のスタートメニューから［List Creator］－［Settings］－［List Creator Settings］を選択することで、環境設定画面が表示されます。

3.1.2 List Creator の環境設定画面

以下に、List Creator の環境設定画面のタブごとに、設定項目について説明します。

3.1.2.1 全般タブ

帳票出力に関する共通の情報を設定します。

帳票格納ディレクトリ

帳票定義情報を格納するディレクトリを 260 バイト以内のドライブ名を含むフルパスで指定します。
なお、ディレクトリ名には、使用できない文字があります。詳細については、以下を参照してください。
⇒ “1.5.7 制限事項” の “●ファイル名 / ディレクトリ名に関する制限事項”
入力域の右側のボタンをクリックすると、ディレクトリ名を参照して指定できます。ディレクトリを参照する場合は 259 バイト以内で指定してください。
帳票の出力時、帳票格納ディレクトリは以下の優先順序で有効になります。
1）帳票の出力時に指定した帳票格納ディレクトリ

2）このタブで指定した帳票格納ディレクトリ

注意

- List Creator の環境設定画面で帳票格納ディレクトリを変更する場合は、帳票定義一覧画面を閉じてから操作してください。
- 帳票定義情報および帳票格納ディレクトリには、ユーザが作成・読み取り・変更・削除できるアクセス権を設定しておいてください。作成・読み取り・変更・削除できるアクセス権が設定されていない場合、帳票定義一覧画面での表示や帳票の表示、更新、出力などに失敗することがあります。

備考

- List Creator デザイナをインストールしている場合は、帳票格納ディレクトリを帳票定義一覧画面のオプション画面からも切り替えることができます。一方で帳票格納ディレクトリを変更した場合、もう一方に反映されます。

作業用ディレクトリ

帳票出力時に一時的に作成される作業用ディレクトリや作業用ファイルの格納ディレクトリを 260 バイト以内のドライブ名を含むフルパスで指定します。

なお、ディレクトリ名には、使用できない文字があります。詳細については、以下を参照してください。

⇒ “1.5.7　制限事項 ” の “ ●ファイル名 / ディレクトリ名に関する制限事項 ”

入力域の右側のボタンをクリックすると、ディレクトリ名を参照して指定できます。ディレクトリを参照する場合は 259 バイト以内で指定してください。

注意

- 作業用ディレクトリに指定したディレクトリには、帳票を出力するユーザがサブディレクトリやファイルを作成・読み取り・変更・削除できるアクセス権を設定しておいてください。作成・読み取り・変更・削除できるアクセス権が設定されていない場合、帳票定義情報やデータファイル、メディアデータファイルなどの転送や、帳票の出力に失敗することがあります。
- 到着監視タブの「監視ディレクトリ」と同じディレクトリは指定しないでください。同じディレクトリを指定すると、正常に動作しない場合があります。

帳票出力時のエラー通知

帳票を出力したときに異常が発生した場合のエラーの通知方法を指定します。

インストール直後は、「イベントログに出力する」が選択されています。メッセージボックスで通知したい場合は、「エラーメッセージを表示する」を選択してください。

エラーメッセージを表示する：
帳票出力時のエラーをメッセージボックスで通知する場合に選択します。

イベントログに出力する：
帳票出力時のエラーをイベントログに出力する場合に選択します。

なお、SSIS 連携機能使用時、または帳票 Web サービスインタフェース使用時は、必ず「イベントログに出力する」を選択してください。

注意

- 以下の場合に異常が発生すると、必ずメッセージボックスでエラーが通知されます。
  - ・帳票のプレビュー時
  - ・帳票のテスト印刷時
- 以下の場合に異常が発生すると、必ずイベントログでエラーが通知されます。
  - ・データ到着監視時
  - ・仕分け時
  - ・SAP R/3 RDI 連携機能使用時
  - ・XBRL データ対応機能、Navigator 連携機能、および Database Direct 連携機能使用時
  - ・SSIS 連携機能使用時
  - ・クエリ機能を使用したデータベース連携時
  - ・コネクタ連携機能使用時
  - ・帳票 Web サービスインタフェース使用時
- 帳票出力時のエラー通知方法は、使用する帳票出力インタフェースの種類によって以下のように異なります。

帳票出力インタフェース		出力時のエラーの通知先（通知方法）
コマンド	prprint	メッセージボックスまたはイベントログのどちらかを指定可能（*1）
	prprintx	
	prputprt（アプリケーションサーバ側）	メッセージボックスまたはイベントログのどちらかを指定可能（*2）
	prputprt（帳票出力サーバ側）	必ずイベントログに通知される
	上記以外のコマンド	
Java インタフェース		必ず例外クラス、およびイベントログにエラーが通知される
.NET インタフェース		
カスタムコントロール		メッセージボックスまたはイベントログのどちらかを指定可能（*1）
CFX カスタムタグインタフェース		必ず Web ブラウザに通知される
COM インタフェース		必ずイベントログに通知される

*1:List Creator の環境設定画面の全般タブの「帳票出力時のエラー通知」で指定します。
*2:コマンドオプションでエラーメッセージ出力方法を指定します。

- リモート帳票出力機能、およびコネクタ連携機能使用時、アプリケーションサーバ側および帳票出力サーバ側の両方でエラーが通知されます。
  その場合、帳票出力サーバ側に通知されるエラーは、必ずイベントログに通知されます。
  アプリケーションサーバ側に通知されるエラーは、使用する帳票出力インタフェースの種類によって異なります。

通常使うプリンタ

以下の運用形態や機能で使用する「通常使うプリンタ」を帳票出力サーバで指定します。

- リモート帳票出力型
- コネクタ連携型
- データ到着監視機能使用時

帳票出力時にプリンタの指定を省略することがある場合は、必ず指定してください。
指定できるプリンタには、以下のものがあります。

- Print Manager で定義したローカルプリンタ（推奨）
- ローカルプリンタ

使用するプリンタは、以下の優先順序で有効になります。

1）帳票出力時に指定されたプリンタ
2）帳票業務情報のプロパティ画面で指定されたプリンタ
3）通常使うプリンタ

注意

- Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008 の場合、通常使うプリンタは設定できません（マスクされます）。帳票出力時に必ず印刷プリンタ名を指定してください。
- 電子保存時には、「通常使うプリンタ」は無効となります。帳票の出力時、または帳票業務情報のプロパティ画面で、使用する電子保存装置を必ず指定してください。

通常使うプリンタは、運用形態やコンピュータのログオン状態によって異なります。
以下に、通常使うプリンタを運用形態や機能ごとに示します。

表 3.2 運用形態 / 機能と通常使うプリンタ

運用形態や機能	コンピュータのログオン状態	通常使うプリンタ
スタンドアロン型	ー	帳票を出力したユーザの通常使うプリンタ
リモート帳票出力型	アプリケーションサーバと帳票出力サーバが同じユーザでログオンしている	
	アプリケーションサーバと帳票出力サーバが異なるユーザでログオンしている	環境設定で指定した List Creator の通常使うプリンタ
	帳票出力サーバにログオンしていない	
コネクタ連携型	アプリケーションサーバと帳票出力サーバが同じユーザでログオンしている	環境設定で指定した List Creator の通常使うプリンタ
	アプリケーションサーバと帳票出力サーバが異なるユーザでログオンしている	
	帳票出力サーバにログオンしていない	
Web 手元印刷型：PDF データ出力型	ー	帳票を出力したユーザの通常使うプリンタ
Web 手元印刷型：Web アプリケーション連携型	ー	
帳票 Web サービス型	ー	帳票 Web サービス機能の環境設定で指定した実行ユーザの通常使うプリンタ
クエリ機能使用時	ー	帳票を出力したユーザの通常使うプリンタ
データ到着監視機能使用時	ー	環境設定で指定した List Creator の通常使うプリンタ

ー：コンピュータのログオン状態とは無関係

注意

- 以下のような場合は、" 表 3.2 運用形態 / 機能と通常使うプリンタ " の「帳票を出力したユーザの通常使うプリンタ」に出力されます。
  - ・指定したプリンタが見つからない場合
  - ・指定したプリンタに出力できない場合
  - ・「環境設定で指定した List Creator の通常使うプリンタ」にも出力できない場合

  なお、上記の場合に、「帳票を出力したユーザの通常使うプリンタ」に出力せずにエラーとすることもできます。詳細については以下を参照してください。
  ⇒ "A.1.5　List Creator 環境設定コマンド（PrSetEnvKey）"

文字コード系

入力データの文字コード系の初期値を以下の中から指定します。

- Shift-JIS
- UNICODE（UTF16 リトルエンディアン）
- UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）
- UNICODE（UTF8）

文字コード系は、以下の優先順序で有効になります。

1）帳票の出力時に指定した文字コード系

2）このタブで指定した文字コード系

注意

- コネクタ連携機能使用時は、このタブで指定した文字コード系は無効になります。
- このタブの文字コード系は、入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の場合にのみ有効です。
- データ到着監視を使用する場合、転送するデータファイルの文字コード系は帳票出力サーバの環境設定画面での設定が有効になります。
  転送するデータファイルの文字コード系が帳票出力サーバの設定と異なる場合、正しく出力されない場合があります。
- 英語環境（英語ロケール）で帳票出力する場合、入力データの文字コード系は UNICODE のいずれかを指定してください。

備考

- リモート帳票出力時は、アプリケーションサーバ側で指定した文字コード系が有効になり、帳票出力サーバ側に引き継がれます。

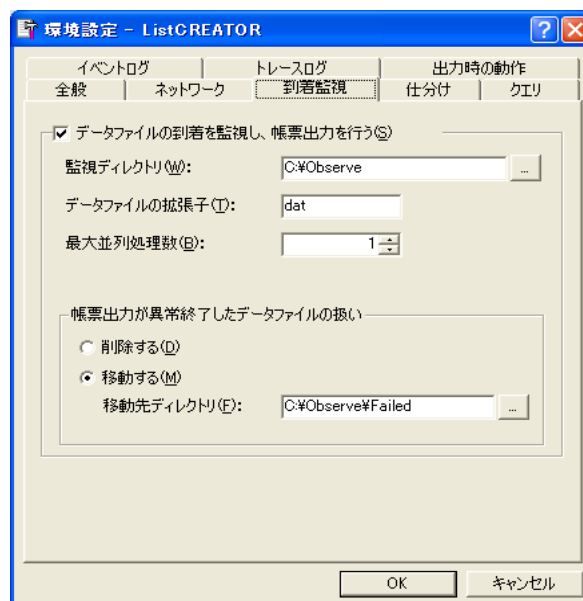
3.1.2.2　ネットワークタブ

List Creator の通信に関する情報を設定します。
リモート帳票出力機能を利用して、帳票出力する場合に設定が必要です。
リモート帳票出力機能を使用する場合の環境設定については、以下を参照してください。
⇒ “5.1.1　ネットワークタブ ”

注意

- コネクタ連携機能を使用する場合、［ネットワーク］タブの設定は有効になりません。

3.1.2.3　到着監視タブ

データ到着監視機能を使用する場合に設定します。

データファイルの到着を監視し、帳票出力を行う

特定のディレクトリにデータファイルが到着するのを監視し、データファイルが到着したタイミングで自動的に帳票を出力する場合にチェックします。
アプリケーションや FTP などのファイル転送のコマンドなどにより、監視ディレクトリにデータファイルが格納されたタイミングで、List Creator が prprintx コマンドを起動し、帳票が出力されます。

監視ディレクトリ

データファイルの到着を監視するディレクトリを、260 バイト以内のドライブ名を含むフルパスで指定します。

なお、ディレクトリ名には、使用できない文字があります。詳細については、以下を参照してください。

⇒ “1.5.7　制限事項 ” の “ ●ファイル名 / ディレクトリ名に関する制限事項 ”

入力域の右側のボタンをクリックすると、ディレクトリ名を参照して指定できます。ディレクトリを参照する場合は 259 バイト以内で指定してください。

> 注意
> - 監視ディレクトリに指定できるのは、ローカルコンピュータの固定ドライブ配下のディレクトリのみです。ローカルコンピュータの固定ドライブ配下のディレクトリ以外を指定した場合、［OK］ボタンをクリックするとエラーになります。
>   固定ドライブに該当しないのは以下のデバイスに相当します。
>   ・ リムーバブルメディア
>   ・ ネットワークドライブ
>   ・ CD-ROM ドライブ
>   ・ RAM ディスク
>   ・ ドライブの種類が特定できないドライブ
>   また、UNC 指定はできません。
> - 監視ディレクトリには、サービス「ListCREATOR Service」のログオンユーザがファイルを読み取り・削除できるアクセス権を設定しておいてください。読み取り・削除できるアクセス権が設定されていない場合、データ到着監視処理に失敗することがあります。
> - 全般タブの「作業用ディレクトリ」と同じディレクトリは指定しないでください。

データファイルの拡張子

データファイルの拡張子を 10 バイト以内で指定します。例えば、拡張子「dat」を指定する場合は、「.」を含めずに「dat」と指定してください。

なお、データファイルの拡張子（ファイル名）には、使用できない文字があります。詳細については、以下を参照してください。

⇒ “1.5.7　制限事項 ” の “ ●ファイル名 / ディレクトリ名に関する制限事項 ”

最大並列処理数

複数のデータファイルが到着していた場合、帳票出力を並列で処理する最大数を指定します。

1 ～ 100 の範囲で指定してください。

帳票出力が異常終了したデータファイルの扱い

prprintx コマンドによる帳票出力が異常終了した場合に、データファイルを削除するか、または他のディレクトリへ移動するかを指定します。他のディレクトリへ移動する場合は、移動先ディレクトリを指定します。

削除する　：帳票を正常に出力できなかったときに、データファイルを削除する場合に選択します。

移動する　：帳票を正常に出力できなかったときに、データファイルを移動する場合に選択し、移動先ディレクトリを指定します。

移動先ディレクトリ：

移動先ディレクトリを、260 バイト以内のドライブ名を含むフルパスで指定します。

なお、ディレクトリ名には、使用できない文字があります。詳細については、以下を参照してください。

⇒ “1.5.7　制限事項 ” の
“ ●ファイル名 / ディレクトリ名に関する制限事項 ”

入力域の右側のボタンをクリックすると、ディレクトリ名を参照して指定できます。ディレクトリを参照する場合は 259 バイト以内で指定してください。

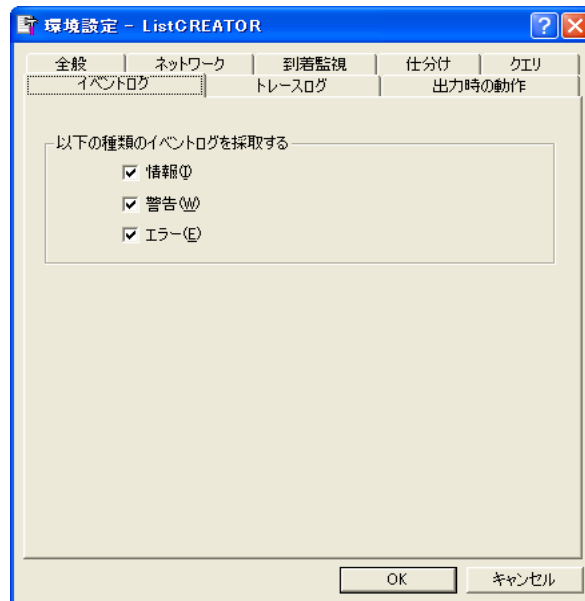
注意

- データファイルの削除または移動に失敗した場合は、監視ディレクトリにデータファイルが残ります。この場合、イベントログでエラーが通知されますので、エラーの要因を取り除いてから、データファイルを削除または移動してください。
- データファイルを移動する場合で、移動先ディレクトリに同一名ファイルがすでに存在する場合は、以下の形式で自動的に名前を変更します。
  (1 から始まる通番) データファイル名
  例 :「売上伝票 .dat」が存在する場合
  1 つ目 → (1) 売上伝票 .dat
  2 つ目 → (2) 売上伝票 .dat
  通番の最大数は 1000 です。1000 を超える場合は、名前を変更せず、元のファイルと同一名ファイルを上書きします。
- 移動先ディレクトリには、サービス「ListCREATOR Service」のログオンユーザがファイルを作成できるアクセス権を設定しておいてください。作成できるアクセス権が設定されていない場合、ファイルの移動処理に失敗することがあります。
- アプリケーションや FTP などのファイル転送コマンドによる転送ではなく、NFS や Windows のネットワークドライブなどの共有フォルダ経由で監視ディレクトリにデータファイルをコピーするような運用の場合、以下の手順で監視ディレクトリにデータファイルをコピーしてください。以下の手順で運用しない場合、動作は保証されません。
  1）データファイルを「データファイルの拡張子」と異なる拡張子で作成します。
  2）データファイルを「監視ディレクトリ」にコピーします。
  3）2）でコピーしたデータファイルの拡張子を「データファイルの拡張子」に変更します。
- 到着するデータファイルの文字コード系を、［全般］タブの文字コード系に指定しておいてください。
- データ到着監視機能使用時は、以下の留意事項をご確認の上、ご利用ください。
  ⇒ “8.3　データ到着監視機能の運用 ”

備考

- 帳票が正常に出力された場合、データファイルは削除されます。

3.1.2.4　イベントログタブ

List Creator で発生したイベントログの採取についての情報を設定します。

以下の種類のイベントログを採取する

List Creator が出力するイベントログの中で、採取したいイベントログの種類を選択します。

情報

サービスの起動など正常な動作により発生したイベントログを採取する場合にチェックします。

警告

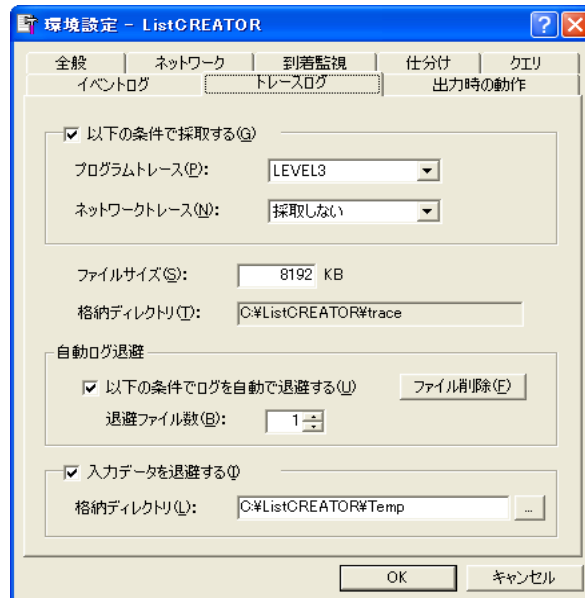
必ずしも重要ではないが、将来の問題の原因になりそうなイベントログを採取する場合にチェックします。

エラー

帳票出力で異常が発生したなど重大な問題によって発生したイベントログを採取する場合にチェックします。

3.1.2.5　トレースログタブ

トラブル発生時の調査用のトレースログの採取、および入力データの退避についての情報を設定します。

トレースログは、トラブル発生時に当社技術員が確認するためのログであり、確認することはできません。

- ログが出力されたタイミングでログファイルが作成（更新）されるため、環境設定が完了してからログが出力されるまでの間にディスクの空き容量が不足した場合は、空き容量に応じた設定に変更されます。この場合、イベントログ（アプリケーション）にソース「F3GBSVLG」、イベント ID「141」のメッセージを出力します。

以下の条件で採取する

トラブル発生時の調査用のトレースログを採取する場合にチェックし、レベルを指定します。

プログラムトレース

帳票を出力するときのプログラムの処理結果やその他の情報の採取レベルを指定します。

採取しない　　：プログラムトレースを採取しません。

LEVEL1 ～ 3　：プログラムトレースを採取するレベルには LEVEL1 ～ LEVEL3 まであります。
初期値は LEVEL3 です。変更する必要はありません。

ネットワークトレース

帳票やデータファイル、メディアデータファイルなどをネットワーク転送する場合など、通信に関する処理結果やその他の情報の採取レベルを指定します。

採取しない　　：ネットワークトレースを採取しません。
初期値は「採取しない」です。

LEVEL1 ～ 3　：ネットワークトレースを採取するレベルには LEVEL1 ～ LEVEL3 まであります。

- 以下の場合、ネットワークトレースログの設定は無効になります。
  - ・ コネクタ連携機能使用時
  - ・ COBOL アプリケーション連携機能使用時

ファイルサイズ

トレースログのファイルサイズを 64K ～ 99999K バイトの範囲で指定します。
トレースログがいっぱいになった場合は、古いログから順に上書きされます。

トラブルが発生したときに、すぐに障害調査用情報採取ツールによりファイルを退避できない場合は、余裕を持ったサイズを指定してください。

採取されるログのサイズの目安については、以下を参照してください。

⇒ “1.4　ご使用になる前に知っていただきたいこと ” の “ ●トラブル発生に備えるために ”

注意

- ファイルサイズを変更した場合は、以前に採取されたトレースログの内容は初期化されます。

格納ディレクトリ

トレースログのファイルの格納ディレクトリが表示されます。格納ディレクトリは変更できません。

備考

- トレースログを採取した場合、格納ディレクトリに以下のログファイルが作成されます。
  これらのログファイルのサイズは、環境設定のファイルサイズとなります。
  - f3gbobsc.log
  - f3gbobscAuto*.log
    （退避ファイル数分、作成されます。退避ファイルは実際にログが退避されるまでは「f3gbobscDummy*.log」という名前です。）
  - f3gbmeft.log
  - f3gbmeftAuto*.log
    （退避ファイル数分、作成されます。退避ファイルは実際にログが退避されるまでは「f3gbmeftDummy*.log」という名前です。）

  また、格納ディレクトリには、以下のログファイルも作成されます。
  - f3gbmiss.log（サイズは 1024K バイト固定）

  このため、格納ディレクトリには、以下の空きディスク容量が必要です。
  ファイルサイズ ×（退避ファイル数＋ 1）×2 ＋ 1024K バイト

自動ログ退避

自動ログ退避とは、トレースログのファイルがいっぱいになったときに、ファイルを自動で退避する機能です。

自動ログ退避に関する情報を設定します。

以下の条件でログを自動で退避する

トレースログのファイルがいっぱいになったときに、ファイルを自動で退避する場合にチェックし、退避ファイル数を指定します。退避ファイルは、トレースログのファイルと同じディレクトリに作成されます。

退避ファイル数

退避しておくファイル数を 1 ～ 7 の範囲で指定します。退避ファイル数に指定した数分のファイルが退避されます。退避ファイル数を減らした場合は、減らした数分のファイルが古いものから順に削除されます。

ファイル削除

自動で退避したトレースログのファイルを削除する場合にボタンをクリックします。

入力データを退避する

入力データの退避とは、帳票出力時に指定された入力データを帳票出力サーバに退避する機能です。

入力データに関するトラブルが発生した場合、退避した入力データから、トラブルを迅速に解決することができます。

入力データの退避に関する情報を設定します。

帳票出力サーバで入力データを退避する場合にチェックし、格納ディレクトリを指定します。退避した入力データのファイル名などの情報は、イベントログ（アプリケーション）にソース「ListCREATOR」、イベント ID「1629」のメッセージで出力されます。

なお、退避した入力データの情報は、イベントログで確認することができます。

格納ディレクトリ

入力データを退避するディレクトリを、ドライブ名を含む 259 バイト以内のフルパスで指定します。

なお、ディレクトリ名には、使用できない文字があります。詳細については、以下を参照してください。

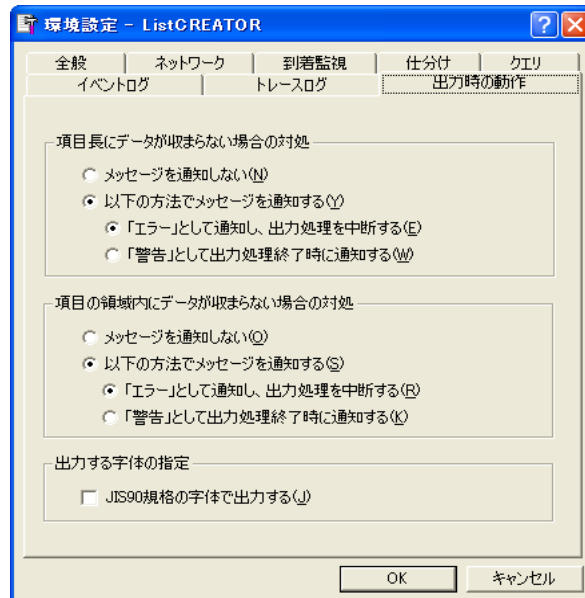
⇒ “1.5.7　制限事項 ” の “ ●ファイル名 / ディレクトリ名に関する制限事項 ”

入力域の右側のボタンをクリックすると、ディレクトリ名を参照して指定できます。

> **注意**
>
> - トラブルの迅速な解決を行うため、アプリケーションの開発中は入力データを退避することを推奨します。
> ただし、以下の注意事項を考慮してセキュリティに問題がないか検討し、退避するかどうかを判断してください。特に、運用中の退避については十分な検討が必要です。
>   - ・入力データを退避する指定を行った場合、ユーザアプリケーションで指定したデータが退避されます。そのため、退避されたデータにセキュリティ上重要な情報が含まれる場合は、取り扱いに注意してください。
>   また、入力データを退避するコンピュータは、セキュリティを考慮して、ログインユーザやディレクトリアクセスを制限するなどの対応を行って運用してください。
>   - ・「入力データを退避する」を選択した場合は、［イベントログ］タブで「情報」、「警告」、および「エラー」の採取を有効にしておく必要があります。
>   - ・入力データの退避先ディレクトリには、帳票を出力するユーザが読み取り、および書き込みできる権限を付けてください。読み取り、および書き込みできる権限がない場合、入力データを退避できません。
>   - ・入力データの退避先には、ローカルディスク上のディレクトリを指定してください。退避先には、以下を指定しないでください。
>   - ネットワークドライブ
>   - UNC 指定（¥¥ コンピュータ名 ¥ 共有名 ¥ ディレクトリ名）
>   - リムーバブルディスク
>   - ・OCI 連携機能使用時、および COBOL アプリケーション連携機能使用時は、入力データを退避することはできません。設定は無効になります。
>   - ・退避した入力データは自動的に削除されません。退避した入力データが不要となった場合は、手動で削除してください。
>   - ・入力データの退避先の空き容量が 256M バイト以下になった場合は、イベントログ（アプリケーション）にソース「ListCREATOR」、イベント ID「1631」のメッセージが出力されます。
>   この場合、入力データは退避されません。不要なファイルを削除して容量の確保を行うか、または退避するディレクトリを変更してください。
>   - ・入力データの退避が不要となった場合は、入力データを退避しないように設定を変更してください。
>   - ・入力データの退避を行った場合には、コンピュータの負荷が増加するため、帳票出力時の性能に影響することがあります。
>   - ・Web 手元印刷型で入力データを退避する場合は、Web クライアントで環境設定を行う必要があります。詳細については、以下を参照してください。
>   ⇒ “6.2.3　トレースログ環境設定 ”

3.1.2.6　出力時の動作タブ

帳票出力時の動作についての情報を設定します。
本タブの環境設定は、運用形態別に設定する必要があります。

- スタンドアロン型、コネクタ連携型、またはリモート帳票出力型の場合
  帳票出力サーバの環境設定が有効となります。
- Web 手元印刷型の場合
  Web サーバの環境設定が有効となります。

項目長にデータが収まらない場合の対処

データが項目長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作について指定します。

メッセージを通知しない

メッセージを通知しない場合に選択します。

以下の方法でメッセージを通知する

メッセージを通知する場合に選択します。
メッセージは、以下の場合に通知されます。

- 項目に対するデータが項目長を超える場合
- 項目に指定された演算の演算結果が項目長を超える場合
  (ただし、演算結果で小数点以下の桁数が項目長を超えた場合については通知されません)

「エラー」として通知し、出力処理を中断する

「エラー」として通知し、帳票出力処理を中断する場合に選択します。

「警告」として出力処理終了時に通知する

「警告」として帳票出力処理終了時に通知する場合に選択します。

メッセージは、[全般] タブの「帳票出力時のエラー通知」で指定した方法で通知されます。
メッセージをイベントログに出力するように設定すると、項目長の範囲を超えたことをログで確認することができます。

注意

- 「イベントログに出力する」を選択した場合は、[イベントログ] タブで「警告」および「エラー」の採取を有効にしておく必要があります。

項目の領域内にデータが収まらない場合の対処

データが領域長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作について指定します。

メッセージを通知しない

メッセージを通知しない場合に選択します。

以下の方法でメッセージを通知する

メッセージを通知する場合に選択します。

メッセージは、以下の場合に通知されます。

- 項目に対するデータが領域長を超える場合

「エラー」として通知し、出力処理を中断する：

「エラー」として通知し、出力処理を中断する場合に選択します。

「警告」として出力処理終了時に通知する：

「警告」として出力処理終了時に通知する場合に選択します。

メッセージは、［全般］タブの「帳票出力時のエラー通知」で指定した方法で通知されます。
メッセージをイベントログに出力するように設定すると、領域長の範囲を超えたことをログで確認することができます。

注意

- 「イベントログに出力する」を選択した場合は、［イベントログ］タブで「警告」および「エラー」の採取を有効にしておく必要があります。
- Excel ファイル出力時、「項目の領域内にデータが収まらない場合の対処」は無効になります。領域長の範囲を超えた場合でも、データは必ずセル内にすべて出力されます。
- COBOL アプリケーション連携機能使用時、「項目長にデータが収まらない場合の対処 / 項目の領域内にデータが収まらない場合の対処」は無効になります。

備考

- 項目長 / 領域長にデータが収まらないときのメッセージの通知先は、[全般] タブの「帳票出力時のエラー通知」の指定どおりにならない場合があります。

機能 / 帳票出力インタフェース	出力時のエラーの通知先（通知方法）
prputprt コマンドでリモート帳票出力を行った場合	必ず帳票出力サーバ側のイベントログに通知される。
帳票のプレビュー時	必ずメッセージボックスで通知される。
- コネクタ連携機能使用時 - XBRL データ対応機能使用時 - Navigator 連携機能使用時 - データ到着監視時 - SAP R/3 RDI 連携機能使用時 - Database Direct 連携機能使用時 - 仕分け時 - クエリ機能を使用したデータベース連携時 - COM インタフェース使用時	必ずイベントログで通知される。
- Java インタフェース使用時 - .NET インタフェース使用時	必ず例外クラスでエラーが通知される。ただし、帳票出力時のエラーは、イベントログにも出力される。 リモート帳票出力型およびコネクタ連携型で帳票出力した場合は、帳票出力サーバ側のイベントログにも出力される。
CFX カスタムタグインタフェース使用時	Web ブラウザにエラーが表示される。 ただし、Database Direct 連携時、および帳票出力時のエラーは、イベントログにも出力される。 リモート帳票出力型およびコネクタ連携型で帳票出力した場合は、帳票出力サーバ側のイベントログにも出力される。

出力する字体の指定

帳票出力時の字体を指定します。

JIS90 規格の字体で出力する

JIS90 規格の字体で出力する場合にチェックします。チェックしない場合は、システムに依存した字体で帳票が出力されます。

注意

- この指定は、以下の条件を満たす場合に有効になります。
  - ・ プレビュー / 印刷する場合
  - ・ 出力環境が Windows Vista、Windows 7、または Windows Server 2008 の場合
  - ・ 使用するフォントが字体の切り替えに対応しているフォントの場合

  有効とならなかった場合は、システムに依存した字体で帳票が出力されます。
- フォントに縦書きフォント（@ 付きフォント）を指定している場合、以下のことに注意してください。
  - ・ 縦書き時に回転しない文字（括弧など）や、横書きフォントと異なるパターンで出力される文字（句読点など）でも、横書きフォントと同じパターンで反時計回りに 90 度回転して出力されます。
  - ・「JIS90 規格の字体で出力する」を選択した場合、字体の切り替わった文字は回転せず、横書きフォントと同じ方向で出力されます。

3.2 【UNIX 系 OS 版】の場合

【UNIX 系 OS 版】の場合は、環境設定コマンド、および帳票出力環境設定ファイルで List Creator の環境設定を行います。

また、監査証跡ログ機能の環境設定は、環境設定ファイルで設定します。

環境設定コマンド実行後、および環境設定ファイル設定後は、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

備考

- システムを再起動せずに、List Creator サービスを停止して再起動することで、環境設定コマンドまたは環境設定ファイルで設定した内容を有効にすることもできます。操作方法については、以下を参照してください。
⇒ “3.2.9　List Creator サービスの起動 / 停止 ”

以下に、運用形態ごとに設定する必要のある情報を示します。運用形態に応じて、各情報の説明を参照してください。

表 3.3　運用形態と環境設定で設定する情報

運用形態 ＼ 設定する情報	スタンドアロン型	リモート帳票出力型 (*1)		コネクタ連携型 (*1)(*2)		Web 手元印刷型		帳票 Web サービス型
		アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ	アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ	PDF データ出力型	Web アプリケーション連携型	
帳票格納ディレクトリ	○	○	○	○	○	○	○	○
作業用ディレクトリ・ネットワーク環境	－	○	－	－	－	－	－	－
Windows へのリモート帳票出力ユーザ	－	○	－	－	－	－	－	－
リモート帳票出力時のポート番号	－	○	○	－	－	－	－	－
トラブル発生時の調査用ログ環境	○	○	○	○	○	○	○	○
出力時の動作環境	○	－	○	－	○	○	○	○
入力データの退避環境	○	－	○	－	○	○	－	○
監査証跡ログの採取環境	○	－	○	－	○	○	○	○
出力する字体	○	－	○	－	○	－	○	○
帳票出力の各種情報の設定	○	－	○	－	○	○	○	○

○：運用に応じて必要

－：不要

*1：リモート帳票出力型、コネクタ連携型で運用する場合は、アプリケーションサーバ側および帳票出力サーバ側で、必要に応じて環境設定を行ってください。

*2：COBOL アプリケーション連携機能使用時は、以下の情報の設定のみ有効となります。

運用形態 / 設定する情報	コネクタ連携型	
	アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ
帳票格納ディレクトリ	－	－
作業用ディレクトリ・ネットワーク環境	－	－
Windows へのリモート帳票出力ユーザ	－	－
リモート帳票出力時のポート番号	－	－
トラブル発生時の調査用ログ環境	○	○
出力時の動作環境	－	－
入力データの退避環境	－	－
監査証跡ログの採取環境	－	－
出力する字体	－	○
帳票出力の各種情報の設定	－	－

○：運用に応じて必要
－：不要

備考

- 以下については、リモート帳票出力機能を利用して、帳票出力する場合に設定が必要です。
  ・ 作業用ディレクトリ・ネットワーク環境
  ・ Windows へのリモート帳票出力ユーザ
  リモート帳票出力機能を使用する場合の環境設定については、以下を参照してください。
  ⇒ " 第 5 章　リモート帳票出力機能の環境設定 "

3.2.1　帳票格納ディレクトリを設定する

帳票出力時に使用する帳票定義情報を格納するディレクトリを設定 / 表示できます。
帳票格納ディレクトリは、prsetassetsdir コマンドで指定します。
⇒ "A.2.2.2　prsetassetsdir コマンド "

3.2.2　トラブル発生時の調査用のログの環境を設定する

トラブル発生時の調査用のログ（プログラムトレースログ / ネットワークトレースログ）の採取環境を設定 / 表示できます。
トラブル発生時の調査用ログの採取環境は、prsetlog コマンドで設定します。
⇒ "A.2.2.5　prsetlog コマンド "

3.2.3　出力時の動作を設定する

帳票出力時にデータが帳票定義情報の項目長および領域長の設定を超える場合などに、メッセージを通知するように設定できます。

●データが項目長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作を設定する

データが項目長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作を設定 / 表示できます。
データが項目長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作は、prsetdigitovermsg コマンドで設定します。
⇒ "A.2.2.6　prsetdigitovermsg コマンド "

注意

- データが項目長の範囲を超える場合のメッセージ通知動作の設定は、帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合は未サポートです。

●データが領域長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作を設定する

データが領域長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作を設定 / 表示できます。

データが領域長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作は、prsetterritovermsg コマンドで設定します。

⇒ “A.2.2.7　prsetterritovermsg コマンド ”

注意

- データが領域長を超える場合のメッセージの通知動作の設定は、帳票出力サーバが Linux for x86 の場合は未サポートです。

3.2.4　入力データの退避環境を設定する

帳票出力サーバで入力データを退避するかどうか、および入力データを退避するときの退避先ディレクトリなどの退避環境を設定 / 表示できます。

入力データの退避環境は、prsetdatalog コマンドで指定します。

⇒ “A.2.2.8　prsetdatalog コマンド ”

注意

- 入力データの退避は、帳票出力サーバが Linux for x86 の場合は未サポートです。

3.2.5　監査証跡ログの採取環境を設定する

帳票出力サーバの監査証跡ログファイルに出力される監査証跡ログの採取環境を設定できます。

監査証跡ログの採取環境は、環境設定ファイルで設定します。

⇒ “3.3　監査証跡ログの環境設定 ”

注意

- 監査証跡ログは、帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合は、未サポートです。

3.2.6　出力する字体を設定する

OWF ファイルを Web ブラウザでプレビュー / 印刷する場合に、文字の字体を JIS90 規格の字体で出力するかどうかを設定 / 表示できます。

JIS90 規格の字体で出力するかどうかは、prsetjisglyph コマンドで指定します。

⇒ “A.2.3.5　prsetjisglyph コマンド ”

注意

- 出力する字体の設定は、帳票出力サーバが Linux for x86 の場合は、未サポートです。

3.2.7　帳票出力の各種情報を設定する

帳票出力に関して詳細な設定を行うことができます。

帳票出力に関する各種情報の設定は、帳票出力環境設定ファイルで設定します。

⇒ “3.4　帳票出力環境設定ファイルの指定 ”

注意

- 帳票出力環境設定ファイルの指定は、帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合は、未サポートです。

3.2.8　ポート番号の変更

List Creator が使用するポート番号を変更する方法について説明します。
ポート番号は、アプリケーションサーバと帳票出力サーバで同じ番号を指定してください。

● Navigator 連携時および Database Direct 連携時のポート番号を変更する方法

List Creator が Navigator 連携時および Database Direct 連携時に使用するポート番号は、インストール直後は「30001」が設定されています。ポート番号を変更したい場合は、次の手順で行ってください。

= 操作手順 =

1）コンピュータにログオンします。
システム管理者権限で、コンピュータにログオンしてください。

2）「/etc/services」ファイルをテキストエディタで開きます。

3）以下の行を検索します。

```
rn                    30001/tcp                  # Navigator Server 1
```

4）ポート番号「30001」を変更したい値に変更し、更新して、テキストエディタを閉じます。

5）システムを再起動します。

3.2.9　List Creator サービスの起動 / 停止

List Creator サービスの起動および停止方法について説明します。
通常はシステム起動時に List Creator サービスが起動されるため、手動で起動や停止の操作をする必要はありません。

注意

- システム管理者権限で実行してください。
- 帳票出力業務中に操作しないでください。

List Creator サービスを起動する方法

```
# /opt/FJSVoast/etc/rc.d/SKFJSVoast start
```

List Creator サービスを停止する方法

```
# /opt/FJSVoast/etc/rc.d/SKFJSVoast stop
```

List Creator サービスを再起動する方法

```
# /opt/FJSVoast/etc/rc.d/SKFJSVoast restart
```

備考

- 本コマンドを実行すると、List Creator ログサービスも同時に起動 / 停止します。
- コネクタ連携機能のサービスの起動 / 停止については、以下を参照してください。
⇒ “4.2　コネクタ連携機能のサービスの起動 / 停止 ”
- PDF メール配信機能のサービスの起動 / 停止については、オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ” を参照してください。

3.3　監査証跡ログの環境設定

環境設定ファイルを設定すると、監査証跡ログの出力を指定したり、監査証跡ログファイルの格納ディレクトリを変更したりできます。

監査証跡ログの環境設定は、帳票出力サーバで行ってください。

注意

- **環境設定ファイルを設定するには、Administrators 権限またはシステム管理者権限が必要です。**

3.3.1　監査証跡ログの採取環境

List Creator では、帳票出力時の不正操作の監視やトラブル発生時の追跡調査ができるよう、監査証跡ログを採取できます。

必要に応じて、以下についての設定を行ってください。

- 監査証跡ログを採取するか
- 監査証跡ログのファイルサイズ
- 監査証跡ログファイルの保管日数
- 監査証跡ログファイル格納ディレクトリ
- 空き容量不足時の警告メッセージ

3.3.2　環境設定ファイルの編集

環境設定ファイルは、テキストエディタなどで編集します。

注意

- **環境設定ファイルの内容を変更する場合は、List Creator ログサービスを停止してから行ってください。環境設定ファイルの変更内容は、List Creator ログサービスの起動後から有効となります。**
  なお、【UNIX 系 OS 版】では、List Creator サービスを起動すると、List Creator ログサービスも起動されます。
  List Creator サービスの起動 / 停止については、以下を参照してください。
  ⇒ "3.2.9　List Creator サービスの起動 / 停止 "

環境設定ファイルは、以下のファイルです。

-【Windows 版】の場合

```
List Creatorインストールディレクトリ¥conf¥lc_env.conf
```

-【UNIX 系 OS 版】の場合

```
/etc/opt/FJSVoast/conf/lc_env.conf
```

環境設定ファイルは、以下の文字コード系で記述します。

-【Windows 版】の場合
  Shift-JIS コード系で記述します。
-【UNIX 系 OS 版】の場合
  インストール時、EUC コード系で記述されているため、動作するオペレーティングシステムの文字コード環境に合わせたコード系に変更してください。

環境設定ファイルの初期値は、行頭すべてに「#」があり、コメント行となっています。行頭の「#」を削除して、キーの値を見直してください。記述形式は、「キー＝設定値」です。

3.3.3 環境設定ファイルのキー一覧

動作環境や運用に応じて環境設定ファイルのキーと値を指定します。キーと値の指定を省略した場合、初期値で動作します。

環境設定ファイルのキーを、以下の表に示します。

表 3.4 環境設定ファイルのキー一覧

キー名	キーの設定内容（設定値）	初期値
OutputLog(*1)	監査証跡ログ（出力ログ）を採取するかどうかを指定します。 0 ：採取しない 1 ：採取する	0
OutputLogFileSize(*2)	監査証跡ログファイルのサイズを 1M バイト～ 2048M バイトの範囲で指定します。	16
OutputKeepLog(*3)	監査証跡ログファイルを保管する日数を 0 ～ 3650 の範囲で指定します。 ログ出力された日の翌日から換算した日数が、ログファイルの保存期間となります。 保存期間を過ぎたログファイルは、以下のタイミングで削除されます。 - 保存期間の最終日から翌日に日付が変わるタイミング（0 時 0 分） - List Creator ログサービスの起動時 なお、「0」を指定した場合、無制限に保存されます。	0
OutputLogDir	監査証跡ログファイルの格納ディレクトリをフルパスで指定します。 格納ディレクトリは、以下の範囲内で指定してください。(*4) 【Windows 版】の場合 ：226 バイト以内 【UNIX 系 OS 版】の場合 ：990 バイト以内 (*5)	・【Windows 版】の場合 List Creator インストールディレクトリ ¥seclog ・【UNIX 系 OS 版】の場合 /var/opt/FJSVoast/seclog
OutputLogDirLimit	監査証跡ログファイルの格納ディレクトリの空き容量を M バイト単位で指定します。空き容量が指定したサイズ以下になった場合、イベントログまたはシステムログに警告メッセージが通知されます。(*6) なお、「0」を指定した場合は、警告メッセージは通知されません。	0

*1：このキーに「0」を指定した場合、空のログファイルが作成される場合があります。

*2：指定したログファイルサイズを超えた場合、古いログファイルは以下のファイル名で退避されます。

lc_output ファイル作成日 .log. 切り替え時間（. 履歴番号）

切り替え時間には、時分秒が表示されます。切り替え時間が同一のログファイルが存在した場合、履歴番号が 1 から昇順につきます。新しいログファイルほど履歴番号は大きくなります。

*3：lclogdelexpire コマンド（-deldate オプション）で削除対象の監査証跡ログファイルの作成日を指定した場合は、このキーで指定した監査証跡ログファイルの保存期間に関係なく削除されます。

詳細については、以下を参照してください。

⇒ “A.3.3 lclogdelexpire コマンド ”

*4：指定可能範囲を超えて指定した場合、List Creator ログサービスの起動やログファイルの切り替えに失敗する場合があります。

*5：【UNIX 系 OS 版】の場合、システムログに出力されるエラーメッセージ、または警告メッセージが欠ける場合があるため、900 バイト以内で指定することを推奨します。

*6：監査証跡ログファイルの格納ディレクトリの空き容量の確認は、List Creator ログサービス起動時、および毎時 00 分 00 秒に行われます。

警告メッセージが出力された場合は、早めにディスクの空き容量を確保してください。

注意

- 監査証跡ログファイル / 格納ディレクトリへのアクセス権限は以下のとおりです。
  - 【Windows 版】の場合
    - SYSTEM ユーザおよび Administrators グループに所属するユーザ
      フルコントロール
    - 上記以外のユーザ
      すべてアクセス不可

    監査証跡ログファイルの格納ディレクトリを変更した場合は、上記のアクセス権限を設定してください。
    なお、監査証跡ログファイルの格納ディレクトリが NTFS ファイルシステム以外の場合、ログファイルのセキュリティは設定されません。
  - 【UNIX 系 OS 版】の場合
    監査証跡ログファイル / 格納ディレクトリの所有者（root）のみ、読み込み権、および書き込み権があります。他のユーザは一切ファイル / ディレクトリにアクセスできません。
- 【Windows 版】の場合、監査証跡ログの出力時に異常が発生しても、イベントログが出力されない場合があります。
  詳細については、オンラインマニュアル“トラブルシューティング・メッセージ集”の「帳票出力時のエラーメッセージ、および監査証跡ログの採取時のエラーメッセージがイベントログに記録されない」についての記載を参照してください。
- OutputLogDir キーには、監査証跡ログのみを配置するディレクトリを指定してください。
  指定したディレクトリでは、監査証跡ログファイルの作成、および削除を行うため、その他の資源は配置しないでください。

3.4 帳票出力環境設定ファイルの指定

帳票出力環境設定ファイルとは、List Creator デザイナで作成した帳票を、帳票出力インタフェースを利用して出力する場合に、すべての帳票出力で共通な設定を行うファイルです。
すべての帳票出力で共通な設定は帳票出力環境設定ファイルに指定し、帳票ごとの設定は帳票出力情報ファイルに指定することで、運用に合わせた機能の設定管理を容易に行えます。
帳票出力環境設定ファイルは、帳票出力サーバで指定してください。

注意

- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合、帳票出力環境設定ファイルの指定は有効となりません。

3.4.1 帳票出力環境設定ファイルの配置

帳票出力環境設定ファイルは、以下のファイルです。

-【Windows 版】の場合

・出力方法が OWF ファイル生成以外の場合

```
List Creator インストールディレクトリ ¥conf¥lc_prt_env.conf
```

・出力方法が OWF ファイル生成の場合

```
List Creator インストールディレクトリ ¥conf¥lc_webprt_env.conf
```

-【UNIX 系 OS 版】の場合

・出力方法が OWF ファイル生成以外の場合

```
/etc/opt/FJSVoast/conf/lc_prt_env.conf
```

・出力方法が OWF ファイル生成の場合

```
/etc/opt/FJSVoastw/conf/lc_webprt_env.conf
```

備考

- 帳票出力環境設定ファイルのアクセス制限は、以下のとおりです。
  ・【Windows 版】の場合
  Administrators ［フルコントロール］
  Everyone ［読み取りと実行、読み取り］
  ・【UNIX 系 OS 版】の場合
  「644」

帳票出力環境設定ファイルにアクセスできない場合や記述形式に誤りがある場合、帳票出力環境設定ファイルの指定は無効となります。

3.4.2　帳票出力環境設定ファイルの記述形式

帳票出力環境設定ファイルの記述形式は、帳票出力情報ファイルの指定と同様です。
キーワードの書式や説明については、以下を参照してください。
⇒ “7.5.4　帳票出力情報ファイル ”

帳票出力環境設定ファイルで指定可能なキーワードを、以下に示します。

キーワード名	説明
GRAPHRESOLUTION	指定した解像度で、グラフ出力用のビットマップを生成します。
GRAPHDRAWCOLOR	グラフデータ（グラフ属性ファイル）で指定された色情報を有効にするかどうかを指定します。
PDFJIS2004MODE	PDF ファイル保存時、サロゲートペアなどの JIS2004 文字を出力する場合に指定します。
USECHARTYPE	UNICODE 文字の出力結果が異常となる場合など、List Creator 内部で使用している UNICODE 文字の全半角を判定するテーブルを変更します。
LWMATQUALITY	List Creator 互換印刷時の動作モードを指定します。
STAMPTYPE	画像の透過出力描画方法を指定します。
BARCUST4DIR	カスタマバーコードの印刷方向拡張を指定します。
PDFCUSTBARPOS	PDF ファイル保存時のカスタマバーコードの位置ズレ補正を指定します。

3.4.3　帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係

帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルの関係について、以下に示します。

- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルでは、帳票出力情報ファイルの指定が優先されます。
- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルで、異なるキーワードが指定されている場合、それぞれの指定値が有効となります。
- 帳票出力情報ファイルを指定しない場合、帳票出力環境設定ファイルの指定で動作します。

第 4 章
コネクタ連携機能の環境設定

ここでは、コネクタ連携機能の環境設定方法について説明します。
コネクタ連携機能を利用するためには、以下の作業が必要です。
環境設定は、アプリケーションサーバと帳票出力サーバの両方で行う必要があります。

手順	操作	説明
1)	セットアップ用バッチファイル / シェルの実行（必須）	インストール後に実行する必要があります。実行後、自動的に起動されます。
2)	コネクタ連携機能のサービスの停止（環境設定ファイルを設定する場合は必須）	環境設定ファイルを設定する場合は、コネクタ連携機能のサービスを停止する必要があります。
3)	環境設定ファイルの設定（必要時）	必要に応じて設定します。設定しない場合は、初期値で動作します。
4)	コネクタ連携機能のサービスの起動（環境設定ファイルを設定した場合は必須）	環境設定ファイルを設定した場合は、コネクタ連携機能のサービスを起動する必要があります。
5)	帳票資源の参照先、帳票の出力先を UNC 指定にするための設定（必要時）	帳票資源の参照先、帳票の出力先を UNC 指定にする場合に設定します。

備考

- コネクタ連携機能に関する運用や注意事項については、以下を参照してください。
  ⇒ “ 第 11 章コネクタ連携機能 ”
  なお、コネクタ連携機能を利用するには、あわせて List Creator の環境設定も必要です。詳細については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.1　【Windows 版】の場合 ”
  ⇒ “3.2　【UNIX 系 OS 版】の場合 ”
- 【Solaris 版】で少量ページの帳票を多重で同時に出力する運用では、ご利用の環境によっては性能を向上できる場合があります。
  詳細については、以下を参照してください。
  ⇒ “ 付録 E　コネクタ連携機能の多重性能向上について（【Solaris 版】の場合）”

4.1 セットアップ用バッチファイル / シェルの実行

4.1.1 【Windows 版】の場合

setupCT.bat バッチファイルを実行してコネクタ連携機能のセットアップを行います。セットアップを行うと、セットアップの終了後にコネクタ連携機能のサービスが起動されます。

注意

- コネクタ連携機能をセットアップする場合は、Administrators 権限を持つユーザで行ってください。
- Windows Server 2008 でコネクタ連携機能のセットアップを行う場合は、「管理者：コマンド プロンプト」から setupCT.bat バッチファイルを実行してください。
  「管理者：コマンド プロンプト」を起動するには、［スタート］メニューの［コマンド プロンプト］のアイコンを右クリックし、表示されるメニューから「管理者として実行」を選択します。
- setupCT.bat バッチファイルを実行する前に、setupCT.bat バッチファイルの格納先ディレクトリに移動してください。
- オプションに空白を含むパスを指定する場合、「ダブルクォーテーション (")」で各オプションを囲んで指定してください。
- コネクタ連携機能のセットアップを行うと、コネクタ連携機能のサービスが起動し、コネクタ連携機能を使用することができます。
  ただし、コンピュータの起動時には、自動的にサービスは起動されません。
  コンピュータの起動時に自動的にサービスを起動したい場合は、以下の操作でサービスの設定を変更してください。
  1）［スタート］メニューから［プログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービスの一覧画面を表示します。
  2）［ListCREATOR RemotePrint］を選択します。
  右クリックでプロパティを表示し、スタートアップの種類で「自動」を選択します。
  コンピュータの起動時に自動的にサービス「ListCREATOR RemotePrint」が起動されます。
  自動的に起動したくない場合は、「手動」を選択します。
  3）［ListCREATOR Connector］を選択します。
  右クリックでプロパティを表示し、スタートアップの種類で「自動」を選択します。
  コンピュータの起動時に自動的にサービス「ListCREATOR Connector」が起動されます。
  自動的に起動したくない場合は、「手動」を選択します。

setupCT.bat バッチファイルは、以下のディレクトリ配下に格納されています。

```
List Creator インストールディレクトリ
```

［記述形式］

setupCT.bat バッチファイル実行時の記述形式を示します。
[ ] は、省略できることを示します。

```
setupCT.bat　[Java インストールディレクトリ ]　List Creator インストールディレクトリ
```

［説明］

オプションについて説明します。

Java インストールディレクトリ（任意）

J2SE のインストールディレクトリを指定します。
このオプションを省略すると、List Creator の Java 実行環境を使用してセットアップを行います。

注意

- Java インストールディレクトリに「%」を含むディレクトリは指定しないでください。

備考

- List Creator の Java 実行環境として、お客様がお使いの Java 実行環境を指定することもできます。
  その場合、お客様の Java 実行環境のインストールディレクトリを指定してください。
  List Creator で使用できる Java 実行環境は、以下のとおりです。
  なお、使用する J2SE に合わせて、必要とされるパッチを適用しておく必要があります。
  ・【Windows 版】の場合
    - J2SE 1.3.1
    - J2SE 1.4.2
    - J2SE 5.0
    - Java SE 6 以降
    なお、64 ビットの Java は使用できません。
  ・【Windows(x64) 版】の場合
    - J2SE 5.0
    - Java SE 6 以降
    なお、32 ビットの Java は使用できません。
  ・【Windows for Itanium 版】の場合
    - J2SE 1.4.2
    - J2SE 5.0 以降
    なお、32 ビットの Java は使用できません。

List Creator インストールディレクトリ（必須）

List Creator のインストールディレクトリを指定します。

注意

- List Creator インストールディレクトリに「%」を含むディレクトリは指定しないでください。

［記述例］

以下に、Java インストールディレクトリを省略した場合と指定した場合に分けて記述します。

- Java インストールディレクトリを省略した場合

  Java インストールディレクトリを省略し、List Creator インストールディレクトリを「C:¥ListCREATOR」とした場合の例を示します。

```
setupCT.bat　C:¥ListCREATOR
```

- Java インストールディレクトリを指定した場合

  Java インストールディレクトリを「C:¥Interstage¥JDK14」とし、List Creator インストールディレクトリを「C:¥ListCREATOR」とした場合の例を示します。

```
setupCT.bat　C:¥Interstage¥JDK14　C:¥ListCREATOR
```

4.1.2 【UNIX 系 OS 版】の場合

以下のシェルを実行してコネクタ連携機能のセットアップを行います。セットアップを行うと、セットアップの終了後に自動的にコネクタ連携機能のサービスが起動されます。

- setupAPS.sh シェル（アプリケーションサーバの場合）
- setupFOS.sh シェル（帳票出力サーバの場合）

注意

- コネクタ連携機能をセットアップする場合は、システム管理者権限で行ってください。
- 以下のエラーとなった場合は、コネクタ連携機能が使用するファイルに Java のランタイムライブラリのパスを設定する必要があります。

  Java Runtime library (libjvm.so) was not found. Please edit /etc/opt/FJSVoast/conf/prputex.conf and add the full path of Java Runtime library (libjvm.so) to the JVM_LIB_PATH key."

  設定方法については、オンラインマニュアル " トラブルシューティング・メッセージ集 " を参照してください。
- setupAPS.sh シェルまたは setupFOS.sh シェルを実行する前に、setupAPS.sh シェルまたは setupFOS.sh シェルの格納先ディレクトリに移動してください。
- コネクタ連携機能のセットアップシェルを実行すると、コンピュータの起動時に、コネクタ連携機能のサービスが自動的に起動されます。

setupAPS.sh シェル、または setupFOS.sh シェルは、以下のディレクトリ配下に格納されています。

```
/opt/FJSVoast/remoteprint
```

［記述形式］

setupAPS.sh シェルの記述形式を示します。
[　] は、省略できることを示します。

```
sh　setupAPS.sh　[Javaインストールディレクトリ]
```

setupFOS.sh シェルの記述形式を示します。
[　] は、省略できることを示します。

```
sh　setupFOS.sh　[Javaインストールディレクトリ]
```

［説明］

オプションについて説明します。

Java インストールディレクトリ（任意）

J2SE のインストールディレクトリを指定します。
このオプションを省略すると、List Creator の Java 実行環境を使用してセットアップを行います。

注意

- 【Solaris/Linux for Intel64/Linux for Itanium 版】の場合、Java インストールディレクトリの末尾には、「スラッシュ（/）」を指定しないでください。
- 【Linux for x86 版】の場合は、List Creator の Java 実行環境を使用できないため、Java インストールディレクトリは省略できません。
  【Linux for x86 版】で使用できる Java 実行環境は、以下のいずれかです。
  - ・ J2SE 1.3.1 以降
    （ネイティブスレッドモードのみサポート）
  - ・ J2SE 1.4.2 以降

  なお、64 ビットの Java は使用できません。

備考

- List Creator の Java 実行環境として、お客様がお使いの Java 実行環境を指定することもできます。
  その場合、お客様の Java 実行環境のインストールディレクトリを指定してください。
  List Creator で使用できる Java 実行環境は、以下のいずれかです。
  なお、使用する J2SE に合わせて、必要とされるパッチを適用しておく必要があります。
  - 【Solaris 版】の場合
    - J2SE 1.3.1
      （ネイティブスレッドモードのみサポート）
    - J2SE 1.4.2
    - J2SE 5.0
    - Java SE 6 以降
    なお、64 ビットの Java は使用できません。
  - 【Linux for Intel64/Linux for Itanium 版】の場合
    - J2SE 5.0
    - J2SE 1.4.2
    - Java SE 6 以降（【Linux for Intel64 版】の場合）
    なお、32bit の Java は使用できません。

［記述例］

以下に、Java インストールディレクトリを省略した場合と指定した場合に分けて記述します。

- Java インストールディレクトリを省略した場合

  Java インストールディレクトリを省略した場合の例を示します。

  - setupAPS.sh シェルの場合

```
sh　setupAPS.sh
```

  - setupFOS.sh シェルの場合

```
sh　setupFOS.sh
```

- Java インストールディレクトリを指定した場合

  Java インストールディレクトリを「/opt/FJSVawjbk/jdkl4」とした場合の例を示します。

  - setupAPS.sh シェルの場合

```
sh　setupAPS.sh　/opt/FJSVawjbk/jdkl4
```

  - setupFOS.sh シェルの場合

```
sh　setupFOS.sh　/opt/FJSVawjbk/jdkl4
```

備考

- コネクタ連携機能のサービスが起動しているかは、以下のプロセスが存在するかどうかで確認できます。
  - /opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/bin/f3gbrjdm
  - /opt/FJSVoast/bin/fjsvoastctd

4.2 コネクタ連携機能のサービスの起動 / 停止

コネクタ連携機能のサービスの起動および停止方法について説明します。

4.2.1 【Windows】版の場合

コネクタ連携機能のサービスの起動および停止は、以下の手順で行います。
ここでは、アプリケーションサーバが Windows Server 2003 の場合の操作手順について説明します。

コネクタ連携機能のサービスを起動する方法

1）［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR RemotePrint」を開始します。
2）［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR Connector」を開始します。

コネクタ連携機能のサービスを停止する方法

1）［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR Connector」を停止します。
2）［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択し、サービス「ListCREATOR RemotePrint」を停止します。

4.2.2 【UNIX 系 OS 版】の場合

コネクタ連携機能のサービスの起動および停止は、以下のコマンドを指定します。

注意
- システム管理者権限で実行してください。
- 帳票出力業務中に操作しないでください。

コネクタ連携機能のサービスを起動する方法

```
# /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr start
```

コネクタ連携機能のサービスを停止する方法

```
# /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr stop
```

通常はシステム起動時にコネクタ連携機能のサービスが起動されるため、手動で起動や停止の操作をする必要はありません。

4.3 環境設定ファイルの設定

必要に応じて、環境設定を変更します。

4.3.1 アプリケーションサーバの場合

ここでは、アプリケーションサーバで変更可能な項目について説明します。

注意

- 環境設定は、コネクタ連携機能のサービスの停止中に行ってください。
  環境設定後の値は、サービスの起動後に有効となります。
  サービスの起動および停止方法については、以下を参照してください。
  ⇒ "4.2　コネクタ連携機能のサービスの起動 / 停止 "
- 本書に記載している環境設定ファイルの項目以外は、変更しないでください。

備考

- コネクタ連携機能を使用する場合、ファイアウォール機能が有効な環境では、
  List Creator が使用するポートをブロックしないように設定してください。

● RequesterProperty ファイル

コネクタ連携機能の内部で使用する RMI 通信に関する設定です。

- 【Windows版】の場合
  List Creatorインストールディレクトリ¥remoteprint¥requester¥bin¥RequesterPropertyファイル
- 【UNIX系OS版】の場合
  /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/requester/bin/RequesterPropertyファイル

項目	プロパティ	初期値	設定範囲	説明
RMI 用ポート番号	jp.co.pfu.ardus.model.jom.requester.rmiPort	3914	1 ～ 65535	List Creator 内部の RMI 通信で使用する TCP/IP ポート番号です。RMI 通信は、アプリケーションサーバ側で動作します。 他アプリケーションで TCP/IP ポート番号が使用されている場合に変更します。DaemonProperty ファイルの RMI 用ポート番号の設定値と合わせる必要があります。

● DaemonProperty ファイル

コネクタ連携機能の通信に関する設定です。

- 【Windows版】の場合
  List Creatorインストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥bin¥DaemonPropertyファイル
- 【UNIX系OS版】の場合
  /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/bin/DaemonPropertyファイル

項目	プロパティ	初期値	設定範囲	説明
アプリケーション実行コマンド	jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.job.applicationRoot	/opt/FJSVoast/bin	－	UNIX 系 OS の chmod コマンドがあるディレクトリを指定します。 List Creator Connector ではインストール時に /opt/FJSVoast/bin 配下に chmod コマンドへのシンボリックリンク（アプリケーションサーバが Solaris の場合 /usr/bin/chmod、アプリケーションサーバが Linux の場合 /bin/chmod）を作成するので、通常は、このプロパティを変更する必要はありません。chmod コマンドのあるディレクトリが異なる場合に変更します。

項目	プロパティ	初期値	設定範囲	説明
RMI 用ポート番号	jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.responder.rmiPort	3914	1 ～ 65535	List Creator 内部の RMI 通信で使用する TCP/IP ポート番号です。RMI 通信は、アプリケーションサーバ側で動作します。 他アプリケーションで TCP/IP ポート番号が使用されている場合に変更します。 RequesterProperty ファイルの RMI 用ポート番号の設定値と合わせる必要があります。

● DefaultPushJobInstruction ファイル

帳票やデータファイルなどを帳票出力サーバに送信するための設定です。

- 【Windows版】の場合
  List Creatorインストールディレクトリ¥remoteprint¥requester¥data¥DefaultPushJobInstructionファイル
- 【UNIX系OS版】の場合
  /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/requester/data/DefaultPushJobInstructionファイル

項目	プロパティ	初期値	設定範囲	説明
帳票出力待ち合わせ時間	job.push.responderApp.timeout	0	0 ～ 3600	帳票出力サーバでの List Creator の帳票出力完了の待ち合わせ時間を秒単位で設定します。指定した時間内に帳票出力が完了しない場合は出力完了の待ち合わせを打ち切ります。 0 秒が設定された場合は、出力が完了するまで待ち合わせます。ただし、帳票出力が完了しない場合は、DefaultTransferProperty ファイルの転送タイムアウト設定（bufferTimeout など）にしたがって、タイムアウトが発生します。

● DefaultTransferProperty ファイル

アプリケーションサーバと帳票出力サーバとの間の通信に関する設定です。ネットワーク環境などに合わせて変更してください。

- 【Windows版】の場合
  List Creatorインストールディレクトリ¥remoteprint¥requester¥data¥DefaultTransferProperty ファイル
- 【UNIX系OS版】の場合
  /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/requester/data/DefaultTransferProperty ファイル

項目		プロパティ	初期値	設定範囲	説明
送信先ポート番号		jp.co.pfu.atool.delivery.requester.transferPort	3913	1 ～ 65535	帳票出力サーバの受信ポート番号を設定します。必要に応じて変更してください。帳票出力サーバの DaemonProperty ファイルの受信ポート番号の設定値と合わせる必要があります。
ネットワーク負荷軽減設定	間欠転送指定	jp.co.pfu.atool.delivery.requester.partitionedTransfer	false	true または false	ネットワーク帯域を圧迫しないようにファイルを転送（間欠転送）する場合に指定します。指定した間隔をおいて分割して転送します。 間欠転送をする場合は「true」を指定します。 通常は間欠転送しない指定（false）になっていて、ファイルを１度に転送します。 間欠転送する場合は、送信に必要な時間が長くなります。
	間欠転送間隔	partitionedTransferInterval	5	0 ～ 2147483647	間欠転送が有効の場合に、その間隔をミリ秒単位で指定します。

項目		プロパティ	初期値	設定範囲	説明
エラーリトライ	エラーリトライ指定	jp.co.pfu.atool.delivery.requester.errorRetry	false	true または false	以下の設定ができます。 - アプリケーションサーバから帳票出力サーバに帳票資源やデータファイルなどを転送し、コネクタ連携を行います。 - アプリケーションサーバから帳票出力サーバに帳票資源やデータファイルなどを転送し、PDF ファイル、OWF ファイル、Excel ファイルの生成、およびコネクタ連携を行います。 エラーリトライは、帳票出力サーバへの帳票資源やデータファイルなどの転送や帳票出力サーバで生成したファイルの取得に失敗した場合のリトライ設定を行います。 リトライする場合は「true」を指定します。 通常は、リトライしない指定（false）になっています。複数のファイルを転送する場合、1 つのファイルの転送ごとにリトライが有効となります。
	エラーリトライ回数	errorRetryCount	3	0 ～ 2147483647	転送 / 取得エラー時に、リトライする回数を指定します。
	エラーリトライ間隔	errorRetryInterval	10000	0 ～ 2147483647	転送 / 取得エラー時に、リトライする間隔を指定します。ミリ秒単位で指定します。
転送タイムアウト設定	転送タイムアウト	bufferTimeout	60000	0 ～ 2147483647	アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ接続後に、帳票サーバでの接続時間がかかる場合や応答がなかった場合の接続中のタイムアウト時間をミリ秒単位で指定します。 電子保存を行う場合など、帳票出力サーバでの処理時間が長くかかることが予想される場合、このパラメータおよび帳票出力サーバ側の DaemonProperty ファイルの接続タイムアウトプロパティ（transfer.bufferTimeout）を長く設定してください。
	転送エラーリトライ回数	bufferRetryCount	5	0 ～ 2147483647	接続中のタイムアウトが発生したときのリトライ回数を指定します。
	転送エラーリトライ間隔	bufferRetryInterval	10000	0 ～ 2147483647	接続中のタイムアウトが発生したときのリトライ間隔をミリ秒単位で指定します。
コネクションリトライ	コネクションリトライ回数	connectionRetryCount	0	0 ～ 2147483647	接続エラー時に、リトライする回数を設定します。
	コネクションリトライ間隔	connectionRetryInterval	0	0 ～ 2147483647	接続エラー時に、リトライする間隔を設定します。

4.3.2 帳票出力サーバの場合

ここでは、帳票出力サーバで変更可能な項目について説明します。

注意

- 環境設定は、コネクタ連携機能のサービスの停止中に行ってください。
  環境設定後の値は、サービスの起動後に有効となります。
  サービスの起動および停止方法については、以下を参照してください。
  ⇒ “4.2　コネクタ連携機能のサービスの起動 / 停止 ”
- 本書に記載されている環境設定ファイルの項目以外は、変更しないでください。

備考

- コネクタ連携機能を使用する場合、ファイアウォール機能が有効な環境では、List Creator が使用するポートをブロックしないように設定してください。

● DaemonProperty ファイル

コネクタ連携機能の通信に関する設定です。

- 【Windows版】の場合
  List Creatorインストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥bin¥DaemonPropertyファイル
- 【UNIX系OS版】の場合
  /etc/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/bin/DaemonPropertyファイル

項目		プロパティ	初期値	設定範囲	説明
受信ポート番号		receivePort	3913	1 ～ 65535	ファイル受信用のポート番号です。運用環境に応じて変更してください。アプリケーションサーバの DefaultTransferProperty ファイルの送信先ポート番号の設定値と合わせる必要があります。
最大同時接続許可数		transfer.maxReceiveConnection	64	1 ～ (*1)	同時に受信可能な接続数です。これを超えた接続要求に対しては切断します。運用環境に応じて変更してください。
RMI 用ポート番号		jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.responder.rmiPort	3914	1 ～ 65535	List Creator 内部の RMI 通信で使用する TCP/IP ポート番号です。他アプリケーションで TCP/IP ポート番号が使用されている場合のみ変更します。 アプリケーションサーバの RequesterProperty ファイルおよび DaemonProperty ファイルの RMI 用ポート番号と合わせる必要があります。
接続タイムアウト	タイムアウト時間	transfer.bufferTimeout	60	0 ～ 2147483647	アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ接続後、帳票出力サーバでの接続に時間がかかる場合や接続中のタイムアウト時間を秒単位で設定します。 電子保存を行う場合など、帳票出力サーバでの処理時間が長くかかることが予想される場合、このパラメータおよびアプリケーションサーバ側の DefaultTransferProperty ファイルの転送タイムアウトプロパティ（bufferTimeout）を長く設定してください。
	リトライ回数	transfer.bufferRetryCount	5	0 ～ 2147483647	接続中のタイムアウトが発生した場合にリトライする回数を設定します。
	リトライ間隔	transfer.bufferRetryInterval	10	0 ～ 2147483647	接続中のタイムアウトが発生した場合にリトライする間隔を秒数で設定します。

*1：最大同時接続許可数の上限値に制限はありません。ただし、同時に接続する数が増加した場合、出力時に必要な仮想メモリなどが増加するため、十分なマシンスペックが必要となります。

4.4 帳票資源の参照先、帳票の出力先を UNC 指定にするための設定

【Windows 版】で、帳票資源の参照先、帳票の出力先を UNC 指定（¥¥コンピュータ名 ¥ 共有名 ¥ ディレクトリ名）にする場合、サービス「ListCREATOR RemotePrint」のログオンユーザをローカルシステムアカウントから、Administrators 権限を持つユーザに変更する必要があります。

注意

- この設定は、UNC 指定したファイルにアクセスするサーバで行う必要があります。
- サービス「ListCREATOR Connector」のログオンユーザを変更する必要はありません。
- 帳票資源の参照先、帳票の出力先には、サービスのログオンユーザが読み取り、および書き込みできる権限を設定しておく必要があります。
- COBOL アプリケーション連携機能使用時は、作業ファイルを以下のディレクトリに作成します。
  - ・ 環境変数 LM_WORKDIR で指定したディレクトリ
  - ・ 環境変数 LM_WORKDIR を省略した場合、環境変数 TMP、または環境変数 TEMP で指定されているディレクトリ

  サービス「ListCREATOR RemotePrint」のログオンユーザに上記ディレクトリへのアクセス権がない場合、COBOL アプリケーションがエラーとなります。
  サービス「ListCREATOR RemotePrint」のログオンユーザを変更した場合は、環境変数 LM_WORKDIR でサービス「ListCREATOR RemotePrint」がアクセスできるディレクトリを指定してください。

備考

- 帳票資源の参照先、帳票の出力先には、下記の設定に加えて、アプリケーション実行ユーザが読み取り、および書き込みできる権限を設定しておく必要があります。

以下に、アプリケーションサーバが Windows Server 2003 の場合の設定方法について説明します。

= 操作手順 =

1）［スタート］－［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［サービス］を選択します。
⇒サービス画面が表示されます。

2）「ListCREATOR RemotePrint」を選択します。

3）［操作］－［プロパティ］を選択します。
⇒「ListCREATOR RemotePrint」のプロパティ画面が表示されます。

4）［ログオン］タブを選択します。

5）「ログオン」で、「アカウント」を選択します。

6）「アカウント」に、Administrators 権限を持つユーザを指定します。

7）「パスワード」および「パスワードの確認入力」に、6）で指定したユーザのパスワードを入力します。

8）［OK］ボタンをクリックします。

9）サービスの状態が「停止」の場合は、［操作］－［開始］を選択します。
サービスの状態が「開始」の場合は、［操作］－［再起動］を選択します。

第５章
リモート帳票出力機能の環境設定

ここでは、リモート帳票出力機能の環境設定方法について説明します。

備考

- リモート帳票出力機能に関する運用や留意事項については、以下を参照してください。
  ⇒“第 12 章リモート帳票出力機能”

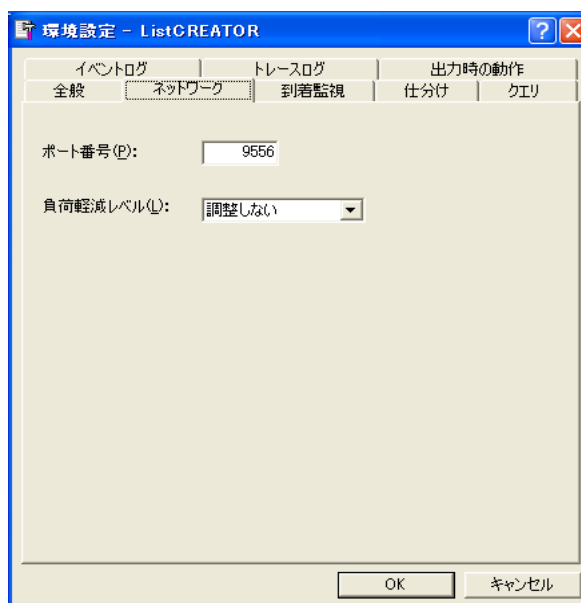
5.1 【Windows 版】の場合

ここでは、リモート帳票出力機能を使用する場合の環境設定について説明します。
リモート帳票出力時は、あわせて List Creator の環境設定も必要です。詳細については、以下を参照してください。
⇒ “3.1 【Windows 版】の場合 ”

5.1.1 ネットワークタブ

List Creator の通信に関する情報を設定します。
リモート帳票出力機能を利用して、帳票出力する場合に設定が必要です。

注意

- コネクタ連携機能を使用する場合、［ネットワーク］タブの設定は有効になりません。

ポート番号

List Creator の通信で使用する TCP/IP ポート番号を 1 ～ 65535 の範囲で指定します。
リモート帳票出力で接続するすべてのコンピュータの TCP/IP ポート番号に同じ番号を指定してください。
通常は変更する必要はありません。

備考

- リモート帳票出力型で運用する場合、ここで指定した番号のポート以外に、NetBIOS のポート（137、138、139）、SMB プロトコルのポート（445）も使用します。

負荷軽減レベル

データファイルなど大量データをネットワーク転送するときのネットワークトラフィックの調整を行う場合に、負荷軽減レベルを変更します。
List Creator では、8K バイト単位でデータを転送します。データを 8K バイト転送した後、次のデータを転送するまでの間隔を調整する場合に指定します。
負荷軽減レベルを上げるほどデータ転送は遅くなりますが、ネットワークへの負荷を軽くできます。

調整しない	：間隔なし（もっとも高速にデータを転送します）
レベル 1	：0.02 秒間隔
レベル 2	：0.04 秒間隔

レベル 3　　　：0.06 秒間隔

レベル 4　　　：0.08 秒間隔

レベル 5　　　：0.10 秒間隔

レベル 6　　　：0.12 秒間隔

レベル 7　　　：0.14 秒間隔

レベル 8　　　：0.16 秒間隔

レベル 9　　　：0.18 秒間隔

レベル 10　　：0.20 秒間隔

通常は変更する必要はありません。ネットワークの負荷が高く、その他の業務が滞るというような問題が発生した場合にのみ、運用に応じて調整してください。

備考

- 通常は「調整しない」を選択してください。環境にもよりますが、10Mbps の LAN 環境で 1M バイトのデータを転送する場合、「調整しない」では 2.5 秒程度、「レベル 10」では「調整しない」の 10 倍程度の時間がかかります。

5.1.2 リモート帳票出力ユーザの設定

以下の運用を行う場合、リモート帳票出力を行う前に、リモート帳票出力ユーザを設定してください。以下にあてはまらない場合、リモート帳票出力ユーザを設定する必要はありません。

- 帳票出力サーバが Windows XP で、フォルダオプションの設定に「簡易ファイルの共有を使用する（推奨）」を設定してリモート帳票出力を行う場合
- SYSTEM アカウントで動作するサービスプロセスからリモート帳票出力を行う場合
- ファイアウォールやルータにより 445/tcp ポート（microsoft-ds (*1)）をブロックしている場合

*1：ダイレクト・ホスティング SMB サービスの通信に使われるポート番号で、ファイルとプリンタの共有やリモート管理などに利用されます。

リモート帳票出力ユーザは、アプリケーションサーバ上で prsetpasswd コマンドで設定します。

⇒“A.1.4　パスワードコマンド（prsetpasswd）”

5.2 【UNIX 系 OS 版】の場合

ここでは、リモート帳票出力機能を使用する場合の環境設定について説明します。
リモート帳票出力時は、ここで説明する環境設定以外に、List Creator の環境設定も必要です。
詳細については、以下を参照してください。
⇒ " 第 3 章 List Creator の環境設定 " の "3.2　【UNIX 系 OS 版】の場合 "

5.2.1 作業用ディレクトリとネットワークの環境を設定する

リモート帳票出力時の作業ディレクトリおよびネットワークトラフィックを少なくするための負荷軽減レベルを設定 / 表示できます。
作業用ディレクトリとネットワークの環境は、prsetremenv コマンドで指定します。
⇒ "A.2.2.3　prsetremenv コマンド "

備考

- このコマンドで設定した作業用ディレクトリとネットワークの環境は、コネクタ連携時には有効になりません。

5.2.2 Windows へのリモート帳票出力ユーザを設定する

Windows へのリモート帳票出力を行う場合、リモート帳票出力ユーザを登録 / 変更 / 削除 / 表示できます。
リモート帳票出力ユーザは、アプリケーションサーバ（UNIX 系 OS）上で prsetpasswd コマンドで設定します。
⇒ "A.2.2.4　prsetpasswd コマンド "

注意

- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合は、prsetpasswd コマンドでリモート帳票出力ユーザを設定する必要はありません。ただし、アプリケーションサーバでリモート帳票出力をするユーザが、帳票出力サーバに登録されている必要があります。

リモート帳票出力ユーザ

リモート帳票出力ユーザとは、リモート帳票出力時に帳票出力サーバ（Windows）上で動作するユーザのことをいいます。
Windows へのリモート帳票出力を行う場合、リモート帳票出力するアプリケーションサーバごとにリモート帳票出力ユーザを登録しておく必要があります。
以下を参考に、アプリケーションサーバ上でリモート帳票出力ユーザを登録してください。

単一ユーザで運用する場合

どのユーザでリモート帳票出力しても、帳票出力サーバで動作するユーザを 1 つに統一して運用したい場合は、prsetpasswd コマンドでユーザを 1 つだけ登録してください。

複数ユーザで運用する場合

リモート帳票出力するユーザと、帳票出力サーバ上で動作するユーザを同じにしたい場合は、リモート帳票出力するユーザをすべて prsetpasswd コマンドで登録してください。
この場合、登録されていないユーザがリモート帳票出力を行うと、帳票出力サーバでは一番目に登録されたユーザで動作します。

注意

- prsetpasswd コマンドで指定するリモート帳票出力ユーザ名は、帳票出力サーバ（Windows）のユーザ名と同じユーザ名、パスワードを定義してください。

以下に、リモート帳票出力ユーザの登録順序と、実際に適用されるリモート帳票出力ユーザ名の例を示します。

リモート帳票出力
ユーザの登録順序

1. user1
2. user2
3. user3

5.2.3 ポート番号を変更する

List Creator がリモート帳票出力機能で使用するポート番号は、インストール直後は「9556」が設定されています。ポート番号を変更したい場合は、次の手順で行ってください。

= 操作手順 =

1）コンピュータにログオンします。
システム管理者権限で、コンピュータにログオンしてください。

2）「/etc/services」ファイルをテキストエディタで開きます。

3）「fjsvoast」の文字列を検索し、以下の行があるかを確認します。
ポート番号を変更する場合は、下記の「9556」の値を変更します。

```
fjsvoast 9556/tcp # List Creator
```

上記の行が存在しない場合は、ファイルに上記の行を追加し、ポート番号を設定してください。

4）変更内容を保存（ファイルを更新）し、テキストエディタを終了します。

5）システムを再起動します。

注意

- ポート番号は、アプリケーションサーバと帳票出力サーバで同じ番号を指定してください。

第 6 章
Web アプリケーション連携機能の 環境設定

Web アプリケーション連携機能（OWF ファイル生成時）の環境設定について説明します。

備考

- Web アプリケーション連携機能に関する運用手順や画面の詳細については、以下を参照してください。
  ⇒ “ 第 13 章 Web アプリケーション連携機能 ”
- Web 手元印刷型で PDF ファイル保存する場合の環境設定については、オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ” を参照してください。

6.1 Web サーバの環境設定

Web サーバの環境設定について説明します。

6.1.1 MIME タイプの設定

Web プラグインを使用するには、Web サーバに MIME タイプの設定を行う必要があります。
Web サーバに以下の MIME タイプを追加します。

MIME タイプ	拡張子
application/x-owf	owf

MIME タイプを Web サーバに追加する方法については、使用する Web サーバのマニュアルを参照してください。

- Interstage HTTP Server の場合
  - ・ Interstage Application Server のオンラインマニュアル
  - ・ Interstage Web Server のオンラインマニュアル
- IIS 6.0 以降の場合
  「インターネットサービスマネージャ」を起動し、Web サイトをマウスの右ボタンでクリックし、「プロパティ」を選択して「プロパティシート」を表示します。［HTTP ヘッダー］タブの「MIME マップ」で設定してください。

備考

- インターネットサービスマネージャの種類により、メニュー名や画面上の文字列などが違う場合があります。

6.1.2 Web サーバのアクセスログの設定

必要に応じて Web サーバのアクセスログを設定してください。
アクセスログの設定に関する詳細については、ご使用の Web サーバに添付のオンラインマニュアル、またはヘルプを参照してください。

6.2 Web クライアントの環境設定

Web クライアントの環境設定について説明します。

6.2.1 Web ブラウザの環境設定

Web ブラウザの環境設定として、Internet Explorer の環境を設定する必要があります。
ここでは、Internet Explorer 7.0 の場合の設定例を示します。

設定画面の表示方法

Internet Explorer を起動し、［ツール］－［インターネットオプション］を選択して設定画面を表示してください。

全般の設定

「閲覧の履歴」の［設定］ボタンをクリックして表示される画面で、「保存しているページの新しいバージョンの確認」において、次のいずれかを選択してください。

- Web サイトを表示するたびに確認する
- Internet Explorer を開始するたびに確認する

セキュリティの設定

以下のいずれかの設定をします。

- 設定画面の「セキュリティ」タブで、ゾーンを選択してから「セキュリティのレベル」に「中高」を設定します。
- 「ActiveX コントロールとプラグインの実行」で、「有効にする」、「ダイアログを表示する」、または「管理者の許可済み」を選択します。
- 「ファイルのダウンロード」を「有効」にします。

6.2.2 Web プラグインの環境設定

Web プラグインは、あらかじめクライアントコンピュータにインストールしておく必要があります。
ここでは、Web プラグインのインストールとアンインストール、およびトレースログ環境設定について説明します。
Web プラグインは、Internet Explorer で使用することができます。

● Web プラグインのインストール

Web プラグインのインストールは、次の手順で行います。

= 操作手順 =

1）以下のインストールコマンドを使用して、Web プラグインをインストールします。

List Creator の製品媒体（CD-ROM）内の plugin¥f3gxplg.exe

なお、クライアントコンピュータが英語環境の場合、以下のインストールコマンドを使用してインストールしてください。

List Creator の製品媒体（CD-ROM）内の plugin¥english¥f3gxplg.exe

2）画面に表示される指示にしたがってインストールを進めます。

注意

- クライアントコンピュータ上に Web プラグインをインストールする場合は、クライアントコンピュータの Administrators 権限を持つユーザで行ってください。Administrators 権限を持つユーザでログオンしないと、一部モジュールがインストールされず、正しく動作しない場合があります。
  インストール後は、コンピュータを再起動する必要があります。
- すでに「OutputASSIST」または ListCREATOR V10.0L30 以前の Web プラグインをインストール済みのコンピュータにはインストールできません。
  「OutputASSIST」または ListCREATOR V10.0L30 以前の Web プラグインをアンインストールしてから、インストールしてください。
- Web プラグインをインストール後、Web ブラウザをインストールした場合には、再度 Web プラグインを上書きインストールしてください。
- Web 手元印刷コンポーネント機能で提供している Web コントロールをすでにダウンロードしてある場合は、Web コントロールを削除する必要があります（Web コントロールと Web プラグインは同一コンピュータ上にどちらか 1 つしかインストールできません）。Web コントロールを削除する方法については、オンラインマニュアル “Web 手元印刷コンポーネント機能編 ” の Web コントロールをクライアントコンピュータから削除する方法についての記載を参照してください。
- インストールコマンドは、環境変数 PATH に Web プラグインのインストールディレクトリを設定しますが、設定前の環境変数 PATH が長いなどの理由により、正常に設定されない場合があります。その場合は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照して、PATH 変数に Web プラグインのインストールディレクトリを追加してください。Web プラグインのデフォルトのインストール先は、「（システムドライブ）:¥Program Files¥Web_Plugin」です。
- インストール後に以下のディレクトリが削除されずに残る場合があります。その場合は、手動でディレクトリを削除してください。
  ・ 環境変数 TMP または TEMP に指定されたディレクトリ配下の「pftXXXXtmp」（XXXX は任意の英数字）

● Web プラグインのアンインストール

Web プラグインのアンインストールは、次の手順で行います。

＝操作手順＝

1）Web ブラウザがすべて終了していることを確認します。

2）［コントロール パネル］の［アプリケーションの追加と削除］アイコンをダブルクリックします。

3）「OWF Web プラグイン」を選択し、［追加と削除］ボタンをクリックします。

4）画面に表示される指示にしたがってアンインストールを進めます。

注意

- クライアントコンピュータ上にインストールされた Web プラグインをアンインストールする場合は、クライアントコンピュータの Administrators 権限を持つユーザで行ってください。
- Web ブラウザが起動中などの理由により、Web プラグインをアンインストールしても一部のファイル、ディレクトリなどが削除されない場合があります。その場合は、手動で以下のディレクトリ、ファイル、およびレジストリを削除してください。
  - ・ Web プラグインのインストールディレクトリを削除します。
    Web プラグインのデフォルトのインストール先は、「(システムドライブ):¥Program Files¥Web_Plugin」です。
  - ・ インストーラのフォルダ 「(%ProgramFiles%)¥InstallShield Installation Information¥{8AEDEC71-D28B-4C5C-B33B-4FC3F943A9E9}」を削除します。
    なお、%ProgramFiles% は環境変数を表します。通常は以下のフォルダとなります。
    -（システムドライブ）:¥Program Files
  - ・ Internet Explorer を使用している場合は、レジストリを削除します。
    レジストリエディタ（regedt32.exe または regedit.exe）を起動し、以下のレジストリキーをすべて削除します。

```
HKEY_CLASSES_ROOT¥.owd
HKEY_CLASSES_ROOT¥.owf
HKEY_CLASSES_ROOT¥OWF.File
HKEY_CLASSES_ROOT¥MIME¥Database¥Content Type¥application/x-oaweb
HKEY_CLASSES_ROOT¥MIME¥Database¥Content Type¥application/x-owf
HKEY_CLASSES_ROOT¥CLSID¥{E628615A-EBC7-4646-8CA7-8F30D9C48D04}
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Fujitsu¥ListCREATOR Web プラグイン
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Internet Explorer
                ¥Low Rights¥ElevationPolicy
                ¥{24DD54A7-BC0E-4a0a-80A2-2F2A582157E3}
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion
                ¥App Paths¥f3gxplg.exe
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion
                ¥Uninstall¥{8AEDEC71-D28B-4C5C-B33B-4FC3F943A9E9}
```

6.2.3　トレースログ環境設定

ここでは、Web プラグインのトレースログ環境設定について説明します。

●トレースログ環境設定画面の起動

Web プラグインのトレースログ環境設定は、以下の手順で起動します。

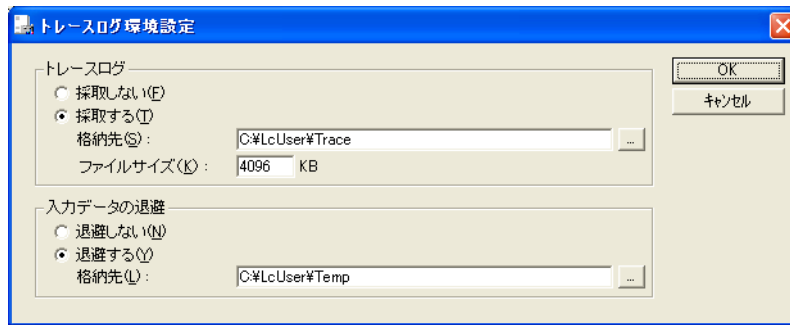
＝操作手順＝

1）以下の環境設定コマンドを使用して設定します。

```
F3GXTRLG.exe
```

環境設定コマンドは、Web プラグインのインストール時に、Web プラグインと同じ場所にインストールされます。
Web プラグインのデフォルトのインストール先は、「C:¥Program Files¥Web_Plugin」です。

●トレースログ環境設定画面

環境設定コマンドを起動したユーザに対するトラブル発生時の調査用のトレースログの採取、および入力データの退避についての情報を設定します。複数のユーザで帳票を出力する場合は、ユーザごとに環境設定を行う必要があります。

トレースログ

トラブル発生時の調査用のトレースログを採取するかどうかを指定します。トレースログは、トラブル発生時に当社技術員が確認するためのログであり、確認することはできません。

採取しない

トレースログを採取しない場合に選択します。

採取する

トレースログを採取する場合に選択します。

格納先

トレースログファイルを格納するフォルダを 259 バイト以内のフルパスで指定します。ローカルディスクのみ指定可能です。
入力域の右側のボタンをクリックすると、ディレクトリ名を参照して指定できます。

ファイルサイズ

トレースログのファイルサイズを、128K ～ 10240K バイトの範囲で指定します。

- トレースログファイルの格納先には、帳票を出力するユーザが読み取り、および書き込みできる権限を付けてください。読み取り、および書き込みできる権限がない場合、トレースログを採取できません。

入力データの退避

Web クライアントで帳票出力時の入力データを退避するかどうかを指定します。
入力データの退避とは、帳票出力時に指定された入力データを退避する機能です。
入力データに関するトラブルが発生した場合、退避した入力データから、トラブルを迅速に解決することができます。
退避した入力データのファイル名などの情報は、メッセージボックスで出力されます。

退避しない

入力データを退避しない場合に選択します。

退避する

入力データを退避する場合に選択します。

格納先

入力データを退避するフォルダを 259 バイト以内のフルパスで指定します。ローカルディスクのみ指定可能です。
入力域の右側のボタンをクリックすると、ディレクトリ名を参照して指定できます。

注意

- トラブルの迅速な解決を行うため、アプリケーションの開発中は入力データを退避することを推奨します。
  ただし、以下の注意事項を考慮してセキュリティに問題がないか検討し、退避するかどうかを判断してください。特に、運用中の退避については十分な検討が必要です。
  - ・入力データを退避する指定を行った場合、ユーザアプリケーションで指定したデータが退避されます。そのため、退避されたデータにセキュリティ上重要な情報が含まれる場合は、取り扱いに注意してください。
    また、入力データを退避するコンピュータは、セキュリティを考慮して、ログインユーザやディレクトリアクセスを制限するなどの対応を行って運用してください。
  - ・入力データの退避先ディレクトリには、帳票を出力するユーザが読み取り、および書き込みできる権限を付けてください。読み取り、および書き込みできる権限がない場合、入力データを退避できません。
  - ・入力データの退避先には、ローカルディスク上のディレクトリを指定してください。退避先には、以下を指定しないでください。
    - ネットワークドライブ
    - UNC 指定（¥¥コンピュータ名¥共有名¥ディレクトリ名）
    - リムーバブルディスク
  - ・OCI 連携機能使用時、および COBOL アプリケーション連携機能使用時は、入力データを退避することはできません。設定は無効になります。
  - ・退避した入力データは自動的に削除されません。退避した入力データが不要となった場合は、手動で削除してください。
  - ・入力データの退避先の空き容量が 256M バイト以下になった場合は、警告のメッセージボックスが出力されます。
    この場合、入力データは退避されません。不要なファイルを削除して容量の確保を行うか、または退避するディレクトリを変更してください。
  - ・入力データの退避が不要となった場合は、入力データを退避しないように設定を変更してください。
  - ・入力データの退避を行った場合には、コンピュータの負荷が増加するため、帳票出力時の性能に影響することがあります。

備考

- トレースログファイルの格納先、および入力データの退避先の初期値は TEMP ディレクトリとなります。TEMP ディレクトリが設定されていない場合は、Windows のインストールディレクトリとなります。

  例：Windows Vista の場合
  　　C:¥WINDOWS など

  TEMP ディレクトリとは、Windows の環境変数 TMP、または TEMP に設定されているディレクトリです。環境変数 TMP、または TEMP に設定されているディレクトリ名は、以下の手順で確認できます。
  なお、ここでは、Windows Vista の場合を例に示します。

  1）［スタート］－［プログラム］－［アクセサリ］－［コマンドプロンプト］を選択します。

  2）キーボードで、以下のようにコマンドを入力します。

```
>SET
```

  3）Windows の環境変数の一覧が表示されます。環境変数 TMP または TEMP に設定されているディレクトリを確認してください。
  なお、環境変数 TMP および TEMP の両方が指定されている場合は、環境変数 TMP が優先されます。

```
TMP=C:¥TEMP
TEMP=C:¥TEMP
```

6.3 外字エンベッド機能の環境設定

外字エンベッド機能の環境設定では、帳票設計時に使用した外字フォントファイル（TrueType フォント）を List Creator に登録します。

ここでは、環境設定によるフォントの登録および登録の抹消方法について説明します。

注意

- 以下の場合、外字エンベッド機能は未サポートです。
  - ・ 英語環境で OWF ファイルを生成する場合
  - ・ 英語環境で Web プラグインを使用する場合

6.3.1 フォントの登録および登録の抹消（【Windows 版】の場合）

【Windows 版】の場合は、List Creator の Web 手元印刷機能の OWF ファイル フォント登録画面でフォントの登録および登録の抹消を行います。

注意

- List Creator の Web 手元印刷機能の OWF ファイル フォント登録画面でフォントの登録および登録の抹消は、Administrators 権限を持つユーザで行ってください。
- OWF ファイルを生成するアプリケーションが実行されていないことを確認してください。

6.3.1.1 フォントを登録するには

以下の手順にしたがって、List Creator にフォントの登録を行います。

= 操作手順 =

1）帳票設計時に使用したフォントを、List Creator が動作しているコンピュータに追加します。
フォントの追加については、オペレーティングシステムのヘルプを参照してください。

備考

- あらかじめ、外字エディタや Charset Manager などを使用して、Windows システム上に外字を登録してください。登録するフォントに外字がリンクされていない場合、エラーとなります。

2）コンピュータにログオンします。
Administrators 権限を持つユーザで、コンピュータにログオンしてください。

3）［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［環境設定］－［OWF ファイル フォント登録］を選択します。
⇒ OWF ファイル フォント登録画面が表示されます。

4）「フォント一覧」で登録するフォントを選択し、［登録→］ボタンをクリックします。

注意

- フォント一覧には、外字がリンクされない欧文フォントも表示されます。フォントの登録を行っても、欧文フォントは登録されません。

備考

- 一覧表示されている該当フォント名の部分をダブルクリックして表示されるフォント情報画面で、フォントに関する詳しい情報を確認できます。

⇒「外字エンベッドフォント一覧」に選択したフォントが表示されます。

備考

- 「外字エンベッドフォント一覧」の「フォント名」に表示されているフォントが、List Creator に登録されます。

5）［閉じる］ボタンをクリックします。
⇒ List Creator にフォントが登録されます。

6.3.1.2 フォントの登録を抹消するには

以下の手順にしたがって、List Creator に登録されているフォントを抹消できます。

= 操作手順 =

1）コンピュータにログオンします。
Administrators 権限を持つユーザで、コンピュータにログオンしてください。

2）［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［環境設定］－［OWF ファイル フォント登録］を選択します。
⇒ OWF ファイル フォント登録画面が表示されます。
3）「外字エンベッドフォント一覧」でフォントの登録を抹消するフォントを選択し、［←削除］ボタンをクリックします。
4）［閉じる］ボタンをクリックします。
⇒ List Creator に登録されているフォントの登録が抹消されます。

6.3.1.3 OWF ファイルフォント登録画面

List Creator にフォントを登録する画面です。

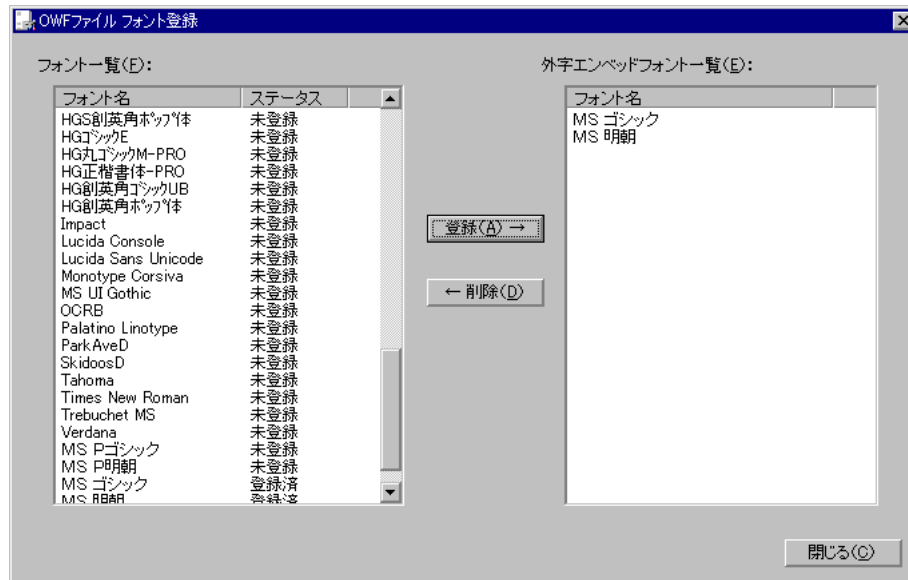



図 6.1 OWF ファイル フォント登録画面

フォント一覧

フォント名

現在システムにインストールされているフォントで、OWF ファイルで使用することが可能なフォント名の一覧が表示されます。

ステータス

それぞれのフォント名に対して、List Creator へのフォントの登録状態に関するステータスが表示されます。

登録済	: List Creator へのフォントの登録が完了しているフォントです。
未登録	: List Creator へのフォントの登録が行われていないか、正しく登録が行われていません。
要再登録	: List Creator へのフォントの登録後に、フォントファイルの置換えや外字フォントファイルの作成が行われた可能性があります。フォントを選択し、再度フォントの登録を行ってください。

外字エンベッドフォント一覧

フォント名

List Creator に登録するフォント名の一覧が表示されます。

6.3.1.4　フォント情報画面

OWF ファイル フォント登録画面の一覧表示されている該当フォント名の部分をダブルクリックすると、フォント情報画面が表示されます。
フォントに関する詳しい情報が表示されます。

図 6.2　フォント情報画面

フォント名

該当フォントのフォント名が表示されます。

フォントファイル名

該当フォントのフォントファイル（TTF ファイルまたは TTC ファイル）へのフルパスが表示されます。

外字フォントファイル名

リンクされている外字フォントファイル（TTE ファイル）へのフルパスが表示されます。

6.3.2　フォントの登録および登録の抹消（【UNIX 系 OS 版】の場合）

【UNIX 系 OS 版】の場合は、List Creator の OWF ファイルへの外字エンベッドコマンドでフォントの登録および登録の抹消を行います。

備考

- List Creator の OWF ファイルへの外字エンベッドコマンドは、システム管理者権限でのみ実行できます。

- prfntent コマンド（フォントを登録する）
- prfntlst コマンド（フォントの登録状態を表示する）
- prfntrm コマンド（フォントの登録を抹消する）

List Creator の OWF ファイルへの外字エンベッドコマンドは、以下に格納されています。

格納場所	/opt/FJSVoastw/bin

環境変数 PATH には、コマンドの格納先フォルダは追加されません。以下のいずれかの方法でコマンドを実行してください。
- コマンドをフルパスまたは相対パスで指定してコマンドを実行する
- 環境変数 PATH にコマンドの格納先フォルダを追加してコマンドを実行する

環境変数 PATH にコマンドの格納先フォルダを追加する方法については、以下を参照してください。
⇒ “A.2.3.1　OWF ファイル生成に関する環境設定コマンド実行時に設定する環境変数 ”

注意

- OWF ファイルを生成するアプリケーションが実行されていないことを確認してください。

6.3.2.1　フォントを登録するには

以下の手順にしたがって、List Creator にフォントの登録を行います。

＝操作手順＝

1）帳票設計時に使用したフォントファイル（**.ttf、**.ttc、**.tte）を、List Creator が動作している環境（アプリケーションサーバまたは Web サーバ）にファイル転送します。

2）コンピュータにログオンします。
システム管理者権限で、コンピュータにログオンしてください。

3）フォントを登録するには、prfntent コマンドを実行します。
prfntent コマンドについては、以下を参照してください。
⇒ “A.2.3.2　prfntent コマンド ”

6.3.2.2　フォントの登録状態を表示するには

以下の手順にしたがって、List Creator へのフォントの登録状態を表示できます。

＝操作手順＝

1）コンピュータにログオンします。
フォントの登録状態を表示するには、prfntlst コマンドを実行します。
画面上には、フォントごとにフォントの登録状態を、以下の形式で表示します。

```
フォント番号 : フォント名 : フォントファイル名 : 外字フォントファイル名 : TTCファイル内の書体の番号
```

prfntlst コマンドについては、以下を参照してください。
⇒ “A.2.3.3　prfntlst コマンド ”

6.3.2.3　フォントの登録を抹消するには

以下の手順にしたがって、List Creator に登録されているフォントを抹消できます。

＝操作手順＝

1）コンピュータにログオンします。
システム管理者権限で、コンピュータにログオンしてください。

2）フォントの登録を抹消するには、prfntrm コマンドを実行します。
prfntrm コマンドについては、以下を参照してください。
⇒ “A.2.3.4　prfntrm コマンド ”

第 7 章
帳票資源の準備と配置

ここでは、List Creator で帳票を出力する場合に使用する帳票資源の準備と配置、および情報ファイルに関する詳細について説明しています。

備考

- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合の資源の準備と配置については、オンラインマニュアル “COBOL アプリケーション連携機能編 ” を参照してください。

7.1 準備する資源

帳票を出力するには、帳票出力に必要な資源を準備する必要があります。
List Creator が帳票出力する場合に使用する資源には、以下の種類があります。

表 7.1 準備する資源

帳票資源		準備の有無	参照先
ユーザアプリケーション		必須（必ず準備が必要）	- オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド” - オンラインマニュアル“帳票 Web サービス機能編”
帳票定義情報 (*1)		必須（必ず準備が必要）	オンラインマニュアル“帳票設計編”またはデザイナヘルプ
データファイル		入力データにデータファイルを使用する場合のみ	
情報ファイル	置換フォント情報ファイル	それぞれのファイルを使用する場合のみ	⇒“7.5 情報ファイル”
	バーコード補正情報ファイル		
	帳票出力情報ファイル		
	電子帳票情報ファイル		
	電子保存時の FAX 受信者情報ファイル		
	FAX 送信時の FAX 受信者情報ファイル		
	PDF 文書情報ファイル		
	PDF メール配信情報ファイル		
	Excel 文書情報ファイル		
	ECM 情報ファイル		
その他	メディアデータファイル	それぞれのファイルを使用する場合のみ	“8.6 メディアデータのサポート範囲”
	PDF ファイルに添付するファイル		オンラインマニュアル“PDF 変換機能編”
	PDF メール配信時のメールに添付するファイル		
	PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル		
	- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの） - XBRL インスタンス	XBRL データ対応機能を使用する場合のみ	オンラインマニュアル“XBRL データ対応機能編”
	ECM 連携ファイル	ECM 連携機能を使用する場合のみ	“第 15 章 ECM 連携機能”
	組合せフォーム定義ファイル	組合せフォーム出力する場合のみ	オンラインマニュアル“帳票設計編”

*1：帳票定義情報は、以下のファイルから構成されています。

- 帳票名 .pmd
- 帳票名 .ovd（オーバレイを使用する場合のみ）
- 帳票名 .psf
- 帳票名 .bip
- 帳票名 .dse（Navigator 連携機能 /XBRL データ対応機能を使用する場合のみ）

List Creator では、使用する帳票定義情報や機能、および出力方法などによって準備する資源が異なります。使用しない機能やファイルは準備する必要はありません。
また、準備した資源は、運用形態によって配置する場所が異なります。

備考

- 配置先の動作オペレーティングシステムや使用する機能やインタフェースの種類によっては、扱える文字コード系が異なるため、帳票資源の準備と配置の際は、文字コード系について留意する必要があります。

以降では、List Creator の動作オペレーティングシステムと運用形態ごとに、帳票資源の準備と配置手順について説明します。

7.2　帳票資源の配置手順（【Windows 版】の場合）

ここでは、アプリケーションサーバが Windows の場合の帳票資源の配置について説明します。

ここでは、資源を配置するコンピュータを「配置先コンピュータ」といいます。

注意

- 帳票定義情報やメディアデータファイルなどのテキストファイル以外の資源を FTP などのファイル転送を利用して配置先のコンピュータに配置する場合、必ずバイナリモードで転送してください。その他のモードで転送した場合、帳票の出力に失敗することがあります。
- UNIX 系 OS に配置した帳票定義情報は、出力することはできますが UNIX 系 OS 上で更新することはできません。List Creator デザイナ（Windows 上）で作成した帳票定義情報（文字コード変換する前のもの）は、UNIX 系 OS 上に配置した後も、Windows 上から削除せずに保管しておいてください。
- 帳票資源の配置先（ファイルの格納先）に指定できる範囲については、運用形態によって異なります。詳細は、以下を参照してください。
  ⇒ “7.6　帳票資源、および帳票出力先の指定について ”

7.2.1　スタンドアロン型

スタンドアロン型とは、アプリケーションサーバと帳票出力サーバを同一コンピュータで運用する形態です。設計した帳票定義情報や帳票の出力時に必要な帳票資源を配置先コンピュータに配置します。ここでは、配置先コンピュータは、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ」になります。

以下に、スタンドアロン型（【Windows 版】の場合）の資源の配置方法について説明します。

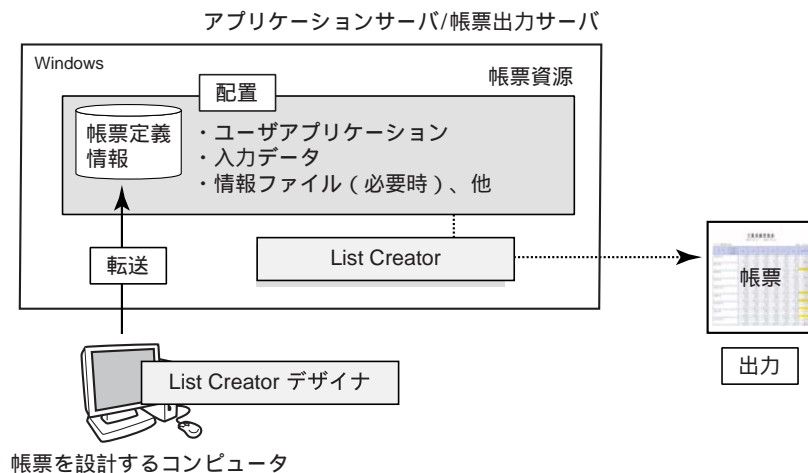



図 7.1　資源の配置方法（スタンドアロン型（【Windows 版】の場合））

ここでは、資源の配置について、以下の順に説明します。

- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。

なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順

以下に、資源を「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ」に配置する手順を示します。

帳票資源の実行環境の文字コード系の設定については、以下を参照してください。

⇒ “ 表 16.29　帳票資源の文字コード系（スタンドアロン型（Windows 上））”

= 操作手順 =

帳票格納ディレクトリを作成する

1）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

2）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバ / 帳票出力サーバに配置します。

3）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。
なお、同一コンピュータで帳票の設計と出力（運用）を行う場合、帳票定義情報を再配置する作業は不要です。

4）データファイルを配置する場合は、配置先コンピュータに配置します。

5）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- ECM 連携ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル（*1）

*1：同一コンピュータで帳票の設計と出力（運用）を行う場合、組合せフォーム定義ファイルを再配置する作業は不要です。

帳票をテスト印刷する

6）帳票を印刷する場合は、実際に使用するプリンタを使用して、prtest コマンドで帳票様式のレイアウトをテスト印刷し、出力結果を確認します。コマンドの詳細は、以下を参照してください。
⇒“A.1.2　テストコマンド（prtest）”

備考

- 組合せフォーム出力する場合は、テスト印刷で出力結果を確認することはできません。帳票設計時に組合せフォーム一覧からプレビューし確認するか、または、prprint コマンドなどを使用して出力結果を確認してください。

7.2.2 リモート帳票出力型

リモート帳票出力型とは、アプリケーションサーバと帳票出力サーバを異なるコンピュータで運用する形態です。設計した帳票定義情報や帳票の出力時に必要な資源を、配置先コンピュータに配置します。

ここでは、配置先コンピュータは「アプリケーションサーバ」または「帳票出力サーバ」になります。

以下に、リモート帳票出力型（【Windows 版】の場合）の資源の配置方法について説明します。

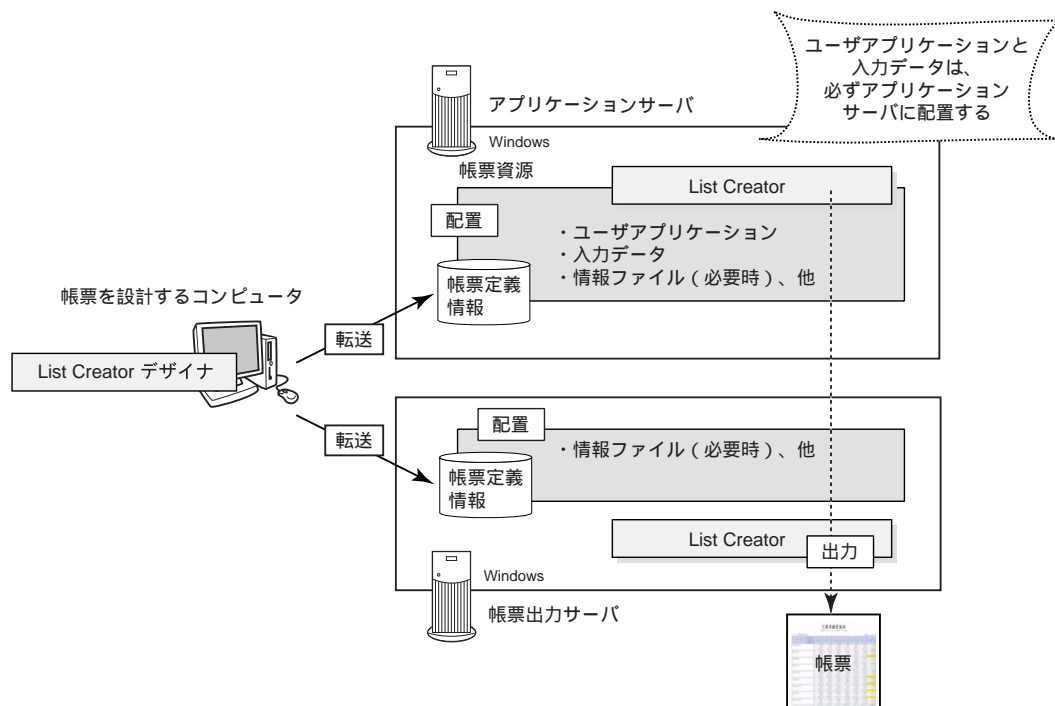



図 7.2 資源の配置方法（リモート帳票出力型（【Windows 版】の場合））

ここでは、アプリケーションサーバおよび帳票出力サーバが Windows の場合の資源の配置について、以下の順に説明します。

- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順
- 資源の扱い

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。
なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。
帳票資源の文字コード系の設定については、以下を参照してください。
⇒ “ 表 16.41　帳票資源の文字コードの設定（Windows から Windows へのリモート帳票出力型）”

●帳票資源の配置手順

以下に、資源を「アプリケーションサーバ」または「帳票出力サーバ」に配置する手順を示します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、帳票出力サーバに事前配置することをお勧めします。

注意

- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
  - ・PDF メール配信時にメールに添付するファイル
  - ・PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL データ対応機能および Navigator 連携機能使用時は、帳票定義情報をアプリケーションサーバに配置してください。

備考

- 帳票定義情報を帳票出力サーバに配置する場合は、実際に使用するプリンタで帳票様式のレイアウトをテスト印刷することができます。
  テスト印刷を行う場合は、資源を帳票出力サーバに配置してください。
  テスト印刷の詳細については、以下を参照してください。
  ⇒ “A.1.2　テストコマンド（prtest）”

帳票格納ディレクトリを作成する

2）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

3）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

4）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。

5）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置します。

6）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- ECM 連携ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。

●資源の扱い

ここでは、配置後の帳票資源の扱いについて、以下の場合に分けて示します。
- 帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）
- 帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票資源を転送しない場合）

帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）

指定された転送時の条件にしたがって処理されます。
資源の種類によって以下のように扱われます。

帳票定義情報

転送時の条件として、以下のいずれかを指定できます。
- 毎回必ず転送する
  帳票定義情報が毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。
- 帳票定義情報の更新日付で転送する / しないを判断する
  アプリケーションサーバに配置した帳票定義情報と帳票出力サーバ上に配置済みの帳票定義情報の更新日付の比較を行い、更新されている場合のみ、帳票出力サーバに転送されます。
  帳票定義情報が更新されていない場合は、帳票出力サーバ上に配置済みの帳票定義情報を使用して、帳票が生成・出力されます。

その他の資源

転送時の条件の指定はできません。

転送対象の資源は、毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。

帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票資源を転送しない場合）

資源は転送されないため、帳票出力サーバ上に配置された資源を使用して、帳票が生成・出力されます。

また、転送対象の資源は、帳票出力インタフェース（コマンドの場合はオプションなど）の指定により、データを圧縮して転送することができます。

なお、資源をアプリケーションサーバ側から帳票出力サーバに転送した場合は、帳票出力サーバ側の環境設定で指定された List Creator の作業用ディレクトリ配下に格納されます。

転送された資源は、帳票の出力後、帳票定義情報のみ保存されます。帳票定義情報以外の転送された資源は、帳票の出力後に削除されます。

7.2.3　コネクタ連携型

コネクタ連携型とは、帳票の生成処理を行うアプリケーションサーバと、帳票を出力する帳票出力サーバを別々のコンピュータに配置して、処理の負荷分散を行う形態です。
設計した帳票定義情報や帳票の出力時に必要な資源を、配置先コンピュータに配置します。
ここでは、配置先コンピュータは「アプリケーションサーバ」または「帳票出力サーバ」になります。
以下に、コネクタ連携型（アプリケーションサーバが Windows の場合）の資源の配置方法について説明します。

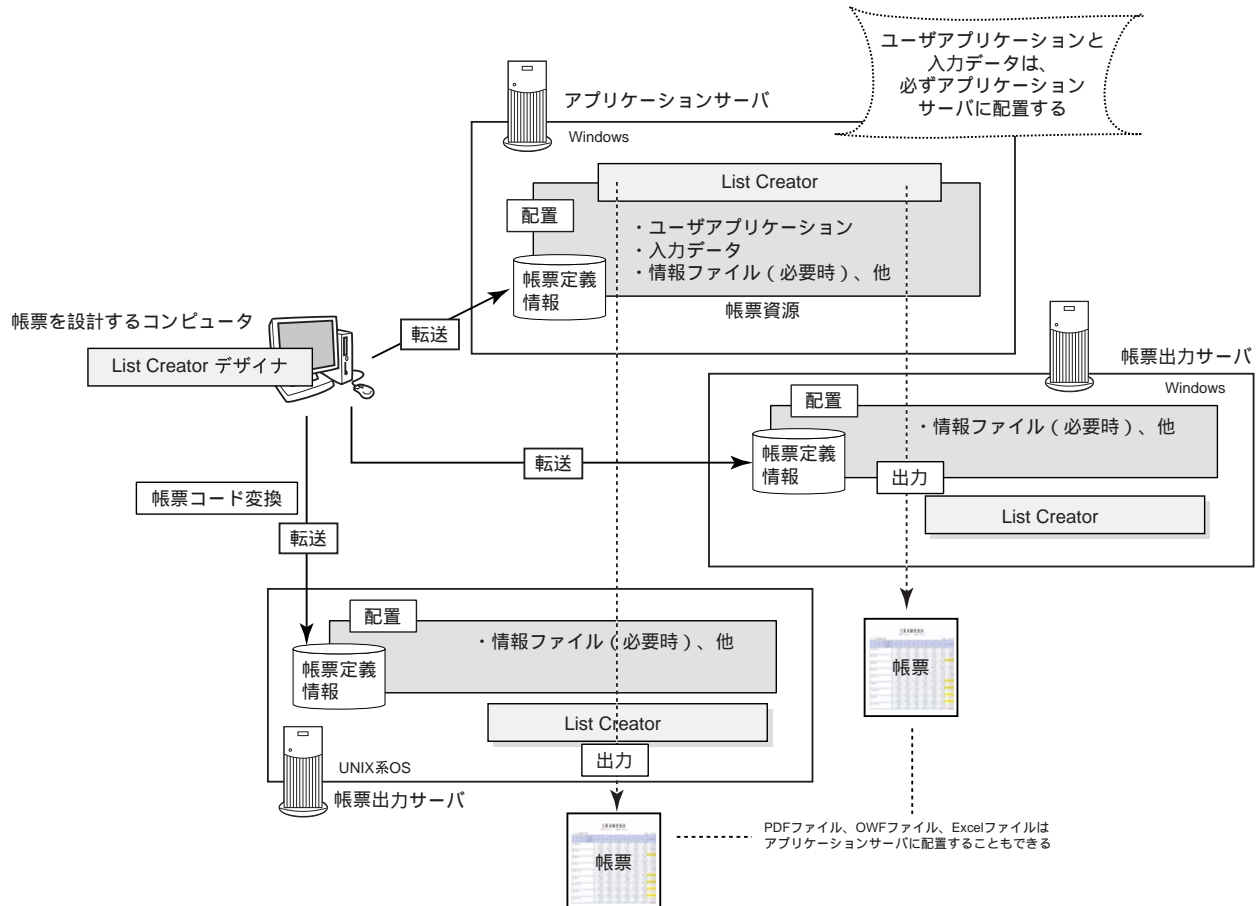



図 7.3　資源の配置方法（コネクタ連携型（【Windows 版】の場合））

以下に、帳票出力サーバのオペレーティングシステムの種類ごとに説明します。

7.2.3.1　帳票出力サーバが Windows の場合

ここでは、アプリケーションサーバおよび帳票出力サーバが Windows の場合の資源の配置について、以下の順に説明します。

- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順
- 資源の扱い

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。
なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。
帳票資源の文字コード系の設定については、以下を参照してください。
⇒ “ 表 16.32　帳票資源の文字コードの設定（Windows から Windows へのコネクタ連携型）”

●帳票資源の配置手順

以下に、資源を「アプリケーションサーバ」または「帳票出力サーバ」に配置する手順を示します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）どの資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、資源をアプリケーションサーバ側から転送しないで、帳票出力サーバに事前配置することができます。

注意

- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
  - ・ PDF メール配信時にメールに添付するファイル
  - ・ PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL データ対応 /Navigator 連携機能使用時は、帳票定義情報をアプリケーションサーバに配置してください。

備考

- 帳票定義情報を帳票出力サーバに配置する場合は、実際に使用するプリンタで帳票様式のレイアウトをテスト印刷することができます。
テスト印刷を行う場合は、資源を帳票出力サーバに配置してください。
テスト印刷の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “A.1.2　テストコマンド（prtest）”

帳票格納ディレクトリを作成する

2）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

3）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

4）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置（転送）します。

5）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置（転送）します。

6）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置（転送）します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- ECM 連携ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。
アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。
⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

●資源の扱い

ここでは、配置後の帳票資源の扱いについて示します。

帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）

資源は毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。

帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票資源を転送しない場合）

資源は転送されないため、帳票出力サーバ上に配置された資源を使用して、帳票が生成・出力されます。

また、転送対象の資源は、帳票出力インタフェース（コマンドの場合はオプションなど）の指定により、データを圧縮して転送することができます。

なお、資源をアプリケーションサーバ側から帳票出力サーバに転送した場合は、コネクタ連携時の作業用ディレクトリ配下に格納されます。

コネクタ連携時の作業用ディレクトリの詳細については、以下を参照してください。

⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

備考

- 転送された資源は、帳票の出力後、作業用ディレクトリから削除されます。

7.2.3.2　帳票出力サーバが Solaris の場合

ここでは、アプリケーションサーバが Windows、帳票出力サーバが Solaris の場合の資源の配置について、以下の順に説明します。

- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順（アプリケーションサーバに帳票定義情報を配置する場合）
- 帳票資源の配置手順（帳票出力サーバに帳票定義情報を配置する場合）
- 資源の扱い

注意

- プリンタに FM 出力または FNP 出力する場合は、必ず帳票出力サーバ（Solaris）上に帳票定義情報を配置してください。

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ”を参照してください。

なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順（アプリケーションサーバに帳票定義情報を配置する場合）

帳票定義情報をアプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合の配置手順について説明します。

＝操作手順＝

帳票資源の配置場所を決める

1）帳票定義情報を除く帳票資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、資源をアプリケーションサーバ側から転送しないで、帳票出力サーバに事前配置することができます。

注意

- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
  ・ PDF メール配信時にメールに添付するファイル
  ・ PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL データ対応 /Navigator 連携機能使用時は、帳票定義情報をアプリケーションサーバに配置してください。

帳票資源の文字コード系を統一する

2）ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。帳票資源の文字コード系は、以下の表にしたがって統一してください。
⇒ “ 表 16.33　帳票資源の文字コードの設定（Windows から Solaris へのコネクタ連携型）”

帳票格納ディレクトリを作成する

3）配置先コンピュータに帳票を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

4）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

5）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置（転送）します。

6）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置（転送）します。

7）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置（転送）します。

- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- **メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。**
  ⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

●帳票資源の配置手順（帳票出力サーバに帳票定義情報を配置する場合）

帳票定義情報を帳票出力サーバ（Solaris）上に配置する場合の配置手順について説明します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）帳票定義情報を除く帳票資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、資源をアプリケーションサーバ側から転送しないで、帳票出力サーバに事前配置することができます。

帳票資源の文字コード系を統一する

2）帳票定義情報をアプリケーションサーバ（Solaris）上に配置する場合、入力データに合わせて帳票定義情報の文字コード系を変換します。
以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換してください。
⇒ “ 表 16.33　帳票資源の文字コードの設定（Windows から Solaris へのコネクタ連携型）”
帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

3）同様に、ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

4）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

注意

- **帳票定義情報を Solaris に配置する場合、オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）だけは、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置する必要があります。**

帳票資源を配置する

5）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

6）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置（転送）します。
対象となる資源を次に示します。オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）は、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置します。
7）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置（転送）します。
8）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置（転送）します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- **メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。**
アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。
⇒ "11.1　環境構築時、運用時の注意事項 "

●資源の扱い

ここでは、配置後の帳票資源の扱いについて示します。

帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）

資源は毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。

帳票資源を帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票を転送しない場合）

資源は転送されないため、帳票出力サーバ上に配置された資源を使用して、帳票が生成・出力されます。

また、転送対象の資源は、帳票出力インタフェース（コマンドの場合はオプションなど）の指定により、データを圧縮して転送することができます。
なお、資源をアプリケーションサーバ側から帳票出力サーバに転送した場合は、コネクタ連携時の作業用ディレクトリ配下に格納されます。
コネクタ連携時の作業ディレクトリの詳細については、以下を参照してください。
⇒ "11.1　環境構築時、運用時の注意事項 "

備考

- **転送された資源は、帳票の出力後、作業用ディレクトリから削除されます。**

7.2.3.3　帳票出力サーバが Linux の場合

ここでは、アプリケーションサーバが Windows、帳票出力サーバが Linux の場合の資源の配置について、以下の順に説明します。
- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順（アプリケーションサーバに帳票定義情報を配置する場合）
- 帳票資源の配置手順（帳票出力サーバに帳票定義情報を配置する場合）
- 資源の扱い

注意

- **プリンタに FNP 出力する場合は、必ず帳票出力サーバ（Linux）上に帳票定義情報を配置してください。**

●準備する資源

準備する資源は、" 表 7.1　準備する資源 " を参照してください。
なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順（アプリケーションサーバに帳票定義情報を配置する場合）

帳票定義情報をアプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合の配置手順について説明します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）帳票定義情報を除く帳票資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、資源をアプリケーションサーバ側から転送しないで、帳票出力サーバに事前配置することができます。

帳票資源の文字コード系を統一する

2）ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を以下の表にしたがって統一します。
⇒“ 表 16.34　帳票資源の文字コードの設定（Windows から Linux へのコネクタ連携型）”

帳票格納ディレクトリを作成する

3）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

4）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。
5）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置（転送）します。
6）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置（転送）します。
7）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置（転送）します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- **メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。
アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。**
⇒“11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

●帳票資源の配置手順（帳票出力サーバに帳票定義情報を配置する場合）

帳票定義情報を帳票出力サーバ（Linux）上に配置する場合の配置手順について説明します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）どの資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、資源をアプリケーションサーバ側から転送しないで、帳票出力サーバに事前配置することができます。

帳票資源の文字コード系を統一する

2）帳票定義情報を帳票出力サーバ（Linux）上に配置する場合、以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換してください。
⇒“ 表 16.34　帳票資源の文字コードの設定（Windows から Linux へのコネクタ連携型）”

帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

3）同様に、ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

4）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

注意

- 帳票定義情報を Linux に配置する場合、オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）だけは、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置する必要があります。

帳票資源を配置する

5）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。
6）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置（転送）します。
オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）は、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置します。
7）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置（転送）します。
8）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置（転送）します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。
アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。
⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

●資源の扱い

ここでは、配置後の帳票資源の扱いについて示します。

帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）

資源は毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。

帳票資源を帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票を転送しない場合）

資源は転送されないため、帳票出力サーバ上に配置された資源を使用して、帳票が生成・出力されます。

また、転送対象の資源は、帳票出力インタフェース（コマンドの場合はオプションなど）の指定により、データを圧縮して転送することができます。
なお、資源をアプリケーションサーバ側から帳票出力サーバに転送した場合は、コネクタ連携時の作業用ディレクトリ配下に格納されます。
コネクタ連携時の作業用ディレクトリの詳細については、以下を参照してください。
⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

備考

- 転送された資源は、帳票の出力後、作業用ディレクトリから削除されます。

7.2.4　Web 手元印刷型

Web 手元印刷型には以下のパターンがあります。

- PDF データ出力型
- Web アプリケーション連携型

以下に、それぞれの場合に分けて説明します。

7.2.4.1　PDF データ出力型

PDF データ出力型とは、アプリケーションサーバで PDF ファイルを作成し、Adobe Reader を利用して Web クライアントの Web ブラウザ上で帳票をプレビューまたは手元印刷する形態です。

設計した帳票定義情報や帳票の出力時に必要な資源を、配置先コンピュータに配置します。

ここでは、配置先コンピュータは、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」になります。アプリケーションサーバや Web サーバを別サーバで運用することもできます（コネクタ連携型およびリモート帳票出力型と組み合せた運用もできます)。

ここでは、PDF データ出力型（【Windows 版】の場合）で、配置先コンピュータとして、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」が同一サーバの場合の資源の配置方法について説明します。

アプリケーションサーバ/帳票出力サーバ/Webサーバ
Windows
帳票資源
配置
帳票定義情報
・ユーザアプリケーション
・入力データ
・情報ファイル（必要時）、他
転送
List Creator
出力
Adobe Reader
List Creator デザイナ
プレビュー・印刷
帳票
帳票を設計するコンピュータ
Windows
Webクライアント

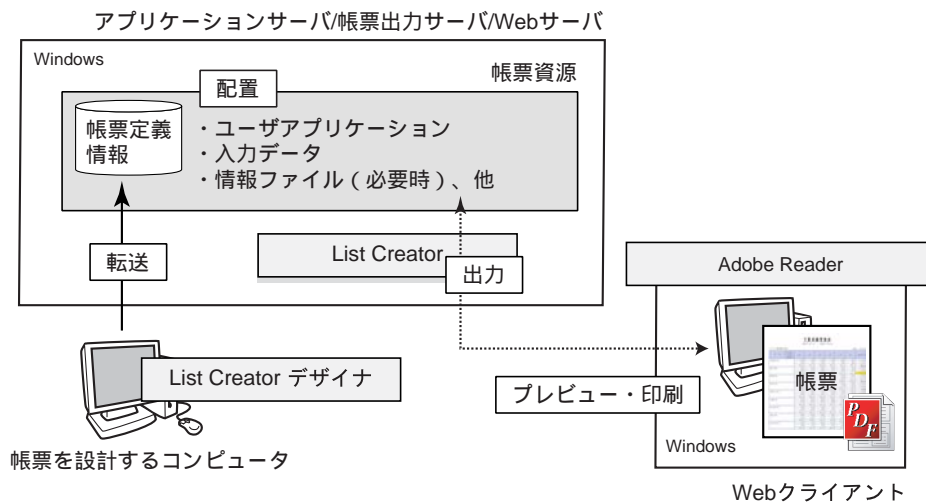



図 7.4　資源の配置方法（PDF データ出力型（【Windows 版】の場合））

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。
なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。
帳票資源の文字コード系の設定については、以下を参照してください。
⇒ “ 表 16.46　帳票資源の文字コードの設定（Web 手元印刷型（Windows 上））”

●帳票資源の配置手順

以下に、資源を「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」に配置する手順を示します。

= 操作手順 =

帳票格納ディレクトリを作成する

1）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

2）ユーザアプリケーションを「アプリケーションサーバ /Web サーバ」に配置します。

3）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。

4）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置します。

5）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

7.2.4.2 Web アプリケーション連携型

Web アプリケーション連携型とは、アプリケーションサーバで OWF ファイルを生成し、Web プラグインを利用して、Web ブラウザ上で帳票をプレビューまたは手元印刷する形態です。

ここでは、配置先コンピュータは、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」になります。アプリケーションサーバや Web サーバを別サーバで運用することもできます（コネクタ連携型およびリモート帳票出力型と組み合せた運用もできます）。

ここでは、Web アプリケーション連携型（【Windows 版】の場合）で、配置先コンピュータとして、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」が同一サーバの場合の資源の配置方法について説明します。

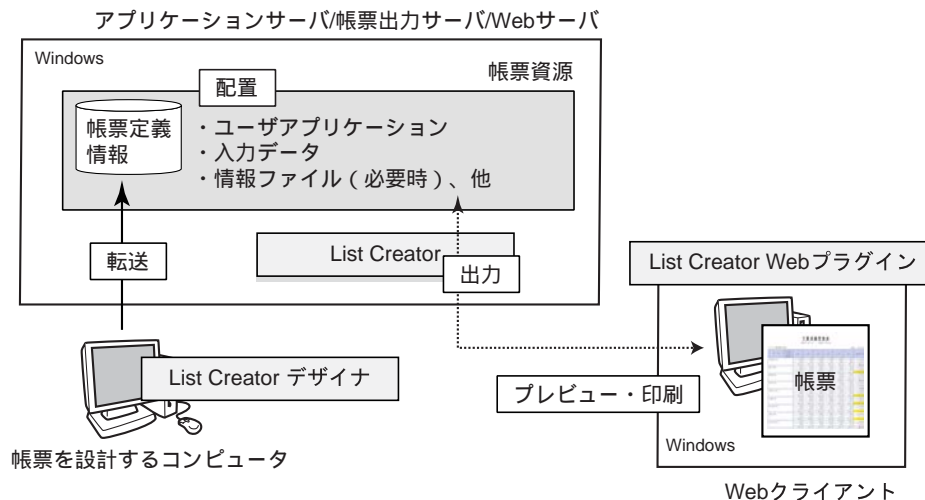



図 7.5 資源の配置方法（Web アプリケーション連携型（【Windows 版】の場合））

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。

なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

帳票資源の文字コード系の設定については、以下を参照してください。

⇒ “ 表 16.46　帳票資源の文字コードの設定（Web 手元印刷型（Windows 上））”

●帳票資源の配置手順

以下に、資源を「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」に配置する手順を示します。

＝操作手順＝

帳票格納ディレクトリを作成する

1）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

2）ユーザアプリケーションを「アプリケーションサーバ /Web サーバ」に配置します。
3）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。
4）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置します。
5）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。

- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

7.2.5　帳票 Web サービス型

帳票 Web サービスインタフェースを使って、帳票を出力する形態です。

帳票 Web サービス型の配置手順については、オンラインマニュアル“帳票 Web サービス機能編”を参照してください。

7.2.6　データ到着監視機能使用時

データ到着監視機能とは、FTP などのファイル転送により、帳票出力サーバの特定のディレクトリにデータファイルが到着するのを監視し、データファイルが到着したタイミングで自動的に帳票を出力する機能です。

設計した帳票定義情報や帳票の出力時に必要な帳票資源を配置先コンピュータに配置します。

ここでは、配置先コンピュータは、「帳票出力サーバ」になります。

以下に、データ到着監視機能使用時の資源の配置方法について説明します。

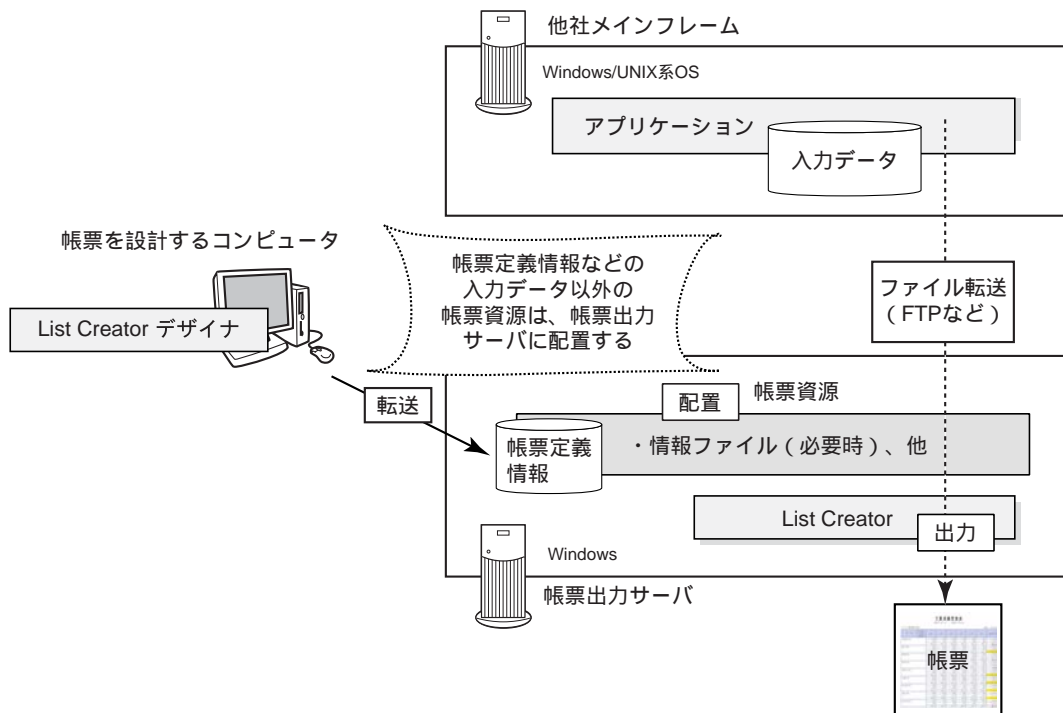



図 7.6　資源の配置方法（データ到着監視機能使用時）

●準備する資源

準備する資源は、“表 7.1　準備する資源”を参照してください。

なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

帳票資源の文字コード系の設定については、以下を参照してください。

⇒“表 16.29　帳票資源の文字コード系（スタンドアロン型（Windows 上））”

●帳票資源の配置手順

以下に、資源を「帳票出力サーバ」に配置する手順を示します。

= 操作手順 =

帳票格納ディレクトリを作成する

1）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

2）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

3）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。
なお、同一コンピュータで帳票の設計と出力（運用）を行う場合、帳票定義情報を再配置する作業は不要です。

4）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置します。

5）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- ECM 連携ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

帳票をテスト印刷する

6）帳票を印刷する場合は、実際に使用するプリンタを使用して、prtest コマンドで帳票様式のレイアウトをテスト印刷し、出力結果を確認します。
詳細については、以下を参照してください。
⇒ “A.1.2　テストコマンド（prtest）”

備考

- 組合せフォーム出力する場合は、テスト印刷で出力結果を確認することはできません。
帳票設計時に組合せフォーム一覧からプレビューし確認するか、または、prprint コマンドなどを使用して出力結果を確認してください。

7.3 帳票資源の配置手順（【UNIX 系 OS 版】の場合）

ここでは、アプリケーションサーバが UNIX 系 OS の場合の帳票資源の配置について説明します。

ここでは、資源を配置するコンピュータを「配置先コンピュータ」といいます。

注意

- 帳票定義情報やメディアデータファイルなどのテキストファイル以外の資源を FTP などのファイル転送を利用して配置先のコンピュータに配置する場合、必ずバイナリモードで転送してください。その他のモードで転送した場合、帳票の出力に失敗することがあります。
- UNIX 系 OS に配置した帳票定義情報は、出力することはできますが UNIX 系 OS 上で更新することはできません。List Creator デザイナ（Windows 上）で作成した帳票定義情報（文字コード変換する前のもの）は、UNIX 系 OS 上に配置した後も、Windows 上から削除せずに保管しておいてください。
- 帳票資源の配置先（ファイルの格納先）に指定できる範囲については、運用形態によって異なります。詳細は、以下を参照してください。
  ⇒ “7.6　帳票資源、および帳票出力先の指定について ”

7.3.1 スタンドアロン型

スタンドアロン型とは、アプリケーションサーバと帳票出力サーバを同一コンピュータで運用する形態です。設計した帳票定義情報や帳票の出力時に必要な帳票資源を配置先コンピュータに配置します。ここでは、配置先コンピュータは、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ」になります。

以下に、スタンドアロン型（【UNIX 系 OS 版】の場合）の資源の配置方法について説明します。

アプリケーションサーバ/帳票出力サーバ
UNIX系OS
帳票資源
配置
帳票定義情報
・ユーザアプリケーション
・入力データ
・情報ファイル（必要時）、他
転送
List Creator
帳票
出力
帳票コード変換
List Creator デザイナ
帳票を設計するコンピュータ

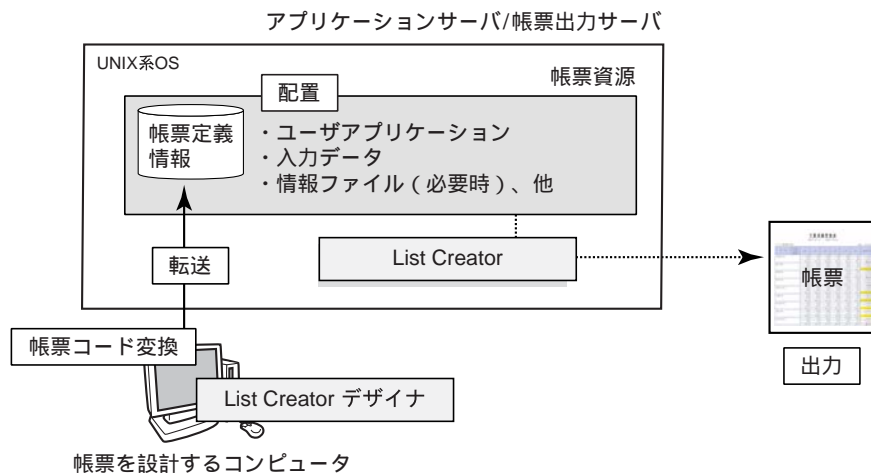



図 7.7　帳票資源の配置方法（スタンドアロン型（【UNIX 系 OS 版】の場合））

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。

なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順

以下に、資源を「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ」に配置する手順を示します。

＝操作手順＝

帳票資源の文字コード系を統一する

1）入力データに合わせて帳票定義情報の文字コード系を変換します。
以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で、List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換してください。
⇒ “ 表 16.30　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（スタンドアロン型（Solaris 上））”
⇒ “ 表 16.31　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（スタンドアロン型（Linux 上））”
帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

2）同様に、ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

3）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

注意

- **帳票定義情報を UNIX 系 OS へ配置する場合、オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）だけは、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置してください。**

帳票資源を配置する

4）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバ / 帳票出力サーバに配置します。

5）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。
オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）は、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置します。

6）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置します。

7）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- 組合せフォーム定義ファイル

帳票をテスト印刷する

8）帳票を印刷する場合は、実際に使用するプリンタを使用して、prtest コマンドで帳票様式のレイアウトをテスト印刷し、出力結果を確認します。
詳細は、以下を参照してください。
⇒ “A.2.1.2　prtest コマンド ”

備考

- **組合せフォーム出力する場合は、テスト印刷で出力結果を確認することはできません。**
帳票設計時に組合せフォーム一覧からプレビューし確認するか、または、prprint コマンドなどを使用して出力結果を確認してください。

7.3.2　リモート帳票出力型

リモート帳票出力型とは、アプリケーションサーバと帳票出力サーバを異なるコンピュータで運用する形態です。設計した帳票定義情報や帳票の出力時に必要な資源を、配置先コンピュータに配置します。

ここでは、配置先コンピュータは「アプリケーションサーバ」または「帳票出力サーバ」になります。

以下に、リモート帳票出力型（アプリケーションサーバが UNIX 系 OS の場合）の資源の配置方法について説明します。

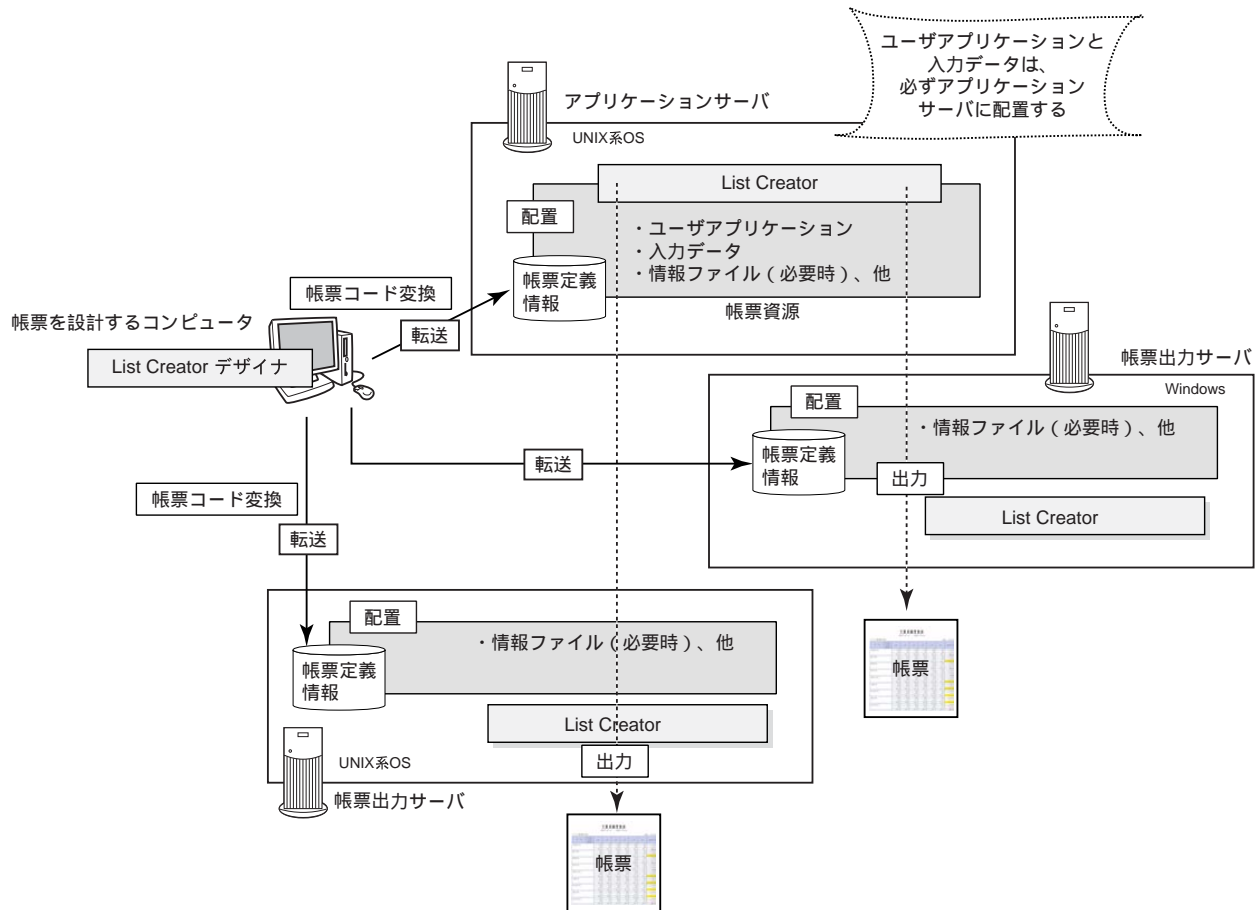



図 7.8　帳票資源の配置方法（リモート帳票出力型（アプリケーションサーバが UNIX 系 OS の場合））

以下に、帳票出力サーバのオペレーティングシステムの種類ごとに説明します。

7.3.2.1　帳票出力サーバが Windows の場合

ここでは、アプリケーションサーバが UNIX 系 OS、帳票出力サーバが Windows の場合の資源の配置について、以下の順に説明します。

- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順（アプリケーションサーバに帳票定義情報を配置する場合）
- 帳票資源の配置手順（帳票出力サーバに帳票定義情報を配置する場合）
- 資源の扱い

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。

なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順（帳票定義情報をアプリケーションサーバ上に配置する場合）

以下に、帳票定義情報をアプリケーションサーバ上に配置する場合の資源の配置手順を示します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）帳票定義情報を除く資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、帳票出力サーバに事前配置することをお勧めします。

注意

- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
  - ・ PDF メール配信時にメールに添付するファイル
  - ・ PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL データ対応機能および Navigator 連携機能使用時は、帳票定義情報をアプリケーションサーバに配置してください。

備考

- 帳票定義情報を帳票出力サーバに配置する場合は、実際に使用するプリンタで帳票様式のレイアウトをテスト印刷することができます。
テスト印刷を行う場合は、資源を帳票出力サーバに配置してください。
テスト印刷の詳細については、以下を参照してください。
⇒ "A.2.1　テストコマンド"

帳票資源の文字コード系を統一する

2）帳票定義情報をアプリケーションサーバ（UNIX 系 OS）上に配置する場合、入力データに合わせて帳票定義情報の文字コード系を変換します。
以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換してください。
- ・アプリケーションサーバが Solaris の場合
⇒ "表 16.42　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Solaris から Windows へのリモート帳票出力型）"
- ・アプリケーションサーバが Linux の場合
⇒ "表 16.44　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Linux から Windows へのリモート帳票出力型）"

帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ "7.4　帳票コード変換"

3）同様に、ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

4）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

注意

- 帳票定義情報を UNIX 系 OS に配置する場合、オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）だけは、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置してください。

帳票資源を配置する

5）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

6）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。
オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）は、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置します。

7）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置します。

8）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- ECM 連携ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。

●帳票資源の配置手順（帳票定義情報を帳票出力サーバ上に配置する場合）

以下に、帳票定義情報を帳票出力サーバ上に配置する場合の資源の配置手順を示します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）帳票定義情報を除く資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、帳票出力サーバに事前配置することをお勧めします。

注意

- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
  - ・PDF メール配信時にメールに添付するファイル
  - ・PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL データ対応機能および Navigator 連携機能使用時は、帳票定義情報をアプリケーションサーバに配置してください。

備考

- 帳票定義情報を帳票出力サーバに配置する場合は、実際に使用するプリンタで帳票様式のレイアウトをテスト印刷することができます。
テスト印刷を行う場合は、資源を帳票出力サーバに配置してください。
テスト印刷の詳細については、以下を参照してください。
⇒“A.2.1　テストコマンド”

帳票資源の文字コード系を統一する

2）ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を以下の表にしたがって設定します。
・アプリケーションサーバが Solaris の場合
⇒“表 16.42　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Solaris から Windows へのリモート帳票出力型）”
・アプリケーションサーバが Linux の場合
⇒“表 16.44　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Linux から Windows へのリモート帳票出力型）”

帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒“7.4　帳票コード変換”

帳票格納ディレクトリを作成する

3）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

4）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

5）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。
6）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置します。
7）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- ECM 連携ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意
- メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。

●資源の扱い

ここでは、帳票資源の扱いについて示します。

帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）

指定された転送時の条件にしたがって処理されます。
資源の種類によって以下のように扱われます。

帳票定義情報

転送時の条件として、以下のいずれかを指定できます。
- 毎回必ず転送する
  帳票定義情報が毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。
- 帳票定義情報の更新日付で転送する / しないを判断する
  アプリケーションサーバに配置した帳票定義情報と帳票出力サーバ上に配置済みの帳票定義情報の更新日付の比較を行い、更新されている場合のみ、帳票出力サーバに転送されます。
  帳票定義情報が更新されていない場合は、帳票出力サーバ上に配置済みの帳票定義情報を使用して、帳票が生成・出力されます。

その他の資源

転送時の条件の指定はできません。
転送対象の資源は、毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。

帳票資源を帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票資源を転送しない場合）

資源は転送されないため、帳票出力サーバ上に配置された資源を使用して、帳票が生成・出力されます。

また、転送対象の資源は、帳票出力インタフェース（コマンドの場合はオプションなど）の指定により、データを圧縮して転送することができます。

なお、資源をアプリケーションサーバ側から帳票出力サーバに転送した場合は、帳票出力サーバ側の環境設定で指定された List Creator の作業用ディレクトリ配下に格納されます。

転送された資源は、帳票の出力後、帳票定義情報のみ保存されます。帳票定義情報以外の転送された資源は、帳票の出力後に削除されます。

7.3.2.2 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合

ここでは、アプリケーションサーバが UNIX 系 OS、帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合の資源の配置について、以下の順に説明します。

- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順
- 資源の扱い

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1 準備する資源 ” を参照してください。
なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●資源の配置手順

以下に、資源を「アプリケーションサーバ」または「帳票出力サーバ」に配置する手順を示します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、帳票出力サーバに事前配置することをお勧めします。

注意

- 帳票定義情報は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできますが、プリンタに FM 出力または FNP 出力する場合の場合は、必ず帳票出力サーバに配置してください。
- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
  ・ PDF メール配信時にメールに添付するファイル
  ・ PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL データ対応機能および Navigator 連携機能使用時は、帳票定義情報をアプリケーションサーバに配置してください。

備考

- 帳票定義情報を帳票出力サーバに配置する場合は、実際に使用するプリンタで帳票様式のレイアウトをテスト印刷することができます。
  テスト印刷を行う場合は、資源を帳票出力サーバに配置してください。
  テスト印刷の詳細については、以下を参照してください。
  ⇒ “A.2.1 テストコマンド ”

帳票資源の文字コード系を統一する

2）入力データに合わせて帳票定義情報の文字コード系を変換します。
以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で、List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換してください。
・アプリケーションサーバが Solaris の場合
⇒ “ 表 16.43 帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型）”
・アプリケーションサーバが Linux の場合
⇒ “ 表 16.45 帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型）”
帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “7.4 帳票コード変換 ”

3）同様に、ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

4）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。

なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

注意

- 帳票定義情報を UNIX 系 OS に配置する場合、オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）だけは、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置してください。

帳票資源を配置する

5）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

6）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。
オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）は、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置します。

7）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置します。

8）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。

●資源の扱い

以下に、帳票資源の扱いについて示します。

帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）

指定された転送時の条件にしたがって処理されます。
資源の種類によって以下のように扱われます。

帳票定義情報

転送時の条件として、以下のいずれかを指定できます。
- 毎回必ず転送する
帳票定義情報が毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。
- 帳票定義情報の更新日付で転送する / しないを判断する
アプリケーションサーバに配置した帳票定義情報と帳票出力サーバ上に配置済みの帳票定義情報の更新日付の比較を行い、更新されている場合のみ、帳票出力サーバに転送されます。
帳票定義情報が更新されていない場合は、帳票出力サーバ上に配置済みの帳票定義情報を使用して、帳票が生成・出力されます。

その他の資源

転送時の条件の指定はできません。
転送対象の資源は、毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。

帳票資源を帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票資源を転送しない場合）

資源は転送されないため、帳票出力サーバ上に配置された資源を使用して、帳票が生成・出力されます。

また、転送対象の資源は、帳票出力インタフェース（コマンドの場合はオプションなど）の指定により、データを圧縮して転送することができます。

なお、資源をアプリケーションサーバ側から帳票出力サーバに転送した場合は、帳票出力サーバ側の環境設定で指定された List Creator の作業用ディレクトリ配下に格納されます。

転送された資源は、帳票の出力後、帳票定義情報のみ保存されます。帳票定義情報以外の転送された資源は、帳票の出力後に削除されます。

7.3.3　コネクタ連携型

コネクタ連携型とは、帳票の生成処理を行うアプリケーションサーバと、帳票を出力する帳票出力サーバを別々のコンピュータに配置して、処理の負荷分散を行う形態です。

設計した帳票定義情報や帳票の出力時に必要な資源を、配置先コンピュータに配置します。

ここでは、配置先コンピュータは「アプリケーションサーバ」または「帳票出力サーバ」になります。

以下に、コネクタ連携型（アプリケーションサーバが UNIX 系 OS の場合）の資源の配置方法について説明します。

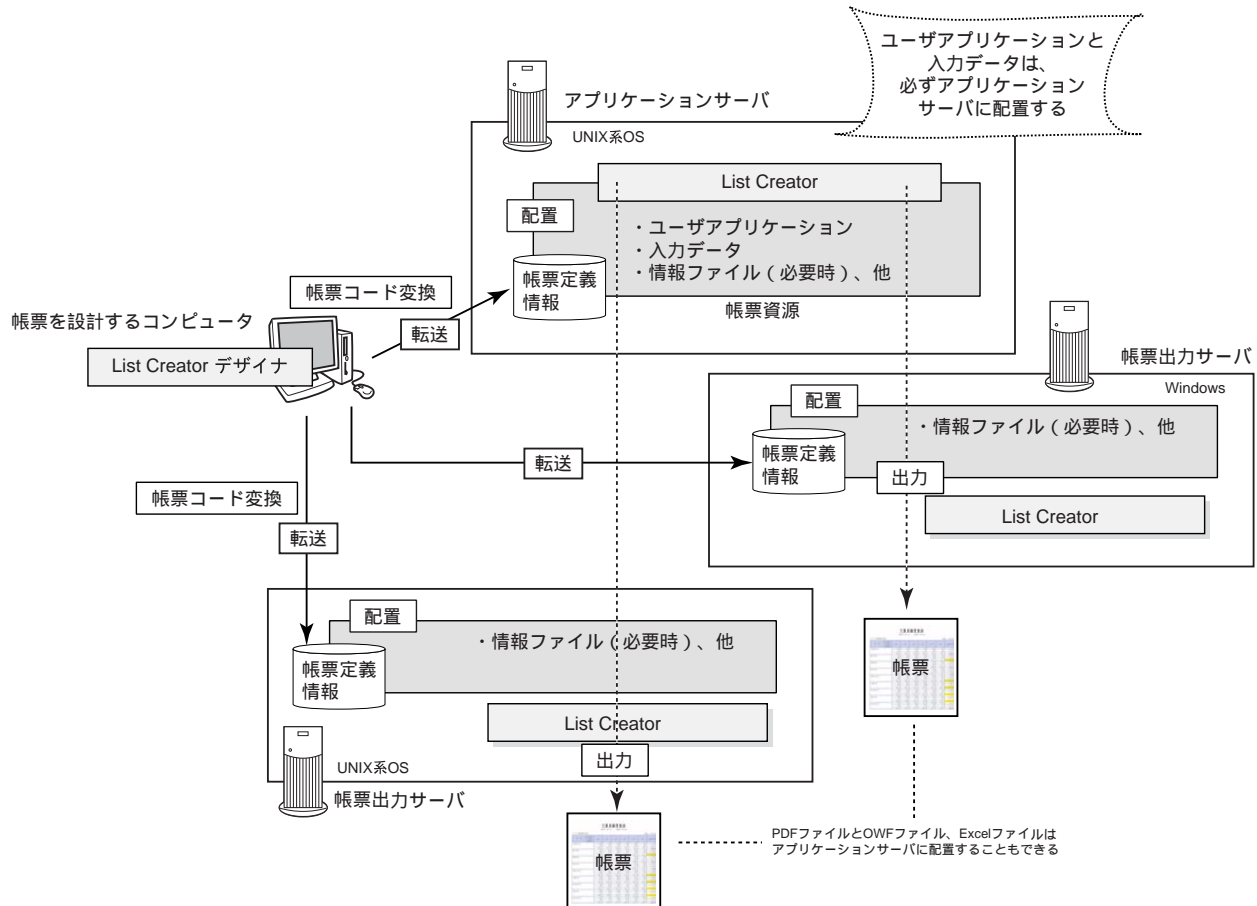



図 7.9　帳票資源の配置方法（コネクタ連携型（アプリケーションサーバが UNIX 系 OS の場合））

以下に、帳票出力サーバのオペレーティングシステムの種類ごとに説明します。

7.3.3.1　帳票出力サーバが Windows の場合

ここでは、アプリケーションサーバが UNIX 系 OS で、帳票出力サーバが Windows の場合の資源の配置について、以下の順に説明します。

- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順（アプリケーションサーバに帳票定義情報を配置する場合）
- 帳票資源の配置手順（帳票出力サーバに帳票定義情報を配置する場合）
- 資源の扱い

●配置する資源

配置する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ”を参照してください。

なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順（アプリケーションサーバに帳票定義情報を配置する場合）

帳票定義情報をアプリケーションサーバ（UNIX 系 OS）上に配置する場合の配置手順、帳票資源の文字コードについて説明します。

帳票資源の配置場所を決める

1）帳票定義情報を除く帳票資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、資源をアプリケーションサーバ側から転送しないで、帳票出力サーバに事前配置することができます。

注意

- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
  - ・PDF メール配信時にメールに添付するファイル
  - ・PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL データ対応 /Navigator 連携機能使用時は、帳票定義情報をアプリケーションサーバに配置してください。

備考

- テスト印刷を行う場合は、資源を帳票出力サーバに配置してください。
  テスト印刷の詳細については、以下を参照してください。
  ⇒ “A.2.1　テストコマンド ”

帳票資源の文字コード系を統一する

2）帳票定義情報をアプリケーションサーバ（UNIX 系 OS）上に配置する場合、入力データに合わせて帳票定義情報の文字コード系を変換します。
以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換してください。
・アプリケーションサーバが Solaris の場合
⇒ “ 表 16.35　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Solaris から Windows へのコネクタ連携型）”
・アプリケーションサーバが Linux の場合
⇒ “ 表 16.38　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Linux から Windows へのコネクタ連携型）”
帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

3）同様に、ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

4）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

注意

- 帳票定義情報を UNIX 系 OS に配置する場合、オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）だけは、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置する必要があります。

帳票資源を配置する

5）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

6）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置（転送）します。
オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）は、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置します。

7）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置（転送）します。

8）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置（転送）します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル

- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- ECM 連携ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。
  アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。
  ⇒ "11.1　環境構築時、運用時の注意事項 "

●帳票資源の配置手順（帳票出力サーバに帳票定義情報を配置する場合）

帳票定義情報を帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合の配置手順、帳票資源の文字コードについて説明します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）帳票定義情報を除く帳票資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、資源をアプリケーションサーバ側から転送しないで、帳票出力サーバに事前配置することができます。

注意

- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
  ・ PDF メール配信時にメールに添付するファイル
  ・ PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL データ対応 /Navigator 連携機能使用時は、帳票定義情報をアプリケーションサーバに配置してください。

帳票資源の文字コード系を統一する

2）ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を Shift-JIS に統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

3）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

4）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。
5）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置（転送）します。
6）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置（転送）します。
7）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置（転送）します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- ECM 連携ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。
アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。
⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

●資源の扱い

以下に、帳票資源の扱いについて示します。

帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）

資源は毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。

帳票資源を帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票を転送しない場合）

資源は転送されないため、帳票出力サーバ上に配置された資源を使用して、帳票が生成・出力されます。

また、転送対象の資源は、帳票出力インタフェース（コマンドの場合はオプションなど）の指定により、データを圧縮して転送することができます。
なお、資源をアプリケーションサーバ側から帳票出力サーバに転送した場合は、コネクタ連携時の作業用ディレクトリ配下に格納されます。
コネクタ連携時の作業用ディレクトリの詳細については、以下を参照してください。
⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

備考

- 転送された資源は、帳票の出力後、作業用ディレクトリから削除されます。

7.3.3.2　帳票出力サーバが Solaris の場合

ここでは、アプリケーションサーバが UNIX 系 OS で、帳票出力サーバが Solaris の場合の資源の配置について、以下の順に説明します。

- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順
- 資源の扱い

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。
なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順

以下に、資源を「アプリケーションサーバ」または「帳票出力サーバ」に配置する手順を示します。

= 操作手順 =

帳票資源の配置場所を決める

1）どの資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、資源をアプリケーションサーバ側から転送しないで、帳票出力サーバに事前配置することができます。

注意

- プリンタに FM 出力または FNP 出力する場合は、必ず帳票出力サーバ上に帳票定義情報を配置してください。
- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
  ・ PDF メール配信時にメールに添付するファイル
  ・ PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL データ対応 /Navigator 連携機能使用時は、帳票定義情報をアプリケーションサーバに配置してください。

備考

- 帳票定義情報を帳票出力サーバに配置する場合は、実際に使用するプリンタで帳票様式のレイアウトをテスト印刷することができます。
テスト印刷を行う場合は、資源を帳票出力サーバに配置してください。
テスト印刷の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “A.2.1　テストコマンド ”

帳票資源の文字コード系を統一する

2）入力データに合わせて帳票定義情報の文字コード系を変換します。
以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で、List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換してください。
・アプリケーションサーバが Solaris の場合
⇒ “ 表 16.36　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Solaris から Solaris へのコネクタ連携型）”
・アプリケーションサーバが Linux の場合
⇒ “ 表 16.39　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Linux から Solaris へのコネクタ連携型）”
帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

3）同様に、ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

4）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

注意

- 帳票定義情報を UNIX 系 OS に配置する場合、オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）だけは、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置する必要があります。

帳票資源を配置する

5）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

6）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置（転送）します。
オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）は、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置します。

7）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置（転送）します。

8）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置（転送）します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- XBRL タクソノミー（帳票設計時に使用したもの）
- XBRL インスタンス
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。
アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。
⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

●資源の扱い

以下に、帳票資源の扱いについて示します。

帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）

資源は毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。

帳票資源を帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票を転送しない場合）

資源は転送されないため、帳票出力サーバ上に配置された資源を使用して、帳票が生成・出力されます。

また、転送対象の資源は、帳票出力インタフェース（コマンドの場合はオプションなど）の指定により、データを圧縮して転送することができます。
なお、資源をアプリケーションサーバ側から帳票出力サーバに転送した場合は、コネクタ連携時の作業用ディレクトリ配下に格納されます。
コネクタ連携時の作業用ディレクトリの詳細については、以下を参照してください。
⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

備考

- 転送された資源は、帳票の出力後、作業用ディレクトリから削除されます。

7.3.3.3　帳票出力サーバが Linux の場合

ここでは、アプリケーションサーバが UNIX 系 OS で、帳票出力サーバが Linux の場合の資源の配置について、以下の順に説明します。

- 準備する資源
- 帳票資源の配置手順
- 資源の扱い

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。
なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順

以下に、資源を「アプリケーションサーバ」または「帳票出力サーバ」に配置する手順を示します。

＝操作手順＝

帳票資源の配置場所を決める

1）どの資源をアプリケーションサーバに配置するか、帳票出力サーバに配置するかを決めます。
ユーザアプリケーションとデータファイルは、必ずアプリケーションサーバに配置します。
それ以外の資源は、あらかじめ帳票出力サーバに配置しておくこともできます。いつも決まったファイルを使用するのであれば、資源をアプリケーションサーバ側から転送しないで、帳票出力サーバに事前配置することができます。

注意

- プリンタに FNP 出力する場合は、必ず帳票出力サーバ上に帳票定義情報を配置してください。
- 以下のファイルは、アプリケーションサーバから帳票出力サーバへ転送することができないため、必ず帳票出力サーバに配置してください。
・ PDF メール配信時にメールに添付するファイル
・ PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル

備考

- 帳票定義情報を帳票出力サーバに配置する場合は、実際に使用するプリンタで帳票様式のレイアウトをテスト印刷することができます。
テスト印刷を行う場合は、資源を帳票出力サーバに配置してください。
テスト印刷の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “A.2.1　テストコマンド ”

帳票資源の文字コード系を統一する

2）入力データに合わせて帳票定義情報の文字コード系を変換します。
以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で、List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換してください。
・アプリケーションサーバが Solaris の場合
⇒ “ 表 16.37　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Solaris から Linux へのコネクタ連携型）”
・アプリケーションサーバが Linux の場合
⇒ “ 表 16.40　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Linux から Linux へのコネクタ連携型）”

帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

3）同様に、ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

4）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

注意

- **帳票定義情報を UNIX 系 OS に配置する場合、オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）だけは、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置する必要があります。**

帳票資源を配置する

5）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバに配置します。

6）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置（転送）します。
オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）は、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置します。

7）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバに配置（転送）します。

8）以下の帳票資源を使用する場合は、これらも配置先コンピュータに配置（転送）します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- PDF メール配信時のメールに添付するファイル
- PDF メール配信時に使用するメールのテンプレートファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

注意

- **メディアデータファイルをアプリケーションサーバ側に配置する場合は、帳票の出力時に、転送するメディアデータファイル名を必ずフルパスで指定してください。
アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。**
⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

●資源の扱い

以下に、帳票資源の扱いについて示します。

帳票資源をアプリケーションサーバに配置した場合（帳票資源を転送する場合）

資源は毎回必ず帳票出力サーバに転送され、帳票が生成・出力されます。

帳票資源を帳票出力サーバに資源を配置した場合（帳票を転送しない場合）

資源は転送されないため、帳票出力サーバ上に配置された資源を使用して、帳票が生成・出力されます。

また、転送対象の資源は、帳票出力インタフェース（コマンドの場合はオプションなど）の指定により、データを圧縮して転送することができます。

なお、資源をアプリケーションサーバ側から帳票出力サーバに転送した場合は、コネクタ連携時の作業用ディレクトリ配下に格納されます。

コネクタ連携時の作業用ディレクトリの詳細については、以下を参照してください。

⇒ "11.1 環境構築時、運用時の注意事項 "

備考

- 転送された資源は、帳票の出力後、作業用ディレクトリから削除されます。

7.3.4　Web 手元印刷型

Web 手元印刷型には、以下のパターンがあります。

- PDF データ出力型
- Web アプリケーション連携型

以下に、それぞれの場合にわけて説明します。

7.3.4.1　PDF データ出力型

PDF データ出力型とは、アプリケーションサーバで PDF ファイルを作成し、Adobe Reader を利用して Web クライアントの Web ブラウザ上で帳票をプレビューまたは手元印刷する形態です。

設計した帳票定義情報や帳票の出力時に必要な資源を、配置先コンピュータに配置します。

ここでは、配置先コンピュータは、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」になります。アプリケーションサーバや Web サーバを別サーバで運用することもできます（コネクタ連携型およびリモート帳票出力型と組み合せた運用もできます）。

ここでは、PDF データ出力型（【UNIX 系 OS 版】の場合）で、配置先コンピュータとして、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」が同一サーバの場合の資源の配置方法について説明します。

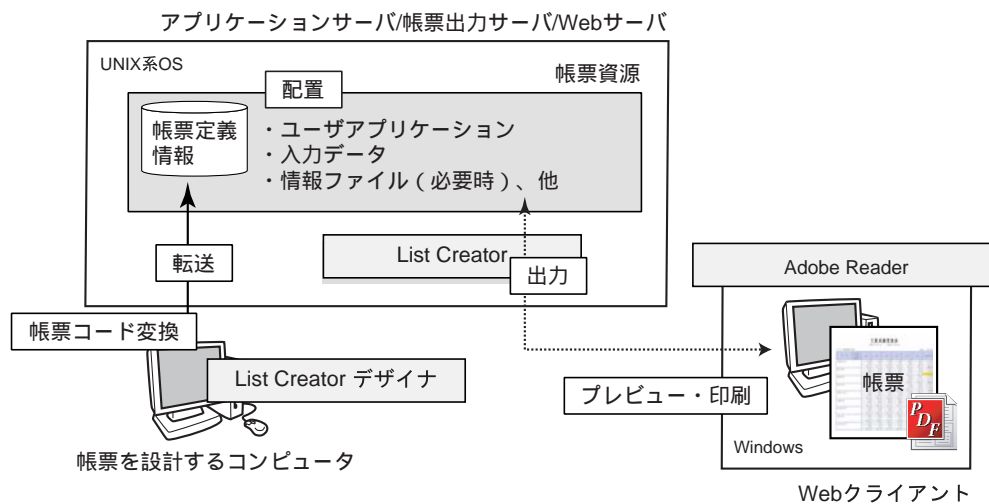



図 7.10　資源の配置方法（PDF データ出力型（【UNIX 系 OS 版】の場合））

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。

なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順

以下に、資源をアプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバに配置する手順を示します。

= 操作手順 =

帳票資源の文字コード系を統一する

1）帳票定義情報の文字コード系を入力データの文字コード系に合わせます。
以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換します。

・帳票出力サーバが Solaris の場合
⇒ “ 表 16.47　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Web 手元印刷型（Solaris 上）: PDF ファイル保存時）”

・帳票出力サーバが Linux の場合
⇒ “ 表 16.49　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Web 手元印刷型（Linux 上）: PDF ファイル保存時）”

帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

2）同様に、ユーザアプリケーションの実行環境の文字コード系、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

3）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

4）ユーザアプリケーションをアプリケーションサーバ /Web サーバに配置します。

5）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。

6）データファイルを配置する場合は、アプリケーションサーバ /Web サーバに配置します。

7）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- PDF ファイルに添付するファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

7.3.4.2　Web アプリケーション連携型

Web アプリケーション連携型とは、アプリケーションサーバで OWF ファイルを生成し、Web プラグインを利用して、Web ブラウザ上で帳票をプレビューまたは手元印刷する形態です。

ここでは、配置先コンピュータは、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」になります。アプリケーションサーバや Web サーバを別サーバで運用することもできます（コネクタ連携型およびリモート帳票出力型と組み合せた運用もできます）。

ここでは、Web アプリケーション連携型（【UNIX 系 OS 版】の場合）で、配置先コンピュータとして、「アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバ」が同一サーバの場合の資源の配置方法について説明します。

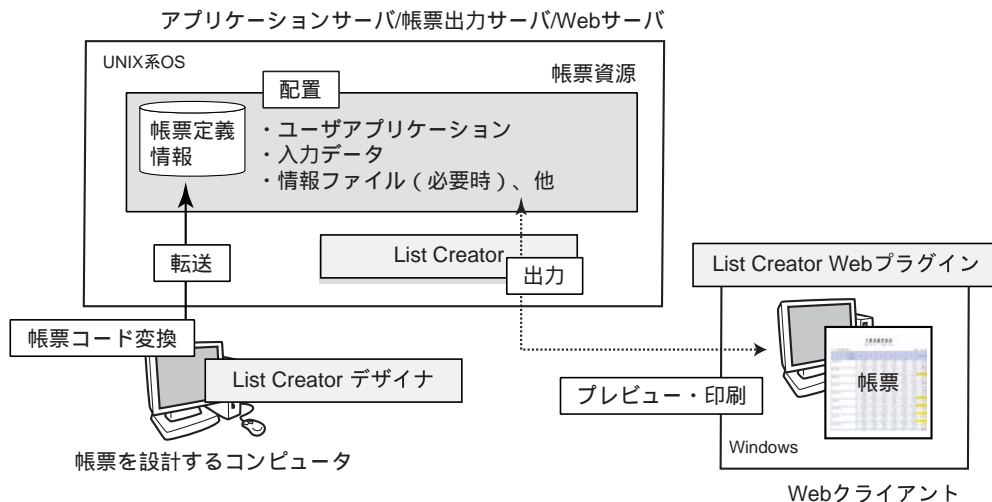



図 7.11　帳票資源の配置方法（Web アプリケーション連携型（【UNIX 系 OS 版】の場合））

●準備する資源

準備する資源は、“ 表 7.1　準備する資源 ” を参照してください。
なお、資源の格納先は、ユーザアプリケーションなどで指定できます。

●帳票資源の配置手順

以下に、資源をアプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ /Web サーバに配置する手順を示します。

= 操作手順 =

帳票資源の文字コード系を統一する

1）帳票定義情報の文字コード系を入力データの文字コード系に合わせます。
以下の表にしたがって、帳票を設計した Windows 上で List Creator の帳票コード変換機能を使用して、帳票定義情報を文字コード変換します。

・帳票出力サーバが Solaris の場合
⇒ " 表 16.48　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Web 手元印刷型（Solaris 上）: OWF ファイル生成時）"

・帳票出力サーバが Linux の場合
⇒ " 表 16.50　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Web 手元印刷型（Linux 上）: OWF ファイル生成時 "

帳票コード変換機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ "7.4　帳票コード変換 "

2）同様に、情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルの文字コード系を統一します。

帳票格納ディレクトリを作成する

3）配置先コンピュータに帳票定義情報を格納するディレクトリを作成します。帳票を設計したコンピュータとディレクトリ名が異なっていても構いません。
オーバレイを使用する場合は、配置先の帳票格納ディレクトリ配下にオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）も作成します。
なお、作成した帳票格納ディレクトリは、List Creator の環境設定、または帳票出力時に指定してください。

帳票資源を配置する

4）ユーザアプリケーションを「アプリケーションサーバ /Web サーバ」に配置します。

5）帳票定義情報を配置先コンピュータの帳票格納ディレクトリに配置します。
オーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）は、帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）配下に配置します。

6）データファイルを配置する場合は、配置先コンピュータに配置します。

7）以下の帳票資源を使用する場合は、これらの資源も配置先コンピュータに配置します。
- メディアデータファイル
- 情報ファイル
- 組合せフォーム定義ファイル

7.3.5　帳票 Web サービス型

帳票 Web サービスインタフェースを使って、帳票を出力する形態です。

帳票 Web サービス型の配置手順については、オンラインマニュアル " 帳票 Web サービス機能編 " を参照してください。

7.4　帳票コード変換

Windows で設計した帳票定義情報を EUC 環境または UNICODE（UTF8）環境の UNIX 系 OS 上で使用するには、帳票定義情報を文字コード変換する必要があります。

帳票定義情報を文字コード変換するには、帳票を設計したコンピュータ（Windows）上で、［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［ユーティリティ］－［帳票コード変換］をクリックするか、prfcnv コマンドを実行します。prfcnv コマンドについては、以下を参照してください。

⇒ “A.1.3　帳票コード変換コマンド（prfcnv）”

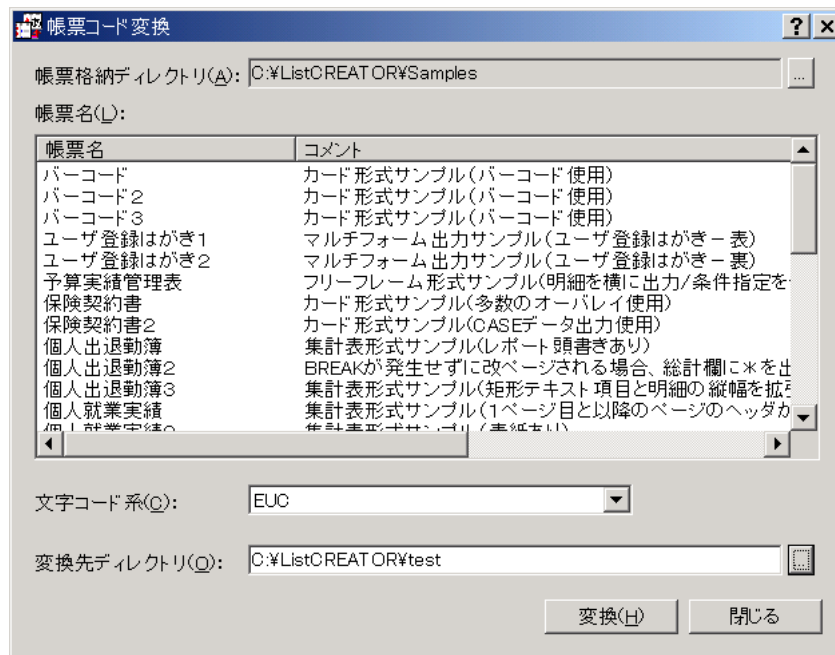



図 7.12　帳票コード変換画面

注意

- 入力データの文字コード系が EUC（S90）の場合は、Charset Manager をインストールし、代表コード系を S90 にして、帳票定義情報を文字コード変換してください。代表コード系を明示的に設定しなかった場合は、帳票定義情報が EUC(U90) で変換されます。代表コード系の設定方法については、Charset Manager のマニュアルを参照してください。
- 帳票定義情報を文字コード変換しても、帳票名は文字コード変換されません。帳票名を EUC 環境または UNICODE（UTF8）で扱える半角英数字の名前に変更してください。帳票名は、帳票定義一覧画面で帳票を選択し、［ファイル］－［名前の変更］を選択して変更してください。
- UNIX 系 OS に配置した帳票定義情報は、出力することはできますが、UNIX 系 OS 上で更新することはできません。
  Windows 上で作成した帳票定義情報（文字コード変換する前のもの）は、UNIX 系 OS 上に配置した後も Windows 上から削除せずに保管しておいてください。
- Windows 上でコード変換した帳票定義情報は、List Creator デザイナでは更新できません。したがって、コード変換前の帳票定義情報は必ず保存しておいてください。

7.5　情報ファイル

帳票出力インタフェースを利用して帳票出力する場合に利用できる「情報ファイル」について説明します。

7.5.1　情報ファイルとは

情報ファイルとは、List Creator デザイナで設計した帳票を、List Creator の帳票出力インタフェースを利用して帳票を出力する場合の、出力時の属性（プロパティ）情報、および出力時の動作など、帳票をどのように出力するのかについて定義した情報です。
情報ファイルには、決められた記述方法にしたがって情報を定義します。作成した情報ファイルは、テキストファイルとして保存します。保存した情報ファイルは、帳票の出力時に必要に応じて参照され、その定義内容にしたがって帳票が出力されます。
帳票出力インタフェースを利用する場合、帳票出力に関する詳細な情報は、インタフェースが提供するコマンドオプションやクラス（キーやメソッドなど）で指定できます。
したがって、以下の場合に情報ファイルを指定します。

- 複数の情報をまとめて一度に指定する場合
- 帳票業務情報のプロパティやインタフェースで指定できない情報を指定する場合

情報ファイルは、必須指定ではありません。必要に応じて、それぞれのファイルを作成してください。

●情報ファイルの種類

使用できる情報ファイルには、以下の種類があります。

使用できる情報ファイル	説明
置換フォント情報ファイル	帳票定義情報に定義されているフォントを、帳票出力時に別のフォントに置き換えて出力する場合に、その置換情報を指定するファイルです。
バーコード補正情報ファイル	帳票にバーコードを出力する場合に、出力先の環境に合わせてバーコードの出力結果を補正する情報を指定するファイルです。
帳票出力情報ファイル	帳票出力に関する各種情報を指定するファイルです。
電子帳票情報ファイル	帳票を電子保存する場合に、保存する電子帳票に関する各種情報を指定するファイルです。 ただし、帳票出力インタフェースで指定する電子帳票情報ファイルには、帳票業務情報のプロパティやインタフェースで指定できない出力に関する情報だけを記述してください。
電子保存時の FAX 受信者情報ファイル	電子保存後に FAX 送信する場合に、複数の FAX 送信先（受信者）に関する情報を指定するファイルです。
FAX 送信時の FAX 受信者情報ファイル	FAX 送信する場合に、複数の FAX 送信先（受信者）に関する情報を指定するファイルです。
PDF 文書情報ファイル	帳票を PDF ファイル保存する場合に、保存する PDF ファイルに関する各種情報を指定するファイルです。 ただし、帳票出力インタフェースで指定する PDF 文書情報ファイルには、帳票業務情報のプロパティやインタフェースで指定できない出力に関する情報だけを記述してください。
PDF メール配信情報ファイル	PDF ファイルをメール配信する場合に、メールの配信に関する情報を指定するファイルです。 PDF 文書情報ファイルで指定する各セクション（およびキーワード）のうち、[MLF_Mail] セクション、および [MLF_Message] セクション（キーワード）だけを記述したファイルです。
Excel 文書情報ファイル	帳票を Excel ファイル出力する場合に、出力する Excel ファイルに関する各種情報を指定するファイルです。 ただし、帳票出力インタフェースで指定する Excel 文書情報ファイルには、帳票業務情報のプロパティやインタフェースで指定できない出力に関する情報だけを記述してください。

使用できる情報ファイル	説明
ECM 情報ファイル	ECM 連携ファイルのファイル名や文字コード系など、ECM 連携機能に関する情報を指定するファイルです。

●情報ファイルのサポート範囲

情報ファイルは、ご使用になる List Creator 製品や出力方法によって、使用できる場合と使用できない場合があります。

以下に、情報ファイルのサポート範囲について示します。

情報ファイルの種類	出力方法					
	印刷 (*1)	電子保存	FAX 送信	PDF ファイル保存	OWF ファイル生成	Excel ファイル出力
置換フォント情報ファイル (*2)	○	○	○	○	○	○
バーコード補正情報ファイル (*2)	○	－	－	○	○ (*3)	○
帳票出力情報ファイル (*4)	○	○	○	○	○	○
電子帳票情報ファイル	－	○	－	－	－	－
電子保存時の FAX 受信者情報ファイル	－	○	－	－	－	－
FAX 送信時の FAX 受信者情報ファイル	－	－	○	－	－	－
PDF 文書情報ファイル	－	－	－	○	－	－
PDF メール配信情報ファイル	－	－	－	○	－	－
Excel 文書情報ファイル	－	－	－	－	－	○
ECM 情報ファイル	－	－	－	○	－	○

○：必要時に指定可能
－：指定不可

*1：UNIX 系 OS の帳票出力サーバで印刷する場合は、ご使用のプリンタ装置やプリンタ出力方法によって、置換フォントが使用できない場合があります。詳細については、以下を参照してください。

⇒ “9.2　印刷（【UNIX 系 OS 版】の場合）”

*2：置換フォント情報ファイル、バーコード補正情報ファイルは、【Linux for x86 版】の場合は、使用できません。

*3：OWF ファイルを印刷する場合のみ有効になります。

*4：帳票出力情報ファイルは、【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合は、使用できません。

以下に、情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、および指定方法について説明します。

●情報ファイルのファイル名

情報ファイルのファイル名、および拡張子は任意です。

以下の場合に、情報ファイルのファイル名には、データファイル名、および帳票資源と同じファイル名を指定しないでください。

- リモート帳票出力時
- コネクタ連携時
- OWF ファイル生成時

英語環境（英語ロケール）で情報ファイルを使用する場合、情報ファイルのファイル名、および格納先ディレクトリ名は半角英数・記号（ASCII 範囲）で作成してください。

7.5.1.1　情報ファイルの作成方法と配置

情報ファイルは、テキストエディタなどで作成します。
それぞれのファイルの記述方法については、以下を参照してください。

⇒ “7.5.2　置換フォント情報ファイル ”
⇒ “7.5.3　バーコード補正情報ファイル ”
⇒ “7.5.4　帳票出力情報ファイル ”
⇒ “7.5.5　電子帳票情報ファイル ”
⇒ “7.5.6　電子保存時 /FAX 送信時の FAX 受信者情報ファイル ”
⇒ “7.5.7　PDF 文書情報ファイル ”
⇒ “7.5.8　PDF メール配信情報ファイル ”
⇒ “7.5.9　Excel 文書情報ファイル ”
⇒ “7.5.10　ECM 情報ファイル ”

作成した情報ファイルは、ご使用の機能や運用にあわせ、アプリケーションサーバまたは帳票出力サーバに配置します。資源の配置についての詳細は、以下を参照してください。

⇒ “7.2　帳票資源の配置手順（【Windows 版】の場合）”
⇒ “7.3　帳票資源の配置手順（【UNIX 系 OS 版】の場合）”

注意

- 文字コード系が UNICODE（UTF8）の情報ファイルを作成した場合、使用するファイル作成ツール（テキストエディタなど）によっては、ファイルの先頭に BOM（Byte Order Mark）が付加される場合があります。このとき、情報ファイルの先頭行が正しく認識されず、エラーまたは意図しない出力結果となることがあります。

7.5.1.2　情報ファイルの文字コード系

情報ファイルは、以下の文字コード系で作成してください。

●アプリケーションサーバに配置する場合

【Windows 版】の場合

Shift-JIS の文字コード系で作成してください。

【UNIX 系 OS 版】の場合

情報ファイルは、使用するインタフェースに応じて、以下の文字コード系で作成してください。

- コマンド、COBOL インタフェース、CFX カスタムタグインタフェースを使用する場合

  環境変数 LANG および環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系で作成してください。

- Java インタフェースを使用する場合

  以下のいずれかで指定した文字コード系で作成してください。

  1）setFileType メソッド
  2）環境変数 LANG および環境変数 OA_EUCTYPE

  文字コード系の指定は、「1) → 2)」の優先順序で有効になります。
  なお、Java インタフェースを使用する場合の文字コード系については、オンラインマニュアル “ アプリケーション作成ガイド ” の「文字コード系に関する注意事項」を参照してください。

注意

- 以下の場合は、情報ファイルは Shift-JIS の文字コードの範囲で指定してください。
  ・ 帳票出力サーバが Windows の場合
  ・ Web 手元印刷型で出力する場合
  ・ FAX 送信する場合
  ・ Excel ファイル出力する場合
  上記の場合は、最終的に Shift-JIS に変換されるため、Shift-JIS 以外の文字コード系の範囲で記述した場合（Shift-JIS に存在しない文字を指定すると）、縮退が発生することになります（その場合、代替文字「_」または「__」で処理が実行されます。）
- 英語環境（英語ロケール）で情報ファイルを使用する場合、情報ファイルは半角英数・記号（ASCII 範囲）で記述してください。
- Java インタフェースを使用して Web 手元印刷型で帳票出力する場合、FormsFile クラスでのみ、入力データの文字コード系に UNICODE（UTF16）を指定できます。
  ただし、入力データが UNICODE（UTF16）で記述されている場合でも、Java インタフェースで指定する情報ファイルは、必ず以下のいずれかで指定した文字コード系で記述してください。
  ・ FormsFile クラスの setFileType メソッド
  ・ 環境変数 LANG および環境変数 OA_EUCTYPE
- 入力データが UNICODE（UTF16）の場合でも、必ず環境変数 LANG および環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系の文字で記述してください。

●帳票出力サーバに配置する場合

帳票出力サーバに配置する場合、以下を参照してください。

⇒ “16.1　帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系 ”

注意

- 英語環境（英語ロケール）で情報ファイルを使用する場合、情報ファイルは半角英数・記号（ASCII 範囲）で記述してください。

7.5.1.3　情報ファイルの指定方法

作成した情報ファイル（配置先）は、コマンドまたはユーザアプリケーションで指定します。
以下に、List Creator の運用形態ごとに、情報ファイルの指定方法について説明します。

●スタンドアロン型で運用する場合

コマンドまたはユーザアプリケーションで、帳票出力サーバに配置した情報ファイルのファイル名をフルパスで指定します。

●リモート帳票出力型またはコネクタ連携型で運用する場合

どこに配置した情報ファイルを使用して帳票出力するかで指定方法が異なります。
以下に、情報ファイルをアプリケーションサーバに配置する場合と、帳票出力サーバに配置する場合に分けて説明します。

情報ファイルをアプリケーションサーバに配置する場合

コマンドまたはユーザアプリケーションで、「転送ファイル名」と各情報ファイル名を指定します。
「転送ファイル名」には、アプリケーションサーバに配置した情報ファイルのファイル名をフルパスで指定します。情報ファイル名には、アプリケーションサーバに配置した情報ファイル名のファイル名のみを指定します。
この指定を行うと、帳票出力時に、アプリケーションサーバに配置した情報ファイルを帳票出力サーバへ転送し、そのファイルを使用して帳票が出力されます。

情報ファイルを帳票出力サーバに配置する場合

コマンドまたはユーザアプリケーションで、情報ファイル名のみを指定します。
帳票情報ファイル名には、帳票出力サーバに配置した情報ファイルのファイル名をフルパスで指定します。
この指定を行うと、帳票出力時に、情報ファイルをアプリケーションサーバから転送せずに、帳票出力サーバの情報ファイルを使用して帳票が出力されます。

なお、コマンド、またはユーザアプリケーションの指定に関する詳細は、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

7.5.2 置換フォント情報ファイル

置換フォント情報ファイルは、帳票定義情報に定義されているフォントを、帳票出力時に別のフォントに置き換えて出力する場合に、その置換情報を定義するファイルです。
置換フォント情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、指定方法については、以下を参照してください。

⇒“7.5.1 情報ファイルとは”

以下に、置換フォント情報ファイルの記述形式について示します。

●置換フォント情報ファイルの記述形式

置換フォント情報は、以下の形式で指定します。なお、置換フォントの指定は、オーバレイに定義しているフォントについては、印刷時のみ有効になります。

```
MAPFONT "定義フォント名" "置換フォント名"
```

定義フォント名（必須）

帳票定義情報で定義されたフォント名（置換されるフォント名）を「ダブルクォーテーション（"）」で囲んで、NULL を含めずに 31 バイト以内で指定します。
31 バイトを超える場合は、31 バイトまで有効となります。

置換フォント名（必須）

置換するフォント名を「ダブルクォーテーション（"）」で囲んで、NULL を含めずに 31 バイト以内で指定します。
31 バイトを超える場合は、31 バイトまで有効となります。

注意

- 「MAPFONT」を複数指定し、定義フォント名が同一フォント名であった場合（同一の定義フォントに対し、複数置換フォント指定を行った場合）、最後に指定されたものが有効となります。
- 帳票業務情報のプロパティで指定した置換フォントの定義フォント名と、置換フォント情報ファイルで指定した置換フォントの定義フォント名が同一フォント名であった場合、置換フォント情報ファイルで指定した置換フォントの置換フォント名が有効となります。
- プリンタに FM 出力する場合、置換フォントの指定は有効になりません。
- プリンタに FNP 出力する場合、オーバレイ文字には置換フォントの指定は有効になりません。

備考

- 英語環境（英語ロケール）で「ＭＳ 明朝」などの和名のフォントを使用して文字を出力したい場合、以下の流れで設定してください。
  1) 帳票様式定義画面で項目のプロパティでは「MS UI Gothic」などの英名のフォントで定義します。
  2) 置換フォント情報ファイルに以下のように記述します。
     MAPFONT "MS UI Gothic" "MS Mincho"
  3) 帳票出力インタフェースで置換フォント情報ファイルのパスを指定します。

7.5.3　バーコード補正情報ファイル

バーコード補正情報ファイルは、帳票にバーコードを出力する場合に、出力先の環境に合わせてバーコードの出力結果を補正する情報を指定するファイルです。
通常は、指定する必要はありません。出力したバーコードがバーコードリーダーで読み取れない場合に指定してください。
バーコードの補正方法には、以下の方法があります。

- バーコードのモジュール幅（各バーの幅）を変更する
- バーコード全体をイメージ化して出力する

バーコードの補正情報を指定できるのは、EAN-128（コンビニエンスストア向け）、および GS1 DataBar のバーコードです。また、補正情報の指定は、帳票を印刷、PDF ファイル保存、Excel ファイル出力、または OWF ファイルを印刷する場合のみ有効です。
バーコード補正情報は、印刷時は出力するプリンタ装置ごとに指定が必要です。したがって、帳票がどの出力先で出力されるのかを考慮し、バーコード補正情報ファイルを作成する必要があります。

バーコード補正情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、指定方法については、以下を参照してください。
⇒ “7.5.1　情報ファイルとは ”
以下に、バーコード補正情報ファイルの記述形式について示します。

●バーコード補正情報ファイルの記述形式（帳票出力サーバが Windows の場合）

バーコード補正情報は、以下の形式で指定します。

```
[ プリンタ名 /¥¥PDF¥¥/¥¥XLSX¥¥]
BARCONVENIDOT 設定値
BARPDFRESOLUTION 設定値
BARXLSXRESOLUTION 設定値
BARCONVENIIMAGE 設定値
BARPRINTRESOLUTION 設定値
```

注意
- 同じセクション名を複数指定した場合、またはセクション内で同じ情報を複数指定した場合、最後に指定した設定値が有効となります。

[プリンタ名 /¥¥PDF¥¥/¥¥XLSX¥¥]（セクション）（必須）

バーコード補正を行う対象として、印刷時は出力先の印刷プリンタ名、PDF ファイル保存時は「¥¥PDF¥¥」、Excel ファイル出力時は「¥¥XLSX¥¥」を指定します。
印刷時、出力先のプリンタを複数指定する場合は、プリンタごとに指定します。

BARCONVENIDOT（ドット補正）（任意）

EAN-128（コンビニエンスストア向け）バーコードのモジュール幅（各バーの幅）を補正するドット数を 1 ～ 255 の範囲で指定します。
ドット数は、1 から順に数値を上げ、バーコードの読み取り結果（印刷した結果）を確認しながら指定してください。
ドット数を指定すると、帳票出力時に指定した値だけバーコードの黒色バーの幅を細く、白色バーの幅を太くして出力されます。
省略した場合、バーコードのモジュール幅（各バーの幅）に対して、ドット補正は行われません。

注意
- 印刷時、以下のいずれかが [プリンタ名] に指定されていない場合、指定は無効となります。
  - 帳票出力時に指定されたプリンタ名
  - 通常使うプリンタのプリンタ名（帳票出力サーバが Windows の場合）

BARPDFRESOLUTION（PDF ファイル保存時のドット補正解像度）（任意）

PDF ファイル保存時に、ドット補正を行う場合（「BARCONVENIDOT」を指定する場合）に、ドット数の解像度を 1 ～ 65535 の範囲で指定します。

この解像度には、出力する PDF ファイルを実際に印刷するプリンタの解像度を指定します。

PDF ファイル保存時に、ドット補正する場合は、必ず指定する必要があります。

BARXLSXRESOLUTION（Excel ファイル出力時のドット補正解像度）（任意）

Excel ファイル出力時に、ドット補正を行う場合（「BARCONVENIDOT」を指定する場合）に、ドット数の解像度を、以下のいずれかの値から選択して指定します。

72、96、144、240、300、400、600、1200、2400

この解像度には、出力する Excel ファイルを実際に印刷するプリンタの解像度を指定します。

Excel ファイル出力時に、ドット補正する場合は、必ず指定する必要があります。

BARCONVENIIMAGE（イメージ出力補正）（任意）

EAN-128（コンビニエンスストア向け）バーコード全体を 1 つのイメージとして出力するか、各バーを個々の図形として出力するかを指定します。

Y　　: バーコード全体を 1 つのイメージとして出力します。

N　　: バーコード内の各バーを個々の図形として出力します。

省略した場合、「N」が指定されたものとして動作します。

注意

- この指定が有効になるのは、出力方法が「印刷」、および OWF ファイルを印刷する場合のみです。
- バーコード全体をイメージとして出力する場合、処理性能の劣化、またはスプールサイズの増大などにも留意し、指定を行ってください。

BARPRINTRESOLUTION（印刷時のバーコード描画解像度）

GS1 DataBar を出力する時の解像度を指定します。印字した GS1 DataBar の読み取り精度が悪い場合、解像度を高くすることにより、読み取り精度がよくなる可能性があります。ただし、高い解像度を指定するにつれて処理時間も増加するため、読み取り精度、および処理時間を評価してから使用することを推奨します。

解像度は、以下のいずれかの値から選択して指定します。

0、72、96、144、240、300、400、600、1200、2400

指定可能な解像度以外の値を指定した場合、帳票出力時にエラーとなります。

指定を省略した場合は、600 となります。

この解像度には、実際に印刷するプリンタの解像度を指定します。

設定値に 0 を指定した場合、使用するプリンタの解像度で出力します。ただし、使用するプリンタの解像度が、指定可能ないずれの値でもない場合は、プリンタの解像度より大きい解像度にマッピングして出力します。

注意

- この指定が有効になるのは、出力方法が「印刷」、および OWF ファイルを印刷する場合のみです。

●バーコード補正情報ファイルの記述形式（帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合）

バーコード補正情報は、以下の形式で指定します。

```
[¥¥PDF¥¥/¥¥XLSX¥¥]
 BARCONVENIDOT 設定値
 BARPDFRESOLUTION 設定値
 BARXLSXRESOLUTION 設定値
```

注意

- 同じセクション名を複数指定した場合、またはセクション内で同じ情報を複数指定した場合、最後に指定した設定値が有効となります。

[¥¥PDF¥¥/¥¥XLSX¥¥]（セクション）（必須）

バーコード補正を行う対象として、PDF ファイル保存時は「¥¥PDF¥¥」、Excel ファイル出力時は「¥¥XLSX¥¥」を指定します。

BARCONVENIDOT（ドット補正）（任意）

EAN-128（コンビニエンスストア向け）バーコードのモジュール幅（各バーの幅）を補正するドット数を 1 ～ 255 の範囲で指定します。

ドット数は、1 から順に数値を上げ、バーコードの読み取り結果（印刷した結果）を確認しながら指定してください。

ドット数を指定すると、帳票出力時に指定した値だけバーコードの黒色バーの幅を細く、白色バーの幅を太くして出力されます。

省略した場合、バーコードのモジュール幅（各バーの幅）に対して、ドット補正は行われません。

BARPDFRESOLUTION（PDF ファイル保存時のドット補正解像度）（任意）

PDF ファイル保存時に、ドット補正を行う場合（「BARCONVENIDOT」を指定する場合）に、ドット数の解像度を 1 ～ 65535 の範囲で指定します。

この解像度には、出力する PDF ファイルを実際に印刷するプリンタの解像度を指定します。

PDF ファイル保存時に、ドット補正する場合は、必ず指定する必要があります。

BARXLSXRESOLUTION（Excel ファイル出力時のドット補正解像度）（任意）

Excel ファイル出力時に、ドット補正を行う場合（「BARCONVENIDOT」を指定する場合）に、ドット数の解像度を、以下のいずれかの値から選択して指定します。

72、96、144、240、300、400、600、1200、2400

この解像度には、出力する Excel ファイルを実際に印刷するプリンタの解像度を指定します。

Excel ファイル出力時に、ドット補正する場合は、必ず指定する必要があります。

7.5.4　帳票出力情報ファイル

帳票出力情報ファイルは、List Creator デザイナで作成した帳票を、帳票出力インタフェースを利用して出力する場合に、帳票出力に関する各種情報を定義するテキストファイルです。

帳票出力情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、指定方法については、以下を参照してください。

⇒ “7.5.1　情報ファイルとは ”

以下に、帳票出力情報ファイルの記述形式について示します。

●帳票出力情報ファイルの記述形式

帳票出力情報ファイルは、以下の書式でキーワードにより情報を指定します。

```
キーワード 値
```

なお、記述内容には、以下の規則があります。

- キーワードおよび値は、すべて大文字で記述してください。
- 所定のキーワード以外を記述した場合は、コメントとして扱います。キーワードについては、以下を参照してください。
  ⇒ “ ●帳票出力情報ファイルのキーワード説明 ”
- 行頭に「*」がある行は、コメントとして扱います。
- キーワードは 1 桁目より記述し、1 個以上の空白、またはタブを記述した後、値を記述してください。キーワードと値の間に、全角空白は指定できません。
- キーワードを複数回指定した場合は、最後に指定した値が有効になります。
- 値に半角空白が含まれる場合は、必ずダブルクォーテーションで括ってください。
- 1 行には、512 バイトまで指定できます。行末には改行コードが必要です。

使用できる文字種は、全角 / 半角、日本語（JIS 第一水準 / 第二水準）および英数字です。

●帳票出力情報ファイルのキーワード説明

キーワードの一覧を以下に示します。

キーワード名	説明	帳票出力環境設定ファイルでの指定
GRAPHRESOLUTION	指定した解像度で、グラフ出力用のビットマップを生成します。	○
GRAPHDRAWCOLOR	グラフデータ（グラフ属性ファイル）で指定された色情報を有効にするかどうかを指定します。	○
PDFJIS2004MODE	PDF ファイル保存時、サロゲートペアなどの JIS2004 文字を出力する場合に指定します。	○
USECHARTYPE	UNICODE 文字の出力結果が異常となる場合など、List Creator 内部で使用している UNICODE 文字の全半角を判定するテーブルを変更します。	○
UNICODEN	指定した文字を UNICODE 半角文字とみなします。UNICODE 文字の出力結果が異常となる場合に指定します。	×
UNICODEW	指定した文字を UNICODE 全角文字とみなします。UNICODE 文字の出力結果が異常となる場合に指定します。	×
LWMATQUALITY	List Creator 互換印刷時の動作モードを指定します。	○
STAMPTYPE	画像の透過出力描画方法を指定します。	○
BARCUST4DIR	カスタマバーコードの印刷方向拡張を指定します。	○
PDFCUSTBARPOS	PDF ファイル保存時のカスタマバーコードの位置ズレ補正を指定します。	○

○：帳票出力環境設定ファイルで指定できるキーワード
×：帳票出力環境設定ファイルで指定できないキーワード

キーワードの説明を以下に示します。

GRAPHRESOLUTION

書式

GRAPHRESOLUTION 0 | 72 | 96 | 144 | 240 | 300 | 400 | 600 | 1200 | 2400

説明

グラフデータ（グラフ属性ファイル、およびグラフデータファイル）を出力する時の画像解像度（dpi）を指定します。

組込みメディア項目に指定したグラフデータは、画像データ（ビットマップ）に変換され出力されますが、当キーワードで解像度を指定すると、指定した解像度の画像データ（ビットマップ）に変換されます。

例）GRAPHRESOLUTION 600

省略時

帳票出力環境設定ファイルの指定にしたがいます。

帳票出力環境設定ファイルでも省略されている場合やキーワードのみを指定して値を省略した場合は、600 となります。

特記事項

- 印刷、電子保存、および Excel ファイル出力で有効です。

- 指定可能な解像度以外の値を指定した場合、指定は無効となり、600 が指定されたものとします。
- 値に 0 を指定した場合、出力先により、生成される画像データの解像度は以下のとおりとなります。
  - 印刷の場合
    出力するプリンタの解像度で画像データを生成
  - 電子保存、Excel ファイル出力の場合
    600dpi で画像データを生成
- 高解像度を指定するほど、グラフの画像データは鮮明に出力されますが、出力に時間がかかるようになります。
- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.4.3　帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係 ”

GRAPHDRAWCOLOR

書式

GRAPHDRAWCOLOR C|M|A

説明

グラフデータのグラフ属性ファイルで指定された色情報を有効にするかどうかを指定します。

C　　：グラフデータの色情報を有効にします。

M　　：グラフデータの色情報を無効にします（モノクロ出力)。

A　　：プリンタ装置のカラーサポート有無にしたがいます。

例）GRAPHDRAWCOLOR C

省略時

帳票出力環境設定ファイルの指定にしたがいます。

帳票出力環境設定ファイルでも省略されている場合やキーワードのみを指定して値を省略した場合は、以下のようになります。

- 印刷の場合
  「A」(プリンタ装置のカラーサポート有無にしたがう）
- 電子保存、または Excel ファイル出力の場合
  「C」(グラフデータの色情報を有効にする）

特記事項

- 印刷、電子保存、および Excel ファイル出力で有効です。
- カラー印刷をサポートしていないプリンタ装置にカラーで出力した場合、データが実際にどのように出力されるかはプリンタ装置の機能に依存します。
- 電子保存、および Excel ファイル出力で、「A」(プリンタ装置のカラーサポート有無にしたがう）を指定した場合、「C」(グラフデータの色情報を有効にする）が指定されたものとします。
- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.4.3　帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係 ”

PDFJIS2004MODE

書式

PDFJIS2004MODE Y|N

説明

PDF ファイル保存時、文字コード規格「JIS X 0213:2004（JIS2004)」で追加された文字（サロゲートペア）を出力する場合に指定します。

Y　　：サロゲートペアを出力します。

N　　：サロゲートペアを出力しません。

例）PDFJIS2004MODE Y

省略時

帳票出力環境設定ファイルの指定にしたがいます。
帳票出力環境設定ファイルでも省略されている場合やキーワードのみを指定して値を省略した場合は、「N」（サロゲートペアを出力しない）となります。

特記事項

- PDF ファイル保存のみ有効です。
- 「Y」（サロゲートペアを出力する）を指定せずにサロゲートペアを出力した場合、帳票出力時にエラーとなります。
- 「Y」（サロゲートペアを出力する）を指定した場合の注意事項は以下のとおりです。
  - 「N」を指定した場合に比べ、生成される PDF ファイルのサイズが 1 ～ 2 割程度、大きくなります。
  - 帳票業務情報や帳票出力時に文字の埋め込み（エンベッド）を指定し、置換フォントを指定していない場合、一部の文字（JIS2004 で字形変更された文字）の字形が変わります。
- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.4.3　帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係 ”

USECHARTYPE

書式

USECHARTYPE UNI|FUJ|NONE

説明

UNICODE の入力データを使用して帳票を出力する場合、出力する UNICODE 文字が全角であるか半角であるかを判定する全半角テーブルの種類を指定します。指定した全半角テーブルの判定にしたがい、出力する文字を日本語属性（日本語文字ピッチ、日本語文字フォントなど）/英文属性（英文文字ピッチ、英文文字フォントなど）のいずれで出力するかを決定します。また、UNICODEN、および UNICODEW を指定することで、指定した全半角テーブルを個々の文字コードレベルでカスタマイズすることができます。

UNI　：UNICODE 規約に準拠した全半角テーブルを使用します。

FUJ　：FUJ 明朝体フォントに準拠した全半角テーブルを使用します。

NONE ：- PDF ファイル保存
FUJ 明朝体フォントに準拠した全半角テーブルを使用します。

- PDF ファイル保存以外
出力する文字フォントに準拠した全半角テーブルを使用します。

例）USECHARTYPE UNI

省略時

帳票出力環境設定ファイルの指定にしたがいます。
帳票出力環境設定ファイルでも省略されている場合やキーワードのみを指定して値を省略した場合は、「UNI」（UNICODE 規約に準拠した全半角テーブルを使用する）となります。

特記事項

- PDF ファイル保存の場合は、入力データが UNICODE 以外でも、当指定が有効になります。
- 「NONE」の指定で使用するテーブルは、List Creator V7.0 以前のバージョンで使用していたテーブルです。List Creator をバージョンアップした際、文字が重なるなどの現象が発生した場合は、「NONE」を指定し現象が解消されるか確認してください。

- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.4.3 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係 ”

UNICODEN

書式

UNICODEN [FONT=" フォント名 ";] 開始コード [- 終了コード][, 開始コード [- 終了コード]] ･･･
注) [ ] 内は、省略可能です。

説明

出力時に利用する全半角テーブルを文字コードレベルでカスタマイズします。
全半角テーブルから半角にしたい文字の UNICODE のコードを指定します。

FONT=" フォント名 ";　（フォント名指定部）

- 特定のフォントにのみ当指定を有効としたい場合に指定します。省略すると、全フォントに有効となります。
  ただし、別にフォント名指定部を指定した定義がある場合、そのフォントに対しては無効となります。
- フォント名は「"（ダブルクォーテーション）」で括って指定します。
- 指定するフォント名は、帳票様式定義の日本語フォントで指定したフォント名を指定します。
  ただし、指定するフォント名が、帳票様式定義で選択できない場合、帳票業務情報の［印刷］タブの置換フォントで、帳票出力時に使用したいフォントに置き換えを行い、置き換え後のフォント名を指定してください。
- 指定したフォントがインストールされていない場合や日本語を出力できないフォントを指定した場合など、当指定が有効にならないことがあります。
- 指定できるフォント名の数は、最大 256 個です。最大数を超えて指定したフォントは有効になりません。

開始コード [- 終了コード][, 開始コード [- 終了コード]] ･･･

- 0 面の文字を指定する場合は、4 桁の 16 進文字で UNICODE（UCS2）のコード範囲を指定します。
  1 ～ 16 面の文字を指定する場合は、5 ～ 8 桁の 16 進文字で UNICODE（UCS4）のコード範囲を指定します。
  なお、指定可能な 16 進文字は「0 ～ 9」および「A ～ F」であり、小文字での指定は無効です。
- 開始コードと終了コードを「-（ハイフン）」で区切ります。また、複数のコード範囲を指定する場合は「,（カンマ）」で区切って指定します。
- 1 文字だけ半角にする場合、開始コードのみ指定します。
- 開始コードと終了コードが等しい場合、開始コードのみ指定されたとして扱います。
- 開始コードが終了コード以下の場合に有効です。
- 「,（カンマ）」で区切られた複数のコード範囲間の大小関係は問いません。

例 1）出力時に、フォント "MS 明朝 " の UNICODE 文字 0x7FF1 を半角とする場合
　　UNICODEN FONT="ＭＳ 明朝 ";7FF1
例 2）出力時に、すべてのフォントの 2 面の UNICODE 文字 000B を半角とする場合
　　UNICODEN U+2000B

省略時

全半角テーブルはカスタマイズされません。

特記事項

- 帳票出力環境設定ファイルで指定することはできません。指定した場合の出力結果は、保証されません。
- PDF ファイル保存では、「フォント名指定部」を記述した指定はできません。
- UNICODE 文字のコード範囲指定で、開始コードが 16 進 4 桁（UCS2）、終了コードが 16 進 5 ～ 8 桁（UCS4）の場合、指定は無効になります。

- 利用する全半角テーブルについては、以下を参照してください。
  ⇒ “ 付録 D　全半角テーブル ”

指定例

例 1 ：すべてのフォントに有効な指定をしたい場合

```
UNICODEN 7FF1                          ・・・①
UNICODEN 6FF0-6FFF, 8FF0-8FFF          ・・・②
```

説明：①すべてのフォントについて、UNICODE 文字 0x7FF1 を半角とみなします。
②すべてのフォントについて、指定の UNICODE 文字範囲を半角とみなします。

例 2 ：特定フォントにのみ有効な指定をしたい場合

```
UNICODEN FONT="ＭＳ 明朝 ";7FF1
```

説明：出力時のフォントが "ＭＳ 明朝 " の場合、UNICODE 文字 0x7FF1 を半角とみなします。
出力時のフォントが "ＭＳ 明朝 " 以外の場合、0x7FF1 は全半角テーブルの定義にしたがって出力されます。

例 3 ：複数のフォントに指定したい場合

```
UNICODEN 7FF1                                              ・・・①
UNICODEN FONT="ＭＳ 明朝 ";8FF0                            ・・・②
UNICODEN FONT="NSimSun";7BF0-7BFF,7FF1,7FFA-7FFF           ・・・③
```

説明：①の記述により、出力時のフォントが「ＭＳ 明朝」と「NSimSun」以外のフォントの場合、UNICODE 文字 0x7FF1 を半角とみなします。
②の記述は、出力時のフォントが「ＭＳ 明朝」の場合、UNICODE 文字 0x8FF0 を半角とみまします。①の記述の 0x7FF1 は「ＭＳ 明朝」には無効です。
③の記述は、出力時のフォントが「NSimSun」の場合、指定の UNICODE 文字範囲を半角とみなします。ここで、0x7FF1 も指定しているので、「NSimSun」の場合は 0x7FF1 も半角とみなします。

例 4 ：UNICDOEN と UNICODEW を混合して指定した場合

```
UNICODEN FONT="ＭＳ 明朝 ";7FF1
UNICODEW FONT="ＭＳ 明朝 ";7FF1,4FFA-4FFF,5FFA-5FFF,6FFA-6FFF
```

説明：UNICODEN と UNICODEW で同じ文字コードを指定した場合、後から定義した方が有効となります。上記例の文字コード 0x7FF1 は全角とみなします。

UNICODEW

書式

UNICODEW [FONT=" フォント名 ";] 開始コード [- 終了コード][, 開始コード [- 終了コード]] ･･･
注) [ ] 内は、省略可能です。

説明

出力時に利用する全半角テーブルを文字コードレベルでカスタマイズします。
全半角テーブルから全角にしたい文字の UNICODE のコードを指定します。

FONT=" フォント名 ";　（フォント名指定部）

- 特定のフォントにのみ当指定を有効としたい場合に指定します。省略すると、全フォントに有効となります。
  ただし、別にフォント名指定部を指定した定義がある場合、そのフォントに対しては無効となります。
- フォント名は「"（ダブルクォーテーション）」で括って指定します。

- 指定するフォント名は、帳票様式定義の日本語フォントで指定したフォント名を指定します。
  ただし、指定するフォント名が、帳票様式定義で選択できない場合、帳票業務情報の［印刷］タブの置換フォントで、帳票出力時に使用したいフォントに置き換えを行い、置き換え後のフォント名を指定してください。
- 指定したフォントがインストールされていない場合や日本語を出力できないフォントを指定した場合など、当指定が有効にならないことがあります。
- 指定できるフォント名の数は、最大 256 個です。最大数を超えて指定したフォントは有効になりません。

開始コード [- 終了コード][, 開始コード [- 終了コード]] ･･･

- 0 面の文字を指定する場合は、4 桁の 16 進文字で UNICODE（UCS2）のコード範囲を指定します。
  1 ～ 16 面の文字を指定する場合は、5 ～ 8 桁の 16 進文字で UNICODE（UCS4）のコード範囲を指定します。
  なお、指定可能な 16 進文字は「0 ～ 9」および「A ～ F」であり、小文字での指定は無効です。
- 開始コードと終了コードを「-（ハイフン）」で区切ります。また、複数のコード範囲を指定する場合は「,（カンマ）」で区切って指定します。
- 1 文字だけ全角にする場合、開始コードのみ指定します。
- 開始コードと終了コードが等しい場合、開始コードのみ指定されたとして扱います。
- 開始コードが終了コード以下の場合に有効です。
- 「,（カンマ）」で区切られた複数のコード範囲間の大小関係は問いません。

例）出力時に、フォント "MS 明朝 " の UNICODE 文字 0x217A を全角とする場合
UNICODEW FONT="ＭＳ 明朝 ";217A

省略時

全半角テーブルはカスタマイズされません。

特記事項

- 帳票出力環境設定ファイルで指定することはできません。指定した場合の出力結果は、保証されません。
- PDF ファイル保存では「フォント名指定部」を記述した指定はできません。
- UNICODE 文字のコード範囲指定で、開始コードが 16 進 4 桁（UCS2）、終了コードが 16 進 5 ～ 8 桁（UCS4）の場合、指定は無効になります。
- 当キーワードで、UNICODE（UCS2）の 0x007F 以下のコードを指定しても無効となり、常に半角となります。
- 利用する全半角テーブルについては、以下を参照してください。
  ⇒ " 付録 D　全半角テーブル "

指定例

UNICODEN の指定例を参照してください。なお、UNICODEN は UNICODEW に、半角は全角に読み替えてください。

LWMATQUALITY

書式

LWMATQUALITY Y|N

説明

List Creator 互換印刷時の動作モードを指定します。

Y　：品質重視モードで動作します。
List Creator 互換印刷時に、帳票に異常がないかチェックを行いながら帳票出力するモードです。異常な帳票を List Works に登録されることを防ぎます。

N　：性能重視モードで動作します。
品質重視モードに比べ、短時間で帳票が出力できます。ただし、帳票出力時

に発生する一部のエラー（組込みメディアデータ異常やオーバレイファイル異常、システム関数でのエラー）をチェックしないため、List Works 登録後の帳票出力時にエラーが発生する場合があります。したがって、あらかじめ帳票を直接プリンタに印刷し、異常がないか確認することを推奨します。

例）LWMATQUALITY　Y

省略時

帳票出力環境設定ファイルの指定にしたがいます。
帳票出力環境設定ファイルでも省略されている場合やキーワードのみを指定して値を省略した場合は、「Y」（品質重視モードで動作する）となります。

特記事項

- List Creator 互換印刷のみ有効です。
- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.4.3　帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係 ”

STAMPTYPE

書式

STAMPTYPE T1|T2

説明

透過色を指定して画像を出力する時の描画方法を指定します。
描画方法は 2 種類あり、それぞれの描画方法で以下の特徴があります。

- 描画方法 1
  - スプールサイズが描画方法 2 を指定した時にくらべ大きくなり、プリンタドライバのプリントプロセッサのデータ型に「EMF」を設定している場合、極端に大きくなる場合があります。
  - PostScript ドライバを使用したプリンタへの印刷では、指定した透過色の部分が黒く塗りつぶされて描画されます。

  これらの現象を回避するには、以下を試行してください。
  - 描画方法 2 に変更する
  - 使用するドライバを PostScript 以外に変更する
  - プリンタを変更する
- 描画方法 2
  - 出力するプリンタによっては、画像の描画品質が落ちます（粗くなります）。

  現象を回避するには、以下を試行してください。
  - プリンタの解像度を上げる
  - 描画方法 1 に変更する
  - プリンタを変更する

T1　　：描画方法 1 で印刷します。

T2　　：描画方法 2 で印刷します。

例）STAMPTYPE　T1

省略時

帳票出力環境設定ファイルの指定にしたがいます。
帳票出力環境設定ファイルでも省略されている場合やキーワードのみを指定して値を省略した場合は、T2（描画方法 2 で印刷する）となります。

特記事項

- 印刷（Windows 版のみ）、OWF ファイルの印刷、および List Creator 互換印刷で有効です。
- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.4.3　帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係 ”

BARCUST4DIR

書式

BARCUST4DIR Y|N

説明

帳票様式定義で指定するカスタマバーコードの印刷方向の出力について指定します。

Y　　：指定した印刷方向で出力します。

N　　：印刷方向の 180° は 0° として、270° は 90° として出力します。

例）BARCUST4DIR　Y

省略時

帳票出力環境設定ファイルの指定にしたがいます。
帳票出力環境設定ファイルでも省略されている場合やキーワードのみを指定して値を省略した場合は、「N」（印刷方向の 180° は 0° として、270° は 90° として出力する）となります。

特記事項

- 印刷（Windows 版のみ）、PDF ファイル保存、OWF ファイルの印刷、および List Creator 互換印刷で有効です。
- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.4.3　帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係 ”

PDFCUSTBARPOS

書式

PDFCUSTBARPOS F|C

説明

同じ帳票を印刷と PDF ファイル保存で出力した場合、カスタマバーコードの出力位置にズレが発生します。この位置ズレを補正し、出力結果を印刷に合わせる場合に指定します。

F　　：カスタマバーコードの出力位置のズレを補正します。

C　　：カスタマバーコードの出力位置のズレを補正しません。

例）PDFCUSTBARPOS F

省略時

帳票出力環境設定ファイルの指定にしたがいます。
帳票出力環境設定ファイルでも省略されている場合やキーワードのみを指定して値を省略した場合は、「C」（カスタマバーコードの出力位置のズレを補正しない）となります。

特記事項

- PDF ファイル保存のみ有効です。
- 帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係については、以下を参照してください。
  ⇒ “3.4.3　帳票出力環境設定ファイルと帳票出力情報ファイルとの関係 ”

●帳票出力情報ファイルの記述例

帳票出力情報ファイルの記述例について説明します。

設定項目

帳票出力情報ファイルに以下のように定義します。

①グラフ描画解像度 ：600
②グラフ描画カラーモード ：グラフデータの色情報を有効にする
③ PDF 出力時の JIS2004 文字の出力 ：サロゲートペアを出力する
④ UNICODE 半角文字の範囲を指定 ：ＭＳ ゴシックの [7FF1] を半角として扱う
⑤ UNICODE 全角文字の範囲を指定 ：ＭＳ 明朝の [7FF1] を全角として扱う
⑥画像の透過出力描画方法 ：描画方法 1 で印刷する

記述例

記述例を以下に示します。

```
GRAPHRESOLUTION  600                    …………… ①
GRAPHDRAWCOLOR  C                       …………… ②
PDFJIS2004MODE  Y                       …………… ③
UNICODEN FONT="ＭＳ ゴシック";7FF1 …………… ④
UNICODEW FONT="ＭＳ 明朝";7FF1         …………… ⑤
STAMPTYPE  T1                           …………… ⑥
```

7.5.5　電子帳票情報ファイル

電子帳票情報ファイルは、List Creator デザイナで作成した帳票を帳票出力インタフェースを利用してリスト管理サーバの保管フォルダに電子帳票として保存する場合に、帳票の有効期限などの電子保存情報を定義するファイルです。

電子帳票情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、指定方法については、以下を参照してください。

⇒ “7.5.1　情報ファイルとは”

電子帳票情報ファイルの記述形式、およびキーワードと値などの詳細については、List Works に添付のオンラインマニュアルを参照してください。

7.5.6　電子保存時 /FAX 送信時の FAX 受信者情報ファイル

FAX 受信者情報ファイルは、以下の場合に、FAX 受信者に関する情報を定義するファイルです。

- List Creator デザイナで設計した帳票を、帳票出力インタフェースを利用して電子保存した後に FAX 送信する場合
- List Creator デザイナで設計した帳票を、帳票出力インタフェースを利用して FAX 送信する場合

FAX 受信者情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、指定方法については、以下を参照してください。

⇒ “7.5.1　情報ファイルとは”

以下に、FAX 受信者情報ファイルの記述形式について示します。

● FAX 送信者 / 受信者情報の記述形式

FAX 受信者情報は、以下の形式で指定します。

FAX 番号 [, 名前 [, 所属 [, 住所 [, 電話番号]]]]

FAX 受信者情報は、1 行に 1 件を以下の形式で記述します。[ ] は、省略できることを示します。
複数件指定する場合は、次の行に記述します。改行のみの行は記述しないでください。
なお、FAX 受信者情報ファイルには、FAX 受信者情報を 100 件以内で記述してください。100 件を超えて記述するとエラーになります。

FAX 番号（FAX 送信者情報は任意、FAX 受信者情報は必須）

FAX 番号を 19 バイト以内で指定します。
以下の文字が使用できます。

数字、「(」、「)」、「-」

注意
- FAX 受信者情報を指定する場合は、FAX 番号を必ず指定してください。

名前（任意）

名前を 63 バイト以内で指定します。
以下の文字は使用できません。

「,」

所属（任意）

会社や所属部署などを 127 バイト以内で指定します。
以下の文字は使用できません。

「,」

住所（任意）

住所を 127 バイト以内で指定します。
以下の文字は使用できません。

「,」

電話番号（任意）

電話番号を 19 バイト以内で指定します。
以下の文字が使用できます。

数字、「(」、「)」、「-」

以下に FAX 受信者情報ファイルの記述例を示します。

```
99-9999-9999, 日本　太郎 , 営業 1 課
99-9999-9999, 日本　花子 , 営業 2 課
```

7.5.7　PDF 文書情報ファイル

PDF 文書情報ファイルは、List Creator デザイナで設計した帳票を、帳票出力インタフェースを利用して PDF ファイルに変換し、指定された格納先に保存する場合に、PDF ファイルの仕様や動作などの情報を定義するテキストファイルです。

ただし、帳票出力インタフェースで指定する PDF 文書情報ファイルには、以下の制限があります。

- PDF メール配信に関する情報は、PDF メール配信情報ファイルで指定してください。
  詳細については、以下を参照してください。
  ⇒ “7.5.8　PDF メール配信情報ファイル ”
- PDF 文書情報ファイルには、List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の［ファイル］タブ、または帳票出力インタフェースで指定できない情報のみ指定してください。

PDF 文書情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、指定方法については、以下を参照してください。

⇒ “7.5.1　情報ファイルとは ”

PDF 文書情報ファイルの記述形式、およびキーワードと値などの詳細については、オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ” の「PDF 変換機能の利用手順」の記載を参照してください。

7.5.8 PDF メール配信情報ファイル

PDF メール配信情報ファイルは、List Creator デザイナで設計した帳票定義情報を、帳票出力インタフェースを利用して PDF ファイルに変換してメール配信する場合に使用します。
PDF メール配信情報ファイルは、PDF 文書情報ファイルの PDF ファイルのメール配信に関連する [MLF_Mail] セクション、および [MLF_Message] セクションのみを記述したものです。

PDF メール配信情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、指定方法については、以下を参照してください。
⇒ “7.5.1 情報ファイルとは ”
PDF メール配信情報ファイルの記述形式、およびキーワードと値などの詳細については、オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ” の「PDF 変換機能の利用手順」の [MLF_Mail] セクションおよび [MLF_Message] セクションの記述を参照してください。

7.5.9 Excel 文書情報ファイル

Excel 文書情報ファイルは、List Creator デザイナで設計した帳票を、帳票出力インタフェースを利用して Excel ファイルに変換し、指定された格納先に保存する場合に、Excel ファイルの仕様や動作などの情報を定義するテキストファイルです。
ただし、帳票出力インタフェースで指定する Excel 文書情報ファイルには、以下の制限があります。

- Excel 文書情報ファイルには、List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の［ファイル (Excel)］タブ、または帳票出力インタフェースで指定できない情報のみ指定してください。

Excel 文書情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、指定方法については、以下を参照してください。
⇒ “7.5.1 情報ファイルとは ”
Excel 文書情報ファイルの記述形式、およびキーワードと値などの詳細については、オンラインマニュアル “Excel ファイル出力機能編 ” を参照してください。

7.5.10 ECM 情報ファイル

ECM 情報ファイルとは、ECM 連携ファイルのファイル名や文字コード系など、ECM 連携機能に関する情報を指定するファイルです。
ECM 情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、指定方法については、以下を参照してください。
⇒ “7.5.1 情報ファイルとは ”
ECM 情報ファイルの記述形式、およびキーワードと値などの詳細については、以下を参照してください。
⇒ “15.3 ECM 情報ファイル ”

7.6 帳票資源、および帳票出力先の指定について

【Windows 版】では、帳票資源の格納先および帳票の出力先を UNC 指定（¥¥ コンピュータ名 ¥ 共有名 ¥ ディレクトリ名）することができます。
【UNIX 系 OS 版】では、ローカルディスク、およびリモートマウントしたディレクトリのみ指定できます。

7.6.1 UNC 指定が可能なコマンド、インタフェース

UNC 指定が可能なコマンド、インタフェースは以下のとおりです。

- コマンド
  （prprint コマンド、prputprt コマンド（アプリケーションサーバからの参照）、prputex コマンド、prview コマンド、prtest コマンド）
- Java インタフェース
- .NET インタフェース
- カスタムコントロール
- COBOL インタフェース

7.6.2 ファイル、ファイルの格納先の指定に関する注意事項

以下に、帳票資源の格納先および帳票の出力先について説明します。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">運用形態や機能</th><th colspan="2">指定できる格納先（出力先）</th><th colspan="2">指定できない格納先（出力先）</th></tr>
<tr><th>アプリケーションサーバ</th><th>帳票出力サーバ</th><th>アプリケーションサーバ</th><th>帳票出力サーバ</th></tr>
<tr><td colspan="2">スタンドアロン型</td><td colspan="2">- ローカルディスク
- UNC 指定
- リモートマウントしたディレクトリ</td><td colspan="2">- ネットワークドライブ
- リムーバブルディスク</td></tr>
<tr><td rowspan="2">分散出力型</td><td>リモート帳票出力型
(*1)</td><td>- ローカルディスク
- UNC 指定
- リモートマウントしたディレクトリ</td><td>- ローカルディスク
- リモートマウントしたディレクトリ</td><td>- ネットワークドライブ
- リムーバブルディスク</td><td>- UNC 指定
- ネットワークドライブ
- リムーバブルディスク</td></tr>
<tr><td>コネクタ連携型
(*1)(*2)(*3)</td><td colspan="2">- ローカルディスク
- UNC 指定
- リモートマウントしたディレクトリ</td><td colspan="2">- ネットワークドライブ
- リムーバブルディスク</td></tr>
<tr><td colspan="2">Web 手元印刷型</td><td colspan="4">スタンドアロン型、分散出力型の場合と同様です。
ただし、Web サーバ経由で帳票資源の参照先、および帳票の出力先を UNC 指定とする場合、Web サーバでの帳票出力時の実行ユーザに指定先のファイル、およびディレクトリへのアクセス権を設定する必要があります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">到着監視機能</td><td colspan="2">- ローカルディスク</td><td colspan="2">- UNC 指定
- ネットワークドライブ
- リモートマウントしたディレクトリ
- リムーバブルディスク</td></tr>
</table>

*1：XBRL データ対応 /Navigator 連携機能使用時、Database Direct 連携機能使用時、およびクエリ機能使用時は、ローカルディスク以外は指定できません。

*2：帳票資源をアプリケーションサーバに配置して帳票出力した場合、アプリケーションサーバから帳票出力サーバに帳票資源が転送されます。アプリケーションサーバと帳票出力サーバの動作オペレーティングシステムが異なる場合は、指定できるパス長などに留意が必要です。

ファイルを転送する場合に、指定可能なファイルパス長については、以下を参照してください。

⇒ “11.1　環境構築時、運用時の注意事項 ”

*3：コネクタ連携時に帳票資源の参照先、帳票の出力先を UNC 指定とする場合の環境設定については、以下を参照してください。

⇒ “4.4　帳票資源の参照先、帳票の出力先を UNC 指定にするための 設定 ”

第 3 部 帳票の出力

ここでは、List Creator の帳票出力について説明しています。

第 8 章
List Creator の帳票出力

ここでは、List Creator の帳票出力機能における出力方法共通の前提事項、および留意事項について説明しています。

8.1 出力の優先順序

List Creator では、出力方法を複数指定して出力したり、複数の方法で出力時の情報を指定したりできます。

ここでは、出力時の指定が重なった場合、どのように出力されるかについて説明します。

●出力方法を複数指定した場合

一度の出力で、出力方法を複数指定した場合、以下の優先順序で出力されます。

1）印刷
2）電子保存
3）FAX 送信
4）PDF ファイル
5）OWF ファイル
6）Excel ファイル出力

例えば、印刷と電子保存を同時に指定した場合は、上記の優先順序にしたがって、帳票をプリンタに出力した後に、リスト管理サーバに電子保存します。

ただし、上記のいずれかの出力方法でエラーが発生した場合は、それ以降の出力は行われません。

●帳票業務情報とユーザアプリケーションの指定

List Creator では、帳票の出力に関する指定は、コマンドやユーザアプリケーションなどを利用し、帳票出力時に指定します。

帳票出力に関する指定の一部は、帳票設計時に帳票業務情報でも指定することができます。

この場合、指定の優先順序は以下のようになります。

1）帳票出力時の指定
（コマンドやユーザアプリケーションでの指定）
2）帳票業務情報のプロパティ画面での指定

●環境設定とユーザアプリケーションの指定

帳票格納ディレクトリなどの環境に関する情報は、環境設定で指定できるものもあります。

この場合、指定の優先順序は、以下のようになります。

1）帳票出力時の指定
（コマンドやユーザアプリケーションでの指定）
2）環境設定画面、または環境設定コマンドや環境変数などによる指定

8.2 帳票設計時と異なる環境で出力するには

帳票設計と異なる環境で帳票を出力する場合の前提事項、および留意事項について説明します。

8.2.1 帳票設計時と異なるオペレーティングシステムで出力するには

設計時のオペレーティングシステムの環境と出力時（プレビューを含む）の環境が異なる場合、出力される文字の位置およびピッチが異なることがあります。

以下のいずれかの方法により、List Creator デザイナで、「MS 明朝」や「MS ゴシック」などの日本語固定ピッチフォントを使用した、オペレーティングシステムに依存しない帳票を設計することができます。

- 文字ピッチを指定する
    - 固定リテラル項目、数字項目、テキスト項目、日付項目、時刻項目の場合
      帳票様式定義画面で、項目のプロパティ画面の［フォント］タブの「ピッチ」チェックボックスをチェックし、「日本語」ピッチが「英文」ピッチの 2 倍となるサイズを指定してください。
      数字項目またはテキスト項目の場合は、ピッチ指定後に［プロパティ］タブの［再計算］ボタンをクリックして、領域長を計算してください。
    - 矩形固定リテラル項目の場合
      帳票様式定義画面で、項目のプロパティ画面の［フォント］タブの「ピッチ」チェックボックスをチェックし、「日本語」ピッチは「英文」ピッチの 2 倍となるサイズを指定してください。
      ピッチ指定後に［プロパティ］タブの「サイズ」で縦幅、横幅を再設定してください。
    - オーバレイ文字の場合
      帳票様式定義画面で、項目のプロパティ画面の［フォント］タブの「文字間隔」を指定してください。
- 文字配置を指定する
    - 固定リテラル項目、数字項目、テキスト項目、日付項目、または時刻項目の場合
      帳票様式定義画面で、項目のプロパティ画面の［文字配置］タブの「配置方法」に、「両端揃え」、または「圧縮」を指定してください。
    - オーバレイ文字の場合
      帳票様式定義画面で、オーバレイ文字のプロパティ画面の［文字配置］タブの「配置方法」に「両端揃え」、または「文字幅の自動調節」を指定してください。

8.2.2 英語環境（英語ロケール）で出力するには

List Creator は、日本語環境以外に英語環境（英語ロケール）で帳票を出力することができます。

●英語環境（英語ロケール）

英語環境（英語ロケール）とは、以下の環境を指します。

- Windows の場合

  英語版 Windows で、システム ロケール（*1）が英語に設定されている環境です。

注意

- List Creator はシステム ロケールに依存しているため、製品インストール後にシステム ロケールを変更しないでください。
- 英語環境（英語ロケール）で、Windows の表示言語（UI 言語）（*2）を日本語に設定しても、List Creator のユーザインタフェース言語は英語となります。

*1：システム ロケールとは、Windows の［コントロール パネル］の「地域と言語」（Regional and Language）の以下に設定されている言語のことです。
“Unicode 対応でないプログラムの言語 ”（Language for non-Unicode Programs）

*2：表示言語（UI 言語）とは、Windows の［コントロール パネル］の「地域と言語」（Regional and Language）の「キーボードと言語」（Keyboards and Languages）の以下に設定されている言語のことです。
“ 表示言語 ”（Display Language）

注意

- Windows XP/Windows Server 2003 の場合、通常は設定を変更することはできません。
  Multilingual User Interface（MUI、多国語版）を適用した環境の場合に変更できます。

- UNIX 系 OS の場合

  アプリケーションの LANG 環境変数に「en_US.UTF-8」が設定されている環境です。

備考

- Solaris において LANG 環境変数に「en_US.UTF-8」を設定するには、北アメリカのロケール（en_US.UTF-8 を含む）をインストールしておく必要があります。
- ロケールがインストールされているかどうかは、以下のコマンドを使用して確認することができます。
  ・ Solaris 9（9/04 リリース以降）、Solaris 10 の場合
  localeadm -lc
  ・ Solaris 9（9/04 リリースより以前）/Linux for Intel64 の場合
  locale -a

●英語環境（英語ロケール）での運用とは

英語環境（英語ロケール）での運用とは、以下の運用を指します。

- 英語環境（英語ロケール）で出力する場合
- 分散出力時、アプリケーションサーバまたは帳票出力サーバのどちらかが英語環境（英語ロケール）の場合
- Web アプリケーション連携機能使用時、サーバまたはクライアントのどちらかが英語環境（英語ロケール）の場合

8.2.3 英語環境（英語ロケール）で運用する場合の留意事項

以下に英語環境（英語ロケール）での運用に関する留意事項を示します。

●帳票資源のファイル名に関する留意事項

- 帳票定義情報の帳票名は、半角英数・記号（ASCII 範囲）で指定してください。
- 入力データ、メディアデータおよび情報ファイルなどの帳票資源のファイル名、および格納先ディレクトリ名は、半角英数・記号（ASCII 範囲）で指定してください。
- PDF ファイルや Excel ファイルなどの出力ファイル名、および出力先ディレクトリ名は、半角英数・記号（ASCII 範囲）で指定してください。

●帳票定義情報設計時の留意事項

- 項目名には、半角英数字（A 〜 Z、a 〜 z、0 〜 9）、半角ハイフン（-）、および半角アンダーバー（_）のみ使用できます。
- 入力データ形式が「XML 形式」のときのデータルート名、タグ名には、半角英数（A 〜 Z、a 〜 z、0 〜 9）、半角ハイフン（-）、半角ピリオド（.）、および半角アンダーバー（_）のみ使用できます。
- 以下の項目の属性に指定できる文字列は、帳票のプロパティ画面の［帳票定義体］タブの「Unicode の文字を使用する」の指定により、以下のようになります。

  ・「Unicode の文字を使用する」をチェックしない場合
  半角英数・記号（ASCII 範囲）が指定できます。
  ・「Unicode の文字を使用する」をチェックする場合
  Unicode の文字が指定できます。

対象			属性
項目のプロパティ画面	数字項目	［編集形式］タブ（数値の場合）	前符号文字
		［編集形式］タブ（通貨の場合）	通貨記号文字
		［編集形式］タブ（日付の場合）	文字列
		［集団印刷］タブ	印刷文字 (*1)
		［条件指定］タブ	条件式
	- テキスト項目 - 矩形テキスト項目	［集団印刷］タブ	印刷文字
		［条件指定］タブ	条件式
	- ラジオボタン項目 - チェックボックス項目	［プロパティ］タブ	ラベル

*1：集計表形式およびフリーフレーム形式の場合、Unicode 固有の文字およびサロゲートペアの文字を指定すると、「アンダーバー（_）」で出力されます。

- 以下の項目の属性は、半角英数・記号（ASCII 範囲）で定義してください。

対象			属性
帳票のプロパティ画面		［帳票定義体］タブ	用紙名
項目のプロパティ画面	オーバレイ文字	［プロパティ］タブ	文字列
	矩形オーバレイ文字	［プロパティ］タブ	文字列
データ定義画面		-［データ定義］タブ -［データ定義（レポート頭書き）］タブ -［拡張定義］タブ	段落、文字列
帳票業務情報のプロパティ画面		すべてのタブ	すべての属性 (*1)

*1：PDF ファイル保存時に［ファイル］タブで指定する以下の文字列の初期値は日本語となっているため、運用環境に応じて変更してください。
　・ URI による閲覧制限時に表示されるメッセージ

・ 閲覧制限時の動作「マスク時の表示」の文字列

- 帳票のプロパティ画面の［禁則処理］タブの“禁則文字を指定する”は選択しないでください。
  矩形テキスト項目の禁則処理で行頭 / 行末禁則を指定したい場合は、帳票のプロパティ画面で「Unicode の文字を使用する」を選択して、［禁則処理］タブの“禁則文字を指定する”を指定してください。
- 項目、オーバレイ文字のフォント名には、フォント名に日本語が含まれないフォント（「MS UI Gothic」など）を指定してください。
  例えば、項目のフォントを「ＭＳ 明朝」で出力したい場合は「MS UI Gothic」で定義し、「MS UI Gothic」の置換フォントとして「MS Mincho」を指定してください。
  置換フォントは、帳票業務情報のプロパティ画面の［印刷］タブで指定するか、または帳票出力時に「置換フォント情報ファイル」で指定します。

●組合せフォーム名に関する留意事項

- 組合せフォーム名は、半角英数・記号（ASCII 範囲）で指定してください。

●入力データに関する留意事項

- 入力データの文字コード系には、Unicode を指定してください。

●情報ファイルに関する留意事項

- 各種情報ファイルは、半角英数・記号（ASCII 範囲）で記述してください。

●帳票出力時の留意事項

- 帳票出力インタフェースのオプションやプロパティで指定する文字列データは、半角英数・記号（ASCII 範囲）で指定してください。

8.3 データ到着監視機能の運用

帳票の出力時には、以下の点を考慮してください。

- アプリケーションで監視ディレクトリにデータファイルを作成したり、コピーしたりする場合、他のアプリケーションがデータファイルに書き込みできないようにしてください（排他状態にしてください)。排他状態となっていない場合、作成途中やコピー途中のデータファイルを使用して帳票が出力されることがあります。
- データ到着監視を行う場合は、環境設定の［全般］タブの「文字コード系」で、到着するデータファイルの文字コード系を指定しておいてください。
- 帳票出力サーバが Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008 の場合、環境設定の［全般］タブの「通常使うプリンタ」は指定できません（マスクされます)。帳票出力時に必ず印刷プリンタ名を指定してください。
- 監視ディレクトリおよび移動先ディレクトリに指定できるのは、ローカルの固定ドライブのみです。ローカルの固定ドライブ以外を指定した場合は、環境設定でエラーになります。
  固定ドライブに該当しないのは以下のデバイスに相当します。
  - ・リムーバブルメディア
  - ・ネットワークドライブ
  - ・CD-ROM ドライブ
  - ・RAM ディスク
  - ・ドライブの種類が特定できないドライブ

  また、UNC 指定はできません。
- アプリケーションや FTP などのファイル転送コマンドによる転送ではなく、NFS や Windows のネットワークドライブなどの共有フォルダ経由で監視ディレクトリにデータファイルをコピーするような運用の場合、以下の手順で監視ディレクトリにデータファイルをコピーしてください。以下の手順で運用しない場合、動作は保証されません。
  1）データファイルを環境設定の［到着監視］タブの「データファイルの拡張子」と異なる拡張子で作成します。
  2）データファイルを「監視ディレクトリ」にコピーします。
  3）2）でコピーしたデータファイルの拡張子を環境設定の［到着監視］タブの「データファイルの拡張子」に変更します。
- データ到着監視時の帳票を出力するユーザは、サービス「ListCREATOR Service」のログオンユーザです。
- 利用者定義文字が出力されない場合がありますのでご注意ください。
- データファイルが複数到着していた場合、ファイル名順に帳票出力処理を実行しますが、実際に出力される順序は必ずしも保障されません。

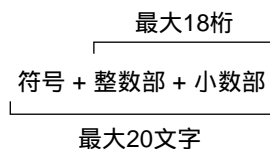
8.4 項目長 / 領域長にデータが収まらない場合について

8.4.1 項目長にデータが収まらない場合の動作について

- 数字項目に対する入力データが以下の文字数および桁数の範囲内で指定されていない場合は、不当なデータのエラーとなります。

最大18**桁**

符号 + 整数部 + 小数部

最大20**文字**

- 以下のものは、1 文字または 1 桁として含まれません。
  - ・数字項目に対する入力データの整数部先頭が「0」の場合
  - ・数字項目に対する入力データの小数部末尾が「0」の場合
  - ・数字項目以外の項目に対する入力データの末尾に半角空白がある場合
- 以下の指定を行い、出力方法を複数指定して帳票を出力した場合は、「エラー発生件数 × 出力方法の指定数」がエラー発生件数として通知されます。
  - ・【Windows 版】の場合
環境設定画面の［出力時の動作］タブで、「警告」として通知する指定
  - ・【UNIX 系 OS 版】の場合
prsetdigitovermsg コマンドの -s オプションまたは prsetterritovermsg コマンドの -s オプションで、「警告」としてエラー通知する指定
- 以下の指定を行った場合で、HEADSTR 演算、TAILSTR 演算の演算結果がすでに項目長を超えている場合、エラー発生件数は 2 件となります。
  - ・【Windows 版】の場合、環境設定画面の［出力時の動作］タブで、「警告」として通知する指定を行った場合
  - ・【UNIX 系 OS 版】の場合、prsetdigitovermsg コマンドの -s オプションで、「警告」としてエラー通知する指定を行った場合
- 入力データ形式が「XML 形式」の場合は、通知されたメッセージに表示されるデータ長が XML のデータ長とは一致しない場合があります。
- 以下の条件のバーコード項目のデータが項目長を超える場合、通知されたメッセージに表示される項目長は「項目長 -2」となります。
  - ・Code 128、EAN-128 のバーコード項目に、帳票の出力時、入力データに BASE64 エンコードしたデータを使用する指定を行った場合
  - ・Code 128、EAN-128、QR Code（モデル 1）、QR Code（モデル 2）、QR Code（マイクロ QR）、PDF417、MaxiCode のバーコード項目に、「制御コードの代替文字列指定を行う」指定を行った場合

8.4.2 領域長にデータが収まらない場合の動作について

- 数字項目の文字配置に「指定なし」を指定した場合は、編集形式の指定に関係なく前空白を含めたデータで文字配置されます。
このとき、項目の領域長にデータが収まらない場合にメッセージを通知する指定をしていた場合は、以下のように通知されます。

例）数字項目の項目長が「5」、編集形式が「ZZZZ9」のときにデータ「10」を出力した場合

・メッセージが通知されます

・メッセージは通知されません

※ □ **は領域長、「＿」は空白**

- 以下の指定を行い、出力方法を複数指定して帳票を出力した場合は、「エラー発生件数 × 出力方法の指定数」がエラー発生件数として通知されます。
  - 【Windows 版】の場合
    環境設定画面の［出力時の動作］タブで、「警告」として通知する指定
  - 【UNIX 系 OS 版】の場合
    prsetterritovermsg コマンドの -s オプションで、「警告」としてエラー通知する指定

8.5 SET 演算子 /SELECT 文の置換文字列の指定形式

置換文字列は、以下の形式で指定します。

- 置換文字列全体を以下で囲みます。
  - 【Windows 版】の場合
    「ダブルクォーテーション（")」
  - 【UNIX 系 OS 版】の場合
    「バックスラッシュ + ダブルクォーテーション（\"）」
    C 言語のシェルを使用しないプログラムから起動する場合は、置換文字列全体を「ダブルクォーテーション（")」で囲みます。
- 区切り文字には、以下を指定します。
  - 【Windows 版】の場合
    「セミコロン（;)」
    最後の「セミコロン（;)」はなくても構いません。
  - 【UNIX 系 OS 版】の場合
    「バックスラッシュ＋セミコロン（\;)」
    最後の「バックスラッシュ＋セミコロン（\;)」はなくても構いません。
    C 言語のシェルを使用しないプログラムから起動する場合は、「セミコロン（;)」で区切ります。
- 変数「%」と置換文字列がそのまま置換できる形式で指定します（置換後の文字列が SET 演算子、SELECT 文の仕様にしたがった形式になるように指定します)。
- 置換文字列は、先頭から変数「%」と置換文字列を順番に置換していきます。
- 置換文字列の数が不足している場合は、プレビュー / 帳票の出力時にエラーになります。
- 置換文字列の数が多すぎる場合は、エラーにはなりません。
- 置換文字列に半角空白と「ダブルクォーテーション（")」は指定できません。
- 以下の長さで、置換文字列を指定します。
  - 文字列定数は、64 バイト以内で指定します。
  - 数字定数は、18 桁（符号、小数点を除いた数字だけの文字数）以内で指定します。

  なお、長さの上限を超えて指定した場合、動作の保証はされません。
- 英語環境（英語ロケール）の場合、置換文字列は半角英数・記号（ASCII 範囲）が使用できます。

8.6 メディアデータのサポート範囲

以下に、帳票出力サーバのオペレーティングシステムごとに、メディアデータのサポート可否について説明します。

8.6.1 帳票出力サーバが Windows の場合

帳票出力サーバが Windows の場合は、以下のとおりです。

<table>
<tr><th rowspan="2">メディアデータの種類</th><th colspan="2">使用できる拡張子</th><th rowspan="2">印刷 / FAX 送信 / OWF ファイル生成</th><th rowspan="2">電子保存</th><th rowspan="2">PDF ファイル保存</th><th rowspan="2">Excel ファイル出力 (*6)</th></tr>
<tr><th>自動判別対象</th><th>自動判別対象外</th></tr>
<tr><td>ビットマップデータ</td><td>BMP</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td><td>○ (*5)</td><td>○</td></tr>
<tr><td>JPEG データ</td><td>JPEG
JPG
JPE</td><td>JFIF</td><td>○ (*1)</td><td rowspan="4">(*4)</td><td>○ (*1)</td><td>○</td></tr>
<tr><td>OLE2 オブジェクト</td><td>－</td><td>アプリケーションによる</td><td>○ (*2)</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td>TIFF データ</td><td>TIF
TIFF</td><td>JFX</td><td>○ (*3)</td><td>○ (*3)</td><td>○ (*3)</td></tr>
<tr><td>PNG データ</td><td>PNG</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>グラフデータ (*7)</td><td>GRH
GRD</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

○：サポート
×：未サポート
－：使用できる拡張子なし

*1：処理方式、およびカラー形式のサポート状況は以下のとおりです。
- 処理方式
  デジタル静止画像圧縮形式（JPEG 形式）の基本 DCT 方式（ベースライン JPEG）、拡張 DCT 方式（プログレッシブ JPEG）の JPEG データが使用できます。可逆方式、およびハイアラーキカル方式の JPEG データは使用できません。
- カラー形式
  RGB 形式のみ使用できます。

*2：Web 手元印刷機能のコンポーネント機能では使用できません。
*3：出力できる TIFF データは、以下の圧縮形式のみです。
- 非圧縮
- LZW 圧縮
- MH 圧縮（ITU-T Group3(1d) Modified Huffman）
- MR 圧縮（ITU-T Group3(1d) Fax）
- MMR 圧縮（ITU-T Group4(2d) Fax）
- PackBits
- JPEG 圧縮（PDF ファイル保存時のみ有効）

また、出力できるカラーは、以下のとおりです。
- 1 ビット（2 値画像：モノクロ）
- 4 ビット（パレットカラー）
- 8 ビット（パレットカラー）
- 24 ビット（RGB フルカラー）

上記以外の圧縮形式は出力できません。
また、Wang の Imaging（Windows NT 4.0 以前の Windows に添付）で作成した Packed Bits 形式の TIFF データはビット順が逆転して格納されるため、Imaging で正しく表示できても崩れて出力されることがあります。この場合、Imaging で開いて圧縮形式を変更した後、再度格納してください。

*4：使用できるメディアデータの種類については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
*5：Windows ビットマップが使用できます。
*6：Excel ファイル出力時のメディアデータの詳細なサポート範囲については、オンラインマニュアル “Excel ファイル出力機能編 ” を参照してください。
*7：グラフユーティリティで生成されるグラフ属性ファイル、グラフデータファイルを指します。
グラフデータの詳細については、オンラインマニュアル “ 帳票設計編 ” を参照してください。

8.6.2 帳票出力サーバが Solaris の場合

帳票出力サーバが Solaris の場合は、以下のとおりです。

<table>
<tr><th rowspan="2">メディアデータの種類</th><th colspan="2">使用できる拡張子</th><th rowspan="2">印刷</th><th rowspan="2">電子保存</th><th rowspan="2">PDF ファイル保存</th><th rowspan="2">Excel ファイル出力 (*5)</th></tr>
<tr><th>自動判別対象</th><th>自動判別対象外</th></tr>
<tr><td>ビットマップデータ</td><td>BMP</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td><td>○ (*4)</td><td>○</td></tr>
<tr><td>JPEG データ</td><td>JPEG
JPG
JPE</td><td>JFIF</td><td>○ (*1)</td><td rowspan="4">(*3)</td><td>○ (*1)</td><td>○</td></tr>
<tr><td>OLE2 オブジェクト</td><td>－</td><td>－</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td>TIFF データ</td><td>TIF
TIFF</td><td>JFX</td><td>○ (*2)</td><td>○ (*2)</td><td>○ (*2)</td></tr>
<tr><td>PNG データ</td><td>－</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>グラフデータ (*6)</td><td>GRH
GRD</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

○：サポート
×：未サポート
－：使用できる拡張子なし

*1：処理方式、およびカラー形式のサポート状況は以下のとおりです。
・処理方式
デジタル静止画像圧縮形式（JPEG 形式）の基本 DCT 方式（ベースライン JPEG）、拡張 DCT 方式（プログレッシブ JPEG）の JPEG データが使用できます。可逆方式、およびハイアラーキカル方式の JPEG データは使用できません。
・カラー形式
RGB 形式のみ使用できます。
*2：出力できる TIFF データは、以下の圧縮形式のみです。
- 非圧縮
- LZW 圧縮
- MH 圧縮（ITU-T Group3(1d) Modified Huffman）
- MR 圧縮（ITU-T Group3(1d) Fax）
- MMR 圧縮（ITU-T Group4(2d) Fax）
- PackBits
- JPEG 圧縮（PDF ファイル保存時のみ有効）

また、出力できるカラーは、以下のとおりです。
- 1 ビット（2 値画像：モノクロ）
- 4 ビット（パレットカラー）
- 8 ビット（パレットカラー）
- 24 ビット（RGB フルカラー）

上記以外の圧縮形式は出力できません。
また、Wang の Imaging（Windows NT 4.0 以前の Windows に添付）で作成した Packed Bits 形式の TIFF データはビット順が逆転して格納されるため、Imaging で正しく表示できても崩れて出力されることがあります。この場合、Imaging で開いて圧縮形式を変更した後、再度格納してください。

*3：使用できるメディアデータの種類については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
*4：Windows ビットマップが使用できます。
*5：Excel ファイル出力時のメディアデータの詳細なサポート範囲については、オンラインマニュアル “Excel ファイル出力機能編 ” を参照してください。
*6：グラフユーティリティで生成されるグラフ属性ファイル、グラフデータファイルを指します。
グラフデータの詳細については、オンラインマニュアル “ 帳票設計編 ” を参照してください。

8.6.3 帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合

帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合は、以下のとおりです。

メディアデータの種類	使用できる拡張子		印刷	電子保存	PDF ファイル保存	Excel ファイル出力 (*5)
	自動判別対象	自動判別対象外				
ビットマップデータ	BMP	―	○	(*3)	○ (*4)	○
JPEG データ	JPEG JPG JPE	JFIF	○ (*1)		○ (*1)	○
OLE2 オブジェクト	―	―	×		×	×
TIFF データ	TIF TIFF	JFX	○ (*2)		○ (*2)	○ (*2)
PNG データ	PNG	―	○		○	○
グラフデータ (*6)	GRH GRD	―	○	○	○	○

○：サポート
×：未サポート
－：使用できる拡張子なし

*1：処理方式、およびカラー形式のサポート状況は以下のとおりです。
・ 処理方式
デジタル静止画像圧縮形式（JPEG 形式）の基本 DCT 方式（ベースライン JPEG）、拡張 DCT 方式（プログレッシブ JPEG）の JPEG データが使用できます。可逆方式、およびハイアラーキカル方式の JPEG データは使用できません。
・ カラー形式
RGB 形式のみ使用できます。
*2：出力できる TIFF データは、以下の圧縮形式のみです。
- 非圧縮
- LZW 圧縮
- MH 圧縮（ITU-T Group3(1d) Modified Huffman）
- MR 圧縮（ITU-T Group3(1d) Fax）
- MMR 圧縮（ITU-T Group4(2d) Fax）
- PackBits
- JPEG 圧縮（PDF ファイル保存時のみ有効）

また、出力できるカラーは、以下のとおりです。
- 1 ビット（2 値画像：モノクロ）
- 4 ビット（パレットカラー）
- 8 ビット（パレットカラー）
- 24 ビット（RGB フルカラー）

上記以外の圧縮形式は出力できません。
また、Wang の Imaging（Windows NT4.0 以前の Windows に添付）で作成した Packed Bits 形式の TIFF データはビット順が逆転して格納されるため、Imaging で正しく表示できても崩れて出力されることがあります。この場合、Imaging で開いて圧縮形式を変更した後、再度格納してください。

*3：使用できるメディアデータの種類については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
*4：Windows ビットマップが使用できます。
*5：Excel ファイル出力時のメディアデータの詳細なサポート範囲については、オンラインマニュアル "Excel ファイル出力機能編 " を参照してください。
*6：グラフユーティリティで生成されるグラフ属性ファイル、グラフデータファイルを指します。
グラフデータの詳細については、オンラインマニュアル " 帳票設計編 " を参照してください。

8.6.4 帳票出力サーバが Linux for x86 の場合

帳票出力サーバが Linux for x86 の場合は、以下のとおりです。

メディアデータの種類	使用できる拡張子		印刷	PDF ファイル保存
	自動判別対象	自動判別対象外		
ビットマップデータ	BMP	―	○	○ (*2)
JPEG データ	JPEG JPG JPE	JFIF	×	○ (*3)
OLE2 オブジェクト	―	―	×	×
TIFF データ	TIF TIFF	JFX	○ (*1)	○ (*1)
PNG データ	―	―	×	○
グラフデータ	GRH GRD	―	×	×

○：サポート
×：未サポート
－：使用できる拡張子なし

*1：出力できる TIFF データは、以下の圧縮形式のみです。
- 非圧縮
- LZW 圧縮
- MH 圧縮（ITU-T Group3(1d) Modified Huffman）
- MR 圧縮（ITU-T Group3(1d) Fax）
- MMR 圧縮（ITU-T Group4(2d) Fax）
- PackBits
- JPEG 圧縮（PDF ファイル保存時のみ有効）

また、出力できるカラーは、以下のとおりです。
- 1 ビット（2 値画像：モノクロ）
- 4 ビット（パレットカラー）
- 8 ビット（パレットカラー）
- 24 ビット（RGB フルカラー）

上記以外の圧縮形式は出力できません。
また、Wang の Imaging（Windows NT 4.0 以前の Windows に添付）で作成した Packed Bits 形式の TIFF データはビット順が逆転して格納されるため、Imaging で正しく表示できても崩れて出力されることがあります。この場合、Imaging で開いて圧縮形式を変更した後、再度格納してください。
*2：Windows ビットマップが使用できます。
*3：処理方式、およびカラー形式のサポート状況は以下のとおりです。
・処理方式
デジタル静止画像圧縮形式（JPEG 形式）の基本 DCT 方式（ベースライン JPEG）、拡張 DCT 方式（プログレッシブ JPEG）の JPEG データが使用できます。可逆方式、およびハイアラーキカル方式の JPEG データは使用できません。

・ カラー形式
RGB 形式のみ使用できます。

8.6.5 帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合

帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合は、以下のとおりです。

メディアデータの種類	使用できる拡張子		印刷	電子保存	PDF ファイル保存	Excel ファイル出力
	自動判別対象	自動判別対象外				
ビットマップデータ	BMP	－	○	(*3)	○ (*4)	×
JPEG データ	JPEG JPG JPE	JFIF	○ (*1)		○ (*1)	
OLE2 オブジェクト	－	－	×		×	
TIFF データ	TIF TIFF	JFX	○ (*2)		○ (*2)	
PNG データ	PNG	－	○		○	
グラフデータ	GRH GRD	－	×	×	×	×

○：サポート
×：未サポート
－：使用できる拡張子なし

*1：処理方式、およびカラー形式のサポート状況は以下のとおりです。
・ 処理方式
デジタル静止画像圧縮形式（JPEG 形式）の基本 DCT 方式（ベースライン JPEG）、拡張 DCT 方式（プログレッシブ JPEG）の JPEG データが使用できます。可逆方式、およびハイアラーキカル方式の JPEG データは使用できません。
・ カラー形式
RGB 形式のみ使用できます。

*2：出力できる TIFF データは、以下の圧縮形式のみです。
- 非圧縮
- LZW 圧縮
- MH 圧縮（ITU-T Group3(1d) Modified Huffman）
- MR 圧縮（ITU-T Group3(1d) Fax）
- MMR 圧縮（ITU-T Group4(2d) Fax）
- PackBits
- JPEG 圧縮（PDF ファイル保存時のみ有効）

また、出力できるカラーは、以下のとおりです。
- 1 ビット（2 値画像：モノクロ）
- 4 ビット（パレットカラー）
- 8 ビット（パレットカラー）
- 24 ビット（RGB フルカラー）

上記以外の圧縮形式は出力できません。
また、Wang の Imaging（Windows NT4.0 以前の Windows に添付）で作成した Packed Bits 形式の TIFF データはビット順が逆転して格納されるため、Imaging で正しく表示できても崩れて出力されることがあります。この場合、Imaging で開いて圧縮形式を変更した後、再度格納してください。

*3：使用できるメディアデータの種類については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。

*4：Windows ビットマップが使用できます。

8.7 カスタマバーコードの印刷方向

バーコード項目のバーコード種別が「カスタマバーコード」の場合、帳票様式定義の項目のプロパティで印刷方向を指定しても指定どおりに出力されない場合があります。
以下に、出力方法ごとにカスタマバーコードの印刷方向の指定と出力結果（印字される方向）について示します。

印刷方向	出力結果（印字される方向）		
	印刷 /FAX 送信 / OWF ファイル生成	電子保存	PDF ファイル保存 / Excel ファイル出力
0°	→	→	→
90°	↑	×(*1)	↑
180°	→ (*2)	×(*1)	→ (*2)
270°	↑ (*2)	↑	↑ (*2)

→ ：左から右へ印字
↑ ：下から上へ印字
× ：指定不可

*1：電子保存時は、90°、および 180° が指定された場合、バーコードは出力されません。
*2：印刷 /FAX 送信 /OWF ファイル生成時、PDF ファイル保存時、および Excel ファイル出力時は、以下のように出力されます。

- 180° を指定した場合
  0° が指定されたとものとして出力されます。
- 270° を指定した場合
  90° が指定されたものとして出力されます。

第 9 章
印刷

ここでは、List Creator の印刷機能のサポート範囲、および注意事項などについて説明します。

9.1 印刷（【Windows 版】の場合）

ここでは、【Windows 版】で印刷する場合のサポート範囲、および VSP/VS/PS5000 シリーズプリンタ使用時の注意事項について説明します。

9.1.1 帳票様式情報 / 帳票業務情報のサポート範囲

Windows 環境で出力する場合、使用できるプリンタ種に制限はありません。Windows に定義されているすべてのプリンタを指定することができます。
【Windows 版】で印刷する場合、帳票様式情報および帳票業務情報で指定できる機能はすべて使用できます。

ただし、ご使用になるプリンタ装置によっては、一部使用できない機能や注意事項があります。
ご使用にあたり、プリンタ装置のサポート範囲を確認してください。

9.1.2 VSP/VS/PS5000 シリーズプリンタへ出力するには

帳票出力サーバが Windows の場合で、出力先のプリンタに、VSP/VS/PS5000 シリーズの連続紙インパクトプリンタ装置（VSP3801 など）を指定する場合、印字性能を最大限に発揮させるために、以下の点に注意して帳票を設計してください。

- 項目の左上を基点に、行ピッチ「1/6 インチ」、または「1/8 インチ」で行を意識して項目を配置してください。
  以下のようにすると、簡単に行を意識して項目を定義できます。
  - ・項目の基点を左上にする（「項目の基点を左下にする」チェックボックスのチェックをはずす)。
  - ・グリッドの設定画面で「強制間隔を合わせる」チェックボックスをチェックし、以下の値を指定して項目をグリッド線に合わせて配置する。
    - グリッド単位が「インチ」の場合
      強制間隔（ルーラー分割指定）
      - ・ 縦 :「 1/6 インチ」または「 1/8 インチ 」
      - ・ 横 :「 1/10 インチ」
    - グリッド単位が「ドット」の場合
      強制間隔（長さ指定）
      - ・ 縦 :「 120dt 」または「 90dt 」
      - ・ 横 :「 72dt 」
  - ・グリッドの詳細設定画面 の強制モードで「標準」を指定する。
- 項目のフォントを以下の値で指定してください。
  - ・日本語フォント　：明朝 10cpi
  - ・英文フォント　　：明朝 10cpi
  - ・日本語ピッチ　　：5.0cpi
  - ・英文ピッチ　　　：10.0cpi
  - ・サイズ　　　　　：10.8 ポ

注意

- 項目のフォントを変更する場合、帳票様式を定義するコンピュータに、あらかじめ使用するプリンタのプリンタドライバをインストールしてください。

備考

- 定義済みの項目のフォントをまとめて変更するには、項目を選択して、［書式］メニューの［フォントの書式］から［項目］を選択してください。
- 定義済みの項目を配置し直すには、上記の指定を行った後、整列や自動補正配置 などを行ってください。

9.1.3　給紙方法 / 給紙口について（印刷時 / 電子保存後の印刷時）

【Windows 版】の場合、印刷時または電子保存後の印刷時に出力される紙は、以下のように給紙されます。

表 9.1　印刷時、電子保存後の印刷時の給紙方法 / 給紙口

		給紙口名	
		指定なし	指定あり
給紙方法	プリンタ装置の設定にしたがう (*1)	プリンタドライバのプロパティで指定した給紙口に給紙されます。	給紙口名は無効になります。(*2)
	カットシードフィーダ ホッパ 1 ホッパ 2 ホッパ 3 ホッパ 4 手差し	給紙方法にしたがって給紙されます。 指定した方法で給紙されないときは、給紙口名を指定してください。	給紙口名に指定した給紙口に給紙されます。
	自動	自動選択で給紙されます。 ただし、プリンタ機種によっては設定が有効にならない場合があります。 その場合、給紙方法に「指定なし」を指定し、プリンタドライバのプロパティで給紙方法に自動選択を指定してください。	
	指定なし	プリンタドライバのプロパティで指定した給紙口に給紙されます。 ただし、マルチフォーム出力で給紙方法 / 給紙口名切り替え指定を行っていて、切り替え後の帳票に「指定なし」が指定されている場合、切り替え前の帳票に指定された給紙口に給紙されます。	給紙口名は無効になります。(*2)

*1：給紙方法に「プリンタ装置の設定にしたがう」が指定できるのは、帳票業務情報のプロパティ画面（出力方法が「印刷」の場合）の指定だけです。
　　その他の出力方法の場合、および帳票出力時には指定できません。
*2：給紙口名を指定する場合は、給紙方法に「プリンタ装置の設定にしたがう」および「指定なし」以外を指定してください。

9.2 印刷（【UNIX 系 OS 版】の場合）

【UNIX 系 OS 版】で印刷する場合、プリンタの出力方法を指定することができます。
また、プリンタの出力方法によって帳票様式情報および帳票業務情報で指定できる機能のサポート範囲が異なります。
以下に、List Creator で指定できるプリンタの出力方法、およびプリンタの出力方法ごとに、機能のサポート範囲や注意事項などについて説明します。

9.2.1 プリンタ出力方法を決める

【UNIX 系 OS 版】で印刷する場合、プリンタへの出力方法として、以下の方法が指定できます。

- 帳票出力サーバが Solaris の場合

  「FM 出力」、「FNP 出力」、「PostScript 出力」

- 帳票出力サーバが Linux の場合

  「FNP 出力」、「PostScript 出力」

プリンタ出力方法は、帳票出力インタフェースで指定してください。詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。
なお、指定しなかった場合は、PostScript 出力となります。

以下に、プリンタの出力方法と出力できるプリンタ装置、および出力方法ごとの特長について示します。
プリンタ装置や特長をもとに、プリンタの出力方法を選択してください。

表 9.2 プリンタの出力方法（1 / 2）

<table>
<tr><th rowspan="2">プリンタ出力方法</th><th rowspan="2">出力できるプリンタ装置</th><th colspan="4">帳票出力サーバ</th><th rowspan="2">特長</th></tr>
<tr><th>Solaris</th><th>Linux for Intel64</th><th>Linux for x86</th><th>Linux for Itanium</th></tr>
<tr><td rowspan="6">FM 出力</td><td colspan="5">- VSP レーザ単票</td><td rowspan="6">- FM シーケンスで出力する方法です。
次の文字を出力する場合や、大量印刷を行う場合はこの方法を選択してください。
・ バーコード
・ 利用者定義文字
・ 他社文字（①、㈱など）、JEF 拡張漢字 / 非漢字、OASYS 拡張文字
- オーバレイの形式は Windows 形式（KOL6）、UNIX 形式（KOL5）のいずれかを選択できます。
⇒ “9.2.2.1 FM 出力時のオーバレイ形式を決める ”
ただし、帳票の表現力は、文字フォントや文字サイズが限定されるなど、FNP 出力、PostScript 出力に比べ劣ります。
⇒ “9.2.2.2 帳票様式情報のサポート一覧 ”

- FM 出力時は、プリンタのハード設定解像度にかかわらず、240dpi で出力されます。</td></tr>
<tr><td>・ VSP4620A
・ VSP4720
・ VSP4730B</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="5">- VSP レーザ連帳</td></tr>
<tr><td>・ VSP4902
・ VSP4971
・ VSP4980</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="5">- VSP シリアルプリンタ</td></tr>
<tr><td>・ VSP2740
・ VSP2740B
・ VSP3601A
・ VSP3710A
・ VSP3710B
・ VSP3802A
・ VSP3802B</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr>
</table>

表 9.2　プリンタの出力方法（２ / ２）

プリンタ出力方法	出力できるプリンタ装置	帳票出力サーバ				特長
		Solaris	Linux for Intel64	Linux for x86	Linux for Itanium	
FNP 出力	- VSP レーザ単票					- FNP シーケンスで出力する方法です。 高解像度対応やアウトラインフォント搭載により、大幅に表現力が向上しています。 次の文字を出力する場合や、大量印刷を行う場合はこの方法を選択してください。 ・バーコード ・利用者定義文字 ・他社文字（①、㈱など）、JEF 拡張漢字 / 非漢字、OASYS 拡張文字 - オーバレイの形式は Windows 形式（KOL6）、UNIX 形式（KOL5）のいずれかを選択できます。 ⇒ “9.2.3.1　FNP 出力時のオーバレイ形式を決める ” - FNP 出力時は、プリンタのハード設定解像度にかかわらず、以下の解像度で出力されます。 ・用紙種別が単票の場合：600dpi ・用紙種別が連帳の場合：400dpi
	・VSP4620A ・VSP4720 ・VSP4730B	○	○	○	○	
	- VSP/PS5000 レーザ連帳					
	・VSP4902 ・VSP4971 ・VSP4980 ・VSP4951A ・PS5600A ・PS5600B ・PS5230A ・PS5230B ・PS5110B	○	○	×	○	
PostScript 出力	- VSP レーザ単票					- PostScript で出力する方法です。 帳票の表現力を重視した印刷を行いたい場合は、この方法をお勧めします。 ⇒ “9.2.4.1　帳票様式情報のサポート一覧 ” ただし、次の項目、文字は出力できません。 ・バーコード ・利用者定義文字 ・他社文字（①、㈱など）、JEF 拡張漢字 / 非漢字、OASYS 拡張文字 ⇒ “17.1.3　PostScript 出力時 ” - オーバレイの形式は Windows 形式（KOL6）のみ使用できます。
	・VSP4620A ・VSP4720 ・VSP4730B	○	×	×	×	
	- VSP レーザ連帳					
	・VSP4902 ・VSP4971 ・VSP4980	○	×	×	×	
	- PostScript プリンタ	○	○	○	○	

○：サポート　×：未サポート

9.2.2　FM 出力

ここでは、FM 出力時のオーバレイ形式の選択基準、および帳票定義情報で定義した情報のサポート範囲、FM 出力時の注意事項などについて説明します。

注意

- プリンタに FM 出力する場合、帳票名は、半角英数字 8 文字以内で指定してください。8 文字を超えると帳票出力時にエラーになります。

9.2.2.1　FM 出力時のオーバレイ形式を決める

プリンタに FM 出力する場合、オーバレイの形式には、「Windows 形式（KOL6）」と「UNIX 形式（KOL5）」の 2 つがあります。それぞれのオーバレイの形式で、表現力に違いがあります。
次の表から、オーバレイの形式を選択してください。

表 9.3　オーバレイの形式

オーバレイの形式	特長
Windows 形式（KOL6）	この形式のオーバレイを使用することをお勧めします。 UNIX 形式（KOL5）オーバレイに比べ、線種（長破線、長鎖線など）や網がけ濃度のパターンなどが追加され、帳票の表現力が優れています。 ⇒ “9.2.2.2　帳票様式情報のサポート一覧 ” また、Windows とオーバレイを共有することができます。 ただし、メディアデータを出力する場合は制限があります。 ⇒ “9.2.2.6　FM 出力時の注意事項 ”
UNIX 形式（KOL5）	Windows 形式（KOL6）オーバレイに比べ、帳票の表現力は劣ります。 OutputASSIST 5.0 からの移行ユーザで、既存の UNIX 形式（KOL5）オーバレイをそのまま使用したい場合はこの形式を選択してください。

備考

- UNIX 形式（KOL5）オーバレイを作成する場合は、List Creator デザイナの EDITUTIL コマンドを実行し、UNIX 形式（KOL5）オーバレイを編集できるように設定を変更する必要があります。
⇒ “C.3　UNIX 形式（KOL5）オーバレイの表現力 ”
- 帳票の出力時には、ユーザアプリケーションでオーバレイの形式（KOL5、KOL6）を意識する必要はありません。帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）にオーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）を配置しておくだけで、List Creator が形式を自動的に判断して出力します。

9.2.2.2　帳票様式情報のサポート一覧

プリンタに FM 出力する場合の帳票様式情報のサポート状況を示します。

表 9.4　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（１ / １２）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th><th>VSP
シリアル
プリンタ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙種別</td><td colspan="2">連帳</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">単票</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="11">用紙サイズ</td><td colspan="2">A3</td><td>○</td><td>×</td><td>×
(*1)</td><td rowspan="11">*1：プリンタにセットした用紙に出力されます。
*2：A4 で出力されます。
*3：プリンタ装置の環境設定で指定した用紙サイズで出力されます。
*4：用紙名の指定の有無にかかわらず、帳票で指定した任意用紙サイズにもっとも近い用紙サイズで出力されます。
*5：用紙名の指定の有無にかかわらず、帳票で指定した任意用紙サイズで出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">A4</td><td>○</td><td>×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">A5</td><td>○</td><td>×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">A6</td><td>×
(*2)</td><td>×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">B4</td><td>○</td><td>×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">B5</td><td>○</td><td>×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">はがき</td><td>×
(*3)</td><td>×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">Letter</td><td>○</td><td>×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">Legal</td><td>×
(*3)</td><td>×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">任意</td><td>用紙名指定なし</td><td>×
(*4)</td><td>○</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td>用紙名指定あり</td><td>×
(*4)</td><td>×
(*5)</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙方向</td><td colspan="2">縦</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td><td rowspan="2">*1：プリンタにセットした用紙の向きで出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">横</td><td>○</td><td>×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">行ピッチ</td><td colspan="2">6LPI</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">8LPI</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">12LPI</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td><td rowspan="2">*1：各種項目が正しい位置に出力されません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">任意</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="3">区切り編集</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">文字下線幅を自動調整する</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td><td>*1：正しく出力されません。</td></tr>
<tr><td colspan="3">Unicode の文字を使用する</td><td colspan="3">○ (*1)</td><td>*1：EUC（U90）の範囲の文字のみ出力できます。</td></tr>
<tr><td>互換</td><td colspan="2">LP 縮刷</td><td>○</td><td>×
(*1)</td><td>×
(*1)</td><td>*1：指定しても元のサイズで出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="3">印刷範囲</td><td colspan="3">×</td><td></td></tr>
</table>

表 9.4　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（２ / １２）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th><th>VSP
シリアル
プリンタ</th></tr>
<tr><td>拡大 / 縮小印刷</td><td colspan="2">拡大 / 縮小指定</td><td colspan="2">△
(*1)</td><td>×
(*2)</td><td rowspan="4">*1：70%、80% 縮小のみ指定可能です。その他の倍率を指定した場合は、元のサイズで印刷されます。
*2：指定しても元のサイズで出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">段組み印刷</td><td colspan="2">2 段</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段横</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段縦</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">余白</td><td rowspan="2">とじしろ</td><td>左</td><td>○
(*1)</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="3">*1：とじしろは、両面印刷時に有効になります。
*2：行ピッチの単位で指定しなかった場合の位置は、プリンタ装置に依存します。</td></tr>
<tr><td>上</td><td>○
(*1)</td><td>○</td><td>△
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">用紙からの位置</td><td colspan="2">○</td><td>△
(*2)</td></tr>
<tr><td>オーバレイ</td><td colspan="2">オーバレイを印刷する</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td><td>*1：指定してもオーバレイは出力されません。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">バーコード情報</td><td rowspan="2">EAN-128 バーコードの AI コード規格</td><td>1996 年規格</td><td colspan="3">－</td><td rowspan="2">EAN-128 バーコードは未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>2005 年規格</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャラクタ間ギャップ幅</td><td colspan="2">×</td><td>×
(*1)</td><td rowspan="3">*1：プリンタ装置に依存します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">細太エレメント比</td><td colspan="2">×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">クワイエットゾーンの描画方法</td><td colspan="2">×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">ファンクションキャラクタ「FNC1」</td><td colspan="3">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">制御コードの代替文字列指定</td><td colspan="2">－
(*1)</td><td>○</td><td>*1：VSP 単票および VSP 連帳では、制御コードを指定できるバーコード種は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>禁則処理</td><td colspan="2">禁則文字を指定する</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>テキスト項目</td><td colspan="2">入力データにハイパーリンク情報を付加する</td><td colspan="3">×</td><td>ハイパーリンクは無効となり、表示文字列のみ出力されます。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目
OCR-B 項目</td><td colspan="2">集団印刷</td><td colspan="3">△</td><td>数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。</td></tr>
</table>

表 9.4　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（３／１２）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th><th>VSP
シリアル
プリンタ</th></tr>
<tr><td rowspan="20">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="3">×</td><td rowspan="2">日本語フォントは明朝体、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。
⇒ “9.2.2.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="3">×</td><td>横書きで出力されます。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="3">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.1.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="3">×</td><td rowspan="3">標準で出力されます。</td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">サイズ</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">△
(*1)</td><td>×
(*2)</td><td rowspan="5">*1 : 3.5/ 4.5/ 5.3/ 6/ 7/ 9/ 10.5/ 12/ 14/ 18/ 21/ 24 ポのうち、指定したサイズよりも小さい一番近いサイズにマッピングして出力されます。
*2 : プリンタ装置標準サイズ（10.5 ポ相当）で出力されます。
*3 : 10.5 ポで出力されます。
*4 : 5.0cpi、6.0cpi 以外を指定すると、正しい文字ピッチで出力されない場合があります。
*5 : 10.0cpi、12.0cpi 以外を指定すると、正しい文字ピッチで出力されない場合があります。</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">×
(*3)</td><td>×
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td colspan="2">×</td><td>×
(*2)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピッチ</td><td>日本語</td><td colspan="2">○</td><td>△
(*4)</td></tr>
<tr><td>英文</td><td colspan="2">○</td><td>△
(*5)</td></tr>
<tr><td colspan="2">1.5 ピッチ</td><td colspan="3">○</td><td>数字項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">文字を反時計回りに 90° 回転</td><td colspan="2">△
(*1)</td><td>×
(*2)</td><td>数字項目では指定できません。
*1 : 太字および斜体は、標準で出力されます。
*2 : 横書きで出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td><td rowspan="2">*1 : 正しく出力されません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">抹消線</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td colspan="3">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">数字項目</td><td rowspan="8">編集形式</td><td>数値</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>通貨</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>区切り</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>日付</td><td colspan="3">△</td><td>「区切り」文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。</td></tr>
<tr><td>小数点抑止</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>小数部編集形式</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">テキスト項目</td><td>標準</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>郵便</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.4　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（４ / １２）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th><th>VSP
シリアル
プリンタ</th></tr>
<tr><td rowspan="15">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="7">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="3">○</td><td rowspan="7">*1：正しい文字配置で出力されません。
*2：文字の横幅は圧縮されません。</td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td>均等配置</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>圧縮</td><td colspan="2">○
(*2)</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td>逆配置</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>前空白データを削除しない</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分を出力しない</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>文字などを詰めて全データを出力する</td><td colspan="2">○
(*1)</td><td>×
(*2)</td><td>*1：文字の横幅は圧縮されません。
*2：正しく出力されません。</td></tr>
<tr><td>代替文字で出力する</td><td colspan="3">○</td><td>数字項目、テキスト項目でのみ指定できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="3">×</td><td rowspan="3">出力されません。</td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="3">○</td><td>日付項目、時刻項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目</td><td colspan="2">条件指定</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td><td>*1：正しく出力されません。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">矩形固定リテラル項目
矩形テキスト項目</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="3">×</td><td rowspan="2">日本語フォントは明朝体、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。
⇒ “9.2.2.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="3">×</td><td>横書きで出力されます。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="3">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.1.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="3">×</td><td rowspan="3">標準で出力されます。</td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="3">×</td></tr>
</table>

表 9.4 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（５／１２）

分類				プリンタ種			備考
				VSP 単票	VSP 連帳	VSP シリアルプリンタ	
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	サイズ	日本語フォント		△ (*1)		× (*2)	*1 : 3.5/ 4.5/ 5.3/ 6/ 7/ 9/ 10.5/ 12/ 14/ 18/ 21/ 24 ポのうち、指定したサイズよりも小さい一番近いサイズにマッピングして出力されます。 *2 : プリンタ装置標準サイズ（10.5 ポ相当）で出力されます。 *3 : 10.5 ポで出力されます。 *4 : 5.0cpi、6.0cpi 以外を指定すると、正しい文字ピッチで出力されない場合があります。 *5 : 10.0cpi、12.0cpi 以外を指定すると、正しい文字ピッチで出力されない場合があります。
		英文フォント		× (*3)		× (*2)	
	横幅			× (*3)		× (*2)	
	ピッチ	日本語		○		△ (*4)	
		英文		○		△ (*5)	
	下線			○		× (*1)	*1 : 正しく出力されません。
	抹消線			○		× (*1)	
	色			×			黒色で出力されます。
	繰返し			○		×	
	行の指定	行の高さ		○		△ (*1)	*1 : 行の高さが行ピッチと異なる場合は、正しい位置に文字が出力されません。
		行内での配置	上揃え	○		× (*1)	*1 : 行ピッチに合わせた位置に文字が出力されます。
			下揃え	○		× (*1)	
	余白			○		△ (*1)	*1 : 上端および下端の余白が行ピッチと異なる場合は、正しい位置に文字が出力されません。
	項目内に全データ出力	縦幅を拡張して出力		○		△ (*1)	矩形テキスト項目でのみ指定できます。 *1 : 拡張する項目の横方向に項目が定義されている場合、帳票が出力されません。
		文字ピッチなどを縮小して出力	文字ピッチを先に縮小	○		× (*1)	*1 : 正しく出力されません。
			行の高さを先に縮小	○		× (*1)	
矩形テキスト項目	項目内の配置	縦方向の配置		○			
	禁則処理	句読点のぶら下げ		○			
		ワードラップ		○			
		行頭／行末禁則		○			
		追い出し後の両端揃え		○		× (*1)	*1 : 正しい文字配置で出力されません。
		折返し後の行頭空白抑止		○			

表 9.4 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（６ / １２）

分類			プリンタ種			備考
			VSP 単票	VSP 連帳	VSP シリアル プリンタ	
OCR-B 項目 (*1)			△ (*2)		× (*3)	*1：VSP シリーズのプリンタに内蔵された OCR-B フォントを使用します。 *2：OCR-B フォントで出力できる文字は次の 1 バイト文字のみです。 ・ 数字　　：0 ～ 9 ・ 英大文字：A ～ Z ・ 特殊文字：「*」、「+」、「-」、「=」、「/」、「.」、「,」、「:」、「;」、「"」、「(」、「)」、「<」、「>」、「#」、「&」、「¥」、「%」 また、文字ピッチ 10CPI、文字サイズ 12 ポで出力されます。 *3：プリンタ装置標準の英文フォントで出力されます。
	領域内にデータが収まらない場合の対処	はみ出した部分を出力しない	○			
		代替文字で出力する	○			
	文字の向き	左から右	○			
		右から左	×			出力されません。
		上から下	×			
		下から上	×			
	繰返し		○		×	
ラジオボタン項目			○		× (*1)	*1：指定すると帳票の出力時にエラーとなります。
チェックボックス項目			○		× (*1)	

表 9.4 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（７／１２）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th><th>VSP
シリアル
プリンタ</th></tr>
<tr><td rowspan="19">バーコード項目</td><td rowspan="19">バーコード
種別</td><td>JAN 標準</td><td colspan="3">○</td><td rowspan="7">プリンタ装置によって出力可能なバーコードの大きさが異なるため、帳票設計時に指定した大きさと異なる大きさで出力される場合があります。詳細については、VSP シリーズのマニュアルを参照してください。
各バーコード種別で指定可能な項目長の範囲は以下のとおりです。
JAN 標準：12
JAN 短縮：7
Code 3 of 9：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Industrial 2 of 5：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Interleaved 2 of 5（ITF）：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
NW-7：3 ～ 34
カスタマバーコード：20 固定
*1：プリンタ装置がサポートしている場合のみ出力されます。
プリンタ装置がサポートしていない場合は、バーコードは出力されません。</td></tr>
<tr><td>JAN 短縮</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>Code 3 of 9</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>Industrial 2 of 5</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>Interleaved 2 of 5
（ITF）</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>NW-7</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>カスタマバーコード</td><td colspan="2">○</td><td>△
(*1)</td></tr>
<tr><td>Code 128</td><td colspan="3">×</td><td rowspan="12">指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>EAN-128</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>EAN-128（コンビニエンスストア向け）</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>Code 3 of 9
（EIAJ 準拠）</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>UPC バージョン A</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>UPC バージョン E</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>EAN-13</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>U.S. POSTNET
（Delivery Point Code）</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>U.S. POSTNET
（ZIP+4 Code）</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>U.S. POSTNET
（5-Digit ZIP Code）</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>QR Code
（モデル 1）</td><td colspan="3">×</td></tr>
</table>

表 9.4 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（８／１２）

分類			プリンタ種			備考
			VSP 単票	VSP 連帳	VSP シリアルプリンタ	
バーコード項目	バーコード種別	QR Code（モデル 2）	× (*1)		△ (*2)	*1：指定すると帳票の出力時にエラーになります。 *2：プリンタ装置がサポートしている場合のみ出力されます。プリンタ装置がサポートしていない場合は、バーコードは出力されません。
		QR Code（マイクロ QR）	× (*1)		○	
		PDF417	×			指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		MaxiCode	×			
		FIM A（U.S. Postal FIM）	×			
		FIM B（U.S. Postal FIM）	×			
		FIM C（U.S. Postal FIM）	×			
		Intelligent Mail Barcode	×			
		GS1 DataBar Omnidirectional	×			
		GS1 DataBar Stacked Omnidirectional	×			
		GS1 DataBar Stacked	×			
		GS1 DataBar Limited	×			
		GS1 DataBar Expanded	×			
		GS1 DataBar Expanded Stacked	×			
		GS1 DataBar Truncated	×			
	印刷方向	0°	○			
		90°	○			
		180°	○			
		270°	○			
	文字印刷		△			カスタマバーコードの場合は、無効となります。
	チェックキャラクタ		○			
	チェックキャラクタ（文字）の印字抑止		－			チェックキャラクタの印字抑止が指定できるバーコード種は未サポートのため、無効です。
	フラグキャラクタ		○			

表 9.4 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（９／１２）

<table>
<tr><th colspan="4" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th><th>VSP
シリアル
プリンタ</th></tr>
<tr><td rowspan="15">バーコード項目</td><td rowspan="3">QR Code
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正比率</td><td colspan="2" rowspan="3">－
(*1)</td><td>△
(*2)</td><td rowspan="3">*1：QR Code は未サポートのため、無効です。
*2：QR Code（マイクロ QR）は、以下の場合、誤り訂正比率が変更されます。
-「7%」を指定した場合に、データが数字 5 文字以下のときは「誤り検出のみ」となります。
-「誤り検出のみ」を指定した場合に、データが数字 6 文字以上のときは「7%」となります。
*3：指定は無効となります。
分割方向は、バーコード項目の縦幅と横幅の指定によって決まり、横幅の方が長い場合は「横」、縦幅の方が長い場合は「縦」になります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割方向</td><td>×
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割数</td><td>○</td></tr>
<tr><td>MaxiCode
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正レベル</td><td colspan="3">－</td><td>MaxiCode は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>GS1
DataBar
Expanded
Stacked
詳細設定</td><td colspan="2">段数</td><td colspan="3">－</td><td>GS1 DataBar Expanded Stacked は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">詳細設定</td><td colspan="2">指定範囲に収まるように出力する</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">項目の範囲内での配置位置</td><td>左詰め</td><td colspan="3">×</td><td>中央配置で出力されます。</td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">細エレメント幅</td><td colspan="2">×</td><td>×
(*1)</td><td rowspan="2">*1：指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">モジュール幅</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">バーの高さ</td><td colspan="3">－</td><td>GS1 DataBar Truncated は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">細太エレメント比</td><td colspan="2">×</td><td>×
(*1)</td><td rowspan="3">*1：プリンタ装置に依存します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャラクタ間ギャップ幅</td><td colspan="2">×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">クワイエットゾーンの描画方法</td><td colspan="2">×</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="3">繰返し</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.4　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（１０／１２）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th><th>VSP
シリアル
プリンタ</th></tr>
<tr><td rowspan="11">組込みメディア項目</td><td rowspan="6">メディア種</td><td>ビットマップ</td><td colspan="2">△
(*1)</td><td rowspan="11">－
(*5)</td><td rowspan="11">*1：ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。
・ 白黒ビットマップ
・ 16 色ビットマップ
・ 256 色ビットマップ
・ 24 ビット ビットマップ
また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。
*2：クリッピングを指定する場合、出力先の解像度が 400dpi でなければ、指定したサイズで出力されません。
*3：クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさでクリッピングされず、表示場所も中央になりません。
*4：必ず白が透過色となります。
*5：VSP シリアルプリンタでは、組込みメディア項目は、未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>JPEG</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>TIFF</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>OLE2</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>PNG</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>グラフ</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">クリッピング</td><td colspan="2">○
(*2)(*3)</td></tr>
<tr><td></td><td>メディアデータの解像度で出力する</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">中央表示</td><td colspan="2">○
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">透過色を指定する</td><td colspan="2">×
(*4)</td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="3">日付項目</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">時刻項目</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">郵便番号項目</td><td colspan="3">×</td><td>正しく出力されません。</td></tr>
<tr><td rowspan="10">パーティション罫線</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、一点鎖線</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線、二重線、波線 1、波線 2</td><td colspan="3">×</td><td>実線で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">線端</td><td>平面</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td><td rowspan="3">*1：プリンタ装置に依存します。</td></tr>
<tr><td>四角</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td>円</td><td colspan="2">○</td><td>×
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="2">△
(*1)</td><td>△
(*2)</td><td>*1：0.1pt ～ 3.3pt まで出力できます。それ以上の線幅を指定した場合は、3.3pt で出力されます。
*2：プリンタ装置の線幅にマッピングされます。
- 0.1pt ～ 0.4pt：細線
- 0.5pt 以上　　：太線</td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="3">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">丸め</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">網がけ</td><td colspan="2">○</td><td>△
(*1)</td><td>*1：プリンタ装置の網がけパターン (薄い / 普通 / 濃い) にマッピングされます。
- 5.0% ～ 40.0%　：薄い
- 50.0% ～ 70.0%　：普通
- 75.0% ～ 100.0%：濃い</td></tr>
<tr><td colspan="2">パターン</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.4　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（１１／１２）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th><th>VSP
シリアル
プリンタ</th></tr>
<tr><td rowspan="23">オーバレイ文字
（KOL6）</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">△
(*1)</td><td rowspan="24">―
(*10)</td><td rowspan="24">*1：指定できるフォントと出力時のフォントについては、以下を参照してください。
⇒ “9.2.2.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”
*2：文字列方向が右と下のみ出力できます。
*3：出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.1.4　利用者定義文字の出力手順 ”
*4：標準で出力されます。
*5： 3.5/ 4.5/ 5.3/ 6/ 7/ 9/ 10.5/ 12/ 14/ 18/ 21/ 24 ポのうち、指定したサイズよりも小さい一番近いサイズにマッピングして出力されます。
*6：3.5/ 4.5/ 5.3/ 6 ポは 100/ 200%、7/ 9/ 10.5/ 12 ポは 50/ 100/ 200% 、14/ 18/ 21/ 24 ポは 50/ 100% が指定できます。
また、1 ～ 99% は 50%、100 ～ 199% は 100% にマッピングして出力されます。
*7：文字のみ出力されます。
*8：黒色で出力されます。
*9：出力されません。
*10：VSP シリアルプリンタでは、オーバレイは未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">△</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="2">△
(*2)</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="2">○
(*3)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="2">×
(*4)</td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="2">×
(*4)</td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="2">×
(*4)</td></tr>
<tr><td colspan="2">サイズ</td><td colspan="2">△
(*5)</td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td colspan="2">△
(*6)</td></tr>
<tr><td colspan="2">文字間隔</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td colspan="2">×
(*7)</td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td colspan="2">×
(*8)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>右揃え</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">文字配置</td><td>文字幅の自動調整</td><td colspan="2">△
(*6)</td></tr>
<tr><td>文字範囲</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">×
(*9)</td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">×
(*9)</td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="3">矩形オーバレイ文字（KOL6）</td><td colspan="2">×
(*9)</td></tr>
</table>

表 9.4　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）（１２／１２）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th><th>VSP
シリアル
プリンタ</th></tr>
<tr><td rowspan="11">直線 / 枠 / 円 / 楕円
（KOL6）</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、一点鎖線、長破線、長鎖線、任意線</td><td colspan="2">○
(*1)</td><td rowspan="12">－
(*8)</td><td rowspan="12">*1：任意線の場合、2、4 間隔のみ出力されます。6 間隔は実線で出力されます。
*2：実線で出力されます。
*3：0.1pt ～ 3.3pt まで出力できます。それ以上の線幅を指定した場合は、3.3pt で出力されます。
*4：黒色で出力されます。
*5：直線（斜線）は平面のみ、円、楕円は四角、円のみ出力できます。
*6：円、楕円は網がけが無効となります。
*7：特定の条件でのみイメージを出力できます。
⇒ “9.2.2.6　FM 出力時の注意事項”
*8：VSP シリアルプリンタでは、オーバレイは未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>長二点鎖線、二重線、波線 1、波線 2</td><td colspan="2">×
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="2">○
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="2">×
(*4)</td></tr>
<tr><td>線端</td><td>平面、四角、円</td><td colspan="2">△
(*5)</td></tr>
<tr><td>網がけ</td><td>（枠、円、楕円）</td><td colspan="2">△
(*6)</td></tr>
<tr><td>丸め</td><td>（枠）</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>位置、サイズ、パターン</td><td>（枠）</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>中心、半径</td><td>（円、楕円）</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開始位置、終了位置</td><td>（直線）</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="3">イメージ（KOL6）</td><td colspan="2">△
(*7)</td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目
－：未サポートのため無関係な項目

9.2.2.3 帳票業務情報のサポート一覧

プリンタに FM 出力する場合の帳票業務情報のサポート状況を示します。

表 9.5 帳票業務情報のサポート一覧（プリンタへの FM 出力時）

分類			プリンタ種			備考
			VSP 単票	VSP 連帳	VSP シリアルプリンタ	
印刷プリンタ名			○			
給紙方法	プリンタ装置の設定にしたがう		×			
	カットシートフィーダ		×			
	ホッパ 1		○	×	○	
	ホッパ 2		○	×		
	ホッパ 3		△ (*1)	×		*1：VSP4701、VSP4750 の場合のみ有効です。
	ホッパ 4		×			
	手差し		○	×	○	
	指定なし		○	×		
	自動		○	×		
給紙口名			×			
置換フォント			×			
区切りページ			×			
印刷部数	プリンタ装置の設定にしたがう		×			
	部数		○			
	部数単位で印刷		●			
両面印刷	プリンタ装置の設定にしたがう		×			
	両面印刷しない / する		○	×		
マルチフォーム出力時の動作指定			○			
バーコード補正情報			×			
印刷属性情報	出力開始時の動作モード	装置の設定にしたがう	×			「出力する」が指定されたものとして動作します。
		出力する	●			
		保留する	●			
	スプールドキュメントの扱い		●			
	出力時の優先順位		×			
	メッセージの通知先		●			
	出力経過のメッセージ通知	出力開始メッセージ	×			
		用紙交換メッセージ	×			
		出力完了メッセージ	×			

○：定義が有効となる項目
●：Print Manager の高信頼プリンタの場合に定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目

9.2.2.4 出力できる文字について

FM 出力時に出力できる文字については、以下を参照してください。

⇒ “17.1.1 FM 出力時 ”

9.2.2.5 指定可能なフォントと出力時のフォント

プリンタへの FM 出力時は、次のフォントを指定して帳票を設計してください。

オーバレイ文字以外の項目

表 9.6 オーバレイ文字以外の項目に指定可能なフォントと出力時のフォント
（プリンタへの FM 出力時）

各項目のプロパティ		プリンタの出力結果
指定できるもの	指定するフォント	
日本語フォント	（指定しても無効となります）	明朝体
英文フォント		プリンタフォント

注意

- オーバレイ文字以外の項目は、フォントを指定しても無効となります。また、縦書きフォント（@ 付きフォント）を指定しても、横書きで出力されます。

オーバレイ文字

表 9.7 オーバレイ文字に指定可能なフォントと出力時のフォント
（プリンタへの FM 出力時）

目的	各項目のプロパティ		プリンタの出力結果
	指定できるもの	指定するフォント	
明朝体で出力したい場合	日本語フォント	MS 明朝 @MS 明朝	明朝体
	英文フォント	MS 明朝 @MS 明朝	明朝体
ゴシック体で出力したい場合	日本語フォント	MS ゴシック @MS ゴシック	ゴシック体
	英文フォント	MS ゴシック @MS ゴシック	ゴシック体

注意

- プロポーショナルフォント（「MS P 明朝」などの可変幅フォント）は指定しないでください。指定しても、等幅フォントで印刷されるため、帳票様式定義画面で定義したときには枠内に収まっていた文字が、印刷すると枠に収まらず文字が欠ける場合があります。
  枠内に正しく収まるかどうかは、prtest コマンドでテスト印刷して確認してください。
  ⇒ “A.2.1.2 prtest コマンド ”
- オーバレイ文字に縦書きフォント（@ 付きフォント）を指定した場合は、印刷方向が「右」と「下」のときのみ有効になります。
- その他のフォントを指定した場合、明朝体で出力されます。

9.2.2.6 FM 出力時の注意事項

以下に、FM 出力時の注意事項について説明します。

帳票名について

- FM 出力する場合、帳票名は半角英数字 8 バイト以内で指定してください。

メディアデータの出力について

- プリンタへの FM 出力時に Windows 形式（KOL6）オーバレイを使用する場合、メディアデータは、以下の条件を満たした場合にのみ出力できます。以下の条件を満たしていない場合、メディアデータは出力されません。

【条件】

1）モノクロ（2 値）のビットマップデータ
2）帳票上のイメージ領域のサイズ / 3 = メディアデータのサイズ

【操作の流れ】

以下の流れでオーバレイイメージを定義します。

1）帳票様式定義画面で組込みメディア項目を定義し、メディアデータを出力する範囲を決めます。メディアデータを出力する範囲は、3 の倍数になるように指定してください。

例）横幅：360 ドット、縦幅：210 ドット

2）ペイントブラシなどのグラフィックエディタを使用して、メディアデータのサイズ（単位：ドット）を変更します。縦横それぞれメディアデータを出力範囲の 1/3 の大きさ（単位：ピクセル）にします。

例）横幅：120 ピクセル、縦幅：70 ピクセル

3）帳票様式定義画面でメディアデータを読み込みます。

【操作手順】

以下の手順でオーバレイイメージを定義します。

1）帳票様式定義画面で、［表示］－［単位設定］－［ドット］を選択し、単位を「ドット」に変更します。
2）帳票様式定義画面で、［表示］－［グリッド］－［設定］を選択します。
⇒グリッドの設定画面が表示されます。
3）「グリッド間隔」の縦横に「任意入力（ドット)」を指定します。
⇒グリッド間隔がドット単位に変更されます。
4）［挿入］－［オーバレイ］－［イメージ］を選択します。
5）オーバレイイメージの領域をマウスをドラッグして決めます。
6）5）のオーバレイイメージをマウスでダブルクリックします。
⇒オーバレイイメージのプロパティ画面が表示されます。
7）オーバレイイメージのサイズを縦横それぞれ 3 で割り切れるサイズに調整します。

例）横幅：360 ドット、縦幅：216 ドット

8）ペイントブラシなどのグラフィックエディタを使用して、メディアデータの色を白黒（モノクロ）にし、メディアデータのサイズを縦横それぞれメディアデータの 1/3 の大きさに変更します。

例）横幅：120 ピクセル、縦幅：72 ピクセル

9）7) の画面で［ファイルから読込み］ボタンをクリックし、8）で作成したビットマップデータを読み込み、［OK］ボタンをクリックします。

注意

- **帳票様式定義画面で一度取り込んだイメージデータを拡大・縮小すると、イメージデータが印刷されなくなります。**

帳票資源の配置について

- 分散出力型（リモート帳票出力時またはコネクタ連携時）で FM 出力する場合、帳票定義情報は、帳票出力サーバに配置してください。帳票をアプリケーションサーバに配置し、転送した場合、オーバレイが印刷されなかったり、違うオーバレイが印刷されたりする場合があります。

9.2.2.7　VSP シリアルプリンタ装置使用時の注意事項

以下に、VSP シリアルプリンタ装置に帳票を出力する場合の注意事項について説明します。

9.2.2.7.1　帳票設計時の定義と出力結果

VSP シリアルプリンタ装置は、一行ずつ印刷していくラインプリンタであるため、自由な帳票設計が可能な帳票定義情報を印刷すると、印刷結果異常や帳票が印刷されないという問題が発生する場合があります。

そのため、以下に示す VSP シリアルプリンタの特性を理解して帳票設計する必要があります。

●出力行位置について

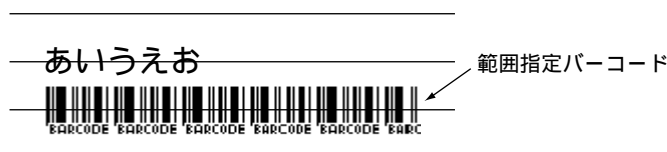
VSP シリアルプリンタ装置では、文字やバーコードを行の境目に出力する場合、List Creator デザイナの帳票のプロパティ画面で設定した行ピッチに合うように出力されます。

例）

・帳票定義情報での定義

あいうえお
BARCODE BARCODE BARCODE BARCODE BARCODE BARC
範囲指定バーコード

・出力結果

あいうえお
BARCODE BARCODE BARCODE BARCODE BARCODE BARC
範囲指定バーコード

そのため、帳票設計時には、List Creator デザイナのグリッドの設定画面で「強制間隔に合わせる」チェックボックスをチェックし、グリッド間隔の「縦」を帳票のプロパティの「行ピッチ」と同じ値に設定してから項目を配置してください。

なお、行ピッチに合わせた位置の指定が必要な情報は以下のとおりです。

- 帳票のプロパティの余白
  - ・とじしろ方向が左の場合の「幅」
  - ・原点位置の「左」
- フレームの「縦幅」
- 矩形テキスト項目および矩形固定リテラル項目の「行の高さ」と「余白」
- 矩形繰返し形式の間隔（縦幅）

なお、横位置に制約はありません。指定した位置に出力されます。

●「逆改行」について

帳票出力時、現在のプリンタヘッド位置（出力している位置）を上方向に移動すること（逆改行）ができません。逆改行が発生する帳票を出力すると、PrintWalker/BPC でエラーが発生し帳票が印刷されません（エラーが発生しても通知されません)。

例）

- 矩形項目を定義した帳票
- フレームを定義した帳票

帳票設計時の注意事項については、以下を参照してください。

⇒ “9.2.2.7.2　帳票設計時の注意事項 ”

●同一行での出力順序について

同一行に文字やバーコードを出力する場合、現在のプリンタヘッド位置を左方向に移動することができません。現在出力している位置から左側に戻って項目を出力する帳票の場合、現在のプリンタヘッド位置から続けて項目が出力されます。

例）

9.2.2.7.2　帳票設計時の注意事項

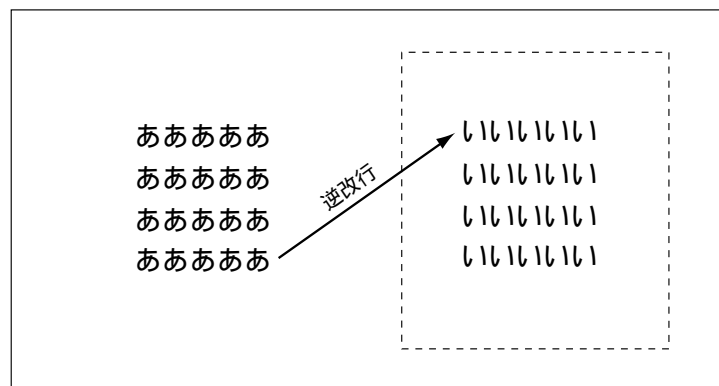
VSP シリアルプリンタ装置で印刷する帳票定義情報を定義する場合、以下の点に注意して設計してください。

⇒“●帳票形式がフリーフレーム形式の場合”
⇒“●項目を定義する場合”
⇒“●バーコード項目を定義する場合”
⇒“●組合せフォーム出力について”

●帳票形式がフリーフレーム形式の場合

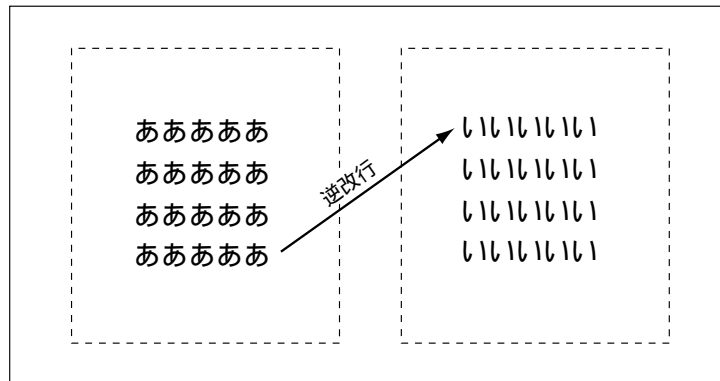
帳票形式がフリーフレーム形式の場合、フレームの定義時に以下のことに注意してください。

- フレームの出力方向に「縦」を指定する
- フレームの横方向にフレームに含まれない項目を配置しない（逆改行が発生する）
  以下に、フレームの横方向にフレームに含まれない項目を配置した例を示す

例）フレームに含まれない項目を出力後にフレームを出力した場合

：フレーム

ああああ：フレームに含まれない項目（項目群「BODY」に含まれる項目

- 複数のフレームを定義する場合は、横方向に重なるように定義しない（逆改行が発生する）以下に、横方向に重なるようにフレームを定義した例を示す

例）複数のフレームを横方向に定義した場合

：フレーム

- フレームは、上から下へ出力するようにする

●項目を定義する場合

以下の場合、逆改行やプリンタヘッド位置の左方向への移動が発生する可能性があります。

- 矩形テキスト項目、矩形固定リテラル項目を定義した場合
- グリッドの設定画面で、グリッド間隔の縦に「1/6 インチ」または「1/8 インチ」以外を指定した場合
- 帳票のプロパティの行ピッチに「1/6 インチ」または「1/8 インチ」以外を指定した場合
- 同一行に文字サイズの異なる項目を定義した場合
- 範囲指定バーコードを指定した場合

以下にそれぞれの詳細について説明します。
なお、項目定義のサポート状況や出力結果などの詳細については、以下を参照してください。
⇒ “9.2.2.2　帳票様式情報のサポート一覧 ”

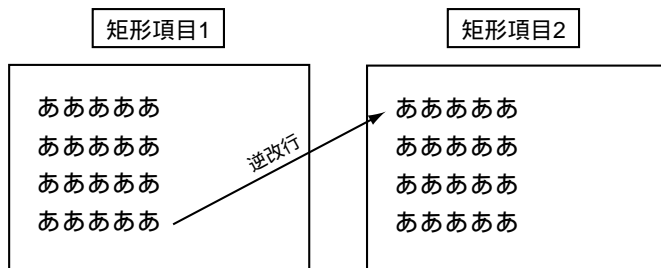
出力できる項目

FM 出力時は、以下の項目を出力することができます。

- 数字項目
- テキスト項目
- 矩形テキスト項目（*1）
- OCR-B 項目
  OCR-B フォントで出力されません。ANK 書体で出力されます。
- 固定リテラル項目
- 矩形固定リテラル項目（*1）
- 日付項目
- 時刻項目

*1：帳票設計時、以下に説明する “ 矩形テキスト項目 / 矩形固定リテラル項目について ” を参照してください。

矩形テキスト項目 / 矩形固定リテラル項目について

矩形テキスト項目 / 矩形固定リテラル項目の場合、以下のように複数の矩形テキスト項目 / 矩形固定リテラル項目を並べて定義すると逆改行が発生します。

そのため、矩形テキスト項目 / 矩形固定リテラル項目は、以下のように定義してください。

- 矩形テキスト項目 / 矩形固定リテラル項目の横方向に、他の項目を並べて定義しない
- 矩形テキスト項目 / 矩形固定リテラル項目の行の高さを行ピッチと同じ幅にする
- 余白の幅は、行ピッチの幅単位で指定する
- 矩形テキスト項目画面の［矩形］タブで、「縦幅を拡張して出力」を指定した場合は、出力時に縦幅が拡張されてときに、拡張された部分の横方向に他の項目が定義されていないようにする
- 矩形テキスト項目画面 / 矩形固定リテラル項目の［矩形］タブで、「文字ピッチなどを縮小して出力」を指定しない
- 矩形テキスト項目画面の［矩形］タブで、「追い出し後の両端揃え」を指定しない

項目の位置

項目の位置は、帳票のプロパティ画面で指定した行ピッチに合うように定義してください。
項目の位置が行ピッチに合っていない場合は、印刷結果異常になる場合があります。
そのため、項目を配置する場合は、グリッドの設定画面で「強制間隔に合わせる」チェックボックスをチェックし、グリッド間隔の「縦」を帳票のプロパティの「行ピッチ」と同じ値に設定してから行ってください。
このとき、「行ピッチ」およびグリッド間隔の「縦」には、「1/6 インチ」または「1/8 インチ」を指定してください。これ以外の値を指定すると、印刷結果異常になります。
以下に、印刷結果異常となる例を示します。
項目の位置が上にあるものから順に出力されるため、「かきくけこ」→「あいうえお」の順に出力されます。VSP シリアルプリンタ装置は、縦位置がわずかにずれていても同一行として印刷するため、印刷結果に異常が発生します。

フォント

指定は無効となります。プリンタ標準フォント（日本語：明朝体、英数字：ANK 書体）で印字されます。

文字サイズについて

10.5 ポを指定してください。これ以外のサイズを指定した場合でも、プリンタ標準のサイズ（10.5 ポ相当）で印字されます。

また、項目の縦位置が同一となる位置に、文字サイズの異なる項目を複数定義した場合、印刷結果異常となる場合があります。以下に、項目の縦位置が同一となる位置で、その項目の右側に文字サイズが小さい項目を定義した場合の例を示します。

文字スタイル

指定は無効となります。標準で出力されます。

文字ピッチ

以下の文字ピッチを指定してください。これ以外の文字ピッチを指定した場合、正しい文字ピッチで出力されない場合があります。

- 5.0CPI
- 6.0CPI
- 1.5 ピッチ

文字の横幅

指定は無効となります。標準サイズで印字されます。

下線、抹消線

指定できません。指定した場合、正しく出力されません。

文字の 90 度回転（縦書き）

以下の文字位置を指定してください。これ以外の文字配置を指定すると、正しい文字配置で出力されない場合があります。

- 指定なし
- 中央配置
- 逆配置

文字の向き

「右」を指定してください。これ以外の向きを指定した場合、項目は出力されません。

条件指定（背景色 / 網がけ）

指定しないでください。指定した場合、正しく出力されません。

バーコード

バーコードを出力する場合は、拡張出力機構（VSP オプション製品）が必要です。

バーコード種

以下のバーコードが出力できます。これ以外のバーコードを出力した場合、エラーが通知されます。

- JAN 標準
- JAN 短縮
- Code 3 of 9
- Industrial 2of 5
- Interleaved 2of 5（ITF）
- NW7
- カスタマバーコード
  VSP シリアルプリンタ装置に機能がある場合に出力されます（エラーは通知しません）。
- QR コード（モデル 2）
- QR コード（マイクロ QR）

バーコード出力方法

-「左詰め配置」の指定は無効となり、「中央配置」で出力されます。
-「バーコードの細エレメント幅を指定する」を指定した場合は、エラーが通知されます。

詳細情報

以下の情報の指定は無効です。VSP シリアルプリンタ装置の仕様で出力されます。

- 細太エレメント比
- キャラクタ間ギャップ幅
- クワイエットゾーンの描画指定

パーティション罫線 / パーティション枠

線種

以下の罫線種を出力できます。これ以外の罫線種を出力した場合は、実線で出力されます。

- 実線
- 点線
- 破線
- 一点鎖線

線幅

線幅はプリンタに依存します。

線端

指定は無効となります。

網がけ種類（濃淡）

以下のようにマッピングして出力されます。

- 5.0%～ 40.0%：薄い
- 50.0%～ 70.0%：やや薄い
- 75.0%～ 100.0%：濃い

備考

- プリンタの網がけパターンは、3 パターンです（プリンタ仕様）。

注意

- パーティション罫線 / パーティション枠は、各ページで最初に出力するパーティションにだけ定義してください。

集団印刷

集団印刷は使用しないでください。集団印刷を行った場合、文字の出力時に「逆改行」が発生する可能性が高くなります。

●バーコード項目を定義する場合

バーコード項目を定義する場合、以下のことに注意してください。

8LPI（1/8 インチ改行）の帳票定義情報に定義する場合の注意事項

以下の項目（文字サイズ：10.5 ポ）の一行下段（項目の縦位置が一行下段）にバーコード項目を定義した場合、逆改行が発生するため、帳票は出力されません。

- 数字項目
- テキスト項目
- 矩形テキスト項目
- OCR-B 項目
- 固定リテラル項目
- 矩形固定リテラル項目
- 日付項目
- 時刻項目

・帳票定義情報での定義

この現象を回避するためには、項目（テキスト項目など）の文字サイズを 9.0 ポに設定してください。

バーコード項目の位置

項目の縦位置と同じ縦位置（項目の右側）にバーコード項目を定義すると、印刷結果異常になります（6LPI（1/6 インチ改行）、8LPI（1/8 インチ改行）ともに発生）。

上記の例の場合、「あああああ」とバーコード項目が同一縦位置に定義されているため、「あああああ」とバーコード項目が重なって出力されます。

9.2.3 FNP 出力

ここでは、FNP 出力時のオーバレイ形式の選択基準、および帳票定義情報で定義した情報のサポート範囲、FNP 出力時の注意事項などについて説明します。

注意

- プリンタに FNP 出力する場合、帳票名は、半角英数字 8 文字以内で指定してください。8 文字を超えると帳票出力時にエラーになります。

9.2.3.1 FNP 出力時のオーバレイ形式を決める

プリンタに FNP 出力する場合、オーバレイの形式には、「Windows 形式（KOL6）」と「UNIX 形式（KOL5）」の 2 つがあります。それぞれのオーバレイの形式で、表現力に違いがあります。

次の表から、オーバレイの形式を選択してください。

表 9.8 オーバレイの形式

オーバレイの形式	特長
Windows 形式（KOL6）	この形式のオーバレイを使用することをお勧めします。 UNIX 形式（KOL5）オーバレイに比べ、線種（長破線、長鎖線など）や網がけ濃度のパターンなどが追加され、帳票の表現力が優れています。 ⇒ “9.2.3.2 帳票様式情報のサポート一覧 ” また、Windows とオーバレイを共有することができます。 ただし、メディアデータを出力する場合は制限があります。 ⇒ “9.2.3.6 FNP 出力時の注意事項 ”
UNIX 形式（KOL5）	Windows 形式（KOL6）オーバレイに比べ、帳票の表現力は劣ります。 OutputASSIST 5.0 からの移行ユーザで、既存の UNIX 形式（KOL5）オーバレイをそのまま使用したい場合はこの形式を選択してください。

備考

- UNIX 形式（KOL5）オーバレイを作成する場合は、List Creator デザイナの EDITUTIL コマンドを実行し、UNIX 形式（KOL5）オーバレイを編集できるように設定を変更する必要があります。
  ⇒ “C.3 UNIX 形式（KOL5）オーバレイの表現力 ”
- 帳票の出力時には、ユーザアプリケーションでオーバレイの形式（KOL5、KOL6）を意識する必要はありません。帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）にオーバレイファイル（拡張子「.ovd」のファイル）を配置しておくだけで、List Creator が形式を自動的に判断して出力します。

9.2.3.2 帳票様式情報のサポート一覧

ここでは、プリンタに FNP 出力する場合の帳票様式情報のサポート範囲について、以下のオペレーティングシステム種別ごとに示します。

- 帳票出力サーバが Solaris の場合
- 帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合
- 帳票出力サーバが Linux for x86 の場合
- 帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合

9.2.3.2.1 帳票出力サーバが Solaris の場合

表 9.9 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（１／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙種別</td><td colspan="2">連帳</td><td>×</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">単票</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">用紙サイズ</td><td colspan="2">A3</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">A4</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">A5</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">A6</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">B4</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">B5</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">用紙サイズ</td><td colspan="2">はがき</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">Letter</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">Legal</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">任意</td><td>用紙名指定なし</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>用紙名指定あり</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙方向</td><td colspan="2">縦</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">行ピッチ</td><td colspan="2">6LPI</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">8LPI</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">12LPI</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">任意</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">区切り編集</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">文字下線幅を自動調整する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">Unicode の文字を使用する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>互換</td><td colspan="2">LP 縮刷</td><td>○</td><td>×
(*1)</td><td>*1：指定しても元のサイズで出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="3">印刷範囲</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>拡大 / 縮小印刷</td><td colspan="2">拡大 / 縮小指定</td><td colspan="2">△</td><td>80% 縮小のみ指定可能です。
その他の倍率を指定した場合は、元のサイズで印刷されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">段組み印刷</td><td colspan="2">2 段</td><td colspan="2">×</td><td rowspan="3">指定しても元のサイズで印刷されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段横</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段縦</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">余白</td><td rowspan="2">とじしろ</td><td>左</td><td>○
(*1)</td><td>○</td><td rowspan="2">*1：とじしろは、両面印刷時に有効になります。</td></tr>
<tr><td>上</td><td>○
(*1)</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">用紙からの位置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>オーバレイ</td><td colspan="2">オーバレイを印刷する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.9 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（２ / １０）

分類			プリンタ種		備考
			VSP 単票	VSP/ PS5000 連帳	
バーコード情報	EAN-128 バーコードの AI コード規格	1996 年 規格	―		EAN-128 バーコードは未サポートのため、無効です。
		2005 年 規格	―		
	キャラクタ間ギャップ幅		×		
	細太エレメント比		×		
	クワイエットゾーンの描画方法		×		
	ファンクションキャラクタ「FNC1」		×		
	制御コードの代替文字列指定		―		制御コードを指定できるバーコード種は未サポートのため、無効です。
	入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める		×		
禁則処理	禁則文字を指定する		○		
テキスト項目	入力データにハイパーリンク情報を付加する		×		ハイパーリンクは無効となり、表示文字列のみ出力されます。
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目 OCR-B 項目	集団印刷		△		数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	フォント	日本語フォント	○		日本語フォントは明朝またはゴシック、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。 ⇒ “9.2.3.5 指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文フォント	○		
		縦書きフォント	×		横書きで出力されます。
		利用者定義文字	○		出力方法については、以下を参照してください。 ⇒ “17.1.2.4 利用者定義文字の出力手順 ”
	スタイル	標準	○		
		太字	○		
		斜体	○		
		太字斜体	○		
	サイズ	日本語フォント	○		
		英文フォント	○		
	横幅		○		
	ピッチ	日本語	○		
		英文	○		
	1.5 ピッチ		○		数字項目では指定できません。
	文字を反時計回りに 90° 回転		○		
	下線		○		
	抹消線		○		
	色		×		黒色で出力されます。

表 9.9　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（３ / １０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="6">数字項目</td><td rowspan="8">編集形式</td><td>数値</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>通貨</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>区切り</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>日付</td><td colspan="2">△</td><td>「区切り」文字には、必ず１バイト文字を指定してください。</td></tr>
<tr><td>小数点抑止</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>小数部編集形式</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">テキスト項目</td><td>標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>郵便</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="17">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="7">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>均等配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>圧縮</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>逆配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>前空白データを削除しない</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分は出力しない</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>文字などを詰めて全データを出力する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>代替文字で出力する</td><td colspan="2">○</td><td>数字項目、テキスト項目のみ有効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td>日付項目、時刻項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目</td><td colspan="2">条件指定</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">矩形固定リテラル項目
矩形テキスト項目</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">日本語フォントは明朝またはゴシック、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。
⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="2">×</td><td>横書きで出力されます。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="2">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

表 9.9　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（４／１０）

<table>
<tr><th colspan="4" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="20">矩形固定リテラル項目
矩形テキスト項目</td><td rowspan="4">スタイル</td><td colspan="2">標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">太字</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">太字斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">サイズ</td><td colspan="2">日本語フォント</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">英文フォント</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">横幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピッチ</td><td colspan="2">日本語</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">英文</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">下線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">抹消線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="3">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">行の指定</td><td colspan="2">行の高さ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">行内での配置</td><td>上揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">余白</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">項目内に全データ出力</td><td colspan="2">縦幅を拡張して出力</td><td colspan="2">○</td><td>矩形テキスト項目のみ有効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">文字ピッチなどを縮小して出力</td><td>文字ピッチを先に縮小</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>行の高さを先に縮小</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">矩形テキスト項目</td><td>項目内の配置</td><td colspan="2">縦方向の配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">禁則処理</td><td colspan="2">句読点のぶら下げ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ワードラップ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">行頭／行末禁則</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">追い出し後の両端揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">折返し後の行頭空白抑止</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.9　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（５ / １０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="9">OCR-B 項目
(*1)</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">○</td><td>OCR-B フォントで出力できる文字は次の 1 バイト文字のみです。
・ 数字　　：0 ～ 9
・ 英大文字：A ～ Z
・ 特殊文字：「*」、「+」、「-」、「=」、「/」、「.」、「,」、「:」、「;」、「"」、「(」、「)」、「<」、「>」、「#」、「&」、「¥」、「%」
また、文字ピッチ 10CPI、文字サイズ 12 ポで出力されます。

*1：VSP/PS5000 シリーズのプリンタに内蔵された OCR-B フォントを使用します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分を出力しない</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>代替え文字で出力する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">ラジオボタン項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">チェックボックス項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="10">バーコード項目</td><td rowspan="10">バーコード種別</td><td>JAN 標準</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="7">プリンタ装置によって出力可能なバーコードの大きさが異なるため、帳票設計時に指定した大きさと異なる大きさで出力される場合があります。詳細については、VSP/PS5000 シリーズのマニュアルを参照してください。
各バーコード種別で指定可能な項目長の範囲は以下のとおりです。
JAN 標準：12
JAN 短縮：7
Code 3 of 9：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Industrial 2 of 5：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Interleaved 2 of 5（ITF）：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
NW-7：3 ～ 34
カスタマバーコード：20 固定</td></tr>
<tr><td>JAN 短縮</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Code 3 of 9</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Industrial 2 of 5</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Interleaved 2 of 5（ITF）</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>NW-7</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>カスタマバーコード</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Code 128</td><td colspan="2">×</td><td rowspan="2">指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>EAN-128</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>EAN-128（コンビニエンスストア向け）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.9 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（６ / １０）

分類			プリンタ種		備考
			VSP 単票	VSP/ PS5000 連帳	
バーコード項目	バーコード種別	Code 3 of 9（EIAJ 準拠）	×		指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		UPC バージョン A	×		
		UPC バージョン E	×		
		EAN-13	×		
		U.S. POSTNET （Delivery Point Code）	×		
		U.S. POSTNET （ZIP+4 Code）	×		
		U.S. POSTNET （5-Digit ZIP Code）	×		
		QR Code （モデル 1）	×		
		QR Code （モデル 2）	○		
		QR Code （マイクロ QR）	○		
		PDF417	×		指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		MaxiCode	×		
		FIM A （U.S. Postal FIM）	×		
		FIM B （U.S. Postal FIM）	×		
		FIM C （U.S. Postal FIM）	×		
		Intelligent Mail Barcode	×		
		GS1 DataBar Omnidirectional	×		
		GS1 DataBar Stacked Omnidirectional	×		
		GS1 DataBar Stacked	×		
		GS1 DataBar Limited	×		
		GS1 DataBar Expanded	×		
		GS1 DataBar Expanded Stacked	×		
		GS1 DataBar Truncated	×		
	印刷方向	0°	○		
		90°	○		
		180°	○		
		270°	○		
	文字印刷		○		
	チェックキャラクタ		○		

表 9.9 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（７ / １０）

<table>
<tr><th colspan="4" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="17">バーコード項目</td><td colspan="3">チェックキャラクタ（文字）の
印字抑止</td><td colspan="2">–</td><td>チェックキャラクタの印字抑止が指定できるバーコード種は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="3">フラグキャラクタ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">QR Code
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正比率</td><td colspan="2">△
(*1)</td><td rowspan="3">*1：以下の場合、誤り訂正比率は変更されます。
-「7%」を指定した場合に、データが数字 5 文字以下のときは「誤り検出のみ」となります。
-「誤り検出のみ」を指定した場合に、データが数字 6 文字以上のときは「7%」となります。
*2：指定は無効となります。
分割方向は、バーコード項目の縦幅と横幅の指定によって決まり、横幅の方が長い場合は「横」、縦幅の方が長い場合は「縦」になります。
*3：分割数に「2」以上、かつ印刷方向に「0°」以外を指定した場合、先頭の QR コードシンボルのみ 0° で印刷される場合があります。
この現象は、VSP4902、VSP4971 の場合に発生する可能性があります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割方向</td><td colspan="2">×
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割数</td><td>○</td><td>△
(*3)</td></tr>
<tr><td>MaxiCode
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正レベル</td><td colspan="2">–</td><td>MaxiCode は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Expanded Stacked 詳細設定</td><td colspan="2">段数</td><td colspan="2">–</td><td>GS1 DataBar Expanded Stacked は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">詳細設定</td><td colspan="2">指定範囲に収まるように
出力する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">項目の範囲
内での配置
位置</td><td>左詰め</td><td colspan="2">×</td><td>中央配置で出力されます。</td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">細エレメント幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">モジュール幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">バーの高さ</td><td colspan="2">–</td><td>GS1 DataBar Truncated は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">細太エレメント比</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">キャラクタ間のギャップ
幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">クワイエットゾーンの
描画方法</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.9 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（８／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="12">組込みメディア項目</td><td rowspan="6">メディア種</td><td>ビットマップ</td><td colspan="2">△</td><td>ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。
・ 白黒ビットマップ
・ 16 色ビットマップ
・ 256 色ビットマップ
・ 24 ビット ビットマップ
また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。</td></tr>
<tr><td>JPEG</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>TIFF</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>OLE2</td><td colspan="2">×</td><td>指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>PNG</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>グラフ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">クリッピング</td><td colspan="2">○
(*1)(*2)</td><td rowspan="3">*1：クリッピングを指定する場合、出力先の解像度が 400dpi でなければ、指定したサイズで出力されません。
*2：クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさでクリッピングされず、表示場所も中央になりません。</td></tr>
<tr><td></td><td>メディアデータの解像度で出力する</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">中央表示</td><td colspan="2">○
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">透過</td><td colspan="2">×</td><td>必ず白が透過色となります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">日付項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">時刻項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">郵便番号項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="10">パーティション罫線</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、一点鎖線、長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>二重線、波線 1、波線 2</td><td colspan="2">×</td><td>実線で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">線端</td><td>平面</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>四角</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>円</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">丸め</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">網がけ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">パターン</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.9　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（９／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="23">オーバレイ文字
（KOL6）</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">△</td><td rowspan="2">指定できるフォントと出力時のフォントについては、以下を参照してください。
⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">△</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="2">○</td><td>半角英数字は横書きとなります。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="2">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">サイズ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">文字間隔</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td colspan="2">×</td><td>文字のみ出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>文字幅の自動調整</td><td colspan="2">△</td><td>横幅縮小時に 0.1 ポイント未満となる場合は、0.1 ポイントとなります。</td></tr>
<tr><td>文字範囲</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">矩形オーバレイ文字（KOL6）</td><td colspan="2">×</td><td>出力されません。</td></tr>
</table>

表 9.9 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（１０／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="11">直線 / 枠 / 円 /
楕円
（KOL6）</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、
一点鎖線、長破線、
長鎖線、長二点鎖線、
任意線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>二重線、波線 1、波線 2</td><td colspan="2">×</td><td>実線で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="2">○</td><td>0.1pt ～ 3.5pt まで出力できます。それ以上の線幅を指定した場合は、3.5pt で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td>線端</td><td>平面、四角、円</td><td colspan="2">△</td><td>直線（斜線）は平面のみ、
円、楕円は四角、円のみ出力できます。</td></tr>
<tr><td>網がけ</td><td>（枠、円、楕円）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>丸め</td><td>（枠）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>位置、サイズ、パターン</td><td>（枠）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中心、半径</td><td>（円、楕円）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>開始位置、
終了位置</td><td>（直線）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">イメージ（KOL6）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目
－：未サポートのため無関係な項目

9.2.3.2.2　帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合

表 9.10　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（１／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙種別</td><td colspan="2">連帳</td><td>×</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">単票</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="12">用紙サイズ</td><td colspan="2">A3</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">A4</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">A5</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">A6</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">B4</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">B5</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">はがき</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">Letter</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">Legal</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">任意</td><td>用紙名指定なし</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>用紙名指定あり</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙方向</td><td colspan="2">縦</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">行ピッチ</td><td colspan="2">6LPI</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">8LPI</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">12LPI</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">任意</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">区切り編集</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">文字下線幅を自動調整する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">Unicode の文字を使用する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>互換</td><td colspan="2">LP 縮刷</td><td>○</td><td>×
(*1)</td><td>*1：指定しても元のサイズで出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="3">印刷範囲</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>拡大 / 縮小印刷</td><td colspan="2">拡大 / 縮小指定</td><td colspan="2">×</td><td rowspan="4">指定しても元のサイズで印刷されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">段組み印刷</td><td colspan="2">2 段</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段横</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段縦</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">余白</td><td rowspan="2">とじしろ</td><td>左</td><td>○
(*1)</td><td>×</td><td rowspan="2">*1：とじしろは、両面印刷時に有効になります。</td></tr>
<tr><td>上</td><td>○
(*1)</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="2">用紙からの位置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>オーバレイ</td><td colspan="2">オーバレイを印刷する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.10 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（２／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="8">バーコード情報</td><td rowspan="2">EAN-128 バーコードの
AI コード規格</td><td>1996 年
規格</td><td colspan="2">－</td><td rowspan="2">EAN-128 バーコードは未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>2005 年
規格</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャラクタ間ギャップ幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">細太エレメント比</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">クワイエットゾーンの描画方法</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ファンクションキャラクタ「FNC1」</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">制御コードの代替文字列指定</td><td colspan="2">－</td><td>制御コードを指定できるバーコード種は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>禁則処理</td><td colspan="2">禁則文字を指定する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>テキスト項目</td><td colspan="2">入力データにハイパーリンク情報を付加する</td><td colspan="2">×</td><td>ハイパーリンクは無効となり、表示文字列のみ出力されます。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目
OCR-B 項目</td><td colspan="2">集団印刷</td><td colspan="2">△</td><td>数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="18">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">日本語フォントは明朝またはゴシック、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。
⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="2">×</td><td>横書きで出力されます。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="2">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">サイズ</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピッチ</td><td>日本語</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>英文</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">1.5 ピッチ</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">数字項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">文字を反時計回りに 90° 回転</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">抹消線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
</table>

表 9.10 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（３ / １０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="6">数字項目</td><td rowspan="8">編集形式</td><td>数値</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>通貨</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>区切り</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>日付</td><td colspan="2">△</td><td>「区切り」文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。</td></tr>
<tr><td>小数点抑止</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>小数部編集形式</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">テキスト項目</td><td>標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>郵便</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="15">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="7">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>均等配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>圧縮</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>逆配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>前空白データを削除しない</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分は出力しない</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>文字などを詰めて全データを出力する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>代替文字で出力する</td><td colspan="2">○</td><td>数字項目、テキスト項目のみ有効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td>日付項目、時刻項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目</td><td colspan="2">条件指定</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">矩形固定リテラル項目
矩形テキスト項目</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">日本語フォントは明朝またはゴシック、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。
⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="2">×</td><td>横書きで出力されます。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="2">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

表 9.10 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（４／１０）

<table>
<tr><th colspan="4" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="22">矩形固定リテラル項目
矩形テキスト項目</td><td rowspan="4">スタイル</td><td colspan="2">標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">太字</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">太字斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">サイズ</td><td colspan="2">日本語フォント</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">英文フォント</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">横幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピッチ</td><td colspan="2">日本語</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">英文</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">下線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">抹消線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="3">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">行の指定</td><td colspan="2">行の高さ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">行内での配置</td><td>上揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">余白</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">項目内に全データ出力</td><td colspan="2">縦幅を拡張して出力</td><td colspan="2">○</td><td>矩形テキスト項目のみ有効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">文字ピッチなどを縮小して出力</td><td>文字ピッチを先に縮小</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>行の高さを先に縮小</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">矩形テキスト項目</td><td>項目内の配置</td><td colspan="2">縦方向の配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">禁則処理</td><td colspan="2">句読点のぶら下げ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ワードラップ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">行頭／行末禁則</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">追い出し後の両端揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">折返し後の行頭空白抑止</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.10 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（５／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="8">OCR-B 項目
(*1)</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">○</td><td>OCR-B フォントで出力できる文字は次の 1 バイト文字のみです。
・ 数字　　：0 ～ 9
・ 英大文字：A ～ Z
・ 特殊文字：「*」、「+」、「-」、「=」、「/」、「.」、「,」、「:」、「;」、「"」、「(」、「)」、「<」、「>」、「#」、「&」、「¥」、「%」
また、文字ピッチ 10CPI、文字サイズ 12 ポで出力されます。
*1：VSP/PS5000 シリーズのプリンタに内臓された OCR-B フォントを使用します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分を出力しない</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>代替え文字で出力する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">ラジオボタン項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">チェックボックス項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="10">バーコード項目</td><td rowspan="10">バーコード種別</td><td>JAN 標準</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="7">プリンタ装置によって出力可能なバーコードの大きさが異なるため、帳票設計時に指定した大きさと異なる大きさで出力される場合があります。詳細については、VSP/PS5000 シリーズのマニュアルを参照してください。
各バーコード種別で指定可能な項目長の範囲は以下のとおりです。
JAN 標準：12
JAN 短縮：7
Code 3 of 9：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Industrial 2 of 5：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Interleaved 2 of 5（ITF）：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
NW-7：3 ～ 34
カスタマバーコード：20 固定</td></tr>
<tr><td>JAN 短縮</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Code 3 of 9</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Industrial 2 of 5</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Interleaved 2 of 5（ITF）</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>NW-7</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>カスタマバーコード</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Code 128</td><td colspan="2">×</td><td rowspan="2">指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>EAN-128</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>EAN-128（コンビニエンスストア向け）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.10　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（６／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="28">バーコード項目</td><td rowspan="22">バーコード種別</td><td>Code 3 of 9（EIAJ 準拠）</td><td colspan="2">×</td><td rowspan="8">指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>UPC バージョン A</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>UPC バージョン E</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>EAN-13</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>U.S. POSTNET
（Delivery Point Code）</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>U.S. POSTNET
（ZIP+4 Code）</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>U.S. POSTNET
（5-Digit ZIP Code）</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>QR Code
（モデル 1）</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>QR Code
（モデル 2）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>QR Code
（マイクロ QR）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>PDF417</td><td colspan="2">×</td><td rowspan="12">指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>MaxiCode</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>FIM A
（U.S. Postal FIM）</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>FIM B
（U.S. Postal FIM）</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>FIM C
（U.S. Postal FIM）</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>Intelligent Mail Barcode</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Omnidirectional</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Stacked Omnidirectional</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Stacked</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Limited</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Expanded</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Expanded Stacked</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Truncated</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td rowspan="4">印刷方向</td><td>0°</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>90°</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>180°</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>270°</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">文字印刷</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">チェックキャラクタ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.10 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（７／１０）

<table>
<tr><th colspan="4" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="17">バーコード項目</td><td colspan="3">チェックキャラクタ（文字）の
印字抑止</td><td colspan="2">―</td><td>チェックキャラクタの印字抑止が指定できるバーコード種は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="3">フラグキャラクタ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">QR Code
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正比率</td><td colspan="2">△
(*1)</td><td rowspan="3">*1：以下の場合、誤り訂正比率は変更されます。
-「7%」を指定した場合に、データが数字 5 文字以下のときは「誤り検出のみ」となります。
-「誤り検出のみ」を指定した場合に、データが数字 6 文字以上のときは「7%」となります。
*2：指定は無効となります。
分割方向は、バーコード項目の縦幅と横幅の指定によって決まり、横幅の方が長い場合は「横」、縦幅の方が長い場合は「縦」になります。
*3：分割数に「2」以上、かつ印刷方向に「0°」以外を指定した場合、先頭の QR コードシンボルのみ 0° で印刷される場合があります。
この現象は、VSP4902、VSP4971 の場合に発生する可能性があります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割方向</td><td colspan="2">×
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割数</td><td>○</td><td>△
(*3)</td></tr>
<tr><td>MaxiCode
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正レベル</td><td colspan="2">―</td><td>MaxiCode は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Expanded Stacked 詳細設定</td><td colspan="2">段数</td><td colspan="2">―</td><td>GS1 DataBar Expanded Stacked は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">詳細設定</td><td colspan="2">指定範囲に収まるように
出力する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">項目の範囲内での配置位置</td><td>左詰め</td><td colspan="2">×</td><td>中央配置で出力されます。</td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">細エレメント幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">モジュール幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">バーの高さ</td><td colspan="2">―</td><td>GS1 DataBar Truncated は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">細太エレメント比</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">キャラクタ間のギャップ幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">クワイエットゾーンの
描画方法</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.10 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（８／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="11">組込みメディア項目</td><td rowspan="6">メディア種</td><td>ビットマップ</td><td colspan="2">△</td><td>ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。
・ 白黒ビットマップ
・ 16 色ビットマップ
・ 256 色ビットマップ
・ 24 ビット ビットマップ
また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。</td></tr>
<tr><td>JPEG</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>TIFF</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>OLE2</td><td colspan="2">×</td><td>指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>PNG</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>グラフ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">クリッピング</td><td colspan="2">○
(*1)(*2)</td><td rowspan="3">*1：クリッピングを指定する場合、出力先の解像度が 400dpi でなければ、指定したサイズで出力されません。
*2：クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさでクリッピングされず、表示場所も中央になりません。</td></tr>
<tr><td></td><td>メディアデータの解像度で出力する</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">中央表示</td><td colspan="2">○
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">透過</td><td colspan="2">×</td><td>必ず白が透過色となります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">日付項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">時刻項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">郵便番号項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="10">パーティション罫線</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、一点鎖線、長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>二重線、波線 1、波線 2</td><td colspan="2">×</td><td>実線で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">線端</td><td>平面</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>四角</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>円</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">丸め</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">網がけ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">パターン</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.10　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（９／１０）

<table>
<tr><th rowspan="2" colspan="3">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="23">オーバレイ文字
（KOL6）</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">△</td><td rowspan="2">指定できるフォントと出力時のフォントについては、以下を参照してください。
⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">△</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="2">○</td><td>半角英数字は横書きとなります。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="2">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">サイズ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">文字間隔</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td colspan="2">×</td><td>文字のみ出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>文字幅の自動調整</td><td colspan="2">△</td><td>横幅縮小時に 0.1 ポイント未満となる場合は、0.1 ポイントとなります。</td></tr>
<tr><td>文字範囲</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">矩形オーバレイ文字（KOL6）</td><td colspan="2">×</td><td>出力されません。</td></tr>
</table>

表 9.10 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（１０／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="10">直線 / 枠 / 円 /
楕円
（KOL6）</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、
一点鎖線、長破線、
長鎖線、長二点鎖線、
任意線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>二重線、波線 1、波線 2</td><td colspan="2">×</td><td>実線で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="2">○</td><td>0.1pt 〜 3.5pt まで出力できます。それ以上の線幅を指定した場合は、3.5pt で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td>線端</td><td>平面、四角、円</td><td colspan="2">△</td><td>直線（斜線）は平面のみ、
円、楕円は四角、円のみ出力できます。</td></tr>
<tr><td>網がけ</td><td>（枠、円、楕円）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>丸め</td><td>（枠）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>位置、サイズ、パターン</td><td>（枠）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中心、半径</td><td>（円、楕円）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>開始位置、
終了位置</td><td>（直線）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">イメージ（KOL6）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目
ー：未サポートのため無関係な項目

9.2.3.2.3　帳票出力サーバが Linux for x86 の場合

表 9.11　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（１／１０）

分類			プリンタ種 VSP 単票	備考
用紙種別	連帳		×	
	単票		○	
用紙サイズ	A3		○	
	A4		○	
	A5		○	
	A6		×	
	B4		○	
	B5		○	
	はがき		×	
	Letter		○	
	Legal		×	
	任意	用紙名指定なし	×	
		用紙名指定あり	×	
用紙方向	縦		○	
	横		○	
行ピッチ	6LPI		○	
	8LPI		○	
	12LPI		○	
	任意		○	
区切り編集			○	
文字下線幅を自動調整する			○	
Unicode の文字を使用する			×	
互換	LP 縮刷		×	
印刷範囲			×	
拡大 / 縮小印刷	拡大 / 縮小指定		×	指定しても元のサイズで印刷されます。
段組み印刷	2 段		×	
	4 段横		×	
	4 段縦		×	
余白	とじしろ	左	○	とじしろは、両面印刷時に有効になります。
		上	○	
	用紙からの位置		○	
オーバレイ	オーバレイを印刷する		○	
バーコード情報	EAN-128 バーコードの AI コード規格	1996 年規格	×	
		2005 年規格	×	
	キャラクタ間ギャップ幅		×	
	細太エレメント比		×	

表 9.11 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（２／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th>プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th></tr>
<tr><td rowspan="4">バーコード情報</td><td colspan="2">クワイエットゾーンの描画方法</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ファンクションキャラクタ「FNC1」</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">制御コードの代替文字列指定</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td>禁則処理</td><td colspan="2">禁則文字を指定する</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>テキスト項目</td><td colspan="2">入力データにハイパーリンク情報を付加する</td><td>×</td><td>ハイパーリンクは無効となり、表示文字列のみ出力されます。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目
OCR-B 項目</td><td colspan="2">集団印刷</td><td>△</td><td>数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず１バイト文字を指定してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="18">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td>○</td><td rowspan="2">日本語フォントは明朝またはゴシック、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。
⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td>○</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td>×</td><td>出力されません。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td>○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>斜体</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">サイズ</td><td>日本語フォント</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピッチ</td><td>日本語</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>英文</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">1.5 ピッチ</td><td>○</td><td rowspan="2">数字項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">文字を反時計回りに 90° 回転</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">抹消線</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td>×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
</table>

表 9.11 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（３／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th>プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th></tr>
<tr><td rowspan="6">数字項目</td><td rowspan="8">編集形式</td><td>数値</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>通貨</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>区切り</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>日付</td><td>△</td><td>「区切り」文字には、必ず１バイト文字を指定してください。</td></tr>
<tr><td>小数点抑止</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>小数部編集形式</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">テキスト項目</td><td>標準</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>郵便</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="15">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="7">文字配置</td><td>指定なし</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>均等配置</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>圧縮</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>逆配置</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>前空白データを削除しない</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分を出力しない</td><td>×</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>文字データなどを詰めて全データを出力する</td><td>×</td></tr>
<tr><td>代替え文字で出力する</td><td>×</td><td>数字項目、テキスト項目でのみ指定できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td>○</td><td>日付項目、時刻項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目</td><td colspan="2">条件指定</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.11　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（４ / １０）

分類				プリンタ種 VSP 単票	備考
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	フォント	日本語フォント		○	日本語フォントは明朝またはゴシック、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。 ⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文フォント		○	
		縦書きフォント		×	出力されません。
		利用者定義文字		○	出力方法については、以下を参照してください。 ⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”
	スタイル	標準		○	
		太字		○	
		斜体		○	
		太字斜体		○	
	サイズ	日本語フォント		○	
		英文フォント		○	
	横幅			○	
	ピッチ	日本語		○	
		英文		○	
	下線			○	
	抹消線			○	
	色			×	黒色で出力されます。
	繰返し			○	
	行の指定	行の高さ		○	
		行内での配置	上揃え	○	
			下揃え	○	
	余白			○	
	項目内に全データ出力	縦幅を拡張して出力		○	矩形テキスト項目でのみ指定できます。
		文字ピッチなどを縮小して出力	文字ピッチを先に縮小	○	
			行の高さを先に縮小	○	
矩形テキスト項目	項目内の配置	縦方向の配置		×	
	禁則処理	句読点のぶら下げ		○	
		ワードラップ		○	
		行頭／行末禁則		○	
		追い出し後の両端揃え		○	
		折返し後の行頭空白抑止		×	

表 9.11　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（５／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th>プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th></tr>
<tr><td colspan="3">OCR-B 項目
(*1)</td><td>○</td><td>OCR-B フォントで出力できる文字は次の 1 バイト文字のみです。
・ 数字　　：0 ～ 9
・ 英大文字：A ～ Z
・ 特殊文字：「*」、「+」、「-」、「=」、「/」、「.」、「,」、「:」、「;」、「"」、「(」、「)」、「<」、「>」、「#」、「&」、「¥」、「%」
また、文字ピッチ 10CPI、文字サイズ 12 ポで出力されます。
*1：VSP シリーズのプリンタに内臓された OCR-B フォントを使用します。</td></tr>
<tr><td rowspan="7"></td><td rowspan="2">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分を出力しない</td><td>×</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>代替文字で出力する</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">ラジオボタン項目</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">チェックボックス項目</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="10">バーコード項目</td><td rowspan="10">バーコード種別</td><td>JAN 標準</td><td>○</td><td rowspan="7">プリンタ装置によって出力可能なバーコードの大きさが異なるため、帳票設計時に指定した大きさと異なる大きさで出力される場合があります。詳細については、VSP シリーズのマニュアルを参照してください。
各バーコード種別で指定可能な項目長の範囲は以下のとおりです。
JAN 標準：12
JAN 短縮：7
Code 3 of 9：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Industrial 2 of 5：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Interleaved 2 of 5（ITF）：1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
NW-7：3 ～ 34
カスタマバーコード：20 固定</td></tr>
<tr><td>JAN 短縮</td><td>○</td></tr>
<tr><td>Code 3 of 9</td><td>○</td></tr>
<tr><td>Industrial 2 of 5</td><td>○</td></tr>
<tr><td>Interleaved 2 of 5（ITF）</td><td>○</td></tr>
<tr><td>NW-7</td><td>○</td></tr>
<tr><td>カスタマバーコード</td><td>○</td></tr>
<tr><td>Code 128</td><td>×</td><td rowspan="2">指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>EAN-128</td><td>×</td></tr>
<tr><td>EAN-128（コンビニエンスストア向け）</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.11 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（６／１０）

分類			プリンタ種 VSP 単票	備考
バーコード項目	バーコード種別	Code 3 of 9（EIAJ 準拠）	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		UPC バージョン A	×	
		UPC バージョン E	×	
		EAN-13	×	
		U.S. POSTNET（Delivery Point Code）	×	
		U.S. POSTNET（ZIP+4 Code）	×	
		U.S. POSTNET（5-Digit ZIP Code）	×	
		QR Code（モデル 1）	×	
		QR Code（モデル 2）	×	
		QR Code（マイクロ QR）	×	
		PDF417	×	
		MaxiCode	×	
		FIM A（U.S. Postal FIM）	×	
		FIM B（U.S. Postal FIM）	×	
		FIM C（U.S. Postal FIM）	×	
		Intelligent Mail Barcode	×	
		GS1 DataBar Omnidirectional	×	
		GS1 DataBar Stacked Omnidirectional	×	
		GS1 DataBar Stacked	×	
		GS1 DataBar Limited	×	
		GS1 DataBar Expanded	×	
		GS1 DataBar Expanded Stacked	×	
		GS1 DataBar Truncated	×	
	印刷方向	0°	○	
		90°	○	
		180°	○	
		270°	○	
	文字印刷		○	
	チェックキャラクタ		○	

表 9.11 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（７／１０）

<table>
<tr><th colspan="4" rowspan="2">分類</th><th>プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th></tr>
<tr><td rowspan="17">バーコード項目</td><td colspan="3">チェックキャラクタ（文字）の
印字抑止</td><td>－</td><td>チェックキャラクタの印字抑止が指定できるバーコード種は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="3">フラグキャラクタ</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">QR Code
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正比率</td><td rowspan="3">－</td><td rowspan="3">QR Code は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割方向</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割数</td></tr>
<tr><td>MaxiCode
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正レベル</td><td>－</td><td>MaxiCode は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>GS1
DataBar
Expanded
Stacked 詳細設定</td><td colspan="2">段数</td><td>－</td><td>GS1 DataBar Expanded Stacked は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">詳細設定</td><td colspan="2">指定範囲に収まるように
出力する</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">項目の範囲
内での配置
位置</td><td>左詰め</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">細エレメント幅</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">モジュール幅</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">バーの高さ</td><td>－</td><td>GS1 DataBar Truncated は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">細太エレメント比</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">キャラクタ間のギャップ
幅</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">クワイエットゾーンの
描画方法</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">繰返し</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.11 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（８／１０）

分類			プリンタ種 VSP 単票	備考
組込みメディア項目	メディア種	ビットマップ	△	ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。 ・ 白黒ビットマップ ・ 16 色ビットマップ ・ 256 色ビットマップ ・ 24 ビット ビットマップ また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。
		JPEG	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		TIFF	○	
		OLE2	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		PNG	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		グラフ	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
	クリッピング		○ (*1)(*2)	*1：クリッピングを指定する場合、出力先の解像度が 400dpi でなければ、指定したサイズで出力されません。 *2：クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさでクリッピングされず、表示場所も中央になりません。
		メディアデータの解像度で出力する	○	
	中央表示		○	クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさでクリッピングされず、表示場所も中央になりません。
	透過		×	必ず白が透過色となります。
	繰返し		○	
日付項目			○	
時刻項目			○	
郵便番号項目			○	
パーティション罫線	線種	実線、点線、破線、一点鎖線、長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線	○	
		二重線、波線 1、波線 2	×	実線で出力されます。
	線端	平面	○	
		四角	○	
		円	○	
	線幅		○	
	線色		×	黒色で出力されます。
	丸め		○	
	網がけ		○	
	パターン		○	

表 9.11　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（９／１０）

分類			プリンタ種 VSP 単票	備考
オーバレイ文字（KOL6）	フォント	日本語フォント	△	指定できるフォントと出力時のフォントについては、以下を参照してください。 ⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文フォント	△	
		縦書きフォント	○	半角英数字は横書きとなります。
		利用者定義文字	○	出力方法については、以下を参照してください。 ⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”
	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
		太字斜体	○	
	サイズ		○	
	横幅		○	
	文字間隔		○	
	下線		×	文字のみ出力されます。
	色		×	黒色で出力されます。
	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	○	
		中央配置	○	
		右揃え	○	
		文字幅の自動調整	△	横幅縮小時に 0.1 ポイント未満となる場合は、0.1 ポイントとなります。
		文字範囲	○	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	○	
		上から下	○	
		下から上	○	
矩形オーバレイ文字（KOL6）			×	出力されません。

表 9.11 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））（１０／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th>プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th></tr>
<tr><td rowspan="11">直線 / 枠 / 円 / 楕円
（KOL6）</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、
一点鎖線、長破線、
長鎖線、長二点鎖線、
任意線</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>二重線、波線 1、波線 2</td><td>×</td><td>実線で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td>○</td><td>0.1pt ～ 3.5pt まで出力できます。それ以上の線幅を指定した場合は、3.5pt で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td>×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td>線端</td><td>平面、四角、円</td><td>△</td><td>直線（斜線）は平面のみ、
円、楕円は四角、円のみ出力できます。</td></tr>
<tr><td>網がけ</td><td>（枠、円、楕円）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>丸め</td><td>（枠）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>位置、サイズ、パターン</td><td>（枠）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>中心、半径</td><td>（円、楕円）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>開始位置、
終了位置</td><td>（直線）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">イメージ（KOL6）</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目
ー：未サポートのため無関係な項目

9.2.3.2.4 帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合

表 9.12 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（１ / １０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙種別</td><td colspan="2">連帳</td><td>×</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">単票</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="11">用紙サイズ</td><td colspan="2">A3</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">A4</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">A5</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">A6</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">B4</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">B5</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">はがき</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">Letter</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">Legal</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">任意</td><td>用紙名指定なし</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>用紙名指定あり</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙方向</td><td colspan="2">縦</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">行ピッチ</td><td colspan="2">6LPI</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">8LPI</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">12LPI</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">任意</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">区切り編集</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">文字下線幅を自動調整する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">Unicode の文字を使用する</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>互換</td><td colspan="2">LP 縮刷</td><td>○</td><td>×
(*1)</td><td>*1：指定しても元のサイズで出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="3">印刷範囲</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>拡大 / 縮小印刷</td><td colspan="2">拡大 / 縮小指定</td><td colspan="2">×</td><td rowspan="4">指定しても元のサイズで印刷されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">段組み印刷</td><td colspan="2">2 段</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段横</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段縦</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td rowspan="3">余白</td><td rowspan="2">とじしろ</td><td>左</td><td>○
(*1)</td><td>×</td><td rowspan="2">*1：とじしろは、両面印刷時に有効になります。</td></tr>
<tr><td>上</td><td>○
(*1)</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="2">用紙からの位置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>オーバレイ</td><td colspan="2">オーバレイを印刷する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.12 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（２ / １０）

<table>
<tr><th rowspan="2" colspan="3">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="8">バーコード情報</td><td rowspan="2">EAN-128 バーコードの
AI コード規格</td><td>1996 年
規格</td><td colspan="2">–</td><td rowspan="2">EAN-128 バーコードは未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>2005 年
規格</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャラクタ間ギャップ幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">細太エレメント比</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">クワイエットゾーンの描画方法</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ファンクションキャラクタ「FNC1」</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">制御コードの代替文字列指定</td><td colspan="2">–</td><td>制御コードを指定できるバーコード種は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>禁則処理</td><td colspan="2">禁則文字を指定する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>テキスト項目</td><td colspan="2">入力データにハイパーリンク情報を付加する</td><td colspan="2">×</td><td>ハイパーリンクは無効となり、表示文字列のみ出力されます。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目
OCR-B 項目</td><td colspan="2">集団印刷</td><td colspan="2">△</td><td>数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="18">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">日本語フォントは明朝またはゴシック、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。
⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="2">×</td><td>横書きで出力されます。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="2">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">サイズ</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピッチ</td><td>日本語</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>英文</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">1.5 ピッチ</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">数字項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">文字を反時計回りに 90° 回転</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">抹消線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
</table>

表 9.12　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（３ / １０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="6">数字項目</td><td rowspan="8">編集形式</td><td>数値</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>通貨</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>区切り</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>日付</td><td colspan="2">△</td><td>「区切り」文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。</td></tr>
<tr><td>小数点抑止</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>小数部編集形式</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">テキスト項目</td><td>標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>郵便</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="15">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="7">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>均等配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>圧縮</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>逆配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>前空白データを削除しない</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分は出力しない</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>文字などを詰めて全データを出力する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>代替文字で出力する</td><td colspan="2">○</td><td>数字項目、テキスト項目のみ有効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td>日付項目、時刻項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目</td><td colspan="2">条件指定</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">矩形固定リテラル項目
矩形テキスト項目</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">日本語フォントは明朝またはゴシック、英文フォントはプリンタ内蔵フォントで出力されます。
⇒ “9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="2">×</td><td>横書きで出力されます。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="2">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

表 9.12 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（４／１０）

分類				プリンタ種		備考
				VSP 単票	VSP/PS5000 連帳	
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	スタイル	標準		○		
		太字		○		
		斜体		○		
		太字斜体		○		
	サイズ	日本語フォント		○		
		英文フォント		○		
	横幅			○		
	ピッチ	日本語		○		
		英文		○		
	下線			○		
	抹消線			○		
	色			×		黒色で出力されます。
	繰返し			○		
	行の指定	行の高さ		○		
		行内での配置	上揃え	○		
			下揃え	○		
	余白			○		
	項目内に全データ出力	縦幅を拡張して出力		○		矩形テキスト項目のみ有効です。
		文字ピッチなどを縮小して出力	文字ピッチを先に縮小	○		
			行の高さを先に縮小	○		
矩形テキスト項目	項目内の配置	縦方向の配置		×		
	禁則処理	句読点のぶら下げ		○		
		ワードラップ		○		
		行頭／行末禁則		○		
		追い出し後の両端揃え		○		
		折返し後の行頭空白文字抑止		×		

表 9.12 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（５ / １０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="8">OCR-B 項目
(*1)</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">○</td><td>OCR-B フォントで出力できる文字は次の 1 バイト文字のみです。
・ 数字　　: 0 ～ 9
・ 英大文字 : A ～ Z
・ 特殊文字 : 「*」、「+」、「-」、「=」、「/」、「.」、「,」、「:」、「;」、「"」、「(」、「)」、「<」、「>」、「#」、「&」、「¥」、「%」
また、文字ピッチ 10CPI、文字サイズ 12 ポで出力されます。
*1 : VSP/PS5000 シリーズのプリンタに内臓された OCR-B フォントを使用します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分を出力しない</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>代替え文字で出力する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">ラジオボタン項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">チェックボックス項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="10">バーコード項目</td><td rowspan="10">バーコード種別</td><td>JAN 標準</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="7">プリンタ装置によって出力可能なバーコードの大きさが異なるため、帳票設計時に指定した大きさと異なる大きさで出力される場合があります。詳細については、VSP/PS5000 シリーズのマニュアルを参照してください。
各バーコード種別で指定可能な項目長の範囲は以下のとおりです。
JAN 標準 : 12
JAN 短縮 : 7
Code 3 of 9 : 1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Industrial 2 of 5 : 1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
Interleaved 2 of 5（ITF）: 1 ～ 32
（チェックキャラありの場合は 1 ～ 31）
NW-7 : 3 ～ 34
カスタマバーコード : 20 固定</td></tr>
<tr><td>JAN 短縮</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Code 3 of 9</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Industrial 2 of 5</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Interleaved 2 of 5（ITF）</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>NW-7</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>カスタマバーコード</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>Code 128</td><td colspan="2">×</td><td rowspan="2">指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>EAN-128</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td>EAN-128（コンビニエンスストア向け）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.12　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（６／１０）

分類			プリンタ種		備考
			VSP 単票	VSP/PS5000 連帳	
バーコード項目	バーコード種別	Code 3 of 9（EIAJ 準拠）	×		指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		UPC バージョン A	×		
		UPC バージョン E	×		
		EAN-13	×		
		U.S. POSTNET（Delivery Point Code）	×		
		U.S. POSTNET（ZIP+4 Code）	×		
		U.S. POSTNET（5-Digit ZIP Code）	×		
		QR Code（モデル 1）	×		
		QR Code（モデル 2）	○		
		QR Code（マイクロ QR）	○		
		PDF417	×		指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		MaxiCode	×		
		FIM A（U.S. Postal FIM）	×		
		FIM B（U.S. Postal FIM）	×		
		FIM C（U.S. Postal FIM）	×		
		Intelligent Mail Barcode	×		
		GS1 DataBar Omnidirectional	×		
		GS1 DataBar Stacked Omnidirectional	×		
		GS1 DataBar Stacked	×		
		GS1 DataBar Limited	×		
		GS1 DataBar Expanded	×		
		GS1 DataBar Expanded Stacked	×		
		GS1 DataBar Truncated	×		
	印刷方向	0°	○		
		90°	○		
		180°	○		
		270°	○		
	文字印刷		○		
	チェックキャラクタ		○		

表 9.12　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（７／１０）

<table>
<tr><th colspan="4" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="17">バーコード項目</td><td colspan="3">チェックキャラクタ（文字）の
印字抑止</td><td colspan="2">–</td><td>チェックキャラクタの印字抑止が指定できるバーコード種は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="3">フラグキャラクタ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">QR Code
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正比率</td><td colspan="2">△
(*1)</td><td rowspan="3">*1：以下の場合、誤り訂正比率は変更されます。
-「7%」を指定した場合に、データが数字 5 文字以下のときは「誤り検出のみ」となります。
-「誤り検出のみ」を指定した場合に、データが数字 6 文字以上のときは「7%」となります。
*2：指定は無効となります。
分割方向は、バーコード項目の縦幅と横幅の指定によって決まり、横幅の方が長い場合は「横」、縦幅の方が長い場合は「縦」になります。
*3：分割数に「2」以上、かつ印刷方向に「0°」以外を指定した場合、先頭の QR コードシンボルのみ 0° で印刷される場合があります。
この現象は、VSP4902、VSP4971 の場合に発生する可能性があります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割方向</td><td colspan="2">×
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">分割数</td><td>○</td><td>△
(*3)</td></tr>
<tr><td>MaxiCode
詳細設定</td><td colspan="2">誤り訂正レベル</td><td colspan="2">–</td><td>MaxiCode は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>GS1 DataBar Expanded Stacked 詳細設定</td><td colspan="2">段数</td><td colspan="2">–</td><td>GS1 DataBar Expanded Stacked は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">詳細設定</td><td colspan="2">指定範囲に収まるように出力する</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">項目の範囲内での配置位置</td><td>左詰め</td><td colspan="2">×</td><td>中央配置で出力されます。</td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">細エレメント幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">モジュール幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">バーの高さ</td><td colspan="2">–</td><td>GS1 DataBar Truncated は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">細太エレメント比</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">キャラクタ間のギャップ幅</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">クワイエットゾーンの描画方法</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.12 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（８／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="14">組込みメディア項目</td><td rowspan="6">メディア種</td><td>ビットマップ</td><td colspan="2">△</td><td>ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。
・ 白黒ビットマップ
・ 16 色ビットマップ
・ 256 色ビットマップ
・ 24 ビット ビットマップ
また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。</td></tr>
<tr><td>JPEG</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>TIFF</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>OLE2</td><td colspan="2">×</td><td>指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>PNG</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>グラフ</td><td colspan="2">×</td><td>指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">クリッピング</td><td colspan="2">○
(*1)(*2)</td><td rowspan="3">*1：クリッピングを指定する場合、出力先の解像度が 400dpi でなければ、指定したサイズで出力されません。
*2：クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさでクリッピングされず、表示場所も中央になりません。</td></tr>
<tr><td></td><td>メディアデータの解像度で出力する</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">中央表示</td><td colspan="2">○
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">透過</td><td colspan="2">×</td><td>必ず白が透過色となります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">日付項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">時刻項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">郵便番号項目</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="10">パーティション罫線</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、一点鎖線、長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>二重線、波線 1、波線 2</td><td colspan="2">×</td><td>実線で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">線端</td><td>平面</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>四角</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>円</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">丸め</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">網がけ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">パターン</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.12 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（９／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="26">オーバレイ文字（KOL6）</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語フォント</td><td colspan="2">△</td><td rowspan="2">指定できるフォントと出力時のフォントについては、以下を参照してください。
⇒ “9.2.3.5 指定可能なフォントと出力時のフォント ”</td></tr>
<tr><td>英文フォント</td><td colspan="2">△</td></tr>
<tr><td>縦書きフォント</td><td colspan="2">○</td><td>半角英数字は横書きとなります。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="2">○</td><td>出力方法については、以下を参照してください。
⇒ “17.1.2.4 利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">サイズ</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">文字間隔</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td colspan="2">×</td><td>文字のみ出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右揃え</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>文字幅の自動調整</td><td colspan="2">△</td><td>横幅縮小時に 0.1 ポイント未満となる場合は、0.1 ポイントとなります。</td></tr>
<tr><td>文字範囲</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">矩形オーバレイ文字（KOL6）</td><td colspan="2">×</td><td>出力されません。</td></tr>
</table>

表 9.12 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））（１０／１０）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="10">直線 / 枠 / 円 / 楕円
（KOL6）</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、
一点鎖線、長破線、
長鎖線、長二点鎖線、
任意線</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>二重線、波線 1、波線 2</td><td colspan="2">×</td><td>実線で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="2">○</td><td>0.1pt ～ 3.5pt まで出力できます。それ以上の線幅を指定した場合は、3.5pt で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="2">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td>線端</td><td>平面、四角、円</td><td colspan="2">△</td><td>直線（斜線）は平面のみ、
円、楕円は四角、円のみ出力できます。</td></tr>
<tr><td>網がけ</td><td>（枠、円、楕円）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>丸め</td><td>（枠）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>位置、サイズ、パターン</td><td>（枠）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中心、半径</td><td>（円、楕円）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td>開始位置、終了位置</td><td>（直線）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">イメージ（KOL6）</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目
－：未サポートのため無関係な項目

9.2.3.3 帳票業務情報のサポート一覧

ここでは、プリンタに FNP 出力する場合の帳票業務情報のサポート範囲について、以下のオペレーティングシステム種別ごとに示します。

- 帳票出力サーバが Solaris の場合
- 帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合
- 帳票出力サーバが Linux for x86 の場合
- 帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合

9.2.3.3.1 帳票出力サーバが Solaris の場合

表 9.13 帳票業務情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td colspan="3">印刷プリンタ名</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="9">給紙方法</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">カットシートフィーダ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ1</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ2</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ3</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ4</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">手差し</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">指定なし</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">自動</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">給紙口名</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">置換フォント</td><td colspan="2">△</td><td>オーバレイ文字は有効となりません。</td></tr>
<tr><td colspan="3">区切りページ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">印刷部数</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">部数</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">部数単位で印刷</td><td colspan="2">●</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">両面印刷</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">両面印刷しない / する</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">マルチフォーム出力時の動作指定</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">バーコード補正情報</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="9">印刷属性情報</td><td rowspan="3">出力開始時の動作モード</td><td>装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td>「出力する」が指定されたものとして動作します。</td></tr>
<tr><td>出力する</td><td colspan="2">●</td><td></td></tr>
<tr><td>保留する</td><td colspan="2">●</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">スプールドキュメントの扱い</td><td colspan="2">●</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">出力時の優先順位</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">メッセージの通知先</td><td colspan="2">●</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">出力経過のメッセージ通知</td><td>出力開始メッセージ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>用紙交換メッセージ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>出力完了メッセージ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
●：Print Manager の高信頼プリンタの場合に定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目

9.2.3.3.2 帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合

表 9.14 帳票業務情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td colspan="3">印刷プリンタ名</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="8">給紙方法</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">カットシートフィーダ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ１</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ２</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ３</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">手差し</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">指定なし</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">自動</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">給紙口名</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">置換フォント</td><td colspan="2">△</td><td>オーバレイ文字は有効となりません。</td></tr>
<tr><td colspan="3">区切りページ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">印刷部数</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">部数</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">部数単位で印刷</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">両面印刷</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">両面印刷しない / する</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">マルチフォーム出力時の動作指定</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">バーコード補正情報</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="9">印刷属性情報</td><td rowspan="3">出力開始時の動作モード</td><td>装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>出力する</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>保留する</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">スプールドキュメントの扱い</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">出力時の優先順位</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">メッセージの通知先</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">出力経過のメッセージ通知</td><td>出力開始メッセージ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>用紙交換メッセージ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>出力完了メッセージ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目

9.2.3.3.3　帳票出力サーバが Linux for x86 の場合

表 9.15　帳票業務情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86 の場合））

分類			プリンタ種	備考
			VSP 単票	
印刷プリンタ名			○	
給紙方法	プリンタ装置の設定にしたがう		×	
	カットシートフィーダ		×	
	ホッパ 1		○	
	ホッパ 2		○	
	ホッパ 3		×	
	ホッパ 4		×	
	手差し		×	
	指定なし		×	
	自動		×	
給紙口名			×	
置換フォント			△	オーバレイ文字は有効となりません。
区切りページ			×	
印刷部数	プリンタ装置の設定にしたがう		×	
	部数		○	
	部数単位で印刷		×	
両面印刷	プリンタ装置の設定にしたがう		×	
	両面印刷しない / する		○	
マルチフォーム出力時の動作指定			○	
バーコード補正情報			×	
印刷属性情報	出力開始時の動作モード	装置の設定にしたがう	×	
		出力する	×	
		保留する	×	
	スプールドキュメントの扱い		×	
	出力時の優先順位		×	
	メッセージの通知先		×	
	出力経過のメッセージ通知	出力開始メッセージ	×	
		用紙交換メッセージ	×	
		出力完了メッセージ	×	

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目

9.2.3.3.4　帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合

表 9.16　帳票業務情報のサポート一覧（プリンタへの FNP 出力時
（帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合））

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>VSP
単票</th><th>VSP/
PS5000
連帳</th></tr>
<tr><td colspan="3">印刷プリンタ名</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="8">給紙方法</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">カットシートフィーダ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ 1</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ 2</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ホッパ 3</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">手差し</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">指定なし</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">自動</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">給紙口名</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">置換フォント</td><td colspan="2">△</td><td>オーバレイ文字は有効となりません。</td></tr>
<tr><td colspan="3">区切りページ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">印刷部数</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">部数</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">部数単位で印刷</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">両面印刷</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">両面印刷しない / する</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">マルチフォーム出力時の動作指定</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">バーコード補正情報</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="9">印刷属性情報</td><td rowspan="3">出力開始時の動作モード</td><td>装置の設定にしたがう</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>出力する</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>保留する</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">スプールドキュメントの扱い</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">出力時の優先順位</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">メッセージの通知先</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">出力経過のメッセージ通知</td><td>出力開始メッセージ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>用紙交換メッセージ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
<tr><td>出力完了メッセージ</td><td colspan="2">×</td><td></td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目

9.2.3.4　出力できる文字について

FNP 出力時に出力できる文字については、以下を参照してください。

⇒ “17.1.2　FNP 出力 ”

9.2.3.5　指定可能なフォントと出力時のフォント

プリンタへの FNP 出力時は、次のフォントを指定して帳票を設計してください。

オーバレイ文字以外の項目

表 9.17　オーバレイ文字以外の項目に指定可能なフォントと出力時のフォント
（プリンタへの FNP 出力時）

各項目のプロパティ		プリンタの出力結果
指定できるもの	指定するフォント	
日本語フォント	明朝／ＦＵＪ 明朝／その他	FUJ 明朝
	ゴシック	FUJ ゴシック
英文フォント	OCR-B	OCR-B
	Courier 10 Pitch Roman	Courier 10 Pitch Roman
	Swiss 721 Roman	Swiss 721 Roman
	Dutch 801 Roman	Dutch 801 Roman
	Symbol	Symbol
	ゴシック 10	ゴシック 10
	ＦＵＪ ゴシック	FUJ ゴシック
	明朝	FUJ 明朝
	その他	OCR-B 項目－ OCR-B その他－ FUJ ゴシック

オーバレイ文字

表 9.18　オーバレイ文字に指定可能なフォントと出力時のフォント
（プリンタへの FNP 出力時）

各項目のプロパティ		プリンタの出力結果
指定できるもの	指定するフォント	
日本語フォント	明朝／ＦＵＪ 明朝／その他	FUJ 明朝
	ゴシック	FUJ ゴシック
英文フォント	OCR-B	OCR-B
	Courier 10 Pitch Roman	Courier 10 Pitch Roman
	Swiss 721 Roman	Swiss 721 Roman
	Dutch 801 Roman	Dutch 801 Roman
	Symbol	Symbol
	ゴシック 10	ゴシック 10
	ＦＵＪ ゴシック	FUJ ゴシック
	明朝	FUJ 明朝
	その他	OCR-B 項目－ OCR-B その他－ FUJ ゴシック

注意

- プロポーショナルフォント（「MS P 明朝」などの可変幅フォント）は指定しないでください。指定しても、等幅フォントで印刷されるため、帳票様式定義画面で定義したときには枠内に収まっていた文字が、印刷すると枠に収まらず文字が欠ける場合があります。
  枠内に正しく収まるかどうかは、prtest コマンドでテスト印刷して確認してください。
  ⇒ “A.2.1.2　prtest コマンド ”
- オーバレイ文字に縦書きフォント（@ 付きフォント）を指定した場合は、印刷方向が「右」と「下」のときのみ有効になります。
- その他のフォントを指定した場合、明朝体で出力されます。

9.2.3.6 FNP 出力時の注意事項

以下に、FNP 出力時の注意事項について説明します。

帳票名について

- FNP 出力する場合、帳票名は半角英数字 8 バイト以内で指定してください。

メディアデータの出力について

- プリンタへの FNP 出力時に Windows 形式（KOL6）オーバレイを使用する場合、メディアデータは、以下の条件を満たした場合にのみ出力できます。以下の条件を満たしていない場合、メディアデータは出力されません。

【条件】

1）モノクロ（2 値）のビットマップデータ
2）帳票上のイメージ領域のサイズ / 3 = メディアデータのサイズ

【操作の流れ】

以下の流れでオーバレイイメージを定義します。

1）帳票様式定義画面で組込みメディア項目を定義し、メディアデータを出力する範囲を決めます。メディアデータを出力する範囲は、3 の倍数になるように指定してください。

例）横幅：360 ドット、縦幅：210 ドット

2）ペイントブラシなどのグラフィックエディタを使用して、メディアデータのサイズ（単位：ドット）を変更します。縦横それぞれメディアデータを出力範囲の 1/3 の大きさ（単位：ピクセル）にします。

例）横幅：120 ピクセル、縦幅：70 ピクセル

3）帳票様式定義画面でメディアデータを読み込みます。

【操作手順】

以下の手順でオーバレイイメージを定義します。

1）帳票様式定義画面で、［表示］－［単位設定］－［ドット］を選択し、単位を「ドット」に変更します。
2）帳票様式定義画面で、［表示］－［グリッド］－［設定］を選択します。
⇒グリッドの設定画面が表示されます。
3）「グリッド間隔」の縦横に「任意入力（ドット)」を指定します。
⇒グリッド間隔がドット単位に変更されます。
4）［挿入］－［オーバレイ］－［イメージ］を選択します。
5）オーバレイイメージの領域をマウスをドラッグして決めます。
6）5）のオーバレイイメージをマウスでダブルクリックします。
⇒オーバレイイメージのプロパティ画面が表示されます。
7）オーバレイイメージのサイズを縦横それぞれ 3 で割り切れるサイズに調整します。

例）横幅：360 ドット、縦幅：216 ドット

8）ペイントブラシなどのグラフィックエディタを使用して、メディアデータの色を白黒（モノクロ）にし、メディアデータのサイズを縦横それぞれメディアデータの 1/3 の大きさに変更します。

例）横幅：120 ピクセル、縦幅：72 ピクセル

9）7) の画面で［ファイルから読込み］ボタンをクリックし、8）で作成したビットマップデータを読み込み、［OK］ボタンをクリックします。

注意

- **帳票様式定義画面で一度取り込んだイメージデータを拡大・縮小すると、イメージデータが印刷されなくなります。**

帳票資源の配置について

- 分散出力型（リモート帳票出力時またはコネクタ連携時）で FNP 出力する場合、帳票定義情報は、帳票出力サーバに配置してください。帳票をアプリケーションサーバに配置し、転送した場合、オーバレイが印刷されなかったり、違うオーバレイが印刷されたりする場合があります。

9.2.4　PostScript 出力

ここでは、PostScript 出力時の帳票定義情報で定義した情報のサポート範囲、PostScropt 出力時の注意事項などについて説明します。

9.2.4.1　帳票様式情報のサポート一覧

ここでは、プリンタに PostScript 出力する場合の帳票様式情報のサポート範囲について、以下のオペレーティングシステム種別ごとに示します。

- 帳票出力サーバが Solaris の場合
- 帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合
- 帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合

9.2.4.1.1　帳票出力サーバが Solaris の場合

表 9.19　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（1 / 7）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙種別</td><td colspan="2">連帳</td><td colspan="2">×</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">単票</td><td colspan="2">○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="11">用紙サイズ</td><td colspan="2">A3</td><td>△
(*1)</td><td>○
(*2)</td><td>―
(*3)</td><td rowspan="11">*1：プリンタ装置に依存します。あらかじめ使用するプリンタで確認してください。
*2：指定した用紙サイズと同じサイズを PostRaster で設定する必要があります (*)。
*3：PostRaster で設定した用紙幅および用紙長で出力されます (*)。
*4：A4 で出力されます。
*5：PostRaster で設定した用紙サイズで出力されますが、帳票の用紙サイズによって、印字位置が異なります。
*6：用紙名の指定の有無にかかわらず、帳票で指定した任意用紙サイズにもっとも近い用紙サイズで出力されます。

PostRaster の用紙サイズ、用紙幅、および用紙長の設定方法については、“PostRaster 説明書 ” を参照してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">A4</td><td>△
(*1)</td><td>○
(*2)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">A5</td><td>△
(*1)</td><td>○
(*2)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">A6</td><td>×
(*4)</td><td>×
(*5)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">B4</td><td>△
(*1)</td><td>○
(*2)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">B5</td><td>△
(*1)</td><td>○
(*2)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">はがき</td><td>△
(*1)</td><td>×
(*5)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">Letter</td><td>△
(*1)</td><td>○
(*2)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td colspan="2">Legal</td><td>△
(*1)</td><td>×
(*5)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">任意</td><td>用紙名指定なし</td><td colspan="2">△
(*6)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td>用紙名指定あり</td><td colspan="2">△
(*6)</td><td>―
(*3)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙方向</td><td colspan="2">縦</td><td colspan="2">○
(*1)</td><td>○</td><td rowspan="2">*1：プリンタ装置のデフォルト印刷方向を縦（Portrait）に設定する必要があります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">横</td><td colspan="2">○
(*1)</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">行ピッチ</td><td colspan="2">6LPI</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">8LPI</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">12LPI</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">任意</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">区切り編集</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">文字下線幅を自動調整する</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
</table>

表 9.19　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（２ / ７）

分類			プリンタ種			備考
			PS	VSP 単票	VSP 連帳	
Unicode の文字を使用する			○ (*1)			*1：EUC の範囲の文字のみ出力できます。
互換	LP 縮刷		○		× (*1)	*1：縮小されずに出力されます。
印刷範囲			△			オーバレイファイルの場合、印刷範囲は有効にならず、出力装置の用紙サイズで出力されます。
拡大 / 縮小印刷	拡大 / 縮小指定		×			
段組み印刷	2 段		×			
	4 段横		×			
	4 段縦		×			
余白	とじしろ	左	×			指定すると印刷開始位置がずれて出力されます。
		上	×			
	用紙からの位置		○			
オーバレイ	オーバレイを印刷する		○			
バーコード情報	EAN-128 バーコードの AI コード規格	1996 年規格	−			バーコード項目は未サポートのため、無効です。
		2005 年規格				
	キャラクタ間ギャップ幅					
	細太エレメント比					
	クワイエットゾーンの描画方法					
	ファンクションキャラクタ「FNC1」					
	制御コードの代替文字列指定を行う					
	入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める					
禁則処理	禁則文字を指定する		○			
テキスト項目	入力データにハイパーリンク情報を付加する		×			ハイパーリンクは無効となり、表示文字列のみ出力されます。
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目 OCR-B 項目	集団印刷		△			数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	フォント	日本語フォント	△			指定できるフォントについては、以下を参照してください。 ⇒ "9.2.4.4　指定可能なフォントと出力時のフォント "
		英文フォント	△			
		縦書きフォント	×			横書きで出力されます。
		利用者定義文字	×			空白または文字化けします。

表 9.19 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（３ / ７）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="13">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="3">×</td><td rowspan="3">標準で出力されます。</td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">サイズ</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピッチ</td><td>日本語</td><td colspan="3">○</td><td rowspan="2">ピッチを指定することを推奨します。指定しない（プロポーショナルピッチ）場合、印刷位置がずれたり、項目長を超えて印刷されたりすることがあります。
また、日本語と英文の混在した文字列を出力する場合、文字が重なって印刷されることがあります。</td></tr>
<tr><td>英文</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">1.5 ピッチ</td><td colspan="3">○</td><td>数字項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">文字を反時計回りに 90° 回転</td><td colspan="3">△</td><td>- 数字項目では指定できません。
- 太字および斜体は、標準で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td colspan="3">△</td><td>文字列幅と同じ幅で印刷されない場合があります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">抹消線</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td colspan="3">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">数字項目</td><td rowspan="8">編集形式</td><td>数値</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>通貨</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>区切り</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>日付</td><td colspan="3">△</td><td>「区切り」文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。</td></tr>
<tr><td>小数点抑止</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>小数部編集形式</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">テキスト項目</td><td>標準</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>郵便</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="10">固定リテラル項目
数字項目
テキスト項目
日付項目
時刻項目</td><td rowspan="7">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="3">△</td><td rowspan="5">指定された領域に正しく印刷されない場合があります。</td></tr>
<tr><td>均等配置</td><td colspan="3">△</td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="3">△</td></tr>
<tr><td>圧縮</td><td colspan="3">△</td></tr>
<tr><td>逆配置</td><td colspan="3">△</td></tr>
<tr><td>前空白データを削除しない</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">領域内にデータが収まらない場合の対処</td><td>はみ出した部分は出力しない</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>文字などを詰めて全データを出力する</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>代替文字で出力する</td><td colspan="3">○</td><td>数字項目、テキスト項目でのみ指定できます。</td></tr>
</table>

表 9.19 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（４ / ７）

分類				プリンタ種			備考
				PS	VSP 単票	VSP 連帳	
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	文字の向き	左から右		○			
		右から左		×			出力されません。
		上から下		×			出力されません。
		下から上		×			出力されません。
	繰返し			○			日付項目、時刻項目では指定できません。
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目	条件指定			○			
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	フォント	日本語フォント		△			指定できるフォントについては、以下を参照してください。 ⇒ “9.2.4.4　指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文フォント		△			
		縦書きフォント		×			横書きで出力されます。
		利用者定義文字		×			空白または文字化けします。
	スタイル	標準		○			
		太字		×			標準で出力されます。
		斜体		×			
		太字斜体		×			
	サイズ			○			
	横幅			○			
	ピッチ	日本語		○			
		英文		○			
	下線			△			文字列幅と同じ幅で印刷されない場合があります。
	抹消線			○			
	色			×			黒色で出力されます。
	繰返し			○			
	行の指定	行の高さ		○			
		行内での配置	上揃え	○			
			下揃え	○			
	余白			○			
	縦幅を拡張して出力			○			矩形テキスト項目でのみ指定できます。
	文字ピッチなどを縮小して出力	文字ピッチを先に縮小		○			
		行の高さを先に縮小		○			

表 9.19 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（５ / ７）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="6">矩形テキスト項目</td><td>項目内の配置</td><td>縦方向の配置</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">禁則処理</td><td>句読点のぶら下げ</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td>ワードラップ</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td>行頭／行末禁則</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td>追い出し後の両端揃え</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td>折返し後の行頭空白抑止</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">OCR-B 項目</td><td colspan="3">×</td><td>OCR-B 項目の直前に指定された項目のフォントで出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="3">ラジオボタン項目</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">チェックボックス項目</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">バーコード項目</td><td colspan="3">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="12">組込みメディア項目</td><td rowspan="6">メディア種</td><td>ビットマップ</td><td colspan="3">△</td><td>ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。
・ 白黒ビットマップ
・ 16 色ビットマップ
・ 256 色ビットマップ
・ 24 ビット ビットマップ
また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。</td></tr>
<tr><td>JPEG</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td>TIFF</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td>OLE2</td><td colspan="3">×</td><td>指定すると帳票の出力時にエラーになります。</td></tr>
<tr><td>PNG</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td>グラフ</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">クリッピング</td><td></td><td colspan="3">〇
(*1)(*2)</td><td rowspan="3">*1：クリッピングを指定する場合、出力先の解像度が 400dpi でなければ、指定したサイズで出力されません。
*2：クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさでクリッピングされず、表示場所も中央になりません。</td></tr>
<tr><td>メディアデータの解像度で出力する</td><td colspan="3">〇</td></tr>
<tr><td colspan="2">中央表示</td><td colspan="3">〇
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">透過</td><td colspan="3">×</td><td>不透過となります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">繰返し</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">日付項目</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">時刻項目</td><td colspan="3">〇</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">郵便番号項目</td><td colspan="3">×</td><td>正しく出力されません。</td></tr>
</table>

表 9.19 帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（6 / 7）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="10">パーティション罫線</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、一点鎖線</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線、二重線、波線 1、波線 2</td><td colspan="3">×</td><td>実線で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">線端</td><td>平面</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>四角</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>円</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="3">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">丸め</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">網がけ</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">パターン</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="23">オーバレイ文字（KOL6）</td><td rowspan="4">フォント</td><td>日本語</td><td colspan="3">△</td><td rowspan="2">指定できるフォントについては、以下を参照してください。
⇒ “9.2.4.4　指定可能なフォントと出力時のフォント”</td></tr>
<tr><td>英文</td><td colspan="3">△</td></tr>
<tr><td>縦書き</td><td colspan="3">×</td><td>横書きで出力されます。</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td colspan="3">×</td><td>利用者定義文字は出力できません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スタイル</td><td>標準</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>太字</td><td colspan="3">×</td><td rowspan="3">標準で出力されます。</td></tr>
<tr><td>斜体</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>太字斜体</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td colspan="2">サイズ</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">横幅</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">文字間隔</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">下線</td><td colspan="3">×</td><td>出力されません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">色</td><td colspan="3">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">文字配置</td><td>指定なし</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>両端揃え</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中央配置</td><td colspan="3">×</td><td>「指定なし」で動作します。</td></tr>
<tr><td>右揃え</td><td colspan="3">△</td><td rowspan="3">指定された領域に正しく印刷されないことがあります。</td></tr>
<tr><td>文字幅の自動調整</td><td colspan="3">△</td></tr>
<tr><td>文字範囲</td><td colspan="3">△</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文字の向き</td><td>左から右</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>右から左</td><td colspan="3">×</td><td rowspan="3">出力開始位置は保証されません。</td></tr>
<tr><td>上から下</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>下から上</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td colspan="3">矩形オーバレイ文字（KOL6）</td><td colspan="3">×</td><td>出力されません。</td></tr>
</table>

表 9.19　帳票様式情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（７ / ７）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th></tr>
<tr><td rowspan="7">直線 / 枠 / 円 / 楕円
（KOL6）</td><td rowspan="2">線種</td><td>実線、点線、破線、一点鎖線</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>長破線、長鎖線、長二点鎖線、
任意線、二重線、
波線 1、波線 2</td><td colspan="3">×</td><td>実線で出力されます。
これらの線種を一種類でも使用すると、他の線種も実線になります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">線幅</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">線色</td><td colspan="3">×</td><td>黒色で出力されます。</td></tr>
<tr><td>線端</td><td>平面、四角、円</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>網がけ</td><td>（枠、円、楕円）</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>丸め</td><td>（枠）</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">直線 / 枠 / 円 / 楕円
（KOL6）</td><td>位置、サイズ、パターン</td><td>（枠）</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>中心、半径</td><td>（円、楕円）</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>開始位置、
終了位置</td><td>（直線）</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">イメージ（KOL6）</td><td colspan="3">○</td><td>ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。
・ 白黒ビットマップ
・ 16 色ビットマップ
・ 256 色ビットマップ
・ 24 ビット ビットマップ
また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。</td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目
ー：未サポートのため無関係な項目

9.2.4.1.2　帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合

表 9.20　帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（１ / ７）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th>プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙種別</td><td colspan="2">連帳</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">単票</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="11">用紙サイズ</td><td colspan="2">A3</td><td>△
(*1)</td><td rowspan="11">*1：プリンタ装置に依存します。あらかじめ使用するプリンタで確認してください。
*2：A4 で出力されます。
*3：用紙名の指定の有無にかかわらず、帳票で指定した任意用紙サイズにもっとも近い用紙サイズで出力されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">A4</td><td>△
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">A5</td><td>△
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">A6</td><td>×
(*2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">B4</td><td>△
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">B5</td><td>△
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">はがき</td><td>△
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">Letter</td><td>△
(*1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">Legal</td><td>△
(*1)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">任意</td><td>用紙名指定なし</td><td>△
(*3)</td></tr>
<tr><td>用紙名指定あり</td><td>△
(*3)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">用紙方向</td><td colspan="2">縦</td><td>○</td><td rowspan="2">プリンタ装置のデフォルト印刷方向を縦（Portrait）に設定する必要があります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">横</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">行ピッチ</td><td colspan="2">6LPI</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">8LPI</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">12LPI</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">任意</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">区切り編集</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">文字下線幅を自動調整する</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">Unicode の文字を使用する</td><td>○
(*1)</td><td>*1：EUC の範囲の文字のみ出力できます。</td></tr>
<tr><td>互換</td><td colspan="2">LP 縮刷</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">印刷範囲</td><td>△</td><td>オーバレイファイルの場合、印刷範囲は有効にならず、出力装置の用紙サイズで出力されます。</td></tr>
<tr><td>拡大 / 縮小印刷</td><td colspan="2">拡大 / 縮小指定</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">段組み印刷</td><td colspan="2">2 段</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段横</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">4 段縦</td><td>×</td><td></td></tr>
</table>

表 9.20 帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（２ / ７）

分類			プリンタ種 PS	備考
余白	とじしろ	左	×	指定すると印刷開始位置がずれて出力されます。
		上	×	
	用紙からの位置		○	
オーバレイ	オーバレイを印刷する		○	
バーコード情報	EAN-128 バーコードの AI コード規格	1996 年規格	－	バーコード項目は未サポートのため、無効です。
		2005 年規格		
	キャラクタ間ギャップ幅			
	細太エレメント比			
	クワイエットゾーンの描画方法			
	ファンクションキャラクタ「FNC1」			
	制御コードの代替え文字列指定を行う			
	入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める			
禁則処理	禁則文字を指定する		○	
テキスト項目	入力データにハイパーリンク情報を付加する		×	ハイパーリンクは無効となり、表示文字列のみ出力されます。
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目 OCR-B 項目	集団印刷		△	数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず１バイト文字を指定してください。
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	フォント	日本語フォント	△	指定できるフォントについては、以下を参照してください。 ⇒ “9.2.4.4 指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文フォント	△	
		縦書きフォント	×	出力されません。
		利用者定義文字	×	空白または文字化けします。
	スタイル	標準	○	
		太字	×	標準で出力されます。
		斜体	×	
		太字斜体	×	
	サイズ		○	
	横幅		○	
	ピッチ	日本語	○	ピッチを指定することを推奨します。 指定しない（プロポーショナルピッチ）場合、印刷位置がずれたり、項目長を超えて印刷されたりすることがあります。 また、日本語と英文の混在した文字列を出力する場合、文字が重なって印刷されることがあります。
		英文	○	
	1.5 ピッチ		○	数字項目では指定できません。
	文字を反時計回りに 90° 回転		△ (*1)	*1：太字および斜体は、標準で出力されます。

表 9.20　帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（３ / ７）

分類			プリンタ種 PS	備考
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	下線		△	文字列幅と同じ幅で印刷されない場合があります。
	抹消線		○	
	色		×	黒色で出力されます。
数字項目	編集形式	数値	○	
		通貨	○	
		区切り	○	
		日付	△	「区切り」文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。
		小数点抑止	○	
		小数部編集形式	○	
テキスト項目		標準	○	
		郵便	○	
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	△	指定された領域に正しく印刷されない場合があります。
		均等配置	△	
		中央配置	△	
		圧縮	△	
		逆配置	△	
		前空白データを削除しない	○	
	領域内にデータが収まらない場合の対処	はみ出した部分は出力しない	○	*1：数字項目、テキスト項目でのみ指定できます。
		文字などを詰めて全データを出力する	○	
		代替え文字で出力する	○ (*1)	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	×	出力されません。
		上から下	×	
		下から上	×	
	繰返し		○	日付項目、時刻項目では指定できません。
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目	条件指定		○	
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	フォント	日本語フォント	△	指定できるフォントについては、以下を参照してください。 ⇒ “9.2.4.4　指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文フォント	△	
		縦書きフォント	×	出力されません。
		利用者定義文字	×	空白または文字化けします。

表 9.20 帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（４ / ７）

分類				プリンタ種 PS	備考
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	スタイル	標準		○	
		太字		×	標準で出力されます。
		斜体		×	
		太字斜体		×	
	サイズ			○	
	横幅			○	
	ピッチ	日本語		○	
		英文		○	
	下線			△	文字列幅と同じ幅で印刷されない場合があります。
	抹消線			○	
	色			×	黒色で出力されます。
	繰返し			○	
	行の指定	行の高さ		○	
		行内での配置	上揃え	○	
			下揃え	○	
	余白			○	
	縦幅を拡張して出力			×	矩形テキスト項目でのみ指定できます。
	文字ピッチなどを縮小して出力	文字ピッチを先に縮小		×	
		行の高さを先に縮小		×	
矩形テキスト項目	項目内の配置	縦方向の配置		○	
	禁則処理	句読点のぶら下げ		○	
		ワードラップ		○	
		行頭／行末禁則		○	
		追い出し後の両端揃え		○	
		折返し後の行頭空白抑止		○	
OCR-B 項目				×	OCR-B 項目の直前に指定された項目のフォントで出力されます。
ラジオボタン項目				○	
チェックボックス項目				○	
バーコード項目				×	

表 9.20　帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（５／７）

分類			プリンタ種 PS	備考
組込みメディア項目	メディア種	ビットマップ	△	ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。 ・ 白黒ビットマップ ・ 16 色ビットマップ ・ 256 色ビットマップ ・ 24 ビット ビットマップ また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。
		JPEG	○	
		TIFF	○	
		OLE2	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		PNG	○	
		グラフ	○	
	クリッピング		○ (*1)(*2)	*1：クリッピングを指定する場合、出力先の解像度が 400dpi でなければ、指定したサイズで出力されません。 *2：クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさでクリッピングされず、表示場所も中央になりません。
		メディアデータの解像度で出力する	○	
	中央表示		○ (*2)	
	透過		×	不透過となります。
	繰返し		○	
日付項目			○	
時刻項目			○	
郵便番号項目			×	
パーティション罫線	線種	実線、点線、破線、一点鎖線	○	
		長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線、二重線、波線 1、波線 2	×	実線で出力されます。
	線端	平面	○	
		四角	○	
		円	○	
	線幅		○	
	線色		×	黒色で出力されます。
	丸め		○	
	網がけ		○	
	パターン		○	

表 9.20 帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（６ / ７）

分類			プリンタ種 PS	備考
オーバレイ文字（KOL6）	フォント	日本語	△	指定できるフォントについては、以下を参照してください。 ⇒ “9.2.4.4 指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文	△	
		縦書き	×	横書きで出力されます。
		利用者定義文字	×	利用者定義文字は出力できません。
	スタイル	標準	○	
		太字	×	標準で出力されます。
		斜体	×	
		太字斜体	×	
	サイズ		○	
	横幅		○	
	文字間隔		○	
	下線		×	出力されません。
	色		×	黒色で出力されます。
	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	○	
		中央配置	△	指定された領域に正しく印刷されないことがあります。
		右揃え	△	
		文字幅の自動調整	△	
		文字範囲	△	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	×	出力開始位置は保証されません。
		上から下	×	
		下から上	×	
矩形オーバレイ文字（KOL6）			×	出力されません。
直線 / 枠 / 円 / 楕円（KOL6）	線種	実線、点線、破線、一点鎖線	○	
		長破線、長鎖線、長二点鎖線、 任意線、二重線、 波線 1、波線 2	×	実線で出力されます。 これらの線種を一種類でも使用すると、他の線種も実線になります。
	線幅		○	
	線色		×	黒色で出力されます。
	線端	平面、四角、円	○	
	網がけ	（枠、円、楕円）	○	

表 9.20 帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for Intel64 の場合））（７ / ７）

分類			プリンタ種	備考
			PS	
直線 / 枠 / 円 / 楕円 （KOL6）	丸め	（枠）	○	
	位置、サイズ、パターン	（枠）	○	
	中心、半径	（円、楕円）	○	
	開始位置、終了位置	（直線）	○	
イメージ（KOL6）			○	ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。 ・ 白黒ビットマップ ・ 16 色ビットマップ ・ 256 色ビットマップ ・ 24 ビット ビットマップ また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目
－：未サポートのため無関係な項目

9.2.4.1.3 帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合

表 9.21 帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合））（１ / ８）

分類			プリンタ種	備考
			PS	
用紙種別	連帳		×	
	単票		○	
用紙サイズ	A3		△ (*1)	*1：プリンタ装置に依存します。あらかじめ使用するプリンタで確認してください。 *2：A4 で出力されます。 *3：用紙名の指定の有無にかかわらず、帳票で指定した任意用紙サイズにもっとも近い用紙サイズで出力されます。
	A4		△ (*1)	
	A5		△ (*1)	
	A6		× (*2)	
	B4		△ (*1)	
	B5		△ (*1)	
	はがき		△ (*1)	
	Letter		△ (*1)	
	Legal		△ (*1)	
	任意	用紙名指定なし	△ (*3)	
		用紙名指定あり	△ (*3)	
用紙方向	縦		○	プリンタ装置のデフォルト印刷方向を縦（Portrait）に設定する必要があります。
	横		○	
行ピッチ	6LPI		○	
	8LPI		○	
	12LPI		○	
	任意		○	
区切り編集			○	
文字下線幅を自動調整する			○	
Unicode の文字を使用する			×	
互換	LP 縮刷		○	帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合のみ指定できます。
印刷範囲			△	オーバレイファイルの場合、印刷範囲は有効にならず、出力装置の用紙サイズで出力されます。
拡大 / 縮小印刷	拡大 / 縮小指定		×	
段組み印刷	2 段		×	
	4 段横		×	
	4 段縦		×	

表 9.21 帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合））（２／８）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th>プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th></tr>
<tr><td rowspan="3">余白</td><td rowspan="2">とじしろ</td><td>左</td><td>×</td><td rowspan="2">指定すると印刷開始位置がずれて出力されます。</td></tr>
<tr><td>上</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="2">用紙からの位置</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>オーバレイ</td><td colspan="2">オーバレイを印刷する</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="8">バーコード情報</td><td rowspan="2">EAN-128
バーコードの
AI コード規格</td><td>1996 年規格</td><td rowspan="8">－</td><td rowspan="8">バーコート項目は未サポートのため、無効です。</td></tr>
<tr><td>2005 年規格</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャラクタ間ギャップ幅</td></tr>
<tr><td colspan="2">細太エレメント比</td></tr>
<tr><td colspan="2">クワイエットゾーンの描画方法</td></tr>
<tr><td colspan="2">ファンクションキャラクタ「FNC1」</td></tr>
<tr><td colspan="2">制御コードの代替え文字列指定を行う</td></tr>
<tr><td colspan="2">入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める</td></tr>
<tr><td>禁則処理</td><td colspan="2">禁則文字を指定する</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>テキスト項目</td><td colspan="2">入力データにハイパーリンク情報を付加する</td><td>×</td><td>ハイパーリンクは無効となり、表示文字列のみ出力されます。</td></tr>
<tr><td>数字項目
テキスト項目
矩形テキスト項目
OCR-B 項目</td><td colspan="2">集団印刷</td><td>△</td><td>数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず１バイト文字を指定してください。</td></tr>
</table>

表 9.21 帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合））（３ / ８）

分類			プリンタ種 PS	備考
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	フォント	日本語フォント	△	指定できるフォントについては、以下を参照してください。 ⇒ “9.2.4.4 指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文フォント	△	
		縦書きフォント	×	出力されません。
		利用者定義文字	×	空白または文字化けします。
	スタイル	標準	○	
		太字	×	標準で出力されます。
		斜体	×	
		太字斜体	×	
	サイズ		○	
	横幅		○	
	ピッチ	日本語	○	ピッチを指定することを推奨します。指定しない（プロポーショナルピッチ）場合、印刷位置がずれたり、項目長を超えて印刷されたりすることがあります。 また、日本語と英文の混在した文字列を出力する場合、文字が重なって印刷されることがあります。
		英文	○	
	1.5 ピッチ		○	数字項目では指定できません。
	文字を反時計回りに 90° 回転 (*1)		△ (*2)	*1：帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合のみ指定できます。 *2：太字および斜体は、標準で出力されます。
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	下線		△	文字列幅と同じ幅で印刷されない場合があります。
	抹消線		○	
	色		×	黒色で出力されます。
数字項目	編集形式	数値	○	
		通貨	○	
		区切り	○	
		日付	△	「区切り」文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。
		小数点抑止	○	
		小数部編集形式	○	
テキスト項目		標準	○	
		郵便	○	

表 9.21　帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合））（４／８）

分類			プリンタ種	備考
			PS	
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	△	指定された領域に正しく印刷されない場合があります。
		均等配置	△	
		中央配置	△	
		圧縮	△	
		逆配置	△	
		前空白データを削除しない	○	
	領域内にデータが収まらない場合の対処	はみ出した部分は出力しない	○	帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合のみ指定できます。 *1：数字項目、テキスト項目でのみ指定できます。
		文字などを詰めて全データを出力する	○	
		代替え文字で出力する	○ (*1)	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	×	出力されません。
		上から下	×	
		下から上	×	
	繰返し		○	日付項目、時刻項目では指定できません。
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目	条件指定		○	

表 9.21 帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合））（５ / ８）

分類				プリンタ種 PS	備考
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	フォント	日本語フォント		△	指定できるフォントについては、以下を参照してください。 ⇒ “9.2.4.4 指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文フォント		△	
		縦書きフォント		×	出力されません。
		利用者定義文字		×	空白または文字化けします。
	スタイル	標準		○	
		太字		×	標準で出力されます。
		斜体		×	
		太字斜体		×	
	サイズ			○	
	横幅			○	
	ピッチ	日本語		○	
		英文		○	
	下線			△	文字列幅と同じ幅で印刷されない場合があります。
	抹消線			○	
	色			×	黒色で出力されます。
	繰返し			○	
	行の指定	行の高さ		○	
		行内での配置	上揃え	○	
			下揃え	○	
	余白			○	
	縦幅を拡張して出力			×	矩形テキスト項目でのみ指定できます。
	文字ピッチなどを縮小して出力	文字ピッチを先に縮小		×	
		行の高さを先に縮小		×	
矩形テキスト項目	項目内の配置	縦方向の配置		×	
	禁則処理	句読点のぶら下げ		○	
		ワードラップ		○	
		行頭／行末禁則		○	
		追い出し後の両端揃え		○	
		折返し後の行頭空白抑止		×	
OCR-B 項目				×	OCR-B 項目の直前に指定された項目のフォントで出力されます。
ラジオボタン項目				○	
チェックボックス項目				○	
バーコード項目				×	

表 9.21 帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合））（６ / ８）

分類			プリンタ種 PS	備考
組込みメディア項目	メディア種	ビットマップ	△	ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。 ・ 白黒ビットマップ ・ 16 色ビットマップ ・ 256 色ビットマップ ・ 24 ビット ビットマップ また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。
		JPEG	○	帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合のみ指定できます。
		TIFF	○	
		OLE2	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		PNG	○	帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合のみ指定できます。
		グラフ	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
	クリッピング		○ (*1)(*2)	*1：クリッピングを指定する場合、出力先の解像度が 400dpi でなければ、指定したサイズで出力されません。 *2：クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさでクリッピングされず、表示場所も中央になりません。
		メディアデータの解像度で出力する	○	
	中央表示		○ (*2)	
	透過		×	不透過となります。
	繰返し		○	
日付項目			○	
時刻項目			○	
郵便番号項目			×	
パーティション罫線	線種	実線、点線、破線、一点鎖線	○	
		長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線、二重線、波線 1、波線 2	×	実線で出力されます。
	線端	平面	○	
		四角	○	
		円	○	
	線幅		○	
	線色		×	黒色で出力されます。
	丸め		○	
	網がけ		○	
	パターン		○	

表 9.21　帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合））（７ / ８）

分類			プリンタ種	備考
			PS	
オーバレイ文字（KOL6）	フォント	日本語	△	指定できるフォントについては、以下を参照してください。 ⇒ “9.2.4.4　指定可能なフォントと出力時のフォント ”
		英文	△	
		縦書き	×	横書きで出力されます。
		利用者定義文字	×	利用者定義文字は出力できません。
	スタイル	標準	○	
		太字	×	標準で出力されます。
		斜体	×	
		太字斜体	×	
	サイズ		○	
	横幅		○	
	文字間隔		○	
	下線		×	出力されません。
	色		×	黒色で出力されます。
	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	○	
		中央配置	△	指定された領域に正しく印刷されないことがあります。
		右揃え	△	
		文字幅の自動調整	△	
		文字範囲	△	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	×	出力開始位置は保証されません。
		上から下	×	
		下から上	×	
矩形オーバレイ文字（KOL6）			×	出力されません。
直線 / 枠 / 円 / 楕円（KOL6）	線種	実線、点線、破線、一点鎖線	○	
		長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線、二重線、波線 1、波線 2	×	実線で出力されます。 これらの線種を一種類でも使用すると、他の線種も実線になります。
	線幅		○	
	線色		×	黒色で出力されます。
	線端	平面、四角、円	○	
	網がけ	（枠、円、楕円）	○	

表 9.21　帳票様式情報のサポート一覧
（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux for x86/Linux for Itanium の場合））（８／８）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th>プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th></tr>
<tr><td rowspan="4">直線 / 枠 / 円 / 楕円
（KOL6）</td><td>丸め</td><td>（枠）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>位置、サイズ、パターン</td><td>（枠）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>中心、半径</td><td>（円、楕円）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>開始位置、終了位置</td><td>（直線）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">イメージ（KOL6）</td><td>○</td><td>ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。
・ 白黒ビットマップ
・ 16 色ビットマップ
・ 256 色ビットマップ
・ 24 ビット ビットマップ
また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。</td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目
－：未サポートのため無関係な項目

9.2.4.2 帳票業務情報のサポート一覧

ここでは、プリンタに PostScript 出力する場合の帳票業務情報のサポート範囲について、以下のオペレーティングシステム種別ごとに示します。

- 帳票出力サーバが Solaris の場合
- 帳票出力サーバが Linux の場合

9.2.4.2.1 帳票出力サーバが Solaris の場合

表 9.22 帳票業務情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（１ / ２）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">分類</th><th colspan="3">プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th><th>VSP
単票</th><th>VSP
連帳</th></tr>
<tr><td colspan="2">印刷プリンタ名</td><td colspan="3">○</td><td rowspan="11">*1：プリンタ装置に依存します。
*2：PostRaster のデフォルトの設定で指定されたホッパで出力されます。
PostRaster のホッパの設定方法については、“PostRaster 説明書” を参照してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="10">給紙方法</td><td>プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>カットシートフィーダ</td><td colspan="3">×</td></tr>
<tr><td>ホッパ 1</td><td>×
(*1)</td><td>×
(*2)</td><td>×</td></tr>
<tr><td>ホッパ 2</td><td>×
(*1)</td><td>×
(*2)</td><td>×</td></tr>
<tr><td>ホッパ 3</td><td>×
(*1)</td><td>×
(*2)</td><td>×</td></tr>
<tr><td>ホッパ 4</td><td>×
(*1)</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td>手差し</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>指定なし</td><td>○</td><td>×
(*2)</td><td>×</td></tr>
<tr><td>自動</td><td>○</td><td>×
(*2)</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="2">給紙口名</td><td colspan="3">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">置換フォント</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">区切りページ出力</td><td colspan="3">×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">印刷部数</td><td>印刷装置の設定にしたがう</td><td colspan="3">×</td><td></td></tr>
<tr><td>部数</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td>部数単位で印刷</td><td colspan="3">●</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">両面印刷</td><td>プリンタ装置の設定にしたがう</td><td colspan="3">×</td><td></td></tr>
<tr><td>両面印刷しない / する</td><td colspan="3">×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">マルチフォーム出力時の動作指定</td><td colspan="3">○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">バーコード補正情報</td><td colspan="3">×</td><td></td></tr>
</table>

表 9.22　帳票業務情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Solaris の場合））（２ / ２）

分類			プリンタ種			備考
			PS	VSP 単票	VSP 連帳	
印刷属性情報	出力開始時の動作モード	装置の設定にしたがう	×			「出力する」が指定されたものとして動作します。
		出力する	●			
		保留する	●			
	スプールドキュメントの扱い		●			
	出力時の優先順位		×			
	メッセージの通知先		●			
	出力経過のメッセージ通知	出力開始メッセージ	×			
		用紙交換メッセージ	×			
		出力完了メッセージ	×			

○：定義が有効となる項目
●：Print Manager の高信頼プリンタの場合に定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目

9.2.4.2.2　帳票出力サーバが Linux の場合

表 9.23　帳票業務情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux の場合））（１ / ２）

分類		プリンタ種	備考
		PS	
印刷プリンタ名		○	*1：プリンタ装置に依存します。
給紙方法	プリンタ装置の設定にしたがう	×	
	カットシートフィーダ	×	
	ホッパ１	× (*1)	
	ホッパ２	× (*1)	
	ホッパ３	× (*1)	
	ホッパ４	× (*1)	
	手差し	×	
	指定なし	○	
	自動	○	
給紙口名		×	
置換フォント		○	
区切りページ出力		×	
印刷部数	プリンタ装置の設定にしたがう	×	
	部数	○	
	部数単位で印刷	×	

表 9.23 帳票業務情報のサポート一覧（プリンタへの PostScript 出力時（帳票出力サーバが Linux の場合））（２ / ２）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th>プリンタ種</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>PS</th></tr>
<tr><td rowspan="2">両面印刷</td><td colspan="2">プリンタ装置の設定にしたがう</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">両面印刷しない / する</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">マルチフォーム出力時の動作指定</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">バーコード補正情報</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="9">印刷属性情報</td><td rowspan="3">出力開始時の動作モード</td><td>装置の設定にしたがう</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td>出力する</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td>保留する</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">スプールドキュメントの扱い</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">出力時の優先順位</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">メッセージの通知先</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">出力経過のメッセージ通知</td><td>出力開始メッセージ</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td>用紙交換メッセージ</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td>出力完了メッセージ</td><td>×</td><td></td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目

9.2.4.3　出力できる文字について

PostScript 出力時に出力できる文字については、以下を参照してください。

⇒ “17.1.3　PostScript 出力時 ”

9.2.4.4　指定可能なフォントと出力時のフォント

プリンタへの PostScript 出力時は、次のフォントを指定して帳票を設計してください。

その他のフォントを指定すると、プリンタ出力時に文字化けをおこしたり、出力されなかったりする場合があります。

表 9.24　指定可能なフォントと出力時のフォント（プリンタへの PostScript 出力時）

目的	各項目のプロパティ		プリンタ出力時に変換される PostScript フォント
	指定できるもの	指定するフォント	
明朝体で出力したい場合	日本語フォント	MS P 明朝または MS 明朝	Ryumin-Light-EUC-H
	英文フォント	MS P 明朝または MS 明朝	Ryumin-Light.Hankaku
ゴシック体で出力したい場合	日本語フォント	MS P ゴシックまたは MS ゴシック	GothicBBB-Medium-EUC-H
	英文フォント	MS P ゴシックまたは MS ゴシック	GothicBBB-Medium.Hankaku

また、上記以外の PostScript フォントにも変換することができます。上記以外の PostScript フォントに変換したい場合は、置換フォントを指定してください。

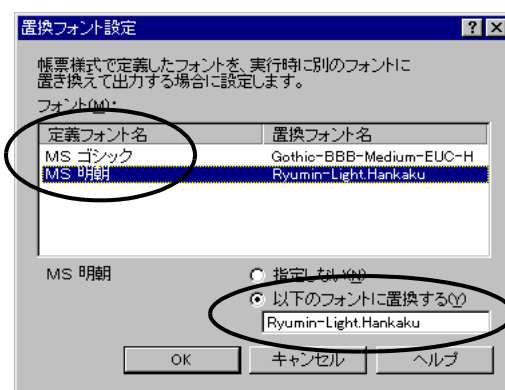
9.2.4.5　置換フォントについて

置換フォントとは、帳票に定義されている項目のフォントを、実際に帳票を出力するプリンタ装置のフォントに対応付けるものです。

帳票に定義されている項目フォントを、“ 表 9.24　指定可能なフォントと出力時のフォント（プリンタへの PostScript 出力時）” で示した以外の PostScript フォントで出力する場合に指定します。

フォントは、帳票業務情報のプロパティ画面の［印刷］タブの置換フォント設定画面で対応付けます。

置換フォント設定画面には、帳票で定義されているフォントが表示されます。

以下に、置換フォント設定画面を示します。

以下に、指定できるフォント名をプリンタ装置ごとに示します。

- PostScript プリンタ

  EUC 系の内蔵フォントを指定します。指定できるフォントについては、プリンタ装置に添付されている取扱説明書を参照してください。

- VSP シリーズのプリンタ（帳票出力サーバが Solaris の場合）

  PostRaster で使用できる EUC 系のフォントを指定します。PostRaster で使用できるフォントの詳細については、“PostRaster 説明書 ” を参照してください。

置換フォントを指定する場合は、帳票様式定義で定義した日本語フォントと英文フォントに同じフォントを指定し、この画面での置換フォントの指定は、“和文フォント、英文フォント”の形式で指定してください。

例：Ryumin-Light-EUC-H,Ryumin-Light.Hankaku

- 置換フォントには、Shift-JIS 系のフォントを指定しないでください。指定した場合、帳票は正常に出力されません。置換フォントには、以下のフォントを指定してください。
  - ・帳票出力サーバが Solaris の場合
    PostRaster で使用できる EUC 系のフォント
  - ・帳票出力サーバが Linux の場合
    EUC 系のフォント
- 帳票に定義されている項目のフォントに日本語フォントが指定されている場合は、PostScript の和文フォントを置換フォントに指定してください。英文フォントが指定されている場合は、PostScript の欧文フォントを置換フォントに指定してください。誤ったフォントを置換フォントに指定すると、帳票は正常に出力されません。PostScript の和文フォントおよび欧文フォントについては、PostScript プリンタに添付されている取扱説明書、または“PostRaster 説明書”を参照してください。

9.2.5　UNIX 系 OS で印刷する場合の注意事項

●項目長の定義について

- 入力データが EUC コード系で、半角カナを使用する場合、項目長に「実際に出力する文字数 ×2」の長さを指定してください。また、入力データが Unicode の場合、項目長は UNICODE （UTF8）でデータを作成した場合の最大バイト数を「データの最大文字数 ×3」で指定してください。入力データにサロゲートペアを出力する可能性がある場合は「データの最大文字数 ×4」換算で項目長を指定してください。
  項目長が短い場合、文字列が途中で切れて出力される場合があります。
  項目長は、帳票様式定義画面で、該当する項目を選択し、［書式］－［プロパティ］を選択して表示されるプロパティ画面で設定します。

●組合せフォーム出力について

- 組合せフォーム出力する場合、オーバレイは組合せフォーム定義の先頭にされている帳票定義情報のオーバレイのみが出力されます（2 つ目以降の帳票定義情報に定義されているオーバレイは出力されません)。
- ドットインパクト系プリンタで出力した場合、逆改行が発生するなど、印刷結果異常や帳票が印刷されないという問題が発生する場合があるため、推奨しません。
  使用する場合は、逆改行が発生しないように組み合わせる帳票定義情報を考慮（例えば、ヘッダ、ボディ、フッタを上から順に出力など）する必要があります。

●スプールサイズについて

- List Creator のスプール可能なページ数は、4,294,967,295 ページまでです。
  ただし、上記ページ数に満たない場合でも、以下に示すスプール可能な最大サイズに達した場合は、そのページ数までしかスプールできません。
  - 帳票出力サーバが Solaris の場合：2GB
  - 帳票出力サーバが Linux の場合　：4GB

第 10 章
電子保存

ここでは、List Works と連携して帳票を電子保存する場合のサポート範囲、および注意事項などについて説明しています。

なお、List Works の以下のバージョンを対象に記載しています。

List Works（Windows 版） ：V10.0.0
List Works（Solaris 版） ：V8.0.1
List Works（Linux for Intel64 版） ：V9.0.0
List Works（Linux for Itanium 版） ：V9.0.0

使用する List Works のバージョンによりサポート範囲、注意事項が異なる場合がありますので、ご利用の List Works に添付のオンラインマニュアルをご確認ください。

10.1 帳票様式情報のサポート一覧

電子保存を行う場合の帳票様式情報のサポート状況を示します。

表 10.1 帳票様式情報のサポート一覧（電子保存時）（1 / 9）

分類			対応	備考
用紙種別	連帳		○	
	単票		○	
用紙サイズ	A3		○	
	A4		○	
	A5		○	
	A6		○	
	B4		○	
	B5		○	
	はがき		○	
	Letter		○	
	Legal		○	
	任意	用紙名指定なし	○	用紙名の指定の有無にかかわらず、指定した任意用紙サイズで電子保存されます。
		用紙名指定あり	○	
用紙方向	縦		○	
	横		○	
行ピッチ	6LPI		○	
	8LPI		○	
	12LPI		○	
	任意		○	
区切り編集			○	
文字下線幅を自動調整する			○	
Unicode の文字を使用する			○	
互換	LP 縮刷		×	
印刷範囲			×	無効となります。
拡大 / 縮小印刷	拡大 / 縮小指定		△	
段組み印刷	2 段		△	
	4 段横		△	
	4 段縦		△	
余白	とじしろ	左	△	
		上	△	
	用紙からの位置		△	
オーバレイ	オーバレイを印刷する		△	マルチフォーム出力する場合、「オーバレイを印刷する」を設定しないと（プレプリント用紙を使用すると）、電子帳票の表示時にオーバレイが正しく重畳されません。

表 10.1 帳票様式情報のサポート一覧（電子保存時）（２ / ９）

分類			対応	備考
バーコード情報	EAN-128 バーコードの AI コード規格	1996 年規格	○	
		2005 年規格	×	
	キャラクタ間ギャップ幅		×	
	細太エレメント比		×	
	クワイエットゾーンの描画方法		×	
	ファンクションキャラクタ「FNC1」		×	
	制御コードの代替文字列指定		×	
	入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める		×	
禁則処理	禁則文字を指定する		○	
テキスト項目	入力データにハイパーリンク情報を付加する		×	
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目 OCR-B 項目	集団印刷		△	「印刷文字」は指定しないでください。 指定すると、同じ項目が「〃」などの文字で出力されるため、List Works で意図した検索およびデータ変換ができなくなります。
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	フォント	日本語フォント	△	List Works でフォント名の対応が指定されている場合、帳票設計時に指定したフォントでは出力されません。 ⇒ “10.4.1 帳票様式定義で指定可能なフォントと List Works で表示されるフォント ” ⇒ “10.4.2 指定したフォントを List Works で正しく表示 / 印刷する方法 ” プロポーショナルフォントはサポートしていません。
		英文フォント	△	
		縦書きフォント	△	
		利用者定義文字	○	出力方法については、以下を参照してください。 ⇒ “17.2.4 利用者定義文字の出力手順 ”
	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
		太字斜体	○	
	サイズ	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
	横幅		○	
	ピッチ	日本語	○	
		英文	○	
	1.5 ピッチ		○	数字項目では指定できません。
	反時計回りに 90° 回転		×	
	下線		○	
	抹消線		○	
	色		△	

表 10.1 帳票様式情報のサポート一覧（電子保存時）（3 / 9）

分類			対応	備考
数字項目	編集形式	数値	○	
		通貨	○	
		区切り	○	
		日付	○	
		小数点抑止	○	
		小数部編集形式	○	
テキスト項目		標準	○	
		郵便	○	
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	○	
		均等配置	○	
		中央配置	○	
		圧縮	○	
		逆配置	○	
		前空白データを削除しない	○	
	領域内にデータが収まらない場合の対処	はみ出した部分は出力しない	×	
		文字などを詰めて全データを出力する	×	
		代替文字で出力する	×	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	×	出力されません。
		上から下	×	出力されません。
		下から上	×	出力されません。
	繰返し		○	日付項目、時刻項目では指定できません。
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目	条件指定		○	
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	フォント	日本語フォント	△	List Works でフォント名の対応が指定されている場合、帳票設計時に指定したフォントでは出力されません。 ⇒ “10.4.1　帳票様式定義で指定可能なフォントと List Works で表示されるフォント ” ⇒ “10.4.2　指定したフォントを List Works で正しく表示 / 印刷する方法 ” プロポーショナルフォントはサポートしていません。
		英文フォント	△	
		縦書きフォント	△	
		利用者定義文字	○	出力方法については、以下を参照してください。 ⇒ “17.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”
	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
		太字斜体	○	

表 10.1 帳票様式情報のサポート一覧（電子保存時）（４ / ９）

分類				対応	備考
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	サイズ	日本語フォント		○	
		英文フォント		○	
	横幅			○	
	ピッチ	日本語		○	
		英文		○	
	下線			○	
	抹消線			○	
	色			△	
	繰返し			○	
	行の指定	行の高さ		○	
		行内での配置	上揃え	○	
			下揃え	○	
	余白			○	
	項目内に 全データ出力	縦幅を拡張して出力		×	
		文字ピッチを先に縮小		×	
		行の高さを先に縮小		×	
矩形テキスト項目	項目内の配置	縦方向の配置		○	
	禁則処理	句読点のぶら下げ		○	
		ワードラップ		○	
		行頭／行末禁則		○	
		追い出し後の両端揃え		○	
		折返し後の行頭空白抑止		○	
OCR-B 項目				○	使用できるフォントについては、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
	領域内にデータが収まらない場合の対処	はみ出した部分を出力しない		×	
		代替文字で出力する		×	
	文字の向き	左から右		○	
		右から左		×	出力されません。
		上から下		×	出力されません。
		下から上		×	出力されません。
	繰返し			○	
ラジオボタン項目				○	
チェックボックス項目				○	

表 10.1 帳票様式情報のサポート一覧（電子保存時）（５ / ９）

分類			対応	備考
バーコード項目	バーコード種別	JAN 標準（12）	△	括弧内は、指定可能なバーコードの項目長（入力データの長さ）です。この長さを超えた範囲は指定しないでください。
		JAN 短縮（7）	△	
		Code 3 of 9 （1 ～ 32（チェックキャラクタありの場合は 1 ～ 31））	△	
		Code 3 of 9 （EIAJ 準拠）	×	
		Industrial 2 of 5 （1 ～ 32（チェックキャラクタありの場合は 1 ～ 31））	△	括弧内は、指定可能なバーコードの項目長（入力データの長さ）です。この長さを超えた範囲は指定しないでください。
		Interleaved 2 of 5 （ITF） （1 ～ 32）	△	
		NW-7（3 ～ 34）	△	
		カスタマバーコード （20 固定）	○	
		Code 128	○	
		EAN-128 （コンビニエンスストア向け）	○	
		EAN-128	△	
		UPC バージョン A	○	
		UPC バージョン E	○	
		EAN-13	○	
		U.S. POSTNET （Delivery Point Code）	○	
		U.S. POSTNET （ZIP+4 Code）	○	
		U.S. POSTNET （5-Digit ZIP Code）	○	
		QR Code （モデル 1） （1 ～ 1167）	○	括弧内は、指定可能なバーコードの項目長（入力データの長さ）です。この長さを超えた範囲は指定しないでください。
		QR Code （モデル 2） （1 ～ 7089）	○	
		QR Code （マイクロ QR）	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		PDF417	×	
		MaxiCode	×	

表 10.1 帳票様式情報のサポート一覧（電子保存時）（６／９）

分類			対応	備考
バーコード項目	バーコード種別	FIM A（U.S. Postal FIM）	○	
		FIM B（U.S. Postal FIM）	○	
		FIM C（U.S. Postal FIM）	○	
		Intelligent Mail Barcode	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		GS1 DataBar Omnidirectional	×	
		GS1 DataBar Stacked Omnidirectional	×	
		GS1 DataBar Stacked	×	
		GS1 DataBar Limited	×	
		GS1 DataBar Expanded	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		GS1 DataBar Expanded Stacked	×	
		GS1 DataBar Truncated	×	
	印刷方向	0°	△	
		90°	△	カスタマバーコードの場合は、出力されません。
		180°	△	
		270°	△	
	文字印刷		△	
	チェックキャラクタ		△	
	チェックキャラクタ（文字）の印字抑止		×	
	フラグキャラクタ		△	
	QR Code 詳細設定	誤り訂正比率	○	
		分割方向	○	
		分割数	○	
	MaxiCode 詳細設定	誤り訂正レベル	×	MaxiCode は未サポートのため、無効です。
	GS1 DataBar Expanded Stacked 詳細設定	段数	×	GS1 DataBar Expanded Stacked は未サポートのため、無効です。

表 10.1 帳票様式情報のサポート一覧（電子保存時）（７ / ９）

分類			対応	備考
バーコード項目	詳細設定	指定範囲に収まるように出力する	×	
		項目の範囲内での配置指定	×	
		細エレメント幅	×	
		モジュール幅	×	
		バーの高さ	×	GS1 DataBar Truncated は未サポートのため、無効です。
		細太エレメント比	×	
		キャラクタ間ギャップ幅	×	
		クワイエットゾーンの描画方法	×	
	繰返し		○	
組込みメディア項目	メディア種	ビットマップ	○	
		JPEG	○	JPEG 形式の「スタンダード・プログレッシブ（8bit（階調）、24bit）」のみサポートしています。この形式以外の形式、および「JPEG 圧縮」については未サポートとなります。
		TIFF	○	TIFF 形式の「非圧縮（1bit、4bit、8bit、24bit）」、「Packbits 圧縮（1bit、4bit、8bit、24bit）」、「LZW 圧縮（1bit、4bit、8bit、24bit）」、「MH 圧縮（1bit）」、「MR 圧縮（1bit）」、「MMR 圧縮（1bit）」をサポートしています。上記以外の形式、および TIFF 形式の「Huffman 圧縮」については未サポートとなります。
		OLE2	×	
		PNG	×	
		グラフ	○	
	クリッピング		○	
		メディアデータの解像度で出力する	×	
	中央表示		○	
	透過		×	不透過となります。
	繰返し		○	
日付項目			○	
時刻項目			○	
郵便番号項目			○	

表 10.1 帳票様式情報のサポート一覧（電子保存時）（８ / ９）

分類			対応	備考
パーティション罫線	線種	実線	○	
		点線、破線、一点鎖線	○	
		長破線、長鎖線、長二点鎖線、	×	実線で出力されます。
		任意線	×	点線で出力されます。
		二重線、波線 1、波線 2	×	実線で出力されます。
	線端	平面	×	線端が円で表示されます。
		四角	×	
		円	△	
	線幅		△	実線のみ有効になります。実線以外の線幅は細線（1 ドット）になります。
	線色		△	
	丸め		○	
	網がけ		○	
	パターン		○	
オーバレイ文字（KOL6）	フォント	日本語	○	
		英文	○	
		縦書きフォント	○	
		利用者定義文字	○	出力方法については、以下を参照してください。 ⇒ “17.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”
オーバレイ文字（KOL6）	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
		太字斜体	○	
	サイズ		○	
	横幅		○	
	文字間隔		○	
	下線		○	
	色		○	
	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	○	
		中央配置	○	
		右揃え	○	
		文字幅の自動調整	○	
	文字配置	文字範囲	○	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	○	
		上から下	○	
		下から上	○	
矩形オーバレイ文字（KOL6）			○	

表 10.1 帳票様式情報のサポート一覧（電子保存時）（９ / ９）

分類			対応	備考
直線 / 枠 / 円 / 楕円（KOL6）	線種		△	線幅の細い二重線を指定すると、二重線で表示・印刷されない場合があります。
	線幅		○	
	線色		○	
	線端	平面、四角、円	○	
	網がけ	（枠、円、楕円）	△	白色の網がけを使用している場合、正しく表示 / 印刷されない場合があります。
	丸め	（枠）	○	
	位置、サイズ、パターン	（枠）	○	
	中心、半径	（円、楕円）	○	
	開始位置、終了位置	（直線）	○	
イメージ（KOL6）			○	

○：定義が有効となる項目

△：条件付きで定義が有効となる項目

詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。

×：定義が無効となる項目

10.2 帳票業務情報のサポート一覧

電子保存を行う場合の帳票業務情報のサポート状況を示します。

表 10.2 帳票業務情報のサポート一覧（電子保存時）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分類</th><th colspan="2">対応</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>Windows 版</th><th>UNIX 系 OS 版</th></tr>
<tr><td colspan="3">電子保存装置名</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">作成者</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">保管フォルダパス名</td><td>○</td><td>○</td><td>帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合、パス名の区切り文字は、「スラッシュ（/）」ではなく「円マーク（¥）」で指定してください。指定可能文字については、以下を参照してください。
⇒ “10.3　出力できる文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="3">備考 1</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="4">指定可能文字については、以下を参照してください。
⇒ “10.3　出力できる文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="3">備考 2</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="3">備考 3</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="3">備考 4</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="3">有効期限</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">抜き出し検索</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">メール送信</td><td colspan="2">メール送信指定</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">宛先</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">FAX 属性情報</td><td colspan="2">送信者情報</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">受信者情報</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">FAX 送付状の付加指定</td><td>○</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">FAX 受信側に合わせてイメージ調整指定</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">ヘッダ情報付加指定</td><td>×</td><td>×</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">印刷設定情報</td><td colspan="2">給紙方法</td><td>△</td><td>△</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">給紙口名</td><td>△</td><td>△</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">印刷部数</td><td>部数</td><td>△</td><td>△</td><td></td></tr>
<tr><td>部数出力指定</td><td>△</td><td>△</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">両面印刷指定</td><td>△</td><td>△</td><td></td></tr>
<tr><td>マルチフォーム出力時の動作指定</td><td>帳票を切り替えたときに新しい用紙に印刷する指定</td><td>△</td><td>△</td><td></td></tr>
</table>

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
　詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
×：定義が無効となる項目

備考

- 帳票業務情報のプロパティ画面の［印刷］タブで指定する置換フォントの指定は、有効になります。

10.3　出力できる文字について

電子保存時に出力できる文字について説明します。

【Windows 版】の場合

- 入力データの文字コード系が UNICODE の場合、List Works 側で Shift-JIS に変換されます。

  List Works では、Shift-JIS の第一水準、第二水準は文字コードとして扱います。

  その他の文字の扱いについては、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。

  文字によっては、List Works がサーバの辞書より文字パターンを取り出し、イメージ（ビットマップ）化する場合があります。イメージ化された文字は、検索や他のアプリケーションとの連携機能では使用できません。

- 電子帳票の管理情報（保管フォルダ名、帳票名、作成者名など）には利用者定義文字を使用しないでください。

  また、利用者定義文字以外にも使用できない文字があります。
  詳細は、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。

【UNIX 系 OS 版】の場合

電子保存時に出力できる文字については、以下を参照してください。
⇒ “17.2　電子保存時 ”

10.4　指定可能なフォントと表示時のフォント（【UNIX 系 OS 版】の場合）

10.4.1　帳票様式定義で指定可能なフォントと List Works で表示されるフォント

帳票設計時に指定可能なフォントに制限はありません。
ただし、電子保存された帳票を List Works で表示または印刷した場合、List Works インストール直後は次のフォントで表示されます。

項目	List Works での表示 / 印刷結果
オーバレイ文字 / 矩形オーバレイ文字	指定したフォントで表示 / 印刷されます。
オーバレイ文字 / 矩形オーバレイ文字以外の項目	明朝体で表示 / 印刷されます。

オーバレイ文字 / 矩形オーバレイ文字以外の項目の文字を指定したフォントで表示したい場合は、以下を参照してください。
⇒ “10.4.2　指定したフォントを List Works で正しく表示 / 印刷する方法 ”

10.4.2　指定したフォントを List Works で正しく表示 / 印刷する方法

List Works の「フォント名対応ファイル」を修正することで、オーバレイ文字 / 矩形オーバレイ文字以外の項目の文字を指定したフォントで正しく表示することができます。
フォント名対応ファイルは、UNIX 系 OS で電子保存した帳票を Windows 上の List Works で正しく表示 / 印刷するために、帳票で指定された文字のフォント名を Windows のフォント名に対応させるためのものです。List Creator では Windows のフォント名で帳票を作成するため、対応付けを行う必要はありません。対応付けを行わないよう「フォント名対応ファイル」のすべての行をコメントアウトしてください。
フォント名対応ファイルの詳細については List Works のオンラインマニュアルを参照してください。

10.5　List Works 連携時の注意事項

List Works 連携時の注意事項を次に示します。

詳細については、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。なお、電子保存した帳票を FAX 送信する場合の注意事項については、以下も参照してください。

⇒ “ 第 14 章　高信頼印刷機能 /FAX 送信 （Print Manager 連携）”

1）帳票の新規作成時の注意事項

帳票を新規作成する場合、次の点に注意してください。

- 帳票は、28 バイト以内の名前で作成してください。
  29 バイト以上の名前の帳票を電子保存した場合、オーバレイは登録されません。なお、帳票出力時に指定する「タイトル」は、64 バイトまで指定できます。
- 電子保存時は、帳票名がオーバレイ名となります。List Works に出力する他のアプリケーションが使用するオーバレイ名と重複しないように注意してください。

2）帳票様式情報設定時の注意事項

帳票を電子保存する場合、次の点に注意して、帳票を設計してください。

- 同一行の項目は、左下を基点にそろえて定義してください。左下を基点にそろえない場合、データの変換や検索時に別の行とみなされます。
  また、電子帳票の最大行数は、1 ページあたり 256 行であるため、左下を基点にそろえて定義しないと 256 行を超えることがあります。その場合、帳票検索時にエラーとなります。
  なお、左下を基点にそろえるには、次の機能を使用すると便利です。
  - 項目の基点を左下にする
  - グリッドに合わせて配置する
  - 項目・オーバレイを整列する
  - 項目・オーバレイを自動補正配置する
- 複数行にまたがった文字列、数値、日付は検索できません。一行に収まるように設計してください。
- 集団印刷時に「罫線の出力を抑止する」を指定し、電子保存した場合、または項目に「文字の向き」を指定し、電子保存した場合は検索ができません。
- フリーフレーム形式で作成した帳票をデータ変換、検索する場合、帳票で複数のフレームがリンクされていると、期待した順序で出力されない場合があります。
- プロポーショナルピッチ用のフォントを指定しても、プロポーショナルピッチにはなりません。例えば、「MS P 明朝」を指定しても「MS 明朝」を指定した場合と同じ出力結果となります。その結果、データが項目内に収まらない場合、収まらない部分は電子保存されません。項目のプロパティの［文字配置］タブで圧縮や両端揃えを選択することでデータを項目内に収めることができます。
- 大きな文字（目安としては、300dpi で 144 ポ以上、480dpi で 90 ポ以上）はイメージデータとして扱われます。List Works では文字として扱えません。
- 帳票に文字罫線が含まれている場合、設計したイメージどおりに電子保存されないことがあります。帳票を電子保存する場合は、文字罫線を使用せずに、オーバレイ図形またはパーティション罫線・枠として定義してください。
- バーコード項目のサイズが狭い場合、指定した範囲を超えてバーコードが出力されます。
- 帳票設計時に指定したフォントが電子帳票を表示するクライアントに存在しない場合、正しく表示されません。クライアントに存在するフォントは、正しく表示されます。
- 組込みメディア項目に「クリッピング」を指定した場合、印刷時と結果が異なります。クリッピングを指定する場合は、必ず出力結果を確認してください。
- 電子帳票を表示 / 印刷した場合、オーバレイの文字の間隔が印刷時の出力結果と異なることがあります。
- 入力データに合わせて、出力結果を変更する指定（条件指定）を行った場合、以下の注意事項があります。
  - 文字色と背景色の指定は、無効となります。
  - 網がけを指定したとき、網がけの種類（%）の指定は有効になりません。
  - 1 つの項目に下線と抹消線を指定したとき、期待した結果が得られない場合があります。

- 入力データが EUC コード系で、半角カナを使用する場合、項目長に「実際に出力する文字数 × 2」の長さを指定してください。
  入力データが Unicode の場合、項目長は UNICODE （UTF8）でデータを作成した場合の最大バイト数を「データの最大文字数 ×3」で指定してください。入力データにサロゲートペアを出力する可能性がある場合は「データの最大文字数 ×4」換算で項目長を指定してください。
  項目長が短い場合、文字列が途中で切れて出力される場合があります。
  項目長は、帳票様式定義画面で、該当する項目を選択し、［書式］－［プロパティ］を選択して表示されるプロパティ画面で設定します。

3）帳票業務情報設定時 / 電子保存時の注意事項

帳票を電子保存する場合、次の点に注意して、帳票業務情報を設定してください。また、電子保存してください。

- List Works 連携時、電子保存時の作成日と作成時間は、以下のように設定されます。

作成時間 作成日	指定あり	指定なし
指定あり	指定日、指定時間	指定日、0 時 0 分
指定なし	登録日、指定時間	登録日、登録時間

- 保管フォルダパス名を省略した場合は、リスト管理サーバ上であらかじめ指定しておいた振り分け条件にしたがって、保管フォルダ、または印刷フォルダに振り分けられます。振り分け条件には、タイトル（帳票の出力時にタイトルを省略した場合は帳票名）、コメント、作成者、備考が使用できます。
- 電子保存した帳票が有効期限を過ぎたら自動的にリストクリーナの削除対象とする場合は、以下のいずれかで有効期限日数を指定しておく必要があります。
  - ・ 電子保存の詳細設定画面
  - ・ 帳票の出力時
- 抜き出し検索を有効にする場合は、あらかじめリスト管理サーバに登録されている帳票で抜き出し検索範囲を指定しておく必要があります。
- リスト管理サーバが Solaris の場合、電子保存した帳票をデータベースで検索できます。その場合、以下のいずれかで「抜き出し検索を有効にする」設定にしておく必要があります。
  - ・ 電子保存の詳細設定画面
  - ・ 帳票の出力時に設定
- ListWorks 連携時のリスト管理サーバが扱える帳票のページ数に制約はありません。
  ただし、電子保存できるのは、保存後のファイルサイズが 1.8G バイト以内となるページまでです。電子保存後、1.8G バイトを超えたページは保存されません。
- マルチフォーム出力する場合、使用できる帳票の最大数は 255 帳票です。255 帳票を超える帳票を電子保存した場合、エラーになります。なお、ここでの帳票数は切り替えの回数ではなく実際に使用する帳票数です。
- 組合せフォーム出力する場合、オーバレイは組合せフォーム定義の先頭にされている帳票定義情報のオーバレイのみが出力されます（2 つ目以降の帳票定義情報に定義されているオーバレイは出力されません）。
- List Works では、オーバレイを履歴管理できます。
- List Works プリンタドライバに出力しないでください。出力先には必ず電子保存装置を指定してください。

10.6 List Creator の定義情報と List Works の画面の対応について

List Creator の帳票業務情報および帳票出力時に指定した情報は、List Works へ引き継がれます。
ここでは、List Creator で定義した情報が、List Works でどう表示されるかを示します。

電子保存する場合は、以下を参照してください。

⇒ “ 表 10.3 リストナビ画面 / プロパティ（製品名：List Works）”
⇒ “ 表 10.4 ローカル印刷画面 / プロパティ（製品名：List Works）”
⇒ “ 表 10.5 リモート印刷画面 / プロパティ（製品名：List Works）”
⇒ “ 表 10.6 リモート印刷画面の FAX 情報設定画面（製品名：List Works）”

電子保存する場合で、Print Manager で定義したプリンタに出力する場合は、以下を参照してください。

⇒ “ 表 14.1 印刷操作画面（製品名：Print Manager）”
⇒ “ 表 14.2 印刷操作画面の印刷ドキュメントのプロパティ（製品名：Print Manager）”

電子保存後に印刷する場合は、以下を参照してください。

⇒ “ 表 10.4 ローカル印刷画面 / プロパティ（製品名：List Works）”
⇒ “ 表 10.5 リモート印刷画面 / プロパティ（製品名：List Works）”

電子保存後に FAX 送信する場合は、以下を参照してください。

⇒ “ 表 14.1 印刷操作画面（製品名：Print Manager）”
⇒ “ 表 14.2 印刷操作画面の印刷ドキュメントのプロパティ（製品名：Print Manager）”
⇒ “ 表 10.7 電子保存後の FAX 送信時の印刷操作画面の FAX 詳細表示画面（製品名：Print Manager）”

なお、定義する List Creator の帳票業務情報に優先順序があるものは、表中に番号で示します。

表 10.3 リストナビ画面 / プロパティ（製品名：List Works）（1 / 2）

リストナビ画面	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
帳票名	1）帳票の出力時に指定した帳票のタイトル
	2）帳票名
コメント	1）帳票の出力時に指定した帳票のコメント
	2）［全般］タブのコメント
備考 1	1）帳票の出力時に指定した備考 1
	2）電子保存の詳細設定画面の備考 1
備考 2	1）帳票の出力時に指定した備考 2
	2）電子保存の詳細設定画面の備考 2
備考 3	1）帳票の出力時に指定した備考 3
	2）電子保存の詳細設定画面の備考 3
備考 4	1）帳票の出力時に指定した備考 4
	2）電子保存の詳細設定画面の備考 4
作成者	1）帳票の出力時に指定した作成者
	2）［電子保存］タブの作成者
作成日時	1）帳票の出力時に指定した作成日 / 作成時間
	2）リスト管理サーバに登録した日時
登録有効期限	1）帳票の出力時に指定した有効期限日数（登録日からの日数）
	2）電子保存の詳細設定画面の有効期限日数（登録日からの日数）
削除対象	1）帳票の出力時に指定した有効期限経過後の削除指定
	2）電子保存の詳細設定画面の「有効期限を過ぎたら自動削除する」設定

表 10.3 リストナビ画面 / プロパティ（製品名：List Works）（２ / ２）

リストナビ画面	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
抜き出し検索	1）帳票の出力時に指定した抜き出し検索指定
	2）電子保存の詳細設定画面の「抜き出し検索」設定

表 10.4 ローカル印刷画面 / プロパティ（製品名：List Works）

ローカル印刷画面	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
給紙方法	1）帳票の出力時に指定した給紙口名
	2）帳票の出力時に指定した給紙方法
	3）電子保存後の印刷設定画面の給紙口名
	4）電子保存後の印刷設定画面の給紙方法
印刷部数	1）帳票の出力時に指定した印刷部数
	2）電子保存後の印刷設定画面の印刷部数
両面印刷	1）帳票の出力時に指定した印刷面指定
	2）電子保存後の印刷設定画面の「両面印刷」設定

表 10.5 リモート印刷画面 / プロパティ（製品名：List Works）

リモート印刷画面	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
印刷部数 / 部数	1）帳票の出力時に指定した印刷部数
	2）電子保存後の印刷設定画面の印刷部数
両面印刷	1）帳票の出力時に指定した印刷面指定
	2）電子保存後の印刷設定画面の「両面印刷」設定

表 10.6 リモート印刷画面の FAX 情報設定画面（製品名：List Works）

リモート印刷画面の FAX 情報設定画面	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
送付状を付加する	1）帳票の出力時に電子保存時の FAX 送付状の用件、またはコメントを付加した場合
	2）電子保存時の FAX の詳細設定画面の「送付状を付加する」設定
用件	1）帳票の出力時に指定した電子保存時の FAX 送付状の用件
	2）電子保存時の FAX の詳細設定画面の用件
コメント	1）帳票の出力時に指定した電子保存時の FAX 送付状のコメント
	2）電子保存時の FAX の詳細設定画面のコメント
送信者情報	1）帳票の出力時に指定した電子保存時の FAX 送信者情報
	2）電子保存時の FAX の属性設定画面の送信者情報
受信者一覧	1）帳票の出力時に指定した電子保存時の FAX 受信者情報（ファイル）
	2）帳票の出力時に指定した電子保存時の FAX 受信者情報
	3）電子保存時の FAX 属性設定画面の受信者情報
ヘッダ情報	電子保存時の FAX の詳細設定画面のヘッダ情報
受信者側に合わせてイメージ調整する	［電子保存］タブの FAX の詳細設定画面の「受信側に合わせてイメージ調整」設定

注意

- 電子保存した帳票をリモート印刷する際、リモート印刷画面で「印刷フォルダ名」に FAX として定義されている印刷フォルダを指定した場合に、FAX 情報を確認または変更できます。

表 10.7 電子保存後の FAX 送信時の印刷操作画面の FAX 詳細表示画面（製品名：Print Manager）

FAX 詳細表示画面	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
宛先一覧	1）帳票の出力時に指定した電子保存時の送信者情報
	2）電子保存時の FAX 属性設定画面の送信者情報
配信者情報	1）帳票の出力時に指定した電子保存時の FAX 受信者情報（ファイル）
	2）帳票の出力時に指定した電子保存時の FAX 受信者情報
	3）電子保存時の FAX 属性設定画面の受信者情報
用件	1）帳票の出力時に指定した電子保存時の FAX 送付状の用件
	2）電子保存時の FAX 詳細設定画面の用件
コメント	1）帳票の出力時に指定した電子保存時の FAX 送付状のコメント
	2）電子保存時の FAX 詳細設定画面のコメント
カバーシート	1）帳票の出力時に FAX 送付状の用件またはコメントを付加した場合
	2）［電子保存］タブの FAX の詳細設定画面の「送付状を付加する」設定
ヘッダ	［電子保存］タブの FAX の詳細設定画面のヘッダ情報
イメージ調整	［電子保存］タブの FAX の詳細設定画面の「受信側に合わせてイメージ調整」設定

10.7　List Works の用語との対応

以下のように用語を読み替えている場合があります。

List Works の用語	List Creator の用語
電子化	電子保存
帳票情報	帳票業務情報（電子保存用）
電子保存装置（List Works 仮想プリンタ / データ転送コネクタ）	電子保存装置名
高信頼プリンタ	Print Manager の ListWORKS プリンタ
作成者名	作成者
保管フォルダの場所	保管フォルダパス名
作成日付	作成日
登録有効期限 有効期限	有効期限日数
削除対象	有効期限を過ぎたら自動削除する
リストナビ ListNavi	リストナビ
給紙口	給紙口名
両面印刷指定	印刷面指定

第 11 章
コネクタ連携機能

ここでは、コネクタ連携機能を使用した運用、および注意事項について説明しています。

備考

- コネクタ連携機能の環境設定については、以下を参照してください。
  ⇒ “ 第 4 章コネクタ連携機能の環境設定 ”

11.1　環境構築時、運用時の注意事項

コネクタ連携機能の環境構築時、および運用時の注意事項について説明します。

●環境構築時の注意事項

- 出力装置に高信頼リモートプリンタ、リモートプリンタは使用できません。
- コンピュータ名と TCP/IP のホスト名は同一となるようにネットワークの設定を行ってください。
- 帳票資源、および帳票ファイルの出力先の指定に関する注意事項については、以下を参照してください。

  ⇒ “7.6　帳票資源、および帳票出力先の指定について ”
- 帳票やデータファイル、メディアデータファイルなどの転送先ディレクトリには、コネクタ連携機能のサービスのユーザ（Windows の場合はログオンユーザ）がサブディレクトリやファイルを作成・読み取り・変更・削除できるアクセス権を設定しておいてください。
  作成・読み取り・変更・削除できるアクセス権が設定されていない場合、帳票やデータファイル、メディアデータファイルなどの転送や、帳票の出力に失敗することがあります。
  なお、帳票やデータファイル、メディアデータファイルなどの転送先ディレクトリを、以下に示します。

  Windows の場合

  帳票出力サーバの List Creator インストールディレクトリ配下

  UNIX 系 OS の場合

  帳票出力サーバの "/opt/FJSVoast/remoteprint" 配下
- 帳票出力サーバの以下の作業用ディレクトリ配下には、一時的に転送された帳票などを格納しておくため、十分な空き容量が必要です。

  Windows の場合

  List Creator インストールディレクトリ ¥remoteprint¥daemon¥data¥ListCREATOR

  UNIX 系 OS の場合

  /var/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/data/ListCREATOR

●アプリケーションサーバにおける注意事項

- アプリケーションサーバ側に配置される帳票（PDF ファイル /OWF ファイル /Excel ファイル）のアクセス権は以下のとおりです。

  Windows の場合

  Everyone および Administrators グループに所属するユーザがフルコントロールとなります。

  UNIX 系 OS の場合

  owner:root、アクセス権は 666 となります。
- アプリケーションサーバから帳票出力サーバにファイルを転送する場合、指定できる最大のパスの長さは以下のとおりです。

帳票出力サーバ ＼ アプリケーションサーバ	Windows の場合	Solaris の場合	Linux の場合
Windows の場合	188 バイトー帳票出力サーバの List Creator インストールディレクトリの長さ (*1)	259 バイト	259 バイト
Solaris の場合		934 バイト	934 バイト
Linux の場合		934 バイト	4006 バイト

*1：List Creator のインストールディレクトリが「C:¥ListCREATOR」の場合、
188 バイト － 14 バイト = 174 バイトとなります。

●帳票出力サーバにおける注意事項

- コネクタ連携機能を使用して帳票出力する場合、帳票出力サーバ上では、List Creator は以下の権限で動作します。

  Windows の場合

  コネクタ連携機能のサービスのログオンユーザの権限

  UNIX 系 OS の場合

  コネクタ連携機能のサービスのユーザの権限

- 帳票出力サーバ側で出力される帳票（PDF ファイル /OWF ファイル /Excel ファイル）のアクセス権は以下のとおりです。

  Windows の場合

  PDF ファイル、OWF ファイル、または Excel ファイルが格納されるフォルダのアクセス権が引き継がれます。

  UNIX 系 OS の場合

  owner:root、アクセス権は 644 となります。

- 帳票、データ、またはファイルの転送中に通信エラーなどが発生した場合は、帳票出力サーバに転送途中のファイルが残ります。このファイルは、24 時間後に削除されます。
- 1 台の帳票出力サーバに対して同時に通信できるプロセス数は環境設定ファイル（DaemonProperty ファイルの「最大同時接続許可数」）に依存します。
  環境設定時に設定した個数以降の帳票出力処理は中断される場合があります。
  また、1 台の帳票出力サーバに対して、アプリケーションサーバが複数台存在する場合はそれぞれのアプリケーションサーバから同時に通信するプロセス数の合計が、環境設定ファイル（DaemonProperty ファイル）の「最大同時接続許可数」まで通信可能となります。
- 帳票出力サーバが Windows の場合、利用者定義文字が出力されない場合があります。
- 帳票出力サーバが Windows Server 2008 の場合、環境設定の［全般］タブの「通常使うプリンタ」は指定できません（マスクされます）。帳票出力時に必ず印刷プリンタ名を指定してください。

●帳票の出力結果、エラー情報の通知について

- List Creator での帳票出力中にエラーが発生した場合は、帳票出力サーバの以下の情報を調べて、エラーの原因を取り除いてください。エラーの内容は、アプリケーションサーバ側には通知されません。

  Windows の場合

  イベントログ（アプリケーションログ）

  UNIX 系 OS の場合

  システムログ

●負荷分散装置、または負荷分散ソフトウェアを使用する場合の注意事項

- 負荷分散装置（IPCOM）、または負荷分散ソフトウェア（Traffic Director）を使用する場合、以下の点に注意してください。
  - ・ネットワーク構成は「通過型配置」をサポートします。
  - ・セッション保証方式は、以下の 2 種類をサポートします。
    - Cookie（Traffic Director）
    - Cookie（Servlet API 2.2）

第 12 章
リモート帳票出力機能

ここでは、リモート帳票出力機能を使用した運用、および注意事項について説明しています。

備考

- リモート帳票出力機能の環境設定については、以下を参照してください。
  ⇒ “ 第 5 章リモート帳票出力機能の環境設定 ”

12.1 環境構築時、運用時の注意事項

リモート帳票出力機能の環境構築時、および運用時の注意事項について説明します。

●環境構築時の注意事項

- 出力装置に高信頼リモートプリンタ、リモートプリンタは使用できません。
- 帳票出力サーバが Windows の場合、コンピュータ名と TCP/IP のホスト名は同一となるようにネットワークの設定を行ってください。
- 以下の運用を行う場合、アプリケーションサーバ上でリモート帳票出力ユーザを設定してください。
  - ・アプリケーションサーバが Windows で以下の運用を行う場合
    - 帳票出力サーバが Windows XP で、フォルダオプションの設定に「簡易ファイルの共用を使用する（推奨)」を設定してリモート帳票出力を行う場合
    - SYSTEM アカウントで動作するサービスプロセスからリモート帳票出力を行う場合
    - ファイアウォールやルータにより 445/tcp ポート (microsoft-ds (*1)) をブロックしている場合

      *1：ダイレクト・ホスティング SMB サービスの通信に使われるポート番号で、ファイルとプリンタの共有やリモート管理などに利用されます。

    リモート帳票出力ユーザの設定方法については、以下を参照してください。

    ⇒ “5.1.2　リモート帳票出力ユーザの設定 ”

    注意

    - リモート帳票出力時に prsetpasswd コマンドで設定したリモート帳票出力ユーザを有効にする場合は、prputprt コマンドで -rmuserpasswd オプションを指定してください。

  - ・アプリケーションサーバが UNIX 系 OS で Windows の帳票出力サーバへリモート帳票出力を行う場合

    リモート帳票出力ユーザの設定方法については、以下を参照してください。

    ⇒ “5.2.2　Windows へのリモート帳票出力ユーザを設定する ”
- 通常使うプリンタは、帳票出力サーバのログオン状態によって以下のように異なります。
  - ・アプリケーションサーバが Windows の場合

    以下を参照してください。

    ⇒ “ 表 3.2　運用形態 / 機能と通常使うプリンタ ”
  - ・アプリケーションサーバが UNIX 系 OS の場合
    - リモート帳票出力ユーザと同じユーザでログオンしている場合

      リモート帳票出力ユーザの通常使うプリンタが有効になります。
    - リモート帳票出力ユーザと異なるユーザでログオンしている場合

      List Creator の環境設定画面で指定した通常使うプリンタが有効になります。
    - ログオンしていない場合

      List Creator の環境設定画面で指定した通常使うプリンタが有効になります。

  通常使うプリンタの設定については、以下を参照してください。

  ⇒ “3.1.2.1　全般タブ ”
- 帳票出力サーバが Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008 の場合、環境設定の［全般］タブの「通常使うプリンタ」は指定できません（マスクされます)。帳票出力時に必ず印刷プリンタ名を指定してください。
- 帳票やデータファイル、メディアデータファイルなどの転送先ディレクトリ（帳票出力サーバの環境設定で指定した作業用ディレクトリ）には、以下のユーザがサブディレクトリやファイルを作成・読み取り・変更・削除できるアクセス権を設定しておいてください。
  - ・リモート帳票出力コマンドおよびユーザアプリケーションを実行するユーザ、リモート帳票出力ユーザ

  作成・読み取り・変更・削除できるアクセス権が設定されていない場合、帳票やデータファイル、メディアデータファイルなどの転送や、帳票の出力に失敗することがあります。

●帳票出力サーバにおける注意事項

- 帳票出力サーバに転送した帳票には、以下のようにアクセス権限が設定されます。

  Windows　：転送先ディレクトリ（帳票出力サーバの環境設定で指定されている作業用ディレクトリ）に設定されているアクセス権が設定されます。

  UNIX 系 OS　：所有者に読み込み権と書き込み権、所有者以外に読み込み権のみ設定されます（644 で設定されます）。

●複数のアプリケーションサーバから 1 台の帳票出力サーバへ出力する場合の注意事項

- 異なる文字コード系を扱う複数のアプリケーションサーバ（例えば、アプリケーションサーバ A は Shift-JIS、アプリケーションサーバ B は EUC（U90）を扱う場合）から 1 台の帳票出力サーバにリモート帳票出力する場合、同じ帳票を使用する場合でも、アプリケーションサーバごとに帳票を分けてください。同じ帳票名の場合、出力結果が文字化けすることがあります。

●帳票の出力結果、エラー情報の通知について

- 帳票出力サーバが Windows で、ログオンしていない場合、利用者定義文字が出力されない場合がありますのでご注意ください。
- リモート帳票出力中に帳票出力サーバ上で異常が発生した場合、帳票出力サーバ上で、以下の方法でエラー情報が記録されます。

  Windows　：イベントログに記録されます。

  UNIX 系 OS　：システムログに記録されます。

  アプリケーションサーバが Windows の場合に異常が発生すると、通常はイベントログにエラーが出力されます。ただし、prputprt コマンドを使用する場合、コマンドオプションでメッセージボックスに出力する指定を行うこともできます。

  アプリケーションサーバが UNIX 系 OS の場合に異常が発生すると､通常は標準エラー出力されます。ただし、prputprt コマンドを使用する場合、コマンドオプションで標準エラー出力とシステムログの両方に出力する指定を行うこともできます。

  詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

- 帳票出力サーバが Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Vista、および Windows 7 の場合、帳票出力時および監査証跡ログの採取時に異常が発生してもエラー情報がイベントログに記録されない場合があります。この場合は、以下のように設定することでイベントログに記録することができます。

  ・Windows Server 2003 の場合
  リモート帳票出力ユーザを Administrators グループに所属させるようにしてください。

  ・Windows Server 2008、Windows Vista、および Windows 7 の場合
  帳票出力サーバ上のリモート帳票出力ユーザを Administrators グループに所属させ、アプリケーションサーバ上でリモート帳票出力ユーザを設定してください。
  Windows から Windows へのリモート帳票出力のときは、prputprt コマンドや prassort コマンドで -rmuserpasswd オプションを指定する必要があります。

第 13 章 Web アプリケーション連携機能

ここでは、Web アプリケーション連携機能（OWF ファイル生成）に関する以下の内容について説明しています。

・帳票をプレビュー・印刷する場合に使用する画面
・外字エンベッド機能の利用手順
・インターネット環境における利用
・注意事項

備考

- Web アプリケーション連携機能の環境設定については、以下を参照してください。
  ⇒“第 6 章 Web アプリケーション連携機能の 環境設定”
- Web アプリケーション連携機能使用時（OWF ファイル生成時）の出力機能のサポート範囲については、【Windows 版】の印刷の場合と同じです。
  サポート範囲や注意事項の詳細は、以下を参照してください。
  ⇒“9.1　印刷（【Windows 版】の場合）”

13.1 Web プラグインの画面リファレンス

Web アプリケーション連携機能では、Web プラグインを利用して帳票をプレビュー・印刷します。

ここでは、Web プラグインのプレビュー画面、およびプレビュー画面のツールバーのボタンをクリックすると表示される画面について説明します。

- Web プラグインのプレビュー画面
- 印刷画面
- プリンタの指定画面
- ページの選択画面

13.1.1 Web プラグインのプレビュー画面

ここでは、Web プラグインのプレビュー画面について説明します。

図 13.1 Web アプリケーション連携機能のプレビュー画面

13.1.1.1 Web プラグインのツールバー

以下にプレビュー画面のツールバーについて説明します。

番号	名称	説明
①	印刷	プレビューしている帳票をプリンタに印刷する場合に選択します。ボタンをクリックすると、印刷画面が表示されます。印刷画面では、印刷時の一部の属性情報を指定することができます。画面の詳細は、以下を参照してください。 ⇒ “13.1.2　印刷画面 ”
②	プリンタの指定	プレビュー時に使用するプリンタを指定する場合に選択します。プリンタの指定画面が表示されます。
③	縮小	プレビューしている帳票を縮小して表示します。
④	拡大	プレビューしている帳票を拡大して表示します。
⑤	拡縮	プレビューしている帳票を指定された大きさ（30% から 200% の間）で表示します。
⑥	先頭	帳票の先頭ページを表示します。
⑦	前ページ	現在表示しているページの前ページを表示します。

番号	名称	説明
⑧	ページ番号	現在表示しているページ数を［現在のページ番号 / 全体ページ数］で表示します。
⑨	次ページ	現在表示しているページの次ページを表示します。
⑩	最後	帳票の最終ページを表示します。
⑪	ページの選択	表示するページ番号を指定する場合に選択します。 ボタンをクリックすると、ページの選択画面が表示されます。

13.1.2　印刷画面

ツールバーの［印刷］ボタンをクリックすると、印刷画面が表示されます。

図 13.2　Web アプリケーション連携機能の印刷画面

注意

- この印刷画面で各項目の指定を行った場合、帳票出力時や帳票での指定は無効となります。
- 帳票業務情報のプロパティの給紙方法に「指定なし」または「プリンタ装置の設定にしたがう」が設定されていた場合、プリンタドライバのプロパティの設定にしたがって帳票が出力されます。
- マルチフォーム出力時に帳票出力インタフェースで、以下の切り替え指定を行っている場合は、この印刷画面で指定を行っても無効となります。
  - ・ 給紙指定
    給紙方法 / 給紙口名切り替え指定で、各帳票で指定した給紙方法 / 給紙口名を有効とした場合、帳票で指定された給紙方法 / 給紙口名が有効になります。
  - ・ 両面印刷
    印刷面切り替え指定で、各帳票で指定した印刷面指定を有効とした場合、帳票で指定された両面印刷が有効になります。
- OWF ファイル生成時に指定した開始ページ番号、終了ページ番号は、この印刷画面の印刷範囲には反映されません。
  帳票出力インタフェースで開始ページ、終了ページを指定して Web 手元印刷したい場合は、オプションやプロパティなどで Web プラグイン起動時の動作モードに「印刷する」を指定し、印刷画面の表示指定で「印刷画面を表示しない」を指定してください。
- COBOL アプリケーション連携時の印刷画面の注意事項については、オンラインマニュアル “COBOL アプリケーション連携機能編 ” を参照してください。

備考

- この印刷画面の給紙指定で給紙口名を指定しなかった場合、給紙方法は以下の優先順序で有効になります。
  1）帳票出力インタフェースの給紙方法 / 給紙口名切り替え指定にしたがった給紙方法 / 給紙口名
  2）帳票出力インタフェースの給紙口名で指定した給紙口名
  3）帳票出力インタフェースの給紙方法で指定した給紙方法
  4）帳票業務情報のプロパティ画面の［印刷］タブで指定した給紙方法
- この印刷画面は、プレビュー画面から起動する以外にも、以下の方法で表示することができます。
  - 帳票出力インタフェース使用時
    オプションやプロパティなどで Web プラグイン起動時の動作モードで「印刷する」を指定し、かつ印刷画面の表示指定で「印刷画面を表示する」を指定する。
  - COBOL アプリケーション連携機能使用時
    初期化ファイルを使用して Web プラグイン起動時の動作モードで「印刷する」を指定し、かつ印刷画面の表示指定で「印刷画面を表示する」を指定する。

13.1.3　プリンタの指定画面

ツールバーの［プリンタの指定］ボタンをクリックすると、プリンタの指定画面が表示されます。

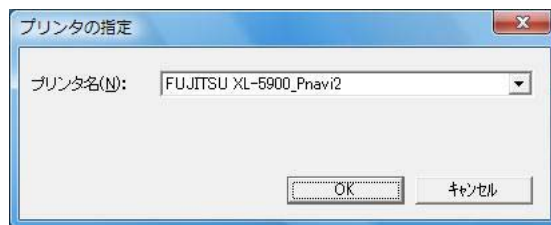



図 13.3　Web アプリケーション連携機能のプリンタの指定画面

13.1.4　ページの選択画面

ツールバーの［ページの選択］ボタンをクリックすると、ページの選択画面が表示されます。

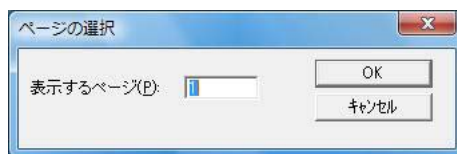



図 13.4　Web アプリケーション連携機能のページの選択画面

13.2 外字エンベッド機能の使用方法

ここでは、外字がインストールされていない Web クライアント側のシステムでも帳票（OWF ファイル）をプレビュー / 印刷できるようにするための外字エンベッド機能の使用方法について説明します。

注意

- 以下の場合、外字エンベッド機能は未サポートです。
  - ・英語環境で OWF ファイルを生成する場合
  - ・英語環境で Web プラグインを使用する場合
  - ・組合せフォーム出力する場合

備考

- PDF ファイルへ外字をエンベッドする場合は、オンラインマニュアル "PDF 変換機能編" を参照してください。

13.2.1 外字エンベッド機能の使用手順

以下の手順にしたがって、外字エンベッド機能を使用してください。

1）フォントの登録
帳票設計時に使用した外字フォントファイル（TrueType フォント）を List Creator に登録します。
フォントの登録方法については、以下を参照してください。
⇒ "13.2.2　フォントの登録および登録の抹消"

2）外字エンベッドの指定
外字のエンベッド（貼り付け）は、OWF ファイルの生成時に指定します。
外字エンベッドの指定方法については、以下を参照してください。
⇒ "13.2.4　外字エンベッドの指定"

13.2.2 フォントの登録および登録の抹消

List Creator にフォントの登録を行います。
フォントを登録する方法として、以下の種類があります。

- 環境設定によるフォントの登録
  詳細は、以下を参照してください。
  ⇒ "6.3　外字エンベッド機能の環境設定"
- 帳票出力インタフェースによるフォントの登録
  詳細は、以下を参照してください。
  ⇒ "13.2.3　帳票出力インタフェースによるフォントの登録"

ただし、使用できるフォントは、TrueType フォントファイル（**.ttf、**.ttc、**.tte）です。

注意

- フォントを多く登録すると、OWF ファイルの生成に時間がかかる場合があります。
  帳票中に使用したフォントだけを登録するようにしてください。
- 外字フォントファイルは同時に 10 ファイル以上は使用しないでください。したがって、Web プラグインの起動数に注意してください。例えば、1 帳票に 2 つのフォントを使用している場合、それぞれの外字を印刷およびプレビューするときは Web プラグインを 5 つ以上起動しないでください。
- 登録したフォントファイルの移動や削除（アンインストール）は、List Creator のフォントの登録で、登録を抹消した後に行ってください。

備考

- フォントの登録には以下の方法があり、併用することもできます。
  - ・環境設定によるフォントの登録
  - ・帳票出力インタフェースによるフォントの登録

  併用した場合どちらも有効になりますが、同じフォントファイル名を指定した場合は、帳票出力インタフェースで登録したフォントファイルが優先されます。
- エンベッドされるフォントは、帳票に定義されているフォントのみです。

13.2.3 帳票出力インタフェースによるフォントの登録

ここでは、帳票出力インタフェースによるフォントの登録方法について説明します。
帳票出力インタフェースによるフォントの登録は、以下のような場合に使用します。

- 環境設定で登録されていないフォントの外字をエンベッドしたい場合
- 環境設定で登録されているフォントの外字を、一時的に異なる外字に変更し、変更した外字をエンベッドしたい場合

以下の帳票出力インタフェースを使用して、List Creator にフォントの登録を行います。

注意

- **帳票出力インタフェースを使用する場合は、OWF ファイルを生成するごとに指定する必要があります。**

●コマンドの場合

帳票出力コマンドの場合、以下のオプションを使用して、List Creator にフォントの登録を行います。

- -gowfregfont オプション

● Java インタフェースの場合

Java インタフェースの場合、以下のメソッドを使用して、List Creator にフォントの登録を行います。

- PrintProperties クラスの setProperty メソッド
  PrintProperties.ID_OWF_REGFONT を指定します。

● .NET インタフェースの場合

.NET インタフェースの場合、以下のプロパティを使用して、List Creator にフォントの登録を行います。

- PrintProperties クラスの OwfRegFont プロパティ

● CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）の場合

CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）の場合、以下の属性を使用して、List Creator にフォントの登録を行います。

- OWF_REG_FONT 属性

13.2.4　外字エンベッドの指定

以下の帳票出力インタフェースを使用して、List Creator にフォントの登録を行った外字を、OWF ファイルにエンベッドするかどうかを指定（外字エンベッドの指定）し、OWF ファイルを生成します。

●コマンドの場合

帳票出力コマンドの場合、以下のオプションを使用して、OWF ファイルに外字をエンベッドするかどうかを指定します。

- -gowfembed オプション

● Java インタフェースの場合

Java インタフェースの場合、以下のどちらかのメソッドを使用して、OWF ファイルに外字をエンベッドするかどうかを指定します。

- PrintProperties クラスの setProperty メソッド
  PrintProperties.ID_OWF_EMBED を指定します。

● .NET インタフェースの場合

.NET インタフェースの場合、以下のプロパティを使用して、OWF ファイルに外字をエンベッドするかどうかを指定します。

- PrintProperties クラスの OwfEmbed プロパティ

● CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）の場合

CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）の場合、以下の属性を使用して、OWF ファイルに外字をエンベッドするかどうかを指定します。

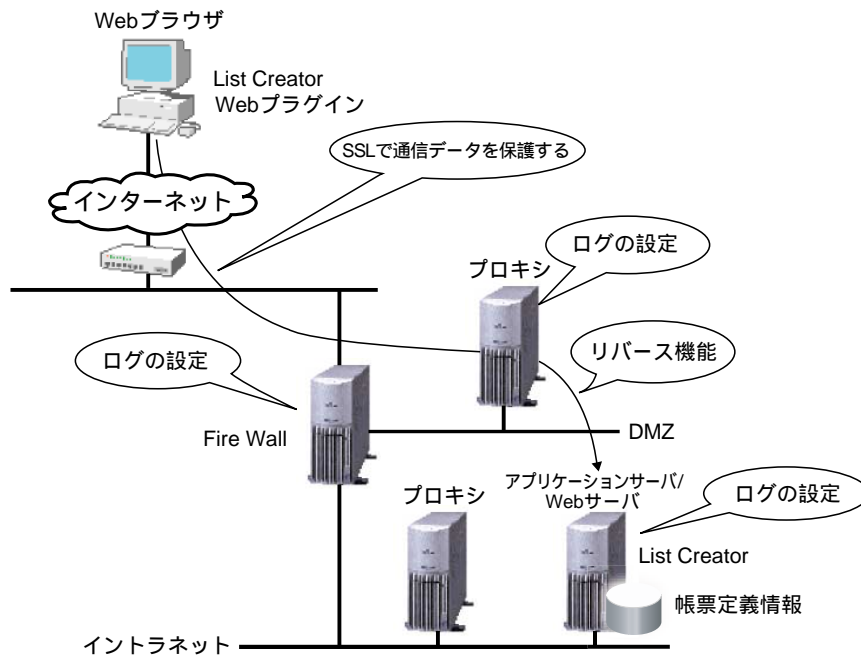
- OWF_EMBED 属性

13.3　インターネット環境での利用

ここでは、Web アプリケーション連携機能のインターネット環境での利用について説明します。

13.3.1　利用可能な環境

Web アプリケーション連携機能をインターネット環境で利用するには、プロキシのリバース機能を使用したネットワーク環境でのみ使用可能です。

以下に構成図を示します。

備考	- プロキシのリバース機能とは、ファイアウォールの外部の Web クライアントから内部の Web サーバの資源をアクセスするための機能です。この機能により、内部の Web サーバの資源をファイアウォール上、またはファイアウォールの外部のプロキシサーバ上の資源として見せることが可能となり、内部の Web サーバの情報が外部に漏れません。

13.3.2　セキュリティについて

Web アプリケーション連携機能をインターネット環境に接続されたネットワーク環境で利用する場合、不正なアクセスによるシステムおよび資源の改ざんや破壊、情報の漏えいなどの危険があります。このため、システムの構築にあたっては、Web サーバのユーザ認証機能と暗号化通信機能を使用し、さらに、アプリケーションでユーザ制限を行うなど、自己防衛手段を講じる必要があります。
このように、セキュリティは作成されたアプリケーションおよびその運用環境全体の適切な設定と使用方法によって確保される必要があります。

●資源の保護

プログラム、データに関する資源（データベース、データファイルなど）およびプログラムの動作に必要な各種の定義・情報ファイルは、オペレーティングシステムの機能、Web サーバの認証機構、またはプログラムによるアクセス制限を行い、不正なアクセスや改ざんから保護してください。特に重要な資源は、ファイアウォールを配置したイントラネット環境内に保持してください。
Web サーバを直接公開しないでください。プロキシのリバース機能を使用して Web サーバの資源をアクセスできるようにしてください。

●アプリケーション作成のための指針

1）事前確認と処理結果の通知
対話・応答を行う処理の場合、重要なデータへのアクセスや処理については、事前の確認および処理結果を通知して、誤った処理を検知できる設計を行ってください。また、ログを記録すると処理の解析に役立ちます。

2）匿名性
ユーザの実名、実物などの個人情報を識別できるデータについては、特に漏えいの危険性を考慮してください。

3）インタフェースの検査
外部インタフェースについては、バッファオーバフロー（バッファオーバラン）やクロスサイトスクリプティングなどを考慮して、セキュリティホールの作り込みを防止してください。バッファオーバフローを防止するためには、外部インタフェースの入力データの長さ、型や属性などの検査が有効です。クロスサイトスクリプティングは動的に生成されたページ中に意図しないタグが含まれないようにすることで防止できます。例えば、出力時にメタキャラクタをエスケープする方法があります。

4）繰り返し実行
同じ接続先からの一定時間内でのリクエスト数を制限するなどの考慮をしてください。

5）監査ログの記録
Web サーバ、プロキシサーバやオペレーティングシステムの監査ログ機能、およびアプリケーションによるログ出力処理の作成などにより、セキュリティに関するイベントを記録して、セキュリティ侵害が発生した場合の分析や追跡方法を考慮してください。

6）セキュリティのためのルールの制定
セキュリティに関する脆弱な処理がない堅牢なアプリケーションを作成するためには、セキュリティ侵害の脅威から保護すべき重要な資源を特定し、資源のアクセスやインタフェース設計のために特定のルールを制定することが有効です。

7）通信データを暗号化して、インターネット上での接続を保護してください。通信データを暗号化するためには、SSL を利用して Web サーバと Web ブラウザの間の HTTP メッセージを暗号化する方法があります。
SSL の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “13.3.3　SSL で通信データを保護する ”

●仮想パスについて

システム運用時に、Web アプリケーション連携機能を使用する場合は、仮想パス（/ListCREATOR）を、プロキシサーバから公開しないでください。

13.3.3　SSL で通信データを保護する

ここでは、SSL で通信データを保護する方法について説明します。

● SSL とは

通常の Web サーバが使用する通信プロトコルでは、セキュリティが考慮されていないため、ネットワーク上でデータを第三者に傍受、改ざんされる危険性があります。
SSL（Secure Sockets Layer）を使用すると、Web サーバの通信プロトコル部分を SSL プロトコルに置き換え、これらの危険を回避し、Web サーバと Web ブラウザ間で安全な通信を行うことができます。

SSL を使用するためには以下の作業を行います。
- プロキシまたは Web サーバと Web ブラウザで SSL を有効にする。

● SSL を有効にするための作業

SSL を使用するためには、プロキシまたは Web サーバと Web ブラウザでそれぞれ環境設定が必要になります。

プロキシまたは Web サーバの環境設定

SSL を使用するためには、以下の設定手順でプロキシまたは Web サーバの環境設定を行ってください。

= 操作手順 =

1）証明書および秘密鍵を作成します。

2）証明書をプロキシまたは Web サーバに登録します。

3）保護する資源、認証の種類（サーバ認証 / クライアント認証）を設定します。

詳細については、各マニュアルを参照して設定してください。

- 使用するプロキシのマニュアルを参照してください。
- Web サーバが Interstage の場合には、以下を参照してください。
  - Interstage Application Server のオンラインマニュアルの SSL によるセキュリティに関する記載
  - Interstage Web Server のオンラインマニュアルの SSL によるセキュリティに関する記載
- Web サーバが IIS 6.0 以降の場合には、IIS ヘルプの［管理］－［サーバーの管理］－［セキュリティ］－［証明書］を参照してください。

備考

- インターネットサービスマネージャの種類により、メニュー名や画面上の文字列などが違う場合があります。

Web ブラウザの環境設定

SSL を使用するためには、以下の設定手順で Web ブラウザの環境設定を行ってください。

= 操作手順 =

1）証明機関の証明書を登録します。

2）クライアント証明書の発行依頼と登録を行います（SSL3.0 のクライアント認証を使用する場合）。

詳細については、Web サーバのマニュアル、および Web ブラウザのヘルプを参照してください。

13.4　注意事項

Web アプリケーション連携機能を使用する場合は、以下の点に注意してください。

13.4.1　Web アプリケーション連携機能の注意事項

- Web プラグインをインストールするには、以下の注意が必要です。
  - クライアントコンピュータ上に Web プラグインをインストールおよびアンインストールする場合は、Administrators 権限を持つユーザで行ってください。
インストール後は、コンピュータを再起動する必要があります。
  - コンポーネント機能で提供している Web コントロールをすでにダウンロードしてある場合は、Web コントロールを削除する必要があります（Web コントロールと Web プラグインは、同一コンピュータ上にどちらか 1 つしかインストールできません）。Web コントロールを削除する方法については、オンラインマニュアル “Web 手元印刷コンポーネント機能編 ” の Web コントロールをクライアントコンピュータから削除する方法についての記載を参照してください。
  - アプリケーションサーバ /Web サーバにインストールされている List Creator をバージョンアップ・レベルアップして、新機能を使用したい場合は、Web プラグインも同時にバージョンアップ・レベルアップしてください。以前のバージョンレベルで提供されている Web プラグインを使用する場合、新機能は使用できません。
- 使用する Web サーバに MIME タイプの設定が行われていない場合には、Web プラグインは動作しません。MIME タイプの設定方法については、以下を参照してください。

  ⇒ “6.1.1　MIME タイプの設定 ”
- Web サーバに認証が設定されている場合、Web プラグインを起動するたびに認証画面が表示されます。
- Web プラグインを、EMBED タグを使用して HTML ページに埋め込んだ場合には、JavaScript による制御を行うことができません。
- OWF ファイルは、Web ブラウザのキャッシュに蓄積されていきます。
- OCR-B フォントまたは OCR-B 項目を使用する場合、OCR-B フォント for Windows の OCR-B フォント「OCR-B FJ」を使用した場合、OCR-B フォント「OCR-B FJ 10cpi（True Type）」で出力した場合より、0.1mm 程度下に出力されます。
- Web プラグインの印刷画面の注意事項については、以下を参照してください。
⇒ “13.1.2　印刷画面 ”

13.4.2 プレビュー / 印刷に関する注意事項

帳票のプレビュー / 印刷を行う場合、以下のような注意事項があります。

●プレビューについて

- プレビュー画面において、白い範囲は「帳票様式定義画面」で設定された印刷範囲です。用紙イメージではありません。
- 10,000,000 ページ以上の帳票を指定してプレビューした場合、プレビュー画面のツールバーの現在表示中のページ番号は正しく表示されません。
- プレビュー時に、ビットマップデータが本来の色とは異なる色で表示されたり、表示されなかったりすることがあります。この場合、ディスプレイドライバのカラーパレット数を変更するか、またはビットマップのカラー数を変更することで表示できるようになります。なお、帳票の出力結果には影響しません。
- プレビューおよび印刷の出力結果は、プリンタに依存します。プレビューで出力結果を確認する場合は、必ず印刷時に使用するプリンタで確認してください。プレビュー時に使用するプリンタを指定するには、帳票でプリンタを指定するか、該当プリンタをデフォルトプリンタに指定するか、プレビュー画面でプリンタを変更します。また、必ず実際に運用するプリンタで印刷結果を確認してください。
- 帳票をプレビューまたは印刷する場合、使用する印刷プリンタによっては文字が欠ける場合があります。この場合、帳票様式定義画面で、文字が欠けた項目の領域長を大きくしてください。
- 印刷プリンタが定義されていない環境でプレビューした場合、ディスプレイドライバを使用してプレビューするため、表示結果が異常となる場合があります。
- 印刷プリンタが定義されていない環境でプレビューした場合で、帳票にバーコード項目（バーコード種別が EAN-128（コンビニエンスストア向け））が定義されているときには、「バーコード出力中にエラーが発生しました。詳細コード：[47]」のエラーとなり、プレビューできません。
- 段組み印刷が指定されていても、プレビュー画面では、1 ページに 1 段しか表示されません（印刷時には、段組み印刷されます）。
- 集計表形式またはフリーフレーム形式の帳票で「高さを拡張して全体出力」を指定している場合、実際に出力される帳票のページ数とプレビュー時のページ数が異なる場合があります。
- プリンタで利用できない用紙名を指定し、用紙サイズに「任意 (10)」を指定してプレビューした場合は、白紙ページが表示されます。
  また、同様の指定で印刷した場合は、白紙ページが印刷されます。
- プレビュー画面において、マウスホイールでスクロールを行うことはできません。
  また、マウスのホイールボタンのクリックによるスクロール操作後、スクロール状態が解除できません。この場合、以下の操作を行うことでスクロール状態を解除することができます。

  = 操作手順 =

  1）デスクトップや別ウィンドウをいったん選択（クリック）します。
  2）再度、プレビュー画面を選択（クリック）します。
  3）マウスのホイールボタンをクリックします。

●印刷について

- 網がけを重畳する場合、網がけを透過モードで印刷します。しかし、プリンタドライバによっては透過モードが有効にならないものがあります。
  透過モードが無効になるプリンタドライバを使用して網がけを重畳して印刷すると、行方向で下方に定義されている網がけが、後から印刷されるため上に重なって印刷され、下になった網がけは印刷されません。
- プリンタ装置、プリンタドライバ、解像度によっては、指定した文字のサイズ、網がけ、または罫線の出力結果が異なる場合があります。
- 漢字以外の全角文字をプリンタのデバイスフォントで印字すると、文字化けすることがあります。
- デバイスフォントを使用して印字を行うと、指定した文字の大きさで出力されないことがあります。
- 段組み印刷時に両面印刷を行うと、両面印刷可能なプリンタでも片面で印刷される場合があります。

●印刷画面の初期値の優先順位について

- 印刷画面の初期値は、以下の優先順位で有効となります。

  1）帳票出力インタフェースでの指定
  2）帳票業務情報のプロパティ画面での指定

  帳票業務情報のプロパティ画面での指定を初期値としない（V9.1.0 以前の動作とする）ように設定することができます。

  以下の手順で帳票出力サーバの動作環境ファイルを変更し、帳票を出力（OWF ファイルを生成）してください。

  1）以下の動作環境ファイルをテキストエディタで開きます。

  ・ 帳票出力サーバが Windows の場合

```
List Creator インストールディレクトリ¥configw.bip
```

  ・ 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合

```
/etc/opt/FJSVoastw/conf/configw.bip
```

  2）ファイルの末尾に次の 1 行を追加します。

```
WP_PRTDLGCMP Y
```

  なお、帳票業務情報のプロパティ画面での指定を初期値にする場合は、追加した 1 行を削除してください。

●ご使用のシステム環境について

- システムのスプールディレクトリの容量に空きがない場合、帳票の出力を行うと帳票が何も出力されない、または途中までしか出力されない場合があります。
  このような場合、スプールディレクトリの容量を増やしてから、再度帳票の出力を実行してください。
- 帳票を出力し、スプール中に印刷要求をキャンセルすると、使用しているプリンタドライバによっては、しばらく処理が復帰せず、その後「出力処理中にエラーが発生しました（エラーコード：86）」というエラーになる場合があります。

●帳票設計時の注意事項

- 設計時のオペレーティングシステムの環境と出力時（プレビューを含む）の環境が異なる場合、出力される文字の位置およびピッチが異なることがあります。
  詳細は、以下を参照してください。
  ⇒ “8.2.1　帳票設計時と異なるオペレーティングシステムで出力するには ”

13.4.3　外字エンベッド機能に関する注意事項

外字エンベッド機能を使用する場合、以下の注意事項があります。

- 外字をエンベッドすると、生成される OWF ファイルのサイズが大きくなり、OWF ファイルを生成する時間も長くなります。
- OWF ファイルに外字をエンベッドする場合は、フォントすべてがエンベッドされるのではなく、外字のみエンベッドされます。
  したがって、帳票に使用されている外字以外のフォントファイルは、あらかじめ Web クライアントにインストールしておく必要があります。
- 外字をエンベッドした場合にも、Web クライアントにフォントをインストールする必要があります。例えば、帳票定義時に項目のフォントに「MS 明朝」を使用した場合には、Web クライアントに「MS 明朝」のフォントがインストールされていなければなりません。
- 外字をエンベッドし、Web クライアントで印刷した場合、スプールデータは「RAW 形式」のデータでスプールされます。
- プリンタドライバに FinePrint などの印刷ツールを使用して印刷するとき、外字が正しく印刷されない場合があります。この場合、FinePrint で設定されているプリンタで、スプールデータ形式に「RAW 形式」を設定してください。
- オーバレイ文字に外字が指定されている場合は、無効になります。
- 入力データ形式が「XML 形式」でマルチフォーム出力する場合、以下の帳票出力インタフェースには、出力する順序で帳票名を指定してください。
  - ・コマンドの場合
    -gcmform オプション
  - ・Java インタフェースの場合
    FormsFile クラス、FormsStream クラスの setLcForm メソッド
  - ・.NET インタフェースの場合
    FormsFile クラスの LcForm プロパティ
  - ・COM インタフェースの場合
    LcForm プロパティ

  なお、帳票に置換フォントが設定されている場合は、指定する先頭の帳票の置換フォントの設定が有効になります。
- 外字をエンベッドして出力する場合、Web プラグインが複数同時に起動されても印刷やプレビューを一度に行うことはできません。Web プラグインを複数同時に起動した場合は、印刷やプレビューは順に行われます。
- 外字フォントファイルは同時に 10 ファイル以上は使用しないでください。したがって、Web プラグインの起動数に注意してください。例えば、1 帳票に 2 つのフォントを使用している場合、それぞれの外字を印刷およびプレビューするときは Web プラグインを 5 つ以上起動しないでください。
- 外字を登録するプログラム（外字エディタなど）を使用する場合は、Web プラグインを起動している Web ブラウザをすべて閉じてください。
- 外字をエンベッドして出力する場合、Web プラグインで以下のエラーメッセージが表示されることがあります。この場合、再度、出力してください。
  “ フォント処理に失敗しました。詳細コード：-5005”

第 14 章 高信頼印刷機能/FAX 送信（Print Manager 連携）

ここでは、Print Manager と連携して実現できる高信頼印刷機能、および FAX 送信機能について説明します。

備考

- FAX 送信時の出力機能のサポート範囲については、【Windows 版】の印刷の場合と同じです。サポート範囲や注意事項の詳細は、以下を参照してください。
  ⇒ “9.1　印刷（【Windows 版】の場合）”

14.1 Print Manager と連携してできること

List Creator では、Print Manager と連携すると、以下の機能を利用して帳票出力することができます。

高信頼印刷機能 / イベント通知機能

印刷属性情報として、以下の Print Manager の高信頼印刷機能の一部を List Creator の帳票出力時に指定することができます。

- 出力後の帳票の動作に関する指定
  出力開始時の動作モードとして、出力した帳票をサーバやクライアントで保留するかどうか、または保留解除日時などを指定できます。
  また、帳票の出力時の優先順位など指定できます。
- 区切りページの出力指定
  区切りページを出力することができます。
- エラー通知に関する指定
  通知メッセージ 、および返答メッセージの通知先を指定することができます。
  また、用紙交換メッセージに関する指定を行うことができます。
- イベント通知、出力完了待ち合わせモードなどの指定
  イベント通知機能を使用するかどうか、出力完了のコマンド復帰の待ち合わせなどに関する指定を行うことができます。
- 印刷ドキュメントの所有者名（ユーザ名）指定
  帳票出力時にドキュメントの所有者として特定のユーザ名を指定できます。
  コネクタ連携機能を使用する場合、帳票出力時に印刷ドキュメントの所有者名（ユーザ名）を指定すると、印刷ドキュメントの所有者が「SYSTEM ユーザ」ではなく、指定したユーザとなるため、印刷ドキュメントの管理、および操作を効率よく行うことができます。

詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”または“帳票設計編”を参照してください。

FAX 送信

Print Manager で定義した FAX 連携プリンタを「FAX 装置名」に指定して出力することで、List Creator の帳票を FAX 送信することができます。

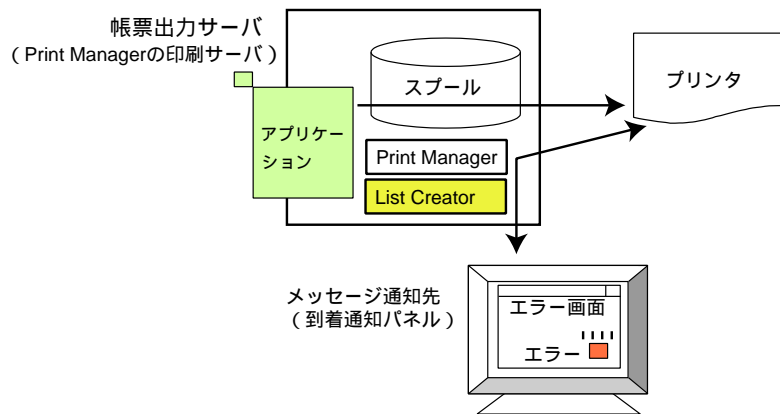
また、FAX 送信時には、印刷属性情報などを指定し、高信頼印刷機能を使用することもできます。

FAX 送信機能の詳細は、オンラインマニュアル“解説編”を参照してください。

ここでは、高信頼印刷機能を利用した帳票出力時の運用と、メッセージ通知時の注意事項について説明します。

14.1.1 高信頼印刷機能の運用

List Creator では、Print Manager と連携することで、印刷業務におけるエラーを監視し、印刷時の詳細なエラーを印刷依頼元や管理者へ通知することができます。また、スプールデータの保留指定や区切りページなどの様々な印刷属性をユーザアプリケーションから付加することができます。

これらの機能により、List Creator を利用した帳票システムにおける印刷業務の信頼性を向上させることができます。

なお、高信頼印刷機能の詳細は、Print Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

14.1.2 メッセージ通知について

帳票の出力中に出力装置にエラーが発生した場合や出力経過のメッセージは、Print Manager の「到着通知パネル」の「メッセージウィンドウ」に通知されます。通知されるメッセージには、通知メッセージと返答メッセージがあります。

通知メッセージ

エラーが発生したことや出力経過を通知するメッセージです。対処はできません。
以下のいずれかで指定したコンピュータにメッセージが通知されます。

- 帳票業務情報のプロパティ画面の［印刷］/［FAX］タブの印刷属性設定画面のメッセージの通知先
- 帳票の出力時に指定したメッセージの通知先

返答メッセージ

エラーが発生したことや出力経過を通知し､そのメッセージで対処方法が応答できるメッセージです。メッセージに応答すると、応答結果に応じて処理が続行されます。
以下のいずれかで指定したコンピュータにメッセージが通知されます。

- Print Manager の「プリンタの設定」の「印刷エラーメッセージ」の通知先
- 帳票の出力時に指定した返答メッセージの通知先

注意

- 通知メッセージと返答メッセージの通知先で指定したコンピュータが同じ場合、返答メッセージだけが通知されます（通知メッセージは通知されません）。
- 印刷エラー時に通知される通知メッセージと返答メッセージの通知条件などは、出力するプリンタの機種によって異なります。詳細については、Print Manager のオンラインマニュアルを参照してください。
- メッセージは、UNIX 系 OS へは通知できません。メッセージ通知先には、必ず Print Manager の「到着通知パネル」を起動した Windows のコンピュータ名を指定してください。

備考

- 帳票を出力するときに、メッセージの通知先に指定したコンピュータで、Print Manager の「到着通知パネル」を起動しておいてください。

14.2 Print Manager 連携時の注意事項

Print Manager 連携時の注意事項を次に示します。
詳細については、Print Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

14.2.1 印刷属性情報の指定に関する注意事項

以下に、帳票業務情報またはユーザアプリケーションで印刷属性情報を指定する場合の注意事項について示します。

●印刷部数を指定する場合

- 使用するプリンタ種によって、または「部数単位で印刷」を指定して印刷を行った場合、Print Manager の印刷操作画面では 1 部と表示される場合がありますが、印刷部数の指定は有効になります（指定した部数、印刷されます）。

●印刷ドキュメントを操作する場合

- Print Manager の印刷サーバと List Creator の帳票出力サーバが同一コンピュータ上で動作する環境で運用しているときに帳票の出力を保留する場合は、以下のいずれかで出力開始時の動作モードをクライアント側で保留する設定にしておく必要があります。
  - 印刷属性設定画面の出力開始時の動作モード
  - 帳票の出力時
- 帳票の出力時に「保留解除日時」を指定する場合は、以下のいずれかで出力開始時の動作モードをクライアント側で保留する設定にしておく必要があります。
  - 印刷属性設定画面の出力開始時の動作モード
  - 帳票の出力時
- 保留状態のドキュメントを保留解除する日時は最大 20 分の誤差が生じる場合があります。
- スプールドキュメントの出力受付日時から削除するまでの期間は、最大 2 時間の誤差が生じる場合があります。

●出力開始時の動作モードについて

-「装置の設定にしたがう」（Print Manager の環境設定（プリンタ）の保留印刷の設定にしたがう）は、以下の条件を満たす場合にのみ有効になります。
  - 帳票出力サーバが Windows の場合
  - Print Manager V9.1.0 以降の場合

  上記以外の場合は、指定しても「出力する」が指定されたものとして動作します。

●メッセージ通知を行う場合

- 出力開始メッセージと用紙交換メッセージの両方を通知する場合、出力開始メッセージと用紙交換メッセージが 2 重で通知される場合があります。
- VSP/VS/PS5000 シリーズのプリンタに印刷する場合、用紙交換メッセージを通知する指定を行うと、用紙交換メッセージが 2 重で通知される場合があります。
- 以下の場合、常に用紙交換メッセージを通知する指定は有効になりません。
  - 帳票出力サーバが Windows 以外の場合
  - V10.0L10 より前のバージョンレベルの PrintMGR と連携する場合
- メッセージの通知先に指定したコンピュータで、Print Manager の「到着通知パネル」を起動しておいてください。

●帳票の出力完了を待ち合わせる場合

- 帳票の出力完了を待ち合わせる場合は、以下のいずれかで出力開始時の動作モードを出力する設定にしておく必要があります。
  - 印刷属性設定画面の出力開始時の動作モード
  - 帳票の出力時

- 印刷時、以下に示すプリンタ装置以外では、出力中にスプールデータが削除された場合などでも出力完了メッセージが通知される場合があります。また、帳票の出力完了を待ち合わせても実際の出力完了のタイミングがずれる場合や、エラーが正しく通知されない場合があります。
  - VSP/VS/PS5000 シリーズ
  - PrintiaLASER シリーズ（Printianavi 搭載機のみ）
  - Print Manager の LAN プリンタ連携機能を使用して接続したネットワークプリンタ
- 帳票の出力完了待ち合わせ中にスプールドキュメントを他の出力装置に移動した場合、移動先の出力装置での出力完了を待ち合わせます。

●区切りページを出力する

- 以下の場合、区切りページ出力指定は有効になりません。
  - V10.0L10 より前のバージョンレベルの PrintMGR と連携する場合
  - プリンタドライバの設定で RAW データでスプールする設定になっている場合

●印刷ドキュメントの所有者名（ユーザ名）を指定する

- 印刷ドキュメントの所有者名（ユーザ名）指定は、帳票出力時のユーザが以下のいずれかの場合のみ有効です。
  - 「Administrator」アカウント
  - 「SYSTEM」アカウント
- 印刷ドキュメントの所有者名（ユーザ名）指定は、以下の条件を満たす場合にのみ有効になります。
  - 帳票出力サーバが Windows の場合
  - Print Manager V9.1.0 以降の場合
- 印刷ドキュメントの所有者名（ユーザ名）指定をしても、List Creator の監査証跡ログのユーザ情報には、帳票出力時に「出力ユーザ ID」で指定したユーザ名、またはプロセスのユーザ名が出力されます。

14.2.2　アプリケーションの開発時の注意事項

以下に、Print Manager の業務印刷機能を利用したアプリケーションの作成時の注意事項について示します。

● Print Manager の業務印刷機能を利用する場合

Print Manager の業務印刷機能を使用したアプリケーションから List Creator で帳票を出力する場合、出力種別によって次のようになります。

- コマンド、Java インタフェース、.NET インタフェース、COM インタフェース、COBOL インタフェース、CFX カスタムタグインタフェースを使用して帳票出力した場合
  - 出力した帳票は、別のドキュメントグループになります。
  - 出力する帳票に対しては、アプリケーションで指定した印刷属性情報は無効になります。帳票業務情報および帳票の出力時に指定した印刷属性情報が有効になります。
- カスタムコントロールを使用して帳票出力した場合
  - 次のイベントログを出力し、帳票出力できません。
    エラーメッセージ：内部エラーが発生しました。(PrJgStartJobProcEx:-536346454)

14.2.3　資源の準備と配置に関する注意事項

- FM 出力および FNP 出力時に Print Manager の高信頼プリンタ、または高信頼リモートプリンタを指定する場合は、オーバレイファイルを帳票出力サーバのデフォルトオーバレイ格納ディレクトリ（/usr/lib/FJSVlp/kol5）に配置してください。
  オーバレイファイルが帳票出力サーバに配置されていないと、オーバレイが印刷されません。

14.3 List Creator の定義情報と Print Manager の画面の対応について

List Creator の帳票業務情報および帳票出力時に指定した情報は、Print Manager へ引き継がれます。
ここでは、List Creator で定義した情報が、Print Manager でどう表示されるかを示します。

印刷する場合で、Print Manager で定義したプリンタに出力する場合は、以下を参照してください。

⇒ “ 表 14.1　印刷操作画面（製品名：Print Manager）”
⇒ “ 表 14.2　印刷操作画面の印刷ドキュメントのプロパティ（製品名：Print Manager）”

FAX 送信する場合は、以下を参照してください。

⇒ “ 表 14.1　印刷操作画面（製品名：Print Manager）”
⇒ “ 表 14.2　印刷操作画面の印刷ドキュメントのプロパティ（製品名：Print Manager）”
⇒ “ 表 14.3　印刷操作画面の FAX 詳細表示画面（製品名：Print Manager）”

なお定義する List Creator の帳票業務情報に優先順序があるものは、表中に番号で示します。

表 14.1　印刷操作画面（製品名：Print Manager）

印刷操作画面	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
印刷名	1）帳票の出力時に指定した帳票のタイトル
	2）帳票名
コメント	1）帳票の出力時に指定した帳票のコメント
	2）［全般］タブのコメント
部数	1）帳票出力時に指定した印刷部数
	2）［印刷］タブの印刷部数
優先順位	1）帳票出力時に指定した出力時の優先順位
	2）印刷属性設定画面の出力時の優先順位
エラー通知先端末	1）帳票出力時に指定したメッセージ通知先
	2）印刷属性設定画面のメッセージ通知先

備考

- 印刷時以外の場合は、部数は「1」固定です。
- Print Manager で定義したプリンタに「部数単位で印刷」を指定せずに複数部数印刷を行った場合は、印刷操作画面上では部数は「1」と表示されますが、指定された部数が印刷されます。

表 14.2　印刷操作画面の印刷ドキュメントのプロパティ（製品名：Print Manager）（１ / ２）

印刷操作画面の印刷ドキュメントのプロパティ	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
印刷名	1）帳票出力時に指定した帳票のタイトル
	2）帳票名
コメント	1）帳票の出力時に指定した帳票のコメント
	2）［全般］タブのコメント
出力先プリンタ名	1）帳票出力時に指定した印刷プリンタ名、電子保存装置名
	2）［印刷］タブの印刷プリンタ名、または［電子保存］タブの電子保存装置名
	3）通常使うプリンタ（電子保存時以外）（【Windows 版】の場合） LP 印刷サービスの「デフォルトプリンタ」（【UNIX 系 OS 版】の場合）
エラー通知先端末名	1）帳票出力時に指定したメッセージ通知先
	2）印刷属性設定画面のメッセージ通知先

表 14.2 印刷操作画面の印刷ドキュメントのプロパティ（製品名：Print Manager）（２／２）

印刷操作画面の印刷ドキュメントのプロパティ	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
部数	1）帳票出力時に指定した印刷部数
	2）［印刷］タブの印刷部数
保留解除日時	1）帳票出力時に指定した保留解除日時
	2）印刷属性設定画面の保留解除日時
優先順位	1）帳票の出力時に指定した優先順位
	2）印刷属性設定画面の出力時の優先順位
削除設定	印刷属性設定画面のスプールドキュメントの扱い

備考

- 印刷時以外の場合は、部数は「1」固定です。
- Print Manager で定義したプリンタに「部数単位で印刷」を指定せずに複数部数印刷を行った場合は、印刷操作画面の印刷ドキュメントのプロパティ上では部数に「1」と表示されますが、指定された部数が印刷されます。

表 14.3 印刷操作画面の FAX 詳細表示画面（製品名：Print Manager）

FAX 詳細表示画面	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
宛先一覧	1）帳票の出力時に指定した FAX 送信時の送信者情報
	2）FAX 送信時の FAX 属性設定画面の送信者情報
配信者情報	1）帳票の出力時に指定した FAX 送信時の FAX 受信者情報（ファイル）
	2）帳票の出力時に指定した FAX 送信時の FAX 受信者情報
	3）FAX 送信時の FAX 属性設定画面の受信者情報
用件	1）帳票の出力時に指定した FAX 送信時の FAX 送付状の用件
	2）FAX 送信時の FAX 詳細設定画面の用件
コメント	1）帳票の出力時に指定した FAX 送信時の FAX 送付状のコメント
	2）FAX 送信時の FAX 詳細設定画面のコメント
カバーシート	1）帳票の出力時に FAX 送付状の用件またはコメントを付加した場合
	2）［FAX］タブの FAX の詳細設定画面の「送付状を付加する」設定
ヘッダ	［FAX］タブの FAX の詳細設定画面のヘッダ情報
イメージ調整	［FAX］タブの FAX の詳細設定画面の「受信側に合わせてイメージ調整」設定

14.4 Print Manager の用語との対応

Print Manager のオンラインマニュアルを参照するときは、印刷アプリケーションを List Creator と読み替えてください。また、以下のように用語を読み替えている場合があります。

Print Manager の用語	List Creator の用語
印刷属性	帳票業務情報（印刷用）
高信頼プリンタ 高信頼リモートプリンタ ListWORKS プリンタ FAX 連携プリンタ FAX 連携リモートプリンタ	Print Manager で定義したプリンタ
高信頼プリンタ 高信頼リモートプリンタ Microsoft プリンタ	印刷プリンタ
FAX 連携プリンタ FAX 連携リモートプリンタ	FAX 装置
ドキュメントグループ名 印刷ドキュメント名 印刷名	帳票名・タイトル スプールドキュメント
印刷モード	出力開始時の動作モード
逐次印刷指定	出力する
保留指定	保留する
削除設定	スプールドキュメントの扱い
出力受付日時から削除するまでの期間	出力受付日時から削除するまでの期間
優先順位	出力時の優先順位
印刷要求元 印刷依頼元	帳票の出力元
印刷開始メッセージ 印刷開始時のユーザ定義メッセージ	出力開始メッセージ
印刷完了メッセージ	出力完了メッセージ

14.5 FAX 送信時の注意事項

ここでは、Print Manager および FAX 出力連携製品と連携し、FAX 送信を行う場合の注意事項を示します。

詳細については、Print Manager および FAX 出力連携製品のマニュアルを参照してください。

1）帳票様式情報設計時の注意事項

帳票を FAX 送信する場合、余白、および用紙サイズに注意して帳票様式情報を設計する必要があります。

詳細については、Print Manger に添付のオンラインマニュアルを参照してください。

2）帳票業務情報設定時 /FAX 送信時の注意事項

帳票を FAX 送信する場合、次の点に注意して、帳票業務情報を設定してください。また、FAX 送信してください。

- 100 件まで同報配信できます。100 件を超えて指定した場合、FAX 送信時にエラーになります。
- ヘッダ情報の指定は無効になります。ヘッダ情報に「ページの中に付加する」または「ページの外に付加する」指定をしても、「付加しない」の設定で動作します。
- 「受信側に合わせてイメージ調整」の指定は無効になります。「受信側に合わせてイメージ調整」を指定しても、指定されていないものとして動作します。

3）入力データ設計時の注意事項

- 帳票を FAX 送信する場合、入力データは 999 ページ以下になるようにしてください。999 ページを超える場合、FAX 送信時にエラーになります。

第 15 章
ECM 連携機能

ここでは、ECM 製品と連携するための支援機能である ECM 連携機能について説明します。

15.1 ECM 連携機能とは

ECM 連携機能とは、List Creator で出力した帳票を ECM 製品でスムーズに利用するための支援機能です。

ECM 連携機能を利用すると、以下のことができます。

- ECM 製品との連携（帳票の登録や管理）に必要な情報を記述したファイルの出力
- 出力するファイル名やファイル中の文字列を、帳票のファイル名や帳票内のデータに置き換えて出力

以下に、ECM 連携機能でできることについて説明します。

● ECM 製品との連携（帳票の登録や管理）に必要な情報を記述したファイルの出力

ECM 製品で利用する連携情報を記述したファイルを、帳票の出力先と同じフォルダへ出力できます。

ECM 製品で利用する連携情報とは、以下のような属性情報です。

- ECM 製品に登録する場合に必要な情報（例えば登録先など）
- 登録した後の管理情報（例えば検索用のキーワードなど）

連携情報を記述したファイルの出力は、List Creator の帳票出力時に実行されます。

以下に、ECM 連携機能における帳票出力時の処理の流れについて示します。

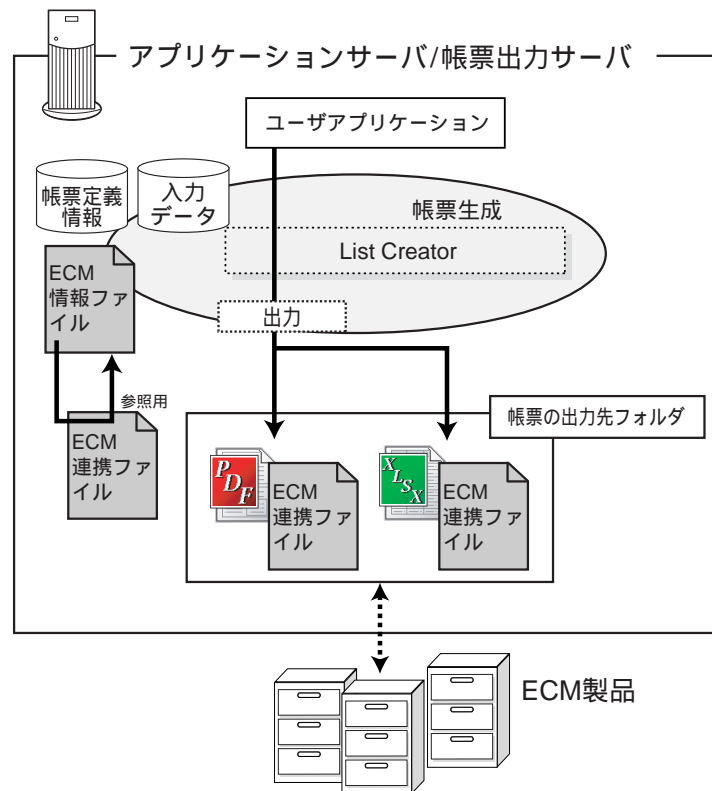



図 15.1 帳票出力時の処理の流れ（ECM 連携機能）

ECM 情報ファイル

ECM 連携ファイルのファイル名や文字コード系など、ECM 連携機能に関する情報を指定するファイルです。

ECM 情報ファイルの詳細は、以下を参照してください。

⇒ “15.3　ECM 情報ファイル ”

ECM 連携ファイル

ECM 連携ファイルは、ユーザが帳票資源の一つとしてあらかじめ作成するファイルです。

ECM 製品との連携を支援するための情報（帳票の登録先や検索用のキーワードなど）を指定しておきます。

帳票の出力先フォルダへ帳票と一緒に配置されるため、帳票と対応付けて ECM 製品で利用することができます。このファイルは、連携する ECM 製品やアプリケーションによって記述できる内容や指定形式が異なります。ご利用の ECM 製品やアプリケーションにしたがってファイルを作成してください。

なお、ECM 連携ファイルは、以下のいずれかの文字コードで作成してください。

- Shift-JIS
- UNICODE（UTF8）

出力される ECM 連携ファイルは、参照される ECM 連携ファイルと同じコード系で出力されます。

注意

- 「%」はエスケープ文字として扱われます。
  「%」を ECM 製品登録時の属性に設定する場合は、「%%」と指定してください。
- ECM 連携ファイルには、フォームフィード制御文字（0x0C）は使用しないでください。

●出力するファイル名やファイル中の文字列を、帳票のファイル名や帳票内のデータに置き換えて出力

帳票の出力時に、一緒に配置する ECM 連携ファイルのファイル名やファイル中の文字列を、出力する帳票のファイル名や帳票内のデータに置き換えて出力することができます。

ECM 情報ファイルや ECM 連携ファイルを作成時に置換文字列を指定すると、帳票出力時に置換文字列の部分が置き換えられて出力されます。

置換文字列の詳細は、以下を参照してください。

⇒ “15.4　置換文字列の指定 ”

15.2　ECM 連携機能の使用手順

ECM 連携機能を利用するには、以下の手順で作業してください。

1）資源の準備と配置

ECM 連携機能で必要な以下の資源を準備し、配置先へ配置します。

- ECM 情報ファイル

  ECM 情報ファイルの詳細は、以下を参照してください。

  ⇒ “15.3　ECM 情報ファイル ”

- ECM 連携ファイル

  ECM 連携ファイルの詳細は、以下を参照してください。

  ⇒ “15.1　ECM 連携機能とは ”

2）ユーザアプリケーションの作成

帳票出力するアプリケーションを準備します。

ユーザアプリケーションでは、使用する「ECM 情報ファイル名」を指定する必要があります。

詳細については、オンラインマニュアル “ アプリケーション作成ガイド ” を参照してください。

3）List Creator の環境設定

詳細は、以下を参照してください。

⇒ “ 第 2 部　環境構築 ”

4）帳票出力の実行

ユーザアプリケーションを実行し、帳票出力を実行します。

備考

- List Creator での作業とは別に、連携する ECM 製品の環境設定などの準備が必要です。
- 帳票で定義されている項目の情報を抽出して ECM 連携機能で利用する場合は、List Creator デザイナの帳票様式情報の仕様印刷機能などを利用し、項目名などの情報を参照してください。

15.3 ECM 情報ファイル

ここでは、ECM 連携機能で使用する ECM 情報ファイルについて説明します。

ECM 情報ファイルとは、ECM 連携ファイルのファイル名や文字コード系など、ECM 連携機能を利用する場合に必要な情報を設定するファイルです。

ECM 情報ファイルの作成方法と配置、文字コード系、および指定方法については、以下を参照してください。

⇒ “7.5.1　情報ファイルとは ”

以下に、ECM 情報ファイルの記述形式、および記述例を示します。

●記述形式

ECM 情報ファイルは、以下の形式で指定します。

```
[ACTION]
TYPE= 設定値
[DR_REGINFO]
ATTRFILE_TMPL= 設定値
ATTRFILE= 設定値
ATTRFILE_CODE= 設定値
```

注意

- 同じセクション名を複数指定した場合、またはセクション内で同じ情報を複数指定した場合、最後に指定した設定値が有効となります。

[ACTION]（セクション）（必須）

帳票出力後の処理情報セクションの宣言です。

このセクションを省略した場合は、エラーとなります。

TYPE（処理種別）（必須）

帳票出力時の処理の種類として、「dmreg」（ECM 連携機能）を指定します。

このキーワードを省略した場合、または上記以外の値を指定した場合、エラーとなります。

[DR_REGINFO]（セクション）（必須）

ECM 情報セクションの宣言です。

このセクションを省略した場合は、エラーとなります。

ATTRFILE_TMPL（ECM 連携ファイル名）（必須）

ECM 連携ファイルのファイル名をフルパスで指定します。

アプリケーションサーバから ECM 連携ファイルを転送する場合は、ファイル名のみ指定してください。

このキーワードを省略した場合は、エラーになります。

注意

- 本キーワードの設定値として、以下の文字は指定できません。
  「"」、「*」、「<」、「>」、「?」、「|」
- 設定値の先頭および最後に空白文字を指定しないでください。また、設定値には利用者定義文字を使用しないでください。

ATTRFILE（帳票の出力先フォルダに出力される ECM 連携ファイル名）（必須）

帳票の出力先フォルダに出力される ECM 連携ファイルのファイル名のみを指定します。

指定値として出力される帳票のファイル名などを指定すると、帳票と ECM 連携ファイルを対応付けることができて便利です。

帳票出力時に指定した「PDF 保存時の格納先ファイル名」（拡張子なし）、または「Excel ファイル出力時の格納先ファイル名」（拡張子なし）と同一のファイル名を指定する場合は、置換文字列「%_REGFILETITLE_%」を指定します。

以下に、置換文字列の指定例を示します。

指定例　：帳票出力インタフェースの「PDF ファイル出力時の格納先ファイル名」の指定値として「 C:¥out¥output.pdf」が指定されている場合、かつ、「ATTRFILE =%%_REGFILETITLE_%%.ini」と指定した場合

出力結果　：「ATTRFILE =output.ini」に置き換えられ、「output.ini」という名前の ECM 連携ファイルが出力されます。

このキーワードを省略した場合は、エラーになります。

> **注意**
> - 本キーワードの設定値として、以下の文字は指定できません。
>   「/」、「"」、「¥」、「*」、「:」、「<」、「>」、「?」、「|」
> - 設定値の先頭および最後に空白文字を指定しないでください。また、設定値には利用者定義文字を使用しないでください。
> - 本キーワードで指定した ECM 連携ファイル名と同一のファイル名が帳票の出力先フォルダに存在した場合、ファイルを上書きする権限があれば新しいファイルに置き換えられます。ファイルを上書きする権限がない場合は、エラーになります。したがって、帳票の出力先フォルダに出力される ECM 連携ファイル名は、一意名となるように指定してください。

ATTRFILE_CODE（ECM 連携ファイルの文字コード系）（任意）

ECM 連携ファイルの文字コード系を指定します。

ECM 連携ファイル（ATTRFILE_TMPL キーワードで指定した ECM 連携ファイル）と、帳票の出力先フォルダへ出力される ECM 連携ファイル（ATTRFILE キーワードで指定した ECM 連携ファイル）の文字コード系は同じになります。

指定できる値は、以下のとおりです。

SHIFT-JIS（初期値）：Shift-JIS とします。
UTF-8　：UNICODE（UTF8）とします。

省略すると、「SHIFT-JIS」（Shift-JIS）が指定されたものとして動作します。

●記述例

例）以下の場合の ECM 情報ファイルの記述例を示します。

- ECM 連携ファイルのファイル名：C:¥LC¥ATTRFILE¥attrfile.ini
- 帳票の出力先に帳票と一緒に配置される ECM 連携ファイルのファイル名：社員一覧 .idx
- ECM 連携ファイルの文字コード系：Shift-JIS

```
[ACTION]
TYPE=dmreg
[DR_REGINFO]
ATTRFILE_TMPL=C:¥LC¥ATTRFILE¥attrfile.ini
ATTRFILE= 社員一覧 .idx
ATTRFILE_CODE=SHIFT-JIS
```

15.4　置換文字列の指定

以下に、置換文字列とは何か、帳票出力時に置き換えることができる文字列、置換文字列の種類と指定可能範囲、置換文字列指定時の留意事項、および置換文字列の指定例について説明します。

15.4.1　置換文字列とは

ECM 連携機能では、帳票の出力時に出力される帳票から情報を抽出し、それにあわせて ECM 連携ファイル名やファイル中の文字列を置き換えることができます。

実際に置換される文字列を「置換文字列」といいます。

ECM 情報ファイルや ECM 連携ファイルの作成時に、ファイル中に置換文字列を指定しておくと、置換文字列が別の文字列に置き換えられます。

15.4.2　帳票出力時に置き換えることができる文字列

以下の文字列を置き換えることができます。

- ECM 連携ファイル名
  出力する帳票のファイル名と同じ名前に置き換えることができます。これにより、帳票と ECM 連携ファイルの対応付けがファイル名で簡単にできます。
- ECM 連携ファイル内の任意の文字列
  ECM 連携ファイル内の任意の文字列を出力する帳票のファイル名、または帳票に定義されている項目の入力データの値に置き換えることができます。
  例えば、ECM 製品へ登録した後の検索用のキーワードに、実際の入力データの値や帳票のファイル名（拡張子あり / なし）を設定できます。これにより、検索用のキーワードとして、入力データの値や帳票のファイル名などを、帳票の登録後に手動で設定する手間が省けます。

備考

- マルチフォーム出力 / 組合せフォーム出力の場合、ECM 連携ファイル内の任意の文字列を、すべての帳票に定義されている項目名の入力データの値に置き換えることができます。

15.4.3　置換文字列の種類と指定可能範囲

ECM 連携機能で使用できる置換文字列には、以下の種類があります。

%%_REGFILETITLE_%%	：出力する帳票のファイル名（拡張子なし）を意味します。
%%_REGFILENAME_%%	：出力する帳票のファイル名（拡張子あり）を意味します。
% 項目名 %	：指定した項目の入力データの値を意味します。 実際に帳票に定義されている項目の項目名を指定します。

備考

- 「%%_REGFILETITLE_%%」を指定すると、帳票出力インタフェースまたは帳票業務情報のプロパティ画面で指定する以下のいずれかのファイル名（拡張子なし）になります。
  ・ PDF ファイル保存時の格納先ファイル名（拡張子なし）
  ・ Excel ファイル出力時の格納先ファイル名（拡張子なし）
- 「%%_REGFILENAME_%%」を指定すると、帳票出力インタフェースまたは帳票業務情報のプロパティ画面で指定する以下のいずれかのファイル名（拡張子あり）になります。
  ・ PDF ファイル保存時の格納先ファイル名（拡張子あり）
  ・ Excel ファイル出力時の格納先ファイル名（拡張子あり）
- 「% 項目名 %」を指定する場合、データ定義画面の［データ定義］タブに表示されるデータ項目名と同じ項目名を指定してください。
  なお、指定した項目名が、入力データが不要な項目名の場合は無効となります。必ず入力データが必要な項目名を指定してください。

以下に、ECM 情報ファイルおよび ECM 連携ファイルにおける置換文字列の指定可能範囲について示します。

ファイル種別	置換文字列		
	%%_REGFILETITLE_%%	%%_REGFILENAME_%%	% 項目名 %
ECM 情報ファイル	○ (*1)	－	－
ECM 連携ファイル	○	○	○

○：指定できる
－：指定できない
*1：[DR_REGINFO] セクションの「ATTRFILE」キーワード（帳票の出力先フォルダに出力される ECM 連携ファイル名）にのみ指定できます。

15.4.4　置換文字列指定時の留意事項

置換文字列を指定する場合、以下の点に留意してください。

- 置換文字列に「% 項目名 %」を指定した場合、その項目の最初の入力データの値（空文字を除く）にすべて置き換えられます（2 番目以降に現れた値には置き換えられません)。
  ただし、入力データの値が全て空の場合は、空文字として置換されます。
- 置換文字列として指定した項目名が帳票定義情報に定義されていない場合は、「%%」が削除され、「項目名」だけがそのまま出力されます。
  例）　% 社員番号 %　⇒　社員番号
- ECM 連携ファイルが XML ファイルの場合は、帳票に定義されている項目の入力データに、以下の文字列を指定しないでください。
  「<」、「>」、「&」、「”」、「’」
  指定した場合、XML ファイルとして正常に開くことができなくなります。
- 「% 項目名 %」の項目名に矩形テキスト項目を指定する場合は、帳票定義情報の「矩形テキスト項目の改行コード」の指定は無効となります。
  この場合、出力される ECM 連携ファイルには、入力データに指定した文字がそのまま登録されます。

15.4.5　置換文字列の指定例

以下に、置換文字列の指定例と出力結果について示します。

●「ECM 連携ファイル名」を、出力する帳票のファイル名に置き換える

ECM 情報ファイル内の「ATTRFILE」キーワードに、「%%_REGFILETITLE_%%」を指定します。
以下に、指定例を示します。

- ECM 情報ファイルでの記述

```
ATTRFILE=%%_REGFILETITLE_%%.idx
```

- 出力結果
  出力する帳票のファイル名が「売上伝票」の場合、以下のファイル名の ECM 連携ファイルが出力されます。

```
売上伝票 .idx
```

●任意の文字列を、出力する帳票のファイル名に置き換える

ECM 連携ファイル内の置換したい箇所に、以下のいずれかの置換文字列を指定します。

拡張子ありの帳票のファイル名にする場合:「%%_REGFILENAME_%%」を指定します。
拡張子なしの帳票のファイル名にする場合:「%%_REGFILETITLE_%%」を指定します。

以下に、指定例を示します。

- ECM 連携ファイルでの記述

```
%%_REGFILENAME_%%,AAAA,BBBB,CCCC
%%_REGFILETITLE_%%,AAAA,BBBB,CCCC
```

- 出力結果
  出力する帳票のファイル名（PDF ファイル）が「売上伝票」の場合、以下の文字列に置き換えられます。

```
売上伝票 .pdf, AAAA, BBBB, CCCC
売上伝票 , AAAA, BBBB, CCCC
```

●　任意の文字列を実際の「入力データ」の値に置き換える場合

ECM 連携ファイル内の置換したい箇所に、「% 項目名 %」を指定します。
以下に、指定例を示します。

- ECM 連携ファイルでの記述

```
%%_REGFILENAME_%%, 見積書 , % 見積書番号 %, % 得意先名 %
```

- 出力結果
  出力する帳票のファイル名（PDF ファイル）が「売上伝票」で、置換文字列で指定した項目に出力される値が「12345」、「○○電気」の場合、以下の文字列に置き換えられます。

```
売上伝票 .pdf, 見積書 , 12345, ○○電気
```

15.5 使用上の留意点

ECM 連携機能使用時には、以下の点に留意してください。

- 出力先に同一名のファイルが存在した場合の動作について

  帳票の出力先（PDF ファイルの格納先 /Excel ファイルの格納先）フォルダに、出力するファイル名と同一名のファイルがすでに存在する場合は､ファイルを上書きする権限があれば新しいファイルに置き換えられます。ファイルを上書きする権限がない場合は、エラーになります。したがって、帳票の出力先フォルダに出力する帳票のファイル名、および ECM 連携ファイル名は、一意名となるように指定してください。

- 帳票と ECM 連携ファイルの配置先について

  帳票の出力先（PDF ファイルの格納先 /Excel ファイルの格納先）フォルダに帳票および ECM 連携ファイルが出力されます。

- 帳票および ECM 連携ファイルの出力先フォルダの管理について

  List Creator では、出力した帳票や ECM 連携ファイルなどを移動 / 削除する機能はありません。定期的にファイルの整理を行ってください。

第 4 部 文字と文字コード

ここでは、List Creator で使用できる文字、および文字コード系について説明しています。

第 16 章
扱える文字コード系

ここでは、List Creator で扱える文字コード系のサポート範囲、および注意事項などについて説明しています。

備考

- 帳票出力する場合、ユーザアプリケーションを作成するインタフェースで扱える文字コード系、および注意事項について、以下のマニュアルも併せて参照してください。
  - ・ 帳票出力インタフェース使用時
    オンラインマニュアル " アプリケーション作成ガイド " の各インタフェースの注意事項
  - ・ 帳票 Web サービスインタフェース使用時
    オンラインマニュアル " 帳票 Web サービス機能編 "

  また、COBOL アプリケーション連携機能を利用する場合の文字コード系については、オンラインマニュアル "COBOL アプリケーション連携機能編 " を参照してください。

16.1 帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系

List Creator の帳票出力インタフェースを使用して、帳票を出力する場合に使用できる文字コード系について説明します。

以降に、各インタフェースで使用できる文字コード系について示します。

運用形態	アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ	参照先
スタンドアロン型	Windows		⇒ “16.1.1.1 スタンドアロン型、Windows へのリモート帳票出力型、Web 手元印刷型の場合 ”
	Solaris		⇒ “16.1.2.1 スタンドアロン型、または UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合 ”
	Linux		⇒ “16.1.3.1 スタンドアロン型、または UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合 ”
コネクタ連携型	Windows	Windows	⇒ “16.1.1.2 Windows へのコネクタ連携型の場合 ”
		Solaris	⇒ “16.1.1.3 Solaris へのコネクタ連携型の場合 ”
		Linux	⇒ “16.1.1.4 Linux へのコネクタ連携型の場合 ”
	Solaris	Windows	⇒ “16.1.2.3 Windows へのコネクタ連携型の場合 ”
		Solaris	⇒ “16.1.2.4 Solaris へのコネクタ連携型の場合 ”
		Linux	⇒ “16.1.2.5 Linux へのコネクタ連携型の場合 ”
	Linux	Windows	⇒ “16.1.3.3 Windows へのコネクタ連携型の場合 ”
		Solaris	⇒ “16.1.3.4 Solaris へのコネクタ連携型の場合 ”
		Linux	⇒ “16.1.3.5 Linux へのコネクタ連携型の場合 ”
リモート帳票出力型	Windows	Windows	⇒ “16.1.1.1 スタンドアロン型、Windows へのリモート帳票出力型、Web 手元印刷型の場合 ”
	Solaris	Windows	⇒ “16.1.2.2 Windows へのリモート帳票出力型、または Web 手元印刷型の場合 ”
		Solaris	⇒ “16.1.2.1 スタンドアロン型、または UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合 ”
		Linux	
	Linux	Windows	⇒ “16.1.3.2 Windows へのリモート帳票出力型、または Web 手元印刷型の場合 ”
		Solaris	⇒ “16.1.3.1 スタンドアロン型、または UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合 ”
		Linux	
Web 手元印刷型	Windows		⇒ “16.1.1.1 スタンドアロン型、Windows へのリモート帳票出力型、Web 手元印刷型の場合 ”
	Solaris		⇒ “16.1.2.2 Windows へのリモート帳票出力型、または Web 手元印刷型の場合 ”
	Linux		⇒ “16.1.3.2 Windows へのリモート帳票出力型、または Web 手元印刷型の場合 ”

16.1.1 アプリケーションサーバが Windows の場合

以下に、アプリケーションサーバが Windows の場合に使用できる文字コード系について説明します。

16.1.1.1 スタンドアロン型、Windows へのリモート帳票出力型、Web 手元印刷型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は Unicode（UNICODE（UTF16）および UNICODE（UTF8））のみとなります。

●入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の場合

表 16.1 スタンドアロン型 /Windows へのリモート帳票出力型 /Web 手元印刷型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）（１ / ２）

帳票出力インタフェース		文字コード系			
		Shift-JIS	UNICODE（UTF16 リトルエンディアン）(*1)	UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）(*1)	UNICODE（UTF8）
帳票出力コマンド	prprint コマンド	◎	○	○	○
	prprintx コマンド	◎	○	○	○
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	◎	○	○	○
仕分けコマンド	prassort コマンド	◎	×	×	×
XBRL データ対応コマンド	prdsexec コマンド	◎	○	○	○
Navigator 連携コマンド		◎	×	×	×
Database Direct 連携コマンド	naviexec コマンド	◎	×	×	×
	prnavi コマンド	◎	×	×	×
クエリコマンド	qryexec コマンド	◎	×	×	×
	prdbexec コマンド	◎	×	×	×
ユーティリティコマンド	prview コマンド	◎	○	○	○
カスタムコントロール		◎	○ (*2)	○ (*2)	○ (*2)
COM インタフェース		◎	×	×	×
COBOL インタフェース		◎	○	○	○
Java インタフェース (*3)	Forms クラス	△	×	×	◎ (*4)
	FormsFile クラス	□	□	□	◎
	FormsStream クラス	□	□	□	◎
.NET インタフェース (*3)	Forms クラス	◎	×	×	◎ (*4)
	FormsFile クラス	◎	○	○	○
CFX カスタムタグインタフェース (*3)	ColdFusion MX	△	×	×	◎
Web 手元印刷コンポーネント機能	Web コントロール	◎	×	×	×
	Web プラグイン	◎	×	×	×

表 16.1 スタンドアロン型 /Windows へのリモート帳票出力型 /Web 手元印刷型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）（２ / ２）

帳票出力インタフェース		文字コード系			
		Shift-JIS	UNICODE（UTF16 リトルエンディアン）(*1)	UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）(*1)	UNICODE（UTF8）
Web アプリケーション連携機能	OWF ファイル生成ライブラリ	□	□	□	◎
SAP R/3 RDI 連携機能		◎	×	×	×
Oracle E-Business Suite 連携機能		◎	×	×	○

◎：入力データ、アプリケーションに有効、情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
コマンド、アプリケーション、および情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
△：情報ファイルのみ指定できます。
入力データおよびアプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
アプリケーション（メソッド）は、UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：OCI 連携機能を使用してデータベース（Oracle）と連携する場合は使用できません。
*2：データファイル名を指定して帳票を出力する場合のみ使用できます。データファイル生成メソッドを使用して帳票を出力する場合は使用できません。
*3：各インタフェース使用時の文字コード系の詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。
*4：Navigator 連携機能、Database Direct 連携機能、およびクエリ機能を使用する場合は、Shift-JIS に変換できる文字のみ使用できます。

●入力データ形式が「XML 形式」の場合

表 16.2 スタンドアロン型 /Windows へのリモート帳票出力型 /Web 手元印刷型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）（１ / ２）

帳票出力インタフェース		文字コード系	
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
帳票出力コマンド	prprint コマンド	◎	○
	prprintx コマンド	◎	○
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	◎	○
ユーティリティコマンド	prview コマンド	◎	○
カスタムコントロール		◎	○ (*1)
COM インタフェース		◎	○ (*1)
COBOL インタフェース		◎	○
Java インタフェース (*2)	FormsFile クラス	□	◎
	FormsStream クラス	□	◎
.NET インタフェース (*2)	FormsFile クラス	◎	○
Web 手元印刷コンポーネント機能	Web コントロール	◎	○ (*1)
	Web プラグイン	◎	○ (*1)

表 16.2　スタンドアロン型 /Windows へのリモート帳票出力型 /Web 手元印刷型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）（２ / ２）

帳票出力インタフェース		文字コード系	
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
Web アプリケーション連携機能	OWF ファイル生成ライブラリ	◎	◎

◎：入力データ、コマンド、アプリケーションで使用できます。
　情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンド、アプリケーション、および情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
　アプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：データファイル名を指定して帳票を出力する場合のみ使用できます。データファイル生成メソッドを使用して帳票を出力する場合は使用できません。
*2：各インタフェース使用時の文字コード系の詳細については、オンラインマニュアル “ アプリケーション作成ガイド ” を参照してください。

16.1.1.2 Windows へのコネクタ連携型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は Unicode（UNICODE（UTF16）および UNICODE（UTF8））のみとなります。

●入力データ形式が可変長、固定長、または CSV 形式の場合

表 16.3 Windows へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系			
		Shift-JIS	UNICODE（UTF16 リトルエンディアン）(*1)	UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）(*1)	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	○	○	○
XBRL データ対応コマンド	prdsexec コマンド	◎	○	○	○
Navigator 連携コマンド (*2)		◎	×	×	×
Database Direct 連携コマンド	naviexec コマンド	◎	×	×	×
	prnavi コマンド	◎	×	×	×
クエリコマンド	qryexec コマンド	◎	×	×	×
Java インタフェース	Forms クラス (*2)(*3)	△	×	×	◎ (*4)
	FormsFile クラス (*5)	□	□	□	◎
	FormsStream クラス (*4)	□	□	□	◎
.NET インタフェース	Forms クラス (*2)(*6)	◎	×	×	×
	FormsFile クラス	◎	○	○	○
COBOL インタフェース		◎	○	○	○
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX	△	×	×	◎ (*7)

◎：入力データ、コマンド、およびユーザアプリケーションで使用できます。
　　情報ファイルは、Shift-JIS のみ使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　　コマンド、ユーザアプリケーション（メソッドまたはプロパティ）、および情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
△：情報ファイルのみ使用できます。
　　入力データ、およびユーザアプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
　　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　　情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：OCI 連携機能を使用してデータベース（Oracle）と連携する場合は使用できません。
*2：Navigator 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS に変換できる文字のみ使用できます。
*3：クエリ機能、Navigator 連携機能、または Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS に変換できる文字のみ使用できます。

*4：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。
*5：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。
*6：DataCode プロパティで指定した文字コード系に変換されます。
*7：クエリ機能、または Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS に変換できる文字のみ使用できます。

●入力データ形式が XML 形式の場合

表 16.4　Windows へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系	
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	○
Java インタフェース	FormsFile クラス	□	◎
	FormsStream クラス	□	◎
.NET インタフェース	FormsFile クラス	◎	○
COBOL インタフェース		◎	○

◎：入力データ、コマンド、およびユーザアプリケーションで使用できます。
　情報ファイルは、Shift-JIS のみ使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンド、ユーザアプリケーション（メソッドまたはプロパティ）、および情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。

16.1.1.3 Solaris へのコネクタ連携型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は UNICODE（UTF8）のみとなります。

●入力データ形式が可変長、固定長、または CSV 形式の場合

表 16.5 Solaris へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系	
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	○
XBRL データ対応コマンド	prdsexec コマンド	◎	○
Navigator 連携コマンド (*1)		◎	×
Database Direct 連携コマンド	naviexec コマンド	◎	×
	prnavi コマンド	◎	×
Java インタフェース	Forms クラス (*1)(*2)	△	◎ (*3)
	FormsFile クラス (*4)	□	◎
	FormsStream クラス (*3)	□	◎
.NET インタフェース	Forms クラス (*1)(*5)	◎	×
	FormsFile クラス	◎	○
COBOL インタフェース		◎	○
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX	△	◎ (*6)

◎：入力データ、コマンド、およびユーザアプリケーションで使用できます。
情報ファイルは、Shift-JIS のみ使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
コマンド、ユーザアプリケーション（メソッドまたはプロパティ）、および情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
△：情報ファイルのみ使用できます。
入力データ、およびユーザアプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：Navigator 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS に変換できる文字のみ使用できます。
*2：クエリ機能、Navigator 連携機能、または Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS に変換できる文字のみ使用できます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。
*4：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。
*5：DataCode プロパティで指定した文字コード系に変換されます。

*6：クエリ機能、または Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS に変換できる文字のみ使用できます。

●入力データ形式が XML 形式の場合

表 16.6 Solaris へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系	
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	○
Java インタフェース	FormsFile クラス	□	◎
	FormsStream クラス	□	◎
.NET インタフェース	FormsFile クラス	◎	○
COBOL インタフェース		◎	○

◎：入力データ、コマンド、およびユーザアプリケーションで使用できます。
　情報ファイルは、Shift-JIS のみ使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンド、ユーザアプリケーション（メソッドまたはプロパティ）、および情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。

16.1.1.4 Linux へのコネクタ連携型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は UNICODE（UTF8）のみとなります。

●入力データ形式が可変長、固定長、または CSV 形式の場合

表 16.7 Linux へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系	
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	○
Database Direct 連携コマンド	prnavi コマンド	◎	×
Java インタフェース	Forms クラス (*1)	△	◎ (*2)
	FormsFile クラス (*3)	□	◎
	FormsStream クラス (*2)	□	◎
.NET インタフェース	Forms クラス (*4)	◎	×
	FormsFile クラス	◎	○
COBOL インタフェース		◎	○
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX	△	◎ (*2)

◎：入力データ、コマンド、およびユーザアプリケーションで使用できます。
情報ファイルは、Shift-JIS のみ使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
コマンド、ユーザアプリケーション（メソッドまたはプロパティ）、および情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
△：情報ファイルのみ使用できます。
入力データ、およびユーザアプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：クエリ機能、または Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS に変換できる文字のみ使用できます。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。
*4：DataCode プロパティで指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が XML 形式の場合

表 16.8 Linux へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系	
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	○
Java インタフェース	FormsFile クラス	□	◎
	FormsStream クラス	□	◎
.NET インタフェース	FormsFile クラス	◎	○
COBOL インタフェース		◎	○

◎：入力データ、コマンド、およびユーザアプリケーションで使用できます。
　　情報ファイルは、Shift-JIS のみ使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　　コマンド、ユーザアプリケーション（メソッドまたはプロパティ）、および情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
　　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　　情報ファイルは Shift-JIS のみ使用できます。

16.1.2 アプリケーションサーバが Solaris の場合

以下に、アプリケーションサーバが Solaris の場合に使用できる文字コード系について説明します。

16.1.2.1 スタンドアロン型、または UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は UNICODE（UTF8）のみとなります。

●入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の場合

表 16.9 スタンドアロン型、UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式 : 可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系				
		EUC（U90）	EUC（S90）	Solaris 標準 EUC	Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
帳票出力コマンド	prprint コマンド	◎	◎	×	◎	◎
	prprintx コマンド	◎	◎	×	◎	◎
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	◎	◎	×	◎	◎
XBRL データ対応コマンド (*1)	prdsexec コマンド	◎	◎	×	◎	◎
Navigator 連携コマンド (*1)		×	×	×	◎	×
Database Direct 連携コマンド	naviexec コマンド	×	×	×	◎	×
	prnavi コマンド	×	×	×	◎	×
COBOL インタフェース		◎	◎	×	◎	◎（*2）
Java インタフェース (*3)	Forms クラス (*4)	○	○	×	○	◎
	FormsFile クラス (*5)	□	□	×	□	◎
	FormsStream クラス (*4)	□	□	×	□	◎
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX(*6)	○	○	×	○	◎
SAP R/3 RDI 連携機能		×	×	◎	◎	◎
Oracle E-Business Suite 連携機能		◎	◎	×	◎	×

◎ : 入力データ、コマンド、アプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○ : 情報ファイルのみ使用できます。
入力データおよびアプリケーションは、UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□ : 入力データのみ使用できます。
アプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
× : 使用できません。

*1 : Linux へリモート帳票出力する場合は、使用できません。
*2 : NetCOBOL 使用時のみ、使用できます。PowerCOBOL97 使用時 UNICODE（UTF8）は使用できません。
*3 : Java インタフェースを利用してユーザアプリケーションを作成した場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

*4：setDataCode() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*5：メソッドで指定した文字列は、setDataFile() メソッドと setFileType() メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*6：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が「XML 形式」の場合

表 16.10 スタンドアロン型、UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系		
		Shift-JIS (*1)	UNICODE（UTF8）(*1)	日本語 EUC（EUC-JP）(*1)
帳票出力コマンド	prprint コマンド	◎	◎	○
	prprintx コマンド	◎	◎	○
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	◎	◎	○
COBOL インタフェース		◎	◎ (*2)	○
Java インタフェース (*3)	FormsFile クラス (*4)	□	◎	□
	FormsStream クラス (*5)	□	◎	□

◎：入力データ、コマンド、アプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
コマンドおよびアプリケーション、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データのみ使用できます。
アプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
情報ファイルはアプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。

*1：入力データが「XML 形式」の場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。
*2：NetCOBOL 使用時のみ、使用できます。PowerCOBOL97 使用時 UNICODE（UTF8）は使用できません。
*3：Java インタフェースを利用してユーザアプリケーションを作成した場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。
*4：メソッドで指定した文字列は、setDataFile() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*5：メソッドで指定した文字列は、setDataCode() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.1.2.2 Windows へのリモート帳票出力型、または Web 手元印刷型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意
- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は Unicode（UNICODE（UTF16）および UNICODE（UTF8））のみとなります。

●入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の場合

表 16.11 Windows へのリモート帳票出力型 /Web 手元印刷型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系						
		EUC（U90）(*1)	EUC（S90）(*1)	Solaris 標準 EUC (*1)	Shift-JIS	UNICODE（UTF16 リトルエンディアン）(*2)	UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）(*2)	UNICODE（UTF8）(*2)
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
XBRL データ対応コマンド	prdsexec コマンド	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
Navigator 連携コマンド		×	×	×	◎	×	×	×
Database Direct 連携コマンド	naviexec コマンド	×	×	×	◎	×	×	×
	prnavi コマンド	×	×	×	◎	×	×	×
COBOL インタフェース		◎	◎	◎	◎	○	○	◎ (*3)
Java インタフェース (*4)	Forms クラス (*5)	◇	◇	×	◇	×	×	◎
	FormsFile クラス (*6)	□	□	×	□	□	□	◎
	FormsStream クラス (*5)	□	□	×	□	□	□	◎
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX (*7)	◇	◇	×	◇	×	×	◎
Web 手元印刷機能の Web アプリケーション連携機能	OWF ファイル生成ライブラリ	◎	◎	◎	◎	○	○	◎

◎：入力データ、コマンド、アプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンドおよびアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データのみ使用できます。
　アプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　情報ファイルはアプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
◇：情報ファイルのみ使用できます。
　入力データおよびアプリケーションは、UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：Solaris 上で Shift-JIS に変換してから、Windows へ転送されます。

*2：Unicode の入力データを使用する場合の注意事項については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。
*3：NetCOBOL 使用時のみ、使用できます。PowerCOBOL97 使用時 UNICODE（UTF8）は使用できません。
*4：Java インタフェースを利用してユーザアプリケーションを作成した場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。
*5：setDataCode() メソッドと setFileType() メソッド、または 環境変数 LANG と 環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*6：メソッドで指定した文字列は、setDataFile() メソッドと setFileType() メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*7：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が「XML 形式」の場合

表 16.12 Windows へのリモート帳票出力型 /Web 手元印刷型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系		
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）(*1)	日本語 EUC（EUC-JP）(*1)
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	○	◎	○
COBOL インタフェース		○	○ (*2)	○
Java インタフェース (*3)	FormsFile クラス (*4)	□	◎	□
	FormsStream クラス (*5)	□	◎	□

◎：入力データ、コマンド、アプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
コマンドおよびアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データのみ使用できます。
アプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してしてください。

*1：Solaris 上で Shift-JIS に変換してから、Windows へ転送されます。出力できる文字については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。
*2：NetCOBOL 使用時のみ、使用できます。PowerCOBOL97 使用時 UNICODE（UTF8）は使用できません。
*3：Java インタフェースを利用してユーザアプリケーションを作成した場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。
*4：メソッドで指定した文字列は、setDataFile() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*5：メソッドで指定した文字列は、setDataCode() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.1.2.3　Windows へのコネクタ連携型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は Unicode（UNICODE（UTF16）および UNICODE（UTF8））のみとなります。

●入力データ形式が可変長、固定長、または CSV 形式の場合

表 16.13　Windows へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式 : 可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系					
		EUC（U90）(*1)	EUC（S90）(*1)	Shift-JIS	UNICODE（UTF16 リトルエンディアン）(*2)	UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）(*2)	UNICODE（UTF8）(*2)
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	◎	◎	○	○	◎
XBRL データ対応コマンド	prdsexec コマンド	◎	◎	◎	○	○	◎
Navigator 連携コマンド (*3)		◎	×	×	×	×	×
Database Direct 連携コマンド	naviexec コマンド	×	×	◎	×	×	×
	prnavi コマンド	×	×	◎	×	×	×
Java インタフェース	Forms クラス (*3)	△	△	△	×	×	◎ (*4)
	FormsFile クラス (*5)	◇	◇	◇	□	□	◎
	FormsStream クラス (*4)	◇	◇	◇	□	□	◎
COBOL インタフェース		◎	◎	◎	○	○	◎ (*6)
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX	△	△	△	×	×	◎ (*7)

◎：入力データ、コマンド、およびユーザアプリケーションで使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンド、ユーザアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
△：情報ファイルのみ使用できます。
　入力データ、およびユーザアプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
◇：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：Solaris から Windows へ転送後、Shift-JIS に変換されます。
*2：Unicode の入力データを使用する場合の注意事項については、オンラインマニュアル “ 帳票設計編 ” を参照してください。
*3：Navigator 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS に変換できる文字のみ使用できます。

*4：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または 環境変数 LANG と 環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*5：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*6：NetCOBOL 使用時のみ使用できます。PowerCOBOL97 使用時は UNICODE（UTF8）は使用できません。
*7：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が XML 形式の場合

表 16.14 Windows へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系		
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）(*1)	日本語 EUC（EUC-JP）(*1)
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	◎	○
Java インタフェース	FormsFile クラス (*2)	□	◎	○
	FormsStream クラス (*3)	□	◎	○
COBOL インタフェース		◎	◎ (*4)	○

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
コマンド、ユーザアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。

*1：Solaris 上で Shift-JIS に変換してから、Windows へ転送されます。出力できる文字については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*4：NetCOBOL 使用時のみ使用できます。PowerCOBOL97 使用時は UNICODE（UTF8）は使用できません。

16.1.2.4 Solaris へのコネクタ連携型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は UNICODE（UTF8）のみとなります。

●入力データ形式が可変長、固定長、または CSV 形式の場合

表 16.15 Solaris へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系			
		EUC（U90）	EUC（S90）	Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	◎	◎	◎
XBRL データ対応コマンド	prdsexec コマンド	◎	◎	◎	◎
Navigator 連携コマンド (*1)		×	×	◎	×
Database Direct 連携コマンド	naviexec コマンド	×	×	◎	×
	prnavi コマンド	×	×	◎	×
Java インタフェース	Forms クラス (*1)	○	○	○	◎ (*2)
	FormsFile クラス (*3)	□	□	□	◎
	FormsStream クラス (*2)	□	□	□	◎
COBOL インタフェース		◎	◎	◎	◎ (*4)
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX	○	○	○	◎ (*5)

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：情報ファイルのみ使用できます。
　入力データ、およびユーザアプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：Navigator 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS のみ使用できます。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*4：NetCOBOL 使用時のみ使用できます。PowerCOBOL97 使用時は UNICODE（UTF8）は使用できません。
*5：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が XML 形式の場合

表 16.16　Solaris へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式 : XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系 (*1)		
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）	日本語 EUC（EUC-JP）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	◎	○
Java インタフェース	FormsFile クラス (*2)	□	◎	○
	FormsStream クラス (*3)	□	◎	○
COBOL インタフェース		◎	◎	○ (*4)

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンド、ユーザアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。

*1：使用できる文字については、オンラインマニュアル " 帳票設計編 " を参照してください。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*4：NetCOBOL 使用時のみ使用できます。PowerCOBOL97 使用時は UNICODE（UTF8）は使用できません。

16.1.2.5 Linux へのコネクタ連携型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は UNICODE（UTF8）のみとなります。

●入力データ形式が可変長、固定長、または CSV 形式の場合

表 16.17 Linux のへコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系			
		EUC（U90）	EUC（S90）	Shift-JIS	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	◎	◎	◎
Database Direct 連携コマンド	naviexec コマンド	×	×	◎	×
	prnavi コマンド	×	×	◎	×
Java インタフェース	Forms クラス	○	○	○	◎ (*1)
	FormsFile クラス (*2)	□	□	□	◎
	FormsStream クラス (*1)	□	□	□	◎
COBOL インタフェース		◎	◎	◎	◎ (*3)
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX	○	○	○	◎ (*4)

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：情報ファイルのみ使用できます。
入力データ、およびユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：NetCOBOL 使用時のみ使用できます。PowerCOBOL97 使用時は UNICODE（UTF8）は使用できません。
*4：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が XML 形式の場合

表 16.18 Linux へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系 (*1)		
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）	日本語 EUC（EUC-JP）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	◎	○
Java インタフェース	FormsFile クラス (*2)	□	◎	○
	FormsStream クラス (*3)	□	◎	○
COBOL インタフェース		◎	◎	○ (*4)

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
コマンド、ユーザアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。

*1：使用できる文字については、オンラインマニュアル " 帳票設計編 " を参照してください。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*4：NetCOBOL 使用時のみ使用できます。PowerCOBOL97 使用時は UNICODE（UTF8）は使用できません。

16.1.3　アプリケーションサーバが Linux の場合

以下に、アプリケーションサーバが Linux の場合に使用できる文字コード系について説明します。

16.1.3.1　スタンドアロン型、または UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は UNICODE（UTF8）のみとなります。

●入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の場合

表 16.19　スタンドアロン型、UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系		
		EUC（U90）	EUC（S90）	UNICODE（UTF8）
帳票出力コマンド	prprint コマンド	◎	◎	◎
	prprintx コマンド	◎	◎	◎
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	◎	◎	◎
COBOL インタフェース		◎	◎	◎
Java インタフェース (*1)	Forms クラス (*2)	○	○	◎
	FormsFile クラス (*3)	□	□	◎
	FormsStream クラス (*2)	□	□	◎
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX(*4)	○	○	◎

◎：入力データ、コマンド、アプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
□：入力データのみ使用できます。
　アプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
○：情報ファイルのみ使用できます。
　入力データおよびアプリケーションは、UNICODE（UTF8）のみ使用できます。

*1：Java インタフェースを利用してユーザアプリケーションを作成した場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル “ アプリケーション作成ガイド ” を参照してください。
*2：setDataCode() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataFile() メソッドと setFileType() メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*4：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が「XML 形式」の場合

表 16.20 スタンドアロン型、UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系		
		Shift-JIS (*1)	UNICODE（UTF8）(*1)	日本語 EUC（EUC-JP）(*1)
帳票出力コマンド	prprint コマンド	◎	◎	○
	prprintx コマンド	◎	◎	○
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	◎	◎	○
COBOL インタフェース		◎	◎	○
Java インタフェース (*2)	FormsFile クラス (*3)	□	◎	□
	FormsStream クラス (*4)	□	◎	□

◎：入力データ、コマンド、アプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンドおよびアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データのみ使用できます。
　アプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。

*1：入力データが「XML 形式」の場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル " 帳票設計編 " を参照してください。
*2：Java インタフェースを利用してユーザアプリケーションを作成した場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル " アプリケーション作成ガイド " を参照してください。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataFile() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*4：メソッドで指定した文字列は、setDataCode() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.1.3.2 Windows へのリモート帳票出力型、または Web 手元印刷型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は Unicode（UNICODE（UTF16）および UNICODE（UTF8））のみとなります。

●入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の場合

表 16.21 Windows へのリモート帳票出力型 /Web 手元印刷型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系				
		EUC（U90）(*1)	EUC（S90）(*1)	UNICODE（UTF16 リトルエンディアン）(*2)	UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）(*2)	UNICODE（UTF8）(*2)
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	◎	◎	○	○	◎
COBOL インタフェース		◎	◎	○	○	◎
Java インタフェース (*3)	Forms クラス (*4)	◇	◇	×	×	◎
	FormsFile クラス (*5)	□	□	□	□	◎
	FormsStream クラス (*4)	□	□	□	□	◎
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX (*6)	◇	◇	×	×	◎
Web 手元印刷機能の Web アプリケーション連携機能	OWF ファイル生成ライブラリ	◎	◎	○	○	◎

◎：入力データ、コマンド、アプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンドおよびアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データのみ使用できます。
　アプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
◇：情報ファイルのみ使用できます。
　入力データおよびアプリケーションは、UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：Linux 上で Shift-JIS に変換してから、Windows へ転送されます。
*2：Unicode の入力データを使用する場合の注意事項については、オンラインマニュアル " 帳票設計編 " を参照してください。
*3：Java インタフェースを利用してユーザアプリケーションを作成した場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル " アプリケーション作成ガイド " を参照してください。
*4：setDataCode() メソッドと setFileType() メソッド、または 環境変数 LANG と 環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*5：メソッドで指定した文字列は、setDataFile() メソッドと setFileType() メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*6：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が「XML 形式」の場合

表 16.22 Windows へのリモート帳票出力型 /Web 手元印刷型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系	
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）(*1)
リモート帳票出力コマンド	prputprt コマンド	○	◎
COBOL インタフェース		○	◎
Java インタフェース (*2)	FormsFile クラス (*3)	□	◎
	FormsStream クラス (*4)	□	◎

◎：入力データ、コマンド、アプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
コマンドおよびアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データのみ使用できます。
アプリケーションは UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
×：使用できません。

*1：Linux 上で Shift-JIS に変換してから、Windows へ転送されます。出力できる文字については、オンラインマニュアル “ 帳票設計編 ” を参照してください。
*2：Java インタフェースを利用してユーザアプリケーションを作成した場合に使用できる文字については、オンラインマニュアル “ アプリケーション作成ガイド ” を参照してください。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataFile() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*4：メソッドで指定した文字列は、setDataCode() メソッドと setFileType() メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.1.3.3 Windows へのコネクタ連携型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は Unicode（UNICODE（UTF16）および UNICODE（UTF8））のみとなります。

●入力データ形式が可変長、固定長、または CSV 形式の場合

表 16.23 Windows へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系					
		EUC（U90）(*1)	EUC（S90）(*1)	Shift-JIS	UNICODE（UTF16 リトルエンディアン）(*2)	UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）(*2)	UNICODE（UTF8）(*2)
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	◎	○	○	○	◎
Java インタフェース	Forms クラス	△	△	△	×	×	◎ (*3)
	FormsFile クラス (*4)	□	□	□	○	○	◎
	FormsStream クラス (*3)	□	□	□	○	○	◎
COBOL インタフェース		◎	◎	○	○	○	◎
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX	△	△	△	×	×	◎ (*5)

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンド、ユーザアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
△：情報ファイルのみ使用できます。
　入力データ、およびユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
×：使用できません。

*1：Linux から Windows へ転送後、Shift-JIS に変換されます。
*2：Unicode の入力データを使用する場合の注意事項については、オンラインマニュアル " 帳票設計編 " を参照してください。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または 環境変数 LANG と 環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*4：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*5：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が XML 形式の場合

表 16.24　Windows へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系	
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）(*1)
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	○	◎
Java インタフェース	FormsFile クラス (*2)	□	◎
	FormsStream クラス (*3)	□	◎
COBOL インタフェース		○	◎

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンド、ユーザアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データのみ使用できます。
　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。

*1：Linux 上で Shift-JIS に変換してから、Windows へ転送されます。出力できる文字については、オンラインマニュアル “ 帳票設計編 ” を参照してください。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.1.3.4 Solaris へのコネクタ連携型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意

- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は UNICODE（UTF8）のみとなります。

●入力データ形式が可変長、固定長、または CSV 形式の場合

表 16.25 Solaris へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系		
		EUC（U90）	EUC（S90）	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	◎	◎
Java インタフェース	Forms クラス	○	○	◎ (*1)
	FormsFile クラス (*2)	□	□	◎
	FormsStream クラス (*1)	□	□	◎
COBOL インタフェース		◎	◎	◎
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX	○	○	◎ (*3)

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：情報ファイルのみ使用できます。
入力データ、およびユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。

*1：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が XML 形式の場合

表 16.26 Solaris へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系 (*1)		
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）	日本語 EUC（EUC-JP）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	○	◎	○
Java インタフェース	FormsFile クラス (*2)	□	◎	○
	FormsStream クラス (*3)	□	◎	○
COBOL インタフェース		○	◎	○

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
コマンド、ユーザアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。

情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。

*1：使用できる文字については、オンラインマニュアル " 帳票設計編 " を参照してください。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.1.3.5　Linux へのコネクタ連携型の場合

ここでは、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系（Unicode の文字を使用しない帳票定義情報の場合）について示します。

注意
- Unicode の文字を使用できる帳票定義情報の場合、帳票出力インタフェースで指定できる文字コード系は UNICODE（UTF8）のみとなります。

●入力データ形式が可変長、固定長、または CSV 形式の場合

表 16.27　Linux へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：可変長 / 固定長 /CSV 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系		
		EUC（U90）	EUC（S90）	UNICODE（UTF8）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	◎	◎	◎
Java インタフェース	Forms クラス	○	○	◎ (*1)
	FormsFile クラス (*2)	□	□	◎
	FormsStream クラス (*1)	□	□	◎
COBOL インタフェース		◎	◎	◎
CFX カスタムタグインタフェース	ColdFusion MX	○	○	◎ (*3)

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：情報ファイルのみ使用できます。
入力データ、およびユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。

*1：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または 環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●入力データ形式が XML 形式の場合

表 16.28　Linux へのコネクタ連携型の場合に各帳票出力インタフェースで使用できる文字コード系（入力データ形式：XML 形式）

帳票出力インタフェース		文字コード系 (*1)		
		Shift-JIS	UNICODE（UTF8）	日本語 EUC（EUC-JP）
コネクタ連携コマンド	prputex コマンド	○	◎	○
Java インタフェース	FormsFile クラス (*2)	□	◎	○
	FormsStream クラス (*3)	□	◎	○
COBOL インタフェース		○	◎	◎

◎：入力データ、コマンド、ユーザアプリケーション、および情報ファイルで使用できます。
○：入力データのみ使用できます。
　コマンド、ユーザアプリケーションは、環境変数 LANG で設定した文字コード系が使用できます。
　情報ファイルは、アプリケーションの実行環境の文字コード系（環境変数 LANG の設定）に合わせて作成してください。
□：入力データ、および情報ファイルで使用できます。
　ユーザアプリケーション（メソッド）は UNICODE（UTF8）のみ使用できます。

*1：使用できる文字については、オンラインマニュアル " 帳票設計編 " を参照してください。
*2：メソッドで指定した文字列は、setDataFile メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.2　帳票資源で指定できる文字コード系

List Creator では、帳票資源の文字コード系は、運用形態や資源の配置場所などによってサポート範囲が異なるため注意が必要です。
以下に、運用形態ごとに、帳票資源で指定できる文字コード系について説明します。

⇒ “16.2.1　スタンドアロン型 ”
⇒ “16.2.2　コネクタ連携型 ”
⇒ “16.2.3　リモート帳票出力型 ”
⇒ “16.2.4　Web 手元印刷型 ”

注意

- 以下の場合にサポートする文字コード系は、Shift-JIS のみです。
  - ・ Navigator 連携機能使用時
  - ・ Database Direct 連携機能使用時

16.2.1　スタンドアロン型

ここでは、スタンドアロン型の場合のサポート範囲について説明します。

アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ	参照先
Windows		⇒ “16.2.1.1　【Windows 版】の場合 ”
Solaris		⇒ “16.2.1.2　【Solaris 版】の場合 ”
Linux		⇒ “16.2.1.3　【Linux 版】の場合 ”

16.2.1.1　【Windows 版】の場合

アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバが Windows の場合、帳票資源の文字コード系は、以下の範囲で指定してください。

表 16.29　帳票資源の文字コード系（スタンドアロン型（Windows 上））

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系	情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、FormsStream クラス） .NET インタフェース （FormsFile クラス） カスタムコントロール	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS	ー （変換不要）	Shift-JIS
		UNICODE（UTF8）		
		UNICODE （UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）		
	XML 形式	Shift-JIS UNICODE（UTF8）		
Java インタフェース （Forms クラス） .NET インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS		
		UNICODE（UTF8）		
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	ー		

ー：指定不可

16.2.1.2 【Solaris 版】の場合

アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバが Solaris の場合、帳票資源の文字コード系は、以下の範囲で指定してください。

表 16.30　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（スタンドアロン型（Solaris 上））

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）
		Shift-JIS	ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
		UNICODE （UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）
	XML 形式	日本語 EUC （EUC-JP） Shift-JIS UNICODE （UTF8）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*1)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*2)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）

－：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.2.1.3 【Linux 版】の場合

アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバが Linux の場合、帳票資源の文字コード系は、以下の範囲で指定してください。

表 16.31　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（スタンドアロン型（Linux 上））

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、 FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）
		UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	—	UNICODE（UTF8）
	XML 形式	日本語 EUC （EUC-JP） Shift-JIS UNICODE （UTF8）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	—	UNICODE（UTF8）
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*1)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	—	UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*2)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8	—	UNICODE（UTF8）

ー：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

注意

- 【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。

16.2.2 コネクタ連携型

コネクタ連携型の場合のサポート範囲について説明します。

アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ	参照先
Windows	Windows	⇒ "●帳票出力サーバが Windows の場合（【Windows 版】⇒【Windows 版】）"
	Solaris	⇒ "●帳票出力サーバが Solaris の場合（【Windows 版】⇒【Solaris 版】）"
	Linux	⇒ "●帳票出力サーバが Linux の場合（【Windows 版】⇒【Linux 版】）"
Solaris	Windows	⇒ "●帳票出力サーバが Windows の場合（【Solaris 版】⇒【Windows 版】）"
	Solaris	⇒ "●帳票出力サーバが Solaris の場合（【Solaris 版】⇒【Solaris 版】）"
	Linux	⇒ "●帳票出力サーバが Linux の場合（【Solaris 版】⇒【Linux 版】）"
Linux	Windows	⇒ "●帳票出力サーバが Windows の場合（【Linux 版】⇒【Windows 版】）"
	Solaris	⇒ "●帳票出力サーバが Solaris の場合（【Linux 版】⇒【Solaris 版】）"
	Linux	⇒ "●帳票出力サーバが Linux の場合（【Linux 版】⇒【Linux 版】）"

16.2.2.1 アプリケーションサーバが Windows の場合

アプリケーションサーバが Windows の場合に、指定できる帳票資源の文字コード系について示します。

●帳票出力サーバが Windows の場合（【Windows 版】⇒【Windows 版】）

Windows から Windows へのコネクタ連携時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.32 帳票資源の文字コードの設定（Windows から Windows へのコネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系		情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
			アプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合	アプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合
コマンド (*1) COBOL インタフェース Java インタフェース（FormsFile クラス、FormsStream クラス） .NET インタフェース（FormsFile クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS	－ （変換不要）	－ （変換不要）	Shift-JIS	Shift-JIS
		UNICODE（UTF8）				
		UNICODE（UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）				
	XML 形式	Shift-JIS UNICODE（UTF8）				
Java インタフェース（Forms クラス） .NET インタフェース（Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS(*2)				
		UNICODE（UTF8）(*3)				
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－				

－：指定不可

*1：Navigator 連携機能および Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS のみ使用できます。
*2：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。

*3：.NET インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、DataCode プロパティで指定した文字コード系に変換されます。

●帳票出力サーバが Solaris の場合（【Windows 版】⇒【Solaris 版】）

Windows から Solaris へのコネクタ連携時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.33　帳票資源の文字コードの設定（Windows から Solaris へのコネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系		情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
			アプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Solaris）上に配置する場合	アプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Solaris）上に配置する場合
コマンド　(*1) COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、 FormsStream クラス） .NET インタフェース （FormsFile クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS	― （変換不要）	― （変換不要）	Shift-JIS	Shift-JIS
		UNICODE （UTF8）		UNICODE （UTF8）		UNICODE （UTF8）
		UNICODE （UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）				
	XML 形式	Shift-JIS UNICODE （UTF8）		― （変換不要）		Shift-JIS
Java インタフェース （Forms クラス） .NET インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS (*2)		― （変換不要）		Shift-JIS
		UNICODE （UTF8） (*3)		UNICODE （UTF8）		UNICODE （UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	―		Shift-JIS （変換不要）		Shift-JIS
				UNICODE （UTF8）		UNICODE （UTF8）

－：指定不可

*1：Navigator 連携機能および Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS のみ使用できます。
*2：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。
*3：.NET インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、DataCode プロパティで指定した文字コード系に変換されます。

●帳票出力サーバが Linux の場合（【Windows 版】⇒【Linux 版】）

Windows から Linux へのコネクタ連携時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.34　帳票資源の文字コードの設定（Windows から Linux へのコネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系		情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
			アプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Linux）上に配置する場合	アプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Linux）上に配置する場合
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース（FormsFile クラス、FormsStream クラス） .NET インタフェース（FormsFile クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS	ー （変換不要）	EUC（U90）	Shift-JIS	EUC（U90）
		UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）
	XML 形式	Shift-JIS UNICODE（UTF8）		EUC（U90）		EUC（U90）
Java インタフェース（Forms クラス） .NET インタフェース（Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS(*1)		EUC（U90）		EUC（U90）
		UNICODE（UTF8）(*2)		UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	ー		EUC（U90）		EUC（U90）
				UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）

ー：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。

*2：.NET インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、DataCode プロパティで指定した文字コード系に変換されます。

16.2.2.2　アプリケーションサーバが Solaris の場合

アプリケーションサーバが Solaris の場合に、指定できる帳票資源の文字コード系について示します。

●帳票出力サーバが Windows の場合（【Solaris 版】⇒【Windows 版】）

Solaris から Windows へのコネクタ連携時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.35　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Solaris から Windows へのコネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系		情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					アプリケーションサーバ（Solaris）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合	アプリケーションサーバ（Solaris）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合
コマンド (*1) COBOL インタフェース Java インタフェース（FormsFile クラス、FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	―（変換不要）	EUC（U90）	Shift-JIS
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
		Shift-JIS	ja_JP.PCK	―	―（変換不要）		Shift-JIS	
		UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
		UNICODE（UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.PCK	―	―（変換不要）		Shift-JIS	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
	XML 形式	日本語 EUC（EUC-JP） Shift-JIS UNICODE（UTF8）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.PCK	―	―（変換不要）		Shift-JIS	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
Java インタフェース（Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*2)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.PCK	―	―（変換不要）		Shift-JIS	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*3)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.PCK	―	Shift-JIS（変換不要）		Shift-JIS	
			ja_JP.UTF-8	―	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	

ー：指定不可

*1：Navigator 連携機能および Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS のみ使用できます。

*2：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●帳票出力サーバが Solaris の場合（【Solaris 版】⇒【Solaris 版】）

Solaris から Solaris へのコネクタ連携時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.36　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Solaris から Solaris へのコネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					アプリケーションサーバ（Solaris）上の配置する場合	帳票出力サーバ（Solaris）上に配置する場合
コマンド (*1) COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）	EUC（S90）
		Shift-JIS	ja_JP.PCK	―	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
		UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
	XML 形式	日本語 EUC（EUC-JP） Shift-JIS UNICODE（UTF8）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	―	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
Java インタフェース（Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	― (*2)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	―	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	― (*3)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	―	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8	―	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）

－：指定不可

*1：Navigator 連携機能および Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS のみ使用できます。
*2：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●帳票出力サーバが Linux の場合（【Solaris 版】⇒【Linux 版】）

Solaris から Linux へのコネクタ連携時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.37　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Solaris から Linux へのコネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					アプリケーションサーバ（Solaris）上の配置する場合	帳票出力サーバ（Linux）上に配置する場合
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、 FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）	EUC（S90）
		Shift-JIS	ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	EUC（U90）
		UNICODE （UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）	UNICODE （UTF8）
	XML 形式	日本語 EUC （EUC-JP） Shift-JIS UNICODE （UTF8）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	EUC（U90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）	UNICODE （UTF8）
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*1)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	EUC（U90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）	UNICODE （UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*2)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	EUC（U90）
			ja_JP.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）	UNICODE （UTF8）

－：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.2.2.3　アプリケーションサーバが Linux の場合

アプリケーションサーバが Linux の場合に、指定できる帳票資源の文字コード系について示します。

●帳票出力サーバが Windows の場合（【Linux 版】⇒【Windows 版】）

Linux から Windows へのコネクタ連携時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.38　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Linux から Windows へのコネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系		情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					アプリケーションサーバ（Linux）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合	アプリケーションサーバ（Linux）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース（FormsFile クラス、FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	－（変換不要）	EUC（U90）	Shift-JIS
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
		UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
		UNICODE（UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
	XML 形式	日本語 EUC（EUC-JP） Shift-JIS UNICODE（UTF8）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
Java インタフェース（Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*1)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*2)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	

－：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

注意

- 【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。

●帳票出力サーバが Solaris の場合（【Linux 版】⇒【Solaris 版】）

Linux から Solaris へのコネクタ連携時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.39 帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Linux から Solaris へのコネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					アプリケーションサーバ（Linux）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Solaris）上に配置する場合
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）	EUC（S90）
		UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
	XML 形式	日本語 EUC（EUC-JP） Shift-JIS UNICODE（UTF8）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
Java インタフェース（Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*1)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*2)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）

－：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

注意

- 【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。

●帳票出力サーバが Linux の場合（【Linux 版】⇒【Linux 版】）

Linux から Linux へのコネクタ連携時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.40 帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Linux から Linux へのコネクタ連携型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					アプリケーションサーバ（Linux）上に配置する場合	帳票出力サーバ（(Linux）上に配置する場合
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、 FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）	EUC（S90）
		UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
	XML 形式	日本語 EUC（EUC-JP） Shift-JIS UNICODE（UTF8）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
Java インタフェース（Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*1)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*2)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）

－：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

注意

- 【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。

16.2.3　リモート帳票出力型

リモート帳票出力型の場合のサポート範囲について説明します。

アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ	参照先
Windows	Windows	⇒ "●帳票出力サーバが Windows の場合（【Windows 版】⇒【Windows 版】）"
Solaris	Windows	⇒ "●帳票出力サーバが Windows の場合（【Solaris 版】⇒【Windows 版】）"
	Solaris	⇒ "●帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合（【Solaris 版】⇒【UNIX 系 OS 版】）"
	Linux	
Linux	Windows	⇒ "●帳票出力サーバが Windows の場合（【Linux 版】⇒【Windows 版】）"
	Solaris	⇒ "●帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合（【Linux 版】⇒【UNIX 系 OS 版】）"
	Linux	

16.2.3.1　アプリケーションサーバが Windows の場合

アプリケーションサーバが Windows の場合に、指定できる帳票資源の文字コード系について示します。

●帳票出力サーバが Windows の場合（【Windows 版】⇒【Windows 版】）

Windows から Windows へのリモート帳票出力時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.41　帳票資源の文字コードの設定（Windows から Windows へのリモート帳票出力型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系		情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
			アプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合	アプリケーションサーバ（Windows）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合
コマンド (*1) COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、FormsStream クラス） .NET インタフェース （FormsFile クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS	－ （変換不要）	－ （変換不要）	Shift-JIS	Shift-JIS
		UNICODE（UTF8）				
		UNICODE（UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）				
	XML 形式	Shift-JIS UNICODE（UTF8）				
Java インタフェース （Forms クラス） .NET インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS(*2)				
		UNICODE（UTF8）(*3)				
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－				

－：指定不可

*1：Navigator 連携機能および Database Direct 連携機能を使用する場合は、Shift-JIS のみ使用できます。
*2：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッドで指定した文字コード系に変換されます。
*3：.NET インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、DataCode プロパティで指定した文字コード系に変換されます。

16.2.3.2 アプリケーションサーバが Solaris の場合

アプリケーションサーバが Solaris の場合に、指定できる帳票資源の文字コード系について示します。

●帳票出力サーバが Windows の場合（【Solaris 版】⇒【Windows 版】）

Solaris から Windows へのリモート帳票出力時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.42 帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Solaris から Windows へのリモート帳票出力型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系		情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					アプリケーションサーバ（Solaris）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合	アプリケーションサーバ（Solaris）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC （U90）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC （U90）	－ （変換不要）	EUC （U90）	Shift-JIS
		EUC （S90）		s90	EUC （S90）		EUC （S90）	
		Solaris 標準 EUC(*1)	ja ja_JP.eucJP	指定なし	EUC （U90）		Solaris 標準 EUC	
		Shift-JIS	ja_JP.PCK	－	－ （変換不要）		Shift-JIS	
		UNICODE （UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）		UNICODE （UTF8）	
		UNICODE （UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC （U90）		EUC （U90）	
				s90	EUC （S90）		EUC （S90）	
			ja_JP.PCK	－	－ （変換不要）		Shift-JIS	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）		UNICODE （UTF8）	
	XML 形式	日本語 EUC （EUC-JP） Shift-JIS UNICODE （UTF8）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC （U90）		EUC （U90）	
				s90	EUC （S90）		EUC （S90）	
			ja_JP.PCK	－	－ （変換不要）		Shift-JIS	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）		UNICODE （UTF8）	
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*2)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC （U90）		EUC （U90）	
				s90	EUC （S90）		EUC （S90）	
			ja_JP.PCK	－	－ （変換不要）		Shift-JIS	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）		UNICODE （UTF8）	
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*3)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC （U90）		EUC （U90）	
				s90	EUC （S90）		EUC （S90）	
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （変換不要）		Shift-JIS	
			ja_JP.UTF-8	－	UNICODE （UTF8）		UNICODE （UTF8）	

－：指定不可

*1：Java インタフェースでは指定できません。

*2：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*3：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

●帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合（【Solaris 版】⇒【UNIX 系 OS 版】）

Solaris から UNIX 系 OS へのリモート帳票出力時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.43　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					Solaris 上に配置する場合	Linux 上に配置する場合
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）	EUC（S90）
		Shift-JIS	ja_JP.PCK	u90　(*2)	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	EUC（U90）
				s90　(*2)		EUC（S90）
		UNICODE （UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE （UTF8）	UNICODE （UTF8）
	XML 形式 (*1)	日本語 EUC （EUC-JP） Shift-JIS UNICODE （UTF8）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	―	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE （UTF8）	UNICODE （UTF8）
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	― (*3)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	u90　(*2)	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	EUC（U90）
				s90　(*2)		EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	―	UNICODE （UTF8）	UNICODE （UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	― (*4)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	u90　(*2)	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）	EUC（U90）
				s90　(*2)		EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8	―	UNICODE （UTF8）	UNICODE （UTF8）

－：指定不可

*1：帳票出力サーバが Linux の場合で、入力データが Shift-JIS のときは、環境変数 LANG に「ja_JP.PCK」を指定し、環境変数 OA_EUCTYPE には EUC コード系の種別を指定する必要があります。

*2：帳票出力サーバが Linux の場合のみ有効となります。

*3：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*4：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

16.2.3.3　アプリケーションサーバが Linux の場合

アプリケーションサーバが Linux の場合に、指定できる帳票資源の文字コード系について示します。

●帳票出力サーバが Windows の場合（【Linux 版】⇒【Windows 版】）

Linux から Windows へのリモート帳票出力時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.44　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Linux から Windows へのリモート帳票出力型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系		情報ファイル、および組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					アプリケーションサーバ（Linux）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合	アプリケーションサーバ（Linux）上に配置する場合	帳票出力サーバ（Windows）上に配置する場合
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	─ （変換不要）	EUC（U90）	Shift-JIS
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
		UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	─	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
		UNICODE（UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	─	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
	XML 形式	日本語 EUC（EUC-JP） Shift-JIS UNICODE（UTF8）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	─	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
Java インタフェース（Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	─ (*1)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	─	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	─ (*2)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）		EUC（U90）	
				s90	EUC（S90）		EUC（S90）	
			ja_JP.UTF-8	─	UNICODE（UTF8）		UNICODE（UTF8）	

─：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

注意

- 【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。

●帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合（【Linux 版】⇒【UNIX 系 OS 版】）

Linux から UNIX 系 OS へのリモート帳票出力時の文字コード系は、以下の範囲で設定してください。

表 16.45　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（UNIX 系 OS へのリモート帳票出力型）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系	
					Solaris 上に配置する場合	Linux 上に配置する場合
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、 FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）	EUC（S90）
		UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
	XML 形式 (*1)	日本語 EUC（EUC-JP） Shift-JIS UNICODE（UTF8）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*2)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－ (*3)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）	UNICODE（UTF8）

－：指定不可

*1：帳票出力サーバが Linux の場合で、入力データが Shift-JIS のときは、環境変数 LANG に「ja_JP.PCK」を指定し、環境変数 OA_EUCTYPE には EUC コード系の種別を指定する必要があります。
*2：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

注意

- 【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。

16.2.4　Web 手元印刷型

Web 手元印刷型の場合のサポート範囲について説明します。

アプリケーションサーバ	帳票出力サーバ	参照先
Windows		⇒ “16.2.4.1　【Windows 版】の場合 ”
Solaris		⇒ “16.2.4.2　【Solaris 版】の場合 ” “ ● PDF ファイル保存する場合 ” “ ● OWF ファイル生成する場合 ”
Linux		⇒ “16.2.4.3　【Linux 版】の場合 ” “ ● PDF ファイル保存する場合 ” “ ● OWF ファイル生成する場合 ”

16.2.4.1　【Windows 版】の場合

帳票出力サーバが Windows の場合、帳票資源の文字コード系は、以下の範囲で指定してください。

なお、帳票出力サーバが Windows の場合、PDF ファイル保存時と OWF ファイル生成時のサポート範囲は同じです。

表 16.46　帳票資源の文字コードの設定（Web 手元印刷型（Windows 上））

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、 FormsStream クラス） .NET インタフェース （FormsFile クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
		UNICODE（UTF8）	
		UNICODE （UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）	
	XML 形式	Shift-JIS UNICODE（UTF8）	
Java インタフェース （Forms クラス） .NET インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS	
		UNICODE（UTF8）	
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	－	

－：指定不可

16.2.4.2 【Solaris 版】の場合

帳票出力サーバが Solaris の場合、指定できる帳票資源の文字コード系について、PDF ファイル保存する場合と OWF ファイル生成する場合に分けて示します。

● PDF ファイル保存する場合

Solaris 上で PDF ファイル保存する場合（Web 手元印刷型）は、以下の範囲で帳票資源の文字コード系を指定してください。

表 16.47　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Web 手元印刷型（Solaris 上）: PDF ファイル保存時）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、 FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）
		Shift-JIS	ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
		UNICODE （UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）
	XML 形式	日本語 EUC （EUC-JP） Shift-JIS UNICODE （UTF8）	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*1)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*2)	ja ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.PCK	－	Shift-JIS （帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8	－	UNICODE（UTF8）

ー：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

● OWF ファイル生成する場合

Solaris 上で OWF ファイル生成する場合（Web 手元印刷型）は、以下の範囲で帳票資源の文字コード系を指定してください。

表 16.48 帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Web 手元印刷型（Solaris 上）: OWF ファイル生成時）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系
コマンド Java インタフェース （FormsFile クラス、FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	Shift-JIS	ja_JP.PCK	Shift-JIS（帳票定義情報は変換不要）
		UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	UNICODE（UTF8）
		UNICODE（UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）	ja ja_JP.eucJP	EUC（U90）
				EUC（S90）
			ja_JP.PCK	Shift-JIS（帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	UNICODE（UTF8）
		EUC（U90）	ja ja_JP.eucJP	EUC（U90）
		EUC（S90）		EUC（S90）
		Solaris 標準 EUC (*1)	ja ja_JP.eucJP	EUC（U90）
	XML 形式	日本語 EUC（EUC-JP） Shift-JIS UNICODE（UTF8）	ja ja_JP.eucJP	EUC（U90）
				EUC（S90）
			ja_JP.PCK	Shift-JIS（帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	UNICODE（UTF8）
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*1)	ja ja_JP.eucJP	EUC（U90）
				EUC（S90）
			ja_JP.PCK	Shift-JIS（帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*2)	ja ja_JP.eucJP	EUC（U90）
				EUC（S90）
			ja_JP.PCK	Shift-JIS（帳票定義情報は変換不要）
			ja_JP.UTF-8	UNICODE（UTF8）

ー：指定不可

*1：Java インタフェースでは指定できません。
*2：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*3：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。Java インタフェースでは指定できません。

16.2.4.3 【Linux 版】の場合

帳票出力サーバが Linux の場合、指定できる帳票資源の文字コード系について、PDF ファイル保存する場合と OWF ファイル生成する場合に分けて示します。

● PDF ファイル保存する場合

Linux 上で PDF ファイル保存する場合（Web 手元印刷型）は、以下の範囲で帳票資源の文字コード系を指定してください。

表 16.49　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Web 手元印刷型（Linux 上）: PDF ファイル保存時）

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの文字コード系	環境変数 LANG に設定する値	環境変数 OA_EUCTYPE に設定する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、 FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	EUC（U90）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
		EUC（S90）		s90	EUC（S90）
		UNICODE （UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	ー	UNICODE（UTF8）
	XML 形式	日本語 EUC （EUC-JP） Shift-JIS UNICODE （UTF8）	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	ー	UNICODE（UTF8）
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*1)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	ー	UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース （ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*2)	ja_JP.eucJP	u90	EUC（U90）
				s90	EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8	ー	UNICODE（UTF8）

ー：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。

注意

- 【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。

● OWF ファイル生成する場合

Linux 上で OWF ファイル生成する場合（Web 手元印刷型）は、以下の範囲で帳票資源の文字コード系を指定してください。

表 16.50　帳票資源の文字コード系と環境変数の設定（Web 手元印刷型（Linux 上）: OWF ファイル生成時

帳票出力インタフェース	入力データ形式	入力データの 文字コード系	環境変数 LANG に設定 する値	帳票定義情報を文字コード変換するときの文字コード系、および情報ファイル、組合せフォーム定義ファイルを作成するときの文字コード系
コマンド COBOL インタフェース Java インタフェース （FormsFile クラス、 FormsStream クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	UNICODE（UTF8）	ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	UNICODE（UTF8）
		UNICODE （UTF16 リトルエンディアン / UTF16 ビッグエンディアン）	ja_JP.eucJP	EUC（U90）
				EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	UNICODE（UTF8）
		EUC（U90）	ja_JP.eucJP	EUC（U90）
		EUC（S90）		EUC（S90）
	XML 形式	日本語 EUC（EUC-JP） Shift-JIS UNICODE（UTF8）	ja_JP.eucJP	EUC（U90）
				EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	UNICODE（UTF8）
Java インタフェース （Forms クラス）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*1)	ja_JP.eucJP	EUC（U90）
				EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	UNICODE（UTF8）
CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）	可変長 固定長 CSV 形式	ー (*2)	ja_JP.eucJP	EUC（U90）
				EUC（S90）
			ja_JP.UTF-8	UNICODE（UTF8）

ー：指定不可

*1：Java インタフェースの pushRecord メソッドで指定した文字列は、setDataCode メソッドと setFileType メソッド、または環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。
*2：CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）では、環境変数 LANG と環境変数 OA_EUCTYPE で指定した文字コード系に変換されます。Java インタフェースでは指定できません。

注意

- 【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。

第 17 章
出力できる文字（【UNIX 系OS 版】の場合）

ここでは、アプリケーションサーバまたは帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合に、List Creator で出力できる文字について説明しています。

備考

- PDF ファイル保存、Excel ファイル出力する場合の文字コード範囲については、以下を参照してください。
  ・ オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ”
  ・ オンラインマニュアル “Excel ファイル出力機能編 ”

17.1　印刷時

ここでは、UNIX 系 OS で印刷する場合に、プリンタの出力方法ごとに指定できる文字や利用者定義文字の出力手順について説明します。

17.1.1　FM 出力時

FM 出力する場合に帳票定義情報や入力データに指定できる文字、および利用者定義文字の出力手順について説明します。

17.1.1.1　帳票に指定できる文字

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字（FM 出力時）を示します。

表 17.1　帳票設計時に指定できる文字（プリンタへの FM 出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、入力データの文字コード系により出力される字体が異なります。
・ Shift-JIS　：新字体で出力されます。
・ EUC（U90）　：新字体で出力されます。
・ EUC（S90）　：オーバレイ文字以外は、旧字体で出力されます。オーバレイ文字は、新字体で出力されます。
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="2">- “ 表 17.54　Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。
- 入力データの文字コード系が EUC（S90）の場合、オーバレイ文字以外では、他社文字は出力できません。
⇒ “17.7　他社文字について ”</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>△</td><td>- 入力データが EUC（S90）の場合、オーバレイ文字以外は出力できません。
- 入力データが EUC（U90）の場合、以下の項目は出力できます。その他の項目は出力できません。
・ 固定リテラル項目
・ 矩形固定リテラル項目
・ ラジオボタン項目のラベル
・ チェックボックス項目のラベル
・ オーバレイ文字
・ 矩形オーバレイ文字</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.1.1.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

17.1.1.2 帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系が EUC の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ EUC コード系にしておく必要があります。

入力データの文字コード系が UNICODE（UTF8）の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ UNICODE（UTF8）コード系にしておく必要があります。

なお、入力データが EUC（S90）の場合は、帳票を文字コード変換する Windows 上に Charset Manager をインストールして、文字コード変換する必要があります。

帳票の文字コード変換については、以下を参照してください。

⇒ “7.4 帳票コード変換 ”

17.1.1.3 入力データに指定できる文字

●入力データが Shift-JIS の場合

入力データが Shift-JIS の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.2 入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字（プリンタへの FM 出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲（16 進）</th><th>対応状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
⇒ “17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="2">- “ 表 17.54 Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。
⇒ “17.7 他社文字について ”</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.1.1.4 利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

●入力データが EUC（U90）の場合

入力データが EUC（U90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.3 入力データが EUC（U90）のときに指定できる文字（プリンタへの FM 出力時）

<table>
<tr><th>文字種</th><th>文字コード範囲（16 進）</th><th>対応状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>JIS 非漢字</td><td>A1A1 ～ A8FE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>JIS 第一水準漢字</td><td>B0A1 ～ CFFE</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、旧字体で出力されます。
⇒ “17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td>JIS 第二水準漢字</td><td>D0A1 ～ F4FE</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>OASYS 拡張文字</td><td>F7A1 ～ FDFE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張漢字</td><td>8FA1A1 ～ 8FD0FE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張非漢字</td><td>8FD1A1 ～ 8FDCFE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td>8FDDA1 ～ 8FFDFE</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.1.1.4 利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能

●入力データが EUC（S90）の場合

入力データが EUC（S90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.4 入力データが EUC（S90）のときに指定できる文字（プリンタへの FM 出力時）

文字種		文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字		A1A1 ～ A8FE	◎	―
JIS 第一水準漢字		B0A1 ～ CFFE	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。⇒ “17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について ”
JIS 第二水準漢字		D0A1 ～ F4FE	◎	
他社文字	NEC 特殊文字（①、㈱など）	ADA1 ～ ADFC	△	- “ 表 17.57 EUC（S90）コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。
利用者定義文字		F5A1 ～ FEFE	○	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。⇒ “17.1.1.4 利用者定義文字の出力手順 ”

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

注意
- EUC（S90）の場合、IBM 拡張文字および NEC/IBM 選定文字は使用できません。

●入力データが UNICODE（UTF8）の場合

UNICODE（UTF8）の文字コード系で作成した入力データを FM 出力する場合、Unicode の文字のうち、U90 に存在する文字が使用できます。

なお、利用者定義文字は、Charset Manager をインストールし、利用者定義文字を登録することで出力できます。

利用者定義文字の出力方法については、以下を参照してください。

⇒ “17.1.1.4 利用者定義文字の出力手順 ”

17.1.1.4　利用者定義文字の出力手順

利用者定義文字を出力する手順について説明します。

なお、利用者定義文字の登録や、登録した利用者定義文字を他プラットフォームで使用する場合については、Charset Manager のマニュアルを参照してください。

●帳票に利用者定義文字を指定して出力したい場合

入力データの文字コードごとに、利用者定義文字を以下の手順で登録することにより出力できます。

帳票設計時

帳票を設計するコンピュータ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を作成します。

1）表 17.5 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。

2）帳票設計時に、登録した利用者定義文字を項目に指定します。

帳票出力時

帳票出力サーバ（Solaris）上に利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.5 の (2) の範囲に帳票を設計した Windows 上で登録した利用者定義文字と同じものを登録します。

2）帳票を帳票出力サーバに配置します。

3）帳票を出力します。

表 17.5　帳票に利用者定義文字を指定したい場合（プリンタへの FM 出力時）

入力データの文字コード系	(1) 帳票を設計する Windows 上で利用者定義域を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）	(2) 帳票出力サーバ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進） （EUC（U90）の文字コード域）
Shift-JIS EUC（U90） UNICODE（UTF8）	F040 ～ F9FC	8FE5A1 ～ 8FF8FE
EUC（S90）	F040 ～ F4FC	8FE5A1 ～ 8FEEFE

例えば、入力データが EUC（S90）の場合、「F4FC」に登録した利用者定義文字を帳票の項目に指定して帳票を出力すると、帳票出力サーバの「8FEEFE」に登録された利用者定義文字が出力されます。

●入力データに利用者定義文字を指定して出力したい場合

帳票出力時

帳票出力サーバ（Solaris）上に利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.6 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。

2）アプリケーションは、入力データに表 17.6 の (2) の範囲の文字コードを指定して帳票を出力します。

表 17.6　入力データに利用者定義文字を指定したい場合（プリンタへの FM 出力時）

<table>
<tr><th>入力データの文字コード系</th><th>(1)
帳票出力サーバ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進）
（U90 の文字コード域）</th><th>(2)
入力データに指定する利用者定義域の文字コード範囲（16 進）
（入力データの文字コード域）</th></tr>
<tr><td>Shift-JIS</td><td rowspan="2">8FE5A1 ～ 8FF8FE</td><td>F040 ～ F9FC</td></tr>
<tr><td>EUC（U90）</td><td>8FE5A1 ～ 8FF8FE</td></tr>
<tr><td>EUC（S90）</td><td>8FE5A1 ～ 8FEEFE</td><td>F5A1 ～ FEFE</td></tr>
<tr><td rowspan="2">UNICODE（UTF8）</td><td>8FDDA1 ～ 8FFE4FE</td><td>EEA4AE ～ EEB09D</td></tr>
<tr><td>8EE5A1 ～ 8FFDFE</td><td>EE8080 ～ EEA4AD</td></tr>
</table>

例えば、入力データが Shift-JIS の場合、入力データに「F9FC」と記述して帳票を出力すると、帳票出力サーバの「8FF8FE」に登録した利用者定義文字が出力されます。

17.1.2 FNP 出力

FNP 出力する場合に帳票定義情報や入力データに指定できる文字、および利用者定義文字の出力手順について説明します。

17.1.2.1 帳票に指定できる文字

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字（FNP 出力時）を示します。

表 17.7 帳票設計時に指定できる文字（プリンタへの FNP 出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="2">- 入力データの文字コード系により以下のように異なります。
・ Shift-JIS　：すべての文字が出力できます。
・ EUC（U90）　：オーバレイ文字以外は、“ 表 17.54　Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
・ EUC（S90）　：オーバレイ文字以外は、出力できません。オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
⇒ “17.7　他社文字について ”</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>△</td><td>- 入力データが EUC（S90）の場合、オーバレイ文字以外は出力できません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

17.1.2.2　帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系が EUC の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ EUC コード系にしておく必要があります。

入力データの文字コード系が UNICODE（UTF8）の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ UNICODE（UTF8）コード系にしておく必要があります。

なお、入力データが EUC（S90）の場合は、帳票を文字コード変換する Windows 上に Charset Manager をインストールして、文字コード変換する必要があります。

帳票の文字コード変換については、以下を参照してください。

⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

17.1.2.3　入力データに指定できる文字

●入力データが Shift-JIS の場合

入力データが Shift-JIS の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.8　入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字（プリンタへの FNP 出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能

●入力データが EUC（U90）の場合

入力データが EUC（U90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.9　入力データが EUC（U90）のときに指定できる文字（プリンタへの FNP 出力時）

<table>
<tr><th>文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>JIS 非漢字</td><td>A1A1 ～ A8FE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>JIS 第一水準漢字</td><td>B0A1 ～ CFFE</td><td>△</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、一部のみ旧字体で出力され、その他は（＿）に置き換わります。
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td>JIS 第二水準漢字</td><td>D0A1 ～ F4FE</td><td>△</td></tr>
<tr><td>OASYS 拡張文字</td><td>F7A1 ～ FDFE</td><td>△</td><td rowspan="3">- Unicode に存在する文字は出力されます。Unicode に存在しない文字は、（＿）に置き換わります（FNP 出力時に Unicode に変換されるためです）。</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張漢字</td><td>8FA1A1 ～ 8FD0FE</td><td>△</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張非漢字</td><td>8FD1A1 ～ 8FDCFE</td><td>△</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td>8FDDA1 ～ 8FFDFE</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能

○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

●入力データが EUC（S90）の場合

入力データが EUC（S90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.10　入力データが EUC（S90）のときに指定できる文字（プリンタへの FNP 出力時）

文字種		文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字		A1A1 ～ A8FE	◎	－
JIS 第一水準漢字		B0A1 ～ CFFE	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 ⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”
JIS 第二水準漢字		D0A1 ～ F4FE	◎	
他社文字	NEC 特殊文字（①、㈱など）	ADA1 ～ ADFC	△	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、一部のみ旧字体で出力され、その他は（＿）に置き換わります。 ⇒ “ 表 17.57　EUC（S90）コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。
利用者定義文字		F5A1 ～ FEFE	○	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

注意

- EUC（S90）の場合、IBM 拡張文字および NEC/IBM 選定文字は使用できません。

●入力データが UNICODE（UTF8）の場合

UNICODE（UTF8）の文字コード系で作成した入力データを FNP 出力する場合、文字コード規格「JIS X 0213:2004（JIS2004）」で追加された文字（サロゲートペア）は、出力できません。

その他の文字は、出力できます。

なお、利用者定義文字は、Charset Manager をインストールし、利用者定義文字を登録することで出力できます。

利用者定義文字の出力方法については、以下を参照してください。

⇒ “17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”

17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順

利用者定義文字を出力する手順について説明します。

なお、利用者定義文字の登録や、登録した利用者定義文字を他プラットフォームで使用する場合については、ご使用になるプリンタ管理ソフトウェア、または Charset Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

●帳票に利用者定義文字を指定して出力したい場合

入力データの文字コードごとに、利用者定義文字を以下の手順で登録することにより出力できます。

帳票設計時

帳票を設計するコンピュータ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を作成します。

1）表 17.11 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。

2）帳票設計時に、登録した利用者定義文字を項目に指定します。

帳票出力時

プリンタに利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.11 の (2) の範囲に帳票を設計した Windows 上で登録した利用者定義文字と同じものを登録します。
2）帳票を帳票出力サーバに配置します。
3）帳票を出力します。

表 17.11 帳票に利用者定義文字を指定したい場合（プリンタへの FNP 出力時）

入力データの文字コード系	(1) 帳票を設計する Windows 上で利用者定義域を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）	(2) プリンタに利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（UNICODE（UTF8）の文字コード域）
Shift-JIS EUC（U90） UNICODE（UTF8）	F040 ～ F9FC	EE8080 ～ EE9D97
EUC（S90）	F040 ～ F4FC	EE8080 ～ EE8EAB

例えば、入力データが EUC（S90）の場合、「F4FC」に登録した利用者定義文字を帳票の項目に指定して帳票を出力すると、プリンタの「EE8EAB」に登録された利用者定義文字が出力されます。

●入力データに利用者定義文字を指定して出力したい場合

帳票出力時

プリンタに利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.12 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。
2）アプリケーションは、入力データに表 17.12 の (2) の範囲の文字コードを指定して帳票を出力します。

表 17.12 入力データに利用者定義文字を指定したい場合（プリンタへの FNP 出力時）

入力データの文字コード系	(1) プリンタに利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（UNICODE（UTF8）の文字コード域）	(2) 入力データに指定する利用者定義域の文字コード範囲（16 進） （入力データの文字コード域）
Shift-JIS	EE8080 ～ EE9D97	F040 ～ F9FC
EUC（U90）	EE8080 ～ EE9D97	8FE5A1 ～ 8FF8FE
EUC（S90）	EE8080 ～ EE8EAB	F5A1 ～ FEFE
UNICODE（UTF8）	EE8080 ～ EEB09D	EE8080 ～ EEB09D

例えば、入力データが Shift-JIS の場合、入力データに「F9FC」と記述して帳票を出力すると、プリンタの「EE9D97」に登録した利用者定義文字が出力されます。

17.1.3　PostScript 出力時

PostScript 出力する場合に帳票定義情報や入力データに指定できる文字について説明します。
なお、PostScript 出力時は、他社文字、および利用者定義文字は出力できません。

17.1.3.1　帳票に指定できる文字

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。また、NEC 特殊文字（①や㈱など）、NEC/IBM 選定特殊文字、IBM 拡張文字、利用者定義文字は出力できません。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字（PostScript 出力時）を示します。

表 17.13　帳票設計時に指定できる文字（プリンタへの PostScript 出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、入力データの文字コード系により以下のように異なります。
・ Shift-JIS　：新字体で出力されます。
・ EUC（U90）　：出力できません。
・ EUC（S90）　：新字体で出力されます。
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>×</td><td rowspan="4">- 出力できません。</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>×</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>×</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>×</td></tr>
</table>

◎：出力可能
×：出力不可能

17.1.3.2　帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系が EUC の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票のコード変換を行い、あらかじめ EUC コード系にしておく必要があります。

入力データの文字コード系が UNICODE（UTF8）の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票のコード変換を行い、あらかじめ UNICODE（UTF8）コード系にしておく必要があります。

なお、入力データが EUC（S90）の場合は、帳票をコード変換する Windows 上に Charset Manager をインストールして、コード変換する必要があります。

帳票のコード変換については、以下を参照してください。

⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

17.1.3.3　入力データに指定できる文字

●入力データが Shift-JIS の場合

入力データが Shift-JIS の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.14　入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字（プリンタへの PostScript 出力時）

文字種		文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字		8140 ～ 84FC	◎	－
JIS 第一水準漢字		889F ～ 989E	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 ⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”
JIS 第二水準漢字		989F ～ EAFC	◎	
他社文字	NEC 特殊文字（①、㈱など）	8740 ～ 879E	×	- 出力できません。
	IBM 拡張文字	FA40 ～ FCFC	×	
	NEC/IBM 選定文字	ED40 ～ EEFC	×	
利用者定義文字		F040 ～ F9FC	×	

◎：出力可能
×：出力不可能

●入力データが EUC（U90）の場合

入力データが EUC（U90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.15　入力データが EUC（U90）のときに指定できる文字（プリンタへの PostScript 出力時）

文字種	文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字	A1A1 ～ A8FE	◎	－
JIS 第一水準漢字	B0A1 ～ CFFE	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 ⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”
JIS 第二水準漢字	D0A1 ～ F4FE	◎	
OASYS 拡張文字	F7A1 ～ FDFE	×	- 出力できません。
JEF 拡張漢字	8FA1A1 ～ 8FD0FE	×	
JEF 拡張非漢字	8FD1A1 ～ 8FDCFE	×	
利用者定義文字	8FDDA1 ～ 8FFDFE	×	

◎：出力可能
×：出力不可能

●入力データが EUC（S90）の場合

入力データが EUC（S90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.16　入力データが EUC（S90）のときに指定できる文字（プリンタへの PostScript 出力時）（1 / 2）

文字種	文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字	A1A1 ～ A8FE	◎	－

表 17.16　入力データが EUC（S90）のときに指定できる文字（プリンタへの PostScript 出力時）（２ / ２）

文字種		文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 第一水準漢字		B0A1 ～ CFFE	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 ⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”
JIS 第二水準漢字		D0A1 ～ F4FE	◎	
他社文字	NEC 特殊文字（①、㈱など）	ADA1 ～ ADFC	×	- 出力できません。
利用者定義文字		F5A1 ～ FEFE	×	- 出力できません。

◎：出力可能
×：出力不可能

注意
- EUC（S90）の場合、NEC 特殊文字、IBM 拡張文字、および NEC/IBM 選定文字は使用できません。

●入力データが UNICODE（UTF8）の場合

UNICODE（UTF8）の文字コードで作成した入力データを PostScript 出力する場合、S90 に存在する文字が出力できます。

なお、利用者定義文字は出力できません。

17.2　電子保存時

ここでは、電子保存する場合に指定できる文字や利用者定義文字の出力手順について説明します。

注意

- 【Solaris 版】では、電子保存時の入力データの文字コード系が UNICODE（UTF8）の場合、出力できません。
- 電子帳票の管理情報（保管フォルダ名、帳票名、作成者名など）には利用者定義文字を使用しないでください。
また、利用者定義文字以外にも使用できない文字があります。
詳細は、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。

17.2.1　帳票に指定できる文字

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字（電子保存時）を示します。

表 17.17　帳票設計時に指定できる文字（電子保存時）

文字種		文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字		8140 ～ 84FC	◎	－
JIS 第一水準漢字		889F ～ 989E	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 ⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”
JIS 第二水準漢字		989F ～ EAFC	◎	
他社文字	NEC 特殊文字（①、㈱など）	8740 ～ 879E	△	- オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。 - 入力データの文字コード系が EUC（S90）の場合、オーバレイ文字以外では、他社文字は出力できません。 - オーバレイ文字以外では、“ 表 17.54　Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。 ⇒ “17.7　他社文字について ”
	IBM 拡張文字	FA40 ～ FCFC	△	
	NEC/IBM 選定文字	ED40 ～ EEFC	△	- 入力データが EUC（S90）の場合、オーバレイ文字以外は出力できません。
利用者定義文字		F040 ～ F9FC	○	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ “17.2.4　利用者定義文字の出力手順 ”

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

17.2.2　帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系が EUC の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ EUC コード系にしておく必要があります。

なお、入力データが EUC（S90）の場合は、帳票を文字コード変換する Windows 上に Charset Manager をインストールして、文字コード変換する必要があります。

帳票の文字コード変換については、以下を参照してください。

⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

17.2.3 入力データに指定できる文字

●入力データが Shift-JIS の場合

入力データが Shift-JIS の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.18 入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字（電子保存時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
⇒ “17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="2">- “ 表 17.54 Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。
⇒ “17.7 他社文字について ”</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.2.4 利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

●入力データが EUC（U90）の場合

入力データが EUC（U90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.19 入力データが EUC（U90）のときに指定できる文字（電子保存時）

<table>
<tr><th>文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>JIS 非漢字</td><td>A1A1 ～ A8FE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>JIS 第一水準漢字</td><td>B0A1 ～ CFFE</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、旧字体で出力されます。また、出力される文字はイメージ化されているため、List Works では文字として扱われません（抜き出し検索、クリップボードへの複写、データファイルの出力ができません）。
⇒ “17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td>JIS 第二水準漢字</td><td>D0A1 ～ F4FE</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>OASYS 拡張文字</td><td>F7A1 ～ FDFE</td><td>◎</td><td rowspan="3">- 出力される文字はイメージ化されているため、List Works では文字として扱われません（抜き出し検索、クリップボードへの複写、データファイルの出力ができません）。</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張漢字</td><td>8FA1A1 ～ 8FD0FE</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張非漢字</td><td>8FD1A1 ～ 8FDCFE</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td>8FDDA1 ～ 8FFDFE</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.2.4 利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能

●入力データが EUC（S90）の場合

入力データが EUC（S90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.20　入力データが EUC（S90）のときに指定できる文字（電子保存時）

文字種		文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字		A1A1 ～ A8FE	◎	－
JIS 第一水準漢字		B0A1 ～ CFFE	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 ⇒ "17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について "
JIS 第二水準漢字		D0A1 ～ F4FE	◎	
他社文字	NEC 特殊文字（①、㈱など）	ADA1 ～ ADFC	△	" 表 17.57　EUC（S90）コード系で出力できない NEC 特殊文字 " の 14 文字は出力できません。
利用者定義文字		F5A1 ～ FEFE	○	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ "17.1.2.4　利用者定義文字の出力手順 "

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

注意

- EUC（S90）の場合、IBM 拡張文字および NEC/IBM 選定文字は使用できません。

●入力データが UNICODE（UTF8）の場合

入力データの文字コード系が UNICODE (UTF8) の場合、List Works 側で Shift-JIS に変換されます。
List Works では、Shift-JIS の第一水準、第二水準は文字コードとして扱われます。
その他の文字の扱いについては、List Works のオンラインマニュアルを参照してください。
文字によっては、List Works がサーバの辞書より文字パターンを取り出し、イメージ（ビットマップ）化する場合があります。イメージ化された文字は、検索や他のアプリケーションとの連携機能では使用できません。
なお、利用者定義文字は、Charset Manager をインストールし、利用者定義文字を登録することで出力できます。
利用者定義文字の出力方法については、以下を参照してください。

⇒ "17.2.4　利用者定義文字の出力手順 "

注意

- 【Solaris 版】では、入力データに UNICODE（UTF8）を使用することはできません。

17.2.4　利用者定義文字の出力手順

利用者定義文字を出力する手順について説明します。
なお、利用者定義文字の登録や、登録した利用者定義文字を他プラットフォームで使用する場合については、Charset Manager のマニュアルを参照してください。

●帳票に利用者定義文字を指定して出力したい場合

入力データの文字コードごとに、利用者定義文字を以下の手順で登録することにより出力できます。

帳票設計時

帳票を設計するコンピュータ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を作成します。

1）表 17.21 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。
2）帳票設計時に、登録した利用者定義文字を項目に指定します。

帳票出力時

帳票出力サーバ（UNIX 系 OS）上で帳票を出力します。

1）帳票を帳票出力サーバに配置します。

2）帳票を出力します。

List Works での帳票表示時

List Works で帳票を表示するコンピュータ（List Works クライアント）上で利用者定義文字を登録し、帳票を表示します。

1）表 17.21 の (2) の範囲に帳票を設計した Windows 上で登録した利用者定義文字と同じものを登録します。

2）List Works で帳票を表示します。

表 17.21　帳票に利用者定義文字を指定したい場合（電子保存時）

入力データの 文字コード系	(1) 帳票を設計する Windows 上で利用者定義域を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）	(2) List Works で帳票を表示するコンピュータ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）
Shift-JIS EUC（U90） UNICODE（UTF8）	F040 ～ F9FC	F040 ～ F9FC
EUC（S90）	F040 ～ F4FC	F040 ～ F4FC

例えば、入力データが EUC（S90）の場合、「F4FC」に登録した利用者定義文字を帳票の項目に指定して帳票を出力すると、List Works で帳票を表示するコンピュータの「F4FC」に登録された利用者定義文字が List Works で表示されます。

●入力データに利用者定義文字を指定して出力したい場合

入力データの文字コードごとに、利用者定義文字を以下の手順で登録することにより出力できます。

帳票出力時

帳票出力サーバ（UNIX 系 OS）上で帳票を出力します。

1）アプリケーションは、入力データに表 17.22 の (2) の範囲の文字コードを指定して帳票を出力します。

List Works での帳票表示時

List Works で帳票を表示するコンピュータ（List Works クライアント）上で利用者定義文字を登録し、帳票を表示します。

1）表 17.22 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。

2）List Works で帳票を表示します。

表 17.22　入力データに利用者定義文字を指定したい場合（電子保存時）

<table>
<tr><th>入力データの
文字コード系</th><th>(1)
List Works で帳票を表示するコンピュータ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進）
（Shift-JIS の文字コード域）</th><th>(2)
入力データに指定する利用者定義域の文字コード範囲（16 進）
（入力データの文字コード域）</th></tr>
<tr><td>Shift-JIS</td><td rowspan="2">F040 ～ F9FC</td><td>F040 ～ F9FC</td></tr>
<tr><td>EUC（U90）</td><td>8FE5A1 ～ 8FF8FE</td></tr>
<tr><td>EUC（S90）</td><td>F040 ～ F4FC</td><td>F5A1 ～ FEFE</td></tr>
<tr><td>UNICODE（UTF8）</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>EE8080 ～ EE9D97</td></tr>
</table>

例えば、入力データが Shift-JIS の場合、入力データに「F9FC」と記述して帳票を出力すると、List Works で帳票を表示するコンピュータの「F9FC」に登録した利用者定義文字が List Works で表示されます。

17.3 コネクタ連携時（【UNIX 系 OS 版】⇒【Windows 版】）

ここでは、【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのコネクタ連携時に指定できる文字や利用者定義文字の出力手順について説明します。

17.3.1 帳票に指定できる文字

● Shift-JIS、EUC（U90）、または EUC（S90）環境で出力する場合

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字（コネクタ連携時）を示します。

表 17.23 Shift-JIS、EUC（U90）、EUC（S90）環境の場合に帳票に指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのコネクタ連携時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
詳細については、帳票出力サーバ側の List Creator に添付のオンラインマニュアルを参照してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="3">- 帳票が Shift-JIS の場合、すべての文字が出力できます。
- 帳票が EUC（U90）または EUC（S90）の場合、項目により一部出力できない文字があります。(*1)
詳細については、帳票出力サーバ側の List Creator に添付のオンラインマニュアルを参照してください。</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.3.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

*1：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
ただし、**帳票が** EUC（U90）の場合、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定すると出力できない文字があります。出力できない文字については、帳票出力サーバ側の List Creator に添付のオンラインマニュアルを参照してください。
帳票が EUC（S90）の場合、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、CASE 演算子に文字を指定した場合は、出力できません。

17.3.2 帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系が EUC の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ EUC コード系にしておく必要があります。

入力データの文字コード系が UNICODE（UTF8）の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ UNICODE（UTF8）コード系にしておく必要があります。

なお、入力データが EUC（S90）の場合は、帳票を文字コード変換する Windows 上に Charset Manager をインストールして、文字コード変換する必要があります。

帳票の文字コード変換については、帳票出力サーバ側の List Creator に添付のオンラインマニュアルを参照してください。

17.3.3 入力データに指定できる文字

入力データが「XML 形式」の場合は、帳票出力サーバ側の List Creator に添付のオンラインマニュアルもあわせて参照してください。

●入力データが Shift-JIS の場合

入力データが Shift-JIS の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.24 入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのコネクタ連携時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
詳細については、帳票出力サーバ側の List Creator に添付のオンラインマニュアルを参照してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>◎</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.3.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能

●入力データが EUC（U90）の場合

入力データが EUC（U90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.25 入力データが EUC（U90）のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのコネクタ連携時）

文字種	文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字	A1A1 ～ A8FE	◎	―
JIS 第一水準漢字	B0A1 ～ CFFE	△	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、「アンダーバー（__）」で出力されます。Charset Manager の「制御文入力ファイル」を登録することにより新字体で出力することができます。 詳細については、帳票出力サーバ側の List Creator に添付のオンラインマニュアルを参照してください。
JIS 第二水準漢字	D0A1 ～ F4FE	△	
OASYS 拡張文字	F7A1 ～ FDFE	△	- OASYS 拡張文字のうち、他社文字の NEC 特殊文字に存在する文字は、出力できます。その他の文字は、「アンダーバー（__）」で出力されます。 詳細については、帳票出力サーバ側の List Creator に添付のオンラインマニュアルを参照してください。
JEF 拡張漢字	8FA1A1 ～ 8FD0FE	△	- 83 年度 JIS で字体変更された新字体のみ出力できます。それ以外の文字は、「アンダーバー（__）」で出力されます。
JEF 拡張非漢字	8FD1A1 ～ 8FDCFE	×	―
利用者定義文字	8FDDA1 ～ 8FFDFE	○	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ “17.3.4 利用者定義文字の出力手順 ”

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能
×：出力不可能

●入力データが EUC（S90）の場合

入力データが EUC（S90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.26 入力データが EUC（S90）のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのコネクタ連携時）

文字種	文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字	A1A1 ～ A8FE	◎	―
JIS 第一水準漢字	B0A1 ～ CFFE	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 詳細については、帳票出力サーバ側の List Creator に添付のオンラインマニュアルを参照してください。
JIS 第二水準漢字	D0A1 ～ F4FE	◎	
利用者定義文字	F5A1 ～ FEFE	○	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ “17.3.4 利用者定義文字の出力手順 ”

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能

注意

- EUC（S90）の場合、NEC 特殊文字、IBM 拡張文字などの他社文字は使用できません。

●入力データが UNICODE（UTF8）の場合

UNICODE（UTF8）の文字コード系で作成した入力データを UNIX 系 OS から Windows へコネクタ連携する場合、すべての文字が出力できます。

なお、利用者定義文字は、Windows に利用者定義文字を登録することで出力できます。

利用者定義文字の出力方法については、以下を参照してください。

⇒ “17.3.4　利用者定義文字の出力手順 ”

17.3.4　利用者定義文字の出力手順

利用者定義文字を出力する手順について説明します。

なお、利用者定義文字の登録や、登録した利用者定義文字を他プラットフォームで使用する場合については、Charset Manager のマニュアルを参照してください。

●帳票に利用者定義文字を指定して出力したい場合

帳票の文字コードごとに、利用者定義文字を以下の手順で登録することにより出力できます。

帳票設計時

帳票を設計するコンピュータ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を作成します。

1）表 17.27 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。

2）帳票設計時に、登録した利用者定義文字を項目に指定します。

帳票出力時

帳票出力サーバ（Windows）上に利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.27 の (2) の範囲に帳票を設計した Windows 上で登録した利用者定義文字と同じものを登録します。

2）帳票を帳票出力サーバに配置します。

3）帳票を出力します。

表 17.27　帳票に利用者定義文字を指定したい場合（UNIX 系 OS から Windows へのコネクタ連携時）

帳票の 文字コード系	(1) 帳票を設計する Windows 上で利用者定義域を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）	(2) 帳票出力サーバ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）
Shift-JIS EUC（U90） UNICODE（UTF8）	F040 ～ F9FC	
EUC（S90）	F040 ～ F4FC	

例えば、帳票が EUC（S90）の場合、「F4FC」に登録した利用者定義文字を帳票の項目に指定して帳票を出力すると、帳票出力サーバの「F4FC」に登録された利用者定義文字が出力されます。

●入力データに利用者定義文字を指定して出力したい場合

帳票出力時

帳票出力サーバ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.28 の (1) の範囲で利用者定義文字を登録します。

2）アプリケーションは、入力データに表 17.28 の (2) の範囲の文字コードを指定して帳票を出力します。

表 17.28 入力データに利用者定義文字を指定したい場合
（UNIX 系 OS から Windows へのコネクタ連携時）

入力データの文字コード系	(1) 帳票出力サーバ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）	(2) 入力データに指定する利用者定義域の文字コード範囲（16 進） （入力データの文字コード域）
Shift-JIS	F040 ～ F9FC	F040 ～ F9FC
EUC（U90）	F040 ～ F9FC	8FE5A1 ～ 8FF8FE
EUC（S90）	F040 ～ F4FC	F5A1 ～ FEFE
UNICODE（UTF8）	F040 ～ F9FC	EE8080 ～ EFA3BF

例えば、入力データが EUC（S90）の場合、入力データに「F5A1」を記述して帳票を出力すると、帳票出力サーバの「F040」に登録した利用者定義文字が出力されます。

17.4　リモート帳票出力時（【UNIX 系 OS 版】⇒【Windows 版】）

【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのリモート帳票出力時に指定できる文字や利用者定義文字の出力手順について説明します。

17.4.1　帳票に指定できる文字

● Shift-JIS、EUC（U90）、または EUC（S90）環境の場合

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字（リモート帳票出力時）を示します。

表 17.29　Shift-JIS、EUC（U90）、EUC（S90）環境の場合に帳票に指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのリモート帳票出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲（16 進）</th><th>対応状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="3">- 帳票が Shift-JIS の場合、すべての文字が出力できます。
- 帳票が EUC（U90）または EUC（S90）の場合、項目により一部出力できない文字があります。(*1)
⇒ “17.7　他社文字について ”</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.4.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

*1：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
ただし、帳票が EUC（U90）の場合、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定すると出力できない文字があります。出力できない文字については、“ 表 17.54　Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。
帳票が EUC（S90）の場合、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、CASE 演算子に文字を指定した場合は、出力できません。

● Solaris 標準 EUC 環境の場合

帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。なお、Solaris 標準 EUC の場合、帳票定義情報は EUC（U90）に文字コード変換して使用してください。

表 17.30 ユーザアプリケーションの実行環境が Solaris 標準 EUC の場合に帳票に指定できる文字（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのリモート帳票出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲（16 進）</th><th>対応状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>―</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>○</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されますが、項目により一部 Charset Manager の文字コード変換表カスタマイズ機能を使用して「制御文入力ファイル」を登録しないと出力できない文字があります。(*1)
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="3">- 一部出力できない文字があります。(*2)
⇒ “17.7　他社文字について ”</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>△</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できますが、Solaris 標準 EUC の場合、制限があります。(*2)
⇒ “17.4.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

*1：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、新字体で出力されます。
ただし、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は、出力できません。出力したい場合は、帳票を設計する Windows 上に Charset Manager の文字コード変換表カスタマイズ機能を使用して「制御文入力ファイル」を登録する必要があります。
⇒ “17.9　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義に ついて（【UNIX 系 OS 版】の場合）”

*2：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
ただし、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は、出力できません。出力したい場合は、EUC（U90）を使用してください。

17.4.2　帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系が EUC の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ EUC コード系にしておく必要があります。

入力データの文字コード系が UNICODE（UTF8）の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ UNICODE（UTF8）コード系にしておく必要があります。

なお、入力データが EUC（S90）の場合は、帳票を文字コード変換する Windows 上に Charset Manager をインストールして、文字コード変換する必要があります。

帳票の文字コード変換については、以下を参照してください。
⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

17.4.3　入力データに指定できる文字

入力データが「XML 形式」の場合は、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

●入力データが Shift-JIS の場合

入力データが Shift-JIS の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.31　入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのリモート帳票出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
⇒“17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>◎</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒“17.4.4　利用者定義文字の出力手順”</td></tr>
</table>

◎：出力可能

●入力データが EUC（U90）の場合

入力データが EUC（U90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.32　入力データが EUC（U90）のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのリモート帳票出力時）

<table>
<tr><th>文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>JIS 非漢字</td><td>A1A1 ～ A8FE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>JIS 第一水準漢字</td><td>B0A1 ～ CFFE</td><td>△</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、「アンダーバー（__）」で出力されます。Charset Manager の「制御文入力ファイル」を登録することにより新字体で出力することができます。
⇒“17.9　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義に ついて（【UNIX 系 OS</td></tr>
<tr><td>JIS 第二水準漢字</td><td>D0A1 ～ F4FE</td><td>△</td></tr>
<tr><td>OASYS 拡張文字</td><td>F7A1 ～ FDFE</td><td>△</td><td>- OASYS 拡張文字のうち、他社文字の NEC 特殊文字に存在する文字は、出力できます。その他の文字は、「アンダーバー（__）」で出力されます。
⇒“17.7　他社文字について”</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張漢字</td><td>8FA1A1 ～ 8FD0FE</td><td>△</td><td>- 83 年度 JIS で字体変更された新字体のみ出力できます。それ以外の文字は、「アンダーバー（__）」で出力されます。</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張非漢字</td><td>8FD1A1 ～ 8FDCFE</td><td>×</td><td>－</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td>8FDDA1 ～ 8FFDFE</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒“17.4.4　利用者定義文字の出力手順”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能
×：出力不可能

●入力データが EUC（S90）の場合

入力データが EUC（S90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.33 入力データが EUC（S90）のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのリモート帳票出力時）

文字種	文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字	A1A1 ～ A8FE	◎	ー
JIS 第一水準漢字	B0A1 ～ CFFE	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 ⇒ "17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について "
JIS 第二水準漢字	D0A1 ～ F4FE	◎	
利用者定義文字	F5A1 ～ FEFE	○	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ "17.4.4 利用者定義文字の出力手順 "

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能

注意
- EUC（S90）の場合、NEC 特殊文字、IBM 拡張文字などの他社文字は使用できません。

●入力データが Solaris 標準 EUC の場合

入力データが Solaris 標準 EUC の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.34 入力データが Solaris 標準 EUC のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのリモート帳票出力時）

文字種		文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字		A1A1 ～ F4FE	◎	ー
JIS 第一水準漢字			◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 ⇒ "17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について "
JIS 第二水準漢字			◎	
他社文字	NEC 特殊文字（①、㈱など）	ADA1 ～ ADFE	◎	ー
	IBM 拡張文字	8FF3A1 ～ 8FF4FE	◎	ー
利用者定義文字		F5A1 ～ FEFE 8FF5A1 ～ 8FFEFE	◎	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ "17.4.4 利用者定義文字の出力手順 "

◎：出力可能

●入力データが UNICODE（UTF8）の場合

UNICODE（UTF8）の文字コード系で作成した入力データを Windows へリモート帳票出力またはコネクタ連携する場合、すべての文字が出力できます。

なお、利用者定義文字は、Windows に利用者定義文字を登録することで出力できます。

利用者定義文字の出力方法については、以下を参照してください。

⇒ "17.4.4 利用者定義文字の出力手順 "

17.4.4　利用者定義文字の出力手順

利用者定義文字を出力する手順について説明します。

なお、利用者定義文字の登録や、登録した利用者定義文字を他プラットフォームで使用する場合については、Charset Manager のマニュアルを参照してください。

●帳票に利用者定義文字を指定して出力したい場合

帳票の文字コードごとに、利用者定義文字を以下の手順で登録することにより出力できます。

帳票設計時

帳票を設計するコンピュータ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を作成します。

1）表 17.35 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。

2）帳票設計時に、登録した利用者定義文字を項目に指定します。

帳票出力時

帳票出力サーバ（Windows）上に利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.35 の (2) の範囲に帳票を設計した Windows 上で登録した利用者定義文字と同じものを登録します。

2）帳票を帳票出力サーバに配置します。

3）帳票を出力します。

表 17.35　帳票に利用者定義文字を指定したい場合
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのリモート帳票出力時）

帳票の 文字コード系	(1) 帳票を設計する Windows 上で利用者定義域を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）	(2) 帳票出力サーバ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）
Shift-JIS EUC（U90） UNICODE（UTF8）	F040 ～ F9FC	
EUC（S90）	F040 ～ F4FC	

例えば、帳票が EUC（S90）の場合、「F4FC」に登録した利用者定義文字を帳票の項目に指定して帳票を出力すると、帳票出力サーバの「F4FC」に登録された利用者定義文字が出力されます。

●入力データに利用者定義文字を指定して出力したい場合

帳票出力時

帳票出力サーバ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.36 の (1) の範囲で利用者定義文字を登録します。

2）アプリケーションは、入力データに表 17.36 の (2) の範囲の文字コードを指定して帳票を出力します。

表 17.36　入力データに利用者定義文字を指定したい場合
（【UNIX 系 OS 版】から【Windows 版】へのリモート帳票出力時）

入力データの文字コード系	(1) 帳票出力サーバ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）	(2) 入力データに指定する利用者定義域の文字コード範囲（16 進） （入力データの文字コード域）
Shift-JIS	F040 ～ F9FC	F040 ～ F9FC
EUC（U90）	F040 ～ F9FC	8FE5A1 ～ 8FF8FE
EUC（S90）	F040 ～ F4FC	F5A1 ～ FEFE
Solaris 標準 EUC	F040 ～ F4FC	F5A1 ～ FEFE
	F540 ～ F9FC	8FF5A1 ～ 8FFEFE
UNICODE（UTF8）	F040 ～ F9FC	EE8080 ～ EFA3BF

例えば、入力データが EUC（S90）の場合、入力データに「F5A1」を記述して帳票を出力すると、帳票出力サーバの「F040」に登録した利用者定義文字が出力されます。

17.5　リモート帳票出力時 （【UNIX 系 OS 版】⇒【UNIX 系 OS 版】）

【UNIX 系 OS 版】から【UNIX 系 OS 版】へのリモート帳票出力時に指定できる文字や利用者定義文字の出力手順について説明します。

17.5.1　帳票に指定できる文字

● Shift-JIS、EUC（U90）、または EUC（S90）環境の場合

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字（リモート帳票出力時）を示します。

表 17.37　Shift-JIS、EUC（U90）、EUC（S90）環境の場合に帳票に指定できる文字（【UNIX 系 OS 版】から【UNIX 系 OS 版】へのリモート帳票出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲（16 進）</th><th>対応状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>―</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="3">- 帳票が帳票出力サーバと同じ文字コードの場合、すべての文字が出力できます。
- 帳票が Shift-JIS の場合、項目により一部出力できない文字があります。(*1)</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>◎</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.5.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

*1：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
ただし、帳票が EUC（U90）の場合、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は、“ 表 17.54　Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。
帳票が EUC（S90）の場合、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は、出力できません。

● Solaris 標準 EUC 環境の場合

帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。なお、Solaris 標準 EUC 環境の場合、帳票定義情報は EUC（U90）に文字コード変換して使用してください。

表 17.38　Solaris 標準 EUC 環境の場合に帳票に指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【UNIX 系 OS 版】へのリモート帳票出力時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>○</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されますが、項目により一部 Charset Manager の文字コード変換表カスタマイズ機能を使用して「制御文入力ファイル」を登録しないと出力できない文字があります。(*1)
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="3">- 一部出力できない文字があります。(*2)
⇒ “17.7　他社文字について ”</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>△</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できますが、Solaris 標準 EUC の場合、制限があります。(*2)
⇒ “17.5.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

*1：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、新字体で出力されます。
ただし、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は、出力できません。出力したい場合は、帳票を設計する Windows 上に Charset Manager の文字コード変換表カスタマイズ機能を使用して「制御文入力ファイル」を登録する必要があります。
⇒ “17.9　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義について（【UNIX 系 OS 版】の場合）”

*2：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
ただし、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は、出力できません。出力したい場合は、EUC（U90）を使用してください。

17.5.2　帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系が EUC の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ EUC コード系にしておく必要があります。

入力データの文字コード系が UNICODE（UTF8）の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ UNICODE（UTF8）コード系にしておく必要があります。

なお、入力データが EUC（S90）の場合は、帳票を文字コード変換する Windows 上に Charset Manager をインストールして、文字コード変換する必要があります。

帳票の文字コード変換については、以下を参照してください。

⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

17.5.3　入力データに指定できる文字

入力データが「XML 形式」の場合は、オンラインマニュアル “ 帳票設計編 ” を参照してください。

●入力データが Shift-JIS の場合

入力データが Shift-JIS の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.39　入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【UNIX 系 OS 版】へのリモート帳票出力時）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">文字種</th><th rowspan="2">文字コード範囲
（16 進）</th><th colspan="2">対応状況</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>U90</th><th>S90</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>◎</td><td>ー</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>△</td><td>◎</td><td rowspan="2">ー</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>△</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td>◎</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>△</td><td>◎</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>◎</td><td>◎</td><td>ー</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>◎</td><td>◎</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.5.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

●入力データが EUC（U90）の場合

入力データが EUC（U90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.40　入力データが EUC（U90）のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【UNIX 系 OS 版】へのリモート帳票出力時）

文字種	文字コード範囲（16 進）	対応状況		備考
		U90	S90	
JIS 非漢字	A1A1 ～ A8FE	◎	◎	―
JIS 第一水準漢字	B0A1 ～ CFFE	◎	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、「アンダーバー（__）」で出力されます。Charset Manager の「制御文入力ファイル」を登録することにより新字体で出力することができます。 ⇒ “17.9　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義について（【UNIX 系 OS 版】の場合）”
JIS 第二水準漢字	D0A1 ～ F4FE	◎	◎	
OASYS 拡張文字	F7A1 ～ FDFE	◎	×	―
JEF 拡張漢字	8FA1A1 ～ 8FD0FE	◎	×	―
JEF 拡張非漢字	8FD1A1 ～ 8FDCFE	◎	×	―
利用者定義文字	8FDDA1 ～ 8FFDFE	◎	◎	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ “17.5.4　利用者定義文字の出力手順”

◎：出力可能
×：出力不可能

●入力データが EUC（S90）の場合

入力データが EUC（S90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.41　入力データが EUC（S90）のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【UNIX 系 OS 版】へのリモート帳票出力時）

文字種	文字コード範囲（16 進）	対応状況		備考
		U90	S90	
JIS 非漢字	A1A1 ～ A8FE	◎	◎	―
JIS 第一水準漢字	B0A1 ～ CFFE	△	◎	- 帳票出力サーバの文字コードが EUC（U90）の場合、一部出力できない文字があります。
JIS 第二水準漢字	D0A1 ～ F4FE	△	◎	
利用者定義文字	F5A1 ～ FEFE	◎	◎	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ “17.5.4　利用者定義文字の出力手順”

◎：出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

注意

- EUC（S90）の場合、NEC 特殊文字、IBM 拡張文字などの他社文字は使用できません。

●入力データが Solaris 標準 EUC の場合

入力データが Solaris 標準 EUC の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.42　入力データが Solaris 標準 EUC のときに指定できる文字
（【UNIX 系 OS 版】から【UNIX 系 OS 版】へのリモート帳票出力時）

文字種		文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字		A1A1 ～ F4FE	◎	－
JIS 第一水準漢字			◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 ⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”
JIS 第二水準漢字			◎	
他社文字	NEC 特殊文字（①、㈱など）	ADA1 ～ ADFE	◎	－
	IBM 拡張文字	8FF3A1 ～ 8FF4FE	◎	－
利用者定義文字		F5A1 ～ FEFE 8FF5A1 ～ 8FFEFE	◎	- 利用者定義文字を登録することで出力できます。 ⇒ “17.5.4　利用者定義文字の出力手順 ”

◎：出力可能

●入力データが UNICODE（UTF8）の場合

UNICODE（UTF8）の文字コードで作成した入力データを UNIX 系 OS から UNIX 系 OS へリモート帳票出力する場合、すべての文字が出力できます。

なお、利用者定義文字は登録することで出力できます。

利用者定義文字の出力方法については、以下を参照してください。

⇒ “17.5.4　利用者定義文字の出力手順 ”

17.5.4　利用者定義文字の出力手順

利用者定義文字を出力する手順について説明します。

●帳票に利用者定義文字を指定して出力したい場合

入力データの文字コードごとに、利用者定義文字を以下の手順で登録することにより出力できます。

帳票設計時

帳票を設計するコンピュータ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を作成します。

1）表 17.43 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。

2）帳票設計時に、登録した利用者定義文字を項目に指定します。

帳票出力時

帳票出力サーバ（UNIX 系 OS）上に利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.43 の (2) の範囲に帳票を設計した Windows 上で登録した利用者定義文字と同じものを登録します。

2）帳票を帳票出力サーバに配置します。

3）帳票を出力します。

表 17.43 帳票に利用者定義文字を指定したい場合
（【UNIX 系 OS 版】から【UNIX 系 OS 版】へのリモート帳票出力時）

<table>
<tr><th>帳票の
文字コード系</th><th>(1)
帳票を設計する Windows 上で利用者定義域を登録するときの文字コード範囲（16 進）
（Shift-JIS の文字コード域）</th><th>(2)
帳票出力サーバ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲</th></tr>
<tr><td>Shift-JIS
EUC（U90）
UNICODE（UTF8）</td><td>F040 ～ F9FC</td><td rowspan="2">- 文字コード範囲については、以下を参照してください。
・“17.1 印刷時 ”
・“17.2 電子保存時 ”
・オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ”
・オンラインマニュアル “Excel ファイル出力機能編 ”</td></tr>
<tr><td>EUC（S90）</td><td>F040 ～ F4FC</td></tr>
</table>

●入力データに利用者定義文字を指定して出力したい場合

帳票出力時

帳票出力サーバ（UNIX 系 OS）上で利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）表 17.44 の (1) の範囲で利用者定義文字を登録します。

2）アプリケーションは、入力データに表 17.44 の (2) の範囲の文字コードを指定して帳票を出力します。

表 17.44 入力データに利用者定義文字を指定したい場合
（UNIX 系 OS から UNIX 系 OS へのリモート帳票出力時）

<table>
<tr><th>入力データの
文字コード系</th><th>(1)
帳票出力サーバ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲</th><th>(2)
入力データに指定する利用者定義域の文字コード範囲（16 進）
（入力データの文字コード域）</th></tr>
<tr><td>Shift-JIS</td><td rowspan="4">- 文字コード範囲については、以下を参照してください。
・“17.1 印刷時 ”
・“17.2 電子保存時 ”
・オンラインマニュアル “PDF 変換機能編 ”
・オンラインマニュアル “Excel ファイル出力機能編 ”</td><td>F040 ～ F9FC</td></tr>
<tr><td>EUC（U90）</td><td>8FE5A1 ～ 8FF8FE</td></tr>
<tr><td>UNICODE（UTF8）</td><td>EE8080 ～ EFA3BF</td></tr>
<tr><td>EUC（S90）</td><td>F5A1 ～ FEFE</td></tr>
</table>

17.6 Web アプリケーション連携時

ここでは、Web アプリケーション連携時に指定できる文字や利用者定義文字の出力手順について説明します。

17.6.1 帳票に指定できる文字

● Shift-JIS、EUC（U90）、または EUC（S90）環境の場合

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字（Web アプリケーション連携時）を示します。

表 17.45 Shift-JIS、EUC（U90）、EUC（S90）環境の場合に帳票に指定できる文字（Web アプリケーション連携時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲（16 進）</th><th>対応状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。
詳細については、以下を参照してください。
⇒ “17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>△</td><td rowspan="3">- 帳票が Shift-JIS の場合、すべての文字が出力できます。
- 帳票が EUC（U90）または EUC（S90）の場合、項目により一部出力できない文字があります。(*1)
詳細については、以下を参照してください。
⇒ “17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>△</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.6.4 利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能

○：Charset Manager をインストールすることで出力可能

△：出力可能だが、一部出力不可能

*1：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
ただし、帳票が EUC（U90）の場合、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は、“ 表 17.54 Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字 ” の 14 文字は出力できません。
帳票が EUC（S90）の場合、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は、出力できません。

● Solaris 標準 EUC 環境の場合

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS（Windows で表示できる文字）の範囲です。

なお、Solaris 標準 EUC 環境の場合、帳票定義情報は EUC（U90）に文字コード変換して使用してください。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字（Web アプリケーション連携時）を示します。

表 17.46　Solaris 標準 EUC 環境の場合に帳票に指定できる文字
（Web アプリケーション連携時）

文字種	文字コード範囲（16 進）	対応状況	備考
JIS 非漢字	8140 ～ 84FC	◎	－
JIS 第一水準漢字	889F ～ 989E	○	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されますが、項目により一部 Charset Manager の文字コード変換表カスタマイズ機能を使用して「制御文入力ファイル」を登録しないと出力できない文字があります。(*1) 詳細については、以下を参照してください。 ⇒ “17.9　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義に ついて（【UNIX 系 OS 版】の場合）”
JIS 第二水準漢字	989F ～ EAFC	○	
他社文字 NEC 特殊文字（①、㈱など）	8740 ～ 879E	△	- 一部出力できない文字があります。(*2) 詳細については、以下を参照してください。 ⇒ “17.9　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義に ついて（【UNIX 系 OS 版】の場合）”
他社文字 IBM 拡張文字	FA40 ～ FCFC	△	
他社文字 NEC/IBM 選定文字	ED40 ～ EEFC	△	
利用者定義文字	F040 ～ F9FC	△	- 利用者定義文字を登録することで出力できますが、Solaris 標準 EUC の場合、制限があります。(*2) ⇒ “17.6.4　利用者定義文字の出力手順”

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能

*1：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、新字体で出力されます。
ただし、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は出力できません。出力したい場合は、帳票を設計する Windows 上に Charset Manager の文字コード変換表カスタマイズ機能を使用して「制御文入力ファイル」を登録する必要があります。

*2：固定リテラル項目、矩形固定リテラル項目、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
ただし、SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、または CASE 演算子に文字を指定した場合は、出力できません。出力したい場合は、EUC（U90）を使用してください。

17.6.2　帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系が EUC の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ EUC コード系にしておく必要があります。

入力データの文字コード系が UNICODE（UTF8）の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ UNICODE（UTF8）コード系にしておく必要があります。

なお、入力データが EUC（S90）の場合は、帳票を文字コード変換する Windows 上に Charset Manager をインストールして、文字コード変換する必要があります。

帳票の文字コード変換については、以下を参照してください。

⇒ “7.4　帳票コード変換 ”

17.6.3 入力データに指定できる文字

入力データが「XML 形式」の場合は、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

●入力データが Shift-JIS の場合

入力データが Shift-JIS の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.47 入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字（Web アプリケーション連携時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td>8140 ～ 84FC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>889F ～ 989E</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は新字体で出力されます。
詳細については、以下を参照してください。
⇒“17.8 83 年度 JIS で字体変更された文字について”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>989F ～ EAFC</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>8740 ～ 879E</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>FA40 ～ FCFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>NEC/IBM 選定文字</td><td>ED40 ～ EEFC</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F040 ～ F9FC</td><td>◎</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒“17.6.4 利用者定義文字の出力手順”</td></tr>
</table>

◎：出力可能

●入力データが EUC（U90）の場合

入力データが EUC（U90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.48 入力データが EUC（U90）のときに指定できる文字（Web アプリケーション連携時）

<table>
<tr><th>文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>JIS 非漢字</td><td>A1A1 ～ A8FE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>JIS 第一水準漢字</td><td>B0A1 ～ CFFE</td><td>△</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は「アンダーバー（_）」で出力されます。Charset Manager の「制御文入力ファイル」を登録することにより新字体で出力することができます。
詳細については、以下を参照してください。
⇒“17.9 EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義に ついて（【UNIX 系 OS 版】の場合）”</td></tr>
<tr><td>JIS 第二水準漢字</td><td>D0A1 ～ F4FE</td><td>△</td></tr>
<tr><td>OASYS 拡張文字</td><td>F7A1 ～ FDFE</td><td>△</td><td>- OASYS 拡張文字のうち、他社文字の NEC 特殊文字に存在する文字は出力できます。その他の文字は「アンダーバー（_）」で出力されます。
詳細については、以下を参照してください。
⇒“17.7 他社文字について”</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張漢字</td><td>8FA1A1 ～ 8FD0FE</td><td>△</td><td>- 83 年度 JIS で字体変更された新字体のみ出力されます。それ以外の文字は「アンダーバー（_）」で出力されます。</td></tr>
<tr><td>JEF 拡張非漢字</td><td>8FD1A1 ～ 8FDCFE</td><td>×</td><td>－</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td>8FDDA1 ～ 8FFDFE</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒“17.6.4 利用者定義文字の出力手順”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能
△：出力可能だが、一部出力不可能
×：出力不可能

●入力データが EUC（S90）の場合

入力データが EUC（S90）の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.49　入力データが EUC（S90）のときに指定できる文字（Web アプリケーション連携時）

<table>
<tr><th>文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>JIS 非漢字</td><td>A1A1 ～ A8FE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>JIS 第一水準漢字</td><td>B0A1 ～ CFFE</td><td rowspan="2">◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は新字体で出力されます。
詳細については、以下を参照してください。
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td>JIS 第二水準漢字</td><td>D0A1 ～ F4FE</td></tr>
<tr><td>利用者定義文字</td><td>F5A1 ～ FEFE</td><td>○</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.6.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能
○：Charset Manager をインストールすることで出力可能

注意

- EUC（S90）の場合、NEC 特殊文字、IBM 拡張文字などの他社文字は使用できません。

●入力データが Solaris 標準 EUC の場合

入力データが Solaris 標準 EUC の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 17.50　入力データが Solaris 標準 EUC のときに指定できる文字（Web アプリケーション連携時）

<table>
<tr><th colspan="2">文字種</th><th>文字コード範囲
（16 進）</th><th>対応
状況</th><th>備考</th></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 非漢字</td><td rowspan="3">A1A1 ～ F4FE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第一水準漢字</td><td>◎</td><td rowspan="2">- 83 年度 JIS で字体変更された文字は新字体で出力されます。
詳細については、以下を参照してください。
⇒ “17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について ”</td></tr>
<tr><td colspan="2">JIS 第二水準漢字</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="2">他社文字</td><td>NEC 特殊文字
（①、㈱など）</td><td>ADA1 ～ ADFE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td>IBM 拡張文字</td><td>8FF3A1 ～ 8FF4FE</td><td>◎</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">利用者定義文字</td><td>F5A1 ～ FEFE
8FF5A1 ～ 8FFEFE</td><td>◎</td><td>- 利用者定義文字を登録することで出力できます。
⇒ “17.6.4　利用者定義文字の出力手順 ”</td></tr>
</table>

◎：出力可能

●入力データが UNICODE（UTF8）の場合

UNICODE（UTF8）の文字コードで作成した入力データを Web アプリケーション連携機能で使用する場合、すべての文字が出力できます。

なお、利用者定義文字は、帳票を出力する Web クライアントに利用者定義文字を登録することで出力できます。

利用者定義文字の出力方法については、以下を参照してください。

⇒ “17.6.4　利用者定義文字の出力手順 ”

17.6.4　利用者定義文字の出力手順

利用者定義文字を出力する手順について説明します。

なお、利用者定義文字の登録や、登録した利用者定義文字を他プラットフォームで使用する場合については、Charset Manager のマニュアルを参照してください。

●帳票に利用者定義文字を指定して出力したい場合

入力データの文字コードごとに、利用者定義文字を以下の手順で登録することにより出力できます。

帳票設計時

帳票を設計するコンピュータ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を作成します。

1）付表 17.51 の (1) の範囲に利用者定義文字を登録します。

2）帳票設計時に、登録した利用者定義文字を項目に指定します。

帳票出力時

帳票を出力する Web クライアントのコンピュータ（Windows）上に利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）付表 17.51 の (2) の範囲に帳票を設計した Windows 上で登録した利用者定義文字と同じものを登録します。

2）帳票を出力する Web クライアントのコンピュータに配置します。

3）帳票を出力します。

表 17.51　帳票に指定できる利用者定義文字の文字コード範囲（Web アプリケーション連携時）

帳票の 文字コード系	(1) 帳票を設計する Windows 上で利用者定義域を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）	(2) 帳票を出力する Web クライアントのコンピュータ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進）
Shift-JIS EUC（U90） Solaris 標準 EUC UNICODE（UTF8）	F040 ～ F9FC	
EUC（S90）	F040 ～ F4FC	

例えば、入力データが EUC（S90）の場合、「F4FC」に登録した利用者定義文字を帳票の項目に指定して帳票を出力すると、Web クライアントのコンピュータの「F4FC」に登録された利用者定義文字が出力されます。

●入力データに利用者定義文字を指定して出力したい場合

帳票出力時

帳票を出力する Web クライアントのコンピュータ（Windows）上で利用者定義文字を登録し、帳票を出力します。

1）付表 17.52 の (1) の範囲で利用者定義文字を登録します。

2）アプリケーションは、入力データに付表 17.52 の (2) の範囲の文字コードを指定して帳票を出力します。

表 17.52　入力データに指定できる利用者定義文字の文字コード範囲（Web アプリケーション連携時）

入力データの文字コード系	(1) 帳票を出力する Web クライアントのコンピュータ上に利用者定義文字を登録するときの文字コード範囲（16 進） （Shift-JIS の文字コード域）	(2) 入力データに指定する利用者定義域の文字コード範囲（16 進） （入力データの文字コード域）
Shift-JIS	F040 ～ F9FC	F040 ～ F9FC
EUC（U90）	F040 ～ F9FC	8FE5A1 ～ 8FF8FE
UNICODE（UTF8）		EE8080 ～ EFA3BD
EUC（S90）	F040 ～ F4FC	F5A1 ～ FEFE
Solaris 標準 EUC	F040 ～ F4FC	F5A1 ～ FEFE
	F540 ～ F9FC	8FF5A1 ～ 8FFEFE

例えば、入力データが EUC（S90）の場合、入力データに「F5A1」を記述して帳票を出力すると、Web クライアントのコンピュータの「F040」に登録した利用者定義文字が出力されます。

17.7　他社文字について

他社文字の List Creator での扱いについて説明します。

17.7.1　Shift-JIS コード系の他社文字について

Shift-JIS コード系には、次に示すように 3 種類の他社文字が配置されています。List Creator からは、NEC 特殊文字と IBM 拡張文字を出力することができます。

- NEC 特殊文字（①や㈱など）
- IBM 拡張文字
- NEC/IBM 選定文字

注意

- 使用する文字コード系により、一部出力できない文字があります。

● NEC 特殊文字

表 17.53　Shift-JIS コード系で出力できる NEC 特殊文字

NEC 特殊文字				
8740（①）	8751（⑱）	8763（㌘）	8774（㏄）	878e（㍽）
8741（②）	8752（⑲）	8764（㌧）	8775（㎡）	878f（㍼）
8742（③）	8753（⑳）	8765（㌃）	877e（㍻）	8790（≒）
8743（④）	8754（Ⅰ）	8766（㌶）	8780（〝）	8791（≡）
8744（⑤）	8755（Ⅱ）	8767（㍑）	8781（〟）	8792（∫）
8745（⑥）	8756（Ⅲ）	8768（㍗）	8782（№）	8793（∮）
8746（⑦）	8757（Ⅳ）	8769（㌍）	8783（㏍）	8794（∑）
8747（⑧）	8758（Ⅴ）	876a（㌦）	8784（℡）	8795（√）
8748（⑨）	8759（Ⅵ）	876b（㌣）	8785（㊤）	8796（⊥）
8749（⑩）	875a（Ⅶ）	876c（㌫）	8786（㊥）	8797（∠）
874a（⑪）	875b（Ⅷ）	876d（㍊）	8787（㊦）	8798（∟）
874b（⑫）	875c（Ⅸ）	876e（㌻）	8788（㊧）	8799（⊿）
874c（⑬）	875d（Ⅹ）	876f（㎜）	8789（㊨）	879a（∵）
874d（⑭）	875f（㍉）	8770（㎝）	878a（㈱）	879b（∩）
874e（⑮）	8760（㌔）	8771（㎞）	878b（㈲）	879c（∪）
874f（⑯）	8761（㌢）	8772（㎎）	878c（㈹）	
8750（⑰）	8762（㍍）	8773（㎏）	878d（㍾）	

*1：NEC 特殊文字で出力できない文字があります。出力したい場合は、利用者定義文字として登録してください。

表 17.54　Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字

NEC 特殊文字で 出力できない文字	
8767（㍑）	877e（㍻）
8781（〟）	8785（㊤）
8786（㊥）	8787（㊦）
8788（㊧）	8789（㊨）
878d（㍾）	878e（㍽）
878f（㍼）	8793（∮）
8798（∟）	8799（⊿）

● IBM 拡張文字

表 17.55　Shift-JIS コード系で出力できる IBM 拡張文字（1 / 3）

IBM 拡張文字				
fa40（ⅰ）	fa41（ⅱ）	fa42（ⅲ）	fa43（ⅳ）	fa44（ⅴ）
fa45（ⅵ）	fa46（ⅶ）	fa47（ⅷ）	fa48（ⅸ）	fa49（ⅹ）
fa4a（Ⅰ）	fa4b（Ⅱ）	fa4c（Ⅲ）	fa4d（Ⅳ）	fa4e（Ⅴ）
fa4f（Ⅵ）	fa50（Ⅶ）	fa51（Ⅷ）	fa52（Ⅸ）	fa53（Ⅹ）
fa54（￢）	fa55（￤）	fa56（＇）	fa57（＂）	fa58（㈱）
fa59（№）	fa5a（℡）	fa5b（∵）	fa5c（纊）	fa5d（褜）
fa5e（鍈）	fa5f（銈）	fa60（蓜）	fa61（俉）	fa62（炻）
fa63（昱）	fa64（棈）	fa65（鋹）	fa66（曻）	fa67（彅）
fa68（丨）	fa69（仡）	fa6a（仼）	fa6b（伀）	fa6c（伃）
fa6d（伹）	fa6e（佖）	fa6f（侒）	fa70（侊）	fa71（侚）
fa72（侔）	fa73（俍）	fa74（偀）	fa75（倢）	fa76（俿）
fa77（倞）	fa78（偆）	fa79（偰）	fa7a（偂）	fa7b（傔）
fa7c（僴）	fa7d（僘）	fa7e（兊）	fa80（兤）	fa81（冝）
fa82（冾）	fa83（凬）	fa84（刕）	fa85（劜）	fa86（劦）
fa87（勀）	fa88（勛）	fa89（匀）	fa8a（匇）	fa8b（匤）
fa8c（卲）	fa8d（厓）	fa8e（厲）	fa8f（叝）	fa90（﨎）
fa91（咜）	fa92（咊）	fa93（咩）	fa94（哿）	fa95（喆）
fa96（坙）	fa97（坥）	fa98（垬）	fa99（埈）	fa9a（埇）
fa9b（﨏）	fa9c（塚）	fa9d（增）	fa9e（墲）	fa9f（夋）
faa0（奓）	faa1（奛）	faa2（奝）	faa3（奣）	faa4（妤）
faa5（妺）	faa6（孖）	faa7（寀）	faa8（甯）	faa9（寘）
faaa（寬）	faab（尞）	faac（岦）	faad（岺）	faae（峵）
faaf（崧）	fab0（嵓）	fab1（﨑）	fab2（嵂）	fab3（嵭）
fab4（嶸）	fab5（嶹）	fab6（巐）	fab7（弡）	fab8（弴）
fab9（彧）	faba（德）	fabb（忞）	fabc（恝）	fabd（悅）
fabe（悊）	fabf（惞）	fac0（惕）	fac1（愠）	fac2（惲）
fac3（愑）	fac4（愷）	fac5（愰）	fac6（憘）	fac7（戓）
fac8（抦）	fac9（揵）	faca（摠）	facb（撝）	facc（擎）
facd（敎）	face（昀）	facf（昕）	fad0（昻）	fad1（昉）
fad2（昮）	fad3（昞）	fad4（昤）	fad5（晥）	fad6（晗）
fad7（晙）	fad8（晴）	fad9（晳）	fada（暙）	fadb（暠）
fadc（暲）	fadd（暿）	fade（曺）	fadf（朎）	fae0（朗）

表 17.55 Shift-JIS コード系で出力できる IBM 拡張文字（２／３）

IBM 拡張文字				
fae1（杦）	fae2（枻）	fae3（桒）	fae4（柀）	fae5（栁）
fae6（桄）	fae7（棏）	fae8（﨓）	fae9（楨）	faea（﨔）
faeb（榘）	faec（槢）	faed（樰）	faee（橫）	faef（橆）
faf0（橳）	faf1（橾）	faf2（櫢）	faf3（櫤）	faf4（毖）
faf5（氿）	faf6（汜）	faf7（沆）	faf8（汯）	faf9（泚）
fafa（洄）	fafb（涇）	fafc（浯）	fb40（涖）	fb41（涬）
fb42（淏）	fb43（淸）	fb44（淲）	fb45（淼）	fb46（渹）
fb47（湜）	fb48（渧）	fb49（渼）	fb4a（溿）	fb4b（澈）
fb4c（澵）	fb4d（濵）	fb4e（瀅）	fb4f（瀇）	fb50（瀨）
fb51（炅）	fb52（炫）	fb53（焏）	fb54（焄）	fb55（煜）
fb56（煆）	fb57（煇）	fb58（凞）	fb59（燁）	fb5a（燾）
fb5b（犱）	fb5c（犾）	fb5d（猤）	fb5e（猪）	fb5f（獷）
fb60（玽）	fb61（珉）	fb62（珖）	fb63（珣）	fb64（珒）
fb65（琇）	fb66（珵）	fb67（琦）	fb68（琪）	fb69（琩）
fb6a（琮）	fb6b（瑢）	fb6c（璉）	fb6d（璟）	fb6e（甁）
fb6f（畯）	fb70（皂）	fb71（皜）	fb72（皞）	fb73（皛）
fb74（皦）	fb75（益）	fb76（睆）	fb77（劯）	fb78（砡）
fb79（硎）	fb7a（硤）	fb7b（硺）	fb7c（礰）	fb7d（礼）
fb7e（神）	fb80（祥）	fb81（禔）	fb82（福）	fb83（禛）
fb84（竑）	fb85（竧）	fb86（靖）	fb87（竫）	fb88（箞）
fb89（精）	fb8a（絈）	fb8b（絜）	fb8c（綷）	fb8d（綠）
fb8e（緖）	fb8f（繒）	fb90（罇）	fb91（羡）	fb92（羽）
fb93（茁）	fb94（荢）	fb95（荿）	fb96（菇）	fb97（菶）
fb98（葈）	fb99（蒴）	fb9a（蕓）	fb9b（蕙）	fb9c（蕫）
fb9d（﨟）	fb9e（薰）	fb9f（蘒）	fba0（﨡）	fba1（蠇）
fba2（裵）	fba3（訒）	fba4（訷）	fba5（詹）	fba6（誧）
fba7（誾）	fba8（諟）	fba9（諸）	fbaa（諶）	fbab（譓）
fbac（譿）	fbad（賰）	fbae（賴）	fbaf（贒）	fbb0（赶）
fbb1（﨣）	fbb2（軏）	fbb3（﨤）	fbb4（逸）	fbb5（遧）
fbb6（郞）	fbb7（都）	fbb8（鄕）	fbb9（鄧）	fbba（釚）
fbbb（釗）	fbbc（釞）	fbbd（釭）	fbbe（釮）	fbbf（釤）
fbc0（釥）	fbc1（鈆）	fbc2（鈐）	fbc3（鈊）	fbc4（鈺）
fbc5（鉀）	fbc6（鈼）	fbc7（鉎）	fbc8（鉙）	fbc9（鉑）

表 17.55 Shift-JIS コード系で出力できる IBM 拡張文字（３ / ３）

IBM 拡張文字				
fbca（鈹）	fbcb（鉧）	fbcc（銧）	fbcd（鉷）	fbce（鉸）
fbcf（鋧）	fbd0（鋗）	fbd1（鋙）	fbd2（鋐）	fbd3（𨦇）
fbd4（鋕）	fbd5（鋠）	fbd6（鋓）	fbd7（錥）	fbd8（錡）
fbd9（鋻）	fbda（𨨩）	fbdb（錞）	fbdc（鋿）	fbdd（錝）
fbde（錂）	fbdf（鍰）	fbe0（鍗）	fbe1（鎤）	fbe2（鏆）
fbe3（鏞）	fbe4（鏸）	fbe5（鐱）	fbe6（鑅）	fbe7（鑈）
fbe8（閒）	fbe9（隆）	fbea（𨺉）	fbeb（隝）	fbec（隯）
fbed（霳）	fbee（霻）	fbef（靃）	fbf0（靍）	fbf1（靏）
fbf2（靑）	fbf3（靕）	fbf4（顗）	fbf5（顥）	fbf6（飯）
fbf7（飼）	fbf8（餧）	fbf9（館）	fbfa（馞）	fbfb（驎）
fbfc（髙）	fc40（髜）	fc41（魵）	fc42（魲）	fc43（鮏）
fc44（鮱）	fc45（鮻）	fc46（鰀）	fc47（鵰）	fc48（鵫）
fc49（鶴）	fc4a（鸙）	fc4b（黑）		

17.7.2 EUC（S90）コード系の他社文字について

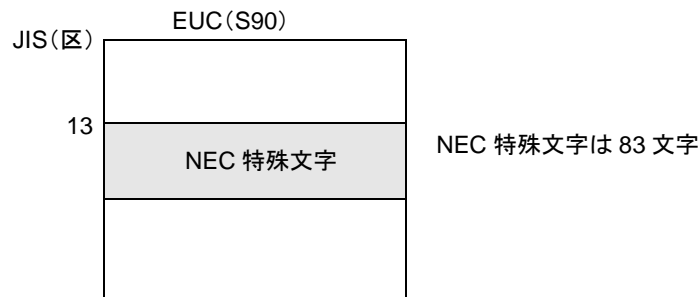
EUC（S90）コード系には、NEC 特殊文字の他社文字が配置されています。List Creator は、NEC 特殊文字を出力することができます。

● NEC 特殊文字

表 17.56　EUC（S90）コード系で出力できる NEC 特殊文字

NEC 特殊文字				
ada1（①）	adb2（⑱）	adc4（㌘）	add5（㏄）	adee（㍽）
ada2（②）	adb3（⑲）	adc5（㌧）	add6（㎡）	adef（㍼）
ada3（③）	adb4（⑳）	adc6（㌃）	addf（㍻）	adf0（≒）
ada4（④）	adb5（Ⅰ）	adc7（㌶）	ade0（〝）	adf1（≡）
ada5（⑤）	adb6（Ⅱ）	adc8（㍑）	ade1（〟）	adf2（∫）
ada6（⑥）	adb7（Ⅲ）	adc9（㍗）	ade2（№）	adf3（∮）
ada7（⑦）	adb8（Ⅳ）	adca（㌍）	ade3（㏍）	adf4（Σ）
ada8（⑧）	adb9（Ⅴ）	adcb（㌦）	ade4（℡）	adf5（√）
ada9（⑨）	adba（Ⅵ）	adcc（㌣）	ade5（㊤）	adf6（⊥）
adaa（⑩）	adbb（Ⅶ）	adcd（㌫）	ade6（㊥）	adf7（∠）
adab（⑪）	adbc（Ⅷ）	adce（㍊）	ade7（㊦）	adf8（∟）
adac（⑫）	adbd（Ⅸ）	adcf（㌻）	ade8（㊧）	adf9（⊿）
adad（⑬）	adbe（Ⅹ）	add0（㎜）	ade9（㊨）	adfa（∵）
adae（⑭）	adc0（㍉）	add1（㎝）	adea（㈱）	adfb（∩）
adaf（⑮）	adc1（㌔）	add2（㎞）	adeb（㈲）	adfc（∪）
adb0（⑯）	adc2（㌢）	add3（㎎）	adec（㈹）	
adb1（⑰）	adc3（㍍）	add4（㎏）	aded（㍾）	

表 17.57　EUC（S90）コード系で出力できない NEC 特殊文字

NEC 特殊文字で 出力できない文字	
abc8（㍑）	addf（㍻）
ade1（〟）	ade5（㊤）
ade6（㊥）	ade7（㊦）
ade8（㊧）	ade9（㊨）
aded（㍾）	adee（㍽）
adef（㍼）	adf3（∮）
adf8（∟）	adf9（⊿）

17.8　83 年度 JIS で字体変更された文字について

JIS 第一水準および第二水準漢字のうち、83 年度 JIS で字体変更された文字は、List Creator では出力方法により、出力される字体が異なります。
以下に 83 年度 JIS で字体変更された文字を Shift-JIS の新字体で示します。

● JIS 第一水準漢字

表 17.58　83 年度 JIS で字体変更された文字（Shift-JIS の新字体）（JIS 第一水準漢字）

JIS 第一水準漢字				
88a0（唖）	88b0（芦）	88b9（飴）	88ec（溢）	88ef（茨）
88f1（鰯）	88fa（淫）	8949（迂）	8952（嘘）	8954（欝）
8958（厩）	895c（噂）	8961（餌）	898b（焔）	89a6（襖）
89a8（鴎）	89de（迦）	89e5（牙）	89f8（恢）	8a41（晦）
8a8b（葛）	8a93（鞄）	8a9a（噛）	8ac0（澗）	8acb（翰）
8ae3（翫）	8b4a（徽）	8b5f（祇）	8b82（汲）	8b88（笈）
8b94（渠）	8ba0（侠）	8ba8（卿）	8bc0（饗）	8bcd（僅）
8be9（矩）	8beb（躯）	8bf2（喰）	8bf9（櫛）	8bfb（屑）
8c56（祁）	8c71（繋）	8c91（倦）	8c9d（拳）	8c9e（捲）
8cb2（鹸）	8cbf（諺）	8d4a（巷）	8d8d（麹）	8d94（鵠）
8d99（甑）	8dd1（采）	8de5（榊）	8df2（柵）	8e46（薩）
8e49（鯖）	8e4b（錆）	8e58（珊）	8e60（餐）	8ec6（屡）
8edb（杓）	8edc（灼）	8f4a（繍）	8f55（酋）	8f8c（曙）
8f92（薯）	8f93（藷）	8fa3（哨）	8fb1（廠）	8fd3（蒋）
8fdd（醤）	8fe2（鞘）	9049（蝕）	9080（逗）	90a0（摺）
90e4（蝉）	90ef（撰）	90f7（煎）	90f8（煽）	90fa（穿）
90fb（箭）	9146（詮）	9158（噌）	916b（遡）	917e（掻）
9189（痩）	91b5（揃）	91bb（遜）	91cb（騨）	91da（腿）
91e1（黛）	91ed（啄）	91fb（蛸）	9246（巽）	9248（辿）
924c（鱈）	924d（樽）	925c（箪）	9295（猪）	929c（凋）
92bb（捗）	92c6（槌）	92c8（鎚）	92cd（掴）	9341（鄭）
9346（擢）	934d（溺）	9355（填）	935e（顛）	9365（兎）
9367（堵）	936a（屠）	9370（莵）	9371（賭）	9384（塘）
9398（祷）	93c0（涜）	93d2（瀞）	93d9（遁）	93e4（謎）
93e5（灘）	93e8（楢）	93f4（迩）	9448（禰）	9449（祢）
9458（嚢）	9476（牌）	9487（這）	9489（秤）	948d（剥）
94a2（箸）	94ac（溌）	94ae（醗）	94be（叛）	94d2（挽）
94f3（樋）	9541（柊）	9542（稗）	954e（逼）	9551（媛）
9554（謬）	955f（廟）	956d（瀕）	95c1（蔽）	95cb（瞥）
95cc（蔑）	95d1（篇）	95d8（娩）	95f7（庖）	9648（蓬）
966a（頬）	9690（鱒）	9698（迄）	96cb（麺）	96d7（儲）
96dd（餅）	96e0（籾）	96f8（鑓）	96fa（愈）	9751（猷）
9773（耀）	9789（莱）	97f8（漣）	97f9（煉）	97fa（簾）
9840（蓮）	9850（榔）	9858（蝋）		

● JIS 第二水準漢字

表 17.59　83 年度 JIS で字体変更された文字（Shift-JIS の新字体）（JIS 第二水準漢字）

JIS 第二水準漢字				
995c（兔）	996c（冤）	9a4f（唹）	9a59（唳）	9a7d（嘲）
9ac2（堋）	9b5c（媾）	9b83（寃）	9ba0（屏）	9ca2（悗）
9d80（捩）	9d8c（搆）	9db7（攅）	9e64（枦）	9e8b（梛）
9fce（湮）	e0dd（珎）	e14a（甄）	e1ed（硼）	e269（稱）
e2b7（箙）	e2e2（粐）	e358（綛）	e35a（綮）	e365（綟）
e484（舮）	e492（苒）	e4b9（葱）	e5bb（蟒）	e5ed（褊）
e651（覯）	e686（諞）	e6e7（跚）	e7a7（遘）	e9cc（鯲）
ea70（麪）				

17.9　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義について（【UNIX 系 OS 版】の場合）

List Creator は、帳票や入力データを文字コード変換して帳票を出力するため、正しく文字コード変換できない文字があると出力できません。特に EUC（U90）から Shift-JIS に文字コード変換する運用では、EUC（U90）の JIS 第一水準、第二水準漢字のうち 83 年度 JIS で字体変更された旧字体は、Shift-JIS に存在しないため出力されません。次の場合にこの現象が発生します。

Windows へのリモート帳票出力時に次の文字を出力したい場合

①入力データが EUC（U90）で、入力データに 83 年度 JIS 改訂文字を指定したい場合

②入力データが EUC（U90）で、帳票に指定した演算子（SET、HEADSTR、TAILSTR、CONNECTSTR、CASE）に 83 年度 JIS 改訂文字を指定したい場合（帳票の項目に指定した固定リテラル、矩形固定リテラル、ラジオボタン項目のラベル、チェックボックス項目のラベル、オーバレイ文字、矩形オーバレイ文字は出力されます）

この場合、Charset Manager の文字コード変換表カスタマイズ機能を使用することにより、EUC（U90）の旧字体を Shift-JIS の新字体に対応付けし、新字体で出力できます。
①の文字を出力したい場合は (2) を、②の文字を出力したい場合は (1) と (2) を行ってください。

(1) 帳票を設計する Windows 上で制御文入力ファイルを登録する

「Charset Manager インストールディレクトリ ¥ADJUST¥DATA」配下に " 表 17.60　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義ファイル " で示した制御文入力ファイルが格納されていますので登録してください。登録方法については、Charset Manager のソフトウェア説明書またはマニュアルを参照してください。

(2) アプリケーションサーバ上で文字コード変換表を登録する

●アプリケーションサーバが Solaris の場合

「/opt/FJSVoast/usrtbl/」配下に " 表 17.60　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義ファイル " で示した制御文入力ファイルが格納されていますので登録してください。登録方法については、Charset Manager のマニュアルを参照してください。

表 17.60　EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義ファイル

目的	登録するファイル
EUC（U90）の旧字体と Shift-JIS の新字体の対応定義表	S_U90MS.CTL

●アプリケーションサーバが Linux の場合

登録方法については、Charset Manager のマニュアルの文字コード変換表カスタマイズ機能についての記載を参照してください。

付録

ここでは、以下について説明します。

- List Creator が提供する帳票出力以外のコマンド
- 帳票出力ユーティリティ
- オーバレイの作成と表現力
- 全半角テーブル
- コネクタ連携機能の多重性能向上

付録Ａ
コマンドリファレンス

ここでは、List Creator が提供する以下のコマンドの詳細について説明しています。

- List Creator デザイナで帳票設計時に使用するユーティリティコマンド
- 帳票のテスト印刷コマンド
- List Creator の環境設定コマンド
- 監査証跡ログの操作コマンド

A.1 【Windows 版】の場合

A.1.1 プレビューコマンド（prview）

ここでは、帳票設計時に利用するコマンドについて説明します。

- prview コマンド（入力データを指定して、実際の帳票の出力イメージを画面で確認する）

備考

- プレビューコマンドを使用するには、List Creator デザイナをインストールしてください。

A.1.1.1 ［機能］

入力データを指定して、実際の帳票の出力イメージを画面で確認できます。プレビュー画面から印刷して帳票イメージを確認することもできます。

このコマンドは、［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［ユーティリティ］－［プレビューア］を選択してプレビューア初期画面を表示し、オプションを指定することもできます。

注意

- このコマンドは、帳票設計時に利用するコマンドです。
- 組合せフォーム出力する場合は、プレビューコマンドで出力イメージの確認はできません。組合せフォーム一覧からプレビューし確認してください。

A.1.1.2 ［記述形式］

以下に、コマンドの記述形式を示します。

[ ] は、省略できることを示します。

オプション 1、オプション 2、オプション 3… には、prview コマンドのオプションを記述します。

prview コマンドのオプションは、すべて省略できます。

```
prview    [ オプション1 ] [ オプション2 ] [ オプション3 ] …
```

注意

- コマンドのオプションに指定する文字列に空白が含まれている場合や、実行環境により特別な意味を持つ文字を含む場合は、「ダブルクォーテーション（"）」で囲んで指定してください。
- ファイルの格納先として指定できるのは、ローカルディスク、UNC 指定（¥¥ コンピュータ名 ¥ 共有名 ¥ ディレクトリ名）のみです。ネットワークドライブ、リムーバブルディスクを格納先として指定しないでください。

A.1.1.3 ［オプション一覧］

以下に、prview コマンドのオプションの一覧を示します。

付表 A.1 prview コマンドのオプション一覧

オプション	
" 帳票名 " (*1)	
-assetsdir	帳票格納ディレクトリ
-indatacode	入力データの文字コード系
-f	データファイル名 (*1)
-gxmlroot	データルートの親要素のパス
-gbardata	バーコードデータの BASE64 エンコード指定
-visualdir	メディアデータ格納ディレクトリ
-grpdelimit	マルチフォーム用帳票名データ区切り文字 (*1)
-grpbytes	マルチフォーム用帳票名データフィールド長
-y	接続先 DB タイプ
-b	接続先 DB 名
-u	DB 接続ユーザ名
-w	DB 接続パスワード
-o	DB 接続時のタイムアウト時間
-q	SELECT 文の置換文字列
-atuserid	出力ユーザ ID
-r	開始ページ番号
-s	SET 演算子の置換文字列
-atlfcode	改行コード制御指定
-atffcode	改ページコード制御指定
-atnodata	入力データにデータがない場合の動作指定
-atlabeldata	項目名ラベル付きデータファイル指定
-atmapfontfile	置換フォント情報ファイル名
-atbcodadjust	バーコード補正情報ファイル名

*1：出力する方法によって必須オプションが異なります。以下に、オプションを指定するプレビューア初期画面を表示せずに 1 つの帳票を出力する場合とマルチフォーム出力する場合の必須オプションの違いを示します。

- 1 つの帳票を出力する場合
  帳票名
- マルチフォーム出力する場合
  -f オプション
  -grpdelimit オプション

A.1.1.4 ［説明］

オプションについて説明します。

"帳票名"

この帳票名は、1 つの帳票を出力する場合（-grpdelimit オプションを指定しない場合）にのみ有効です。

帳票名を「ダブルクォーテーション（"）」で囲んで指定します。

1 つの帳票を出力する場合（-grpdelimit オプションを指定しない場合）にこの帳票名を省略すると、オプションを指定するプレビューア初期画面が表示されます。

備考

- マルチフォーム出力する場合（-grpdelimit オプションを指定した場合）は、帳票名を入力データで指定しますので、この指定は必要ありません。

-assetsdir 帳票格納ディレクトリ

帳票格納ディレクトリをフルパスで指定します。

このオプションを省略すると、環境設定画面の［全般］タブで指定されている帳票格納ディレクトリが有効になります（List Creator デザイナをインストールしている場合は、帳票格納ディレクトリを帳票定義一覧画面のオプション画面からも切り替えることができます）。

注意

- 帳票格納ディレクトリ名の末尾には、「円マーク（¥）」を指定しないでください。

-indatacode 入力データの文字コード系

入力データの文字コード系を指定します。

SJIS	：Shift-JIS
UCS2LE	：UNICODE（UTF16 リトルエンディアン）
UCS2BE	：UNICODE（UTF16 ビッグエンディアン）
UTF8	：UNICODE（UTF8）

このオプションを省略すると、環境設定画面の［全般］タブで指定した文字コード系が有効になります。

注意

- このオプションは、入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の場合にのみ有効です。入力データ形式が「XML 形式」の場合は、XML ファイル中の XML 宣言で文字コード系を指定します。XML ファイル中の XML 宣言を省略した場合、または XML 宣言で文字コード系の指定を省略した場合は、UNICODE（UTF8）とみなします。
- Unicode の文字が定義されている帳票定義情報を使用する場合、入力データの文字コード系は UNICODE のいずれかを指定してください。
- OCI 連携機能を使用してデータベース（Oracle）と連携する場合に扱える入力データの文字コード系は、Shift-JIS と UNICODE（UTF8）のみです。
  NLS_LANG で指定したキャラクタセットの文字コード系が、環境設定画面の［全般］タブで指定した文字コード系と一致しない場合は、必ずこのオプションで文字コード系が一致するように指定してください。
- 文字コード系に関する注意事項については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

-f データファイル名

このオプションは、データファイルを使用する場合（データ定義画面の［DB 連携］タブの DB タイプに「データファイル」を指定してある場合、または -y オプションを指定した場合）にのみ有効です。

データファイル名を 259 バイト以内のフルパスで指定します。

1 つの帳票を出力する場合（-grpdelimit オプションを指定しない場合）に省略すると、帳票格納ディレクトリ配下の帳票名と同名のデータファイル（「帳票名 .dat」）が指定されたものとして動作します。

マルチフォーム出力する場合（-grpdelimit オプションを指定した場合）にこのオプションを省略すると、オプションを指定するプレビューア初期画面が表示されます。

注意

- データファイル中のデータは、指定した入力データの文字コード系で記述してください。

-gxmlroot データルートの親要素のパス

入力データ形式が「XML 形式」で、XML ルートとデータルートが異なる場合に、XML データ中のデータルートの親要素のパスを指定します。

データルートの親要素のパスは、「スラッシュ（/）」を始点にデータルートの親要素までの要素名を「スラッシュ（/）」で区切って指定します。それ以外の形式は指定できません。

XML データ中のこのオプションで指定したパス直下にデータルートが複数存在する場合は、すべてのデータルートを検索します。

省略すると、以下の優先順序で XML データからデータルートを検索します。

1）XML ルートとデータルートが同じ名前の場合、XML ルートをデータルートとみなします。

2）XML ルートとデータルートが異なる場合、XML ルート直下の子要素の中からデータルートを検索します。

以下に指定例を示します。この例では、XML ルート（Root）の子要素（Child）配下に存在するデータルートを検索して帳票をプレビューします。

```
-gxmlroot  /Root/Child
```

-gbardata バーコードデータの BASE64 エンコード指定

バーコード CODE128、EAN-128 の入力データのエンコード方法を指定します。

NONE　：CODE128、EAN-128 の入力データにエンコードしないデータを指定します。

BASE64　：CODE128、EAN-128 の入力データに BASE64 エンコードしたデータを指定します。

このオプションを省略すると、「NONE」が指定されたものとして動作します。

注意

- このオプションを指定する場合は、帳票設計時に対象となるバーコード項目（CODE128、EAN-128）に、以下の設定をしてください。
  - ・対象となるバーコード項目のプロパティの［プロパティ］タブの項目長
    BASE64 エンコードする前のバーコードデータの長さに +2 した長さ
  - ・データ定義画面の［データ定義（レポート頭書き）］タブ、［データ定義］タブのデータ項目のバイト数（入力データ形式が「固定長」の場合）
    BASE64 エンコードした後のバイト数
- 以下の場合、このオプションに「BASE64」を指定しないでください。
  - ・データ定義画面の［データ定義（レポート頭書き）］タブ、［データ定義］タブの該当するデータ項目にオペランドを指定した場合
  - ・データ定義画面の［データ定義（レポート頭書き）］タブ、［データ定義］タブのオペランドに該当するデータ項目名を指定した場合
  - ・データ定義画面の［拡張定義］タブに該当するデータ項目名を指定した場合

-visualdir メディアデータ格納ディレクトリ

メディアデータ格納ディレクトリをフルパスで指定します。組込みメディア項目のデータがファイル名のみの場合、メディアデータ格納ディレクトリ配下を検索します。
このオプションを省略すると、以下の優先順序で有効になります。

1）-assetsdir オプションで指定した帳票格納ディレクトリ
2）環境設定画面の［全般］タブで指定されている帳票格納ディレクトリ（List Creator デザイナをインストールしている場合は、帳票格納ディレクトリを帳票定義一覧画面のオプション画面からも切り替えることができます）

注意
- メディアデータ格納ディレクトリ名の末尾には、「円マーク（¥）」を指定しないでください。

-grpdelimit マルチフォーム用帳票名データ区切り文字

マルチフォーム出力する場合に指定します。区切り文字は、データ定義画面の［環境定義］タブで指定した入力データ形式と区切り文字にしたがって指定します。

任意の 1 バイト文字
: 以下の場合に、実際に使用する区切り文字を、「ダブルクォーテーション（"）」で囲んで指定します。
- 入力データ形式が「可変長」、区切り文字が「バーティカルバー（|）」「シャープ（#）」「アスタリスク（*）」「任意」のいずれかの場合
- 入力データ形式が「CSV 形式」、区切り文字が「カンマ（,）」の場合

SPACE
: 入力データ形式が「可変長」、区切り文字が「1 個以上の空白」の場合に指定します。

TAB
: 以下の場合に指定します。
- 入力データ形式が「可変長」、区切り文字が「タブ」の場合
- 入力データ形式が「CSV 形式」、区切り文字が「タブ」の場合

FIXED
: 入力データ形式が「固定長」、区切り文字が「区切り文字なし」の場合に指定します。

FIXED_DELIMIT
: 入力データ形式が「固定長」、区切り文字が「区切り文字あり」の場合に指定します。

XML
: 入力データ形式が「XML 形式」の場合に指定します。

オプションを指定するプレビューア初期画面を表示せずにマルチフォーム出力する帳票をプレビューする場合は、このオプションを必ず指定してください。
入力データ形式が「固定長」の場合（このオプションで「FIXED」または「FIXED_DELIMIT」を指定した場合）は、帳票名データのフィールド長を -grpbytes オプションで必ず指定してください。

注意
- 入力データの文字コード系が Unicode で、入力データ形式が「可変長」で、マルチフォーム用帳票名データ区切り文字に任意の 1 バイト文字を指定する場合、文字コードが 0x007F/0x7F 以下の文字を指定してください。
- 入力データの文字コード系が Unicode で、入力データ形式が「固定長」で、区切り文字に「区切り文字あり」を指定した場合、入力データ中のマルチフォーム用帳票名データ区切り文字には、文字コードが 0x007F/0x7F 以下の文字を指定してください。

以下に指定例を示します。この例では、入力データ形式が「CSV 形式」、区切り文字が「カンマ（,)」でマルチフォーム出力する場合の区切り文字を指定しています。

-grpdelimit ","

-grpbytes マルチフォーム用帳票名データフィールド長

データファイル中の帳票名データのフィールド長を指定します。
オプションを指定するプレビューア初期画面を表示せずにマルチフォーム出力する帳票をプレビューする場合で、入力データ形式が「固定長」の場合（-grpdelimit オプションに「FIXED」または「FIXED_DELIMIT」を指定した場合）は、このオプションを必ず指定してください。「区切り文字あり」の場合は、区切り文字を含まない長さを指定してください。
以下に指定例を示します。この例では、入力データ形式が「固定長」、区切り文字が「区切り文字なし」、データファイル中の帳票名データフィールド長が 20 バイトの場合でマルチフォーム出力する場合の区切り文字と帳票名データフィールド長を指定しています。

-grpdelimit FIXED -grpbytes 20

-y 接続先 DB タイプ

このオプションの詳細については、オンラインマニュアル“旧機能編”を参照してください。

-b 接続先 DB 名

このオプションの詳細については、オンラインマニュアル“旧機能編”を参照してください。

-u DB 接続ユーザ名

このオプションの詳細については、オンラインマニュアル“旧機能編”を参照してください。

-w DB 接続パスワード

このオプションの詳細については、オンラインマニュアル“旧機能編”を参照してください。

-o DB 接続時のタイムアウト時間

このオプションの詳細については、オンラインマニュアル“旧機能編”を参照してください。

-q SELECT 文の置換文字列

このオプションの詳細については、オンラインマニュアル“旧機能編”を参照してください。

-atuserid 出力ユーザ ID

帳票を出力したユーザを識別するために、帳票を出力するユーザの識別名（任意の文字列）を指定します。
このオプションで指定したユーザの識別名は、データ定義画面の［データ定義（レポート頭書き)］タブ、または［データ定義］タブのオペランドで USERID 演算子を指定したデータ項目に対して出力されます。
ユーザの識別名は、識別名を出力する項目の項目長に収まるバイト数以内で指定してください。
このオプションを省略すると、USERID 演算子を指定した項目には何も出力されません。

以下に指定例を示します。この例では、user1 を帳票を出力するユーザの識別名として指定しています。

-atuserid user1

備考

- このオプションで指定したユーザの識別名が、監査証跡ログのユーザ情報として出力されます。

-r 開始ページ番号

表示を開始するページ番号を指定します。
マルチフォーム出力する場合（-grpdelimit オプションを指定した場合）は、全帳票を通してのページ番号を指定します。
このオプションを省略すると、1 ページ目から表示を開始します。

-s SET 演算子の置換文字列

データ定義画面の［データ定義（レポート頭書き）］タブ、［データ定義］タブのデータ項目のオペランドで SET 演算子に変数「%」を指定した場合に、「%」の置換文字列を指定します。［データ定義（レポート頭書き）］タブのデータ項目用の置換文字列に続けて［データ定義］タブのデータ項目用の置換文字列を指定します。
置換文字列の指定形式については、以下を参照してください。
⇒ “8.5　SET 演算子 /SELECT 文の置換文字列の指定形式 ”

SET 演算子に変数「%」を指定した場合は、このオプションで置換文字列を必ず指定してください。

備考

- マルチフォーム出力する場合（-grpdelimit オプションを指定した場合）は、使用するすべての帳票に対して -s オプションで指定した同じ置換文字列が有効になります。

以下に指定例を示します。この例では、データ定義画面の［データ定義］タブで「会社コード」と「会社名」に「SET(%)」を指定し、帳票のプレビュー時に「会社コード」の「%」を数字定数「123」に、「会社名」の「%」を文字定数「○ × 商会」に置換しています。

データ定義画面の［データ定義］タブでの指定

データ項目名	オペランド
会社コード 会社名 郵便番号 住所 名前	SET(%)　　←数字定数「123」に置換したい SET(%)　　←文字定数「○ × 商会」に置換したい

⇒帳票のプレビュー時に、「prview -s "123;"○×商会"" ...」と指定します。

-atlfcode 改行コード制御指定

入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の入力データ中の改行コード（0x0D0A または 0x0A）のみの行の制御方法を指定します。

do　：改行コードのみの行は改行処理だけを行います。空の 1 行が出力されます。

skip　：改行コードのみの行は読み飛ばします。改行コードがなかったものとして動作します。

このオプションを省略すると、「skip」が指定されたものとして動作します。

注意

- このオプションは、入力データ形式が「可変長」、「固定長」、「CSV 形式」の場合に有効です。「XML 形式」の場合はエラーになります。
- このオプションは、以下の帳票形式を使用する際のオプションです。
  - ・ フリーフレーム形式
  - ・ 集計表形式
  - ・ 伝票形式
  - ・ 矩形繰返し形式
  - ・ タックシール形式

  カード形式の場合、このオプションで「do」（改行コードのみの行は改行処理だけを行う指定）を指定しないでください。指定した場合、入力データが出力されない空ページが出力されることになります。
- このオプションで「do」（改行コードのみの行は改行処理だけを行う指定）を指定した場合、データ定義画面の［データ定義］タブのデータ項目のオペランドに「BREAK」を指定すると、意図しない動作（データのある行と改行コードのみの行でBREAK が発生したことになる）となります。

-atffcode 改ページコード制御指定

入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の入力データ中の改ページコード（0x0D0C または 0x0C）の制御方法を指定します。

do ：改ページ処理を行います。

skip ：改ページ処理を行わず、改ページコードは読み飛ばします。
改ページコードがなかったものとして動作します。

none ：改ページ処理および改ページコードの読み飛ばしを行いません。
改ページコードを意識せずに入力データの読み込みを行うため、改ページコードが含まれると、不当な文字が出力されることがあります。

このオプションを省略すると、「none」が指定されたものとして動作します。

注意

- このオプションは、入力データ形式が「可変長」、「固定長」、「CSV 形式」の場合に有効です。「XML 形式」の場合はエラーになります。
- このオプションは、以下の帳票形式を使用する際のオプションです。
  - ・ フリーフレーム形式
  - ・ 集計表形式
  - ・ 伝票形式
  - ・ 矩形繰返し形式
  - ・ タックシール形式

  カード形式の場合、このオプションで「do」（改ページ処理を行う指定）を指定しないでください。指定した場合、入力データが出力されない空ページが出力されることになります。カード形式で改ページコードを含んだ入力データを使用する場合は、このオプションで「skip」を指定してください。

備考

- 改ページコード（0x0D0C または 0x0C）の前には、改行コード（0x0D0A または 0x0A）は、あってもなくても構いません。

-atnodata 入力データにデータがない場合の動作指定

入力データが 0 バイトの場合に、エラーとなるかどうかを指定します。

no ：エラーとします。

yes　：エラーとせず出力します。
入力データが 0 バイトの場合もエラーになりません。その場合、0 バイトの項目は、以下のように出力されます。

- テキスト項目
  出力されません（空白となります）。
- 数字項目
  0 が出力されます。
- OCR-B 項目
  出力されません（空白となります）。
- ラジオボタン項目
  選択されません。
- チェックボックス項目
  選択されません。
- バーコード項目
  出力されません（空白となります）。
- 組込みメディア項目
  出力されません（空白となります）。
- 郵便番号項目
  出力されません（空白となります）。
- 矩形テキスト項目
  出力されません（空白となります）。

このオプションを省略すると、「no」が指定されたものとして動作します。

注意

- 以下の場合、このオプションは指定しないでください。
  ・ 入力データ形式が「XML 形式」の場合
  ・ OCI 連携機能を使用してデータベース（Oracle）と連携する場合

備考

- 入力データにレコードが存在する場合は、通常の帳票出力時の印刷動作となります。ただし、該当するデータが存在しない項目については、このオプションの出力と同じ印刷動作となります。
- マルチフォーム出力時、入力データファイルにレコードが存在しない状態とは、以下の条件をすべて満たす状態を指します。
  ・ 帳票名およびマルチフォーム用帳票名データ区切り文字が記述されている
  ・ レコードには帳票名に続くデータが存在しない
  ・ 同一の帳票名に対してレコードが連続していない
  レコードが連続している場合は、入力データにレコードが存在すると判断するため、このオプションの動作指定は 1 レコード目にのみ有効となりますが、以降のレコードは通常の帳票出力時の印刷動作となります。

-atlabeldata　**項目名ラベル付きデータファイル指定**

入力データを「項目名ラベル付きデータファイル」として扱うかどうかを指定します。

no　：入力データを項目名ラベル付きデータファイルとして扱いません。

yes　：入力データを項目名ラベル付きデータファイルとして扱います。

このオプションを省略すると、「no」が指定されたものとして動作します。

注意
- 以下の場合、このオプションに「yes」を指定しないでください。
  - 入力データ形式が「固定長」または「XML 形式」の場合
  - OCI 連携機能を利用してデータベースと連携する場合

-atmapfontfile　置換フォント情報ファイル名

帳票出力時に使用する置換フォント情報ファイル名をフルパスで指定します。

置換フォント情報ファイルとは、帳票定義情報に定義されているフォントを帳票出力時に別のフォントに置き換えて出力する場合に、その置換え情報を指定するファイルです。

注意
- 置換フォント情報ファイルは、必ず Shift-JIS の文字コード系で記述してください。

以下に指定例を示します。この例では、置換フォント情報ファイル（C:¥temp¥mapfontfile.txt）を指定しています。

-atmapfontfile“C:¥temp¥mapfontfaile.txt”

-atbcodadjust　バーコード補正情報ファイル名

帳票出力時に使用するバーコード補正情報ファイル名をフルパスで指定します。

バーコード補正情報ファイルとは、帳票にバーコードを出力する場合に、出力先の環境に合わせてバーコードの出力結果を補正する情報を指定するファイルです。

注意
- バーコード補正情報ファイルは、必ず Shift-JIS の文字コード系で記述してください。

A.1.1.5 ［復帰値］

このコマンドの復帰値はありません。

A.1.1.6 ［注意］

- 以下の機能は使用できません。
  - Database Direct 連携機能を使用したデータベース連携
  - クエリ機能を使用したデータベース連携
  - 仕分け機能
  - SAP R/3 RDI 連携機能
  - Oracle E-Business Suite 連携機能
- プレビューア画面から印刷する場合、複数部数印刷時の部単位での印刷機能は無効になり、1 部だけ印刷されます。
- プレビューア画面から印刷する場合、帳票業務情報のプロパティ画面の［印刷］タブの区切りページ出力設定画面で設定した情報は無効になります。
- プレビューア画面から印刷する場合、帳票業務情報のプロパティ画面の［印刷］タブの印刷属性設定画面で設定された情報は無効になります。
- 段組み印刷が指定されていても、プレビューア画面では、1 ページに 1 段しか表示されません（印刷時は、段組み印刷されます）。
- 上記以外のプレビュー機能に関する注意事項については、以下を参照してください。
  ⇒ “13.4.2　プレビュー / 印刷に関する注意事項 ”

A.1.2 テストコマンド（prtest）

ここでは、帳票設計時に利用するコマンドについて説明します。

- prtest コマンド（帳票定義情報のレイアウト情報をテスト印刷する）

A.1.2.1 ［機能］

List Creator デザイナで作成した帳票定義情報の帳票様式のレイアウトをテスト印刷します。

このコマンドは、［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［ユーティリティ］－［テスト印刷］を選択してテスト印刷画面を表示し、オプションを指定することもできます。

注意

- このコマンドは、帳票設計時に利用するコマンドです。
- 組合せフォーム出力する場合は、テスト印刷で出力結果を確認することはできません。
  帳票設計時に組合せフォーム一覧からプレビューし確認するか、または、prprint コマンドなどを使用して出力結果を確認してください。

A.1.2.2 ［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

[ ] は、省略できることを示します。

```
prtest    [ "帳票名" ]
          [ -assetsdir          帳票格納ディレクトリ ]
          [ -n                  "印刷プリンタ名" ]
```

A.1.2.3 ［説明］

オプションについて説明します。すべてのオプションを省略すると、オプションを指定するテスト印刷画面が表示されます。

" 帳票名 "

帳票名を「ダブルクォーテーション（"）」で囲んで指定します。

オプションを指定する場合は、帳票名を必ず指定してください。

-assetsdir 帳票格納ディレクトリ

帳票格納ディレクトリをフルパスで指定します。

省略すると、環境設定画面の［全般］タブで指定されている帳票格納ディレクトリが有効になります（List Creator デザイナをインストールしている場合は、帳票格納ディレクトリを帳票定義一覧画面のオプション画面からも切り替えることができます)。

注意

- 帳票格納ディレクトリ名の末尾には、「円マーク（¥)」を指定しないでください。

-n " 印刷プリンタ名 "

使用する印刷プリンタ名を「ダブルクォーテーション（"）」で囲んで指定します。

省略すると、通常使うプリンタが有効になります。

注意

- 印刷用プリンタ以外のプリンタを指定した場合、または通常使うプリンタが印刷用プリンタになっていない場合、テスト印刷は正しく行われません。

備考

- 印刷プリンタ名は、プリンタフォルダで表示されるプリンタ名を「ダブルクォーテーション（"）」で囲んで指定します。ただし、リモートプリンタを使用する場合は、「"¥¥ コンピュータ名 ¥ プリンタ名 "」の形式で指定します。

A.1.2.4 ［記述例］

「帳票 1」という帳票様式のレイアウトをテスト印刷します。

```
prtest "帳票1"
```

A.1.2.5 ［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
-1	異常終了

A.1.2.6 ［補足］

- 以下の種別の項目は、擬似データを使用して印刷されます。

項目種別	擬似データの印刷形式
数字項目	指定された項目長・編集形式の擬似データ「9999....」 ただし、編集形式が日付の場合は、指定された項目長・編集形式の現在の日付
テキスト項目 矩形テキスト項目 OCR-B 項目	指定された項目長の擬似データ「XXXX....」
ラジオボタン項目 チェックボックス項目	選択されません（選択時情報と非選択時情報に指定されている文字列の長い方の項目長の擬似データ「XXXX....」が指定されたものとして動作します）。
バーコード項目	指定されたバーコード種別・項目長の擬似データ「9999....」のバーコード (*1)
組込みメディア項目	テスト印刷用ビットマップ
郵便番号項目	7 桁の擬似データ「9999999」
日付項目	指定された項目長・編集形式の現在の日付
時刻項目	指定された項目長・編集形式の現在の時刻

*1：code 3 of 9（EIAJ 準拠）の場合、以下のようなデータが印刷されます。

Z9999…

EAN-128（コンビニエンスストア向け）の場合、以下のようなデータが印刷されます。

91999…

- 1 部だけ印刷されます。
- 帳票業務情報のプロパティ画面の［印刷］タブの区切りページ出力設定画面で設定した情報は無効になります。
- 帳票業務情報のプロパティ画面の［印刷］タブの印刷属性設定画面で設定した情報は無効になります。
- 集計表形式およびフリーフレーム形式の帳票の場合、各パーティションが 1 回ずつ印刷されます。

A.1.3 帳票コード変換コマンド（prfcnv）

ここでは、帳票設計時に利用するコマンドについて説明します。

- prfcnv コマンド（帳票定義情報の文字コードを変換する）

A.1.3.1 ［機能］

List Creator デザイナで作成した帳票定義情報を EUC 環境または UNICODE（UTF8）環境の UNIX 系 OS 上で利用できるように、帳票の文字コード系を Shift-JIS から EUC または UNICODE（UTF8）に変換します。

このコマンドは、［スタート］－［プログラム］－［List Creator］－［ユーティリティ］－［帳票コード変換］を選択して帳票コード変換画面を表示し、オプションを指定することもできます。

A.1.3.2 ［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

[ ] は、省略できることを示します。

```
prfcnv    [ -assetsdir      帳票格納ディレクトリ ]
          [ "帳票名" | -all ]
          [ -inlistcode     文字コード系]
          [ -o              変換先ディレクトリ ]
          [ -w ]
          [ -m ]
```

A.1.3.3 ［説明］

オプションについて説明します。すべてのオプションを省略すると、オプションを指定する帳票コード変換画面が表示されます。

-assetsdir 帳票格納ディレクトリ

帳票格納ディレクトリを 260 バイト以内のフルパスで指定します。ただし、変換先ディレクトリと同一のディレクトリは指定しないでください。

省略すると、環境設定画面の［全般］タブで指定されている帳票格納ディレクトリが有効になります（List Creator デザイナをインストールしている場合は、帳票格納ディレクトリを帳票定義一覧画面のオプション画面からも切り替えることができます)。

" 帳票名 "

特定の帳票を変換対象にします。

帳票名を「ダブルクォーテーション（")」で囲んで指定します。

オプションを指定する場合は、帳票名または -all オプションを必ず指定してください。ただし、帳票名と -all オプションを同時に指定すると、エラーになります。

-all

帳票格納ディレクトリ配下のすべての帳票を変換対象にします。

オプションを指定する場合は、このオプションまたは帳票名を必ず指定してください。ただし、このオプションと帳票名を同時に指定すると、エラーになります。

-inlistcode 文字コード系

変換後の帳票の文字コード系を指定します。

EUC	：EUC
UTF8	：UNICODE（UTF8）

省略すると、EUC に文字コード変換されます。

-o 変換先ディレクトリ

変換後の帳票を格納するディレクトリを 260 バイト以内のフルパスで指定します。ただし、帳票格納ディレクトリと同一のディレクトリは指定しないでください。

オプションを指定する場合は、このオプションは、必ず指定してください。

-w

変換先ディレクトリにすでに同名の帳票が存在し、上書きする場合に指定します。
省略し、変換先ディレクトリにすでに同名の帳票が存在した場合、コマンドはエラーになります。

-m

メッセージボックスの表示を抑止する場合に指定します。

A.1.3.4 ［記述例］

「C:¥Assets¥A」配下にある「保険契約書」という帳票を「UNICODE（UTF8）」に文字コード変換し、「C:¥Assets¥B」配下に格納します。

```
prfcnv "保険契約書" -assetsdir "C:¥Assets¥A" -inlistcode "UTF8" -o "C:¥Assets¥B"
```

A.1.3.5 ［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	メッセージ
0	（変換が完了しました。メッセージは出力されません）
-1	変換先ディレクトリを指定してください。
-2	指定された帳票格納ディレクトリは存在しません。
-3	指定された変換先ディレクトリは存在しません。
-4	指定された帳票格納ディレクトリには帳票が存在しません。
-5	指定された帳票格納ディレクトリに指定できない文字（/ , ; * ? " < > | #）が含まれています。
-6	指定された変換先ディレクトリに指定できない文字（/ , ; * ? " < > | #）が含まれています。
-7	指定された変換先ディレクトリへのアクセスが拒否されました。
-8	指定された帳票格納ディレクトリへのアクセスが拒否されました。
-9	帳票格納ディレクトリと変換先ディレクトリに同じディレクトリは指定できません。
-10	コマンドライン引数の指定が正しくありません。
-11	存在しないオプションが指定されました。
-12	メモリ不足のため、動作できませんでした。
-13	ディスク容量不足のため、変換できませんでした。
-14	帳票格納ディレクトリの取得に失敗しました。
-17	帳票格納ディレクトリにある帳票へのアクセスが拒否されました。
-18	指定された帳票は存在しません。
-19	変換先ディレクトリにある帳票へのアクセスが拒否されました。
-20	指定された帳票格納ディレクトリのパスが長すぎます。
-21	指定された変換先ディレクトリのパスが長すぎます。
-22	変換先ディレクトリにすでに帳票が存在します。
-23	変換先ディレクトリに指定された帳票と同じ名前のディレクトリが存在します。
-24	帳票名が長すぎます。
-25	処理中にエラーが発生しました。
-26	変換処理中にエラーが発生しました。
-28	指定したディレクトリ名が不正です。

A.1.3.6 ［補足］

- 変換できない文字は、全角の「＿」、または半角の「_」に置き換えられます。

A.1.3.7 ［注意］

- 入力データの文字コード系が EUC（S90）の場合は、Charset Manager をインストールし、代表コード系を S90 にして、帳票を文字コード変換してください。代表コード系の設定方法は、Charset Manager のマニュアルを参照してください。
- 帳票を文字コード変換しても、帳票名は文字コード変換されません。帳票名を EUC 環境または UNICODE（UTF8）環境で扱える半角英数字の名前に変更してください。帳票名は、帳票定義一覧画面で帳票を選択し、［ファイル］ー［名前の変更］を選択して変更してください。
- 変換済みの帳票を変換対象としないでください。
- UNIX 系 OS のシステムに配置した帳票定義情報は、出力することはできますが、UNIX 系 OS 上で帳票の定義を更新することはできません。
  Windows 上で作成した帳票（文字コード変換する前のもの）は、UNIX 系 OS 上に配置した後も、Windows 上から削除せずに保管しておいてください。

A.1.4 パスワードコマンド（prsetpasswd）

ここでは、リモート帳票出力ユーザのパスワードを設定するコマンドについて説明します。

- prsetpasswd コマンド（リモート帳票出力を行う場合のリモート帳票出力ユーザを設定する）

備考

- Administrators 権限を持つユーザのみ、リモート帳票出力ユーザを登録 / 削除できます。
  Administrators 権限を持たないユーザの場合は、リモート帳票出力ユーザの表示のみできます。
- Windows Server 2008 でリモート帳票出力ユーザの登録 / 削除を行う場合は、「管理者：コマンド プロンプト」からパスワードコマンドを実行してください。
  「管理者：コマンド プロンプト」を起動するには、［スタート］メニューの［コマンド プロンプト］のアイコンを右クリックし、表示されるメニューから「管理者として実行」を選択します。

A.1.4.1 ［機能］

リモート帳票出力を行う場合のリモート帳票出力ユーザを設定できます。また、現在の設定値を表示できます。

通常は、リモート帳票出力ユーザを設定する必要はありません。

以下の運用を行う場合、リモート帳票出力を行う前に、アプリケーションサーバ上で prsetpasswd コマンドを使用して、リモート帳票出力ユーザを設定してください。

- 帳票出力サーバが Windows XP で、フォルダオプションの設定に「簡易ファイルの共用を使用する（推奨）」を設定してリモート帳票出力を行う場合
- SYSTEM アカウントで動作するサービスプロセスからリモート帳票出力を行う場合
- ファイアウォールやルータにより 445/tcp ポート (microsoft-ds (*1)) をブロックしている場合

  *1：ダイレクト・ホスティング SMB サービスの通信に使われるポート番号で、ファイルとプリンタの共有やリモート管理などに利用されます。

備考

- リモート帳票出力には、仕分け機能、XBRL データ対応機能、Navigator 連携機能、および Database Direct 連携機能を使用したリモート帳票出力型も含まれます。

A.1.4.2 ［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。
[　] は、省略できることを示します。

ユーザを登録 / 変更する場合

```
prsetpasswd  -a
             -u   ユーザ名
            [ -p  パスワード]
```

登録されているユーザを削除する場合

```
prsetpasswd  -x
             -u   ユーザ名
```

登録されているユーザを表示する場合

```
prsetpasswd  -l
```

A.1.4.3 ［説明］

オプションについて説明します。

ユーザを登録 / 変更する場合

-a

ユーザを登録する場合、および登録されているユーザのパスワードを変更する場合に指定します。

-u ユーザ名

登録 / 変更するユーザ名を指定します。ユーザを登録する場合は、帳票出力サーバに登録されているユーザ名を指定します。指定できるユーザ名は、空白を含む半角英数字で 48 文字以内で指定されたユーザ名です。

半角英字は大文字と小文字の区別がされず、同じユーザ名として扱われます。

-p パスワード

登録 / 変更するパスワードを指定します。

指定できるパスワードは、空白を含む半角英数字で 14 文字以内で指定されたパスワードです。

省略すると、画面にパスワードの入力を促すメッセージが表示されます。

注意

- -p オプションを指定した場合、コマンド実行時にパスワードがそのまま画面に表示されてしまうため、注意が必要です。

登録されているユーザを削除する場合

-x

登録されているユーザを削除する場合に指定します。

-u ユーザ名

削除するユーザ名を指定します。

登録されているユーザを表示する場合

-l

登録されているユーザを一覧表示する場合に指定します。ユーザの一覧は、登録されている順序で表示されます。

A.1.4.4 ［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

A.1.4.5 ［注意］

- リモート帳票出力時に、このコマンドでリモート帳票出力ユーザを設定しなかった場合は、アプリケーションサーバと同じユーザが帳票出力サーバに登録されている必要があります。
- このコマンドは同時に複数のユーザに対して操作できません。
- どのユーザでリモート帳票出力を実行しても帳票出力サーバで動作するユーザを 1 つに統一して運用したい場合は、prsetpasswd コマンドでユーザを 1 つだけ登録してください。
- リモート帳票出力を実行するユーザと、帳票出力サーバで動作するユーザを同じにしたい場合は、リモート帳票出力や仕分け（リモート帳票出力型）を実行するユーザをすべて prsetpasswd コマンドで登録してください。
  この場合、登録されていないユーザがリモート帳票出力を行うと、帳票出力サーバでは一番目に登録されたユーザで動作します。
- リモート帳票出力時に prsetpasswd コマンドで設定したリモート帳票出力ユーザを有効にする場合は、prputprt コマンドや prassort コマンドで -rmuserpasswd オプションを指定してください。

以下に、リモート帳票出力ユーザの登録順序と、実際に適用されるリモート帳票出力ユーザ名の例を示します。

A.1.5　List Creator 環境設定コマンド（PrSetEnvKey）

ここでは、List Creator の動作環境を設定するコマンドについて説明します。

- PrSetEnvKey コマンド（List Creator の動作環境を設定する）

A.1.5.1　［機能］

List Creator で帳票出力する場合の、以下の動作についての環境を設定するコマンドです。

- 帳票の文字や図形にカラーの指定が行われていた場合の動作（カラー指定時の動作）
- 指定したプリンタが使用できない場合の動作（指定プリンタ出力不可時の動作）
- Unicode の入力データにサロゲートペアが出現した場合の動作（サロゲートペア出現時の動作）
- 入力データ形式が「CSV 形式」のデータ中にダブルクォーテーション（"）が 2 つ続く場合の動作（CSV 形式ダブルクォーテーションエスケープの動作）
- フリーフレーム形式の改フレームまたは改ページの動作（フリーフレーム形式の改フレーム / 改ページの動作）

なお、このコマンドを使用する場合、以下の注意事項を必ずご確認の上でご使用ください。

⇒ “A.1.5.6 ［注意］”

以下に、このコマンドで設定できる動作環境について説明します。

カラー指定時の動作

出力する帳票の文字や図形にカラーの指定が行われていた場合の動作として、以下のいずれかが設定できます。

- ・カラーの指定を有効とし、カラーデータで出力する
- ・カラーの指定を無効とし、モノクロデータで出力する
- ・プリンタ装置の設定にしたがって出力する

指定プリンタ出力不可時の動作

指定したプリンタが見つからない、または指定したプリンタに出力できない場合の動作として、以下のいずれかが設定できます。

- ・通常使うプリンタに出力する
- ・エラーを通知し、出力を中止する

備考

- 指定プリンタ出力不可時の動作が「通常使うプリンタに出力する」と設定すると、以下の場合は、“表 3.2　運用形態 / 機能と通常使うプリンタ”の「帳票を出力したユーザの通常使うプリンタ」に出力されます。
・指定したプリンタが見つからない場合
・指定したプリンタに出力できない場合
・「環境設定で指定した List Creator の通常使うプリンタ」にも出力できない場合

サロゲートペア出現時の動作

Unicode の入力データにサロゲートペアが出現した場合の動作として、以下のいずれかが設定できます。

- ・サロゲートペアとして扱う
  （上位サロゲートと下位サロゲートが不完全な場合はエラーとする）
- ・サロゲートペアとして扱わない
  （サロゲートペアとして不完全でもエラーとしない、V9.2.0 までの互換動作）

備考

- サロゲートペア出現時の動作として「サロゲートペアとして扱う」と設定するとサロゲートペアが出力できますが、「サロゲートペアとして扱わない」と設定するとサロゲートペアは出力できません

CSV 形式ダブルクォーテーションエスケープの動作

入力データ形式が「CSV 形式」のデータ中にダブルクォーテーション（"）が 2 つ続いた場合の動作として、以下のいずれかが設定できます。

- ・1 つのダブルクォーテーションとして扱う
  例）"aaa","b""bb","ccc"　⇒　「aaa」「b"bb」「ccc」

・ 2 つのダブルクォーテーションとして扱う

備考

- CSV 形式ダブルクォーテーションエスケープの動作として「2 つのダブルクォーテーションとして扱う」と設定して、ダブルクォーテーションを 2 つ続ける場合は、フィールドデータごとにダブルクォーテーションで囲んでください。

フリーフレーム形式の改フレーム / 改ページの動作

フリーフレーム形式の帳票定義情報に以下が定義されている場合の、改フレーム / 改ページの動作を設定します。

・ 行ピッチがフレームパーティションの縦幅以上で指定されている
・ 印刷前改行数に 1 以上が指定されているフレームパーティションを、フレームの先頭に配置している

以下のいずれかが設定できます。

・ List Creator V7.0 までの互換動作とする
・ List Creator V8.0.0 での変更後の動作とする

List Creator V8.0.0 において、フリーフレーム形式の帳票出力を変更しました。

List Creator V7.0 以前では、フレームの最後に出力するパーティションがフレームに収まる縦幅であるにもかかわらず、改フレームまたは改ページされて出力されていましたが、List Creator V8.0.0 以降では、収 まって出力されるように変更しました。

この変更を無効として、List Creator V7.0 以前と同様のタイミングで改フレームまたは改ページするように設定できます。

A.1.5.2 ［記述形式］

コマンドの記述形式を、以下の場合に分けて示します。

- 環境設定の情報を変更する場合
- 環境設定の情報を削除する場合
- 環境設定の情報を表示する場合

●環境設定の情報を変更する場合

［ ］は、省略できることを示します。

```
PrSetEnvKey -a
        [-colorprint カラー指定時の動作]
        [-defprinter 指定プリンタ出力不可時の動作]
        [-surrogatepair  サロゲートペア出現時の動作]
        [-csvwqescape  CSV形式ダブルクォーテーションエスケープの動作]
        [-freefrm_nfff  フリーフレーム形式の改フレーム/改ページの動作]
```

●環境設定の情報を削除する場合

［ ］は、省略できることを示します。

```
PrSetEnvKey -d
        [-colorprint]
        [-defprinter]
        [-surrogatepair]
        [-csvwqescape]
        [-freefrm_nfff]
```

●環境設定の情報を表示する場合

```
PrSetEnvKey -l
```

A.1.5.3 ［説明］

コマンドのオプションについて、以下の場合に分けて説明します。

- 環境設定の情報を変更する場合
- 環境設定の情報を削除する場合
- 環境設定の情報を表示する場合

●環境設定の情報を変更する場合

-a

以下の動作に関する設定値を変更する場合に指定します。
- 帳票の文字や図形にカラーの指定が行われていた場合の動作
- 指定プリンタに出力できない場合の動作

-colorprint　カラー指定時の動作

帳票の文字や図形にカラーの指定が行われていた場合の動作を指定します。
以下のいずれかの値を指定できます。

color　：カラーの指定を有効とし、カラーデータで出力します。

mono　：カラーの指定を無効とし、モノクロデータで出力します。

auto　：プリンタ装置の設定、またはカラー印刷機能のサポート状況にしたがって出力します。

なお、List Creator インストール直後（初期値）は「auto」が設定されています。

-defprinter　指定プリンタ出力不可時の動作

指定したプリンタが見つからない、または指定したプリンタに出力できない場合の動作を指定します。
以下のいずれかの値を指定できます。

defprt　：通常使うプリンタに出力します。

noprt　：エラーを通知し、帳票出力処理を中止します。

なお、List Creator インストール直後（初期値）は「defprt」が設定されています。

-surrogatepair　サロゲートペア出現時の動作

Unicode の入力データにサロゲートペアが出現した場合、サロゲートペアとして扱うかどうかを指定します。

on　：サロゲートペアとして扱います。

off　：サロゲートペアとして扱いません。

なお、List Creator インストール直後（初期値）は「on」が設定されています。

-csvwqescape　CSV 形式ダブルクォーテーションエスケープの動作

入力データ形式が「CSV 形式」のデータ中にダブルクォーテーション（"）が 2 つ続いた場合、1 つのダブルクォーテーションとして扱うかどうかを指定します。

yes　：1 つのダブルクォーテーションとして扱います。

no　：2 つのダブルクォーテーションとして扱います。

なお、List Creator インストール直後（初期値）は「no」が設定されています。

-freefrm_nfff　フリーフレーム形式の改フレーム / 改ページの動作

フリーフレーム形式の改フレームまたは改ページの動作を List Creator V7.0 以前の動作とするかどうかを指定します。

7　：List Creator V7.0 までの互換動作とします。

0　　　　　　：List Creator V8.0.0 での変更後の動作とします。

なお、List Creator インストール直後（初期値）は「0」が設定されています。

●環境設定の情報を削除する場合

-d

カラー指定時、または指定プリンタ出力不可時の動作に関する設定内容を削除する場合に指定します。

-colorprint

帳票の文字や図形にカラーの指定が行われていた場合の動作に関する設定内容を削除します。
削除すると、カラー指定時の動作は、List Creator インストール直後（初期値）の「auto」に戻ります。

-defprinter

指定プリンタ出力不可時の動作に関する設定内容を削除します。
削除すると、指定プリンタ出力不可時の動作は、List Creator インストール直後（初期値）の「defprt」に戻ります。

-surrogatepair

サロゲートペア出現時の動作に関する設定内容を削除します。
削除すると、サロゲートペア出現時の動作は、List Creator インストール直後（初期値）の「on」に戻ります。

-csvwqescape

CSV 形式ダブルクォーテーションエスケープの動作に関する設定内容を削除します。
削除すると、CSV 形式ダブルクォーテーションエスケープの動作は、List Creator インストール直後（初期値）の「no」に戻ります。

-freefrm_nfff

フリーフレーム形式の改フレームまたは改ページの動作に関する設定内容を削除します。
削除すると、フリーフレーム形式の改フレームまたは改ページの動作は、List Creator インストール直後（初期値）の「0」に戻ります。

●環境設定の情報を表示する場合

-l

このコマンドで設定した環境設定の情報を表示する場合に指定します。

A.1.5.4 ［記述例］

●環境設定の情報を変更する場合

帳票の文字や図形にカラーの指定が行われていた場合にカラーデータを出力します。
この場合、カラー指定時の動作を有効にします（「color」に変更します）。

```
PrSetEnvKey -a -colorprint color
```

●環境設定の情報を削除する場合

カラー指定時の動作を、List Creator インストール直後の設定（初期値）に戻します。

```
PrSetEnvKey -d -colorprint
```

●環境設定の情報を表示する場合

カラー指定時の動作を、または指定プリンタ出力不可時の動作に関する設定内容を表示します。

```
PrSetEnvKey -l
```

A.1.5.5 ［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

A.1.5.6 ［注意］

- 本コマンドで設定した環境設定の内容は、COBOL アプリケーション連携機能使用時には有効となりません。
- 本コマンドで環境設定の内容を変更・削除する場合は、必ず Administrators 権限を持つユーザで実行してください。Administrators 権限を持たないユーザで実行した場合は、環境設定情報の表示のみ行えます。
- Windows Server 2008/Windows Vista/Windows 7 の UAC（ユーザーアカウント制御）が有効な環境で環境設定の変更を行う場合は、「管理者：コマンド プロンプト」を使用してください。

備考

- 「管理者：コマンド プロンプト」を起動するには、［スタート］メニューから［コマンド プロンプト］を選択する場合に、右クリックして表示されるコンテキストメニューから、「管理者として実行」を選択します。
- Windows Server 2008/Windows Vista/Windows 7 で、ビルドイン Administrator にて実行した場合は「管理者として実行」を選択しなくても、環境設定の変更を行うことができます。

A.2 【UNIX 系 OS 版】の場合

A.2.1 テストコマンド

ここでは、Windows 上で作成した帳票を UNIX 系 OS 上でテスト印刷する場合に利用するコマンドについて説明します。

- prtest コマンド（帳票様式のレイアウトをテスト印刷する）

A.2.1.1 テストコマンド実行時に設定する環境変数

コマンド実行時には、次の環境変数を設定してください。なお、コマンドをコマンドラインから実行する場合は、Bourne シェルまたは C シェル上で実行してください。これ以外のシェル上で実行すると、コマンドオプションで指定する日本語が正しく解釈されず、正しく動作しない場合があります。

- LD_LIBRARY_PATH（List Creator のライブラリ格納フォルダを指定する）
- PATH（List Creator のコマンド格納フォルダを指定する）
- LANG（コマンドの実行環境の文字コード系（コマンドがコマンドオプション、帳票などを扱うときの文字コード系）を指定する）
- OA_EUCTYPE（EUC コード種別を指定する）
- OA_ASSETSDIR（List Creator の帳票格納ディレクトリを指定する）

● LD_LIBRARY_PATH（必須）

List Creator のライブラリ格納フォルダを指定する環境変数です。

この環境変数に List Creator の以下のライブラリ格納フォルダが最優先になるように追加してください。

- 「/opt/FJSVoast/lib」
- 「/opt/FJSVoastw/lib」（OWF ファイルを生成する場合のみ）
- 「/etc/opt/FSUNiconv/lib」（Charset Manager を使用する場合のみ）

この環境変数は、必ず指定してください。

例：Bourne シェルを使用して環境変数 LD_LIBRARY_PATH を指定する場合

```
LD_LIBRARY_PATH=/opt/FJSVoast/lib:/etc/opt/FSUNiconv/lib:$LD_LIBRARY_PATH
export  LD_LIBRARY_PATH
```

● PATH（必要時）

List Creator のコマンド格納フォルダを指定する環境変数です。

コマンドをコマンド名だけで実行したい場合に、この環境変数に List Creator のコマンド格納フォルダ（「/opt/FJSVoast/bin」）を追加してください。

なお、コマンドをフルパスで実行する場合は、この環境変数を指定する必要はありません。

例：Bourne シェルを使用して環境変数 PATH を指定する場合

```
PATH=/opt/FJSVoast/bin:$PATH
export  PATH
```

● LANG（必須）

コマンドの実行環境の文字コード系（コマンドがコマンドオプション、帳票などを扱うときの文字コード系）を指定する環境変数です。

入力データ形式が「可変長」、「固定長」、または「CSV 形式」の場合は、入力データもこの文字コード系で扱います。

この環境変数は、必ず指定してください。

アプリケーションサーバが Solaris の場合

指定できる値 (*1)	意味
ja(*2) ja_JP.eucJP(*2)	EUC コード系であることを示します。
ja_JP.PCK	Shift-JIS コード系であることを示します。
ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8	UNICODE（UTF8）コード系であることを示します。

*1：指定できる値以外の値（文字列）が指定された場合、帳票出力時に日本語が表示されないなどの問題が発生します。
*2：「ja」または「ja_JP.eucJP」を指定した場合は、必ず環境変数 OA_EUCTYPE で EUC コード種別（「u90」または「s90」）を指定してください。なお、「ja」または「ja_JP.eucJP」のどちらを指定しても、動作に違いはありません。

アプリケーションサーバが Linux の場合

指定できる値 (*1)	意味
ja_JP.eucJP(*2)	EUC コード系であることを示します。
ja_JP.UTF-8 en_US.UTF-8(*3)	UNICODE（UTF8）コード系であることを示します。

*1：指定できる値以外の値（文字列）が指定された場合、帳票出力時に日本語が表示されないなどの問題が発生します。
*2：「ja_JP.eucJP」を指定した場合は、必ず環境変数 OA_EUCTYPE で EUC コード種別（「u90」または「s90」）を指定してください。
*3：【Linux for x86/Linux for Itanium 版】の場合、「en_US.UTF-8」は未サポートです。

● OA_EUCTYPE（必要時）

環境変数 LANG に EUC コード系（「ja」または「ja_JP.eucJP」）を指定した場合に、EUC コード種別を指定する環境変数です。

環境変数 LANG に EUC コード系を指定した場合は、この環境変数で EUC コード種別（「u90」または「s90」）を必ず指定してください。

なお、環境変数 LANG に Shift-JIS コード系（「ja_JP.PCK」）または UNICODE（UTF8）コード系を指定した場合は、この環境変数を指定しても無効になります。

指定できる値	意味
u90(*1)	EUC（U90）コード系であることを示します。
s90(*1)	EUC（S90）コード系であることを示します。

*1：必ず小文字で指定してください。
*2：環境変数 LANG に EUC コード系を指定したときにこの環境変数を指定しないと、以下の文字が正しく出力されない場合があります。
- 利用者定義文字（U90 / S90）
- OASYS 拡張漢字（U90）
- JEF 拡張漢字 / 非漢字（U90）
- JIS 漢字 / 非漢字のうち 83 年度 JIS で字体変更された文字、および 90 年度 JIS で追加された文字（U90 / S90）

例：Bourne シェルを使用して環境変数 LANG と OA_EUCTYPE を指定する場合

(1) EUC（U90）コード系を指定する場合

```
LANG=ja_JP.eucJP
OA_EUCTYPE=u90
export  LANG  OA_EUCTYPE
```

(2) EUC（S90）コード系を指定する場合

```
LANG=ja_JP.eucJP
OA_EUCTYPE=s90
export  LANG  OA_EUCTYPE
```

(3) Shift-JIS コード系を指定する場合（【Solaris 版】の場合）

```
LANG=ja_JP.PCK
export  LANG
```

(4)UNICODE（UTF8）コード系を指定する場合

```
LANG=ja_JP.UTF-8
export  LANG
```

注意

- テストコマンドでは入力データを用意する必要はありませんが、入力データに合わせて、帳票の文字コード系の変換、およびコマンドオプションの指定をする必要があります。帳票やコマンドオプションは、実際に帳票の出力時に使用する入力データと同じ文字コード系にしておく必要があります。

● OA_ASSETSDIR（必要時）

List Creator の帳票格納ディレクトリを指定する環境変数です。

帳票格納ディレクトリは、以下に示す方法で指定できます。番号は、帳票格納ディレクトリが複数の方法で同時に指定された場合に有効になる優先順序です。

1）コマンドオプション（-assetsdir）で指定した帳票格納ディレクトリ

2）環境変数 OA_ASSETSDIR で指定した帳票格納ディレクトリ

3）prsetassetsdir コマンドで設定した帳票格納ディレクトリ

例：Bourne シェルを使用して環境変数 OA_ASSETSDIR を指定する場合

```
OA_ASSETSDIR=/home/user1
export  OA_ASSETSDIR
```

A.2.1.2 prtest コマンド

［機能］

帳票様式のレイアウトをテスト印刷します。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

[　] は、省略できることを示します。

【Solaris 版】の場合

```
prtest    [ -assetsdir        帳票格納ディレクトリ ]
          [ -d                FM出力時のプリンタ機種名/FNP出力指定 ]
          [ -n                印刷プリンタ名 ]
          "帳票名"
```

【Linux 版】の場合

```
prtest    [ -assetsdir        帳票格納ディレクトリ ]
          [ -d                FNP出力指定 ]
          [ -n                印刷プリンタ名 ]
          "帳票名"
```

［説明］

オプションについて説明します。

-assetsdir 帳票格納ディレクトリ

帳票格納ディレクトリを 512 バイト以内のフルパスで指定します。

省略すると、以下の優先順序で有効になります。

1）環境変数 OA_ASSETSDIR で指定した帳票格納ディレクトリ

2）prsetassetsdir コマンドで設定した帳票格納ディレクトリ

注意

- 帳票格納ディレクトリの末尾には、「スラッシュ（/）」を指定しないでください。

-d FM 出力時のプリンタ機種名 /FNP 出力指定

プリンタに FM 出力または FNP 出力する場合に、印刷するプリンタ機種名を指定します。

帳票出力サーバが Solaris の場合

VSP4610A	: VSP4620A プリンタ装置の場合に指定します。
VSP4701	: VSP4720、または VSP4730B プリンタ装置の場合に指定します。
VSP4900	: VSP4902 プリンタ装置の場合に指定します。
VSP4950	: VSP4971、または VSP4980 プリンタ装置の場合に指定します。
VSPSP	: VSP シリアルプリンタ装置の場合に指定します。 プリンタ機種名は、VSP2740、VSP2740B、VSP3601A、VSP3710A、VSP3710B、VSP3802A、または VSP3802B です。
FNP	: FNP 出力を行う場合に指定します。

帳票出力サーバが Linux の場合

FNP	: FNP 出力を行う場合に指定します。

省略すると、PostScript 出力されます。

注意

- プリンタに PostScript 出力する場合は、このオプションを指定しないでください。
- FNP 出力する場合、ここでの指定とは別に、必ず -n オプションで実際に印刷するプリンタ名を指定する必要があります。
  List Creator では、以下のプリンタ装置で出力できることを確認しています。
  - 帳票出力サーバが Solaris の場合
    VSP4902、VSP4971
  - 帳票出力サーバが Linux の場合
    VSP4720

-n 印刷プリンタ名

使用する印刷プリンタ名を指定します。

省略すると、LP 印刷サービス、またはプリンタ設定で設定したデフォルトプリンタに指定したプリンタが有効になります。

注意

- 印刷用プリンタ以外のプリンタを指定した場合、またはデフォルトプリンタが印刷用プリンタになっていない場合、テスト印刷は正しく行われません。

"帳票名"

帳票名を「ダブルクォーテーション（"）」で囲んで指定します。
帳票名は、必ずコマンドラインの最後に指定してください。

［記述例］

FM 出力の場合

FM 出力で、プリンタ「lp0（プリンタ機種名 VSP4701）」に、「/home/user1」配下の「URIAGE」という帳票様式のレイアウトをテスト印刷します。
帳票「URIAGE」の文字コード系は EUC（u90）です。

```
PATH=/opt/FJSVoast/bin:$PATH
LANG=ja
OA_EUCTYPE=u90
LD_LIBRARY_PATH=/opt/FJSVoast/lib:/etc/opt/FSUNiconv/lib:$LD_LIBRARY_PATH
OA_ASSETSDIR=/home/user1
export  PATH  LANG  OA_EUCTYPE  LD_LIBRARY_PATH  OA_ASSETSDIR

prtest  -d  VSP4701  -n  lp0  "URIAGE"
```

FNP 出力の場合

FNP 出力で、プリンタ「lp0」に、「/home/user1」配下の「URIAGE」という帳票様式のレイアウトをテスト印刷します。
帳票「URIAGE」の文字コード系は EUC（u90）です。

```
PATH=/opt/FJSVoast/bin:$PATH
LANG=ja_JP.eucJP
OA_EUCTYPE=u90
LD_LIBRARY_PATH=/opt/FJSVoast/lib:$LD_LIBRARY_PATH
OA_ASSETSDIR=/home/user1
export  PATH  LANG  OA_EUCTYPE  LD_LIBRARY_PATH  OA_ASSETSDIR

prtest  -d  FNP  -n  lp0  "URIAGE"
```

PostScript 出力の場合

PostScript 出力で、プリンタ「lp0」に、「/home/user1」配下の「URIAGE」という帳票様式のレイアウトをテスト印刷します。
帳票「URIAGE」の文字コード系は UNICODE（UTF8）です。

```
PATH=/opt/FJSVoast/bin:$PATH
LANG=ja_JP.UTF-8
LD_LIBRARY_PATH=/opt/FJSVoast/lib:$LD_LIBRARY_PATH
OA_ASSETSDIR=/home/user1
export  PATH  LANG  LD_LIBRARY_PATH  OA_ASSETSDIR

prtest  -n  lp0  "URIAGE"
```

［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

［補足］

- 以下の種別の項目は、擬似データを使用して印刷されます。

項目種別	擬似データの印刷形式
数字項目	指定された項目長・編集形式の擬似データ「9999....」 ただし、編集形式が日付の場合は、指定された項目長・編集形式の現在の日付
テキスト項目 矩形テキスト項目 OCR-B 項目	指定された項目長の擬似データ「XXXX....」
ラジオボタン項目 チェックボックス項目	選択されません（選択時情報と非選択時情報に指定されている文字列の長い方の項目長の擬似データ「XXXX....」が指定されたものとして動作します）。
バーコード項目	指定されたバーコード種別・項目長の擬似データ「9999....」のバーコード (*1)
組込みメディア項目	テスト印刷用ビットマップ
日付項目	指定された項目長・編集形式の現在の日付
時刻項目	指定された項目長・編集形式の現在の時刻

*1：code 3 of 9（EIAJ 準拠）の場合、以下のようなデータが印刷されます。

Z9999…

EAN-128（コンビニエンスストア向け）の場合、以下のようなデータが印刷されます。

91999…

- 1 部だけ印刷されます。
- 帳票業務情報のプロパティ画面の[印刷]タブの印刷属性設定画面で設定した情報は無効になります。
- 集計表形式またはフリーフレーム形式の帳票の場合、各パーティションが 1 回ずつ印刷されます。

A.2.2 List Creator の環境設定コマンド

ここでは、List Creator の環境設定時に使用するコマンドについて説明します。

環境設定コマンドの設定は、システム管理者権限でのみ実行できます。一般ユーザは、設定値を確認することはできますが、変更することはできません。

- prsetassetsdir コマンド（帳票格納ディレクトリを設定する）
- prsetremenv コマンド（作業用ディレクトリとネットワークの環境を設定する）
- prsetpasswd コマンド（Windows へのリモート帳票出力ユーザを設定する）
- prsetlog コマンド（トラブル発生時の調査用ログの環境を設定する）
- prsetdigitovermsg コマンド（データが項目長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作を設定する）
- prsetterritovermsg コマンド（データが領域長の範囲を超える場合のメッセージの通知動作を設定する）
- prsetdatalog コマンド（入力データの退避環境を設定する）

A.2.2.1　環境設定コマンド実行時に設定する環境変数

コマンド実行時には、次の環境変数を設定してください。

- LD_LIBRARY_PATH（List Creator のライブラリ格納フォルダを指定する）
- PATH（List Creator のコマンド格納フォルダを指定する）

● LD_LIBRARY_PATH（必要時）

List Creator のライブラリ格納フォルダを指定する環境変数です。

prsetdigitovermsg コマンドおよび prsetterritovermsg コマンドを実行する場合に、この環境変数に List Creator の以下のライブラリ格納フォルダ（「/opt/FJSVoast/lib」）を追加してください。

例：Bourne シェルを使用して環境変数 LD_LIBRARY_PATH を指定する場合

```
LD_LIBRARY_PATH=/opt/FJSVoast/lib:$LD_LIBRARY_PATH
export  LD_LIBRARY_PATH
```

● PATH（必要時）

List Creator のコマンド格納フォルダを指定する環境変数です。

コマンドをコマンド名だけで実行したい場合に、この環境変数に List Creator のコマンド格納フォルダ（「/opt/FJSVoast/bin」）を追加してください。

なお、コマンドをフルパスで実行する場合は、この環境変数を指定する必要はありません。

例：Bourne シェルを使用して環境変数 PATH を指定する場合

```
PATH=/opt/FJSVoast/bin:$PATH
export  PATH
```

A.2.2.2　prsetassetsdir コマンド

［機能］

帳票を出力するときの帳票格納ディレクトリを設定できます。また、現在の設定値を表示できます。
設定の変更を有効にするには、システムの再起動が必要です。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

帳票格納ディレクトリを設定する場合

```
prsetassetsdir    -s        帳票格納ディレクトリ
```

帳票格納ディレクトリを表示する場合

```
prsetassetsdir
```

［説明］

オプションについて説明します。

-s 帳票格納ディレクトリ

帳票格納ディレクトリを 512 バイト以内のフルパスで指定します。

帳票出力時、帳票格納ディレクトリは以下の優先順序で有効になります。

1）帳票の出力時に指定した帳票格納ディレクトリ
2）環境変数 OA_ASSETSDIR で指定した帳票格納ディレクトリ
3）このコマンドで設定した帳票格納ディレクトリ

省略すると、現在の帳票格納ディレクトリが表示されます。

注意

- 帳票格納ディレクトリの末尾には、「スラッシュ（/）」を指定しないでください。
- 帳票格納ディレクトリ配下には、帳票を出力するユーザが読み取りできる権限を付けてください。読み取りできる権限がない場合、帳票を出力できません。

備考

- インストール直後の帳票格納ディレクトリは「/var/opt/FJSVoast/assets」です。
- このオプションを指定した場合、指定した帳票格納ディレクトリ、および帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）がすでに存在する場合は、設定を変更し終了します。
指定した帳票格納ディレクトリ、または帳票格納ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）が存在しない場合は、ディレクトリを作成するかどうかを促すメッセージが表示されます。メッセージに対して「y」で応答すると、ディレクトリを作成し、設定を変更します。「n」で応答すると設定の変更は行いません。

［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

A.2.2.3　prsetremenv コマンド

［機能］

リモート帳票出力時の作業用ディレクトリ、およびネットワークトラフィックを少なくするための負荷軽減レベルを設定できます。また、現在の設定値を表示できます。

設定の変更を有効にするには、システムの再起動が必要です。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

[ ] は、省略できることを示します。

値を設定する場合

```
prsetremenv      [ -d        作業用ディレクトリ ]
                 [ -c        負荷軽減レベル ]
```

現在の設定値を表示する場合

```
prsetremenv      -l
```

［説明］

オプションについて説明します。

値を設定する場合

-d 作業用ディレクトリ

リモート帳票出力時に帳票出力サーバ側に転送された帳票や一時的に作成される作業用ディレクトリや作業用ファイルの格納ディレクトリを 512 バイト以内のフルパスで指定します。

省略すると、作業用ディレクトリは変更されません。

注意

- 作業用ディレクトリの末尾には、「スラッシュ（/）」を指定しないでください。
- 作業用ディレクトリ配下には、帳票を出力するユーザが読み取り、書き込みできる権限を付けてください。読み取り、書き込みできる権限がない場合、帳票を出力できません。

備考

- インストール直後の作業用ディレクトリは「/var/opt/FJSVoast/remdir」です。
- このオプションを指定した場合、指定した作業用ディレクトリ、および作業用ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）がすでに存在する場合は、設定を変更し終了します。
指定した作業用ディレクトリ、または作業用ディレクトリ配下のオーバレイ格納ディレクトリ（kol5）が存在しない場合は、ディレクトリを作成するかどうかを促すメッセージが表示されます。メッセージに対して「y」で応答すると、ディレクトリを作成し、設定を変更します。「n」で応答すると設定の変更は行いません。

-c 負荷軽減レベル

リモート帳票出力時、List Creatorでは、8Kバイト単位でデータを転送します。データを8Kバイト転送した後、次のデータを転送するまでの間隔を調整する場合に指定します。

負荷軽減レベルを上げるほどデータ転送は遅くなりますが、ネットワークへの負荷を軽くできます。

0	：調整しない（間隔なし（もっとも高速にデータを転送します））
1	：レベル1（0.02秒間隔）
2	：レベル2（0.04秒間隔）
3	：レベル3（0.06秒間隔）
4	：レベル4（0.08秒間隔）
5	：レベル5（0.10秒間隔）
6	：レベル6（0.12秒間隔）
7	：レベル7（0.14秒間隔）
8	：レベル8（0.16秒間隔）
9	：レベル9（0.18秒間隔）
10	：レベル10（0.20秒間隔）

省略すると、負荷軽減レベルは変更されません。

通常は変更する必要はありません。ネットワークの負荷が高く、その他の業務が滞るというような問題が発生した場合にのみ、運用に応じて調整してください。

備考

- インストール直後の負荷軽減レベルは「0（調整しない）」です。
- 通常は「0（調整しない）」を選択してください。環境にもよりますが、10MbpsのLAN環境で1Mバイトのデータを転送する場合、「0（調整しない）」では2.5秒程度、「10（レベル10）」では「0（調整しない）」の10倍程度の時間がかかります。

現在の設定値を表示する場合

-l

現在の設定値（作業用ディレクトリ、負荷軽減レベル）を表示する場合に指定します。

［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0以外	異常終了

A.2.2.4 prsetpasswd コマンド

［機能］

Windows へのリモート帳票出力、および以下の機能を使用して Windows へのリモート帳票出力を行う場合のリモート帳票出力ユーザを登録 / 変更 / 削除 / 表示できます。

- XBRL データ対応機能
- Navigator 連携機能
- Database Direct 連携機能

設定の変更を有効にするには、システムの再起動が必要です。

注意

- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合は、このコマンドでリモート帳票出力ユーザを設定する必要はありません。ただし、アプリケーションサーバでリモート帳票出力をするユーザが、帳票出力サーバに登録されている必要があります。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

ユーザを登録 / 変更する場合

```
prsetpasswd    -a
               -u     ユーザ名
               [ -p   パスワード]
```

登録されているユーザを削除する場合

```
prsetpasswd    -x
               -u     ユーザ名
```

登録されているユーザを表示する場合

```
prsetpasswd    -l
```

［説明］

オプションについて説明します。

ユーザを登録 / 変更する場合

コマンドを実行すると、パスワードの入力を促すメッセージが表示されます。

-a

ユーザを登録する場合、および登録されているユーザのパスワードを変更する場合に指定します。

-u ユーザ名

登録 / 変更するユーザ名を指定します。ユーザを登録する場合は、帳票出力サーバ（Windows）に登録されているユーザ名を指定します。

指定できるユーザ名は、空白を含む半角英数字で 47 文字以内で指定されたユーザ名です。

Windows へのリモート帳票出力を複数ユーザで運用する場合、ユーザ名の英字の大文字、小文字は区別されます。

-p パスワード

登録 / 変更するパスワードを指定します。

指定できるパスワードは、空白を含む半角英数字で 14 文字以内で指定されたパスワードです。

省略すると、画面にパスワードの入力を促すメッセージが表示されます。

注意

- -p オプションを指定した場合、コマンド実行時にパスワードがそのまま画面に表示されてしまうため、注意が必要です。

登録されているユーザを削除する場合

-x

登録されているユーザを削除する場合に指定します。

-u ユーザ名

削除するユーザ名を指定します。

登録されているユーザを表示する場合

-l

登録されているユーザを一覧表示する場合に指定します。ユーザの一覧は、登録されている順序で表示されます。

［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

A.2.2.5 prsetlog コマンド

［機能］

トラブル発生時の調査用のログ（プログラムトレースログ / ネットワークトレースログ）の採取環境を設定できます。また、現在の設定値を表示できます。

設定の変更を有効にするには、システムの再起動が必要です。

トラブル発生時の調査用のログは、トラブル発生時に当社技術員が確認するためのログであり、確認することはできません。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

[ ] は、省略できることを示します。

値を設定する場合

```
prsetlog  [ -p    プログラムトレースレベル ]
          [ -n    ネットワークトレースレベル ]
          [ -s    ファイルサイズ ]
```

現在の設定値を表示する場合

```
prsetlog  -l
```

［説明］

オプションについて説明します。

値を設定する場合

-p プログラムトレースレベル

帳票を出力するときのプログラムの処理結果やその他の情報の採取レベルを指定します。

LEVEL1 ～ 3　：プログラムトレースを採取するレベルには LEVEL1 ～ LEVEL3 まであります。
初期値は LEVEL3 です。

省略すると、プログラムトレースレベルは変更されません。

-n ネットワークトレースレベル

帳票やデータファイル、メディアデータファイルなどをネットワーク転送する場合など、通信に関する処理結果やその他の情報の採取レベルを指定します。

NO_GET　　　　：ネットワークトレースを採取しません。
初期値は「採取しない」です。

LEVEL1、2　　　：ネットワークトレースを採取するレベルには LEVEL1、LEVEL2 があります。

省略すると、ネットワークレースレベルは変更されません。

注意
- 以下の場合、ネットワークトレースログの設定は無効になります。
・ コネクタ連携機能使用時
・ COBOL アプリケーション連携機能使用時

-s ファイルサイズ

トレースログのファイルサイズを 64 ～ 99999K バイトの範囲で指定します。
帳票出力 1 回につき、採取されるログのサイズの目安は以下のとおりです。エラーが発生した場合、以下のサイズに加えて 1K バイト程度のログが採取されます。運用に合わせてファイルサイズを指定してください。

プログラムトレースが LEVEL1、ネットワークトレースが LEVEL1 の場合
：1.5K バイト

プログラムトレースが LEVEL3、ネットワークトレースが LEVEL1 の場合
：4.0K バイト

トレースログがいっぱいになった場合は、古いログから順に上書きされます。ファイルサイズを変更した場合は、変更前に採取されたトレースログの内容は無効になります。
トラブルが発生したときに、すぐに障害調査用情報採取ツールによりファイルを退避できない場合は、余裕を持って 10240K バイト（10M バイト）程度のサイズを指定してください。
省略すると、ファイルサイズは変更されません。

備考
- インストール直後のログファイルサイズは「8192」K バイトです。
- トレースログを採取した場合、格納ディレクトリに以下のログファイルが作成されます。
これらのログファイルのサイズは、環境設定のファイルサイズとなります。
・ trslog
・ f3gbmeft.log
また、格納ディレクトリには、以下のログファイルも作成されます。
・ f3gbmiss.log（サイズは 1024K バイト固定）
このため、格納ディレクトリには、以下の空きディスク容量が必要です。
ファイルサイズ ×2 ＋ 1024K バイト

現在の設定値を表示する場合

-l

現在の設定値（プログラムトレースレベル、ネットワークトレースレベル、ファイルサイズ（K バイト単位)、ログファイル名）を表示する場合に指定します。

［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

A.2.2.6 prsetdigitovermsg コマンド

［機能］

項目長にデータが収まらない場合のメッセージの通知動作を設定できます。設定の変更による、システムの再起動は不要です。

メッセージは、以下の場合にシステムログに通知されます。

- 項目に対するデータが項目長を超える場合
- 項目に指定された演算の演算結果が項目長を超える場合
（ただし、演算結果で小数点以下の桁数が項目長を超えた場合については通知されません）

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

値を設定する場合

```
prsetdigitovermsg -s エラー通知指定
```

現在の設定値を表示する場合

```
prsetdigitovermsg -l
```

［説明］

オプションについて説明します。

値を設定する場合

-s エラー通知指定

項目長にデータが収まらない場合に、メッセージを通知するかどうかを指定します。

N : 通知しません。

E :「エラー」として通知し、出力処理を中断します。

W :「警告」として出力処理終了時に通知します。

備考

- インストール直後のエラー通知指定は「N」です。

現在の設定値を表示する場合

-l

現在の設定値を表示する場合に指定します。

［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

A.2.2.7 prsetterritovermsg コマンド

［機能］

項目の領域内にデータが収まらない場合のメッセージの通知動作について設定します。設定の変更による、システムの再起動は不要です。

メッセージは、以下の場合にシステムログに通知されます。

- 項目に対するデータが領域長を超える場合

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

値を設定する場合

```
prsetterritovermsg -s エラー通知指定
```

現在の設定値を表示する場合

```
prsetterritovermsg -l
```

［説明］

オプションについて説明します。

値を設定する場合

-s エラー通知指定

項目の領域内にデータが収まらない場合に、メッセージを通知するかどうかを指定します。

N	：通知しません。
E	：「エラー」として通知し、出力処理を中断します。
W	：「警告」として出力処理終了時に通知します。

注意

- Excel ファイル出力時、エラー通知指定は有効になりません。

備考

- インストール直後のエラー通知指定は「N」です。

現在の設定値を表示する場合

-l

現在の設定値を表示する場合に指定します。

［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

A.2.2.8　prsetdatalog コマンド

［機能］

帳票出力サーバで入力データを退避するかどうかの設定を行います。入力データを退避するときの退避先ディレクトリを変更することもできます。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。
[　] は、省略できることを示します。

値を設定する場合

```
prsetdatalog        [-s  入力データの退避動作指定]
                    [-p  入力データの退避先ディレクトリのパス]
```

現在の設定値を表示する場合

```
prsetdatalog        -l
```

［説明］

オプションについて説明します。

値を設定する場合

-s　入力データの退避動作指定

入力データを退避するかどうかを指定します。

0　　：帳票の入力データを退避しません。

1　　：帳票の入力データを退避します。

備考

- インストール直後の入力データの退避動作指定は「0」です。

-p　入力データの退避先ディレクトリのパス

入力データを退避する場合の退避先ディレクトリは 512 バイト以内のフルパスで指定します。

注意

- 退避先のパスの末尾には、「スラッシュ（/）」を指定しないでください。
- 退避先のディレクトリ配下には、帳票を出力するユーザが読み取り、および書き込みできる権限を付けてください。読み取り、および書き込みできる権限がない場合、入力データを退避できません。

備考

- インストール直後の入力データの退避先ディレクトリのパスは「/var/opt/FJSVoast/tmp」です。

現在の設定値を表示する場合

-l

現在の設定値を表示する場合に指定します。

［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

注意

- 入力データの退避は、帳票出力サーバが Linux for x86 の場合は未サポートです。
- トラブルの迅速な解決を行うため、アプリケーションの開発中は入力データを退避することを推奨します。
  ただし、以下の注意事項を考慮してセキュリティに問題がないか検討し、退避するかどうかを判断してください。特に、運用中の退避については十分な検討が必要です。
  - ・入力データを退避する指定を行った場合、ユーザアプリケーションで指定したデータが退避されます。そのため、退避されたデータにセキュリティ上重要な情報が含まれる場合は、取り扱いに注意してください。
    また、入力データを退避するコンピュータは、セキュリティを考慮して、ログインユーザやディレクトリアクセスを制限するなどの対応を行って運用してください。
  - ・入力データの退避先ディレクトリには、帳票を出力するユーザが読み取り、および書き込みできる権限を付けてください。読み取り、および書き込みできる権限がない場合、入力データを退避できません。
  - ・入力データの退避先には、ローカルディスク上のディレクトリを指定してください。退避先には、以下を指定しないでください。
    - リモートマウントしたディレクトリ
    - リムーバブルディスク
  - ・OCI 連携機能使用時、および COBOL アプリケーション連携機能使用時は、入力データを退避することはできません。設定は無効になります。
  - ・退避した入力データは自動的に削除されません。退避した入力データが不要となった場合は、手動で削除してください。
  - ・入力データの退避先の空き容量が 256M バイト以下になった場合は、システムログにメッセージ ID「00631」のメッセージが出力されます。
    この場合、入力データは退避されません。不要なファイルを削除して容量の確保を行うか、または退避するディレクトリを変更してください。
  - ・入力データの退避が不要となった場合は、入力データを退避しないように設定を変更してください。
  - ・入力データの退避を行った場合には、コンピュータの負荷が増加するため、帳票出力時の性能に影響することがあります。
  - ・Web 手元印刷型で入力データを退避する場合は、Web クライアントで環境設定を行う必要があります。詳細については、以下を参照してください。
    ⇒ "6.2.3　トレースログ環境設定 "

備考

- 退避した入力データのファイル名などの情報は、システムログにメッセージ ID「00629」のメッセージで出力されます。

A.2.3　OWF ファイル生成に関する環境設定コマンド

OWF ファイルに外字エンベッドするフォントの登録など、Web 手元印刷時に有効となる動作環境の設定を行います。

システム管理者権限でのみ実行できます。

- prfntent コマンド（エンベッドするフォントを登録する）
- prfntlst コマンド（エンベッドするフォントの登録状態を表示する）
- prfntrm コマンド（エンベッドするフォントの登録を抹消する）
- prsetjisglyph コマンド（出力する字体を設定する）

コマンドは、以下に格納されています。

格納場所	/opt/FJSVoastw/bin

環境変数 PATH には、コマンドの格納先フォルダは追加されません。以下のいずれかの方法でコマンドを実行してください。

- コマンドをフルパスまたは相対パスで指定してコマンドを実行する
- 環境変数 PATH にコマンドの格納先フォルダを追加してコマンドを実行する

環境変数 PATH にコマンドの格納先フォルダを追加する方法については、以下を参照してください。

⇒“A.2.3.1　OWF ファイル生成に関する環境設定コマンド実行時に設定する環境変数”

注意

- OWF ファイルを生成するアプリケーションが起動されていないことを確認してください。
- COBOL アプリケーション連携機能使用時、帳票出力サーバでは、以下の環境設定のみ有効となります。
  ・ prsetjisglyph コマンド（出力する字体を設定する）

A.2.3.1　OWF ファイル生成に関する環境設定コマンド実行時に設定する環境変数

OWF ファイル生成に関する環境設定コマンド実行時には、次の環境変数を設定してください。

- PATH（List Creator の Web アプリケーション連携機能のコマンド格納フォルダを指定する）

● PATH（必要時）

List Creator の Web アプリケーション連携機能のコマンド格納フォルダを指定する環境変数です。

コマンドをコマンド名だけで実行したい場合に、この環境変数に List Creator の Web アプリケーション連携機能のコマンド格納フォルダ（「/opt/FJSVoastw/bin」）を追加してください。

なお、コマンドをフルパスで実行する場合は、この環境変数を指定する必要はありません。

例：Bourne シェルを使用して環境変数 PATH を指定する場合

```
PATH=/opt/FJSVoastw/bin:$PATH;export PATH
```

A.2.3.2　prfntent コマンド

［機能］

OWF ファイルに外字エンベッドするフォントを List Creator に登録します。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

[　] は、省略できることを示します。

```
prfntent    -f      フォントファイル名
            [ -x    TTCファイル内の書体の番号 ]
            -e      外字フォントファイル名
```

［説明］

オプションについて説明します。

-f フォントファイル名

フォントファイル（TTF ファイルまたは TTC ファイル）へのフルパスを指定します。

-x TTC ファイル内の書体の番号

TTC ファイルを指定するときは、TTC ファイル内の何番目の書体を登録するかを指定します。
先頭の書体を登録する場合は、「1」を指定します。
TTC ファイルを指定するときは、必ず指定してください。

-e 外字フォントファイル名

リンクする外字フォントファイル（TTE ファイル）へのフルパスを指定します。

A.2.3.3 prfntlst コマンド

［機能］

OWF ファイルに外字エンベッドするフォントの登録状態を表示します。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

```
prfntlst
```

［説明］

画面上には、フォントごとに List Creator へのフォントの登録状態を、以下の形式で表示します。

```
フォント番号 : フォント名 : フォントファイル名 : 外字フォントファイル名 : TTCファイル内の書体の番号
```

A.2.3.4 prfntrm コマンド

［機能］

OWF ファイルに外字エンベッドするフォントの登録を抹消します。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。
[ ] は、省略できることを示します。

```
prfntrm    フォント番号
           [ -all ]
```

［説明］

オプションについて説明します。

フォント番号

List Creator に登録されているフォントを抹消するフォント番号を指定します。
フォント番号は、prfntlst コマンドによって、行の先頭に表示される番号です。

-all

List Creator に登録されているフォントをすべて抹消します。
このオプションを指定した場合、「フォント番号」に指定した数値は無効となります。

A.2.3.5 prsetjisglyph コマンド

［機能］

OWF ファイルを Web ブラウザでプレビュー / 印刷する場合に、出力文字の字体を JIS90 規格の字体で出力するか、出力環境のシステム依存の字体で出力するかを設定できます。

［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

値を設定する場合

```
prsetjisglyph -j 字体指定
```

現在の設定値を表示する場合

```
prsetjisglyph -l
```

［説明］

オプションについて説明します。

値を設定する場合

-j 字体指定

出力文字の字体を指定します。

90 : JIS90 規格の字体で出力します。

0 : システム依存の字体で出力します。

備考

- インストール直後の字体指定は「0」です。

現在の設定値を表示する場合

-l

現在の設定値を表示する場合に指定します。

［復帰値］

復帰値を示します。

復帰値	意味
0	正常終了
0 以外	異常終了

注意

- この指定は、以下の条件を満たす場合に有効になります。
  - ・ プレビュー / 印刷する場合
  - ・ 出力環境が Windows Server 2008、Windows Vista、または Windows 7 の場合
  - ・ 使用するフォントが字体の切り替えに対応しているフォントの場合

  有効とならなかった場合は、システムに依存した字体で帳票が出力されます。
- 出力する字体の設定は、帳票出力サーバが Linux for x86 の場合は、未サポートです。
- フォントに縦書きフォント（@ 付きフォント）を指定している場合、以下のことに注意してください。
  - ・ 縦書き時に回転しない文字（括弧など）や、横書きフォントと異なるパターンで出力される文字（句読点など）でも、横書きフォントと同じパターンで反時計回りに 90 度回転して出力されます。
  - ・「JIS90 規格の字体で出力する」を選択した場合、字体の切り替わった文字は回転せず、横書きフォントと同じ方向で出力されます。

A.3 監査証跡ログ操作コマンド

ここでは、監査証跡ログファイルを操作するコマンドについて説明します。
監査証跡ログ操作コマンドは、Administrators 権限またはシステム管理者権限でのみ実行できます。

- lclogcheck コマンド（監査証跡ログファイルが改ざんされていないかチェックする）
- lclogdelexpire コマンド（監査証跡ログファイルを削除する）

> 備考
> - Windows Server 2008 などの UAC（ユーザーアカウント制御）が有効な環境で監査証跡ログ操作コマンドを実行する場合は、「管理者：コマンド プロンプト」を使用してください。
> 「管理者：コマンド プロンプト」を起動するには、［スタート］メニューの［コマンド プロンプト］のアイコンを右クリックし、表示されるメニューから「管理者として実行」を選択します。
> なお、Windows Server 2008、Windows Vista、または Windows 7 で、ビルドイン Administrator にて実行した場合は「管理者として実行」を行わなくても、操作コマンドを実行できます。

A.3.1 監査証跡ログ操作コマンド実行時に設定する環境変数（【UNIX 系 OS 版】の場合）

監査証跡ログ操作コマンド実行時には、次の環境変数を設定してください。

- PATH（List Creator のコマンド格納フォルダを指定する）

● PATH（必要時）

List Creator のコマンド格納フォルダを指定する環境変数です。
コマンドをコマンド名だけで実行したい場合に、この環境変数に List Creator のコマンド格納フォルダ（「/opt/FJSVoast/bin」）を追加してください。
なお、コマンドをフルパスで実行する場合は、この環境変数を指定する必要はありません。

例：Bourne シェルを使用して環境変数 PATH を指定する場合

```
PATH=/opt/FJSVoast/bin:$PATH
export  PATH
```

A.3.2 lclogcheck コマンド

A.3.2.1 ［機能］

監査証跡ログファイルのログに対し、以下の改ざんが行われていないかをログ単位（行単位）で確認します。

- ログが不正に書き換えられていないか
- ログが不正に追加されていないか
- 記録されたはずのログが削除されていないか

A.3.2.2 ［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。

```
lclogcheck    -l    ログファイル種別
                    ログファイル名
```

A.3.2.3 ［説明］

オプションについて説明します。

-l　ログファイル種別

改ざんチェック対象の監査証跡ログファイル種別を、必ず指定します。

output　：出力ログを対象にします。

ログファイル名

改ざんチェック対象の監査証跡ログファイル名を、フルパスまたはカレントディレクトリからの相対パスで、必ず指定します。

ログファイル名は、複数指定できません。

A.3.2.4 ［記述例］

監査証跡ログファイル「lc_output.20060530.log」が改ざんされていないか確認します。

```
lclogcheck -l output lc_output20060530.log
```

A.3.2.5 ［注意］

改ざんされたログは特定できますが、ログのどの情報が改ざんされたかは検出できません。

A.3.2.6 ［補足］

正しく出力されたログを、同一のログファイルまたは別のログファイルに複写して追加されている場合、「改ざん防止情報 1 (YY) のログが複数存在します。ログが不正に追加されています。」のメッセージが出力されます（YY には数字が出力されます）。

この場合、以下の手順で、不正に追加されたログを削除してください。

1）メッセージに出力された、改ざん防止情報 1 が YY のログをすべて抽出します。

2）抽出した、改ざん防止情報 1 が YY のログの内容を確認し、不要なログを削除します。

- 抽出したログの内容がまったく同じである場合
  1 つのログを残し、その他は削除してください。
- 抽出したログの内容が異なる場合
  改ざん防止情報 1 が（YY-1）のログと、改ざん防止情報 1 が（YY+1）のログの出力日時（出力開始 / 完了日時）を確認します。
  改ざん防止情報 1 が YY の出力日時が、これらのログの出力日時の間にない日時だった場合、そのログは不正に追加されたログです。不正に追加されたログを削除してください。

A.3.2.7 ［メッセージ］

コマンド実行時に出力されるメッセージについて、以下に示します。

付表 A.2 lclogcheck コマンド実行時に出力されるメッセージ（1 / 2）

メッセージ	説明	復帰値
ログファイルからは改ざんは検出されませんでした。	改ざんが検出されませんでした。 監査証跡ログファイルは信頼できます。	0
XX 行目に改ざんされたログが存在します。	XX 行目のログから改ざんが検出されました。 改ざんされたログは、監査証跡ログとしては使用できません。	1
改ざん防止情報 1 (YY) のログが削除、または改ざんされています。	改ざん防止情報 1 が「YY」のログが削除または改ざんされているため、確認できませんでした。	1
改ざん防止情報 1 (YY) よりも大きなログがすべて削除されています。	改ざん防止情報 1 が「YY」よりも大きなログが存在していたはずですが、すべて削除されています。 削除された行数は不明です。	1
改ざん防止情報 1 (YY) のログが複数存在します。ログが不正に追加されています。	改ざん防止情報 1 が「YY」のログは、1 ファイルに 1 つしか存在しないはずですが、複数確認されました。 1 つのログを除き、他のログは不正に追加されたログです。 "A.3.2.6 ［補足］" を参照して、不正に追加されたログを特定し、削除してください。	1
改ざん防止情報 1 (YY) のログが不正に追加されています。	改ざん防止情報 1 が「YY」のログが不正に追加されました。 このログを削除してください。	1
チェック不可能な改ざんが検出されました。	最終行は、1 ファイルに 1 つしか存在しないはずですが、複数確認されました。不正に追加されたログが存在するため、このファイルに記録されているログはすべて保障できません。	1

付表 A.2 lclogcheck コマンド実行時に出力されるメッセージ（２ / ２）

メッセージ	説明	復帰値
OS の管理者権限がありません。権限のあるユーザでログインしてください。	ログインしたユーザに Administrators 権限またはシステム管理者権限がありません。Administrators 権限またはシステム管理者権限を持つユーザでログオンし、コマンドを再度実行してください。	-1
オプションが不当、ログファイル種別が指定されていない、またはログファイル種別が不当です。	不当なオプション、不当なログファイル種別が指定されているか、またはログファイル種別が指定されていません。 コマンドパラメタを確認してください。	-1
ログファイル名が指定されていません。 ログファイルを指定してください。	監査証跡ログファイル名が指定されていません。チェック対象の監査証跡ログファイル名を正しく指定してください。	-1
ログファイルが存在しません。	指定した監査証跡ログファイルが存在しません。 監査証跡ログファイルが存在するか確認してください。	-1
ログファイルパスが長すぎる、または不当なファイル名が指定されました。	指定した監査証跡ログファイル名が長すぎる、またはファイル名が不適切です。 ファイル名を確認し、適切なファイル名を指定してください。	-1
ログファイルが空です。	指定した監査証跡ログファイルの中身がありません。 正しい監査証跡ログファイルを指定してください。	1
ログファイルを開く権限がありません。	指定した監査証跡ログファイルを開く権限がありません。 指定したパス、および監査証跡ログファイルの権限を見直してください。	-1
メモリ資源不足です。不要なアプリケーションを終了するか、メモリを増設してください。	動作中にメモリ不足が発生しました。 使用中のアプリケーションを終了させるなどの対応を行い、十分なメモリを確保してください。	-1
ログファイルを開けません (%1)。	監査証跡ログファイルが開けませんでした。 %1 には、エラーコードが出力されます。 障害調査用情報採取ツールを使用して調査資料を採取し、当社技術員に連絡してください。	-1
改ざんチェックに失敗しました (%1)。	改ざんチェック処理中に異常が発生しました。 %1 には、内部コードが出力されます。 障害調査用情報採取ツールを使用して調査資料を採取し、当社技術員に連絡してください。	-1
行の入れ替えによる改ざんが検出されました。	行の入れ替えによる改ざんが検出されました。 行の入れ替えが行われていないか確認してください。	1
Internal Error	監査証跡ログファイルの改ざんチェックコマンド（lclogcheck コマンド）が適切なメッセージを出力できませんでした。 障害調査用情報採取ツールを使用して調査資料を採取し、当社技術員に連絡してください。	(*1)

*1 :「0」「1」「-1」のいずれかになります。メッセージの出力は異常ですが、正常な処理結果を復帰値に設定しています。

なお、障害調査用情報採取ツールについては、オンラインマニュアル“トラブルシューティング・メッセージ集”を参照してください。

A.3.3 lclogdelexpire コマンド

A.3.3.1 ［機能］

監査証跡ログファイルを削除します。

A.3.3.2 ［記述形式］

コマンドの記述形式を示します。
[ ] は、省略できることを示します。

```
lclogdelexpire    [-deldate   ファイル作成日]
                  [-deldir    監査証跡ログファイル格納ディレクトリ]
                  [-nomsg]
```

A.3.3.3 ［説明］

オプションについて説明します。

-deldate ファイル作成日

削除対象とする監査証跡ログファイルの作成日を、過去の日付（「YYYYMMDD」形式）で指定します。現在、および未来の日付は指定できません。
以下に、指定例を示します。
例：20040521
指定した日付以前の監査証跡ログファイルを削除対象とします。
省略すると、過去の日付のすべての監査証跡ログファイル（コマンド実行当日の監査証跡ログファイルを除く）が削除対象となります。なお、環境設定ファイル（OutputKeepLog キー）で保存期間が設定されている監査証跡ログファイルも削除対象となります。

-deldir 監査証跡ログファイル格納ディレクトリ

削除対象の監査証跡ログファイルが格納されているディレクトリをフルパスで指定します。
省略すると、環境設定ファイル（lc_env.conf）に設定されている監査証跡ログファイル格納ディレクトリの、監査証跡ログファイルが削除対象となります。

-nomsg

削除時の確認メッセージを表示しない場合に指定します。
省略すると、削除確認メッセージが表示されます。

A.3.3.4 ［記述例］

監査証跡ログファイルを削除します。

```
lclogdelexpire
```

A.3.3.5 ［メッセージ］

コマンド実行時に出力されるメッセージについて、以下に示します。

付表 A.3 lclogdelexpire コマンド実行時に出力されるメッセージ（1 / 2）

メッセージ	説明
ログファイルの削除が正常に終了しました。	監査証跡ログファイルの削除が正常に終了しました。
該当するログファイルが存在しませんでした。	指定した監査証跡ログファイルが存在しません。 監査証跡ログファイルが存在するか確認してください。
OS の管理者権限がありません。権限のあるユーザでログインしてください。	ログインしたユーザに Administrators 権限またはシステム管理者権限がありません。Administrators 権限またはシステム管理者権限を持つユーザでログオンし、コマンドを再度実行してください。
%1 オプションが複数回指定されています。	オプションが複数回指定されました。オプションの指定を確認してください。 %1 には、オプション名が表示されます。

付表 A.3 lclogdelexpire コマンド実行時に出力されるメッセージ（２ / ２）

メッセージ	説明
存在しないオプションが指定されました。%1 コマンドでは %2 オプションは指定できません。	存在しないオプションが指定されました。オプションの指定を確認してください。 %1 には、コマンド名（lclogdelexpire）が表示されます。 %2 には、オプション名が表示されます。
ログファイル日付の指定が不当です。	不当なログファイル日付、または現在 / 未来のログファイル日付が指定されました。指定した値を確認してください。
ログファイル格納ディレクトリが存在しません (%1)。	指定した監査証跡ログファイルの格納ディレクトリが存在しません。監査証跡ログファイルの格納ディレクトリが存在するか確認してください。 %1 には、「OUTPUTLOG」（出力ログ）が出力されます。
ログファイル格納ディレクトリパスが長すぎる、または不当なディレクトリパスが指定されました (%1)。	指定した監査証跡ログファイルの格納ディレクトリのパスが長すぎる、またはディレクトリ名が不適切です。 監査証跡ログファイルの格納ディレクトリを確認し、適切なディレクトリを指定してください。 %1 には、「OUTPUTLOG」（出力ログ）が出力されます。オプション解析中は、出力されない場合があります
ログファイルパスが長すぎる、または不当なログファイルパスが指定されました (%1)。	指定した監査証跡ログファイル名が長すぎる、またはファイル名が不適切です。 ログファイル格納ディレクトリを確認し、適切なディレクトリパスを指定してください。 %1 には、監査証跡ログファイル名が出力されます。
オプション (%1) のパラメタが指定されていない、または指定されたパラメタが不当です。	オプションパラメタが指定されていない、または不当なオプションパラメタが指定されました。オプションパラメタの指定を確認してください。 %1 には、オプション名が出力されます。
ログファイルを削除する権限がありません (%1)。	指定した監査証跡ログファイルを削除する権限がありません。 監査証跡ログファイルの権限を見直してください。 %1 には、監査証跡ログファイル名が出力されます。
ログファイル格納ディレクトリに権限がありません (%1)。	監査証跡ログファイルの格納ディレクトリに対して権限がありません。権限を見直ししてください。 %1 には、「OUTPUTLOG」（出力ログ）が出力されます。オプション解析中は、出力されない場合があります
メモリ資源不足です。不要なアプリケーションを終了するか、メモリを増設してください。	動作中にメモリ不足が発生しました。 使用中のアプリケーションを終了させるなどの対応を行い、十分なメモリを確保してください。
ログファイルの削除に失敗しました (%1)。	削除処理中に異常が発生しました。 %1 には、監査証跡ログファイル名が出力されます。 障害調査用情報採取ツールを使用して調査資料を採取し、当社技術員に連絡してください。
ログファイルの削除処理に失敗しました (%1)。	監査証跡ログファイルの削除処理中に異常が発生しました。 障害調査用情報採取ツールを使用して調査資料を採取し、当社技術員に連絡してください。 %1 には、「OUTPUTLOG」（出力ログ）が出力されます。オプション解析中は、出力されない場合があります。
Internal Error	監査証跡ログファイルの削除コマンド（lclogdelexpire コマンド）が適切なメッセージを出力できませんでした。 障害調査用情報採取ツールを使用して調査資料を採取し、当社技術員に連絡してください。

なお、障害調査用情報採取ツールについては、オンラインマニュアル“トラブルシューティング・メッセージ集”を参照してください。

付録Ｂ
帳票出力ユーティリティ

ここでは、GUI で帳票出力を行う「帳票出力ユーティリティ」について説明しています。

B.1 帳票出力ユーティリティとは

帳票出力ユーティリティとは、prprint コマンドの一部のオプション（出力属性）を、画面を使って指定できるツールです。

画面で指定した出力属性情報にしたがい、prprint コマンドのコマンドラインを自動生成し、そのまま帳票を出力できます。

画面（GUI）ベースの操作で帳票出力を実行できるため、簡単に帳票出力できます。

また、画面の指定内容をもとに生成された prprint コマンドのコマンドラインをファイルに保存して利用することができます。

このファイルを帳票出力ユーティリティの「設定ファイル」といいます。

●サポート範囲

帳票出力ユーティリティは、【Windows 版】の以下の製品種別の場合に使用できます。

- List Creator Enterprise Edition
- List Creator Standard Edition
- List Creator Workstation

また、本ユーティリティは、以下のサポート範囲となります。

- 運用形態：スタンドアロン型のみ
- 出力方法：印刷のみ

●設定ファイル

帳票出力ユーティリティ画面の指定内容をもとに生成されたprprintコマンドのコマンドラインが保存されたテキストファイルです。

以下のように、帳票出力の指定時に利用できます。

- 雛型（初期値）の設定ファイルとして利用する

  帳票出力時に設定ファイルの内容を読み込み、必要箇所のみを変更して帳票出力できます。

- 画面で指定できない属性情報をファイルに直接指定する

  設定ファイルに prprint コマンドのオプションを直接指定することができます。

  直接ファイルに追記したオプションは、帳票出力時や設定ファイルの保存時にそのまま引き継がれます。

  したがって、画面上に表示されていない属性情報であっても、ファイルに指定した場合は有効になります。

注意

- 出力方法に関するオプション（-atdirect オプション、または -atmethod オプション）は、帳票出力時に必ず「印刷」に変更されます。したがって、印刷時に無効となるオプションは指定しても無効となります。
  prprint コマンドの各オプションの詳細は、オンラインマニュアル “ アプリケーション作成ガイド ” を参照してください。

B.2 操作

帳票出力ユーティリティの操作方法について説明します。

●起動方法

帳票出力ユーティリティは、以下の手順で起動します。

= 操作手順 =

1）Windows のスタートメニューから［List Creator］－［ユーティリティ］－［帳票出力］を選択します。
⇒帳票出力ユーティリティが起動され帳票出力ユーティリティ画面が表示されます。

備考
- 英語環境（英語ロケール）の場合、Windows のスタートメニューから［List Creator］－［Utilities］－［Form Print Utility］を選択することで、帳票出力ユーティリティ画面が表示されます。

●操作方法

帳票の出力は、以下の手順で実行します。

= 操作手順 =

1）帳票出力ユーティリティ画面の各項目（出力属性）を指定します。
画面の詳細は、帳票出力ユーティリティ画面のオンラインヘルプを参照してください。
あらかじめ設定されている出力属性を利用する場合は、以下の「設定ファイルの使用方法」を参照してください。

2）［印刷］ボタンをクリックします。
⇒指定した内容にしたがって帳票出力が実行されます。

●設定ファイルの使用方法

設定ファイルへの保存方法、および設定ファイルの読み込み方法について説明します。

設定ファイルへの保存方法

帳票出力ユーティリティ画面の指定内容を設定ファイルに保存するには、以下の手順で操作します。

= 操作手順 =

1）帳票出力ユーティリティを起動し、出力属性を指定します。

2）［保存］ボタンをクリックします。
⇒名前を付けて保存画面が表示されます。

3）設定ファイルの保存先とファイル名を指定し、［保存］ボタンをクリックします。
⇒指定した場所に、指定したファイル名の設定ファイルが作成されます。

注意
- 設定ファイルは、Shift-JIS コード系で作成・保存してください。
- 英語環境（英語ロケール）では設定ファイルは半角英数・記号 (ASCII 範囲) で作成・保存してください。

備考
- 指定した内容を設定ファイルに保存した場合、帳票出力ユーティリティ画面のタイトルバーには、保存した設定ファイル名が表示されます。

設定ファイルの読み込み方法

設定ファイルの内容を帳票出力ユーティリティ画面に読み込む場合は、以下の手順で操作します。

= 操作手順 =

1）帳票出力ユーティリティを起動します。

2）［読込］ボタンをクリックします。
⇒ファイルの選択（ファイルを開く）画面が表示されます。

3）設定内容を読み込む設定ファイルを選択し、［開く］ボタンをクリックします。
⇒帳票出力ユーティリティ画面に設定内容が反映されます。

備考

- 設定ファイルを読み込んだ場合、帳票出力ユーティリティ画面のタイトルバーには、読み込んだ設定ファイル名が表示されます。
- 帳票出力ユーティリティ画面で指定した情報を保存しないで［読込］ボタンをクリックすると、読み込む設定ファイルの選択画面が表示された後で、現在の画面の設定情報を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
  このメッセージの応答で、「はい」を選択すると現在の設定情報が保存できます。「いいえ」を選択すると、現在の設定情報は破棄されます。

付録Ｃ オーバレイの作成と表現力について

ここでは、出力方法ごとのオーバレイのサポートレベル、および UNIX 形式（KOL5）のオーバレイを帳票設計時に編集できるようにするための手順について説明しています。

C.1 出力方法ごとの UNIX 形式（KOL5）/Windows 形式（KOL6）オーバレイのサポートレベル

List Creator で扱えるオーバレイの形式には、「Windows 形式（KOL6）」、および「UNIX 形式（KOL5）」があります。List Creator デザイナでオーバレイを指定した場合、通常は「Windows 形式（KOL6）」形式のオーバレイが作成されます。

「UNIX 形式（KOL5）」形式のオーバレイの作成方法については、以下を参照してください。

⇒ “C.2 UNIX 形式（KOL5）オーバレイの作成 ”

以下に、出力方法ごとのオーバレイのサポートレベルを示します。

付表 C.1 出力方法ごとのオーバレイのサポートレベル

出力方法	プリンタへの出力方法	サポートレベル			
		【Windows 版】		【UNIX 系 OS 版】	
		Windows 形式（KOL6）	UNIX 系（KOL5）	Windows 形式（KOL6）	UNIX 系（KOL5）
印刷（【Windows 版】）		○	−	−	−
印刷（【UNIX 系 OS 版】）	FM 出力 (*1)	−	−	○	○
	FNP 出力 (*1)	−	−	○	○
	PostScript 出力	−	−	○	×
電子保存		○	−	○	×
FAX 送信		○	−	○	×
PDF ファイル保存		○	−	○	×
OWF ファイル生成		○	−	○	×
Excel ファイル出力		○	−	○	×

○：サポート

×：未サポート

−：無関係

*1：プリンタへの FM 出力または FNP 出力時に UNIX 形式（KOL5）と Windows 形式（KOL6）のどちらの形式のオーバレイを使用するかは、以下を参照してください。

⇒ “9.2.2.1 FM 出力時のオーバレイ形式を決める ”

⇒ “9.2.3.1 FNP 出力時のオーバレイ形式を決める ”

C.2　UNIX 形式（KOL5）オーバレイの作成

C.2.1　帳票の作成の流れ

帳票の作成の流れは以下のとおりです。

1）環境設定

帳票を作成する Windows 上で List Creator の EDITUTIL コマンドを実行します。
EDITUTIL コマンドを実行すると、UNIX 形式（KOL5）と Windows 形式（KOL6）の両方の形式のオーバレイが作成できるようになります。

2）帳票の新規作成

帳票を新規に作成します。
帳票様式定義ウィザードで「KOL5 形式でオーバレイを作成する」チェックボックスをチェックし、帳票を作成します。

C.2.2　環境設定

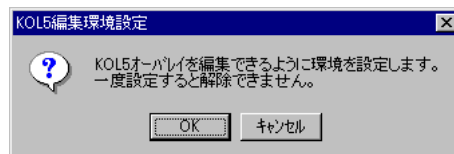
帳票を作成する Windows 上で環境設定を行います。環境設定は、帳票を作成する前に List Creator の EDITUTIL コマンドを使用して行います。

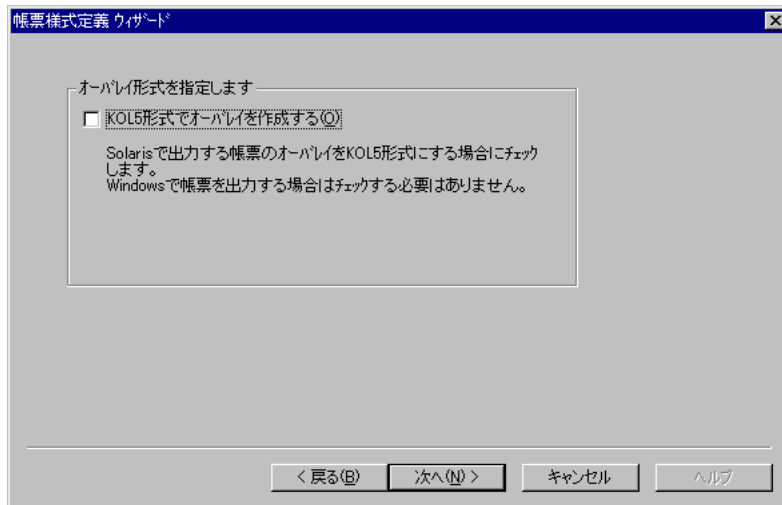
EDITUTIL コマンドを実行すると、それ以降、UNIX 形式（KOL5）と Windows 形式（KOL6）の両方の形式のオーバレイが作成できるようになります。

= 操作手順 =

1）［スタート］－［ファイル名を指定して実行］で次のコマンドを入力し、［OK］ボタンをクリックします。

```
EDITUTIL
```

⇒以下のメッセージが表示されますので、［OK］ボタンをクリックしてください。

C.2.3　帳票の新規作成

EDITUTIL コマンドで環境設定後、帳票定義一覧画面から帳票を新規に作成すると、帳票様式定義ウィザードに以下の画面が表示されるようになります。

UNIX 形式（KOL5）形式のオーバレイを作成する場合は、この画面で「KOL5 形式でオーバレイを作成する」チェックボックスをチェックしてください。
「KOL5 形式でオーバレイを作成する」チェックボックスをチェックしないと、Windows 形式（KOL6）オーバレイになります。

C.2.4　UNIX 形式（KOL5）オーバレイ作成時の留意事項

UNIX 形式（KOL5）でオーバレイを作成する場合の留意事項について説明します。

- 帳票名は、半角英数字 8 文字以内で設定してください。
- UNIX 形式（KOL5）オーバレイの帳票では、以下の文字は扱えません（帳票様式定義画面や OCR 認識画面で該当する文字を指定しても保存されません）。

  ㍑㍻〃 ㊤㊥㊦㊧㊨㍾㍽㍼∮∟⊿
- UNIX 形式（KOL5）オーバレイで、オーバレイ文字を、プロパティ画面の［プロパティ］タブで「縦書き」チェックボックスをチェックして縦書きしていた場合、Windows 形式（KOL6）オーバレイに変換すると、指定は無効になります。
  Windows 形式（KOL6）オーバレイに変換した後、該当する項目のプロパティ画面で、文字列方向に「下」、フォント名に縦書きフォント（@ 付きフォント）を指定して、縦書きを指定し直してください。
- UNIX 形式（KOL5）と Windows 形式（KOL6）の両方の形式のオーバレイを使用する場合は、帳票定義一覧画面でコメントに「KOL5」などの文字を付加したり、帳票格納ディレクトリを分けたりなど、UNIX 形式（KOL5）と Windows 形式（KOL6）のオーバレイの帳票を区別できるようにしておいてください。

C.3 UNIX 形式（KOL5）オーバレイの表現力

UNIX 形式（KOL5）オーバレイの表現力について以下に示します。

付表 C.2 UNIX 形式（KOL5）オーバレイの表現力

分類			対応	備考
オーバレイ文字	位置	縦	○	
		横	○	
	文字列方向	右	○	
		左	×	出力されません。
		上	○	
		下	×	出力されません。
	縦書き		△	縦特殊パターン（カッコや、句読点など、縦書きと横書きで文字パターンが異なるもの）は横書きの文字パターンで出力されます。
	日本語フォント	明朝体	○	
		ゴシック体	○	
	サイズ		△	4.5/ 6/ 7/ 9/ 10.5/ 12/ 14/ 18/ 21/ 24 ポが指定可能です。
	色		×	黒色で出力されます。
	横幅	標準	○	
		半角	△	4.5 ポは無効となります。
		平体	△	14/ 18/ 21/ 24 ポは無効となります。
	文字間隔		○	
直線 / 枠 / 円 / 楕円	線種	実線、点線、破線、一点鎖線、任意線	△	円の一点鎖線と任意線 4 間隔は実線で出力されます。
	線幅		○	0.1pt ～ 3.3pt まで出力できます。それ以上の線幅を指定した場合は、3.3pt で出力されます。
	線色		×	黒色で出力されます。
	線端		×	指定できません。
	網がけ	（枠）	○	
	丸め	（枠）	○	
	位置、サイズ、パターン	（枠）	○	
	中心、半径	（円、楕円）	○	
	開始位置、終了位置	（直線）	○	
イメージ			○	ペイントまたはペイントブラシで作成した次のイメージが出力できます。(*1) ・ 白黒ビットマップ ・ 16 色ビットマップ ・ 256 色ビットマップ ・ 24 ビット ビットマップ また、ビットマップファイル名は半角英数字で指定してください。

○：定義が有効となる項目
△：条件付きで定義が有効となる項目
×：定義が無効となる項目

*1：カラーイメージの場合、モノクロで印刷されます。

付録Ｄ
全半角テーブル

ここでは、出力文字が全角か半角かを判定するための「全半角テーブル」について説明します。

D.1　全半角テーブルとは

全半角テーブルとは、出力文字が全角か半角かを判定するためのテーブルです。全角 / 半角の判定にしたがい、出力する文字を日本語属性（日本語文字ピッチ、日本語フォントなど）/ 英文属性（英文文字ピッチ、英文フォントなど）のいずれで出力するかを決定します。

Unicode Consortium で提示されている文字幅に関する規格（*）を元に作成した全半角テーブルの定義内容を、以下に示します。
表は、半角で定義されている UNICODE 文字を示します。表にないものは全角となります。

*：Unicode Standard Annex #11 East Asian Width で提示された EastAsianWidth.txt（Version 4.0.0 2003/4/16）です。

付表 D.1　UNICODE 規約を元に作成した全半角テーブル（１ / ２）

コード（UCS2）	半角で定義されている UNICODE 文字
0x0000 ～ 0x0FFF	0x0000 ～ 0x00A0、0x00A2、0x00A3、0x00A5、0x00A6、0x00A9、0x00AB、0x00AC、0x00AF、0x00B5、0x00BB、0x00C0 ～ 0x00C5、0x00C7 ～ 0x00CF、0x00D1 ～ 0x00D6、0x00D9 ～ 0x00DD、0x00E2 ～ 0x00E5、0x00E7、0x00EB、0x00EE、0x00EF、0x00F1、0x00F4 ～ 0x00F6、0x00FB、0x00FD、0x00FF、0x0100、0x0102 ～ 0x0110、0x0112、0x0114 ～ 0x011A、0x011C ～ 0x0125、0x0128 ～ 0x012A、0x012C ～ 0x0130、0x0134 ～ 0x0137、0x0139 ～ 0x013E、0x0143、0x0145 ～ 0x0147、0x014C、0x014E ～ 0x0151、0x0154 ～ 0x0165、0x0168 ～ 0x016A、0x016C ～ 0x01CD、0x01CF、0x01D1、0x01D3、0x01D5、0x01D7、0x01D9、0x01DB、0x01DD ～ 0x0250、0x0252 ～ 0x0260、0x0262 ～ 0x02C3、0x02C5、0x02C6、0x02C8、0x02CC、0x02CE、0x02CF、0x02D1 ～ 0x02D7、0x02DC、0x02DE、0x02E0 ～ 0x02FF、0x0358 ～ 0x035C、0x0370 ～ 0x0390、0x03A2、0x03AA ～ 0x03B0、0x03C2、0x03CA ～ 0x0400、0x0402 ～ 0x040F、0x0450、0x0452 ～ 0x0FFF
0x1000 ～ 0x1FFF	0x1000 ～ 0x10FF、0x115A ～ 0x115E、0x1160 ～ 0x1FFF
0x2000 ～ 0x2FFF	0x2000 ～ 0x200F、0x2011、0x2012、0x2017、0x201A、0x201B、0x201E、0x201F、0x2023、0x2028 ～ 0x202F、0x2031、0x2034、0x2036 ～ 0x203A、0x203C、0x203D、0x203F ～ 0x2073、0x2075 ～ 0x207E、0x2080、0x2085 ～ 0x20AB、0x20AD ～ 0x2102、0x2104、0x2106 ～ 0x2108、0x210A ～ 0x2112、0x2114、0x2115、0x2117 ～ 0x2120、0x2123 ～ 0x2125、0x2127 ～ 0x212A、0x212C ～ 0x2152、0x2155 ～ 0x215A、0x215F、0x216C ～ 0x216F、0x217A ～ 0x218F、0x219A ～ 0x21B7、0x21BA ～ 0x21D1、0x21D3、0x21D5 ～ 0x21E6、0x21E8 ～ 0x21FF、0x2201、0x2204 ～ 0x2206、0x2209、0x220A、0x220C ～ 0x220E、0x2210、0x2212 ～ 0x2214、0x2216 ～ 0x2219、0x221B、0x221C、0x2221、0x2222、0x2224、0x2226、0x222D、0x222F ～ 0x2233、0x2238 ～ 0x223B、0x223E ～ 0x2247、0x2249 ～ 0x224B、0x224D ～ 0x2251、0x2253 ～ 0x225F、0x2262、0x2263、0x2268、0x2269、0x226C、0x226D、0x2270 ～ 0x2281、0x2284、0x2285、0x2288 ～ 0x2294、0x2296 ～ 0x2298、0x229A ～ 0x22A4、0x22A6 ～ 0x22BE、0x22C0 ～ 0x2311、0x2313 ～ 0x2328、0x232B ～ 0x245F、0x24EA、0x254C ～ 0x254F、0x2574 ～ 0x257F、0x2590、0x2591、0x2596 ～ 0x259F、0x25A2、0x25AA ～ 0x25B1、0x25B4、0x25B5、0x25B8 ～ 0x25BB、0x25BE、0x25BF、0x25C2 ～ 0x25C5、0x25C9、0x25CA、0x25CC、0x25CD、0x25D2 ～ 0x25E1、0x25E6 ～ 0x25EE、0x25F0 ～ 0x2604、0x2607、0x2608、0x260A ～ 0x260D、0x2610 ～ 0x2613、0x2616 ～ 0x261B、0x261D、0x261F ～ 0x263F、0x2641、0x2643 ～ 0x265F、0x2662、0x2666、0x266B、0x266E、0x2670 ～ 0x273C、0x273E ～ 0x2775、0x2780 ～ 0x2E7F
0x3000 ～ 0x3FFF	0x303F
0x4000 ～ 0x4FFF	0x4DC0 ～ 0x4DFF
0x5000 ～ 0x5FFF	
0x6000 ～ 0x6FFF	
0x7000 ～ 0x7FFF	

付表 D.1　UNICODE 規約を元に作成した全半角テーブル（２ / ２）

コード（UCS2）	半角で定義されている UNICODE 文字
0x8000 〜 0x8FFF	
0x9000 〜 0x9FFF	
0xA000 〜 0xAFFF	
0xB000 〜 0xBFFF	
0xC000 〜 0xCFFF	
0xD000 〜 0xDFFF	0xD800 〜 0xDFFF
0xE000 〜 0xEFFF	
0xF000 〜 0xFFFF	0xFB00 〜 0xFDFF、0xFE10 〜 0xFE2F、0xFE70 〜 0xFF00、0xFF61 〜 0xFFDF、0xFFE7 〜 0xFFFC、0xFFFE、0xFFFF

付録Ｅ
コネクタ連携機能の多重性能向上について（【Solaris 版】の場合）

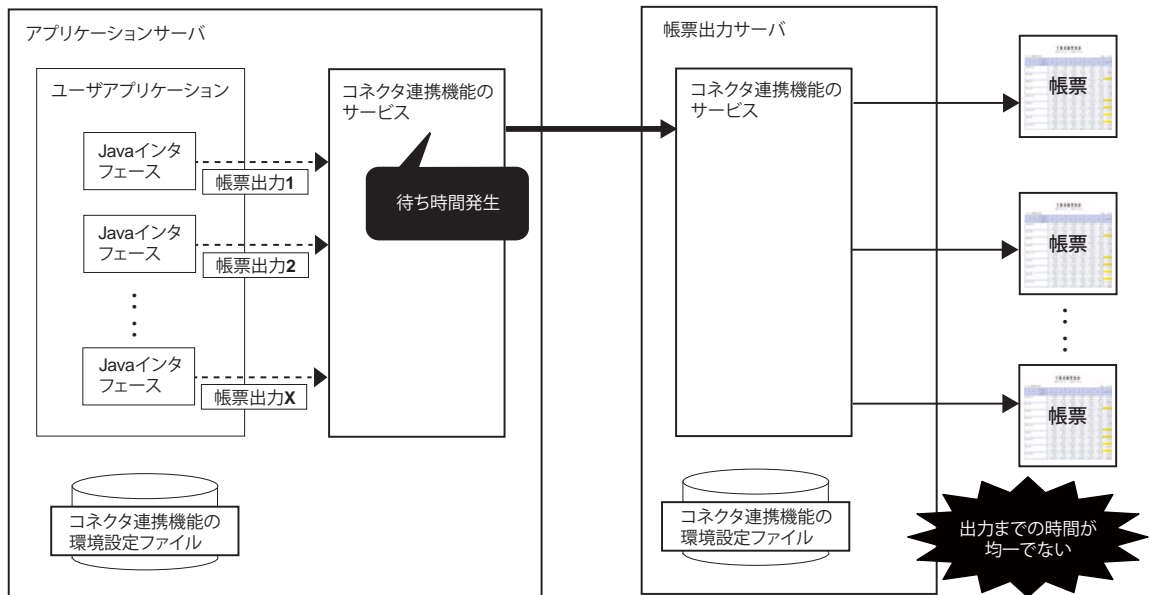
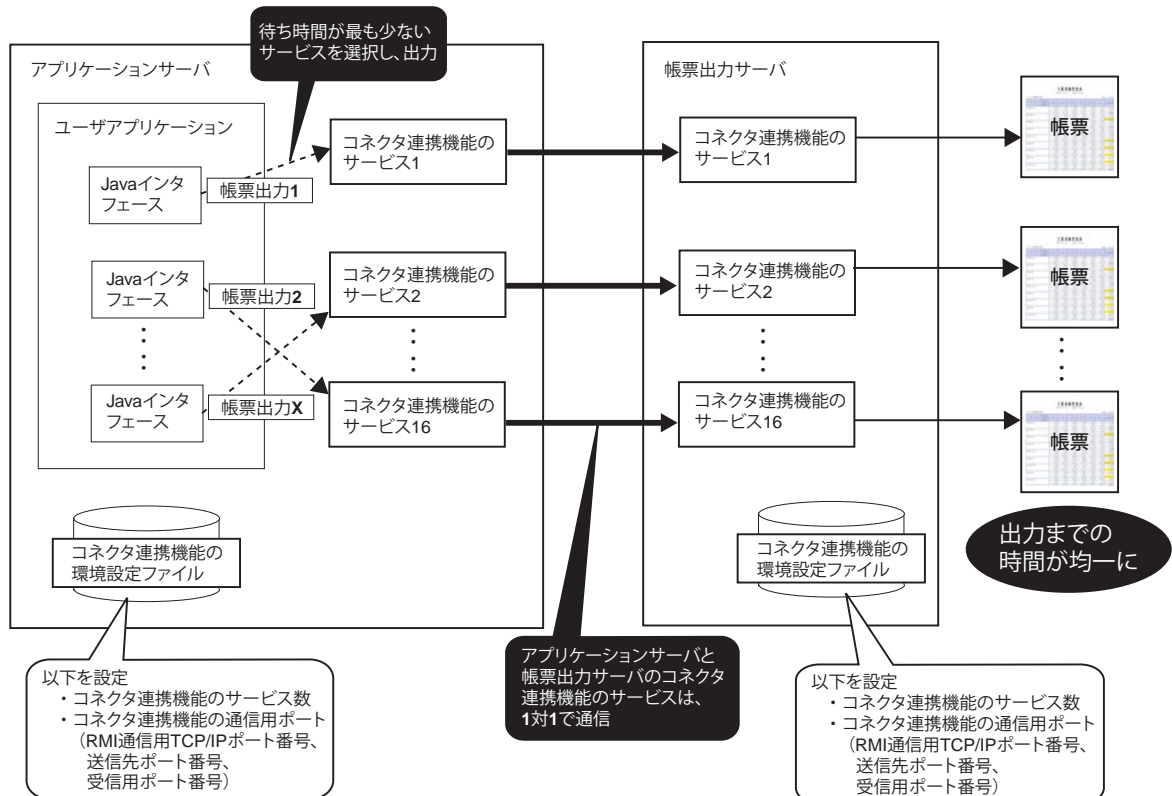
ここでは、コネクタ連携機能の多重性能を向上させる方法について説明します。

E.1 概要

高性能マシン（マルチ CPU、マルチコアにより、多数のスレッドが同時に動作可能なマシン）上でコネクタ連携機能使用時、少量ページの帳票を多重で同時に出力すると、帳票出力までの時間が均一でない場合があります。

例えば、少量ページで同じサイズの帳票を多重で同時に出力した場合、ある帳票はすぐに出力されるが、ある帳票の出力には時間がかかるという現象が発生する場合があります。

コネクタ連携機能のサービスを複数起動することにより、待ち時間が最も少ないサービスを List Creator が自動で選んで帳票を出力するため、帳票出力までの時間を均一にできます。

【コネクタ連携機能のサービスが１つの場合（従来）】

【コネクタ連携機能のサービスが複数の場合】

コネクタ連携機能のサービスの複数起動は、以下のすべての条件を満たす場合に有効です。

- 高性能マシン（マルチ CPU、マルチコアにより、多数のスレッドが同時に動作可能なマシン）を使用している
- アプリケーションサーバ、帳票出力サーバが Solaris で List Creator V9.3.0 以降を使用している
- 帳票出力インタフェースとして、Java インタフェースを使用している

注意

- 性能に問題がない場合、コネクタ連携機能のサービスを複数起動する必要はありません。性能に問題が発生した場合のみ、本章に記載の設定を行ってください。
- 帳票出力インタフェースとして、コネクタ連携コマンド、または CFX カスタムタグインタフェース（ColdFusion MX）を使用している場合は、有効となりません。
- COBOL アプリケーション連携機能を使用している場合は、有効となりません。

E.2 作業の流れ

コネクタ連携機能のサービスを複数起動するには、以下の作業が必要です。
アプリケーションサーバと帳票出力サーバの両方で以下の作業を行ってください。
なお、この作業の前に“ 第 4 章　コネクタ連携機能の環境設定 ”を完了してください。

順序	作業内容	参照先
1	コネクタ連携機能のサービスの停止	⇒“E.3　コネクタ連携機能のサービスの停止 ”
2	環境設定ファイルの更新	⇒“E.4　環境設定ファイルの更新 ”
3	環境設定シェルの実行	⇒“E.5　環境設定シェルの実行 ”
4	コネクタ連携機能のサービスの起動	⇒“E.6　コネクタ連携機能のサービスの起動 ”

E.3 コネクタ連携機能のサービスの停止

コネクタ連携機能のサービスの停止は、以下のコマンドを指定します。

```
# /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr stop
```

注意

- システム管理者権限で実行してください。
- 帳票出力業務中に操作しないでください。

E.4　環境設定ファイルの更新

コネクタ連携機能の環境設定ファイルを更新します。
コネクタ連携機能のサービス数と各種ポート番号の設定を行います。
ここでは、コネクタ連携機能のサービスを複数起動するために設定が必要な項目のみ説明しています。ここで説明していない項目については、“4.3　環境設定ファイルの設定 ”を参照してください。

E.4.1　環境設定ファイルの設定（アプリケーションサーバ / 帳票出力サーバ共通）

コネクタ連携機能のサービスを複数起動するために設定が必要な項目について説明します。
この設定は、アプリケーションサーバ、帳票出力サーバの両方で設定する必要があります。

● DaemonProperty ファイル
（/etc/opt/FJSVoast/remoteprint/daemon/bin/DaemonProperty ファイル）

項目	プロパティ	初期値（省略値）	設定範囲	説明
コネクタ連携機能のサービス数	multiDaemon	1	1 ～ 16	コネクタ連携機能のサービスを複数起動する場合に指定します。 このプロパティを省略した場合は、「1」となります。 アプリケーションサーバと帳票出力サーバの設定値を合わせる必要があります。
受信ポート番号	receivePortX（*1）	なし	1 ～ 65535（*2）	アプリケーションサーバと帳票出力サーバ間の通信用ポート番号を設定します。 コネクタ連携機能のサービス数（multiDaemon）に 2 以上の値が指定されている場合に指定してください。 DefaultTransferProperty ファイルの jp.co.pfu.atool.delivery.requester.transferPortX（末尾の X が同じ数値）の設定値と合わせる必要があります。 コネクタ連携機能のサービス数（multiDaemon）に「1」を指定する、または省略する場合、このプロパティは削除してください。
RMI 用ポート番号	jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.responder.rmiPortX（*1）	なし	1 ～ 65535（*2）	List Creator 内部の RMI 通信で使用する TCP/IP ポート番号です。 コネクタ連携機能のサービス数（multiDaemon）に 2 以上の値が指定されている場合に指定してください。 RequesterProperty ファイルの jp.co.pfu.ardus.model.jom.requester.rmiPortX（末尾の X が同じ数値）の設定値と合わせる必要があります。 コネクタ連携機能のサービス数（multiDaemon）に「1」を指定する、または省略する場合、このプロパティは削除してください。

*1：末尾の X には、2 ～ 16 の数値を指定します。（コネクタ連携機能のサービス数 -1）数分を必ず設定してください。
末尾の X の数値が小さい値から順に続き番号で指定してください。

*2：未使用のポートを指定してください。

● RequesterProperty ファイル
（/etc/opt/FJSVoast/remoteprint/requester/bin/RequesterProperty ファイル）

項目	プロパティ	初期値（省略値）	設定範囲	説明
RMI 用ポート番号	jp.co.pfu.ardus.model.jom.requester.rmiPortX （*1）	なし	1 ～ 65535（*2）	List Creator 内部の RMI 通信で使用する TCP/IP ポート番号です。 コネクタ連携機能のサービス数（DaemonProperty ファイルの multiDaemon）に 2 以上の値が指定されている場合に指定してください。 DaemonProperty ファイルの jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.responder.rmiPortX（末尾の X が同じ数値）の設定値と合わせる必要があります。 コネクタ連携機能のサービス数（DaemonProperty ファイルの multiDaemon）に「1」を指定する、または省略する場合、このプロパティは削除してください。

*1：末尾の X には、2 ～ 16 の数値を指定します。（コネクタ連携機能のサービス数 -1）数分を必ず設定してください。
末尾の X の数値が小さい値から順に続き番号で指定してください。
*2：未使用のポートを指定してください。

● DefaultTransferProperty ファイル
（/etc/opt/FJSVoast/remoteprint/requester/data/DefaultTransferProperty ファイル）

項目	プロパティ	初期値（省略値）	設定範囲	説明
送信先ポート番号	jp.co.pfu.atool.delivery.requester.transferPortX （*1）	なし	1 ～ 65535（*2）	アプリケーションサーバと帳票出力サーバ間の通信用ポート番号を設定します。 コネクタ連携機能のサービス数（DaemonProperty ファイルの multiDaemon）に 2 以上の値が指定されている場合に指定してください。 DaemonProperty ファイルの receivePortX（末尾の X が同じ数値）の設定値と合わせる必要があります。 コネクタ連携機能のサービス数（DaemonProperty ファイルの multiDaemon）に「1」を指定する、または省略する場合、このプロパティは削除してください。

*1：末尾の X には、2 ～ 16 の数値を指定します。（コネクタ連携機能のサービス数 -1）数分を必ず設定してください。
末尾の X の数値が小さい値から順に続き番号で指定してください。
*2：未使用のポートを指定してください。

E.4.2　環境設定ファイルの記述例

コネクタ連携機能のサービス数を 3 個起動する場合の環境設定ファイルの記述例を以下に示します。

なお、記述例中のプロパティに設定するポート番号について、コメントにある丸付き数字（①～⑥）が同じプロパティには、同じポート番号を設定する必要があります。

- DaemonProperty ファイル

```
receivePort=3913                                              #←受信ポート番号・・・・①
transfer.maxReceiveConnection=64
jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.responder.rmiPort=3914       #←RMI用ポート番号・・・②
   :
   :
jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.job.applicationRoot=/opt/FJSVoast/bin
multiDaemon=3                                                 #←コネクタ連携機能のサービス数
receivePort2=3915                                             #←受信ポート番号2・・・・③
receivePort3=3917                                             #←受信ポート番号3・・・・④
jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.responder.rmiPort2=3916      #←RMI用ポート番号2 ・・・⑤
jp.co.pfu.ardus.model.jom.daemon.responder.rmiPort3=3918      #←RMI用ポート番号3 ・・・⑥
```

- RequesterProperty ファイル

```
jp.co.pfu.ardus.model.jom.requester.rmiPort=3914              #←RMI用ポート番号・・・②
   :
   :
jp.co.pfu.ardus.model.jom.requester.installDirectory=/opt/FJSVoast/remoteprint/requester
jp.co.pfu.ardus.model.jom.requester.rmiPort2=3916             #←RMI用ポート番号2 ・・・⑤
jp.co.pfu.ardus.model.jom.requester.rmiPort3=3918             #←RMI用ポート番号3 ・・・⑥
```

- DefaultTransferProperty ファイル

```
jp.co.pfu.atool.delivery.requester.transferPort=3913          #←送信先ポート番号・・・①
   :
   :
requestTimeout=0
jp.co.pfu.atool.delivery.requester.transferPort2=3915         #←送信先ポート番号2・・・③
jp.co.pfu.atool.delivery.requester.transferPort3=3917         #←送信先ポート番号3・・・④
```

E.5　環境設定シェルの実行

以下のシェルを実行してコネクタ連携機能の環境設定ファイルの内容をList Creatorの運用環境に反映します。

```
lcctsetenvex.sh
```

lcctsetenvex.sh は、以下のディレクトリ配下に格納されています。

- /opt/FJSVoast/remoteprint

［記述形式］

```
# cd  /opt/FJSVoast/remoteprint
# ./lcctsetenvex.sh
```

注意

- コネクタ連携機能のサービスを複数起動する場合で、以下のいずれかの環境設定ファイルを更新した場合は、必ず実行してください。
  - ・ DaemonProperty
  - ・ RequesterProperty
  - ・ DefaultTransferProperty
  - ・ DefaultPushJobInstruction
- アプリケーションサーバ、および帳票出力サーバの両方で実行してください。
- このシェルを実行する場合は、システム管理者権限で行ってください。

E.6　コネクタ連携機能のサービスの起動

コネクタ連携機能のサービスの起動は、以下のコマンドを指定します。

```
# /opt/FJSVoast/etc/rc.d/FJSVoastrmpr start
```

注意

- システム管理者権限で実行してください。
- 帳票出力業務中に操作しないでください。

E.7　留意事項

コネクタ連携機能のサービスを複数起動する場合の留意事項について説明します。

- アプリケーションサーバと帳票出力サーバで「コネクタ連携機能のサービス数」を合わせる必要があります。
  アプリケーションサーバより帳票出力サーバの「コネクタ連携機能のサービス数」が少ない場合は、帳票出力の多重度が帳票出力サーバのサービス数を超えると、帳票出力時（PrintForm クラスの PrintOut メソッドの呼び出し時）に通信エラーとなります。
- 複数起動されたコネクタ連携機能のサービスごとに最大同時接続許可数（帳票出力サーバの DaemonProperty ファイルの transfer.maxReceiveConnection）が有効となります。
  例えば、アプリケーションサーバ、帳票出力サーバのコネクタ連携機能のサービスをそれぞれ 4 個起動し、最大同時接続許可数を 64 に設定した場合、最大で 256 の同時接続が可能となります。

索引

C

E

F

I

L

M

N

O

P

R

S

U

V

W

あ

い

え

お

か

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

つ

て

と

に

ね

は

ふ

へ

ほ

め

も

り